

言語記述論集 第10号

言語記述論集 第10号

目次

カムチベット語 rGyalthang 下位方言群における歯-歯茎音の 前部硬口蓋化現象とその周辺	鈴木 博之	1
カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言における述部に標示される証拠性	鈴木 博之・四郎翁姆	13
イロカノ語の時間表現の文法	山本 恭裕	43
ジンポー語民話資料「嘘つきのナンビヤ」	倉部 慶太	69
モンゴル語ハルハ方言の語頭阻害音の対立における F0 と F1 の特徴	植田 尚樹	81
南琉球宮古語下地皆愛方言 一簡略記述・談話資料・語彙集一	セリック・ケナン	97
【翻訳】「ドゥニーズ・ベルノー：ビルマの諸言語と知識」	川上 夏林・藤原 敬介	251
コプト語サイド方言の言語資料と文法注釈 一ナポリ・国立ヴィットーリオ・ エマヌエーレ 3 世図書館蔵・ベーサによるテキストの断片一	宮川 創	271

カムチベット語 rGyalthang 下位方言群における歯-歯茎音の 前部硬口蓋化現象とその周辺*

鈴木 博之

オスロ大学

キーワード：カムチベット語、Sems-kyi-nyila 方言群、音変化、口蓋化

1 はじめに

中国雲南省北西部に位置する迪慶 [bDe-chen]¹ 藏族自治州で話されるカムチベット語には大きく3つの方言群があり、それぞれ香格里拉 [Sems-kyi-nyila] 方言群、得榮徳欽 [sDe-rong 'Jol] 方言群、郷城 [Cha-phreng] 方言群と呼ぶ²。その中で Sems-kyi-nyila 方言群はさらに5つの下位分類が設けられ、それぞれ建塘 [rGyal-thang] 下位方言群、雲嶺山脈東部下位方言群、維西塔城 [mTha'-chu] 下位方言群、翁上 [dNgo] 下位方言群、浪都 [La-mdo] 下位方言群となる（鈴木 2018）。本稿で議論の対象となるのは、この中の rGyalthang 下位方言群に属する一部の方言である。

rGyalthang 下位方言群は主に香格里拉市の中央部で話されるもので、吹亞頂 [Chos-ba-steng]、期學谷 [Khyim-phyug-sgang)、吉念批 [Gyen-nye-'phel]、安南 [A-la-ngu]、建塘、吉迪 [rGyal-bde]、尼汝 [Myig-gzur]、初古 [mTsho-mgo] といった方言が含まれる³。また、雲南のカムチベット語の中で、先行研究が最も多い方言群である（陸紹尊 (1990)、Hongladarom (1996)、《中甸県誌》(1997)、《雲南省誌》(1998)、王曉松 (2008)、鈴木 (2014a) など）。

本稿で議論するのは、藏文 *ts/tsh/dz/s/z* を含む形式に歯-歯茎音および前部硬口蓋音の2種類の音対応が認められる中で、後者の対応関係を示す事例である。チベット系諸言語の中で、藏文 *ts/tsh/dz/s/z* が前部硬口蓋音と対応するというのは、まれな現象の1つに数えられる⁴。先行研究では、この音対応について明確な説明が与えられていないことから、現象が正しくとらえられているのかすら分からない。本稿では、この音対応が一定の規則に基づいて現れていることを明らかにする。そして、この音対応が認められる rGyalthang 下位方言群の分布について地図を作成することで、当該現象をもつ方言の分布を明確にする。

* 本稿の一部は第32回チベット=ビルマ言語学研究会（2014年4月5日；京都大学）での口頭発表に基づいている。

¹ チベット語の漢字音写部分には、判明している限り、初出の箇所チベット文語形式（以下「藏文」）を添える。

² 方言分類の詳細とその変遷については、鈴木 (2015:47-63, 261-285) を参照。

³ 本稿では、方言名はローマ字表記を用いるが、表の中では漢字で表記する。

⁴ 中国のチベット系諸言語の一般的な音対応については、江荻 (2002) や張濟川 (2009) を参照。

2 蔵文 *ts/tsh/dz/s/z* 対応形式の前部硬口蓋化

蔵文 *ts/tsh/dz/s/z* 対応形式は、基本的に「齒-齒茎音/ $t^h, ts, dz, s^h, s, z/$ 」のいずれかとなる⁵。ところが、特定の語において前部硬口蓋音と対応する事例がある。本節では、この音対応の具体例とその特徴をもつ方言の間に認められる差異を見る。

蔵文 *ts/tsh/dz/s/z* 対応形式が前部硬口蓋音と対応する音節（形態素）は非常に数が少ない。たとえば、次のようである⁶。

表 1：蔵文 *ts/tsh/dz/s/z* が前部硬口蓋音と対応する例

「寿命」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>tshe</i>	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{ə}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{ə}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{ə}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{ə}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{ə}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{ə}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{ə}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{ə}$	$\text{ʈ}\text{s}^h\text{ə}$
「日にち」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>tshes</i>	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{i:}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{i:}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{i:}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{i:}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{i:}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{i:}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{i:}$	$\text{ʈ}\epsilon^h\text{i:}$	$\text{ʈ}\text{s}^h\text{e:}$
「美しい」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>mdzes</i>	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʱ}\text{d}\text{z}\text{i:}$
「明るい」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>gsal</i>	$\text{ʰ}\epsilon\text{i:}$	$\text{ʰ}\epsilon\text{i:}$	$\text{ʰ}\epsilon\text{i:}$	$\text{ʰ}\epsilon\text{i:}$	$\text{ʰ}\epsilon\text{i:}$	$\text{ʰ}\epsilon\text{i:}$	$\text{ʰ}\text{s}\text{i:}$	$\text{ʰ}\epsilon\text{i:}$	$\text{ʰ}\text{s}\text{i:}$
「豹」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>gzig</i>	$\text{ʰ}\text{z}\text{i}?$	$\text{ʰ}\text{z}\text{i}?$	—	$\text{ʰ}\text{z}\text{i}?$	$\text{ʰ}\text{z}\text{i:}$	$\text{ʰ}\text{z}\text{i}?$	$\text{ʰ}\text{z}\text{i}?$	$\text{ʰ}\text{z}\text{ej}?$	$\text{ʰ}\text{z}\text{i}?$

表 1 の例を見ると、mTshongu（初古）方言では前部硬口蓋音と対応する例が現れないほか、rGyalbde（吉迪）方言、Myigzur（尼汝）方言では一部の語で現れないことが分かる。ここでまず分かることは、mTshongu 方言が rGyalthang 下位方言群に属する方言の中で、当該例に関して前部硬口蓋化を起こさない類型をもつ方言であるということである。また、rGyalbde 方言と Myigzur 方言は、この音対応に関して mTshongu 方言とその他の方言の中間段階にあるものと考えられる。

さて、前部硬口蓋音が現れる条件として母音の性質に注目すると、/ə/または/i/のときに認められるといえる。調音の観点からみると、/i/に先行する場合に前部硬口蓋音が現れるのは音声学的に説明がつくと考えられる⁷が、/ə/の場合はなぜそうなるのか説明をつけがたい⁸。しかし、蔵文 *ts/tsh/dz/s/z* を含む例については、ほかにもたとえば Choswateng 方言で / $\text{ʈ}\epsilon^h\text{a:}$ / 「雹」（蔵文

⁵ 本稿で扱う諸方言の音対応の詳細については、鈴木 (2014a) などを参照。

⁶ 以下、本稿であげる例は当該の現象を含む「音節」であり、1音節語を除いて「語」ではない。声調符号をつける例とつけない例がある。

⁷ 日本語の/si/が [ci] であって [si] でないといった例を考える。類似の現象はチベット系諸言語の中でも甘肅省舟曲 [Brug-chu] 県で話される方言に認められる (鈴木 2013a)。

⁸ /ə/については、齒-齒茎音に後続する例も認められ、たとえば、Khyimphyuggong（期學谷）方言の / $\text{ʰ}\text{tsə}?$ [tə?/ 「肋骨」（蔵文 *rtsib ma*）、/ $\text{ʰ}\text{səw}^h\text{sə}?$ / 「薄い」（蔵文 *srab srab*）や Choswateng（吹亞頂）方言の / $\text{sə}?$ [tʂ^hu/ 「露」（蔵文 *zil chu*）などがある。

ser ba) や /^hç^ha mō/ 「爪」(蔵文 *sen mo*) など、低母音の場合でも前部硬口蓋音が現れる。後続母音の音質とかかわりがあると見られるが、共時的に説明を与えるのは難しい。

蔵文をみると、母音字に *e* を含んでいる事例が複数あることに気づく。この *e* が初頭子音に作用した可能性について考えてみたい。蔵文母音字 *e* を含む他の例を見てみると、たとえば Choswateng 方言について、次のような例がある： /^hs^hə s^hɿ:/ 「黄色い」(蔵文 *ser ser*)、 /^hsɿ:, ^hçə:/ 「言う」(蔵文 *zer*)、 /^hs^hë^hɿjə/ 「獅子⁹」(蔵文 *seng ge*)。このうち、蔵文に後接字 *r* がつく例については、rGyalthang 下位方言を中心に特別な音対応を見せることが分かっている(鈴木 2014a, forthcoming) ため、これを除いて考える必要がある。すると、表1の「寿命」、また「雹」「爪」などの例を見ると、すべての音節に蔵文 *e* が含まれていることが分かる。しかし「獅子」の例では、第1音節に蔵文 *e* が含まれているにもかかわらず前部硬口蓋音に対応していない。

「獅子」はサンスクリット *simha* の借用形式であり、また文語語彙層に属し日常用語でないことを考慮すれば、口語形式の分析においてこれを除外する必要性があるだろう¹⁰。この点を踏まえ、蔵文 *ts/tsh/dz/s/z* 対応形式が前部硬口蓋音と対応するのは、共時的に母音が /i/ である場合か、蔵文 *e* を含む事例でかつ後接字 *r* をもたない例である、という仮説を立ててみたい。これを検証するためには、他の近似の例を検討する必要がある。これについて、続く3節および4節で議論する。

3 蔵文 *k/kh/g* と前部硬口蓋～硬口蓋音対応形式

前節で Choswateng 方言における「獅子」の例に言及し、かつ語彙層の点で問題があると述べた。しかし一方、その音形式 /^hs^hë^hɿjə/ の第2音節に注目すると蔵文第2音節 *ge* と硬口蓋音という対応関係があることが分かる。この例を複数の方言について見てみると、以下のようなになる。

表2：「獅子」の蔵文第2音節 *ge* の対応例

「獅子」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>ge</i>	^h jə	^h jə	^h jə	<i>ge</i>	^h dzə	^h dzə	^h dzə	^h gə	ɲə

以上の例に含まれる前鼻音 (mTshongu 方言においては鼻音) は当該語の第1音節末鼻音の影響により生じたものであるから、ここでは考慮せず、ただ調音位置のみに注目すると、Alangu (安南) 方言を除く諸方言で軟口蓋音以外の調音位置が認められる。以上のような音対応を見出すとき、この第2音節に対応する蔵文形式には足字 *r* が存在する形式が期待される。なぜなら、蔵文 *khrag* 「血」の例を見ると、ほぼ「獅子」の第2音節と近似する音対応が認められるからである。

表3：蔵文 *kh* の対応例

「血」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>khrag</i>	^h ç ^h aʔ	^h ç ^h aʔ	^h ç ^h aʔ	^h k ^h aʔ	^h tç ^h aʔ	^h tç ^h aʔ	^h tç ^h aʔ	^h ç ^h aʔ	^h tç ^h aʔ

⁹ 「獅子」については、次節も参照。

¹⁰ ただし Byagkar (霞給) 方言について見てみると、「獅子」は /^hç^hə^h ^hdzə/ というように、前部硬口蓋音が現れている。

このような例があるからと言って、*gre* のような蔵文形式を「獅子」の第2音節として考えるのは、チベット言語学上きわめて不自然である。つまり、音対応がうまくいくからといって、足字 *r* を付け加える形式を想定するのは短絡的な見方である。ここで重要なのは、*kr* : /c/ : /k/ と いった音対応の関係ではなく、「*kr* が硬口蓋音に対応する」という事実である¹¹。蔵文 *kr* という組み合わせにおいて、足字 *r* は軟口蓋音を硬口蓋音で調音するように作用した1つの原因であるが、*r* が直接 [r] のような音価をもって軟口蓋音に変化を起こさせたとはいえない。

鈴木 (2014a, 2017ab) において、rGyalthang 下位方言群の発展史として、*kr* : /c/-/k/ > /tɕ/-/k/ と書けることを明らかにした。それゆえ、「狼」の第2音節が以上に示したような音対応をもつという事実は、その古形式¹²に *kʲi とか *kʲu とかいった形式があればよいことになる。それではこの硬口蓋化はどこから現れたのか、というのがよりの確な問題提起であろう。

同様の例は、「文字」(蔵文 *yi ge*) の第2音節、(蔵文 *ske pa*) 「首」の第1音節、さらには蔵文に *e* を含まない例として「紅嘴鳥¹³」(*lcung ka*) の第2音節、「狼」(蔵文 *spyang ki / spyang ku*¹⁴) の第2音節などにも認められる。

表4：蔵文 *k/g* で始まる音節の音対応

「文字」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>ge</i>	ɣə	ɣə	dzə	gʲə	^h dzə	dzə	dzɣ	ɣjə	dzə
「首」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>ske</i>	^h caʔ	^h cə	tɕu	^h ke	^h tɕə	^h tɕə	tɕə	^h keʔ	—
「紅嘴鳥」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>ka</i>	ca	ca	tɕa	kʲa	tɕa	tɕa	tɕa	ca	tɕa
「狼」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>ki/ku</i>	^h ə	^h ə	^h ə	kʲ ^h ə	tɕ ^h ə	tɕ ^h ə	tɕ ^h ə	k ^h e	tɕ ^h ə

「文字」の第2音節は「獅子」の第2音節と同じ蔵文形式の対応関係であるが、複数の方言で後者と調音位置が異なって現れている。しかし、いずれの方言も単純な軟口蓋音ではなく、硬口蓋もしくは硬口蓋寄りの発音となっている点に注目できる。

「首」の第1音節に認められる音対応は、末子音に声門閉鎖や母音の音質といった若干の例外を含むものの、初頭子音の対応関係は「獅子」の第2音節に近いと言える。

「紅嘴鳥」「狼」の第2音節の調音位置は、各方言とも「文字」の第2音節や表3の「血」の初頭子音とほぼ同じになっていることが分かる。

¹¹ *kr* が直接硬口蓋音へと変化した、というのではない点が肝要である。

¹² ここでいう古形式とは、歴史言語学の手続きにおける仮想の方言群の祖形 proto-rGyalthang と名づけられるものに相当する。

¹³ 学名 *Pyrhacorax, pyrrhacorax himalayanus*。黒い身体に赤いくちばしが特徴の鳥である。少なくとも香格里拉市のカムチベット語話者は、漢語で「紅嘴吉祥鳥」と呼び、通常のカラスと区別する。

¹⁴ 第2音節が有気音である場合もある。rGyalthang 下位方言群の諸方言では、表4に見えるように、有気音である。

これまでに見た例の中で、「獅子」「文字」「首」の例はみな蔵文 *e* をもっている点で共通である。「紅嘴鳥」「狼」は母音が異なる。以上のような初頭子音の硬口蓋化を引き起こす共通の原因を蔵文に認めることはできない¹⁵が、3つの例に認められる蔵文 *e* と初頭子音の関わりという点は注目すべきである。

「紅嘴鳥」「狼」の例について考えると、表3で見た「血」の例を参考にすれば、rGyalthang 下位方言群の古形式に硬口蓋化を含む *k^j といい初頭子音を想定すれば説明がつけられる。

「獅子」「文字」「首」について見れば、蔵文において *ke* が *k^je のような形式をもっていればよいといえるが、この *^j の部分が蔵文 *e* の反映形 (の一部) であるということが言えれば、2節で取り上げた問題にも応用できる可能性がある。硬口蓋化 (前部硬口蓋化) を引き起こしうる共時的要素の1つが前舌高母音 /i/ (表1の「寿命」を除く例を参照) であれば、それに準じる要素—古形式の *^j—が硬口蓋化を引き起こしているのではないか。表1の例を見ると、「寿命」の例は蔵文の母音が *e* であるが、各種口語形式では /ə/ で現れている。Choswateng 方言の音体系を記述している鈴木 (2014a) では、蔵文 *e* は開音節の場合 /ə, jə/ と対応するとしている。しかし、これを一律「蔵文 *e* に /jə/ が対応する」と言い表すことはできないだろうか。

4 蔵文 *e* が *jə に対応するとき

以上に検討した例に基づいて、rGyalthang 下位方言群の多くの方言において、蔵文 *e* が *jə ずなわち /jə/ と発音されていたのではないかと仮定した。このとき、実際に同下位方言群において蔵文 *o* が *o よりむしろ *wə と対応すると考えると説明のつく部分が認められるため、蔵文 *e/o* の異なりは *jə/*wə のように、中核の母音の音質ではなく、それに先行するわたり音部分の異なりとして理解できることになる。

蔵文 *o* の音対応は以下のようになる。「歯」や「彼」は基本語彙に数えられるが、方言間で音対応が安定していない¹⁶。

表5：蔵文 *o* (開音節) の音対応

「歯」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>so</i>	˦ ^h wə	˦ ^h swə	˦ ^h u	˦ ^h wə	˦ ^h wə	˦ ^h wə	˦ ^h ɣ	˦ ^h o	˦ ^h wə
「彼」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>kho</i>	˦ ^h wə	˦ ^h o	˦ ^h u	˦ ^h o	˦ ^h wə	˦ ^h o	˦ ^h wɣ	˦ ^h wə	˦ ^h wə

また、前節までに検討してこなかった初頭子音をもつ蔵文 *e* の対応形式について補足するた

¹⁵ 「紅嘴鳥」の形式については、チベット系諸言語に関する限り、指小辞 (蔵文 'u) が付加された形式を考慮することができる。たとえば、蔵文では *bya* 「鶏/鳥」から *bye'u* 「小鳥」という語が形成される。このことから、*lcung ka* 「紅嘴鳥」について *lcung ke'u* という形式に対応する口語形式が存在しても不思議ではない。しかし、各口語形式の母音が /a/ であるのは説明できない。また、「狼」に指小辞がつくかは判断がつかない。

¹⁶ Khyimphyuggong (期學谷) 方言の「歯」の例に歯茎破擦音が含まれる点や、Myigzur 方言の「彼」の例に口蓋垂音が含まれる点もまた注目に値するが、詳細についてはそれぞれ Suzuki (forthcoming)、鈴木 (2014b) を参照。

めに、蔵文 *sog le* 「のこぎり」の第2音節および蔵文 *leb leb* 「平らな」の第2音節の例を見る。

表6：蔵文 *e* の音対応

「のこぎり」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>le</i>	ljə	ljə	lju	—	lju	ljə	ljɤ	ljə	—
「平らな」	吹亞頂	期學谷	吉念批	安南	霞給	建塘	吉迪	尼汝	初古
<i>leb</i>	ljəʔ	ljə	lju	—	—	ljuʔ	—	ljəʔ	—

ほかに個別例を見ると、Choswateng 方言には /^htɕ^hpjə/ 「物語」(蔵文 *gtam dpe*)、Khyimphyuggong 方言には /^hdjə mwə/ 「平和な」(蔵文 *bde mo*) という例もある¹⁷。

このように見ると、蔵文との音対応が体系的に見えてくるといえる。もちろん、この点についてはより広い視点からの詳細な考察が必要とされるため、本稿では深くは立ち入らないことにする。ここでは、蔵文 *e* の対応形式が *jə であると仮定したとき、2、3節で検討した例がどのような音変化の過程を経て成立したのか見ていくことにする。

2節の例を見る限り、蔵文母音 *e* の母音としての音対応は /ə/ であるように見える。これを *jə と考え直すと、わたり音 *j が初頭子音に作用して音変化をもたらしたと考えることができる。ここで2節で挙げた例にこの仮説を適用し、*j が /i/ と同様の音変化を引き起こすと考えた場合、次のような対応関係を得ることになる。

表7：*jəが歯-歯茎破擦音にもたらした音変化

語義	蔵文	仮説適用後の音形式	*j 作用後の音形式
寿命	<i>tshe</i>	*ts ^h jə	*tɕ ^h ə
日にち	<i>tshes</i>	*ts ^h jəs	*tɕ ^h əs
美しい	<i>mdzes</i>	*mdzjəs	*mdzəs

このとき、*/əs/が/i:/と変化したのか、*/jəs/が直接/i:/と変換し、母音/i/の性質によって前部硬口蓋化したのかは以上の例から説明を与えることができない。ただし、少なくとも「寿命」の例については、以上の仮説を適用することで議論の対象となる諸方言に認められる形式を得ることができる¹⁸。

次に3節で掲げた例について見ると、*jの軟口蓋子音への作用が問題となる。「獅子」「文字」「首」の例について考える。上と同様に仮説を適用した対応関係は次のようになる。

¹⁷ 蔵文 *e* に鼻音が先行する例、たとえば蔵文 *med* 「ない」、蔵文 *me* 「火」などにも興味深い音対応を示すものが存在するが、本稿で議論の対象とする諸方言以外にも類似の音対応を示すものがあり、かつ古蔵文との関連も指摘がある(鈴木 2008, 2009) ため、並行して取り扱うのは難しい。

¹⁸ mTshongu 方言を除く。

表 8 : *jəが軟口蓋音にもたらした音変化

語義	蔵文	仮説適用後の音形式	*j 作用後の音形式
獅子	<i>ge</i>	*gjə	*g ^j ə / *jə
文字	<i>ge</i>	*gjə	*g ^j ə / *jə
首	<i>ske</i>	*skjə	*sk ^j ə / *scə

3節では、蔵文と口語形式の対応関係と音変化史との関係について、蔵文 *kr* : /c/-/k^j/ > /tɕ/-/k/ と書けると述べた。これに含まれる/k^j/というのは Alangu 方言に実際に認められる形式であるが、この調音位置と上表の*j 作用後の音形式が一致する点に注目できる。rGyalthang 下位方言群に属する諸方言のなかで/c/-/k^j/に対応する音は蔵文の *k*, *kh*, *g* に足字 *r* を伴った例と対応することはすでに明らかになっている (鈴木 2017ab) が、蔵文 *e* を*jəと仮定して表8の音変化を適用した場合、その音対応が蔵文 *kr* の音対応と共通するという点に注意したい。

蔵文には *k*, *kh*, *g* に足字 *y* を伴う形式も認められる¹⁹。rGyalthang 下位方言群の諸方言において *k*, *kh*, *g+y* の対応形式は、しかしながら、c/k^j になる例がほぼなく、蔵文 *ky* : /tɕ/ という音対応として実現する。ところが、*j が仮定される「獅子」「文字」「首」の例は、蔵文との対応関係として *k*, *kh*, *g+r* と並行するのであるから、蔵文 *e* が*jəと対応するというのは、蔵文 *k*, *kh*, *g+y* 対応形式が/tɕ/に変化した後で、*k*, *kh*, *g+r* 対応形式が/c/-/k^j/が/tɕ/-/k/に変化する前という、音変化が生じた相対的な時間が定められる。Sems-kyi-nyila 方言群において足字 *r* が変化したのはナシ語の影響を受ける時期と重なると仮定される (鈴木 2013b) ため、それより後に蔵文 *e* (*e) が*jəになったのではないかと考えられる。また、蔵文 *r* と関連する点として、後接字 *r* が存在する *er* といった例では、初頭子音に影響が出ない方言が存在する (2節および鈴木 forthcoming 参照)。このため、蔵文 *er* の対応形式については、*e* が*jəと対応する以前の音形として、/j/を含まない*/e/であった可能性があり、*/e/ > *jəと変化する前に、後接字 *r* が作用し/ɲ:/のような音に変化した可能性が高く見積もられる²⁰。

5 rGyalthang 下位方言群内での分布

以上の議論で明らかにした蔵文 *ts/tsh/dz/s/z* 対応形式の前部硬口蓋化現象について、1つの方言において表1に示した語の中で、(A) すべての例で前部硬口蓋音と対応する、(B) 前部硬口蓋音と対応しない例が一部ある、(C) 前部硬口蓋音とまったく対応しない、と3段階に分けて、rGyalthang 下位方言群内での地理的分布を示すと次のようになる。

¹⁹ 足字 *y* は音声表記において*j と考えてよい。

²⁰ 鈴木 (2014a) は/ɲ, ɲ/が咽頭化の特徴 [ɲ^h, ɲ^h] をもつと述べている。これはいわゆる「r音」に由来する音と考えられる (鈴木 2013b) ため、/ɲ, ɲ/を蔵文末子音 *r* と関連づけることができる。鈴木 (forthcoming) を参照。

図1 蔵文 *ts/tsh/dz/s/z* 対応形式の前部硬口蓋化現象

図1を見ると、Aの特徴が rGyalthang 下位方言群の分布する地域の中心地および南部にわたってもっとも広く認められるものであることがわかる。ただし、図中の最南端と建塘鎮北部及び東部に分布する方言は、B・Cの特徴を示す。この分布は、当該の音変化が同地域の中心地である建塘鎮を中心に、主要交通路沿いに平原部を伝播した現象であるということを示唆するものである。唯一Cの特徴を示す mTshongu 方言は rGyalthang 下位方言群とは異なる下位方言群との接触地域で話され(鈴木 2018)、この条件が音対応の差異を考える際の要点であろう。このような分岐から、前部硬口蓋化現象は比較的新しく発生した音変化であると考えられる。

6 まとめ

本稿では、初頭子音の音対応の基本形式として歯-歯茎阻害音であるものが前部硬口蓋音で現れる例を挙げつつ、これが生じる環境を探った。その結果、共時的に/i/に先行する場合、もしくは蔵文 *e* に先行する場合があてはまることが分かった。特に蔵文 *e* を rGyalthang 下位方言群の古形式において *jə と置き換えて理解することによって、音変化において作用するのは母音/i/とわたり音/j/の2種類と考えられることを提示した。蔵文 *o* を *wə と置き換えて理解することで説明のつく現象もあり、蔵文 *e/o* が並行する音対応をもつと理解した。

また、本稿の記述で明らかになったことの1つに、rGyalthang 下位方言群内部で一定程度の異なりが認められるということが挙げられる。rGyalthang 下位方言群は比較的音対応の安定した方言群から成り立っているとはいえ、細部に無視しがたい異なりがある。また、藏文 *ts/tsh/dz/s/z* 対応形式における前部硬口蓋化が認められる方言とそうでない方言を地図化して分布を見てみると、rGyalthang 下位方言群の分布する地域の中心地および南部を中心に認められる現象であることが明らかとなった。この音変化は同地域の中心地である建塘鎮を中心に、平原部を中心に伝播した現象であるということを示した。

参考文献²¹

- 鈴木博之 (2008) 「迪慶州瀾滄江流域カムチベット語 (徳欽/雲嶺/燕門/巴迪方言) の方言特徴」『ニダバ』第 37 号 115-124
- (2009) 「迪慶州金沙江流域カムチベット語 (奔子欄/尼西/拖頂/霞若/其宗方言) の方言特徴」『ニダバ』第 38 号 29-38
- (2013a) 「藏文対応形式から見た舟曲県チベット語拱壩 [dGonpa] 方言の特徴—舟曲県チベット語の概説を添えて—」『京都大学言語学研究』第 32 号 1-35,
電子版: <http://hdl.handle.net/2433/182202>
- (2013b) 〈雲南維藏語的 r 介音語音演變—兼談“兒化”與“緊喉”之交叉關係—〉《東方語言學》第 13 輯 20-35
- (2014a) 「カムチベット語香格里拉県小中甸郷吹亞頂 [Choswateng] 方言の音声分析と語彙: rGyalthang 下位方言群における方言差異に関する考察を添えて」『国立民族学博物館研究報告』39 卷 1 号 45-122, 電子版: <http://hdl.handle.net/10502/5401>
- (2014b) 〈尼汝藏語的小舌輔音與其藏文對應規律〉《東方語言學》第 14 輯 1-12
- (2015) 《東方藏區諸語言研究》四川民族出版社
- (2017a) 「音韻現象の ABA 分布をめぐる解釈の方法と実際—チベット文化圏南東端のカムチベット語を例に」『言語記述論集』9, 43-64, 電子版: <http://id.nii.ac.jp/1422/00000911/>
- (2017b) 〈迪慶藏語土話的多樣性及其記錄的意義〉迪慶藏族自治州文學藝術界聯合會編《世界的香格里拉》45-57 雲南人民出版社,
電子版: <https://mp.weixin.qq.com/s/fF0-UGxRzWbwH09ngq8x8g>
- (2018) 「香格里拉市北部のカムチベット語諸方言の方言特徴とその形成」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 95 号 (印刷中)
- (forthcoming) 〈香格里拉藏語的 r 韻尾語音演變: r 韻尾、卷舌化元音、輔音性元音〉《東方語言學》第 18 輯
- Hongladarom, Krisadawan (1996) Rgyalthang Tibetan of Yunnan: a preliminary report. *Linguis-*

²¹ 電子版が公開されているものについては、印刷物の有無にかかわらず URL を掲げる。いずれも最終閲覧日は 2018 年 3 月 14 日である。

tics of the Tibeto-Burman Area 19.2, 69-92.

Online: <http://sealang.net/sala/archives/pdf8/hongladarom1996rgyalhang.pdf>

Suzuki, Hiroyuki (forthcoming) *100 Linguistic Maps of the Swadesh Wordlist of Tibetic Languages from Yunnan*. Fuchu: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

江荻 (2002) 《藏語語音史研究》 民族出版社

陸紹尊 (1990) 〈藏語中甸話的語音特點〉《語言研究》第2期 147-159

王曉松 (2008) 〈對中甸藏語方言的粗淺認識—從語音上看中甸方言的特點和規律〉《王曉松藏學文集》368-378 雲南民族出版社

《雲南省誌》編纂委員會 (1998) 《雲南省誌 卷五十九 少數民族語言文字誌》雲南民族出版社

雲南省中甸縣地方誌編纂委員會編 (1997) 《中甸縣誌》雲南民族出版社

張濟川 (2009) 《藏語詞族研究—古代藏族如何豐富發展他們的詞匯》社會科學文獻出版社

[付記]

筆者による各種言語資料収集に関する現地調査については、次の援助を受けている：日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (S) 「チベット文化圏における言語基層の解明」(研究代表者：長野泰彦、課題番号 16102001、平成 16-20 年度)、日本学術振興会科学研究費補助金 (特別研究員奨励費、平成 19-21 年度) 「川西民族走廊・チベット文化圏における少数民族言語の方言調査と地域言語学的研究」、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (A) 「ギャロン系諸言語の緊急国際共同調査研究」(研究代表者：長野泰彦、課題番号 21251007、平成 21-23 年度)、日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (B) 「言語多様性の記述を通して見る中国雲南省チベット語の方言形成の研究」(研究代表者：鈴木博之、課題番号 25770167、平成 25-28 年度)、雲南省民族學會藏族研究委員會《雲南藏語誌》計劃 (2015 年)、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (A) 「チベット・ビルマ語族の繋聯言語の記述とその古態析出に関する国際共同調査研究」(研究代表者：長野泰彦、課題番号 16H02722、平成 28-29 年度)、日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (A) 「チベット文化圏東部の未記述言語の解明と地理言語学的研究」(研究代表者：鈴木博之、課題番号 17H04774、平成 29 年度)。

Prepalatalisation of denti-alveolar sounds and its relevant phenomena in the rGyalthang subgroup of Khams Tibetan

Hiroyuki SUZUKI

This article discusses a potential background of the emergence of prepalatal initials, which are expected to be denti-alveolar counterparts as an ordinary sound correspondence, attested in the rGyalthang subgroup of the Sems-kyi-nyila group of Khams Tibetan, spoken principally in Shangri-La Municipality, Yunnan Province, China. It clarifies that the condition of the phenomenon is related to either a case that a given sound precedes /i/ in a synchronic aspect or a case that a given sound precedes a Literary Tibetan (LT) vowel *e*. The article further analyses that LT *e* corresponds to *jə in a proto-form (proto-rGyalthang), which means that /i/ and /j/ effect the development of the initial from denti-alveolars to prepalatals. This analysis can be supported by a parallel case that LT *o* can correspond to *wə in the proto-form.

受理日 2018年3月14日

カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言における述部に標示される証拠性*

鈴木 博之 四郎翁姆
オスロ大学 オスロ大学

キーワード：カムチベット語、Minyag Rabgang 方言群、述部、証拠性

1 はじめに

本稿では、カムチベット語 Lhagang (塔公) 方言における動詞接辞によって表される証拠性の体系を、調査票による聞き取りを基本にして記述を行う。Lhagang 方言は Minyag Rabgang 方言群に属する方言¹で、四川省甘孜州康定市塔公鎮塔公村で話される。母語話者は 500 人程度と見積もられる。

Lhagang 方言の記述研究としては、鈴木・四郎翁姆 (2016) の文法スケッチがあり、その中に本稿で主たる記述の対象となる証拠性についても触れられている。また、塔公村では、同村周辺の牧民に対する定住政策などによって移住してきた住民もおり、彼らはアムドチベット語を話すことから、頻繁な言語接触が認められ、相互に影響しあっている (Suzuki & Sonam Wangmo 2015, 2017)。本稿で扱う言語は同村で代々生活を営んできた人々が話すものである。

チベット系諸言語 (Tibetic languages²) は、その証拠性が多様な動詞接辞によって表現されることに特徴づけられる。チベット・ビルマ諸語の証拠性全般について述べたものに Tournadre & LaPolla (2014) があり、チベット系諸言語に特化したものとして、Gawne & Hill (eds) (2017) がその多様性を反映した各種の記述を提供している。Oisel (2017) もラサのチベット語に関する証拠性を改めて検討している。Vokurková (2008) は共通チベット語における証拠性と組み合わせる認識的モダリティーの記述を行い、その複雑な構造を提示している。しかしながら、個別言語における証拠性の記述において、枠組みが共有されておらず、どのように、そしてどのような用語を用いて記述するかは、各研究者の関心によっている部分が多い。また、動詞接辞に対する語釈のつけ方、分析の仕方にも異なりが認められる³。

このような状況にある中、Bettina Zeisler や Nicolas Tournadre といった研究者が、チベット系諸言語の証拠性の記述における包括的な枠組みを構築しようと試み、調査票を作成しつつあ

* 本稿の一部は第 68 回言語記述研究会 (2015 年 12 月 26 日; 京都大学) での口頭発表に基づいている。本稿の執筆・改訂に際しては、才讓三周、千田俊太郎、古本真の各氏から貴重なコメントをいただいた。ここに記して謝意を表す。

¹ 方言区分については、Suzuki (2009, 2014) 参照。

² Tibetic という用語については、Tournadre (2014) を参照。

³ 付録 2 を参照。

る。本稿は、両者の草稿段階にある調査票（以下それぞれ「Z 調査票⁴」「T 調査票⁵」）を参考にしつつ、第1著者と第2著者（Lhagang 方言母語話者）が調査票にある現象をめぐって議論をしながら、各例文の意図する Lhagang 方言の形式を記述し、それをまとめた資料的性格の強いものである。調査票の評価や改善を目的とはしない。本稿の記述は、主として T 調査票によっている。記述を通して、証拠性の体系を記述するのにより適しているように見えるためである。

Lhagang 方言の証拠性を概観してみると、特に「向自己 (egophoric)」、「感知 (sensory)」、「情報源」について明確に標示されることが分かる。また、これらは動詞のタイプとテンス・アスペクト（以下 TA）によって異なって現れる⁶。Lhagang 方言の TA は、次のようなものが形態統語的に区別される。カッコ内は語釈に用いる。

- 未来 [意思] Future (FUT)
- 非完了 [現在/未来] Nonperfect (NPFT)
- 習慣 [陳述] Statement⁷ (STA)
- 進行 Progressive (PROG)
- アオリスト Aorist (AOR)
- 完了 Perfect (PRF)

このうち、「未来」は特に「意思未来」を指す⁸。それ以外は非完了に含まれる。「アオリスト」は事柄の完了を表す点で「完了」と同等と考えてもよいが、証拠性にかかわる接辞との共起の面で、特別な制限がある。つまり、すべての語形ですべての証拠性対立が認められるわけではないことになる。詳しくは、以下の各節で述べる。また、TA の枠組みにモダリティーと証拠性が加わって、述部が成立しているものと理解できる。なお、TA と証拠性はほとんどの場合、動詞語幹に後続する位置で、接尾辞とともに表現される⁹。

⁴ 現段階では公開されている（2016年6月版）が、引用するには著者の確認が必要とのことである。本稿においては、これを参照したが、直接は引用しない。

<http://tulquest.huma-num.fr/sites/default/files/questionnaires/41/QuestionnaireEvidentiality.pdf>

⁵ 現段階では非公開。個人的に入手したものである。

⁶ チベット系諸言語の TA について扱ったものに Zeisler (2004) があるが、Lhagang 方言の記述に際しては、異なる枠組みを用いる。

⁷ 語釈には「陳述」に相当する語形をあてる。習慣を表すのは他の接辞でも可能であるからである。この形態が現れるのは相当限られているため、TA の一部とみなすかどうかは再考の余地がある。

これに関連して、1つの問題がある。T 調査票や Oisel (2017) の記述にある証拠性の中には「無標」がない。各種述部について、証拠性に触れない発話ができないのかという点が、記述を行う過程で常に疑問になる。一方、Kalsang et al. (2013:518) には「中立 (neutral)」と呼ぶカテゴリーがあり、本稿の記述における「判断」に対応するように見える。

⁸ 「未来」というカテゴリーが Lhagang 方言の体系において必要であるか否かは議論に値する。6.1 節および 7.1 節で記述するように、「非完了」と「推量」のカテゴリーに重複が認められ、「未来」は「意思」と「義務」もまた表し、その形式も動詞連続の一種と分析できる可能性があるためである。詳細は別稿にゆずる。

⁹ 動詞語幹の直後につく形態素は、それ自体の声調をもたずに直前の動詞語幹と同一の声調領域を形成するため、接尾辞として機能しているといえる。しかし、否定形や疑問形では、声調をもつ音節が接辞の内部に挿入されるため、必ずしも「接尾辞」となっているとは言えない。

Z 調査票と T 調査票の内容を検討した結果、まず述部の種類を次の6つに分ける。

- 判断動詞
- 存在動詞
- 形容詞述語
- 内的感覚 (endopathic) 動詞
- 制御不可能 (non-controllable) 動詞
- 制御可能 (controllable) 動詞

判断動詞とは、いわゆる繫辞動詞であるが、話者の発話態度によって形態が異なる。存在動詞とは、存在・位置・所有を表す動詞である¹⁰。形容詞述語には、形態論的に名詞類と動詞類の2種類が認められる。内的感覚動詞とは、体内で感じる状態を表す動詞で、他人による観察が不可能なものである。また、制御可能性が Lhagang 方言の動詞分類に果たす役割についてはなお検討の余地があるが、本稿ではこの分類がなされている T 調査票に従って記述し、結果を提示する¹¹。

本稿では、以上に示した6つの述語のカテゴリーそれぞれについて1節を設け、その中で TA の異なりによる下位区分を設けて記述する。また、証拠性はすべての述部形式に対して統一の体系をもつという分析¹²があり、この見方が Lhagang 方言の記述にも大部分は適用可能であること示す¹³。記述に用いる言語資料は、各調査票にある項目(例文)の第2著者による翻訳、および各項目の意図を反映した作例¹⁴を基本とし、実際の会話からも例をとる。また、長編資料¹⁵の語りとの相違点について注記する。なお、例の表記には鈴木・四郎翁姆(2017:23-30)に示した音体系に従った音標文字を用い、音節分かち書きとする。簡便な音体系一覧は付録1を参照。

¹⁰ チベット・ビルマ系諸言語における存在表現については黄成龍(2013)を参照。チベット文化圏東部のチベット系諸言語については、鈴木(2016)、Suzuki(2016)を参照。

¹¹ 判断動詞と存在動詞を除き、平叙文において証拠性を表す接辞や小辞が現れずに終止する文はまれである。本稿でも TA の関連で言及するが、議論はしない。

¹² Oisel(2017)における証拠性のまとめでは、同一の用語をすべてのタイプの述語に適用している。しかし一方、星・タウワ(2017:147-150)では、Oisel(2017)と異なる体系によるまとめを提示している。

¹³ 証拠性の体系がすべての述部のタイプに共通である、ということを出発点にして記述することも考えうる1つのアプローチである。しかしながら、これは Z 調査票や T 調査票の構成とは異なる。また、証拠性の体系がチベット系諸言語において通言語的に共有されうるものであると考えるのは困難である。Gawne & Hill (eds) (2017) 参照。

したがって、まずは1言語(方言)の証拠性の体系をつかみ、そののち再度このアプローチに戻って述部の分類を考察する、という順序が望ましいと考える。本稿では、この順序で記述を行い、最後に証拠性の体系に与えられる名称について、特別な議論を必要としない部分において、名称変更を行い、それを注記するという方法をとった。

¹⁴ 作例の際には、Oisel(2017)を参照した。

¹⁵ Lhagang 方言の長編資料には、鈴木ほか(2015)、鈴木・四郎翁姆(2017)、Suzuki & Sonam Wangmo(2017ab)が公開されている。

2 判断動詞

判断動詞の語幹とその主要形態は以下のとおりである¹⁶。向自己か判断かに基づいて/ʼji:/または/ʼreʔ/という動詞語幹が選択される¹⁷。推量、推定の語幹は向自己のものと共通する。

表1：判断動詞の基本形態

	平叙		疑問	
	肯定	否定	肯定	否定
向自己	ʼji:	ʼma-ji:	ʼʔə-ji:	ʼma-ji:-la
判断	ʼreʔ	ʼma-reʔ	ʼʔə-reʔ	ʼma-reʔ-la
推量	ʼji:-s ^h a reʔ	ʼji:-s ^h a ʼma-reʔ		
	ʼji:- ^h dzuu reʔ			
推定	ʼji:-lə reʔ	ʼji:-lə ʼma-reʔ		

表1の「判断」はT調査票ではfactualと呼ばれるカテゴリーから得られたデータである。これは、発話そのものが事実かどうかではなく、発話において「事実と認識/判断している」という証拠性の1区分に与えられた名称である¹⁸が、Lhagang方言においては必ずしもそのような話者の直感が得られない。このため、「判断」という用語を採用する¹⁹。

向自己の形態は発話者自身に関する事柄を述べる時に現れる(1a)。ただし、向自己の証拠性を明示しない場合、判断の形態も現れうる(1b)。

(1) a ʼŋa-ϕ ʼts^hõ mba-ϕ ʼji:
1-ABS 商人-ABS CPV.E

私は商人です。

b ʼŋa-ϕ ʼts^hõ mba-ϕ ʼreʔ
1-ABS 商人-ABS CPV

私は(誰がどう見ても分かるように)商人です。

(2)は判断の形態の現れである。

¹⁶ 鈴木・四郎翁姆(2016)に基づく。加えて、推量および推定の形式を追加した。ほかにも周縁的な形式が存在するが、割愛する。

¹⁷ 語釈について、動詞接辞の形態は分析的に記述するが、その語釈は複合形式とする。明らかに認識を表明する部分が明確に現れる形態には、独立した語釈を与える。詳しくは末尾の付録2を参照。

¹⁸ ただし、Oisel(2017:96)はfactualを“specific or common fact without indicating the source and the access to information”と定義している。しかし、without以下の定義はfactualという用語からは想定しがたい。

¹⁹ 「判断動詞」における「判断」は、判断動詞のもっとも基本的な用法と理解してよい。言い換えれば、向自己が有標な証拠性である。また、先に触れたように、「無標」という扱いもできる可能性がある。鈴木・四郎翁姆(2017:51)ではnon-egophoric(非向自己)という用語を用いた。推量、推測を証拠性ではなく認識の度合い(epistemic)のカテゴリーと考えるならば、Lhagang方言の判断動詞には証拠性の体系において「感知」のカテゴリーを欠いているため、向自己に対する非向自己というのは妥当性がある。一方で、すべての述部に共通する証拠性のカテゴリーを考えるならば、非向自己というのは成立しがたい。

- (2) a ʔtʰoʔ-φ ʔkʰã mba-φ ʔreʔ
 2-ABS カムの人-ABS CPV
 あなたはカムの人です。
- b ʔkʰo-φ ʔkʰã mba-φ ʔreʔ (/ *ʔji:)
 3-ABS カムの人-ABS CPV
 彼はカムの人です。

否定文の場合は (3) のようになる。

- (3) a ʔŋa-φ ʔtsʰõ mba-φ ʔma-ji:
 1-ABS 商人-ABS NEG.CPV.E
 私は商人ではありません。
- b ʔtʰoʔ-φ ʔʔa ʔdo wa-φ ʔma-reʔ
 2-ABS アムドの人-ABS NEG.CPV
 あなたはアムドの人ではありません。
- c ʔkʰo-φ ʔkʰã mba-φ ʔma-reʔ
 3-ABS カムの人-ABS NEG.CPV
 彼はカムの人ではありません。

疑問文では証拠性選択の「予測規則 (anticipation rule)」、すなわち、答えの文に現れうる証拠性の範疇の形態が疑問文において現れる²⁰。(4)では、答えが向自己の形態になることを疑問文の段階で予測しているため、発話に向自己の形態が現れている。

- (4) ʔtʰoʔ-φ ʔsʰu-φ ʔji:
 2-ABS 誰-ABS CPV.E
 あなたは誰ですか？

向自己以外の証拠性 (情報源など) は、接辞の付加によって表す。

- (5) a ʔkʰo-φ ʔkʰã mba-φ ʔreʔ
 3-ABS カムの人-ABS CPV
 彼はカムの人です。
- b ʔkʰo-φ ʔkʰã mba-φ ʔreʔ-sə reʔ
 3-ABS カムの人-ABS CPV-HS
 彼はカムの人だということです。

(5b)には伝聞の接辞が現れているが、伝聞を表す形態は豊富にあり、発話のスタイルによっていると考えられる²¹。

推量・推定などの認識の不確かさの度合いを表現する場合、向自己の動詞語幹/ʔji:/に接辞を付加して形成する。本稿において、推量とは知覚に基づいて得た情報をもとに推測することを意味し、推定とは知識に基づいて推理することを意味する。

²⁰ Tournadre & LaPolla (2014) 参照。

²¹ 形態的には、いずれも語彙的動詞「言う」と関連する。伝聞は情報源を表す証拠性の範疇の1つである (Aikhenvald 2015:323) が、これについては稿を改めて議論したい。

(6) a ʔ^ho-φ ʔ^hge ʔ^hge-φ ʔji:-ʔ^hdzɯ re?
 3-ABS 先生-ABS CPV-EPI
 彼はたぶん先生だと思います。

b ʔ^ho-φ ʔ^hge ʔ^hge-φ ʔji:-s^ha ʔma-reʔ-pa
 3-ABS 先生-ABS CPV-EPI.NEG-INFR
 彼はたぶん先生ではないと思います。

(6b) のように、推量の接尾辞に感情を表す小辞/-pa/を付加することで、さらに不確実性を増す表現になる²²。

/ʔji:-ʔ^hdzɯ reʔ/には、/-ʔ^hdzɯ/に定標識/-tə/がつく形式/ʔji:-ʔ^hdzɯ-tə ʔreʔ/があり、確証はないが断定的な発言を形成する (7)²³。

(7) ʔ^ho-φ ʔ^hge ʔ^hge-φ ʔji:-ʔ^hdzɯ-tə ʔreʔ
 3-ABS 先生-ABS CPV-NML-DEF CPV
 彼は先生に違いありません。

判断動詞は、通常 TA の標示を行わない。時間の概念は時間名詞や文脈などで表すことになる。なお、物語の語りにおいては、/-k^he:/という完了/判断（非感知）の接辞がつく（4節以降の記述を参照）が、これは日常会話ではほとんど使われない。語りにおいては、「非感知」を表明することが重要な役割となっているのではないかと考える。

3 存在動詞

Lhagang 方言において、存在動詞は存在・位置・所有を表し、それぞれの意味上の異なりは統語（格標示）の異なりによって表す。存在動詞の語幹とその主要形態は以下のとおりである²⁴。

表2：存在動詞の基本形態

	平叙		疑問	
	肯定	否定	肯定	否定
向自己	ʔjoʔ	ʔmeʔ	ʔʔə-joʔ	ʔmeʔ-lə ʔʔə-ji:
感知	ʔji:-tu	ʔmeʔ-tu	ʔʔə-ji:-tu	ʔmeʔ-lə ʔʔə-ji:
判断	ʔjoʔ-reʔ	ʔjoʔ-lə ʔma-reʔ	ʔjoʔ-lə reʔ	ʔmeʔ-lə ʔʔə-reʔ
推量	ʔjoʔ-s ^h a reʔ	ʔjoʔ-s ^h a ʔma-reʔ		
	ʔjoʔ-ʔ ^h dzɯ reʔ			
推定	ʔjoʔ-lə reʔ	ʔjoʔ-lə ʔma-reʔ		

²² この/-pa/は動詞接辞の一部ではなく、感情を表現する小辞と理解する。用法は推量のみであるとは言い切れないが、語釈では便宜的に「推量」としておく。

²³ この場合、/-ʔ^hdzɯ/は名詞化接辞で/-tə/は名詞句を明示する役割を担っていると考え、述部の動詞は判断動詞/ʔreʔ/のみであると分析する。このことは、/ʔreʔ/が独立の声調を担うことから支持できる。

²⁴ 鈴木・四郎翁姆 (2016) に基づく。証拠性の名称を他の述語のものと同通になるよう修正を加え、また新たに推量、推測を加えた。

感知の平叙文肯定形には/ji:/という音節が現れるが、これは判断動詞ではなく、/ʃoʔ/の変異形と考える²⁵。なお、会話においては、存在動詞は TA が標示されないが、語りにおいてはアオリストや完了が現れうる。また、推測の接辞は非完了/判断と共通する。

存在動詞は、発話に関する情報へいかにアクセスするかによって形式が異なる。発話内容が知覚し確認した情報で向自己であるものか、単に知覚による情報によるものか、それとも知覚であるかどうかにかかわらず存在表現に対する判断を述べるのかが基本的な差異である。感知は「観察知、新情報」を表し、判断は「定着知、旧情報」を表す²⁶。もっとも基本的な証拠性はこれらの意味であり、次いでさまざまな機能、たとえば驚嘆性 (mirativity) などを感知の形式を用いて表すことができる。なお、ここでいう「知覚」は五感のうちどの感覚であってもよい。

(8) は所有の平叙文の例である。

- (8) a ʔna-la ʔta ja-φ ʃoʔ
1-DAT お金-ABS EXV.E
私は (今、手に) お金を持っています。
- b ʔkʰo-la ʔta ja-φ ʃi:tu
3-DAT お金-ABS EXV.SEN
彼は (今、手に) お金を持っています。(見えています)
- c ʔkʰo-la ʔta ja-φ ʃoʔ-reʔ
3-DAT お金-ABS EXV
彼はお金を持っています (金持ちです)。

存在動詞にも向自己の証拠性の形式があるものの、疑問文で「予測規則」が働かず、発話者のそれぞれ異なる意図が反映される。(9) は存在の疑問文の例である。

- (9) a ʔpa pʰa-φ ʔnɔ̃-la ʔʔə-joʔ
父-ABS 家-LOC EXV.E.Q
お父さんは家にいますか? (あなたは今いっしょにいますか)
- b ʔpa pʰa-φ ʔnɔ̃-la ʔʔə-ji:tu
父-ABS 家-LOC EXV.SEN.Q
お父さんは家にいますか? (あなたはいるところを見ましたか)
- c ʔpa pʰa-φ ʔnɔ̃-la ʃoʔ-lə reʔ / ʃoʔ-lə ʔʔə-reʔ
父-ABS 家-LOC EXV.Q
お父さんは家にいますか? (家にいるような習慣の人ですか)

推量・推定などの認識の不確かさの度合いを表現する場合、(10) に掲げるように、向自己の動詞語幹/ʃoʔ/に接辞を付加して形成する。

²⁵ 感知の否定形を見れば、それが存在動詞の語形であるということが分かる。このため、体系上/-tu/の前には存在動詞がくると考えて問題ないといえる。また、判断動詞には感知の語形が存在しない。このため、2種の動詞において形式が衝突することはない。

²⁶ 「観察知」、「定着知」という用語は星 (2003) がラサ方言の記述に用いている。また、星 (2016:97) によると、この用語は 14 世紀のチベット文語にもあてはまる。

- (10) a ʔ^ho-la ʔta ja ʔmã bo-φ ʔjoʔ-s^ha reʔ
 3-DAT お金 多い-ABS EXV-EPI
 たぶん彼はたくさんのお金をもっていると思います。
- b ʔta^hta ʔnɑ: n̄ō-φ ʔjoʔ-s^ha ʔma-reʔ
 今 子供-ABS EXV-EPI.NEG
 たぶん今子供はいないと思います。

疑念の強いことを表す場合、疑問文の形態で否定の意味を表現する (11)。

- (11) ʔta ri ʔk^ha^htsɔ ʔk^ho-φ ʔn̄ō-la ʔʔə-joʔ-na
 最近 3-ABS 家-LOC Q-EXV-PART
 最近彼は家にいないと思います。

4 形容詞述語

形容詞述語は2種類のタイプがある。1つは名詞的なもの、もう1つは状態動詞的なものである。それぞれ次のような例がある。

- 名詞的: ʔkɑ: ʔ^hbo 「白い」、ʔ^hdzaʔ pa 「太った」
- 状態動詞的: ʔ^htɕ^hɑʔ 「冷たい/寒い²⁷」、ʔzi: 「おいしい」

形容詞の中には、全く同じ意味を表し派生関係にある2つの形式が、名詞的形容詞・状態動詞的形容詞のペアをなす場合がある。たとえば、/ʔ^hdzaʔ pa/ - /ʔ^hdzaʔ/ 「太った」、/ʔzi: po/ - /ʔzi:/ 「おいしい」のようである。

両者は述部を形成するときに異なる構造をとる。例を見る限り、証拠性のカテゴリーによって相補分布しているといえる。形容詞述語の基本構造と接辞の組み合わせは次のようである。A=状態動詞的形容詞、An=名詞的形容詞とする。

表3：形容詞述語とそれにつく接辞の基本形態

	平叙		疑問	
	肯定	否定	肯定	否定
向自己	An ʔji:lə reʔ	An ʔji:lə ʔma-reʔ	An ʔji:lə ʔʔə-reʔ	
判断	An ʔreʔ	An ʔma-reʔ	An ʔʔə-reʔ	
感知	A-tu	ʔmə-A-tu	ʔʔə-A-tu	
非完了	A-lə reʔ	A-lə ʔma-reʔ	A-lə ʔʔə-reʔ	
完了/判断	A-k ^h e:	ʔma-A-k ^h e:	ʔʔə-A-k ^h e:	
推量	An ʔji:s ^h a reʔ	An ʔji:s ^h a ʔma-reʔ		
	A-s ^h a reʔ	A-s ^h a ʔma-reʔ		

名詞的形容詞は、現状を事実と判断する述部を形成する際に現れ、形容詞のあとに判断動詞

²⁷ Lhagang 方言では「(外気が) 冷たい」と「寒さを覚える」は同形である。後者は形容詞ではなく、内的感覚動詞(5節)に分類される。

が用いられる (12)。向自己の場合、さらに非完了の接辞/-lə re?/を伴う²⁸ (12a)。

(12) a ʔḡa-φ ʔḡa ʔḡdʒaʔ pa-tʃiʔ ʔji:-lə re?
 1-ABS 太った-NDEF CPV.E-NPFT
 私は太っています。

b ʔḡo-gə ʔko zɛ-φ ʔḡā tʃeʔ ʔḡka: ʔbo ʔre?
 3-GEN 服-ABS ほとんど 白い CPV
 彼の服はほとんどが白いです。

非向自己の発話の場合、疑問文は判断の形態に加えて向自己の形態も用いられることがある (13)。ただし両者の意味上の差異は明らかではない。

(13) ʔḡo-φ ʔḡdʒaʔ pa-tʃiʔ ʔʔə-reʔ / ʔji:-lə ʔʔə-reʔ
 3-ABS 太った-NDEF Q-CPV / CPV.E-NPFT.Q
 彼は太っていますか？

状態動詞的形容詞は、現状（事実）認定以外の何らかの証拠性を表現する述部を形成する際に用いられ、多くの場合、感知を表す接辞を伴う (14, 15)。

(14) a ʔḡə la ʔḡtɑ: mo ʔḡtʃhɑʔ-tu
 外 とても 寒い-SEN
 外はとても寒いです。

b ʔḡo tsḡo-gə ʔtsḡɛ:-φ ʔḡā tʃeʔ ʔzi:-tu
 3.PL-GEN 料理-ABS ほとんど おいしい-SEN
 彼らの料理はほとんどがおいしいです。

状態動詞的形容詞は、動詞語幹と同様に、接頭辞も付加できる (15)。

(15) ʔḡə la ʔʔə-ʔḡtʃhɑʔ-tu
 外 Q-寒い-SEN
 外は寒いですか？

推量の形式は、名詞的形容詞の場合/An ʔji:-sḡa re?/の形をとり (16)²⁹、状態動詞的形容詞の場合/A-sḡa re?/の形をとる (17)。前者の場合、不定標識/-tʃiʔ/が挿入されうる (16a)。

(16) a ʔḡo-φ ʔḡdʒaʔ pa-tʃiʔ ʔji:-sḡa re?
 3-ABS 太った-NDEF CPV-EPI
 彼はたぶん太っていると思います。

b ʔḡo-φ ʔḡdʒaʔ pa ʔreʔ-joʔ-sḡa re?
 3-ABS 太った なる-CONT.EPI
 彼はおそらく太ってしまったと思います。

²⁸ この形式は、判断動詞の「推定」のものと同様に形態上は同一になるが、名詞的形容詞に後続する場合、推定の意味ととらえることは難しい。(12a)について考えると、発話者が「自分が太っている」と言及するのは主観であって、推理によるものと考えるのは母語話者の直感にそぐわないためである。しかし、太っているかどうかを判断するために他人と比較し、それに基づいて思考した結果、自身が太っていると考え、という思考過程を経ているならば、推理していると言えなくもない。

²⁹ ただし、(16b)に示すように、変化を表す場合は動詞/ʔreʔ/が用いられる。

- (17) a ʔḥə la-tə ʔḥəʔ-sʰa re?
 外-TOP 寒い-EPI
 外はたぶん寒いと思います。
- b ʔḥə la-tə ʔḥəʔ-sʰa ʔma-re?
 外-TOP 寒い-NEG.EPI
 外はたぶん寒くないと思います。

状態動詞的形容詞述語には、変化を伴う（たとえば「太い」>「太る」）意味を、完了とアオリストについて接辞で表すことができる。その接辞は完了/判断（直接非確認・非感知）の接辞/*kʰe:/*である³⁰。通常の発話では、形容詞の表す状態変化の一部始終を感知することはできないためであると考えられる。(18, 19)がその例である。

- (18) ʔḥo-φ ʔge:kʰe:
 3-ABS 老いた-PFT.NSEN
 彼は年を取りました。
- (19) ʔna nĩ lo ʔgũ kʰa-φ ʔḥəʔ mo tɕi? ʔḥəʔ-zə ʔji:kʰe:
 去年 冬-ABS とても 寒い-AOR-PFT.NSEN
 去年の冬はとても寒かったです。

名詞的形容詞述語で、変化を表す場合には、主動詞として/*reʔ/*「なる³¹」を付加する(20)。

- (20) a ʔḥo-φ ʔdzaʔ pa-tɕi? ʔreʔ-reʔ
 3-ABS 太った なる-STA
 彼は太るでしょう。
- b ʔḥo-φ ʔdzaʔ pa-tɕi? ʔreʔ-kʰe:
 3-ABS 太った なる-PFT.NSEN
 彼は太りました。

(20a)において、「これから太る」という意味で判断の接辞がつくのは、「なる」という動詞自体のアスペクトが終結性をもつからで、「なっている」という意味をもたないからであると考ええる。

完了の推定は/*tu-pa/*の形をとる(21)。/*pa/*は動詞の接辞ではなく、述部全体にとっての接辞と考える³²ため、表3には含めていない。

- (21) ʔḥə la ʔḥəʔ-tu-pa
 外 寒い-SEN-INFR
 外は寒くなったでしょう。

³⁰ 完了は感知・非感知が対立をなすカテゴリーである。しかしながら、証拠性の体系を見ると、「感知」のカテゴリーを有標と考えることができる。そうすると、無標のものを「判断」のカテゴリーに入れてもよい。少なくとも、判断動詞(2節)については、非向自己の形態を「判断」としている。

³¹ この形態は判断動詞/*reʔ/*と同じであるが、機能も接辞のつき方も異なるため、共時的には同音異義語と考える。文語の場合、《藏漢大辭典》(1985:2720)によれば、判断動詞と語彙的動詞「なる、完成する」は別項目となっている。

³² 2節の(6b)を参照。

5 内的感覚動詞

内的感覚動詞とは/^htoʔ/「空腹である」、/na/「病気である」、/^htɑʔ/「怖がる」など、通常は他者が確認できないような感覚、感情を表す語をさす³³。単項動詞と多項動詞があり、後者は感覚を覚える対象を与格で表す。ただし、この種の動詞はさらに分類できる可能性がある。内的感覚動詞と共起する基本的な接辞には、以下のようなものがある。大きく非完了類と完了類に分かれる。

表4：内的感覚動詞につく接辞の基本形態

	平叙		疑問	
	肯定	否定	肯定	否定
判断	V-reʔ	V ^ma-reʔ	V-lə ʔə-reʔ	V ^ma-reʔ-la
感知	V-tu	ʔmə-V-tu	ʔə-V-tu	
推量	V-εə ʔji:-tu-pa	V-εə ^meʔ-tu-pa		
推定	V-s ^h a reʔ(-pa)	V-s ^h a ^ma-reʔ(-pa)		
アオリスト	V-zə reʔ			
完了/感知	V-t ^h e:	ʔma-V-t ^h e:	ʔə-V-t ^h e:	
完了/判断	V-k ^h e:	ʔma-V-k ^h e:	ʔə-V-k ^h e:	

判断の接辞は発話者自身に関する以外（すなわち他者）で、その内的感覚が習慣的なものとして発話者が認識している場合、また疑問文の場合は習慣的と認識していることを前提とする場合に用いられる (22a)。判断の疑問形式は形態上非完了³⁴と同形になる (22b)。

- (22) a ʔ^ho-φ ʔni: ts^he ts^he ʔi^hgō mo-la ʔ^ht^hɑʔ-reʔ
 3-ABS いつも 夜-LOC 寒い-STA
 彼はいつも夜寒がっています。
- b ʔt^hoʔ-φ ʔt^hə ʔi^hgε-la ʔ^htɑʔ-lə ʔə-reʔ
 2-ABS 犬-DAT 怖い-NPFT.Q
 あなたは犬が怖いですか？

発話者自身が感覚を覚える主体である場合には、感知の接辞を用いる (23a)。発話者（疑問文の場合は聞き手：予測規則）が感覚を覚える主体でない場合、伝聞の接辞がつく (23b)。

³³ しかしながら、他者が「空腹である」ことを腹から発する音で知覚したり、外見から「病気である」ことや「怖がる」ことを察することは可能である。しかし、以下に記述するように、用いられる動詞接辞が限定的になることから、動詞語幹自体が他の語彙的動詞と異なるカテゴリーに属すると考えることができる。

³⁴ 6節の表5を参照。

- (23) a 'ŋa-φ ʔgo-φ ʔna-tu
 1-ABS 頭-ABS 痛い-SEN
 私は頭が痛いです。
- b ʔkʰo-φ ʔgo-φ ʔna-tu-ze
 3-ABS 頭-ABS 痛い-SEN-HS
 彼は頭が痛いそうです。

習慣的な描写であっても、発話者が「感知」の意図すなわち知覚を通して得た情報であることを述べたい場合には、感知の接辞を用いることができる (24)。

- (24) ʔkʰo-φ ʔni: tsʰe tsʰe ʔŋō mo-la ʔtʰeʰaʔ-tu-ze
 3-ABS いつも 夜-LOC 寒い-SEN-HS
 彼はいつも夜寒いそうです。

推量の形式は 6、7 節で記述する「進行」の接辞と共通するが、常に /-pa/ を伴う点に注意が必要である³⁵。他者の感覚を描写するときのみ用いられる (25)。

- (25) ʔkʰo-φ ʔtʰeʰaʔ-εə ʔji: tu-pa
 3-ABS 寒い-PROG-INFR
 彼はたぶん寒がっているでしょう。

(26a) は「彼」の様子を見たり、腹が音を立てるのを聞いたりした場合の発話で、(26b) は「彼」の様子を直接確かめることなく、常識などから推測して述べた場合の発話である。

- (26) a ʔkʰo-φ ʔtoʔ-εə ʔji: tu-pa
 3-ABS 空腹だ-PROG-INFR
 彼はたぶん空腹でしょう。
- b ʔkʰo-φ ʔtoʔ-sʰa ʔreʔ-pa
 3-ABS 空腹だ-EPI-INFR
 彼は空腹に違いありません。

感知には非完了 (表 4 では単に「感知」と記述) と完了の異なりがある。この違いは、当該の感覚を覚えた時点に現在が含まれているかどうかになる (27)。

- (27) a ʔə-ʔtʰeʰaʔ-tu
 Q-寒い-SEN
 (今) 寒いですか? (寒いと感じますか)
- b ʔə-ʔtʰeʰaʔ-tʰe:
 Q-寒い-PFT.SEN
 (少し前) 寒かったですか? (寒いと感じましたか)

完了したことについての推量は、完了/判断の接辞そのまま表すことができるほか、不確定であることを表現するために /-pa/ を付加することができる。これは、完了/判断の接辞それ自体が発話者が確認していないことに基づく情報によるため、すでに推量の範囲を多少なりとも含

³⁵ ただし語釈では /-pa/ に対して個別の分析を施す。

んでいるからであると判断できる (28)。

- (28) 'tu ts^he? k^ha ʔk^ho-φ 'htoʔ-k^he:-pa
 あのと き 3-ABS 空腹だ-PFT.NSEN-INFR
 あのと き 彼は たぶん 空腹 だっ た でしょう。

6 制御不可能動詞

制御不可能動詞とは次のような語をさす。/ˈmbaʔ/「降る」、/ˈlo:/「転倒する」、/ˈk^heʔ/「勝つ」、/ˈtɕ^haʔ/「壊れる」など。

以下、TA によって次の3つのカテゴリーに分けて述べる：非完了類（非完了、意思未来）、継続類（習慣、状態、進行）、完了類（アオリスト、完了）³⁶。それぞれの記述に先立って、接辞の基本形態をまとめる。これは制御不可能動詞と制御可能動詞に共通する。ただし、それぞれの動詞のカテゴリーによって組み合わせの認められない接辞がある³⁷。

6.1 非完了類

表5：非完了類を表す接辞の基本形態

	平叙		疑問	
	肯定	否定	肯定	否定
非完了/向自己	V-lə ji:	V-lə ˈma-ji:	V-lə ʔə-ji:	V ˈma-reʔ-la
非完了/意思	V-li:			
非完了/判断	V-lə reʔ	V-lə ˆma-reʔ	V-lə ʔə-reʔ	
非完了/推量	V-s ^h a reʔ	V-s ^h a ˆma-reʔ	V-s ^h a ʔə-reʔ	
未来/向自己	V- ^{fi} go	V ˈmə- ^{fi} go	V ʔə- ^{fi} go	
未来/判断	V- ^{fi} go reʔ	V- ^{fi} go ˆma-reʔ		
未来/感知	V- ^{fi} go ˆh sã-ɕə ˈji:-tu			
未来/推量	V- ^{fi} go-s ^h a reʔ	V- ^{fi} go-s ^h a ˆma-reʔ		

制御不可能動詞には、意思形および未来形が現れない。非完了/意思形は非完了/向自己形の一変種の変形であると考えられる。非完了形のうち、行為の実現が不明確な場合、推量の接辞を用いる (29, 30)。

- (29) 'shō nī ʔk^ha:-φ ˆmbaʔ-s^ha reʔ
 明日 雪-ABS 降る-EPI
 明日は雪が降りそうです。

³⁶ これは便宜的なものである。2項対立でカテゴリー化する場合、非完了類（継続含む）と完了類に分けられる。実際、非完了と継続で重なる部分がある。

³⁷ これは Lhagang 方言の動作動詞が制御可能性とは異なる性質で分類、記述する必要があることを示唆する。ただし、本稿ではこれについて議論をせず、T 調査票の分類に従って提示する。

- (30) 'shō nī ʔkʰa:-φ ʰmbaʔ-sʰa ʰma-reʔ
 明日 雪-ABS 降る-EPI.NEG
 明日は雪が降らないでしょう。

未来形は確定的な動作・行為を表すとともに、義務 (deontic) を表す場合もある。/ʰgo/という形態素は「必要とする」という語彙的動詞としても用いられ、場合によっては動詞連続として分析することも可能である³⁸。

また、今にも行為が実現しそうなことを「感知」して発話する場合、/V-ʰgo ʰsā-εə ʔji:-tu/「～しようとしている」という形態が現れる (31)。この否定形は認められない。

- (31) ʔkʰa:-φ ʰmbaʔ-ʰgo ʰsā-εə ʔji:-tu
 雪-ABS 降る-FUT-PROG.SEN
 雪が (もうすぐ) 降りそうです。

(32) は、発話者が状況を見て「行かざるを得ない」と考えている状況での発話である。

- (32) ʔŋa-φ ʔtsʰoʔ sʰa ʔŋo-ʰgo-sʰa reʔ
 1-ABS 集会所 行く-FUT.EPI
 私が集会所に行かないといけなようです。

疑問文の場合も推量の形式が用いられる (33)³⁹。

- (33) 'shō nī ʔkʰa:-φ ʰmbaʔ-sʰa ʔʔə-reʔ
 明日 雪-ABS 降る-EPI.Q
 明日は雪が降りますか？

6.2 継続類

表6：継続類を表す接辞の基本形態

	平叙		疑問	
	肯定	否定	肯定	否定
継続/向自己	V-joʔ	V-meʔ	V-joʔ-lə ʔʔə-ji:	V-meʔ li:
継続/判断	V-joʔ reʔ	V-joʔ ʰma-reʔ	V-joʔ-lə ʔʔə-reʔ	
継続/感知	V-ji:-tu			
継続/推量	V-joʔ-sʰa reʔ	V-joʔ-sʰa ʰma-reʔ		
習慣/判断	V-reʔ	V-lə ʰma-reʔ	V-lə ʔʔə-reʔ	
進行/向自己	V-εə joʔ (-εə:)	V-εə meʔ	V-εə joʔ-lə ʔʔə-ji:	
進行/判断	V-εə joʔ reʔ (-εə: reʔ)		V-εə joʔ-lə ʔʔə-reʔ	
進行/感知	V-εə ji:-tu (-εi:-tu)	V-εə meʔ-tu	V-εə ʔʔə-ji:	
進行/推量	V-εə joʔ-sʰa reʔ	V-εə joʔ-sʰa ʰma-reʔ		

³⁸ 「語幹+接辞」か「動詞連続」かを判別する、形態音韻論的根拠は明確ではない。接辞の/ʰgo/には前気音を伴わない [-go] が認められる程度である。

³⁹ 推量、推定の疑問形は容認されないことが多い。しかし、文字通り「推量」の意味で用いられない場合は、(30)のように、相手の返答を予測して (予測規則)、形態上推量の形式の疑問文を形成することができる。

継続は、ある状態が続いていることを示す。向自己と判断の現れは (34) のようである。

- (34) a 'ŋa-φ 'ʔa na ^nduʔ-joʔ
 1-ABS ここで 滞在する-CONT
 私はここに滞在しています。
- b ʔ^ho-φ 'ʔa na ^nduʔ-joʔ reʔ
 3-ABS ここで 滞在する-CONT
 彼はここに滞在しています。

継続/感知は、意味上は伝聞とも分析できるが、知覚によって情報を得たという含意がある (35)。

- (35) ʔ^ho-φ 'te rī ʔm̩e k^hō-nə ^nduʔ-ji:-tu
 3-ABS 今日 病院-INE 滞在する-STA.SEN
 彼は今日 (も) 病院に (入院して) いるそうです。

継続/判断の疑問形が疑問を表さず、感知によって今知ったことを述べる際に用いられることがある (36)。一種の驚嘆の表現であるともいえる (3節参照)。

- (36) ʔo ʔ^hlo ʔi zō-φ ^nduʔ-joʔ-lə ʔə-reʔ
 INTJ PSN-ABS 座る-CONT.Q
 あ、ロゾンは (ここに) いたのですのか。

習慣/判断は事実であると認識している、という含意がある。「習慣」というカテゴリーは周縁的なものであり、独立した形態としては判断の証拠性をもつ平叙文肯定形のみが認められる (37)⁴⁰。

- (37) ʔ^hdzuiⁿde ʔ^hɑ:-φ ^mbaʔ-reʔ
 一般に 雪-ABS 降る-STA
 一般に、(ここでは) 雪が降ります。(このことを習慣的だと認識しています)

動詞語幹に直接/-pa/をつけると、不確かな記憶に基づく発話になる (38)。形態上、習慣/判断の判断を表す部分が小辞に置き換わっていると理解できる⁴¹。

- (38) ʔ^hɑ: h^tɕɛʔ 'ŋa-φ ʔla s^ha-la 'ŋi ma ʔ^hsūi ^nduʔ-pa
 たぶん 1-ABS PLN-LOC 日 3 滞在する-INFR
 たぶん私はラサに3日間滞在するはずです。

進行は、ある動作/行為が継続中であることを示す (39)。

- (39) ʔ^hɑ:-φ ^mbaʔ-ɕə ji:-tu
 雪-ABS 降る-PROG.SEN
 雪が降っています。

⁴⁰ 接辞は形態論的に判断の証拠性をもつ判断動詞と同じである。ただし、直接動詞語幹につき、声調領域も動詞語幹と一体化する。習慣/判断の形態は、内的感覚動詞 (5節) につく判断の証拠性の形態とも共通する。

⁴¹ 以下の例文は Oisel (2017:98) による。Oisel (2017:98) はこの用法を 'mnemic' と呼んで証拠性の1つの機能と考えている。Lhagang 方言では、小辞を用いる点で、動詞形態論の中で体系をなしているようには見えない。

不確実さは向自己の接辞に /-s^ha re?/ を付加して表す (40, 41, 42)。推量と推定に明確な差異は現れない。

(40) 'rə^hgõ-la-tə ʔ^hɑ:-φ ʼm̩baʔ-joʔ-s^ha reʔ
 山の上-LOC-TOP 雪-ABS 降る-CONT.EPI
 山の上では雪が降るでしょう。

(41) 'ŋa-φ ʔ^hẽ s^ha 'na-joʔ-s^ha ʼma-reʔ
 1-ABS 風邪をひく-CONT.EPI.NEG
 私は風邪をひいてはいないと思います。

(42) 'rə^hgõ-la-tə ʔ^hɑ:-φ ʼm̩baʔ-ɕə joʔ-s^ha reʔ
 山の上-LOC-TOP 雪-ABS 降る-PROG.EPI
 山の上では雪が降っているでしょう。

/-tu/ が動詞語幹に直接つく事例が認められるが、この接辞は単なる感知を表すのではなく、動詞の表す動作が発話者に不快な感情を引き起こしていることを表し、被害感情を含むものとなる (43)⁴²。

(43) ʔ^hɑ:-tɕiʔ-φ ʼm̩baʔ-tu
 雪-NDEF-ABS 降る-CIS
 雪に (ずっと) 降られています。

6.3 完了類

表7：完了類を表す接辞の基本形態

	平叙		疑問	
	肯定	否定	肯定	否定
アオリスト	V-zə	ʼma-V-zə	ʔə-V-zə	
アオリスト/向自己	V-zə ji:	V-zə ʼma-ji: ʼma-V-zə-ji:	V-zə ʔə-ji: ʼma-V-zə ʔə-reʔ	
アオリスト/判断	V-zə reʔ	V-zə ʼma-reʔ	V-zə ʔə-reʔ	ʼma-V-zə ʔə-reʔ
アオリスト/推量	V-zə ʔji:-s ^h a reʔ	V-zə ʔji:-s ^h a ʼma-reʔ		
完了/感知	V-t ^h e:	ʼma-V-t ^h e: ʼma-V-t ^h e:-ji:	ʔə-V-t ^h e:	
完了/判断	V-k ^h e:	ʼma-V-k ^h e: ʼma-V-k ^h e:-la	ʔə-V-k ^h e:	

アオリストには、動詞接辞の体系の中で、例外的に証拠性を明示しない形態 /-zə/ が認められる。本稿においては、この形態を表7に含めず、存在することを報告するにとどめる⁴³。

⁴² 語釈は暫定的に cislocative (向発話者) を与えているが、詳細な検討が必要である。(43) の事例では、単に動作が発話者に向かってくるという意味ではない、ということに注意が必要である。

⁴³ 具体例については、7.3 の例文 (73) を参照。

アオリストと完了の間に認められる意味的な異なりは、たとえば (44) のように区別される。

(44) a ʔ^ho-φ ʔ^hziʔ ʔ^hdaʔ ʔ^hdzaʔ-zə reʔ

3-ABS 滑って転ぶ-AOR

彼は滑って転びました。

b ʔ^ho-φ ʔ^hziʔ ʔ^hdaʔ ʔ^hdzaʔ-t^he:

3-ABS 滑って転ぶ-PFT.SEN

彼は滑って転びました。(それを私は目撃しました)

c ʔ^ho-φ ʔ^hziʔ ʔ^hdaʔ ʔ^hdzaʔ-k^he:

3-ABS 転ぶ-PFT.NSEN

彼は滑って転びました。(それを私は目撃していませんが、知っています)

アオリストは、発話の焦点が動作そのものに向いている (44a)。また、向自己か判断かを選択できる。

完了は感知 (44b) か非感知 (44c) かで区別される。しかしながら、接辞の証拠性の分類においては、非感知を判断のカテゴリーと考えた。これは存在動詞 (3節) における「定着知、旧情報」に関連するところがあると考えられ、かつ存在動詞についてはこのカテゴリーの証拠性を判断としたためである⁴⁴。発話者自身に関する動作の描写には、特定の状況でのみ用いられる。たとえば、(45) では発話者自身がテレビに映っていた自身について述べている。

(45) a ʔⁿdo: s^hɔ ʔ^hgō mo ʔ^hja-φ ʔ^htjē sə-nə ʔ^hpi: -t^he:

昨日の夜 1-ABS テレビ-INE 現れる-PFT.SEN

昨日の夜私はテレビに出ていました。(私は目撃しました)

b ʔⁿdo: s^hɔ ʔ^hgō mo ʔ^hja-φ ʔ^htjē sə-nə ʔ^hpi: -k^he:

昨日の夜 1-ABS テレビ-INE 現れる-PFT.NSEN

昨日の夜私はテレビに出ていました。(私は見ていませんが、知っています)

疑問文のときには、それぞれ異なるニュアンスをもつ。たとえば、(46a) の完了/感知の形態は、発話者と聞き手が同一の空間にいない場合 (たとえば電話) に用いられ、(46b) の完了/判断の形態は、発話者と聞き手が同一の空間にいる場合に用いられる。一方で (46c) のアオリストの場合には、動作が現在とは切り離されて理解される。これは疑問文の「予測規則」の観点から説明できる。発話者と聞き手が同一の空間にいない場合、発話者は聞き手に自身が感知して得た情報に基づいた返答を期待し、一方発話者と聞き手が同一の空間にいる場合は、知覚の条件が両者で同じであることから、非感知による情報に基づく返答を求めているものといえる。

⁴⁴ 一方で、完了/非感知は推量による発話にも現れる場合がある。この点で、完了の接辞の分類は、他の TA に関する証拠性と異なる分類が必要になる可能性がある。語釈では、Suzuki & Sonam Wangmo (2017bc) で用いている「非感知」を引き続き用いた。

(46) a ʰndɔ: sʰɔ ʔkʰa:-φ ʔə-ᵐbaʔ-tʰe:
 昨日 雪-ABS Q-降る-PFT.SEN

昨日雪が降りましたか？

b ʰndɔ: sʰɔ ʔkʰa:-φ ʔə-ᵐbaʔ-kʰe:
 昨日 雪-ABS Q-降る-PFT.NSEN

昨日雪が降りましたか？

c ʰndɔ: sʰɔ ʔkʰa:-φ ʰᵐbaʔ-zə ʔə-reʔ
 昨日 雪-ABS 降る-AOR.Q

昨日雪が降りましたか？（今は降っていないし降った痕跡もないけれども）

制御不可能動詞の中で、アオリストの接辞を用いると「わざとする」の意味が現れるものがある (47)。

(47) a ʔŋa-φ ʔze:-no:-kʰe:
 1-ABS 言う-間違う-PFT.NSEN

私は（たまたま）言い間違えてしまいました。

b ʔŋa-φ ʔze:-no:-zə
 1-ABS 言う-間違う-AOR

私は（意図して）言い間違えました。

疑問文の場合、アオリストと完了の違いは、今分かったか前から分かっていたのかという点に現れ、次のように異なるニュアンスをもつ (48)。

(48) a ʔtʰoʔ-φ ʔə-ko-tʰe:
 2-ABS Q-理解する-PFT

分かりましたか？（すでに分かっているのかどうか知りたいのです）

b ʔtʰoʔ-φ ʔə-ko-zə
 2-ABS Q-理解する-AOR

分かりましたか？（今言ったことを理解したかどうかを確認したいのです）

不確かさは、継続類と同じく /V-joʔ-sʰa reʔ/ で表す。例は省略する。

7 制御可能動詞

制御可能動詞とは次のような語をさす。/ʰŋo/「行く」、/le:/「作る」、/za/「食べる」など。制御可能動詞にも制御不可能動詞と同様の TA の体系が適用され、先の表 5、6、7 にある接辞が付加される。以下の記述は 6 節と同様に、非完了類、継続類、完了類に分けて行う。

7.1 非完了類

話者自身の動作についての発話では、3つの接辞が選択可能である。このうち、「未来」の形式は一般動詞/ʰgo/「必要である」と共通し、動詞連続の第2要素として機能していると分析で

きる可能性もある⁴⁵。(49)は非完了/向自己、非完了/意思、未来/向自己の形式の対照である。

- (49) a 'ŋa-φ 'nɔ-lə ji:
1-ABS 行く-NPFT.E
私は(これから)行きます。
- b 'ŋa-φ 'nɔ-li:
1-ABS 行く-NPFT.E
私は(これから)行こうとしています。
- c 'ŋa-φ 'nɔ-^{fi}go
1-ABS 行く-FUT.E
私は(もう)行きます(よ)/行かないといけません。

未来/判断の形式は、発話の状況によって「義務」の含意がある(50)。

- (50) ʔshɔ: nĩ 'ŋa-φ 'le^hka-nɔdə 'le:-^{fi}go re?
明日 1-ABS 仕事-これ する-FUT
明日私はこの仕事をしないとイケないのです。

否定文と疑問文(「予測規則」)については、2つの接辞が選択可能である(51)。

- (51) a ʔe^hoʔ-φ ʔza ma-φ 'le:-lə ʔə-ji:
1-ABS ごはん-ABS 作る-NPFT.E.Q
あなたはごはんを作りますか?
- b ʔe^hoʔ-φ ʔza ma-φ 'za-lə ʔə-^{fi}go
1-ABS ごはん-ABS 食べる-FUT.E.Q
あなたはごはんを食べたいですか?

話者以外の動作についての発話では、習慣/判断か非完了/判断の2つの接辞が選択可能である。(52a)は動作の実現が決定的であるが未だ開始されていないことを意味し、(52b)は話者による推測⁴⁶を含意する。

- (52) a ʔk^ho-φ ʔte me tciʔ^{fi}goʔ nə ʔza ma-φ 'le:-re?
3-ABS 少ししてから ごはん-ABS 作る-STA
彼は少ししてからごはんを作ります。
- b ʔk^ho-φ ʔza ma-φ 'le:-lə re?
3-ABS ごはん-ABS 作る-NPFT
彼はごはんを作るでしょう。

否定文および疑問文では非完了/判断の接辞のみが用いられる(53)。

⁴⁵ 6.1 参照。

⁴⁶ 非完了/判断はこれから起こることについての言明が含まれ、それはある程度の推量や推定が含まれる。表5で示したように、不確実性の表現には非完了/推量のカテゴリーに属する形式があり、非完了/判断の表す推測とは異なる。

- (53) a ʔ^ho-φ ʔza ma-φ ʔza-lə^hma-reʔ
 3-ABS ごはん-ABS 食べる-NPFT.NEG
 彼はごはんを食べません。
- b ʔ^ho-φ ʔza ma-φ ʔza-lə^hʔə-reʔ
 3-ABS ごはん-ABS 食べる-NPFT.Q
 彼はごはんを食べますか？

不確かさを表すには/V-s^ha reʔ/となる。/V-^hdzɯ reʔ/も認められる (54)⁴⁷。推量と推定に明確な差異は現れない。

- (54) a ʔ^ho-gə ʔkō^hdzɯ-φ ʔtɕa-s^ha reʔ
 3-ERG モモ-ABS 作る-EPI
 彼は(たぶん)モモ(肉まん)を作るでしょう。
- b ʔ^ho-φ ʔ^hdzɯ reʔ
 3-ABS 行く-EPI
 彼は(たぶん)行くでしょう。

不確かさは以上に示した以外にも、副詞(句)や動詞連続を用いて表すことができるが、ここでは省略する。

7.2 継続類

一般的動作や習慣的動作の表現には、判断の接辞が用いられる (55)。

- (55) ʔ^ho ts^ho-φ ʔ^hũ^htɕeʔ ʔ^hdzɯ mo-φ ʔ^hso-reʔ
 3.PL-ABS ほぼ ゾモ-ABS 飼う-STA
- a 彼らはみなゾモ(ヤクとめす牛の雑種)を飼っています。
- b 彼らはみなゾモを飼っていたものです。
- c 彼らはみなゾモを飼おうとしています。

発話者自身に関することであっても、習慣や確定的・確信的な動作・行為を表す場合、向自己の形態は認められない (56, 57)。

- (56) ʔɲa-φ ʔtɕ^hɔ-φ ʔ^hthō-reʔ
 1-ABS 酒-ABS 飲む-STA
 私はお酒を飲みます。
- (57) ʔɲa-φ ʔ^hge^hge-φ ʔreʔ-reʔ
 1-ABS 先生-ABS なる-STA
 私は絶対に先生になります。

習慣や状態を描写するときに、証拠性の接辞を用いず、文末小辞を用いる例があるが、慣用

⁴⁷ Lhagang 方言において/ʔɲa ʔ^hdzɯ-^hji/「私は行くつもりです」という発話も見受けられる。しかしながら、これはアムドチベット語の影響を受けた表現であると考えられ、Suzuki & Sonam Wangmo (2015, 2017a) のいう Lhagang-A (アムドチベット語を取り込んだ社会言語学的変種) の形態である。通常は/V-s^ha reʔ/を用いる。

表現として理解するほうがよい可能性がある (58⁴⁸)。

- (58) ʔtʰoʔ-φ ʔpʰaʔ^{fi}gε ʔ^uda-^htʰeiʔ-φ ʔ^{fi}zu-ne
 2-ABS ぶた 似た-NDEF-ABS する-PART
 あなたはぶたみたいな (ことをする) 人ですね。

習慣の否定文や習慣を尋ねる疑問文では、接辞は判断ではなく非完了のものを用いる (59)。

- (59) a ʔkʰo-φ ʔza ma-φ ʔlɛ:lə[^]ma-reʔ
 3-ABS ごはん-ABS 作る-NPFT.NEG
 彼はごはんを作しません。
- b ʔkʰo-φ ʔza ma-φ ʔlɛ:lə[^]ʔə-reʔ
 3-ABS ごはん-ABS 作る-NPFT.Q
 彼はごはんを作りますか？

習慣についての不確かさを表すには、非完了/推量の接辞が用いられる。例については省略する。

継続の接辞は状態の継続を表す (60)。

- (60) ʔŋa ʔ^{fi}ŋi:-φ ʔta rɔ ʔ^htō mo ʔ^{fi}zo-joʔ[^]ma-reʔ
 1 二-ABS まだ 結婚する-CONT.NEG
 私たち 2 人はまだ結婚していないままです。

動作の進行中を表すには、進行の接辞を用いる (61, 62, 63)。

- (61) a ʔkʰo-φ ʔza ma-φ ʔlɛ:lə^{εə}ji:-tu
 3-ABS ごはん-ABS 作る-PROG.SEN
 彼は (今) ごはんを作っています。
- b ʔkʰo-φ ʔza ma-φ ʔlɛ:lə^{εə}mei:-tu
 3-ABS ごはん-ABS 作る-PROG.SEN
 彼は (今) ごはんを作っていません。
- (62) a ʔŋa-φ ʔza ma-φ ʔza-εə joʔ
 1-ABS ごはん-ABS 食べる-PROG.E
 私は (今) ごはんを食べています。
- b ʔŋa-φ ʔza ma-φ ʔza-εə meʔ
 1-ABS ごはん-ABS 食べる-PROG.E.NEG
 私は (今) ごはんを食べていません。
- (63) ʔkʰo-gə ʔta^hta ʔza ma-φ ʔza-εə joʔ-lə[^]ʔə-reʔ
 3-ERG 今 ごはん-ABS 作る-PROG.Q
 彼は今ごはんを作っているのですか？

発話者自身の動作・行為についても、たとえば夢で見た自身の描写については、進行/感知の

⁴⁸ 「ぶたみたいな人」とは、食べては寝る生活スタイルの怠け者をさす。

接辞が用いられる (64)⁴⁹。

- (64) ^{hi}mə lū 'nō tɕ^hə-la 'ŋa-φ k^ha^{hi}da 'mā mbo-φ ^hɕɕʔ-ɕə ji:-tu
 夢 中-LOC 1-ABS 話 多くの-ABS 話す-PROG.SEN
 夢の中で、私はたくさんしゃべっていました。

疑問文には予測規則が適用される (65a)。 (65b) については、「彼ら」が今何かをしているところを見ながら尋ねる疑問文である。

- (65) a tɕ^hoʔ-φ tɕə-φ ^{hi}zo-ɕə joʔ
 2-ABS 何-ABS する-PROG
 あなたは (今) 何をしているのですか?
 b 'tə ts^ho-gə 'tɕə tə-φ ^{hi}zo-ɕə ji:-tu
 3.PL-ERG 何-ABS する-PROG.SEN
 彼らは (今) 何をしているのですか?

進行についての不確実さを表すには、/V-ɕə 'joʔ-s^ha reʔ/が用いられる (66)。感知の証拠性と不確実さを同時に示したい場合、/-pa/を用いる (67)。

- (66) 'k^ho-gə 'tjē sə-φ ^hta-ɕə 'joʔ-s^ha reʔ
 3-ERG テレビ-ABS 見る-PROG.EPI
 彼はおそらくテレビを見ているはずです。
 (67) 'k^ho-gə 'za ma-φ 'le:-ɕə ji:-tu-pa
 3-ERG ごはん-ABS 作る-PROG.SEN-INFR
 彼はたぶんごはんを作っているのでしょうか。(キッチンからいいにおいがします)
 疑念の強いことを表す場合、継続の形態を疑問形で表現する (48)⁵⁰。

- (68) 'k^ho-φ p^ha: hɕɕʔ ^htseʔ 'ʔə-joʔ-na
 3-ABS たぶん 着く-PROG.Q-PART
 彼はたぶん着いていないでしょう。

7.3 完了類

完了については、発話内容の動作を感知したか否かで接辞が選択される (69, 70)。

- (69) a k^ho-φ 'za ma-φ 'le:-t^he:
 3-ABS ごはん-ABS 作る-PFT.SEN
 彼はごはんを作りました。(作った現場を目撃して)
 b k^ho-φ 'za ma-φ 'le:-k^he:
 3-ABS ごはん-ABS 作る-PFT.NSEN
 彼はごはんを作りました。(作った現場は目撃していない)

⁴⁹ この発話の時点では夢から覚めているため、発話の内容は動作の過去の進行の描写となる。

⁵⁰ ただし、継続の疑問形とは形式が異なる。

- (70) ʔ^ho-φ ʰsā^hlo ʼma-^htō-k^he:
 3-ABS 考える NEG-STEM-PFT.NSEN
 彼は考えませんでした。

発話者自身の行為について、意図的でない行為を述べる場合、完了の接辞が用いられる (71, 72)。

- (71) ʔa ma: ʰŋa-gə ʔē^h ljo-φ ʰtū^h tce? ʰluʔ-t^he:
 INTJ 1-ERG 調味料-ABS すべて 入れる-PFT.SEN
 あっ、私は調味料を（間違っ）すべて入れてしまいました。

- (72) ʰŋa ts^ho-φ ʰi-go-φ ʼma-^hdʒeʔ-k^he:
 1.PL-ABS 門-ABS NEG-閉める-PFT.NSEN
 私たちは門を（閉めるべきだったのに）閉めていませんでした。

発話者自身の行為について、意図的な行為を述べる場合、アオリストの接辞が選択される。向自己についての標示があるのが通例であるが、それを省略した形式もまた存在する (73)。

- (73) a ʰŋa-φ ʔa ma-φ ʔa-zə
 3-ABS ごはん-ABS 食べる-AOR
 私はごはんを食べました。
- b ʰŋa-φ ʔa ma-φ ʔa-zə ji:
 3-ABS ごはん-ABS 食べる-AOR.E
 私はごはんを食べたのです。

発話者自身の行為に関することアオリスト/判断の接辞が選択されるのは、たとえば、仮定や条件を述べるときがある (74)。

- (74) ʰpe-φ ʰi-zəʔ-na ʰŋa-gə ʔa ma-φ ʰle:zə re?
 例-φ 置く-CONJ 1-ERG ごはん-ABS 作る-AOR
 たとえば、私がごはんを作ったとしましょう。

疑問形を用いて平叙文の意味を表す事例がある (75)⁵¹。

- (75) ʔo: ʰno: s^ho-gə ʔa ma-tə-φ ʰtə^hoʔ-gə ʰle:zə ʔə-ji:
 INTJ 昨晚-GEN ごはん-DEF-ABS 2-ERG 作る-AOR.E.Q
 ああ、昨晚のごはんを作ったのはあなただったのですか。

不確実性の表現は、推量については/V-zə ʰji:s^ha reʔ/が、推定については継続/推定の接辞/V-joʔ-s^ha reʔ/と同形となる (76)。

⁵¹ これは Oisel (2017:98-99) にある ‘self-corrective’ という証拠性の形態に相当する。この用語は Tournadre & Sangda Dorje (1998) から用いられている。Lhagang 方言では、記憶違いの修正を疑問形で表す。

(76) a ʼkʰo-gə ʼza ma-φ ʼlɛ:zə ʼji:sʰa re?
3-ERG ごはん-ABS 作る-AOR-EPI

彼は(きっと)ごはんを作ったでしょう。

b ʼkʰo-φ ʼza ma-φ ʼza-joʔ-sʰa re?
3-ERG ごはん-ABS 作る-CONT-EPI

彼は(きっと)ごはんを食べたでしょう。

確信度の高い推定については、継続/判断の接辞が使われることもある(77)。

(77) a ʼkʰo-gə ʼza ma-φ ʼlɛ:joʔ re?
3-ERG ごはん-ABS 作る-CONT

彼は(絶対に)ごはんを作ったでしょう。

b ʼkʰo-gə ʼza ma-φ ʼlɛ:joʔ ʼma-re?
3-ERG ごはん-ABS 作る-CONT.NEG

彼は(絶対に)ごはんを作らなかったでしょう。

あいまいな記憶に基づく発話については、小辞/-pa/が現れる(78)。

(78) ʼndɔ: sʰɔ ʼh̥gõ mo-tə ʼŋa-φ ʼtjẽ sə-φ ʼma-ʰta-zə-pa
昨日の夜-TOP 1-ABS テレビ-ABS NEG-見る-AOR-INFR

昨日の夜といえば、私はテレビを見なかったと思います。

8 まとめ

本稿は Lhagang 方言の動詞接辞が表す証拠性の体系について、述部を判断動詞、存在動詞、形容詞述語、内的感覚動詞、制御不可能動詞、制御可能動詞という6つのカテゴリーに分類して記述した。区別される証拠性の性質には、向自己、判断、感知、推量、推定などがあり、それぞれ個別の形態をもっている。制御不可能動詞と制御可能動詞については TA と証拠性が組み合わせられて述部を形成する。これらに加え、感知による推量と知識による推定に個別の形式が認められる。

本稿で議論した体系を見渡せるように、以下表8および表9に、判断動詞・存在動詞と語彙的動詞に分けて、それぞれの平叙文肯定形の証拠性に関する形式ならびに接辞を表形式にまとめる。形容詞述語および内的感覚動詞については、ここでは提示しない。形容詞述語のうち、名詞的形容詞述語の各種証拠性の形態は判断動詞と酷似し、状態動詞的形容詞述語と内的感覚動詞は、TA と証拠性の兼ね合いおよび用いられる形式の点で大幅な制限があるものの、語彙的動詞と似た体系を見せる(表3、表4参照)。

表 8：判断動詞と存在動詞における証拠性の形態のまとめ（平叙文肯定形）

動詞の種類	向自己	判断	感知	推量	推定
判断動詞	ʼji:	ʼre?		ʼji:-s ^h a re? ʼji:- ^h dzui re?	ʼji:-lə re?
存在動詞	ʼjo?	ʼjo?-re?	ʼji:-tu	ʼjo?-s ^h a re? ʼjo?- ^h dzui re?	ʼjo?-lə re?

表 8 を見ると、判断動詞に感知を表す形態が認められないということが分かる。ただし、3 節で述べたように、存在動詞の感知を表す形態における動詞語幹の部分は判断動詞の向自己を表す形態と共通する点に注目できる。

表 9：動詞接辞における証拠性の形態のまとめ（平叙文肯定形）

TA	向自己	判断	感知	推量	推定
非完了	V-lə ji: V-li:	V-lə re?		V-s ^h a re?	
未来	V- ^h go	V- ^h go re?	V- ^h go ^h sā-ɕə	ʼji:-tu	V- ^h go-s ^h a re?
継続	V-jo?	V-jo? re?	V-ji:-tu	V-jo?-s ^h a re?	
進行	V-ɕə jo?	V-ɕə jo? re?	V-ɕə ji:-tu	V-ɕə jo?-s ^h a re?	
習慣		V-re?			
アオリスト	V-zə ji:	V-zə re?		V-zə ʼji:-s ^h a re?	V-jo?-s ^h a re?
完了		V-k ^h e:	V-t ^h e:		

表 9 を見ると、動詞接辞については、推量と推定の形態がアオリストを除き区別されない⁵²。また、習慣には判断の形態のみがあり、完了は向自己と推量・推定の形態が認められず、一方非完了とアオリストには感知を表す形態が認められないことが分かる。習慣の体系について注意すべきは、内的感覚動詞につく感知の形態で、これが表 9 には現れていない。可能性として、習慣/感知の枠を占める可能性もある。また、完了/判断の形式は「判断」であるというよりはむしろ「非感知」であり、表 9 のようにまとめるのが言語事実在即しているかどうかは、詳細な検討を要する。

T 調査票も Oisel (2017) も、推量・推定を証拠性の枠組みに組み込んでいる。Lhagang 方言では、判断動詞と存在動詞の推定の形式（表 8 参照）が動詞接辞の非完了/判断の形式（表 9 参照）と近い部分がある。Lhagang 方言では、この 1 点のみに共通性を認めることができたが、この記述の枠組みに基づくことで証拠性と認識の範疇の相互関係を明らかにできるといえる。

本稿ではすべての組み合わせについて例をあげることができなかったが、証拠性の枠組みをつかむことができるような資料を提供することを目的とした。今後は、否定形、疑問形も含め、助動詞、動詞連続の事例についてもより詳細な記述を目指したい。

⁵² 未来/推定の枠に配置した形式は、未来/推量も兼ねる。未来/感知の形式が長いことに起因する便宜的措置である。

付録 1 : Lhagang 方言の音体系概要

声調

Lhagang 方言の超分節音素はピッチの高低による声調として実現される。声調パターンとして、以下の4種が認められる。

ˉ : 高平 ˊ : 上昇 ˋ : 下降 ˆ : 上昇下降

母音

舌位置による一覧は次のようになる。

i	ɯ	ɯ	u
e	ə	o	
ɛ		ɔ	
a		ɑ	

母音には長短および鼻母音/非鼻母音が弁別的である。母音の長短と鼻母音/非鼻母音は互いに独立している。

子音

初頭子音の主たる子音として現れる要素の一覧は以下のようなものである。

		両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	声門
				前 後			
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	t ^h		k ^h	
	無声無気	p	t	t̚		k	ʔ
	有声	b	d	d̚		g	
破擦音	無声有気		ts ^h		tɕ ^h		
	無声無気		ts		tɕ		
	有声		dz		dʒ		
摩擦音	無声有気		s ^h		ɕ ^h		
	無声無気	ɸ	s	ʃ	ç	x	h
	有声		z		ʒ	ɣ	ɦ
鼻音	有声	m	n		ɳ	ŋ	
	無声	m̥	n̥		ɳ̥	ŋ̥	
流音	有声		l	r			
	無声		l̥				
半母音	有声	w				j	

付録 2 : 語釈における 2 通りの方式

記述形式	統合的語釈	分析的語釈
´meʔ	EXV.NEG.E	EXV.NEG.E
´ma-ji:-la	CPV.Q.NEG.E	NEG-CPV.E-Q
´meʔ-lə-`ʔə-ji:	EXV.NEG.Q.E	EXV.NEG-NPFT-Q-CPV.E
-çə-ji:-tu	-PROG.SEN	-PROG-EXV.SEN
-lə-´ma-ji:	-NPFT.NEG.E	-NPFT-NEG-CPV.E
´ma-V-zə-`ʔə-reʔ	NEG-V-AOR.Q	NEG-V-AOR-Q-CPV

語釈における略号

語釈において、1つの形態素に複数の語釈が必要な場合、それぞれの語釈をピリオド(.)で区切って表す。接辞の一部には、形態論的には分析可能であるが複数の形態素をまとめて1つの語釈で表す場合もある点に注意されたい⁵³。

1	1 人称	ERG	能格	NSEN	非感知
2	2 人称	EXV	存在動詞	PART	小辞
3	3 人称	FUT	意思未来	PFT	完了
ABS	絶対格	GEN	属格	PL	複数
AOR	アオリスト	HS	伝聞	PLN	地名
CIS	向発話者	INE	内格	PROG	進行
CONJ	接続詞	INFR	推量	PSN	人名
CONT	継続	INTJ	間投詞	Q	疑問
CPV	判断動詞	LOC	位格	SEN	感知
DAT	与格	NDEF	不定標識	STA	判断
DEF	定標識	NEG	否定	STEM	動詞語幹
E	向自己	NML	名詞化	TOP	主題
EPI	認識	NPFT	非完了		

参考文献⁵⁴

鈴木博之 (2016) <試論東方藏區藏語土話的語法地圖：以判断動詞與存在動詞為例> 甘于恩主編
《從北方到南方：第三屆中國地理語言學國際學術研討會論文集》 111-122 科學出版社

⁵³ この表し方は、鈴木ほか (2015) などで行っている方法とは異なる。

⁵⁴ 電子版が公開されているものについては、印刷物の有無にかかわらず URL を掲げる。いずれも最終閲覧日は 2018 年 3 月 14 日である。

- 鈴木博之、四郎翁姆 (2016) 「カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言の文法スケッチ」『言語記述論集』 8, 21-90, 電子版：<http://id.nii.ac.jp/1422/00000897/>
- (2017) 「カムチベット語塔公 [Lhagang] 方言による翻案物語『裸麦の種子の由来』—— 訳注と語りの特徴——」『言語記述論集』 9, 23-42, 電子版：<http://id.nii.ac.jp/1422/00000909/>
- 鈴木博之、四郎翁姆、拉姆吉 (2015) 「チベット語塔公 [Lhagang] 方言の物語『菩薩の愛する地・塔公』 訳注——塔公方言の多層構造と物語の異同に関する考察を添えて——」大西正幸・千田俊太郎・伊藤雄馬編『地球研言語記述論集』 7, 111-140, 電子版：<http://id.nii.ac.jp/1422/00000874/>
- 星泉 (2003) 『現代チベット語動詞辞典 (ラサ方言)』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- (2016) 『古典チベット語文法：「王統明鏡史」(14世紀)に基づいて』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 星泉、ケルサン・タウワ (2017) 『ニューエクスプレス チベット語』白水社
- Aikhenvald, Alexandra Y. (2015) *The Art of Grammar: A Practical Guide*. Oxford: Oxford University Press.
- Gawne, Lauren & Nathan W. Hill (eds.) (2017) *Evidential Systems in Tibetan Languages*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Kalsang, Jay Garfield, Margaret Speas & Jill de Villiers (2013) Direct evidentials, case, tense and aspect in Tibetan: evidence for a general theory of the semantics of evidential. *Natural Language & Linguistic Theory* 31.2: 517-561. [doi: 10.1007/s11049-013-9193-9]
- Oisel, Guillaume (2017) Re-evaluation of the evidential system of Lhasa Tibetan and its atypical functions. *Himalayan Linguistics* 16.2, 90-128. Online: <https://escholarship.org/uc/item/9v08z3b4>
- Suzuki, Hiroyuki (2009) Introduction to the method of the Tibetan linguistic geography — a case study in the Ethnic Corridor of West Sichuan—. In Yasuhiko Nagano (ed.) *Linguistic Substratum in Tibet—New Perspective towards Historical Methodology (No. 16102001) Report Vol.3*, 15-34. Suita: National Museum of Ethnology. Online: <http://hdl.handle.net/10502/4341>
- (2014) Brief introduction to the endangerment of Tibetic languages: special reference to the language situation in Eastern Tibetan cultural area. *The Journal of Linguistic Studies* Vol.19 No.3, 281-301.
- (2016) *Typological description of existential verbs and expressions in the Tibetic languages spoken in the eastern Tibetosphere*. Paper presented at 4th Workshop on Sino-Tibetan Languages of Southwest China (Seattle)
- Suzuki, Hiroyuki & Sonam Wangmo (2015) Quelques remarques linguistiques sur le tibétain de Lhagang, «l'endroit préféré par le Bodhisattva». *Revue d'études tibétaines* Vol. 32, 153-175. Online: http://himalaya.socanth.cam.ac.uk/collections/journals/ret/pdf/ret_32_05.pdf

- (2017a) Language evolution and vitality of Lhagang Tibetan: a Tibetic language as a minority in Minyang Rabgang. *International Journal of the Sociology of Language* 245, 63-90 [doi: 10.1515/ijsl-2017-0003]
- (2017b) *King's pig*: A story in Lhagang Tibetan with a grammatical analysis in a narrative mode. *Himalayan Linguistics* 16.2, 129-163. Online: <https://escholarship.org/uc/item/07b6q1vz>
- (2017c) *Prince's wife become a lark* in Lhagang Tibetan of Khams. *Kyoto University Linguistic Research* 36, 71-91.
- Tournadre, Nicolas (2014) The Tibetic languages and their classification. In Thomas Owen-Smith & Nathan W. Hill (eds.) *Trans-Himalayan Linguistics: Historical and Descriptive Linguistics of the Himalayan Area*, 105-129. Berlin: Walter de Gruyter.
- Tournadre, Nicolas & Randy J. LaPolla (2014) Towards a new approach to evidentiality: Issues and directions for research. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 37.2, 240-263 [doi: 10.1075/ltba.37.2.04tou]
- Tournadre, Nicolas & Sangda Dorje (1998) *Manuel de tibétain standard : langue et civilisation*. Paris: L'Asiathèque.
- Vokurková, Zuzana (2008) *Epistemic modalities in Spoken Standard Tibetan*. PhD dissertation, Univerzita Karlova and Université Paris 8. Online: <https://is.cuni.cz/webapps/zzp/download/140032967>
- Zeisler, Bettina (2004) *Relative Tense and Aspectual Values in Tibetan Languages: A Comparative Study*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- 黄成龍 (2013) 〈藏緬語存在類動詞的概念結構〉《民族語文》第2期 31-48.
- 張怡蓀主編 (1985) 《藏漢大辭典》民族出版社

[付記]

本研究に際しては、次の援助を受けている：日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (B) 「言語多様性の記述を通して見る中国雲南省チベット語の方言形成の研究」(研究代表者：鈴木博之、課題番号 25770167、平成 25-28 年度)、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (A) 「チベット・ビルマ語族の繋聯言語の記述とその古態析出に関する国際共同調査研究」(研究代表者：長野泰彦、課題番号 16H02722、平成 28-29 年度)、平成 29 年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究 (A) 「チベット文化圏東部の未記述言語の解明と地理言語学的研究」(研究代表者：鈴木博之、課題番号 17H04774)。

Evidential system of verb predicates in Lhagang Tibetan

Hiroyuki SUZUKI Sonam Wangmo

This article presents the evidential system marked in predicates in Lhagang Tibetan (Minyag Rabgang Khams; spoken in Lhagang Village, Dartsendo Municipality, Kandze Prefecture, Sichuan, China) principally following questionnaire elicitations. The description, based on the nature of predicates, consists of the following categories: copulative verbs, existential verbs, adjectival predicates, endopathic verbs, non-controllable verbs, and controllable verbs. Lhagang Tibetan has following principal evidential features: egophoric, statement, sensory, sensory inferential, and epistemic inferential.

The evidential system of Lhagang Tibetan is summarised as follows:

Copulative and existential verbs

verb type	egophoric	statement	sensory	sensory inferential	logical inferential
copulative	ʼji:	ʼre?		ʼji:-s ^h a re? ʼji:- ^{fi} dzuu re?	ʼji:-lə re?
existential	ʼjo?	ʼjo?-re?	ʼji:-tu	ʼjo?-s ^h a re? ʼjo?- ^{fi} dzuu re?	ʼjo?-lə re?

Suffixes for lexical verbs

TA	egophoric	statement	sensory	sensory inferential	logical inferential
nonperfect	V-lə ji: V-li:	V-lə re?		V-s ^h a re?	
future	V- ^{fi} go	V- ^{fi} go re?	V- ^{fi} go ^h sā-ṣə	ʼji:-tu	V- ^{fi} go-s ^h a re?
continuant	V-jo?	V-jo? re?	V-ji:-tu	V-jo?-s ^h a re?	
progressive	V-ṣə jo?	V-ṣə jo? re?	V-ṣə ji:-tu	V-ṣə jo?-s ^h a re?	
habitual		V-re?			
aorist	V-zə ji:	V-zə re?		V-zə ʼji:-s ^h a re?	V-jo?-s ^h a re?
perfect		V-k ^h e:	V-t ^h e:		

受理日 2018年4月2日

イロカノ語の時間表現の文法*

山本 恭裕

京都大学／日本学術振興会

キーワード：イロカノ語，時間意味論，時制，アスペクト，ムード

1. はじめに

本研究はイロカノ語を対象とし，この言語で時間的概念がどのように表現されるかを明らかにすることを目的とする．表現される時間的概念の種類に応じて，イロカノ語の言語資源は副詞的要素と動詞的範疇に分類できる．副詞的要素として機能しうるのは，従属接続詞，接語・不変化詞，副詞，前置詞，名詞，動詞という形式的クラスで，これらの要素は機能的には4つのクラスに分類される．また，イロカノ語では動詞的範疇によりアスペクトが表現されることを論じ，その上で文法範疇としての時制やムードを持たないことを議論する．

次のセクションでは，イロカノ語の文法を概観し，この言語の時間表現に関する先行研究の問題点を整理する．§3で本研究の分析が依拠する枠組みを導入し，研究方法についても述べる．§4で副詞的要素による時間表現を整理する．§5では，動詞的範疇による時間指示を記述・分析し，時制，アスペクト，ムードに関して，この言語の文法範疇としてどれを認定できるか議論する．§6で本研究を結論づける．

2. イロカノ語

2.1 文法概要

イロカノ語はオーストロネシア語族マラヨ・ポリネシア語派に属する言語である (Blust 2013)．コルディリエラ語群のメンバーと考えられており，グループ内において単独でブランチを形成する (Reid 1989)．話者数はおよそ 9 百万人おり (Rubino 2005)，主にフィリピン共和国のルソン島北西部で話されていることに加えて，ルソ

* 本研究は，日本学術振興会科学研究費補助金 #17J08516 代表: 山本恭裕)，#15H03206 (代表: 松本曜) からの助成を受けている．

ン島北部地域で共通語としても機能している。また主な移住先であるアメリカ合衆国のカリフォルニア州やハワイ州などにも話者が多く存在する。

イロカノ語には 2 つの変種が一般に認知されており、/e/ の実現などの点で違いがある。この音素は南部方言で [u] として実現する一方、北部方言では [e] で実現する。

イロカノ語の音素体系は類型論的に小さいサイズであり (cf. Maddieson 1984), 母音として /a, e, i, u/, 子音として /p, b, t, d, k, g, ʔ¹, s, m, n, ŋ, r, l, j, w/ を持つ²。母音 /u/ は最終音節では基本的に [o] で実現する。有声性で対立する /d/ は歯茎で調音される一方 /t/ は歯茎音でなく歯音で実現する。強勢は音節の重さに敏感であり、次末音節が長母音を含む場合その音節に強勢が落ちる。それ以外の場合最終音節に強勢が落ちる (Yamamoto 2017)。

形態論は分析的、膠着的であり従属部型表示である。人称代名詞には数 (number) が関わらず、minimal-augmented の体系を持つ (Thomas 1955)。基本語順は述語が先行する VS/VAP である。格配列は人称代名詞が能格-絶対格型であり、固有名詞及び普通名詞は中立型で標示される。

イロカノ語の動詞は動詞形成接辞により派生され、その接辞の種類によりまず活動動詞 (active verbs) と状態動詞 (state verbs) に分けられる。活動動詞を派生する接辞は同時にヴォイス範疇を示し、ヴォイスは形態統語的に行為者ヴォイス (actor voice: AV), 被行為者ヴォイス (patient voice: PV), 場所ヴォイス (locative voice: LV), 移動物ヴォイス (conveyance voice: CV) の 4 つに分類される。行為者ヴォイスを示す接辞として *-um-*, *ag-* などが存在する。また被行為者ヴォイスを示す接辞として *-en* が、場所ヴォイスを示す接辞として *-an* が、移動物ヴォイスを示す接辞として *i-* が存在する。語根によりどの接辞と結びつくかが語彙的に決まっており、ある語根が全てのヴォイス範疇を表現できるわけではない。ヴォイス範疇に応じてどの意味役割の名詞句が絶対格で標示されるかが決定する。行為者ヴォイスの動詞は統語的に自動詞で、行為者名詞句が唯一の項として表現される。他の 3 つは非行為者ヴォイスとしてまとめられ、非行為者ヴォイスの接辞は 2 つの項をとる他動詞を派生

¹ 声門閉鎖音が音素的かどうかは環境に依存する。語頭及び母音間に現れるものは挿入されたものであり、一方子音と母音の間に生起するものは音素として認められる (Yamamoto 2017)。

² 母音長は語彙的に指定されるが、分節音とは独立した層において表示されると想定する。したがって音素体系に母音の長短は含まれない。

する。なお、ヴォイスの間には派生・非派生の関係は想定されず、その意味で対称的ヴォイスと特徴付けられる (詳しくは Himmelmann 2005: 112-114; Haude and Zúñiga 2016: 453-458 などを参照)。また、動詞屈折により根源的様相や認識的様相も表現される³。

先行研究ではこれらに加えて、イロカノ語の動詞的カテゴリーには時制／アスペクトが含まれると記述されている (Rubino 1997; 2005)。2.2 では、これらの先行研究を概観し、問題点を整理する。

2.2 先行研究

Rubino は、イロカノ語において動詞の屈折により 5 つの時制／アスペクトが表現され、以下の表 1 のようなパラダイムをなすと記述している⁴ (1997: 276)。perfective は *n-/-imm-/-in-* などの接辞によって表現され、語幹のヴォイス接辞によってどの接辞が出現するかが決まる。imperfective は語根初頭の CVC の重複⁵により表されると記述されている。また、past imperfective は perfective 形の動詞の CVC 重複によって、future は接語の *=(n)to* で表現されるとしている。なお *=to* は母音の直後では *=nto* で現れる。

Rubino は infinitive, perfective, imperfective の 3 つのアスペクトに、それぞれ次のような意味的特徴を与えている (1997: 276): infinitive は “the action of the verb is not specified as to whether it has been initiated or completed” という状況を表現し、perfective は “the action of the verb has been initiated and completed” という状況を表現する。また imperfective が表現するのは “for non-punctual actions ... the action of the verb has been initiated, but is still in progress” という状況と記述している。また時制について、future が “the action of the verb has yet to be initiated” という状況を、past

³ 動詞的範疇により表現される根源的モダリティと認識的モダリティは、それぞれ能力と可能性と特徴付けられる。この形態的操作は生産性が高く、従って屈折的であるが、同時に終結性 (telicity) などの点で語彙的な意味変化を伴うため、その点で派生的な性質も持つ (cf. Luraghi 2014)。

⁴ Rubino (2005) の記述は Rubino (1997) と異なり、past imperfective という範疇を含んでいない。また、使用されている用語が異なり、imperfective は progressive, perfective は perfective/complete となっている。しかしながら、これらの意味的な特徴については触れられていないため、Rubino (1997) と記述内容がどこまで異なるのかは明らかでない。

⁵ 語幹が基底において頭子音を持たない場合、重複のターゲットは VC となる。従って本稿では (C)VC と記述する。また母音の長さは重複のターゲットには含まれない。この事実は母音の長さを独立の層で表示することを支持する (注 2 を参照のこと)。

imperfective は “a continuous action is framed relative to a past time” という状況を表すとしている。

表 1 Rubino (1997: 276) のイロカノ語の時間表現に関わる動詞形態法

Infinitive (neutral)	Perfective	Imperfective (incomplete)	Past imperfective	future
ʔag-a:dal (AV-study)	n-ag-a:dal	ʔag-ad~ʔa:dal	n-ag-ad~ʔa:dal	ʔag-a:dal=to
t<um> araj (<AV>run)	t<imm>araj	t<um>ar~taraj	t<imm>ar~taraj	t<um>araj=to
ʔi-lu:to (CV-cook)	ʔ<in>lu:to	ʔi-lut~lu:to	ʔ<in>lut~lu:to	ʔi-lu:to=nto
gataŋ-en ⁶ (buy-PV)	g<in>ataŋ-ø	gat~gataŋ-en	g<in>at~gataŋ-ø	gataŋ-en=to
punas-an (wipe-LV)	p<in>unas-an	pun~punas-an	p<in>un~punas-an	punas-an=to

この記述に対して、複数の問題を指摘できる。1つ目は定義の厳密さの問題であり、行為 (action) を開始している／いない、完了している／いないという判断がどの時点を基準にして判断されるものなのかが明示されておらず、かつ5つの範疇が同一の時点を基準とするのか否かも不明である。2つ目は、意味論的議論の欠如である。時制やアスペクトの解釈を客観的に示すには、文脈を提示した上で議論することが有効であるが (Dahl 1985; Matthewson 2004; Cover and Tonhauser 2015), 文脈情報は一切示されておらず、仮定された意味的特徴を肯定するデータも否定するデータも提示されていない。3つ目の問題は、提案されている時制体系の非対称性である。Rubino の分析では、アスペクトは範列的である一方、以下の表2のように、時制のパラダイムに多くのギャップが生まれる。接語 =(n)to は infinitive aspect と共起し未来時制を表現すると記述されるが⁷, このアスペクト形式において過去や現在では範列的に表現されないという記述になっている。さらに, imperfective においては

⁶ perfective 形および past imperfective 形の被行為者ヴォイスはゼロにより示される。

⁷ 後述するように、この前接語が共起するのは infinitive aspect に限定されない。また Rubino はこの接語を動詞の形態論に含めているが、これは次の2点で問題がある。第一に、強勢の分布から、接語はイロカノ語において (音韻的) 語と認定できるため、他の語の形態論には含まれない。第二に、接語を接辞から区別するための定義上、接語は特定の統語的範疇のみ先行・後続する訳ではない。これらの根拠から、本稿では =(n)to を動詞の形態論には含めない。

過去時制が表現されるが、現在および未来時制は形式的に区別されないという記述になっている。加えて perfective では、時制に関わる屈折は含まれない。本研究では複数の形式が1つの概念ドメイン内でパラダイムを形成するか否かを、その概念が文法範疇として認定されるかどうかの基準とする。従って、イロカノ語が時制を文法範疇として持つというためには、これらを含め何らかの形式のセットが時制というドメインにおいて範列的關係になければならない。§4 ではこの点も議論する。

表2 Rubino (1997) の分析における時制のギャップ

Tense	Past	Present	Future
Aspect			
Infinitive	NA	NA	✓
Perfective	NA	NA	NA
Imperfective	✓	NA	NA

まとめると、先行研究は定義、データの提示方法、記述の不自然さという3つの点において問題を持つ。次のセクションでは、本研究で用いる時間意味論のモデルおよびデータの収集方法を導入する。

3. 枠組み

3.1 時間の意味論

本研究が基づく時間意味論のモデルでは、次の3つの変数を同定することにより、言語表現による時間指示の解釈が行われると想定する (Klein 1994; Bohnemeyer 2014):

- situation time $\tau(e)$: 発話により描写される出来事 (eventuality)⁸ の時間
- utterance time t_{uc} : 発話が行われる時間あるいは発話が解釈される時間⁹

⁸ 本研究では出来事 (eventuality) という用語を、事象 (event) と状態 (state) の両方をカバーするものとして使用する。

⁹ この2つの時間概念は、書き言葉によるやりとりにおいてより明確な区別が必要になる。

- topic time t_{top} ¹⁰: 発話された命題が問題とする時間. この時間について命題の真偽が主張されたり(叙述 (assertion) の発話内行為), 問われたり(疑問 (question) の発話内行為) する.

伝統的に, 時制 (absolute tense) は $\tau(e)$ と t_{uc} の関係性から規定されてきたが (Comrie 1985), Klein (1994) では $\tau(e)$ と t_{top} の関係を限定する関数と定義される (詳しくは後述). 一方, 伝統的なアスペクト (view point aspect) の定義は時間的關係から規定されるのではなく, 出来事を1つのまとまりとして表現するか (perfective aspect), 出来事の内部の時間的構成について言及するか (imperfective aspect) という, 出来事に対する見方の違いと定義されてきた (Comrie 1976: 3). しかしこのような定義は直観的なものであり, 見方という比喩が用いられているため明示性にかけるという問題がある. また, そのほかのアスペクトの特徴づけとして, 出来事の始点と終点の境界を含むか (perfective aspect), そのどちらも含まないか (imperfective aspect) という区別が用いられることもある (Smith 1997). しかし, 事象の終点という概念が, ある語に本来的に備わる終結性 (telicity) と重なり, それらがどのように区別されるのかが不透明という問題点がある. また, この様な定義が当てはまらないロシア語のデータも提示されている (Klein 1995: 677). 本研究で採用する Klein (1994) では, アスペクトを, 時制と同様に時間的変数の関係性から捉え $\tau(e)$ と t_{top} の関係を限定する関数と定義する. これらの妥当性を理解するために, 次のような裁判官の質問 (1a) と証人の陳述 (1b-g) の例があげられる (Klein 1994: 39-40).

(1) [Context: investigator eliciting witness testimony]

- a. What did you notice when you entered the room?
- b. A man was lying on the floor.
- c. He was Chinese or Japanese.
- d. He did not move.

本稿では書き言葉を扱わないため, この可能性については考えず2つの時間は一致していると想定して議論を行う.

¹⁰ t_{top} は, 同様に3つの変数を用いる Reichenbach (1947) の参照時 (the point of reference) と類似する概念である. これら2つが一致する場合もあるが, 参照時は基本的に談話上のすでに言及された他の出来事の時間とされており (1974: 288), t_{top} とは異なる概念である. Bohnemeyer (2014) はこれらが異なる概念であるとした上で, 時間表現の記述には両方が必要と主張している.

- e. A woman was bending over him.
- f. She was taking a purse from his pocket.
- g. She turned to me.

1b-g の証人の陳述はそれぞれ異なる出来事を表現している。これらは全て 1a の裁判官の質問に答えるものであり、この質問によって導入される t_{top} (証人が部屋に入った時間) において証人が見た出来事であると言明されている。

1d, g では動詞が単純過去形であり、これらの節が表現する出来事の時間 $\tau(e)$ が t_{top} に含まれる perfective aspect の解釈が得られる。かつ、 t_{top} は t_{uc} に先行する過去時制と解釈される。1b, e, f では動詞が進行形をとり、それらが描写する出来事は証人が部屋に入ったときすでに開始されていて、その後も展開した (つまり $\tau(e)$ が t_{top} を含む) という imperfective aspect の解釈と t_{top} が t_{uc} に先行する過去時制の解釈がなされる。ここまでのことから、英語の単純形の動詞は $\tau(e)$ が t_{top} に含まれる ($\tau(e) \subseteq t_{top}$ ¹¹) ときに使用され、進行形は t_{top} が $\tau(e)$ に含まれる ($t_{top} \subset \tau(e)$) ときに使用される。また、過去形は t_{top} が t_{uc} に先行する ($t_{top} < t_{uc}$) ときに使用されると纏められる。

ここで、伝統的に時制を特徴づけると考えられてきた $\tau(e)$ と t_{uc} の関係を考える。1b-g の例は、それらが描写する出来事の $\tau(e)$ と t_{uc} の関係性について何も明示しておらず、裁判の最中においてこれらの出来事が成立するか、あるいはしないかは不明である。しかし例えば日常的な知識から、1b, d, e, f, g が表す出来事の $\tau(e)$ は t_{uc} に先行すると推論できることに基づき (裁判時にこれらの出来事は終わっているように思われる)、過去時制は $\tau(e) < t_{uc}$ を表す、と言えるかもしれない。しかしこのような推論に基づくのであれば、1c が表す出来事は裁判時においても真である (つまり $t_{uc} \subset \tau(e)$) と推論するのが自然と思われ、ここで過去時制が使用されている理由を説明できない。こうしたことから、時制に $\tau(e)$ と t_{uc} の関係は関わらない

¹¹ 真部分関係 (proper parthood) ‘ \subset ’及び部分関係 (parthood) ‘ \subseteq ’ など、部分構造 P に含まれる要素は次のように定義される (Krifka 1998; Varzi 2016 など参照のこと):

- a. U_P is a set of entities;
- b. \oplus_P , the sum operation, is a function from $U_P \times U_P$ to U_P that is idempotent, commutative, associative, that is: $\forall x, y, z \in U_P [x \oplus_P y = y \oplus_P x \wedge x \oplus_P (y \oplus_P z) = (x \oplus_P y) \oplus_P z]$;
- c. \subseteq_P : $\forall x, y \in U_P [x \subseteq_P y \leftrightarrow x \oplus_P y = y]$;
- d. \subset_P : $\forall x, y \in U_P [x \subset_P y \leftrightarrow x \subseteq_P y \wedge x \neq y]$

なお本文では、 \subseteq_P , \subset_P を省略して \subseteq , \subset と表記する。

とするのが妥当であると言える。

まとめると、文法範疇としての時制及びアスペクトは次のように定義される：時制は、文法的なパラダイムを形成する、 t_{uc} に対する t_{top} の位置を限定する表現である；アスペクトは、文法的パラダイムを形成する、 t_{top} と $\tau(e)$ の関係性を限定する表現である。

表 3 はこれらの枠組みにより英語の時制とアスペクトの体系がどう表現されるかを示している。表 1 から、時制とアスペクトは独立しているが、英語では両方が 1 つの形式に合成されて表現されることがあることがわかる。Klein (1994) の枠組みの強みは、少数かつ同一の意味的変数のセットにより時制とアスペクトの両方を記述できることである。

表 3 Klein (1994)による英語の時制とアスペクトの分析

Tense	Past	Present	Future
Aspect	$t_{top} < t_{uc}$	$t_{uc} \subset t_{top}$	$t_{uc} < t_{top}$
Perfective $\tau(e) \subseteq t_{top}$	Simple Past <i>I wrote</i>	Present <i>I write</i>	Simple Future <i>I will write</i>
Imperfective $t_{top} \subset \tau(e)$	Past Progressive <i>I was writing</i>	Present Progressive <i>I am writing</i>	Future Progressive <i>I will be writing</i>
Perfect $\tau(e) < t_{top}$	Pluperfect <i>I had written</i>	Present Perfect <i>I have written</i>	Future Perfect <i>I will have written</i>
Prospective $t_{top} < \tau(e)$	Past Prospective <i>I was going to write</i>	Present Prospective <i>I am going to write</i>	Future Prospective <i>I will be going to write</i>

3.2 データ

本研究で使用するデータは、2016 年から 2017 年の期間に、フィリピン共和国イロコス・ノルテ州ラワグ市において筆者が収集した一次データである。アスペクトと時制の意味を議論する場合、(a) t_{uc} や $\tau(e)$ に対する t_{top} の関係性を限定する副詞的要素 (§4) か (b) t_{uc} や $\tau(e)$ に対する t_{top} の関係性を限定するような文脈情報のどちらかを含むデータを使用する。時間表現に関わる動詞的範疇の意味は、a あるいは b が表す時間情報との整合性により特定される(例えばある形式が t_{top} が t_{uc} に後続する文脈で出現した場合非整合的であり、 t_{top} が t_{uc} に先行する時にのみ整合的であるならば、過去時制と同定される)。

聞き取り調査において用意した文脈情報には Dahl (1985) の質問票も利用した。

調査協力者はイロコス・ノルテ州で育ち、現在も住んでいる話者である。文法性・意味的整合性の判断は、少なくとも4名の話者（20歳から40歳；男性3名，女性1名）に仰いだ。

4 副詞的要素による時間表現

副詞的要素は話題の時間 t_{top} を特定するための参照時を導入したり、出来事の継続時間を表現したりするためなどに使用される。表4にリストしたのは時間を表現する代表的な副詞的要素であり、形態的・機能的にいくつかのクラスに分類している¹²。形態的には副詞，従属接続詞，接語・不変化詞，前置詞，名詞，動詞に分類できる。機能的には大まかに，時間的位置 (time-positional) を表す要素，持続時間 (duration) を表す要素，頻度 (frequency) を表す要素，アスペクト的意味を表す要素の4つに分類できる。時間的位置を表す要素は t_{top} を決定する参照時を導入する機能を持つ。例えば，時間の順序関係を表現する副詞的要素であれば，それらを参照点としてその前後に t_{top} の位置が特定される。持続時間を表す要素は，出来事の時間 $\tau(e)$ の長さや，出来事の始点や終点の時間を特定する役割を果たす。3つ目の頻度を表す要素は，具体的には $\tau(e)$ の生起の頻度を特定する機能を持つ (Klein 1994: 143–214)。

表4 時間を表現する副詞的要素

Function	Semantic characteristic	Morphological class	Form	English gloss
Time-positional	deictic	subordinator	<i>(?intu:)no/</i>	when (after t_{uc})
			<i>(?in)ton</i>	
			<i>?idi</i>	when (before t_{uc})
		adverb	<i>?itaj</i>	a while ago
			<i>tatta/ita</i>	now
			noun	<i>madamda:ma</i>
			<i>kalman</i>	yesterday

¹² 機能的クラスは完全に離散的なものではなく，ある要素は異なる文脈において異なる機能を担う。

Function	Semantic characteristic	Morphological class	Form	English gloss	
Time-positional		noun	<i>bigat</i>	tomorrow	
		enclitic	<i>=(n)to</i>	future time reference	
	solar-centric		noun	<i>bigat</i>	morning
				<i>malem</i>	afternoon
				<i>rabi?i</i>	night
	temporal order		verb ¹³	<i>na-sa:pa</i>	early
			preposition	<i>bajat</i>	while
				<i>sakbaj</i>	before
	temporal distance			<i>kalpasan</i>	after
			adverb	<i>(?in)sigi:da</i> <i>dagus</i>	immediately
	temporal distance		conjunction	<i>tattan</i>	then
				<i>sa</i>	
				<i>ket</i>	
calendric		noun	<i>martes</i>	Tuesday	
			<i>hu:njo</i>	June	
		noun	<i>paskwa</i>	Christmas	
Duration	relative duration	verb	<i>na-bajag</i>	for a long time	
			<i>?ag-daras</i>	quickly	
	solar-centric		<i>?ag-malem</i>	during the day	
			<i>?ag-patnag</i>	during the night	
	beginning of $\tau(e)$	preposition	<i>manipud</i>	since	

¹³ §2でも述べた様に、動詞は派生接辞により形成される。ここでは *na-* により派生されている。

Function	Semantic characteristic	Morphological class	Form	English gloss
Duration	end of $\tau(e)$	preposition	<i>aginga</i>	until
Frequency		adverb	?<in>aldaw <i>kana:jon</i>	every day always
		verb	<i>maminsan</i> <i>ma:min adu</i>	once many times
		noun	<i>daddu:ma</i>	sometimes
	Aspectual	enclitic	$=\text{(e)n}^{14}$	already
	particle	<i>paj</i>	still	

以下では、これらの時間表現のうちいくつかの形態統語的性質を概観する。まず、時間的位置を示す *?idi* や *?intu.no/?inton/no* は節を導入する従属接続詞であり、導入される節が表す出来事の時間 $\tau(e)$ が t_{uc} に先行する場合前者が、後続する場合後者が使用される。

- (2) na-ga?ed ?isu:na djaj solso:na ?idi ?ubiŋ Ø.
ST-live 3MINI.ABS DIST.OBL P when child 3MINI.ABS
'S/he lived in Solsona when s/he was child.'
- (3) tawag-an=nak ?inton ?<um>aj=ka ditoj.
call-NEU.LV=2MINI.ERG.1MINI.ABS when <NEU.AV>come=2MINI.ABS PROX.OBL
'Call me when you come here.'

これらの接続詞は時間的位置の名詞を導入する際にも使用される。その場合も *?idi* や *?intu.no/?inton/no* は、名詞の指示対象が位置する時間が t_{uc} に先行するか後続す

¹⁴ この接語は最終音節が閉音節の語幹に前接するとき $=en$ で実現し、最終音節が開音節の語幹に前接するとき $=n$ で実現する。また、人称代名詞 $=ak$ '1mini.abs', $=k$ '1mini.erg', $=m$ '2mini.erg' に前接するとき、それぞれ $=ako=n$, $=ko=n$, $=mo=n$ となる。これらに現れる [o] は、マラヨ・ポリネシア祖語で再建される $=aku$, $=ku$, $=mu$ の母音が保持されたものと考えられる (Rubino 1997: 321; cf. Ross 2002).

るかで使い分けられる。

- (4) ma-pan=ak ʔidjaj sentro no bigat /sumarno ʔa lu:nes.
 NEU.AV-go=1MINI.ABS DIST.OBL center when morning next LIG monday
 ‘I will go to the town centre tomorrow morning/next Monday.’

- (5) t<imm>aguno ʔisu:na ti kasar ʔidi domiŋgo.
 <PFV.AV>attend 3MINI.ABS OBL wedding when sunday
 ‘I attended the wedding last Sunday.’

多くの副詞は、リガチャーにより動詞句や節と関係づけられる (6)。ただし、時間的位置を示す副詞の *ʔitaj* と *tatta/ʔita* の使用にはリガチャーは決して使用されない (7)–(8)。

- (6) s<in>ura:t-a=k ʔisu:na ŋa sigi:da.
 <PFV>write-LV=1MINI.ERG 3MINI.ABS LIG immediately
 ‘I wrote him a letter immediately.’

- (7) ʔita=k laʔeŋ ʔammo taj ʔagpajso.
 now=1MINI.ERG just know C fact
 ‘I just got to know the fact now.’

- (8) ma-pan=kami maŋ-an tatta ʔa rabiʔi.
 NEU.AV-go=1AUG.ABS NEU.AV-eat now LIG night
 ‘We will go eat tonight.’

動詞の時間表現もまた、多くの副詞と同様にリガチャーで他の節要素と関係づけられる。次の例では、出来事の持続時間を特定する動詞 *nabajag* ‘for a long time’ が副詞的要素として機能している。

- (9) na-bajag=kami ŋa nag-saʔo ʔidjaj kapete:rja
 for.a.long.time=1AUG.ABS LIG PFV:AV-talk DIST.OBL cafeteria
 ‘We talked at the cafeteria for a long time.’

表 4 にリストしたものに加え、リガチャーと名詞の組み合わせも持続時間の明示化に使用される。

- (10) nag-pa-danom djaj lakaj ?idjaj talta:lon ŋa majsa ?ŋa ?o:ras.
 PFV:AV-CAUS-water C old.man DIST.OBL rice.field LIG one LIG hour
 ‘The old man irrigated the fields for an hour.’

前接語の =(e)n ‘already’ と不変化詞 paj ‘still’ は文中のどこにでも出現する出現頻度の高い語であり、典型的には文初頭の語に後続する位置に出現する。これらの要素の意味については不明な点が多いが、本研究ではこれ以上扱わない。

- (11) nag-la?iŋ=ako=n djaj sakit=ko.
 PFV:AV-good=1MINI.ABS =already OBL sick=1MINI.GEN
 ‘I have already got better.’

- (12) na-sakit paj la?eŋ ti ?u:lo=k.
 ST-sick still just C head=1MINI.GEN
 ‘I still have a headache.’

5. 動詞的範疇による時間表現

このセクションでは、動詞の屈折による時間表現の意味を分析する。Rubino (1997) で挙げられた時間表現に関わる動詞の屈折を、本研究の枠組みにより順に検討していく。ここでの分析を踏まえて、イロカノ語の文法範疇としてアスペクトを認定できること、時制とムードは認定できないことを示す (表 5)。なお、動詞は形態的に活動動詞と状態動詞に分類されると前述したが、屈折をするのは活動動詞のみであるため状態動詞は分析から除外する。

表 5 時間指示に関わる屈折形態素と意味

Mood value	Irrealis	Neutral	
Aspectual value	Neutral	Perfective	Imperfective
Morpheme	∅	-imm-/-in-/n-	(C)VC-reduplication

5.1 IMPERFECTIVE¹⁵

この形式は、動詞語幹の(C)VC 重複により形成される。IMPERFECTIVE は t_{top} が $\tau(e)$ に真に含まれる時、つまり imperfective aspect を表現する時に使用される。

- (13) [Context: Has your brother finished the letter?] (No,)

ʔi-sur~su:rat=na palaŋ.

CV-IMPF~write=3MINI.ERG still

‘He is still writing the letter.’

- (14) [Context: What is your brother doing right now?]

ʔag-tug~tugaw ʔisu:na ʔidjaj tugaw ken ʔag-bas~ba:sa ʔiti libro

AV-IMPF~sit 3MINI.ABS DIST.OBL chair and AV-IMPF~read OBL book

‘He is sitting in a chair and reading a book.’

- (15) [Context: (Of a coughing child:) For how long has your son been coughing?]

ʔag-uj~ʔujek ʔisu:na ʔitaj pa laʔeŋ.

AV-IMPF~cough 3MINI.ABS a.while.ago still only

‘He has been coughing from a while ago.’

(13) の文脈では、 t_{uc} において手紙を書き終えたかが問われているため、 t_{uc} が t_{top} として導入されている。そして、(13) が描写している手紙を書くという出来事が占める時間 $\tau(e)$ は、 t_{top} ($=t_{uc}$) とその前後の隣接する時間であると解釈される。従って $t_{top} \subset \tau(e)$ を表現していると言える。次に、(14) の文脈において話題となっている時間 t_{top} も同じく t_{uc} である。(14) が表す出来事は、 t_{top} ($=t_{uc}$) 及びその前後の時間において成立すると解釈されるため、imperfective の定義 $t_{top} \subset \tau(e)$ が満たされる。(15) においては、 t_{uc} を基準に子供の咳の持続時間が問われているため、ここでも t_{top} と言える。(15) が描写するのは、子供の咳が t_{top} ($=t_u$) に先行する時間から始まり、 t_{top} ($=t_u$) においてもまだ持続しているということである。従ってここでも imperfective の定義 $t_{top} \subset \tau(e)$ が満たされる。次の (16) のように、IMPERFECTIVE が、出来事の時間 $\tau(e)$ が t_{top} に収まる文脈で使用されると、意味的に矛盾すると判断

¹⁵ 以下では、形式を指示する際はスモールキャピタルを使用する。例えば IMPERFECTIVE の場合、Rubino (1997; 2005) において imperfective aspect を表すとされる重複を含む形式を意味する。

される。

- (16) [Context: Has he read the book?]

#wen, bas~basa-en=na dajtoj libro¹⁶.
 yes IMPF~read-PV=3MINI.ERG PROX.C book
 ‘Yes, he is reading the book.’

Rubino (1997) の記述通り、時制を文法範疇として認めることが妥当であるならば、imperfectiveは過去／非過去の区別を含むはずである。つまり、過去の文脈 ($t_{top} < t_{uc}$) にはIMPERFECTIVEは使用できず、PAST IMPERFECTIVEのみが使用できるということになる。しかし、IMPERFECTIVEは(13)–(15)のような現在に加えて、過去と未来のいずれの文脈にも現れることができる。§4で記述したように、従属接続詞の $?idi$ は、導入する節が描写する出来事の時間 $\tau(e)$ が t_{uc} に先行する時にのみ使用され、 t_{uc} に先行する時間に t_{top} を限定する。

- (17) $t_{top} < t_{uc}$ に限定する副詞との共起

?ag-saŋ~sa:ŋit ti ?ubiŋ ?idi s<imm>aŋpet ni ta:taŋ=na.
 AV-IMPF~cry C child when <PFV.AV>arrive P.C father=3MINI.GEN
 ‘The child was crying when his/her father came home.’

- (18) [Context: What your brother DO when we arrive, do you think? (=What activity will he be engaged in?)]

?ag-sur~su:rat Ø ti letters.
 AV-IMPF~write 3MINI.ABS OBL letter
 ‘He will be writing letters.’

ここまで見たデータより、IMPERFECTIVEは時制、つまり t_{top} と t_{uc} の関係性について何も限定せず、PAST IMPERFECTIVEと時制において範列的關係にない。IMPERFECTIVEはimperfective ($t_{top} \subset \tau(e)$)を意味する形式であると結論づける。

5.2 PERFECTIVE

PERFECTIVEは接辞 *-imm/-in/-n-* などによって形成される。ここでは、この形式がperfective、つまり $\tau(e)$ が t_{top} に含まれることを表現するときに使用されることを確

¹⁶ ハッチマーク (#) は、形式的には問題のない構造だが意図された文脈で使用できない、ということの意味するために用いる。

認する。

以下の例 (19) では、文脈の少年が帰宅した時間が参照時となり、その直後の位置に t_{top} が特定される。そして少年が父親にけられた時間 $\tau(e)$ は t_{top} である帰宅直後において生じたと解釈される。一方 (20) における t_{top} は、副詞節によって導入されている父親が帰宅した時間の直後である。(20) は子供が泣くという出来事を描写しており、この出来事の時間 $\tau(e)$ は t_{top} に含まれる。つまり、子供が泣いたのは父親が帰宅した時であり、父親の帰宅以前に泣いていたとは解釈されない。

(19) [Context: What the boy's father DO when the boy came home (yesterday)?]

k<in>ugtar-an=na Ø na:min ?adu¹⁷.
 <PFV>kick-LV=3MINI.ERG 3MINI.ABS time many
 'He kicked him several times.'

(20) 時間副詞節との共起

nag-sa:ŋit ti ?ubiŋ ?idi s<imm>aŋpet ni ta:taŋ=na (cf. 17)
 PFV:AV-cry C child when <PFV.AV>arrive P.C father=3MINI.ERG
 'The child cried when his/her father came home.'

(21) の例が示すように、出来事の時間 $\tau(e)$ が t_{top} を含む、つまり t_{top} 以降も $\tau(e)$ が続く文脈で PERFECTIVE が使用された場合は意味的に矛盾すると判断される。

(21) [Context: Is your brother writing the letter?]

#wen, ?in-su:rat=na Ø.
 yes PFV.CV-write=3MINI.ERG 3MINI.ABS
 'Yes, he has finished it.'

PERFECTIVE が $\tau(e) \subseteq t_{top}$ を表現しているという想定は、以下の (22) の意味的な非整合性を説明する。(22) では、2つのアスペクトが同一の t_{top} ($=t_{uc}$) を共有する。ここで、この t_{top} を t_{topi} とすると、 $t_{topi} \subset \tau(e)$ かつ $\tau(e) \subseteq t_{topi}$ は矛盾するため、非整合的となると予測できる。

(22) #nag-traba:ho=?ak ket ?ag-trab~traba:ho paj la?eŋ.
 PFV:AV-work=1MINI.ABS then AV-IMPV~work still just

¹⁷ 最終音節の/u/は final lowering の適用対象となるはずだが、この語には適用されない。

(intended for) ‘I have been working (and I still am).’

なお (23) のように *?idi ?agiŋga:na ?ita* ‘until now’ と *pajla?eŋ* ‘now’ のような複数の時間副詞により個別の t_{top} を導入すると自然な表現になる。この時、一度ある時点で動作を完了した後、動作を再開したと解釈される。

(23) *nag-traba:ho=?ak* *?idi* *?agiŋga:na* *?ita*
 PFV:AV-work=1MINI.ABS then until now

ket *?ag-trab~traba:ho* *paj* *la?eŋ*.
 then AV-IMPF~work still just

‘I have worked until now and am still working.’

ここまで見た例の時間的文脈は全て過去 ($t_{top} < t_{uc}$) か現在 ($t_{top} \subset t_{uc}$) であるため、PERFECTIVE は非未来時制を表しているようにも見える。しかし、(24) と (25) の例が示すように、この形式は未来 ($t_{uc} < t_{top}$) においても使用可能であるため、特定の t_{uc} と t_{top} の関係性に出現を制限されない¹⁸。(24) は、NEUTRAL (INFINITIVE) と共起し未来を指示するとされる接語が、PERFECTIVE と共起している点でも興味深い。

(24) *?inton bigat* *ti* *malem*,
 when tomorrow C afternoon

?in-pa-takder=mi=nto *dajtoj* *balaj*.
 PFV.CV-CAUS-stand=1AUG.ERG=FUT PROX.C house

‘Tomorrow afternoon, we will have built this house.’

¹⁸ (24)–(25) の例を容認したのは2名の20代の話者であり、日常的な会話での使用も何度か確認している。一方、30代以上の話者2名は、未来の文脈ではPERFECTIVEではなくNEUTRALを使用するとコメントした。この話者たちのコメントは、PERFECTIVEが非未来の時間を指示することを示唆するように思える。しかし、30代以上の話者たちと20代の話者たちの時間表現の体系に根本的な差異を認めるということ自体にも何かしらの説明が必要である。むしろ、IMPERFECTIVEが時制に関わらないことを踏まえると (cf. 17–18), PERFECTIVEも未来の文脈そのものと非整合的なのではない (つまり非未来を表現するわけではない) と考える。現段階での仮説としては、容認しなかった話者にとって perfective が出来事の発生を含意するため (cf. Bohnemeyer 2009), 非現実である未来の文脈には非現実的な意味を表す NEUTRAL が使用されると推論する (NEUTRAL については後述)。この問題については、将来の課題としたい。

- (25) no p<in>altu:g-an=mi ti ?ugsa ton bigat ?i-jawid=mi
 when <PFV>shoot-LV=1AUG.ERG C deer when tomorrow CV-bring=1AUG.ERG
 ‘If we shoot down a deer tomorrow we will bring it home.’

これらのデータから、PERFECTIVE は t_{top} と t_{uc} の関係についてはいかなる限定も行わず、perfective($\tau(e) \subseteq t_{top}$) を表す純粋なアスペクト標識であると結論づける。

5.3 NEUTRAL

NEUTRAL は、先行研究では不定形 (infinitive) とも呼ばれ、明示的な屈折形態素を伴わない動詞形式である (Rubino1997). この形式は前接語 =(n)to と共起して未来時制を表すとされる。しかし実際は=(n)to は随意的であり、NEUTRAL 単独でも未来の時間を指示できる (26)–(27). (28) が例示する様に、過去の文脈で実現した出来事を表現するためにこの形式を使用すると非適格な表現となる。

- (26) Future-time reference

?ag-kasar=da(=nto) Ricky ken Lucy ?inton domingo.
 NEU.AV-marry=3AUG.ABS(=FUT) P and P when Sunday
 ‘Ricky and Lucy will get married next Sunday.’

- (27) Future-time reference

?ag-awi:d=ak(=to) ?iti mabi?it.
 NEU.AV-go.home=1MINI.ABS(=FUT) OBL short.time
 ‘I will go home for a short time.’

- (28) Past-time reference

*?<um>inom ?isu:da ?itaj.
 <NEU.AV>drink 3AUG.ABS while.ago
 (intended for) ‘They drank a while ago.’

ただし、NEUTRAL が使用される文脈は未来に限らない。この形式は論理的に非現実 (irrealis) である様々な文脈に出現する (29)–(32). (29) は命令, (30) は勧誘の言語内行為を表現しており、どちらでも NEUTRAL が使用される。

- (29) Imperative

?ag-eskwela=ka=n.
 NEU.AV-school=2MINI.ABS=already

‘Go to school now.’

(30) Cohortative

maŋ-an=tajo=n.

NEU.AV-eat=1/2AUG.ABS=already

‘Let’s eat!’

さらに、NEUTRAL は習慣 (habitual)／総称 (generic) の様相¹⁹を表現する場合にも使用される。

(31) Habitual/generic reference

a. l<um>nek taj ?init ?iti la:ʔod.

<NEU.AV>set C sun OBL west

‘The sun sets in the west.’

b. dinomiŋgo ŋa ma-pan ?ag-simba ni filip.

every.sunday LIG NEU.AV-go NEU.AV-church P.C P

‘Philip goes to the church every Sunday.’

また、frustrative を表現するときにも動詞述語は NEUTRAL で実現する (30)²⁰。ここでは *?itaj* ‘a short while ago’ により過去の時間が t_{top} として導入されているが、NEUTRAL が使用できる。従って、NEUTRAL は過去の文脈自体と非整合的なのではなく（つまり未来を指示するのではなく）、実現した出来事を表現できないと考えられる (cf. 28).

(32) Frustrative

perdj-en=da kuma ?iti balaj=da ?itaj

break-PV=3AUG.ERG INT OBL house=3AUG.GEN while.ago

¹⁹ 習慣／総称をアスペクトに含める向きもある。しかし、これらは現実での実現が問題とならず、アスペクトとは意味的に異なる。筆者はこれらを可能世界の量化が関わる様相の一種と考えるが、詳しい分析は今後の課題とする。

²⁰ frustrative は様相の1つであり、Tariana 語 (Arawak) では “it [the action] has failed already or is bound to fail; or that the success of an attempted action is not yet certain” を表すとされる (Aikhenvald 2003: 380)。一方、イロカノ語の frustrative 構文は、意図したものの実現できなかった行為を表す。

ɲem haan=na met na-perdi.
but NEG=3MINI.ERG also POT.PFV.PV-break

‘They tried to break their house a short while ago but failed to do.’

以上をまとめると、NEUTRAL は非現実を内包的意味として有する形式である。従って、当該形式自体が未来を表現しているわけではなく、その意味は文脈的な補強によるものと考えるのが妥当である。

5.4 PAST IMPERFECTIVE

4.1 で、IMPERFECTIVE は時制に関わらないことを明らかにした。そこで問題となるのが、IMPERFECTIVE が過去の文脈において使用できるのなら、PAST IMPERFECTIVE はどのような役割を持つのかという点である。この形式は、PERFECTIVE を形成する接辞と IMPERFECTIVE の形成に関わる (C)VC の重複により形成される。つまり、形式的には PERFECTIVE と IMPERFECTIVE どちらの特徴も有する。

PAST IMPERFECTIVE の使用が過去の文脈に制限されるのかを明らかにするデータは現段階では得られていない。しかし以下の例が示す様に、PAST IMPERFECTIVE は、動詞が表す出来事が複数回生じたことを表現するということがわかる。(33b) 及び (34b) の真理条件は、PERFECTIVE を含む対応する表現 (33a) と (34a) と、複数性という点を除き同様である。(33b) と (34b) は、それぞれ一度行ったということと一人の男性老人が亡くなったという意味では使用できない。

(33) a. PERFECTIVE

na-pan=ak ?iti balaj ni Florian.
PFV.AV-go=1MINI.ABS OBL house P.C P
‘I went to Florian’s house.’

b. PAST IMPERFECTIVE

nap~na-pan=ak ?iti balaj ni Florian.
PIMPF:AV-go=1MINI.ABS OBL house P.C P
‘I went to the Florian’s house many times.’

(34) a. PERFECTIVE

nataj ti lakaj
PFV.AV:die C old.man
‘The old man died.’

b. PAST IMPERFECTIVE

nat~nataj dagi:ti lal~lakaj
 PIMPF:AV:die PL.C PL~old.man
 ‘The old men died.’

また、この形式は長時間継続した動作を表現するときにも使用される。

- (35) b<in>as~ba:sa-Ø=na ti “Noli me tangere”.
 PIMPF:read-PV=3MINI.ERG C Noli me tangere
 ‘S/he read “Noli me tangere” for a long time.’

なお、この形態変化は必須ではなく随意的である。(36) の例では、*na:min ?adu* ‘many times’ により動詞が描写する動作が複数回生じたことが表現されているが、動詞が PAST IMPERFECTIVE である必要はない。

- (36) nag-ujek Ø ?iti na:min ?adu.
 PFV:AV-cough 3MINI.ABS OBL time many
 ‘S/he coughed many times.’

さらに、PAST IMPERFECTIVE は PERFECTIVE や IMPERFECTIVE と比較して生産性も限定的である。**natnatnag* (< *natnag* PFV.AV:fall); **bimbalbalassiw* (< *bimbalassiw* PFV.AV:cross) など、容認されないものが存在する。

まとめると、現段階で明らかになっていることは限定的だが、PAST IMPERFECTIVE は動作の複数性や継続性を表現するとき使用され、その他の意味については対応する PERFECTIVE を含む表現と同様の真理条件的意味を持つ。また、形態変化は随意的でありかつ生産性にも制限が見られたため、屈折ではなく派生であると結論づける。

5.5 まとめ：イロカノ語の文法範疇

イロカノ語の時間表現に関わる動詞屈折と意味の分布をまとめた表5をもう一度以下で示す。

PERFECTIVE と IMPERFECTIVE はそれぞれ *perfective aspect* と *imperfective aspect* を表現し、 $\tau(e)$ と t_{top} の関係性から規定されるアスペクトのドメインにおいて範列的な関係を形成する。従って、イロカノ語の文法範疇としてアスペクトを認定できる。

表5 時間指示に関わる屈折形態素と意味

Mood value	Irrealis	Neutral	
Aspectual value	Neutral	Perfective	Imperfective
Morpheme	∅	<i>-imm-, -in-, n-</i>	(C)VC-reduplication

一方 § 5.4 で、NEUTRAL が非現実の文脈において使用されるということを観察した。しかし、NEUTRAL を, irrealis mood を表現する文法範疇と認定するのはいくらか問題がある。先に見たように、IMPERFECTIVE 及び PERFECTIVE は論理的に非現実である文脈でも出現することが可能である (cf. 18, 24, 25)。つまり、論理的に非現実である全ての文脈において NEUTRAL が使用されなければならないということはなく、イロカノ語において概念的な現実／非現実が文法的に区別されているとは言い難い (cf. Bar-el and Denzer-King 2008)²¹。なお、Rubino (1997) の記述の通り、NEUTRAL は未来を指示する際に使用されることを観察した。しかし、この形式は過去の文脈においても生起するほか (cf. 32)、他のどの形式とも時制について範列的な関係を持たない。

PAST IMPERFECTIVE についても、時制の領域において他の形式と範列的關係がなく、また屈折というよりも派生形態論として扱うのが妥当と言えることを観察した。

これらを総合して、時制、アスペクト、ムードのうち、イロカノ語の文法において区別されるのは、アスペクトのみであると結論づける。

6 結語

本研究では、時間的概念がイロカノ語でどのように表現されるかを記述した。副詞的要素による時間表現は、形態的に副詞、従属接続詞、接語・不変化詞、前置詞、名詞、動詞に分類できる。機能的には、時間的位置 (time-positional) を表す要素、持続時間 (duration) を表す要素、頻度 (frequency) を表す要素、アスペクト的意味を表す要素の4つに分類できることを示した。

次にイロカノ語の動詞的範疇により、アスペクト、つまり t_{top} と $\tau(e)$ の関係

²¹ また、irrealis という意味的に抽象度の高い文法範疇を想定すること自体に問題があるという指摘がある (詳しくは Bybee (1998) などを参照のこと)。

性が文法的に区別され表現されることを示した。具体的には perfective aspect と imperfective aspect の区別が文法的に表現されることを確認した。さらに、PAST IMPERFECTIVE と呼ばれる形式は屈折ではなく派生形態法と考えるべきということを経験した。また時制やムードについては、それらを間接的に表現するのに使用される形式は存在するものの、そうした形式は範列的な集合を形成せず、従って文法範疇とは認められないことを論じた。

略号一覧

ABS-absolutive, AUG-augmented, AV-actor voice, C-core argument marker, CAUS-causative, CV-conveyance voice, DIST-distal, ERG-ergative, FUT-future, GEN-genitive, IMPF-imperfective aspect, INT-intentional, LIG-ligature, LV-locative voice, MINI-minimal, NEG-negation, NEU-neutral, OBL-oblique, P-personal, PFV-perfective aspect, PIMPF-past imperfective, PL-plural, POT-ability; possibility, PROX-proximal, PV-patient voice, ST-state, 1-first person, 2-second person, 3-third person, 1/2-speaker&hearer

参照文献

- Aikhenvald, Alexandra Y. 2003. *A grammar of Tariana, from northwest Amazonia*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Bar-el, Leora and Ryan Denzer-King. 2008. Irrealis in Blackfoot? *Santa Barbara Papers in Linguistics* 19, 3-14.
- Blust, Robert. 2013. *The Austronesian languages*. Revised edition. Canberra: Asia-Pacific Linguistics.
- Bohnenmeyer, Jürgen. 2009. Temporal anaphora in a tenseless language. In Wolfgang Klein and Ping Li (eds.), *The expression of time in language*, 83-128. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Bohnenmeyer, Jürgen. 2014. Aspect vs. relative tense: the case reopened. *Natural Language and Linguistic Theory* 32: 917-954.
- Bybee, Joan. 1998. "Irrealis" as a grammatical category. *Anthropological Linguistics* 40:257-271.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Comrie, Bernard. 1985. *Tense*. Cambridge: Cambridge University Press.

- Cover, Rebecca T. and Judith Tonhauser. 2015. Theories of meaning in the field: temporal and aspectual reference. In M. Ryan Bochnak and Lisa Matthewson (eds.), *Methodologies in semantic fieldwork*, 306–349. Oxford: Oxford University Press.
- Dahl, Östen. 1985. *Tense and aspect systems*. Oxford: Blackwell
- Haude, Katharina and Fernando Zúñiga. 2016. Inverse and symmetrical voice: on languages with two transitive constructions. *Linguistics* 54, 443-481.
- Himmelmann, Nikolaus P. 2005. The Austronesian languages of Asia and Madagascar: typological characteristics. In Alexander Adelaar and Nikolaus P. Himmelmann (eds.), *The Austronesian languages of Asia and Madagascar*, 110–181. London: Routledge.
- Klein, Wolfgang. 1994. *Time in language*. London: Routledge.
- Klein, Wolfgang. 1995. A time-relational analysis of Russian aspect. *Language* 71, 669-695.
- Krifka, Manfred. 1998. The Origins of Telicity. In Susan Rothstein (ed.), *Events and Grammar*, 197–235, Kluwer, Dordrecht.
- Luraghi, Silvia. 2014. Gender and word formation: the PIE gender system in cross-linguistic perspective. In Sergio Neri and Roland Schuhmann (eds.), *Studies on the collective and feminine in Indo-European from a diachronic and typological perspective*, 199–231. Leiden; Boston: Brill.
- Maddieson, Ian. 1984. *Patterns of sounds*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Matthewson, Lisa. 2004. On the methodology of semantic fieldwork. *International Journal of American Linguistics* 70: 369-415.
- Reichenbach, Hans. 1947. *Elements of Symbolic Logic*. New York, NY: Free Press.
- Reid, Lawrence A. 1989. Arta, another Philippine Negrito language. *Oceanic Linguistics* 28(1), 47–74.
- Ross, Malcolm. 2002. The history and transitivity of western Austronesian voice and voice-marking. In Fay Wouk and Malcolm Ross (eds.), *The History and Typology of Western Austronesian Voice Systems*, 17-62. Canberra: The Australian National University.
- Rubino, Carl. 1997. A reference grammar of Ilocano. PhD dissertation, University of California, Santa Barbara.
- Rubino, Carl. 2005. Iloko. In Alexander Adelaar and Nikolaus P. Himmelmann (eds.), *The Austronesian languages of Asia and Madagascar*, 326–349. London and New York: Routledge.
- Smith, Carlota. 1997. *The Parameter of Aspect*, 2nd edition. Dordrecht: Kluwer.
- Thomas David D. 1955. Three Analyses of the Ilocano Pronoun System. *Word* 11, 204-208.

- Varzi, Achille. 2003. Mereology. In Edward N. Zalta (ed.), *The Stanford Encyclopedia of Philosophy* (Winter 2016 Edition). <<https://plato.stanford.edu/archives/win2016/entries/mereology/>>. (accessed 14 February 2018)
- Yamamoto, Kyosuke. 2017. A phonological sketch of Ilocano. *Kyoto University Linguistic Research* 35, 21-49.

受理日 2018年4月2日

ジンポー語民話資料「嘘つきのナンビャ」*

倉部 慶太

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

キーワード：ジンポー語, カチン人, ビルマ, ミャンマー, 民話

1 はじめに

ジンポー語 (Jinghpaw) は、北ビルマを中心に話され、言語系統的にシナ・チベット語族チベット・ビルマ語派に属する。この言語は、北ビルマと国境を接する中国雲南省および北東インドの一部にも分布する。ジンポー語は、ビルマ有数の民族の 1 つであるカチン人 (Kachin) の主要言語の 1 つである。カチン人は言語的に多様であり、ジンポー語の他にツァイワー語、ロンウォー語、ラチッ語、ラワン語などを用いる言語集団からなる。ジンポー語はカチン人の間で共通語として通用しており、カチンの人々を結びつける 1 つの重要な紐帯の役割を果たす。

本稿の目的は、言語資料として「嘘つきのナンビャ」と題するジンポー語によるカチン民話を語釈と翻訳を合わせて提示することにある。本資料は 2009 年から 2017 年にかけて北ビルマで行ったフィールドワークにより蒐集された一次資料の一部である。特に 2016 年から筆者は現地協力者とともに、大量のジンポー語による語りの資料 (大部分は民話) の蒐集を進めた。一連のフィールドワークの成果として、1,805 話の語りの音声資料 (2017 年 3 月時点) が得られた。2017 年に筆者はこれら全てをデジタルアーカイブ *Pacific and Regional Archive for Digital Sources in Endangered Cultures (PARADISEC)* に登録し、公開した (Kurabe 2017b)。これは太平洋地域の少数民族の言語と文化を対象としたアーカイブであり、メルボルン大学などオーストラリアの大学により運営されている。筆者等のコレクションでは、現時点で音声の他、筆者と協力者による 1,298 話分の書き起こしテキスト (2018 年 3 月時点) も公開している。同コレクションは学術的利用に加え、母語話者自身が利用することで失われつつある言語と文化の記録・保存・再活性化にも役立つと考えている。

これらの資料には PARADISEC のファイル命名規則に従った ID が付されている (e.g., KK1-0001)。本資料の ID は KK1-0072 であり、2016 年 12 月 14 日にビルマのカチン州ミッチーナ市において筆者により蒐集されたものである。語り手は同州ライザ市出身の女性話者 (1993 年生) である。本民話は「ナンビャ」が登場する一連の民話群の 1 つである。ナンビャという固

* 筆者による現地調査は、日本学術振興会科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 「ジンポー語の記述言語学的研究」 (課題番号: 12J02938)、日本学術振興会科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) 「北部ビルマにおけるジンポー語危機方言の調査とドキュメンテーション」 (課題番号: 14J02254)、日本学術振興会頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム「危機言語・少数民族を中心とする循環型調査研究のための機動的国際ネットワーク構築」 (課題番号: J2801) の助成を受けている。

有名詞の指示対象が何であるか語り手により若干の解釈の相違が見られるが、基本的に「ナンビャ」は兎または人間の名前であると説明される。ナンビャ民話はカチンの人々の間に広く流布しており、ナンビャは方言や言語によって、マンビャ、マンビョ、モンビョなどとも呼ばれる。ナンビャが登場する民話の内容は多岐に渡り、筆者らが蒐集したカチン民話には本民話の他に、「ナンビャといじめっ子」(KK1-0709)、「ナンビャと王子」(KK1-1379)、「ナンビャと僧侶」(KK1-1790)、「ナンビャと叔父」(KK1-1711)、「老婆と孫のマンビャ」(KK1-0549)、「マンビャと龍」(KK1-0027)、「ナンビャと猫の魚釣り」(KK1-1209)、「ナンビャと酒」(KK1-1789)、「ナンビャと焼畑」(KK1-1791)、「ナンビャと籠」(KK1-0233)、「牛を盗んだナンビャ」(KK1-1210)、「銅鑼を盗んだナンビャ」(KK1-1795)、「食料を盗んだナンビャ」(KK1-0296)、「怠け者のナンビャ」(KK1-1788)、「ナンビャの死」(KK1-1794)、などの民話が確認される。

本稿の表記には以下に示した筆者の分析による音素表記を用いる。

表1 子音と母音

頭子音					末子音				母音			
p	t	ts	c	k	ʔ	p	t	k	ʔ	i	u	
ph	th			kh						e	ə	o
b	d	dz	j	g						a		
		s	ɕ		(h)							
m	n			ŋ		m	n	ŋ				
ʔm	ʔn			ʔŋ								
w	l	r	y			w	y					
ʔw	ʔl	ʔr	ʔy									

基本的な音節構造は C1(C2)V(C3) である。C1 には図 1 の頭子音に示した全ての音素、C2 には /r/ と /y/、V には図 1 の母音に示した音素、C3 には図 1 の末子音に示した音素が生起しうる。C1 と V は義務的であり、C2 と C3 は任意の要素である。母音 /ə/ は開音節かつ非語末位置にのみ現れる。ジンポー語は音節声調言語であり、高平調 (H)、中平調 (M)、低下降調 (L)、高下降調 (F) の 4 つの声調が認められる。本稿では、それらをそれぞれ má、ma、mà、mâ と表記する。なお、促音節においては高と低の 2 つの声調のみが対立を成す。

2 本文

本節では民話本文を語釈と翻訳とともに提示する。本民話は予め計画されたものではなく、事前の練習なしにその場で語られたものである。そのため、言いよどみ、言い間違い、反復などが含まれる。本資料は言語研究の利用に供するよう、翻訳はできる限り原語に即して翻訳した。そのため、日本語としてやや不自然な部分があるが、これらは誤植ではない。語釈の記号・略号に関しては巻末を、文法概略に関しては Kurabe (2017a) などを参照されたい。

- (1) “grày mäsù? ce ?ay nàŋbyá?” ré ?ay dà?, gà-bo gò.
 very lie know NMLZ PSN COP DECL HS word-head TOP
 「とても嘘つきのナンビヤ」だそうだ、タイトルは。
- (2) læ-ní mi ná rúthóy thà? dà?, nàm læŋây kó? dà?, ?è... nàm læŋây kó? dà?, ?è...
 one-day one GEN day LOC HS forest one LOC HS INTJ forest one LOC HS INTJ
 nàŋbyá? thè? cəro, cán lækhôŋ gò mənəŋ ré ná nà ?ay dà?.
 PSN COM tiger 3du two TOP friend COP SEQ live DECL HS
 ある日のことだそうだ、ある森にだそうだ、えー、ある森にだそうだ、えー、ナンビヤと
 虎、彼ら二匹が友達であって、住んでいたそうだ¹。
- (3) cánthe ni nà ráy yàŋ cè?, cəro gò dà?, grày myit sú ?ay dà?.
 3pl PL live COP when then tiger TOP HS very mind mature DECL HS
 彼らが住んでいて、虎はだそうだ、とても分別があったそうだ。
- (4) ci gò dà?, ?á... yá? ?è... ci gò nday “lənəm-ta dù wà s-ay
 3sg TOP HS INTJ now INTJ 3sg TOP well rainy.season-month arrive VEN CSM-NMLZ
 rē” ŋa, ci gò lù?-cá ni mùŋ mək̀hòŋ, lù?-cá ni mùŋ mək̀hòŋ...
 COP say 3sg TOP drink-eat PL also gather drink-eat PL also gather
 彼はだそうだ、あー、今、えー、彼は、あの一、「もう雨季が来る」と言って、彼は食べ
 物も集め、食べ物も集め…
- (5) ŋút jaŋ mərəŋ ni thù? wà sə-na rē məjò, ci gò ?á... mərəŋ ni mùŋ ?è...
 finish when rain PL rain VEN CSM-IRR COP because 3sg TOP INTJ rain PL also INTJ
 mərəŋ ni mùŋ thù? wà sə-na rē məjò, ítâ phé? mùŋ ?è... mägàp ?ay ni
 rain PL also rain VEN CSM-IRR COP because house ACC also INTJ cover NMLZ PL
 mägàp dá, ré ná ci gəlo to ?ay dà?.
 cover RES COP SEQ 3sg do CONT DECL HS
 終わると、雨が降り始めそうだったので、彼は、あー、雨も、えー、雨も降り始めそう
 だったので、家も、えー、(家の屋根として) 被せるものも被せておき、そういう風に彼
 はしていたそうだ²。
- (6) grày bùŋli cək̀ùt to ?ay dà?.
 very work try.hard CONT DECL HS
 とても仕事を頑張っていたそうだ。

¹ 2つの位格は標示する場所の種類により使い分けられる。すなわち、基本的に位格 kó? は空間的な場所を示し、位格 thà? は時間的な場所を示す。

² 複数を表す形態素 ni は「雨」などの不可算名詞に付加されると量が多いことを表す。

(7) **kêi.**

INTJ

(そんなに仕事熱心だなんて) まあ!

- (8) **day ɛəlóy gò nàŋbyáʔ gò ɛi gò grày pyo di ná ɲà ná, ɛi lùʔ-ɛá ni**
 that when TOP PSN TOP 3sg TOP very be.happy LV SEQ live SEQ 3sg drink-eat PL
mùŋ ʔè... ɛi dáy-ní-tam-dáy-ní-ɛá ráy ná gəlo ná, ɛi gò day khu ɛà ɲà
 also INTJ 3sg this-day-look.for-this-day-eat COP SEQ 3sg SEQ 3sg TOP that like only live
ʔay dàʔ.

DECL HS

そのとき、ナンビヤは、彼はとても楽しんで暮らし、彼は食べ物も、えー、彼は今日探し今日食べ (その日暮らしで)、そのようにして、彼はそのようにだけ暮らしたそうだ。

- (9) **day khu ɛà ɲà ráy yàŋ ɛèʔ, day khu ɛà ɲà ráy yàŋ ɛèʔ, ʔè... ɛi gò**
 that like only live COP when then that like only live COP when then INTJ 3sg TOP
pyo-pyo pyo-pyo ré ná ɛèʔ ɲà ʔay dàʔ.

be.happy-RED be.happy-RED COP SEQ then live DECL HS

そのように暮らして、そのように暮らして、えー、彼は楽しんで暮らしていたそうだ。

- (10) **day ɛèʔ ɛəro gò grày ɛəkùt ʔay dàʔ.**

that then tiger TOP very try.hard DECL HS

そして、虎はとても頑張ったそうだ。

- (11) **ɛəro phéʔ tsun ʔay.**

tiger ACC say DECL

(ナンビヤは) 虎に言った。

- (12) **“ʔè, ɛəro” dàʔ.**

INTJ tiger HS

「おい、虎さん」と言ったそうだ。

- (13) **“naŋ pha ná day ráŋ tìŋ ɛəkùt ʔay” dàʔ.**

2sg what SEQ that about whole try.hard DECL HS

「お前はなぜそんなに頑張るのか」と言ったそうだ。

- (14) **“ní-ɛəkùt rà ʔay gò” dàʔ.**

NEG-try.hard need DECL SFP HS

「頑張る必要はないではないか」と言ったそうだ³。

³ 終助詞 gòは主題標識 gòと同一形態素である可能性がある。このような主題標識と終助詞の同形性はバングラ語にも見られる (藤原敬介氏, p.c., 2018)。終助詞 gòの由来の別の可能性として、意味が同一のビルマ語の終助詞 góの借用の可能性もある。本稿では、分布の違いに基づき、それぞれに別

- (15) “**dày-ní-tam-dày-ní-ǎ** **rê**” **ŋú** **tsun ʔay dàʔ**.
 this-day-look.for-this-day-eat COP QUOT say DECL HS
 「今日探し今日食べるのだ (その日暮らした)」と言ったそうだ⁴。
- (16) **day ǎlòy ǎro gò** “**ń-ré** **ʔay, khaw ʔè, ǎkùt rà ʔay.**”
 that when tiger TOP NEG-COP DECL cousin SFP try.hard need DECL
 そのとき、虎は「いいえ、友人よ、頑張らなければならない。」
- (17) “**yáʔ gədè** **ń-náʔ** **yàŋ mərəŋ thùʔ sə-na**” **ŋú di ná** **tsun ʔay dàʔ**.
 now how.much NEG-spend when rain rain CSM-IRR say LV SEQ say DECL HS
 「いま、しばらく経たないうちに、雨が降る (雨季が始まる) だろう」と言ったそうだ。
- (18) **day ǎèʔ nàŋbyáʔ-wa gò** “**ʔè, ráy s-ay,** **ráy s-ay.**”
 that then PSN-man TOP INTJ COP CSM-DECL COP CSM-DECL
 すると、ナンビヤは「はい、もういい、もういい。」
- (19) “**naŋ gəlo yàŋ gəlo to** **sə-núʔ.**”
 2sg do when do CONT CSM-IMP
 「お前がするならしていればいい。」
- (20) “**ŋay gò pyo** **ʔay.**”
 1sg TOP be.happy DECL
 「私は楽しい。」
- (21) “**ŋay nóʔ ʔyúp na**” **ŋú ná ǎi gò ʔyúp ǎ,** **day khu ré ná grày pyo** **ráy**
 1sg still sleep IRR say SEQ 3sg TOP sleep INTNS that like COP SEQ very be.happy COP
ná, læ-ní thèʔ læ-ní **day khu nà ré yàŋ ǎèʔ, kèi, day ráy yàŋ gò gədè**
 SEQ one-day COM one-day that like live COP when then INTJ that COP when TOP how.much
ń-náʔ **wà yàŋ ǎèʔ, mərəŋ thùʔ wà na tèn dù** **wà s-ay** **dàʔ.**
 NEG-spend VEN when then rain rain VEN IRR time arrive VEN CSM-DECL HS
 「私はまた寝る」と言って、彼は寝て、そのようにとても楽しく一日一日そのように暮らすと、まあ！するとしばらくしないうちに、雨が降る季節が訪れたそうだ。

の語釈を与えている。

⁴ 引用標識 **ŋú** は本動詞 **ŋú** 「～と言う」に由来する。ただし、本動詞の場合には否定辞を付加することができるのに対し、引用標識の場合には否定辞を付加することができない。否定辞付加可能性は動詞とそれ以外の品詞を分ける特徴の 1 つであるため、本稿ではこの特徴を重視し、それぞれに別の語釈を与えている。同様の意味を持つ形式として **ŋa** がある。二形式は置き換え可能であることが多く、それぞれの違いは現時点では不明である。なお、意味的に対応する形式として、ジンポー語と系統的に近いチャック語には **ŋá** が、カドゥー語とガナン語には **ŋó** が観察される (藤原敬介氏, p.c., 2018)。

- (22) **day ɛəlóy ɛè? nàŋbyá?-wa gò, kèi, day ɛəlóy gò ɛi gò myìt s-ay dà?**
 that when then PSN-man TOP INTJ that when TOP 3sg TOP think CSM-DECL HS
 そのとき、ナンビヤは、まあ！そのとき、彼は考えたそうだ。
- (23) **kèi, ɛi gò grày ce mäsù? ɛá ?ay dà?**
 INTJ 3sg TOP very know lie INTNS DECL HS
 まあ！彼はとても嘘つきだったそうだ。
- (24) **mənò-mənaŋ ni phé? nàw ce mäsù? ɛá ná, gəday má ɛi phé?
 n-kam khò lá ?ay dà?**
 COUP-friend PL ACC too.much know lie INTNS SEQ who also 3sg ACC
 NEG-be.willing call take DECL HS
 彼はあまりに嘘つきなので、誰も彼を(家などに)呼ばなかったそうだ⁵。
- (25) **ráy tí? mùŋ ɛi thè? khnúm dàt ?ay ni má?-khrà gò ɛi mäsù? ɛá
 ?ay kó? khray-khray gətùt ?ay dà?**
 COP but also 3sg COM meet away NMLZ PL be.exhausted-till TOP 3sg lie INTNS
 NMLZ LOC only-RED confront DECL HS
 しかし、彼と会った皆は彼が騙すのだけ被ったそうだ。
- (26) **day ɛəlóy ɛè? ɛi gò tsun ?ay dà?, ɛəro phé?**
 that when then 3sg TOP say DECL HS tiger ACC
 そのとき、彼は言ったそうだ、虎に。
- (27) **“hèi, ɛəro” dà?**
 INTJ tiger HS
 「おい、虎さん」と言ったそうだ。
- (28) **“nàŋ dè? yu ?ù?” dà?**
 here ALL look IMP HS
 「こっちを見て」と言ったそうだ。
- (29) **“yá? nyé? níta kó? sa yu ?ù? yô.”**
 now 1sg.GEN house LOC go CON IMP SFP
 「いま、私の家に来てみなよ。」

⁵ 動詞 khò 「呼ぶ」はビルマ語に由来する。

- (30) “**naŋ nyé? níta yu yàŋ**” **dà?**, “**yu dàt yàŋ gò, ?ó ləmù ni cəta ni cəgan**
 2sg 1sg.GEN house look when HS look away when TOP that sky PL moon PL star
ni grày mù, grày pyo ?ay lu” **ŋú di ná, ci day khu tsun ?ay dà?**
 PL very see very be.happy DECL SFP say LV SEQ 3sg that like say DECL HS
 「お前が私の家を見たら」と言ったそうだ、「見たら、あの空や月や星がとても見え、と
 ても楽しいよ」と言って彼はそのように言ったそうだ。
- (31) **day cè? cəro gò “?è, nday wa mäsù? cá khyén mó ?ay ráy sám ?ay**
 that then tiger TOP INTJ this man lie INTNS prepare intend NMLZ COP INFER DECL
lô.”
 SFP
 そして、虎は「うーん、こいつは嘘をつこうとしているようだなあ。」
- (32) **ráy tí? mùŋ ú-kâm ?ay dà?**
 COP but also NEG-believe DECL HS
 しかし、信じなかったそうだ。
- (33) **day cəlóy gò gəthət-ta ráy nà yàŋ gò ?i, pyo ?ay lè ?i.**
 that when TOP be.hot-season COP CONT when TOP SFP be.happy DECL SFP SFP
 そのときは暑季だったのでね、心地がよいよね。
- (34) **ci? ná cəro ?ò... nàŋbyá? ná níta gò grày pyo to ?ay dà?**
 3sg.GEN GEN tiger INTJ PSN GEN house TOP very be.happy CONT DECL HS
 彼の、虎、あ、ナンビヤの家はとても心地がよかったそうだ。
- (35) **day cè? ci n-sa yu ?ay dà?**
 that then 3sg NEG-go CON DECL HS
 そして、彼は行ってみなかったそうだ。
- (36) **cəro gò ci lə-ná? mi n-sa yu ?ay dà?**
 tiger TOP 3sg one-night one NEG-go CON DECL HS
 虎は、彼はある夜は行ってみなかったそうだ。
- (37) **day cè? phaŋ-cəná? gò báy tsun ?ay dà?**
 that then next-night TOP again say DECL HS
 そして、次の日の夜には(ナンビヤは虎に)また言ったそうだ。
- (38) “**cəro ?è, naŋ cè? sa wà yu ?ù?**” **dà?**
 tiger SFP 2sg indeed go VEN CON IMP HS
 「虎さんよ、お前は本当に来てみて」と言ったそうだ。

- (39) “nyé? ná cə̀rà grà̀y pyo ?ay lô.”
 1sg.GEN GEN place very be.happy DECL SFP
 「私の場所はとても楽しいよ。」
- (40) “?ó nàŋ cə̀ gəlèŋ dàt yu ?ù?”
 that here only lie.down away CON IMP
 「あの、ここにだけ寝ころんでみなさい。」
- (41) “?ó òtsa dè?, kèi, cə̀ta ni cə̀gan ni mù, grà̀y, kèi, ləmù ŋú ?ay gò pyo
 that above ALL INTJ moon PL star PL see very INTJ sky say NMLZ TOP be.happy
 cè? pyo.”
 only be.happy
 「あの上に、まあ！月や星が見え、とても、まあ！空というのはとても心地がよい。」
- (42) “naŋ sa yu ?ù?” ŋú tsun ?ay dà?
 2sg go CON IMP QUOT say DECL HS
 「お前は来てみなさい」と言ったそうだ⁶。
- (43) day cè? day cəlóy cè? gə̀ja-wa day cə̀ná? cə̀ro sa yu s-ay dà?
 that then that time then be.good-ADV that night tiger go CON CSM-DECL HS
 そして、そのとき、本当に、その夜、虎は行って見たそうだ。
- (44) sa yu dàt ?ay cəlóy cè?, cə̀ro-wa í-rê ?i, òtsa òtâ kó? dù rê cəlóy
 go CON away NMLZ when then tiger-man NEG-COP SFP above house LOC arrive COP when
 cè?, “kèi, gə̀ja-wa ?i.”
 then INTJ be.good-ADV SFP
 行って見たとき、虎はだね、上、家に着いたとき、「わあ、本当だね。」
- (45) “ná? òtâ wa, kèi, gəlèŋ dàt ?ay thè? wa cə̀ta ni cə̀gan ni mùŋ grà̀y
 2sg.GEN house TOP INTJ lie.down away NMLZ COM TOP moon PL star PL also very
 tsòm khà ráy ná pyo.”
 be.beautiful till COP SEQ be.happy
 「お前の家は、わあ！横になると、月や星もとてもきれいで心地がいい。」
- (46) “grà̀y khàrák khà ráy òà.”
 very be.good till COP CONT
 「とてもいい。」

⁶ 動詞 *sa* は直示的方向性に関して無指定な動詞であり、「行く」と「来る」の両方の意味を持つ。本稿では全て ‘go’ という語釈を与えている。

- (47) “gràʔ maiʔ ɲà ʔay lè.”
 very be.crazy CONT DECL SFP
 「とてもやばいね⁷。」
- (48) “gràʔ khrák ɲà ʔay lè” ɲú tsun ʔay dàʔ.
 very be.good CONT DECL SFP QUOT say DECL HS
 「とてもいいね」と言ったそうだ。
- (49) kèi, day yàŋ gò nàŋbyáʔ-wa gò tsun ʔay dàʔ.
 INTJ that when TOP PSN-man TOP say DECL HS
 まあ！それでナンビャは言ったそうだ。
- (50) “ʔé, naŋ ɲay ná ńtá phéʔ gəláy məyʊ s-ay ń-rê ʔi” ɲú tsun
 INTJ 2sg 1sg GEN house ACC exchange DESID CSM-NMLZ NEG-COP Q QUOT say
 ʔay dàʔ.
 DECL HS
 「ええ、お前は私の家と交換したくなかったのではないか」と言ったそうだ。
- (51) day cèʔ “ʔè, ʔè, ʔè, gəláy gàʔ, gəláy gàʔ” ɲú di ná, cǎn ləkhôŋ gò
 that then INTJ INTJ INTJ exchange HORT exchange HORT say LV SEQ 3du two TOP
 ńtá gəláy káw ʔay dàʔ.
 house exchange away DECL HS
 そして、「うん、うん、うん、交換しよう、交換しよう」と言って彼らふたりは家を交換
 したそうだ。
- (52) gəláy káw ʔay cəlóy cèʔ, kèi, məraŋ-thùʔ-ta... day cəlóy gò cəro gò cǎnáʔ
 exchange away NMLZ when then INTJ rain-rain-month that when TOP tiger TOP night
 cəgù gràʔ pyo na khu ráy ɲà.
 every very be.happy IRR like COP CONT
 交換したとき、まあ！雨季…そのときは、虎は毎晩とても心地のよい感じだった。
- (53) cəta cəgan cǎ yu di ná, ʔyúp ʔyúp ʔyúp ré yàŋ cèʔ, kèi, məraŋ-thùʔ-ta
 moon star only look LV SEQ sleep sleep sleep COP when then INTJ rain-rain-month
 dù wà yàŋ cèʔ, məraŋ rò-rò-rò ráy thùʔ to ʔay cəlóy cèʔ, cəro
 arrive VEN when then rain ONOM-RED-RED COP rain CONT NMLZ when then tiger
 gò myì ná cǐʔ ná ńtá gò ʔá-tsôm cǎ ráy ná gàp dá ʔay.
 TOP before GEN 3sg.GEN GEN house TOP ADV-be.beautiful only COP SEQ build RES DECL
 月や星だけ見て、寝て、寝て、寝ると、まあ！雨季になって、雨がゴーゴーゴーと降った
 とき、虎は以前の彼の家はよく建ててあった。

⁷ 動詞 maiʔ 「やばい」はビルマ語「狂う、やばい」に由来する。

- (54) **ʔa... nítâ mərəŋ n-gəyʉn na khu gəlo dá ʔay.**
 INTJ house rain NEG-leak IRR like make RES DECL
 あー、家は雨が漏れないように建てていた。
- (55) **day ɛəloy gò nàŋbyáʔ-wa gò day ɛəloy gò ɛi gò ʔə-pyo ɛà ráy ná**
 that when TOP PSN-man TOP that when TOP 3sg TOP ADV-be.happy only COP SEQ
ʔyúp to ʔay dàʔ.
 sleep CONT DECL HS
 そのとき、ナンビャは、そのとき、彼は(元虎の家で)心地よく寝ていたそうだ。
- (56) **day ɛəloy ɛèʔ ɛəro gò “khaw nàŋbyáʔ, khaw nàŋbyáʔ, ŋay phéʔ má naŋ nàŋ woy**
 that when then tiger TOP cousin PSN cousin PSN 1sg ACC also 2sg here lead
lá rít.”
 take IMP
 そのとき、虎は「友達のナンビャ、友達のナンビャ、私もお前はそこへ連れて行ってよ。」
- (57) **“naŋ ŋay phéʔ nóʔ woy lá rít.”**
 2sg 1SG ACC still lead take IMP
 「お前は私をまた連れて行ってよ。」
- (58) **“mərəŋ grày thùʔ to s-ay” ŋú tsun ʔay.**
 rain very rain CONT CSM-DECL QUOT say DECL
 「雨がとても降り始めている」と言った。
- (59) **nàŋbyáʔ-wa gò “nday náʔ nítâ n-rê.”**
 PSN-man TOP this 2sg.GEN house NEG-COP
 ナンビャは「これはお前の家ではない。」
- (60) **“wà sùʔ” ŋú di ná tsun ʔay dàʔ.**
 return IMP say LV SEQ say DECL HS
 「帰れ」と言ったそうだ。
- (61) **“ŋay naŋ phéʔ nítâ gəlay káw s-ay lè” ŋú di ná tsun ʔay dàʔ.**
 1sg 2sg ACC house exchange away CSM-DECL SFP say LV SEQ say DECL HS
 「私はお前と家を交換したよ」と言ったそうだ。

- (62) **day ɛəlóy ɛèʔ, day ɛəlóy ɛèʔ, ɛəro gò “ʔò, day məjò ɛèʔ məɛà ni day məjò**
 that when then that when then tiger TOP INTJ that because then people PL that because
ɛèʔ mənaŋ ni máʔ-khrà gò ɛi phéʔ grày məsùʔ ce ʔay nəŋbyáʔ ɲa di
 then friend PL be.exhausted-till TOP 3sg ACC very lie know NMLZ PSN say LV
tsun ʔay ráy ɲà kha” dàʔ.

say NMLZ COP CONT EXCL HS

そのとき、そのとき、虎は「あー、だから、人々は、だから、友人たち皆は、彼をととても嘘つきのナンビヤと言うのか」と言ったそうだ。

- (63) **“tsun ʔay ráy ɲà kha” ɲa di ná, ɛi grày maw to ʔay dàʔ.**

say NMLZ COP CONT EXCL say LV SEQ 3sg very be.surprised CONT DECL HS

「言うのか」と言って、彼はとても驚いていたそうだ。

- (64) **nday dzòn ɛà dàʔ, ʔánthe múŋkàn-məɛà ni máʔ-khrà kóʔ dáy-ní ná pràt**
 this like only HS 1pl earth-people PL be.exhausted-till LOC this-day GEN period
thàʔ gò grày məsùʔ ɛá ce ʔay ni grày lóʔ to s-ay.

LOC TOP very lie INTNS know NMLZ PL very be.many CONT CSM-DECL

このようにだそうだ、私たち世界の人たち皆に、今の時代は嘘をつく人たちがとても多くなった。

- (65) **“day məjò tíʔnaŋ gò lam ɛəgù phéʔ tíʔnaŋ gò myìt-son-sùmru di ná,**
 that because oneself TOP way every ACC oneself TOP think-calculate-consider LV SEQ
ʔá-tsôm ɛà ráy ná gəlo ná, kàm giŋ ʔay í-kâm giŋ ʔay
 ADV-be.beautiful only COP SEQ do SEQ believe worth NMLZ NEG-believe worth NMLZ
phéʔ myìt-son-gìnkàʔ lèt gəlo gəʔ” ɲú ná tsun məyu ʔay.

ACC think-calculate-divide SIM do HORT say SEQ say DESID DECL

「だから、自分でなんでも自分で考えて、よくやって、信じるべきか信じるべきでないかを考えながらやりましょう」と言いたいのです。

記号・略号

-	morpheme boundary	IMP	imperative
1	first person	INFER	inference
2	second person	INTNS	intensifier
3	third person	INTJ	interjection
du	dual	IRR	irrealis
pl	plural	LOC	locative
sg	singular	LV	light verb
ACC	accusative	NEG	negative
ADV	adverbializer	NMLZ	nominalizer
ALL	allative	ONOM	onomatopoeia
COM	comitative	PL	plural clitic
CON	conative	PSN	person name
CONT	continuous	Q	question
COP	copula	QUOT	quotative complementizer
COUP	couplet	RED	reduplicant
CSM	change-of-state marker	RES	resultative
DECL	declarative	SEQ	sequential
DESID	desiderative	SFP	sentence-final particle
EXCL	exclamative	SIM	simultaneous
GEN	genitive	TOP	topic
HORT	hortative	VEN	venitive
HS	hearsay		

参考文献

- Kurabe, Keita (2017a) Jinghpaw. In Graham Thurgood and Randy J. LaPolla (eds.) *The Sino-Tibetan Languages*, Second edition, 993–1010. London and New York: Routledge.
- Kurabe, Keita (2017b) *Recordings of Jinghpaw folktales*. Digital collection managed by PARADISEC. [Open Access] DOI: 10.4225/72/59888e8ab2122

受理日 2018 年 4 月 6 日

モンゴル語ハルハ方言の語頭阻害音の対立における F0 と F1 の特徴

植田 尚樹

大阪大学／日本学術振興会・ueta.naoki.82x@gmail.com

キーワード：モンゴル語ハルハ方言・語頭阻害音・基本周波数・第1フォルマント

1 はじめに

モンゴル語ハルハ方言（モンゴル国で広く話される、いわゆる標準モンゴル語。以下モンゴル語とする）には、破裂音・破擦音（以下、これらを阻害音とする¹）に2系列の対立がある。これらの対立がどのような弁別的特徴によるものであるのか（すなわち有聲性による対立であるのか帯気性による対立であるのか）について、これまでに多くの記述がなされているが、音響音声学的に詳細な分析を行った研究は少なく、弁別的特徴の実態は必ずしも明らかではない。また、これらの対立において有聲性・帯気性以外にどのような音響的特徴が関わっているのか、という点に言及した論考は、管見の限り見られない。

本稿では、阻害音の直後における基本周波数 (F0) および第1フォルマント (F1) に注目し、モンゴル語の語頭の阻害音対立において F0・F1 の開始周波数や遷移に違いが見られるのか、実験音声学的手法を用いて分析する。そして、F0 に関しては有聲音の直後で周波数の値が低く、無聲音の直後で高いという傾向が見られるものの、その差は概して小さく話者による差が顕著であることを述べる。また、F0 の遷移に関しては有聲音と無聲音でほとんど違いがないことを指摘する。一方、F1 については有聲音の直後の方が無聲音の直後よりも周波数の値が低いこと、有聲音では阻害音の直後に F1 が上昇するのに対し無聲音では上昇しないことを指摘し、これが先行研究で述べられている一般的な傾向と一致することを示す。

なお、本稿では語頭の阻害音対立にのみ注目し、語中や語末の音響的特徴については別稿に譲ることにする。

2 モンゴル語の阻害音の対立について

2.1 弁別的特徴と VOT

モンゴル語の阻害音における2系列の対立がどのような弁別的特徴によるものであるかは、必ずしも意見の一致を見ていない。以下、正書法による表記と、音声学・音韻論による分析を順に概観する。

¹ 摩擦音には2系列の対立はない。本稿では、「阻害音」という用語に摩擦音を含めないこととする。

モンゴル語ではキリル文字による正書法が確立している。モンゴル語の阻害音について、キリル文字による正書法と一般的に用いられるローマ字転写を示すと、表 1 のようになる(塩谷・プレブジャブ 2001: 2、山越 2012: 19)。

表 1: 阻害音を表すキリル文字とそのローマ字転写²

п <p>	т <t>	ц <ts>	ч <ch>	к <k>
б 	д <d>	з <z>	ж <j>	г <g>

ローマ字転写に関して言えば、表 1 の上段の系列は無声音として、下段の系列は有声音として表記されているように見える。もちろん、文字転写が音声的な事実をそのまま反映しているとは限らない。例えば、中国語のピンイン表記では、, <d>, <g> が無声無気音を表すのに使われている。モンゴル語の場合も、無声/有聲のローマ字転写が言語事実を反映しているという解釈のほか、ロシア語で無声/有聲の対立を表すキリル文字および転写をモンゴル語にも当てはめたに過ぎないという解釈もあり得る (Svantesson et al. 2005: 13)。ここでは、モンゴル語のキリル文字の転写に上記の文字が用いられているという事実を確認するにとどめる。

モンゴル語の阻害音対立の音声学・音韻論的な分析においては、伝統的に *strong / weak* や *fortis / lenis*, *tense / lax* という用語が用いられているが、これらが音響的にどのような対立であるかは必ずしも明らかではない。例えば Poppe (1970: 30-34) では、*lax* の阻害音のうち/d, ɬ, j/ は必ず無声音で現れ、/b, g/ も語頭では必ず無声音で現れることを指摘している。一方、Tsoloo (1976) や Sambuudorj (2012) では、*lax* の阻害音は有声音に分類されている。

近年では、Svantesson と Karlsson が、モンゴル語の阻害音対立の弁別的特徴は基本的に帯気性の有無によるという主張を展開している (Svantesson et al. 2005, Svantesson and Karlsson 2012 など)。彼らの主張は VOT (voice onset time) および母音の無声化の音響的データを示している点で一定の説得力があるが、データが歯茎音系列の音声に限られており (つまり両唇音と軟口蓋音に関するデータがなく) 網羅的ではないという問題点がある。

本稿では阻害音対立の弁別的特徴には深く立ち入らず、一貫して「有聲 (voiced)」 「無声 (voiceless)」 という用語を用いることとする。まとめると、本稿では以下のような阻害音の体系を想定する。

² ц <ts>, ч <ch>, з <z>, ж <j> は破擦音に対応する。з <z>, ж <j> については文字転写に破擦音であることが反映されていないが、慣習としてこの転写が用いられることが一般的である。

表 2 : 本稿で想定する阻害音の体系³

	labial	dental	alveo-palatal	velar	uvular
voiceless stop	p	t		k	
voiced stop	b	d		g	g
voiceless affricate		ts	č		
voiced affricate		dz	ǰ		

2.2 VOT 以外の音響的特徴

有声性、帯気性の対立において VOT が重要な役割を担っていることは疑いない (Lisker and Abramson 1964)。しかし、音韻的な有声性の対立においては、VOT 以外にも様々な音響的特徴が関わっていることが知られている。例えば基本周波数 (F0) に関して、無声閉鎖音に後続する母音は、有声閉鎖音に後続する母音よりも声帯振動の開始時点における F0 が高いことが指摘されている (Haggard et al. 1970, Kent and Read 1992)。また、第 1 フォルマント (F1) に関して、無声閉鎖音の破裂後では、有声閉鎖音の破裂後よりも F1 の開始周波数が高いことが知られている (Kluender and Lotto 1994)。通言語的に見られる音韻的な有声性と音響的特徴との対応は、高田 (2011: 14) にまとめられている。

表 3 : 音韻的な有声性と音響的特徴の対応 (高田 2011: 14 表 1-1)

音響的特徴	有声音	無声音
閉鎖区間の低音源	有り	無し
破裂における帯気性	無し	有り
破裂におけるエネルギー密度	低い	高い
F1 カットバック	無し	有り
F1 開始周波数とその遷移	低から上昇	高
F0 開始周波数とその遷移	低から上昇	上昇無し

高田 (2011: 14) によると、それぞれの音響的特徴が有声音／無声音の弁別にどの程度機能しているかは、言語ごとに異なる。

翻って、モンゴル語の阻害音対立における音響的特徴について検討した論考は管見の限り見いだされず、表 3 のような傾向がモンゴル語の阻害音対立においても見られるのか否か、全く不明である⁴。

³ 口蓋垂音 (uvular) については 2 系列の対立がないため、本研究では扱わない。また、口蓋化子音も音素として認められるが、出現頻度が低く有声／無声の対立をなす例が非常に少ないため、本研究では扱わない (表 2 では省略している)。

本研究では、「F1 開始周波数とその遷移」「F0 開始周波数とその遷移」に焦点を絞り、モンゴル語の語頭の阻害音対立において表 3 のような特徴が見られるかどうかを、実験音声学的手法を用いて明らかにする。

3 調査内容

3.1 調査語

調査語は、語頭に無声音を持つ語と語頭に有声音を持つ語、それぞれ 20 語（計 40 語）である。調査語は音節数が 1 音節か 2 音節以上か、長母音・二重母音を含むか否かという 2 つの観点から 4 つに分類される。その理由は、モンゴル語のピッチアクセントが音節数および長母音・二重母音の有無と密接に関係しているためである。その点に関して、以下に詳しく述べる。

モンゴル語は固定アクセントを持っており、音節数と長母音・二重母音の有無によってピッチアクセントのパターンが決まっている。語頭に関して言えば、1 音節語では長母音・二重母音の有無に関わらず、語頭から高いピッチが現れる。2 音節以上の語では、初頭音節の母音が短母音の場合は第 1 音節が低く第 2 音節が高いピッチとなる。2 音節以上の語で初頭音節の母音が長母音・二重母音の場合は、その長母音・二重母音の 1 モーラ目が低く、2 モーラ目が高いというピッチパターンが一般的であるが、語頭から高いピッチが現れるバリエーションもある。一方、語末に関してはいずれもピッチが下降する（詳しくは角道 1982、Karlsson 2005、山越 2012 を参照されたい）。語頭阻害音と関係がある語頭のピッチについて、語の音節数および第 1 音節の母音の種類と語頭のピッチとの関係をまとめると、表 4 のようになる。

表 4：音韻構造と語頭のピッチの関係

	1 音節語	2 音節以上の語
第 1 音節が長母音・二重母音	H	L or H
第 1 音節が短母音	H	L

つまり、語の音韻構造によって、第 1 音節のピッチが異なる。ピッチに対応する音響的要素は基本周波数 (F0) であるので、語の音韻構造によって F0 が異なることになる。したが

⁴ これらの音響的特徴は有声性の対立における特徴であり、帯気性の対立においても同様の特徴が見られるかどうかは定かでない。そのため、仮にモンゴル語の阻害音が帯気性による対立であった場合、表 3 に挙げた特徴が見られるという保証はない。しかし、有声性と帯気性が VOT に関して連続的なものであることを考えれば、帯気性の対立においても表 3 に挙げたような音響的特徴が観察される可能性は高い。また、モンゴル語の阻害音の対立が有声性によるものであれば帯気性によるものであれ、F0 や F1 といった音響的特徴を正確に記述しておくことには意義がある。本稿では有声性・帯気性の問題には立ち入らず、「モンゴル語に VOT 以外の音響的特徴が見られるか否か」に焦点を当てる。

って、F0 が語頭阻害音の対立に関係するか否かを正確に判定するためには、語の音韻構造を統制しておく必要がある。

このことを考慮し、調査語は同じ音韻構造を持ち、語頭の阻害音の有声性が異なる語をペアにしている。具体的には、表 5 のような語彙を用いた。

表 5 : 調査語

	CVC	CVVC	CV(C)-	CVV(C)-
p b	paark 遊園地 bars トラ	paar 暖房 baar バー	patent 特許 batalгаа 証明	paasport パスポート baatar 英雄
t d	tal 平野 dal 肩	taax 予測する daax 負担する	talbai 広場 dalbaa 旗	taarax 適する daarax 寒く感じる
k g	kaart カード gardz 損失	kaas レジ gaadz ガス	kanon コピー gadzар 場所	kaamer カメラ gaixaš 茫然
ts dz	tsam お面 dzam 道	tsaas 紙 dzaal ホール	tsalgix こぼれる dzalgix 飲みこむ	tsaatan ツァータン dzaawar 説明書
č j	čats 体格 jad 槍	čiig 湿気 jiix 伸ばす	čarmaix 努力する jargal 幸福	čoolgan 国会 juolčin 旅行者

p, k の CVC (網掛けの部分) が長母音を含む語になっているのは、次のような理由による。p, k は借用語にしか現れず、借用語において原語でストレスを持つ母音は長母音として実現するため、「p, k を語頭に持ち、母音が短母音である 1 音節語」は存在しない。1 音節語は母音の長短にかかわらず高いピッチから始まることから、F0 の分析において母音の長さは特に問題にはならないと考えられるため、長母音を持つ語で代用している。

なお、語頭阻害音の直後の母音は多くの場合 a で統一しているが、実在する語に制限があるため、一部に i (ii) と u (uu) も使用している。母音の音価によって F1 の値は大きく異なるが、この場合もペアとなる語では同じ母音となっているため、分析の上で問題とはならない (詳しくは後述する)。

3.2 調査方法

インフォーマントは、モンゴル語ハルハ方言の母語話者 9 名 (男性 4 名、女性 5 名、17~20 歳) である。録音は Zoom H4n Handy Recorder (WAV, 44.1kHz / 16bit) と AKG Micro Mic C520 を用いて行った。調査語は、以下のキャリア文に入れて読み上げられた。

- (1) a. _____ ged-eg n^j juu we? 《_____ というのは何ですか》
 _____ 言う-HAB 3. POS 何 INT
- b. bii _____ gej xel-sen. 《私は_____ と言った》
 1. SG. NOM _____ QUOT 言う-PP

一部のインフォーマント (9 名中 4 名) は、(1) の前に語単独での読み上げも行った。これは調査者が意図しないものであったが、分析に利用できるデータであるため、分析対象に加えた。

読み上げは計 3 回行われた。なお、調査語はランダムに並べられており、1 回目・2 回目・3 回目の調査でそれぞれ異なる順序で並べられている。

得られたデータの数は、以下のようになる。

表 6：調査で得られたデータの数

語数	キャリア文の数	回数	インフォーマント数	データ数
40	3 (単独発話・(1a)・(1b))	3	4 (AS, TG, NS, BG)	1440
40	2 ((1a)・(1b))	3	5 (NE, JB, ZZ, BE, GM)	1200
		合計	9	2640

3.3 分析方法

録音された音声を *praat* (Boersma and Weenink 2012) を用いて分析した。まずは語頭阻害音の閉鎖の開放と声帯振動開始の地点をそれぞれ同定する。次に、声帯振動開始地点から 0ms, 10ms, 20ms, 30ms 後の基本周波数および第 1 フォルマントの値を測定し、それぞれ $F0_i$, $F0_{ii}$, $F0_{iii}$, $F0_{iv}$, $F1_i$, $F1_{ii}$, $F1_{iii}$, $F1_{iv}$ とする。

$F0$ に関しては、声帯振動直後では測定値が得られない場合がある。そのため、 $F0_i \sim F0_{iv}$ において最初に測定値が得られた地点の値を $F0$ の開始周波数とする。また、 $F0$ 開始周波数と、そこから 10ms 後における $F0$ 周波数を比較し、後者の値から前者の値を減じたものを $F0_g$ とする。 $F0_g$ は $F0$ の遷移に相当し、値がプラスであれば $F0$ が上昇したことを、マイナスであれば下降したことを示す。なお、母音の無声化によって $F0$ が全く測定できない例もいくつかあった。それらは分析対象から除外している。

一方 $F1$ に関しては、声帯振動開始時には $F1$ の動きが安定していないため、誤測定と思われる測定値 (例えば 2 倍や 2 分の 1 の値を測定したと思われる値) が得られることが少なくない。そこで、ある一点における測定値のみを利用するのではなく、 $F1_i$, $F1_{ii}$, $F1_{iii}$ の中央値を $F1$ 開始周波数とする。また、観測点を 10ms ずらした $F1_{ii}$, $F1_{iii}$, $F1_{iv}$ の中央値を算出し、その値から $F1$ 開始周波数の値を減じたものを $F1_g$ とする。 $F1_g$ は $F1$ の遷移に相当し、値がプラスであれば $F1$ が上昇したことを、マイナスであれば下降したことを示す。また、中央値を用いているため、採用される代表値が一致する (すなわち、 $F0_g$ の値が 0 になる) こともある。その場合は $F1$ の推移が平坦であるとみなす。

そして、語頭が無声音のものと有声音のものとの間で $F0$ 開始周波数、 $F0_g$ 、 $F1$ 開始周波数、 $F1_g$ を比較する。話者によって声帯の長さや声道の形状などが異なるため、当然のことながら $F0$ や $F1$ の値は同じ語でも話者によって異なる。また、3.1 節で述べたように、語の

音韻構造や母音の音価によって F0 や F1 の値は大きく異なる。そこで、F0 開始周波数、F1 開始周波数の値は同じインフォーマント、同じ条件でペアとなる語どうしで比較する。一例を挙げると、インフォーマント AS、キャリア文 (1a)、1 回目の発話、という条件で、paar 《暖房》と baar 《バー》のペアの値を比較する。統計学的には「対応のあるデータ」ということになる。なお、母音の無声化によって F0 の分析対象から除外されたトークンについては、そのペアとなるトークンについても F0 の分析対象から外れることになる。一方、F0_g、F1_g の値は「どれだけ周波数が変化したか」という相対値であることから、異なるインフォーマント、異なる音韻構造を持つ語の間で比較することが可能であるため、ペアの対応については考えない。

なお、障害音の調音位置および調音方法（破裂音か破擦音か）について、本調査ではモンゴル語において対立がある p/b, t/d, k/g, ts/dz, č/j の全てのペアを用いているが、本稿では無声音と有声音の比較に焦点を絞って議論することとし、F0・F1 に対する調音位置および調音方法の影響については立ち入らない⁵。

4 調査結果 1 : F0

4.1 F0 の開始周波数

語頭が有声音の語と無声音の語のペアにおいて、どちらの F0 開始周波数が高いかを比べた上で、「有声音の F0 開始周波数 < 無声音の F0 開始周波数」となるペアと「有声音の F0 開始周波数 > 無声音の F0 開始周波数」となるペアの数を比較する。2.2 節で示したように、F0 の開始周波数は有声音で低く、無声音で高いことが指摘されている。この傾向がモンゴル語にも当てはまるならば、「有声音の F0 開始周波数 < 無声音の F0 開始周波数」となるペアの数が「有声音の F0 開始周波数 > 無声音の F0 開始周波数」となるペアの数よりも多いことが予想される。

図 1 は、「有声音の F0 開始周波数 < 無声音の F0 開始周波数」となるペアと「有声音の F0 開始周波数 > 無声音の F0 開始周波数」となるペアの割合を表したものである。

⁵ VOT に関しては一般に調音位置によって値に差があることが指摘されており (Kent and Read 1992: 114)、F0・F1 に関しても調音位置や調音方法の影響が見られる可能性はある。モンゴル語の VOT、F0、F1 と調音位置、調音方法との関係については、稿を改めて論じることにしたい。

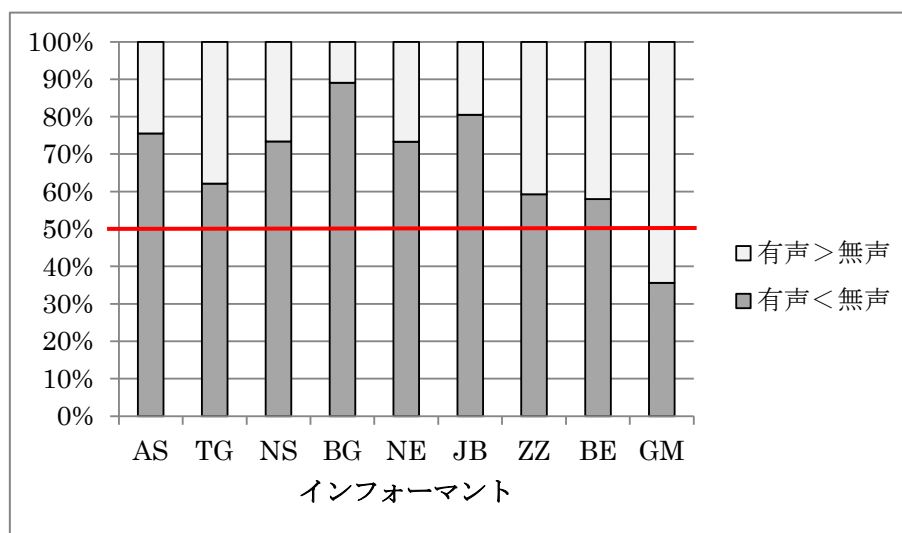


図 1 : F0 開始周波数の大小

図 1 から、多くのインフォーマントにおいて「有声音の F0 開始周波数 < 無声音の F0 開始周波数」となるペアが 50%を超えていることがわかる。このことは、ペアとなる語で比較した場合に、有声音における F0 開始周波数は無声音における F0 開始周波数よりも低い場合が多いことを意味し、2.2 節で示した傾向と合致する。しかしながら、インフォーマント GM では逆の結果となっている。また、予測通りの結果を示すインフォーマントにおいても、チャンスレベルが 50%であることを考えると、それほど顕著な差があるとは言えない。

次に、ペアとなる語における F0 開始周波数の値の差に注目する。図 2 は、ペアとなる語における無声音の F0 開始周波数と有声音の F0 開始周波数の差の平均値をインフォーマント別に表したものであり、値がプラスであれば無声音の方が F0 開始周波数が高いことを意味する。エラーバーは標準偏差（片側）を表している。

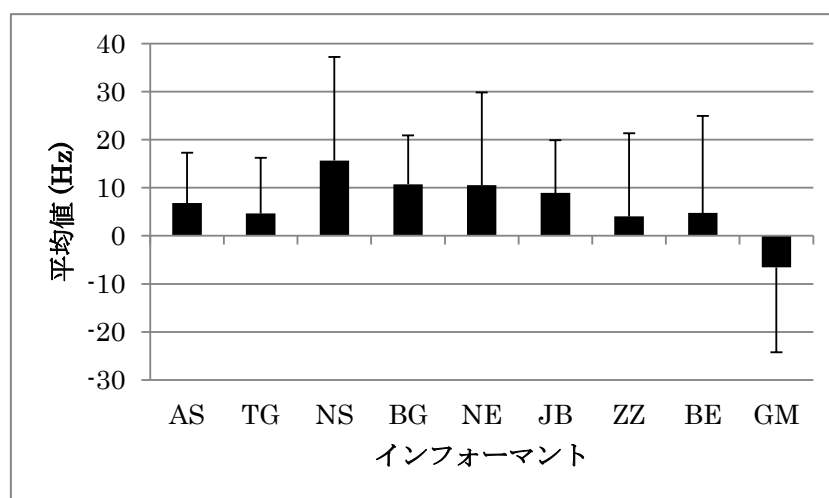


図 2 : F0 開始周波数の差（無声-有聲）の平均値

こちらもやはり、多くのインフォーマントでプラスの値となっており、平均値としても「有声音の F0 開始周波数 < 無声音の F0 開始周波数」という傾向が現れていることがわかる。無声音の F0 開始周波数と有声音の F0 開始周波数の間で対応のある場合の t 検定を行った結果、インフォーマント AS~JB では 1%水準で、ZZ と BE は 5%水準で有意差が検出された⁶。しかしながら、ここでもやはりインフォーマント GM ではマイナスの値となっており、予測とは逆の傾向が見られる。さらに、どのインフォーマントでも標準偏差の値が大きい（つまり値のばらつきが大きい）ことが見て取れる。

以上のことから、F0 の開始周波数については「有声音の F0 開始周波数 < 無声音の F0 開始周波数」という一定の傾向は見られるが、その傾向の強さは話者によって異なると言える。

4.2 F0 の遷移

本節では、F0 の遷移 ($F0_g$) について分析する。表 3 に示したように、F0 は有声音で上昇し、無声音では上昇しないことが指摘されている。この傾向がモンゴル語にも当てはまるかどうか検討する。

図 3 は、有声音・無声音のそれぞれについて、F0 が上昇した語の割合をインフォーマント別に示したものである。

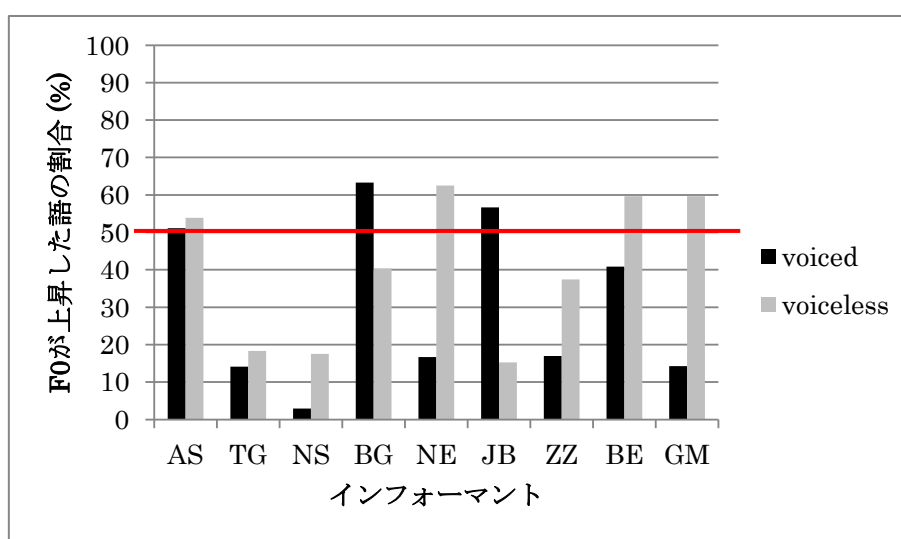


図 3 : F0 が上昇した語の割合

⁶ t 検定は平均の差の有無を検証するものであり、この場合は有声音の F0 開始周波数の平均と無声音の F0 開始周波数の平均を比較することになる。各データには音韻構造の異なる語が含まれているが、対応のある場合の t 検定では対応するデータ（ここではペアとなる語）の差を利用して検定を行うことから、音韻構造など他の要因による F0 の値の違いは検定結果に影響を及ぼさないと考えられる。詳しくは森・吉田編著(1990: 65-68)などを参照されたい。

有声音において、チャンスレベルである 50%を超える例は少なく、むしろ 50%を下回る例が多いことが見て取れる。これは、語頭が有声音である語の半数以上で F0 が下降したことを意味する。このことから、「有声音では F0 が上昇する」という傾向は見られないことがわかる。一方の無声音についても、4 名のインフォーマントにおいて、F0 が上昇した語の割合が 50%を上回っている。このことから、「無声音では F0 が上昇しない」とも言い難いことがわかる。

次に、F0_gの平均値をインフォーマント別に示す。F0_gの値がプラスであれば F0 が上昇したことを、マイナスであれば F0 が下降したことを表す。

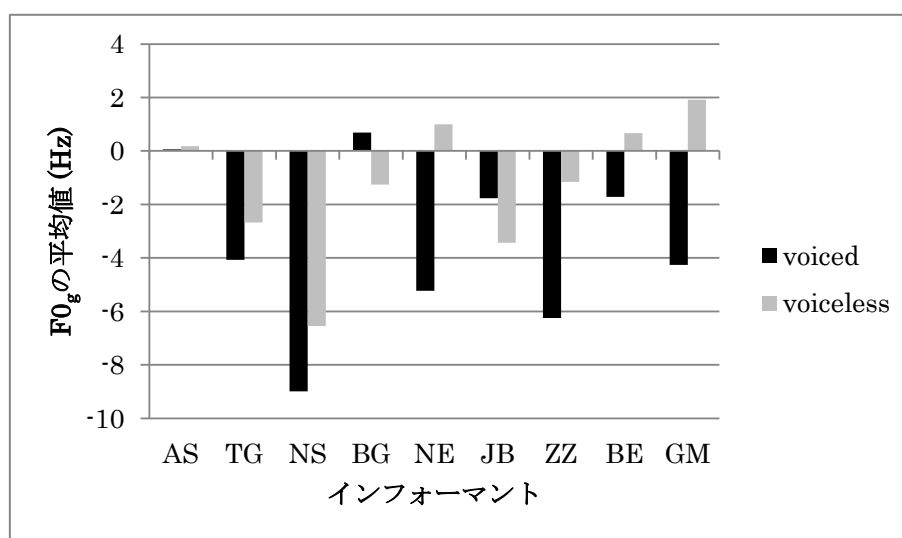


図 4 : F0 の遷移の平均値

図 4 から、「有声音では F0 が上昇する」という傾向は見られないことがわかる。むしろ、有声音で F0 が下降し、しかも無声音よりも下降の度合いが大きいケースが多い。他方、無声音に関しては、F0_gの平均値は概して小さく、プラスの値を取るインフォーマントにおいてもその値は 2Hz 未満という小さな値であることから、「無声音では F0 が上昇しない」と捉えることは不可能ではない。しかし、有声音の結果と併せて考えた場合に、「有声音では F0 が上昇するのに対し、無声音では F0 が上昇しない」という対立的な傾向は見られない。

以上の結果から、F0 の遷移については、先行研究で指摘されているような「有声音では F0 が上昇し、無声音では F0 が上昇しない」という傾向は見られないと結論付けられる。有声音、無声音ともに F0 の遷移に一定の傾向が見出されないことを考えると、有声音と無声音の間に F0 の遷移の明確な違いはないと解釈するのが妥当であろう。

5 調査結果 2 : F1

5.1 F1 の開始周波数

続いて、F1 の分析に移る。分析方法は F0 の場合と同じく、まずは「有声音の F1 開始周波数 < 無声音の F1 開始周波数」となるペアと「有声音の F1 開始周波数 > 無声音の F1 開始周波数」となるペアの数を比較する。表 3 に示したように、F1 の開始周波数は有声音で低く、無声音で高いことが指摘されている。この傾向がモンゴル語にも当てはまるならば、「有声音の F1 開始周波数 < 無声音の F1 開始周波数」となるペアの数が「有声音の F1 開始周波数 > 無声音の F1 開始周波数」となるペアの数よりも多いことが予想される。

図 5 は、「有声音の F1 開始周波数 < 無声音の F1 開始周波数」となるペアと「有声音の F1 開始周波数 > 無声音の F1 開始周波数」となるペアの割合を表したものである。

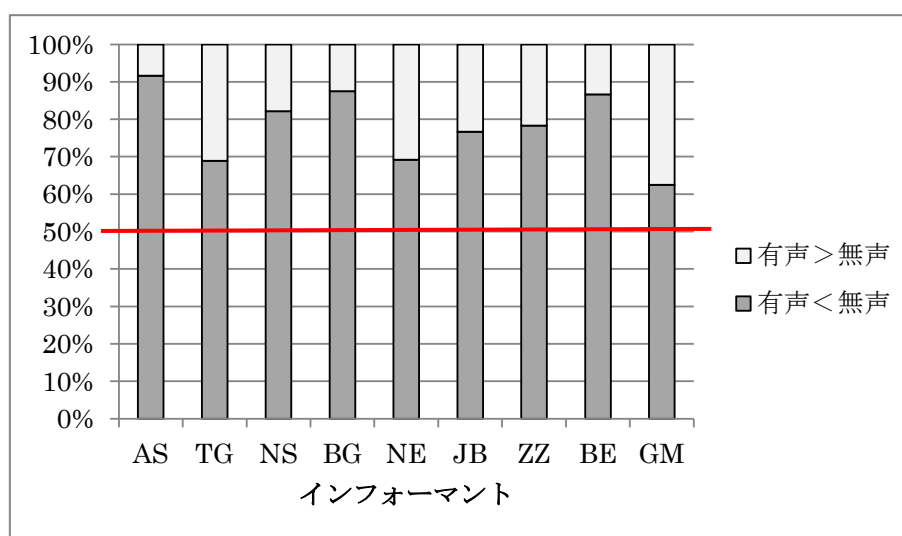


図 5 : F1 開始周波数の大小

図 5 から、全てのインフォーマントで「有声音の F1 開始周波数 < 無声音の F1 開始周波数」となるペアの割合が 50%を超えていることがわかる。つまり、有声音における F1 開始周波数は無声音における F1 開始周波数よりも低いという傾向が見られ、この傾向は表 3 に示した傾向と合致する。

次に、ペアとなる語における F1 開始周波数の値の差に注目する。図 6 は、ペアとなる語における無声音の F1 開始周波数と有声音の F1 開始周波数の差の平均値をインフォーマント別に表したものである。エラーバーは標準偏差（片側）を表している。

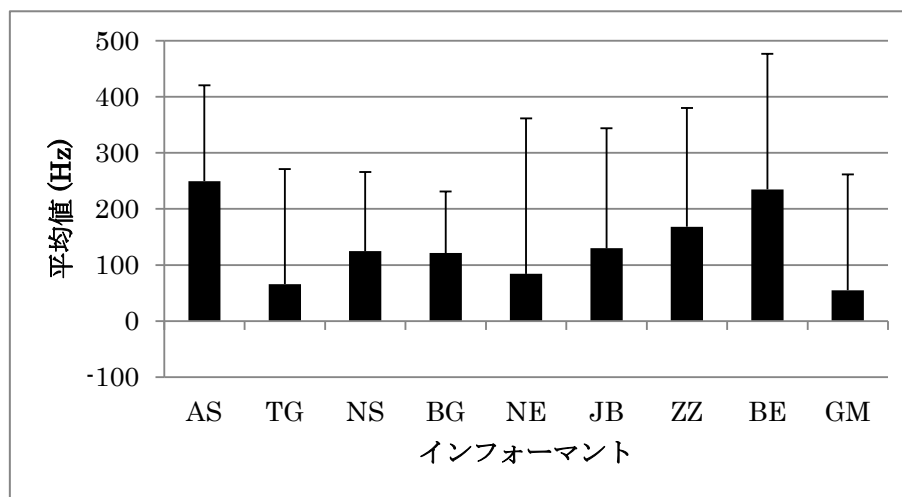


図 6 : F1 開始周波数の差 (無声-有声) の平均値

こちら、標準偏差の値は大きい (つまり値のばらつきは大きい) もの、平均値は全員でプラスの値となっていることから、平均値としても「有声音の F1 開始周波数 < 無声音の F1 開始周波数」という傾向があることがわかる。無声音の F1 開始周波数と有声音の F1 開始周波数の間で対応のある場合の t 検定を行った結果、全てのインフォーマントにおいて 1% 水準で有意差が検出された。

以上のことから、F1 の開始周波数については「有声音の F1 開始周波数 < 無声音の F1 開始周波数」という傾向が安定して見られると言える。

5.2 F1 の遷移

次に、F1 の遷移 ($F1_g$) について分析する。表 3 に示したように、F1 は有声音で上昇することが指摘されている。この傾向がモンゴル語にも当てはまるかどうか検討する。

図 7 は、有声音・無声音のそれぞれについて、F1 が上昇した語の割合をインフォーマント別に示したものである。

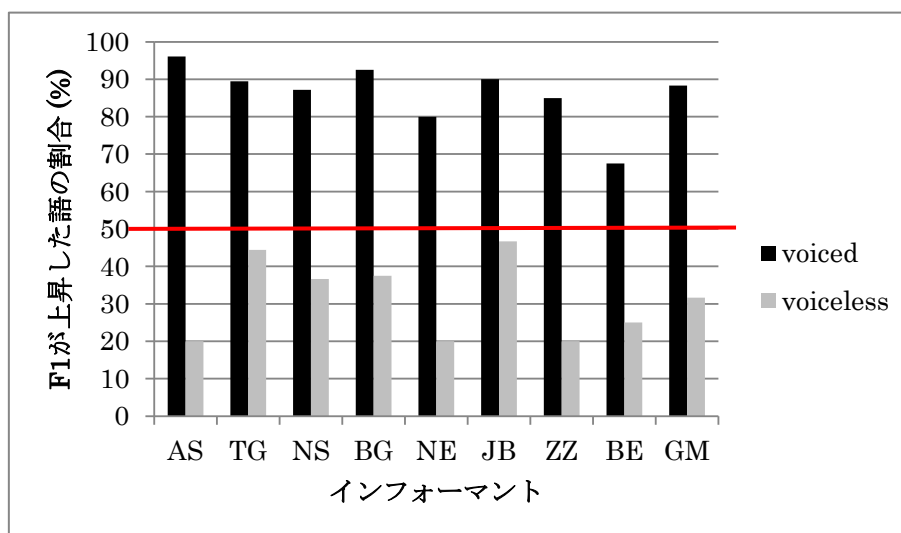


図 7 : F1 が上昇した語の割合

図 7 から、どのインフォーマントでも、有声音では F1 が上昇する語が多いことがわかる。割合としても、チャンスレベルである 50% を大きく上回っている。一方、無声音に関しては、F1 が上昇する語が多いとは言えない（むしろ F1 が下降する語が多い）と言える。

次に、 $F1_g$ の平均値をインフォーマント別に示す。 $F1_g$ の値がプラスであれば F1 が上昇したことを、マイナスであれば F1 が下降したことを表す。

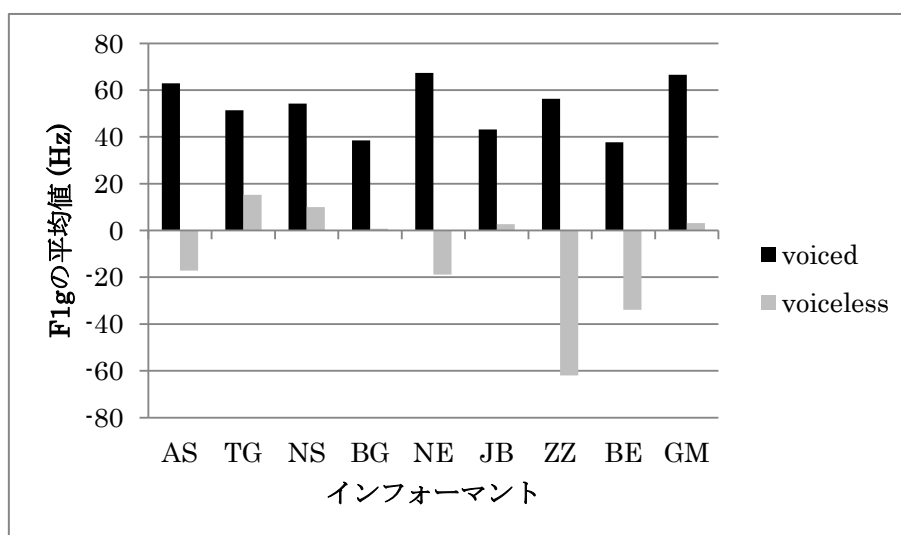


図 8 : F1 の遷移の平均値

図 8 から、有声音では F1 が上昇し、無声音では F1 が上昇しない（むしろ下降する）という傾向が顕著であることがわかる。無声音の $F1_g$ と有声音の $F1_g$ の間で対応のある場合の t 検定を行った結果、全てのインフォーマントにおいて 1% 水準で有意差が検出された。

以上の結果から、F1 の遷移については、有声音では上昇し、無声音では上昇しないという傾向が顕著に見られると結論付けられる。

6 まとめと考察

語頭阻害音において見られる F0 および F1 の特徴について、先行研究の指摘と本研究で得られたモンゴル語の結果をまとめると、以下のようになる。

表 7：語頭阻害音の F0, F1 のまとめ

音響的特徴	先行研究による指摘		モンゴル語での結果	
	有声音	無声音	有声音	無声音
F0 開始周波数	低	高	低い傾向	高い傾向
F0 の遷移	上昇	上昇無し	違いはない	
F1 開始周波数	低	高	低	高
F1 の遷移	上昇	(上昇無し)	上昇	上昇無し

モンゴル語の阻害音対立では、F0 の開始周波数に関しては概ね先行研究の指摘の通りの傾向が見られたが、差は概して小さく、話者による差が大きいという結果が得られた。また、有声音と無声音の間で F0 の遷移に違いは見られなかった。一方、F1 に関しては開始周波数、遷移ともに先行研究の指摘に合致する結果が得られ、有声音と無声音の間の差も比較的顕著であった。

このことが音韻論的に何を意味するか、現段階では定かではない。つまり、本研究では音声産出において F0 開始周波数、F1 開始周波数と遷移に一定の傾向が見られることを示したが、これらが無声音と有声音を区別する音響的なキューとしてどの程度用いられているのか（VOT の知覚を補完する形で働いているのか、VOT よりも有効な情報として用いられているのか、キューとして全く用いられていないのか）は明らかでない。本研究で得られたデータを利用し、知覚的な観点からもモンゴル語の阻害音対立の特徴を明らかにすることが今後の課題である。

謝辞

本稿の執筆に当たり、2 名の査読者から有益なコメントを頂戴した。ここに記して感謝申し上げる。なお、本研究は日本学術振興会・特別研究員奨励金および科学研究費補助金（研究課題「東部ユーラシア諸言語の動態的音韻研究—音声産出・知覚実験を軸に一」課題番号：17J06051）の助成を受けたものである。

略号一覧

1: 1人称 3: 3人称 HAB: 形動詞習慣 INT: 疑問小辞 NOM: 主格 POS: 所有
PP: 形動詞完了 QUOT: 引用 SG: 単数

参考文献

- Boersma, Pail and David Weenink (2012) Praat: Doing phonetics by computer (Version 5.3.23).
Online: <http://www.praat.org/>.
- Haggard, Mark, Stephen Ambler and Mo Callow (1970) Pitch as a voicing cue. *The Journal of the Acoustical Society of America* 47 (2): 613-617.
- 角道正佳 (1982) 「ハルハモンゴル語のピッチアクセント」 『大阪外国語大学学報』 56: 31-49.
- Karlsson, Anastasia M. (2005) *Rhythm and Intonation in Halh Mongolian*. Lund: Lund University.
- Kent, Ray D. and Charles Read (1992) *The Acoustic Analysis of Speech*. San Diego: Singular Publishing Group.
- Kluender, Keith R. and Andrew J. Lotto (1994) Effects of first formant onset frequency on [-voice] judgements result from auditory processes not specific to humans. *The Journal of the Acoustical Society of America* 95 (2): 1044-1052.
- Lisker, Leigh and Arthur S. Abramson (1964) A cross-language study of voicing in initial stops: Acoustical measurements. *Word* 20, 384-422.
- 森敏昭・吉田寿夫編著 (1990) 『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 京都：北大路書房.
- Poppe, Nicholas (1970) *Mongolian Language Handbook*. Washington, D. C.: Center for Applied Linguistics.
- Sambuudorj, O. (2012) *Mongol Xelnii Ügiin Duudlagiin Toli* [Pronouncing Dictionary of Mongolian]. Ulaanbaatar: Monsudal Sewleliin Gazar.
- 塩谷茂樹・E. プレブジャブ (2001) 『初級モンゴル語』 東京：大学書林.
- Svantesson, Jan-Olof and Anastasia M. Karlsson (2012) Preaspiration in Modern and Old Mongolian. *Suomalais-Ugrilaisen Seuran Toimituksia* 264: 453-464.
- Svantesson, Jan-Olof, Anna Tsendina, Anastasia M. Karlsson and Vivan Franzén (2005) *The Phonology of Mongolian*. Oxford: Oxford University Press.
- 高田三枝子 (2011) 『日本語の語頭閉鎖音の研究—VOT の共時的分布と通時的変化—』 東京：くろしお出版.
- Tsoloo, J. (1976) *Orchin Tsagiin Mongol Xelnii Awia Zii* [Phonetics in Modern Mongolian]. Ulaanbaatar: Mongolian Academy of Science.
- 山越康裕 (2012) 『詳しくわかるモンゴル語文法 (CD付)』 東京：白水社.

受理日 2018 年 4 月 14 日

南琉球宮古語下地皆愛方言 一簡略記述・談話資料・語彙集¹

セリック・ケナン

京都大学/NINJAL・takamori.celik@gmail.com

キーワード：南琉球宮古語、文法記述、言語ドキュメンテーション

1 はじめに

南琉球宮古語は伝統的に宮古諸島で話されている言語である。一つの言語であるとはいえ、集落単位で言語変種が異なり、少なくとも 40 の方言があると考えられる。現在は、数多くの記述研究が蓄積されており、詳細な記述が存在している方言が多くなっている(伊豆山 2002、下地来間:杉村 2003、伊良部長浜:Shimoji 2008、大神:Pellard 2009、池間西原:林 2013 など)。これらの研究により、宮古語の文法体系に対する理解が大きく深められてきた。しかし、記述の乏しい方言はいまだにたくさん残っており、宮古語の言語的な多様性が完全に明らかになっていないとは言えない。それに加えて、宮古語の正確な談話資料が一般的に少ないという状況が続いている。この 2 点を省みて、本稿では今まで記述のなかった下地皆愛方言を取り上げ、簡略記述、談話資料と語彙集を作成する。

2 下地皆愛方言の簡略記述

2.1 下地皆愛方言とは

皆愛方言は、宮古島の下地地域(上野村分村後の旧下地町)にある皆愛集落で話されている方言である。この集落は、平良方面からの一家に加えて上地(下地)と与那覇(下地)の村民とが移住して、近世末期にできたという(畑 1983)。筆者の観察では、皆愛方言は上地方言に近く、与那覇方言や平良方言とは一線を画している。このことから、村の創設において上地からの移住者が大半であったことが想像される。現在は集落内に 40 名ほどの住人がいるが、他の地域への移住者が多いため、皆愛出身者の数はそれより多いと考えられる。宮古のほかの地域と同様に、若い世代においては日本語への移行が進んでおり、宮古語が流暢に話せるのはおおよそ昭和 30 年以前に生まれた世代である。また、すべての皆愛方言話者は日本語との二重言語使用者である。

2.2 先行研究とデータ

皆愛方言に関する先行研究は、琉球方言クラブが編集した、農業を中心にした語彙を集めた冊子しかない(琉球方言クラブ 2017)²。本稿で扱うデータは、2014 年 4 月より現在までの数多くの実地調査で、主に昭和 30 年生(男性)と昭和 23 年生(女性)の話者から得たものである。

2.3 音素目録と音韻的規則

¹ 本研究はインフォーマントの長間三夫氏と友利京子氏の多大なるご協力によって可能となった。彼らは長年の間、日々の生活に追われながら自分たちの故郷の言葉をあきることなく丁寧に教えてくださった。心から感謝いたします。

² 丁寧な意味記述が施されているのとは対照的に、収録されている語形が正確であるとは言えない。また、この方言の音声的な実態に即していない音声記号が用いられている。

表 1 音素目録

子音	p, b, m, f, v, t, d, n, ts, dz, s, z, r, j, k, g, (h) ³
二重子音	pp, mm, ff, vv, tt, nn, tts, ss, kk
母音	i, ɿ ⁴ , u, a
長母音	i:, ɿ:, u:, a:, o:
母音連続	iɿ, ui, uɿ, ai, aɿ

[tɛ, dz, ɛ, z] の口蓋子音も存在しており、それぞれ [ts, dz, s, z] との最小対語が得られるが、前者の子音は、後者の子音とグライドの連続として分析することができる。そのため、tɛ, dz, ɛ, z を音素として立てず、その代わりにそれらの音声を子音とグライドの連続として分析する(1.)。この分析を採用すると、(グライドを除いた) どの子音もグライドに後続されうるという一般化が成立する(2.)。なお、i の後に a や u が続くと、i がグライド化する(3.)。グライド化した i に続く母音が短母音ならば代償延長が起こる(4.)。そのほかに、i と結合する ts, dz, s, z が口蓋化する (2.4 節以降は [tɛ, dz, ɛ, z] を tsj, dzj, sj, zj、[CjV] を CjV のように表記する)。

- (1.) [tɛ, dz, ɛ, z] は tsj, dzj, sj, zj のように分析する
- (2.) 子音とグライドの連続が許される
- (3.) i > [j] / _{a(:), u(:)}
- (4.) iV > [jV:] / V = {a, u}⁵
- (5.) ts, dz, s, z > [tɛ, dz, ɛ, z] / _i

u も a の前でグライド化することがある。この規則は u 終りの語彙に主題の助詞 =a が付与されるときに適用される(6.)。長母音は同じ母音の連続として分析する (節 2.4 以降は「:」を用いず「V₁V₁」のように表記する)。母音の連続は融合し、母音に続く i の連続は省略される(9.)。

- (6.) ua > [ʷa:]
- (7.) au > [o:] 例: [pindzo:] //pindza=u// 「ヤギ=ACC」
- (8.) ua > [a:] 例: [juka:] //juku-a// 「休む-HORT」
- (9.) ii > [i] / V_ 例: [bui] //bui-i// 「吠える-CVB」

m, n, v の子音が成節的になりうる。この方言では、*ti, *tu, *si, *su, *ki, *ku 由来の音節は有声子音に後続されるときや語末に立つときに基本的に有声性を伴って発音されており、フォルマントが観察できる。これらの音節が語末に立つ場合、語根末分節複写の際に有声性を持つ分節が複写される(2.3.1 節参照) ことも、これらの音節を成節的無声子音として分析することが不適切であること

³ h はその分布が非常に限られており、擬音語や感動詞以外は ahjaa 「子どもを産めなくなった雌豚」の一語にしか見られない。この語は atjaa 「当て.TOP」などと最小対を成すので、h を音素として認めざるを得ない。

⁴ この記号は宮古語の「摩擦母音」を表わす。この方言では歯茎の摩擦音を伴う「張唇後舌狭母音」である。

⁵ (3.)と(4.)を一つの規則としてまとめない理由は、後続する母音の代償延長が起こるのが短母音の場合のみであるからである。

を示している⁶。

- (10.) mm 「芋」、nn 「はい (承諾)」、vv 「売る」
 (11.) afu [afu] *[afu] *[af] 「カステラ」
 (12.) makɿ [makɿ] *[makɿ] *[maksɿ] 「蒔く」
 (13.) jaasɿ- 「ひもじい」 > jaasɿɿnu *jaassnu 「ひもじい.ADJZ」

2.3.1 語根末分節複写

派生形容詞や(主に形容詞語根を元に作られる)延長重複形が形成されるときに、語根末の分節が複写される。ただし、語根末において同じ分節が2モーラにわたって連続すると複写が行われない。更に、-u や -i に終わるいくつかの頻度の高い形容詞は不規則的な形式を示す(若い世代における -i 終りの形容詞は規則的)。

表 2 語根末分節複写

語根	派生形容詞形	延長重複形	備考	
jam-	「痛い」	jammnu	jamm~jam	語根末分節複写
kiv-	「煙たい」	kivvnu	kivv~kiv	語根末分節複写
jaasɿ-	「ひもじい」	jaasɿɿnu	jaasɿɿ~jaasɿ	語根末分節複写
mɿɿ-	「新しい」	mɿɿnu	mɿɿ~mɿɿ	複写無し
nn-	「似ている」	nnnu	nn~nn	複写無し
ffu-	「黒い」	ffoonu	ffoo~ffu	不規則形
ssu-	「白い」	ssoonu	ssoo~ssu	不規則形
upu-	「大きい」	upoonu	upoo~upu	不規則形
imi-	「小さい」	imeenu	imee~imi	不規則形 (古い世代)
kagi-	「きれい」	kageenu	kagee~kagi	不規則形 (古い世代)
imi-	「小さい」	imiinu	imii~imi	規則形 (若い世代)
kagi-	「きれい」	kagiiinu	kagii~kagi	規則形 (若い世代)

2.3.2 形態音韻規則

対格助詞 =u、副助詞 =atsɿm と主題助詞 =a が付与されるときに、いくつかの形態音韻変化が見られる。

表 3 形態音韻的規則

語末	=u	=atsɿm	=a
-n	-n=nu	-n=natsɿm	-n=na
-m	-m=mu	-m=matsɿm	-m=ma
-tsɿ, -dzɿ	-t=tsu	-t=tsatsɿm	-t=tsa
-sɿ	-s=su	-s=satsɿm	-s=sa
-fu	-f=fu	-f=fatsɿm	-f=fa
-pɿ, -bɿ, -kɿ, -gɿ, -Vɿ	-ɿ=zu	-ɿ=zatsɿm	-ɿ=za
-VV	-VV=ju	-VV=jatsɿm	-VV=ja

⁶ ただし、*ti、*tu、*si、*su、*ki、*ku 由来の音節を統一的に扱えない可能性もある。特に「語末」・「語末以外」、後続する子音の有声性やオンセットの子音などを条件に分岐が起こっているシナリオも考えられるが、詳細な議論は省く。

2.4 品詞

主な品詞としては、名詞、動詞、形容詞、副詞が認められる。名詞は、補語として機能する句の主要部として働く。動詞は、屈折接尾辞を伴い、節の述語として機能する。形容詞は名詞を、副詞は述語や節を修飾する。それに加えて、数詞、助数詞、感動詞という品詞もある。また、いくつかの品詞を跨いでいる範疇に指示詞と疑問詞がある。

2.4.1 数詞と助数詞

数詞と助数詞は、*tuu*「十」を除いて、拘束形態素である。数詞と助数詞が結合し、数量詞（名詞相当）を形成する。主なものを以下示す。

- (14.) 数詞 : *pɪtu-*「一」、*futa-*「二」、*mɪ(ɪ)-*「三」、*ju(u)-*「四」、*itsɪ-*「五」、*m(m)-*「六」、*nana-*「七」、*ja(a)-*「八」、*kukunu-*「九」、*tu(u)*「十」、*pata-*「廿」、*-su-*「十倍」、*mumu*「百」、*pjaaku*「百」
 (15.) 助数詞 : *-tsɪ*「～つ、～才」、*-kuu*「～個」、*-kara*「～匹、～頭」、*-sɪdzɪ*「～粒、～個」、*-ɟza*「～枚」、*-kiv*「～軒」、*-taaɪ*「～人」、*-para*「村」、*-ka*「～日」、*-ti*「～年」、*-n*「～回」

普通の名詞は基本的に数詞と直接結合することができない。しかし、期間や容量などを含意する名詞は、数詞と結合ができ、助数詞のように使われる。

- (16.) *tsɪkɪ*「月」、*pɪtu-tsɪkɪ*「一ヶ月」、*futa-tsɪkɪ*「二ヶ月」など
 (17.) *paku*「箱」、*pɪtu-paku*「一箱」、*futa-paku*「二箱」など

2.4.2 感動詞

感動詞は単独で使われ、一つの発話を成す。様々な感情を表すもの、応答・承諾を表すものや、談話標識となるものなどがある。いくつかの例を挙げる。

- (18.) *aba*「驚き」、*ahaa*「理解する瞬間」、*egee*「嫌悪など」、*agai*「感動詞」⁷
 (19.) *oo*「はい（目上に対して）」、*nn(na)*「はい（同等や目下に対して）」、*aai*「いえ」
 (20.) *nnja*「フィルター」、*nn*「検索中」、*(?)ee*「修正」

2.4.3 指示詞

指示詞は3系列（*ku-*：近称1、*u-*：近称2、*ka-*：遠称）である。3系列とも直示的用法を持っているが、前方照応の用法は近称2の系列に限る。指示詞の語根を元に様々な品詞の語が作られる。また、指示詞の語根は、*nagi*「長さ」、*nagai*「永さ」、*daki*「高さ」、*pugi*「大きさ」、*sɪki*・*sɪka*「量」、*daanaa*「遠さ」などの名詞と結合して一種の副詞を作る。この場合、近称1は小、近称2は中、遠称は大の程度を表わす(21.)(22.)(23.)。

⁷ 抑揚により、様々な感情を表わす。

表 4 指示詞の体系

形式	品詞	近称 1	近称 2	遠称
(語根)「こ」		ku-	u-	ka-
名詞形「これ」 ⁸	名詞	ku(r)i	u(r)i	ka(r)i
場所形「ここ」	名詞	kuma	uma	kama
修飾形「この」	連体詞	kunu	unu	kanu
副詞形「このように」	副詞	kan	an	無し
副詞形「このように」	副詞	kaneii	aneii	無し
感嘆形	感動詞	kuja	uja	kaja
フィラー形	感動詞 (談話標識)	kunu(u)	unu(u)	kanu(u)

(21.) ku-sɿki 「こんなにたくさん (少量)」

(22.) u-sɿki 「そんなにたくさん (中間ぐらいの量)」 (前方照応の用法もある)

(23.) ka-sɿki 「あんなにたくさん (大量)」

以上の形式に加えて、仕草直示的な副詞 eetti 「(仕草をしながら) こうして」もある(24.)。

(24.) fukkin ui=shii eettii fuky=uu-taa=ttsa
 布巾 PROX2=INST このように 拭く=IPF-PST=HS
 「布巾、それで、こう (動作を示しながら) 拭いていたそうだ」(自然談話)。

2.4.4 疑問詞

表 5 疑問詞

品詞	疑問詞	形式
名詞	誰 (主格・属格専用)	taa
	誰	too
	何	noo
	どれ	ndzi
	どこ	ndza
	いつ	itsɿ
副詞	どう	nooeii
	なぜ	noo, nootii, noosɿti
接頭辞	どれほど、どれぐらい	i-
	幾	ifu-

特定不定詞 (specific indefinite pronoun) は、疑問詞に =garaa を付けて形成する(25.)。不特定不定詞 (non-specific indefinite pronoun) は、疑問詞が主要部となっている句に =mai をつけて表す(26.)。または疑問詞同士を複合語化させて形成することもできる(27.)。

(25.) too=garaa 「誰=INDER (誰か)」

(26.) too=mai 「誰=INC (誰も、誰でも、everybody/nobody)」

⁸ r が脱落している形式 kui、ui、kai の方がよく使われる。

(27.) too+doo⁹ 「誰+誰 (だれそれ)」

2.5 名詞

2.5.1 指称辞-gama

指称辞の -gama は、名詞を派生させ、大きさや程度の小さいこと、量の少ないこと、距離の近いことなどを表す。そのほかに軽蔑の意味合いを表すこともできる。さらに、動詞の名詞形にも付き、「少し～する」という意味を表す。なお、この接尾辞は名詞に限らず、派生形容詞や副詞にも附く。

(28.) 大きさの小さいこと : mii-gama 「目-DIM (小さな目)」

(29.) 量の少ないこと : dzin-gama 「金-DIM (少量のお金)」

(30.) 距離の近いこと : jukaara-gama 「横-DIM (すぐ横)」

(31.) 軽蔑 : kateoo-gama 「課長-DIM (課長め)」

(32.) 動詞の名詞形 : juku-u-gama 「休む-NMLZ-DIM (少し休むこと、ちょっと休むこと)」

(33.) 派生形容詞 : mmi-inu-gama 「小さい-ADJZ-DIM (ちっちゃい)」

(34.) 副詞 : mmittea-gama 「少し-DIM (ほんの少し)」

2.5.2 複数の派生接辞 -ta、-nukjaa

指称辞の後に位置する2つの複数接辞、-ta と -nukjaa とがある。どの接辞が使われるかは、この言語の名詞の階層性によって決まる。

表 6 複数接辞の分布

-ta	代名詞、指示詞、疑問詞の一部 (誰、どこ、どれ)
-ta / -nukjaa	呼称可能名詞 (固有名詞、目上の親族名詞など)
-nukjaa	その他の名詞

(35.) ban-ta 「私-PL」、ui-gama-ta 「それ-DIM-PL」、too-ta 「誰-PL」

(36.) adza-ta、adza-nukjaa 「兄-PL」、eateoo-ta、eateoo-nukjaa 「社長-PL」

(37.) ututu-nukjaa (*ututu-ta) 「弟妹-PL」、noo-nukjaa (*noo-ta) 「何-PL」

一人称においては、排他的複数 banta 「1PL.EXCL」 < *ban-ta 「私-PL」と包括的複数 duuta 「1PL.INCL」 < *duu-ta 「REFL-PL」の区別がある¹⁰。

2.5.3 格助詞に先行する助詞

派生接辞の後、格助詞の前に位置する3つの助詞がある。これらは、=tssu 「～め、～のやつ」、場所や方向名詞などに附く =nagi 「～あたり」と数量詞によく附く =bakaaŋ 「～ぐらい」である。

(38.) nuuma=tssu=mai 「馬=EMPH=INC (馬のやつも)」

⁹ 連濁が起こっているということが、この形式が重複形ではなく、複合語であることを示す。

¹⁰ いわゆる「原双数」の形式 baafutaa (下地 2017) は得られなかった。「私達二人」に対して、「二人」のところを訳出しないのが普通である。その意味合いを話者に強いて訳してもらおうと、分析的な表現が使われる。なお、この方言の duu 「REFL.SG」は、伊良部や池間方言の duu 「REFL.SG, 1PL.INCL」と違って、単数専用形である。

(39.) uma-ta=nagi 「そこ-PL=APPR (そこらへん)」

(40.) ku-dzi=bakaaɣ=n 「九-時=APPR=D/L (九時ぐらいに)」

2.5.4 格助詞

格助詞を以下に示す。格助詞の用法は宮古語の他の方言と大きな差はない。詳しい用法については、先行研究 (Shimoji 2008 p.188 より、Pellard 2009, p.179 より、林 2013 p.104 より)、または、本稿のテキストにある実際の例を参照されたい。

表 7 格助詞

格	略号	日本語	形式
主格	NOMinative	～が	=ga, =nu
属格	GENitive	～の	=ga, =nu
対格	ACCusative	～を	=u
非活格 ¹¹	STATive	(対応形無し)	=a
与格	Dative/Locative	～に、～で	=n
向格	ALLative	～へ、～に	=nkai
方格	DIRectional	～に向かって	=nkaei
目的	PURPositive	～(し)に	=ga
向格 2	ALLative 2	～に行ってそこで	=iki
奪格 ¹²	ABLative	～から	=kara
限定	LIMitative	～まで	=gami
具格	INSTrumental	～で	=eii
供格	COMitative	～と	=tu
引用	QUOTative	～と	=tii
比較	COMParative	～より	=juɣkja, =juɣza
似かより	SIMilative	～のように	=neii

この言語では、主格と属格が形式的に区別されていない。主格・属格を表す形式は2つあるけれども、どの形式が使われるかは、おおよそこの言語の名詞の階層性によって決まる。すなわち、=ga は、代名詞、指示詞の名詞形、疑問詞の「誰」、呼称可能な名詞に附く。そのほかに、複数の接辞-ta を含む名詞、mmna 「皆」や慣用句における時間名詞にも附く。=nu は、それ以外の名詞に附く。

¹¹ これは、いわゆる「第二対格」(Shimoji 2008, Shimoji 2016) の形式に対応しているが、セリック・林 2017 で示したように、=a は、自動詞文の主語もマークできそれを対格の標識として分析することは適切ではない。その分布からする非活格の標識であると考えられる。

¹² funi=kara ik-a 「船=ABL 行く-HORT (船で行こう)」のように、移動の手段も表わせる。この場合、具格の =eii も可能だが、その違いが未詳である。

表 8 =ga の分布

=ga が付く要素	例
代名詞	ba=ga 「私=N/G」 vva=ga 「君=N/G」 duu=ga 「自分=N/G」
指示詞 (名詞形)	kui=ga 「これ=N/G」 ui=ga 「それ=N/G」 kai=ga 「あれ=N?G」
「誰」	taa=ga 「誰=N/G」 too=ga 「誰=N/G」
名詞 (呼称可能)	adza=ga 「兄=N/G」 anga=ga 「姉=N/G」 eincii=ga 「先生=N/G」
-ta 派生名詞 (語彙的指定) 慣用句	uja-ta=ga 「父-PL=N/G」 (cf. uja-nukjaa=nu 「父-PL=N/G」) eatcoo-ta=ga 「社長-PL=N?G」 mmna=ga 「皆=N/G」 kjuu=ga juu 「今日=N/G 夜 (今晚)」

動詞の名詞形に限って、主格・属格の形式の分裂が見られる。主格のときに =nu が使われているが、属格の助詞を含む表現と共起する場合は =ga が使われる。

- (41.) foo=nu=du isugasɿ-kaa
 食べる.CNMLZ=NOM=FOC 忙しい-VRB
 「食べるのが忙しい」

- (42.) foo=ga tsɿmyaa=n
 食べる.CNMLZ=GEN ため=D/L
 「食べるがために」

2.6 動詞

2.6.1 活用クラスと拡張語幹

動詞は、活用の仕方 (拡張語幹の数・形式、附く派生接辞や屈折接辞の形式など) により、2つのクラスが認められる。クラス 1 動詞は、古典日本語の四段動詞に対応し、3つの拡張語幹を持っているのに対し、クラス 2 動詞は、一段・二段動詞に対応し、4つの拡張語幹を持っている。各動詞の活用クラスははっきりとしているが、sɿn-「死ぬ」のみ折衷的な活用を示す。更に、いずれの活用クラスにも属さない不規則的動詞、ss-「する」と kss-「来る」とがある。

表 9 クラス 1 動詞の拡張語幹

語幹	拡張分節	例 (kak-「書く」)
基本語幹	(動詞により) -ɿ-, -	kak-ɿ-
i 語幹	u-, -ø-	kak-i-
a 語幹 (未然形)	-i-	kak-a-

表 10 クラス 2 動詞の拡張語幹¹³

語幹	拡張分節	例 (uk-「起きる」)
基本語幹	-i-	uk-i-
u 語幹 (未然形)	-u-	uk-u-
iri 語幹	-iri-	uk-iri-
iru 語幹	-iru-	uk-iru-

(43.) ss-「する」の拡張語幹 : ss-ɣ-, ɕɕ-i-, s-uu-, s-i(i)-, s-iiru-

(44.) kss-「来る」の拡張語幹 : kss-ɣ-, kɕɕ-i-, k-uu-

語根と拡張語幹のうち、どれが用いられるかは後続接辞により決まる。言い換えると、接辞の中には、直接語根に付くものと、特定の拡張分節を経て付くものがあるのである。例えば、接続接辞の -i は直接語根に付くが、継起接辞の -tti は拡張分節 -i- を介する。

(45.) kak-i「書く-CVB」、uk-i「起きる-CVB」

(46.) kak-i-tti「書く-THM-SEQ」、uk-i-tti「起きる-THM-SEQ」

2.6.2 動詞述部の構造

動詞述部に関わる様々な文法範疇を表すために様々な方法が用いられている。その主なものが以下のようなものである (47.~51.)。必要に応じて、複数の方法を組み合わせることも可能である。それぞれの方法を詳しく見ていく。

(47.) 形態的操作 : 語根 (－派生接辞) (－拡張語幹母音) －屈折接辞

(48.) 接続形構文 : 語根－接続接辞 補助動詞

(49.) 複合語化 : 複合語語幹＋補助語

(50.) 述語焦点構文 : 名詞形＝焦点助詞＝軽動詞

(51.) 重複 : RED～基本語幹 (補助動詞)

2.6.2.1 形態的操作 : 派生接辞と屈折接辞

この言語に関しては、「派生接辞」と「屈折接辞」とを区別する際に「拡張語幹を作りうるかどうか」という基準を用いることができる。したがって、接辞のうち、拡張語幹を持つものを「派生接辞」、拡張語幹を持たないものを「屈折接辞」とみなす。例えば、意志の接辞が、-di- の語幹のほかに -ttei-「意志.i 語幹」と -dzaa-「意志.a 語幹」の拡張語幹を持っているので、それを派生接辞として分類する¹⁴。

以下に派生接辞をその付く順番で示す。派生接辞を同時に複数個付けることは可能だが、その付く順番は決まっている。これらの接辞が述部において異なる位

¹³ クラス 2 動詞は、拡張語幹の母音交替 (uk-i-tti「起きる-THM-SEQ」uk-u-n「起きる-THM-NEG」など) により、一部の動詞の語根を子音終り (uk-「起きる.ROOT」) として見做さなければならない。そのため、クラス 2 動詞を「母音語根動詞」のように分析することができない。語根が子音終りと母音終りの動詞が両クラスに存在している (例えば、クラス 1 : kak-「書く」、fa-「食べる」、クラス 2 : uk-「起きる」、bui-「吠える」)。

¹⁴ 具体的に ika-di「行く.VOL.BAS」、ika-ttei-ba「行く-VOL.iStem-CSL」、ika-dzaa-n「行く-VOL.aStem-NEG」のように活用する。

置を占めていることは述語焦点構文や継続相構文などから明瞭である。述語焦点構文においては、「使役 1」、「使役 2」、「可能・受身」の接辞が焦点助詞の前に、「尊敬」と「過去」の接辞が焦点助詞の後に附く（「意志」と「否定」の接辞は述語焦点構文では使えない）。また、継続相構文においては、「使役 1」、「使役 2」、「可能・受身」の接辞が本動詞に、「尊敬」、「意志」、「否定」、「過去」の接辞が補助動詞に附く。

表 11 派生接辞

-as-	「使役 1」
-(s)ɣm-	「使役 2」
-(r)a(r)- ¹⁵	「可能・受身」
-(s)ama-	「尊敬」
-di-	「意志」
-n-	「否定」
-tar-	「過去」

(52.) mat- as- ar- i- -sama- t- tar-
待つ CSTPASS THM HON NEG PST

(53.) mat- as- ar- i =du =s- ama- ɣ- tar-
待つ CSTPASS CVB FOC する HON THM PST

(54.) mat- as- ar- i (=du) ur- ama- t- tar-
待つ CSTPASS CVB FOC IPF HON NEG PST

使役 1 は基本的に語根末分節が s 以外の単子音に終わるクラス 1 動詞に附くのに対し、使役 2 はその他の動詞に附く。また、意志と過去の接辞は共起できない。

(55.) kak- 「書く」 kak-as- 「書く -CST1」

(56.) kss- 「切る」 kss-as- 「切る -CST1」

(57.) pus- 「干す」 pus-ɣm- 「干す -CST2」

(58.) uk- 「起きる」 uk-i-sɣm- 「起きる -THM-CST2」

屈折接辞は、文を終わらせる述語形を形成するものと、そうでないものに分けることができる。以下にその 2 種の接辞とそれぞれの付き方を示す。

¹⁵ 交替の時に r が脱落する -(r)a- の形が一般的である。

表 12 屈折接辞 (終止形)

機能	略号	クラス 1	クラス 2
基本	BASic	{root}-ŋ, -u, -ø	{root}-i
勧誘	HORTative	{root}-a	{root}-u
命令	IMPerative	{root}-i	{BAS}-ru
命令 2 ¹⁶	IMPerative 2	{iStem}-ari	{BAS}-ari
禁止	PROHibitive	{BAS}-na	{BAS}-nna
疑問	INTerrogative	{iStem}-aa	{iriStem}-aa
m 語尾	REALis		{BAS}-m
未来	FUTure		{BAS}-gamata
反語	RHETorical	{BAS}-mmaa, {IRRS}-mmaa	
願望	OPTative		{IRRS}-baa

表 13 屈折接辞 (複動詞形)

機能	略号	クラス 1	クラス 2
理由	CauSaL	{iStem}-ba	{iruStem}-ba
確定条件 1	CIRCumstantial	{iStem}-ba	{iruStem}-ba
確定条件 2	CIRCumstantial 2	{iStem}-aa	{iriStem}-aa
譲歩	CONCessive	{iStem}-aamai	{iriStem}-aamai
継起	SEQuential	{iStem}-tti	{BAS}-tti
付帯	BACKground	{iStem}-utii	{BAS}-utii
接続	ConVerB		{root}-i
逆接	CONTRadictive		{BAS}-suga
条件	CONDitional	{BAS}-kkaa, {NEG.CVB}-kaa	
同時	SIMULTaneous		{BAS}-gatsɿna
時間	TEMPoral		{BAS}-kja
確定条件 3	CIRCumstantial 3		{IRRS}-ba
譲歩 ¹⁷	CONCessive		{IRRS}-bam(ai)

基本の接辞は、基本語幹の拡張分節と同じもので、「連体」、「準体」、「名詞化」、「複合語語幹形成」¹⁸などの機能を果たしている。

(59.) 連体 : kak-ŋ pstu 「書く-ADN 人」

(60.) 準体 : kak-ŋ=nu=du pita 「書く-CNMLZ=NOM=FOC 下手」

(61.) 名詞化 : sɿm+kak-ŋ 「墨+書く-NMLZ (墨書き。勉強・学問の意)」

(62.) 複合語語幹 : kak-ŋ+padzɿm- 「書く-CS+始める」

¹⁶ この形式は宮古で広く見られ (例えば Pellard 2009, p.200)、「～して取らせ」や「～して頂戴」などの意味合いを表す。歴史的には本動詞の連用形に jar- 「やる、与える」の命令形が付いた構文に由来していると思われる。

¹⁷ -aamai と -bam(ai) は自由に交替しており、同じ範疇を表わしている。そのため、どちらの形式に対しても同じグロスを振る。

¹⁸ 「準体」「名詞化」「複合語語幹形成」のいずれの機能も動詞を名詞化させる点で共通する。これら 3つの機能は、この方言では同じ接辞が兼ねるので、ひとつにまとめた分析も可能であろう。

2.6.2.2 接続形構文

動作の強調、方向、受益やアスペクトなどを表すために、接続形の本動詞の後に屈折接辞を担う補助動詞を後続させるという分析的な構文が用いられる。後続する補助動詞が本動詞に接語化することがある(母音始まりの補助動詞の場合はグライド化の規則が適応する)(63.)。また、複数の補助動詞を同時に用いることも、それぞれが異なる範疇に属する限り、可能である(63.)(64.)。なお、述語が焦点化される場合、焦点助詞が本動詞に附く(64.)。主な補助動詞を以下に示す(括弧内は本動詞として使われる時の意味)。

表 14 接続構文補助動詞一覧

強調	kair- 「強調 (自動詞)」 (返る) kairas- 「強調 (他動詞)」 (返らせる)
方向	kss- 「方向・進行」 (来る) ik- 「方向」 (行く)
経験	mi- 「経験・試し」 (見る)
受益	fi- 「受益 1」 (くれる) turas- 「受益 2」 (取らせる)
アスペクト	ur- 「継続相」 (おる) ar- 「完了 1」 (ある) njaan 「完了 2」 (ない) uk- 「完了 3・間接的証拠・反事実」 ¹⁹ (本動詞としては使われないが、日本語の「置く」と同源) ²⁰

(63.) bata=nu=du idi kee=uu
腹=NOM=FOC 出る.CVB GRAD.CVB=IPF
「お腹が段々出てきている」

(64.) amai=du kairj=uu
笑う.CVB =FOC INTSF.CVB=IPF
「爆笑している」

2.6.2.3 複合語化

動詞の複合語語幹(基本語幹に同じ)に動詞ないし形容詞を複合させて、様々な意味を加えることができる。この用法は生産的でありながら、後部要素になりうる語に限られている。すなわち、動詞と動詞、又は動詞と形容詞の複合語を自由に形成できるというわけではない(たとえば、動詞と動詞との複合語の代わりに、接続形を使った構文が用いられることもある)。後部要素になりうる主なものを以下に示す(表 15)。なお、後部要素の品詞が複合語の品詞を決定する。

¹⁹ この補助動詞についてはかりまた 2013 が詳しい。

²⁰ 宮古のどの方言でも「置く」には utsɿk- 系の語が対応する。これは、本来の uk-「置く」に、utsɿ-「強調」という接頭辞が付いた形式に由来していると考えられる(『おもろそうし』にもこの形式がある。『沖縄古語大辞典』p. 100)。この接頭辞が今でも本来の意味で使われる例は utsɿ-fuur-「激しく振る」や utsɿ-tummaar-「慌てて引き返す」などがある。

表 15 複合語化の要素

動詞	padʒɪm-	「～し始める」
	uwar-	「～し終わる」
	pat-	「～しはてる、完全にする」
	pacchak-	「～しそこなう」
	juus-	「～しきれる」
	kan-	「～しかねる」
形容詞	busɪ-	「～したい」
	-ta-	「～したい」
	guri-	「～しにくい」
	jasɪ-	「～しやすい」
	pada-	「～するここちが良い」
	dzɪmi	「～するのが気持ちいい」
	guu(gi)-	「～しそう」
	busɪki-	「～しそう」

(65.) karj=aa mjaaku+fut=tsu=baa aɪ+juusa-n
 あれ=TOP 宮古+語=ACC=TOP 言う+POT2-NEG
 「彼は宮古方言が言いきれない」

(66.) niv+pada-anu jaa
 寝る+心地よい-ADJZ 家
 「寝心地の良い家」

(67.) sakj=uu num+busɪki+mipana
 酒=ACC 飲む+SEMBL+顔
 「酒を飲みそうな顔」

2.6.2.4 述語焦点構文

接続形構文や一部の副動詞形が使われている場合などを除いて、動詞が焦点化されると特別な構文を用いなければならない。この構文は、動詞の名詞形と焦点助詞とそれに接語化した軽動詞 =(s)s- 「する」²¹から出来ている。また、軽動詞がどの接辞も取りうるというわけではなく、この構文は現在のところ、-tar- 「過去」、-ɪ 「定性」、-suga 「逆接」、-ba 「理由」の接辞を伴ってしか確認できていない。

(68.) V-NMLZ=FOC=(s)s-²²

²¹ 著者の観察では、年輩の話者は =ss- を使い、若い話者は =s- を使う傾向がある。他の方言の記述を見ると、=du=s- の方が一般的であるようだが、隣の集落で話されている与那覇方言では、=du=ss- という形式が一般的である。なお、ss- 「する」が意思の接辞 -di や引用助詞の =tii の後でも接語化し、同様の役割を果たしていることを考えると、=du=ss- を -duss- のように一つの派生形態素として分析することは適切ではないと言える。

²² この方言では、長浜方言など (cf. Shimoji 2008) と異なり承諾疑問文専用の焦点助詞はない。従って、承諾疑問文においても =du が使われる。例えば、uug-ai=du=ssɪ? 「泳

- (69.) kak- ɣ =du =(s)s-
書く -NMLZ=FOC=する
「書きぞする」

2.6.2.5 重複

動作の反復（場合により強調も兼ねる）を表すために、動詞の基本語幹の完全重複形が使われる。この形式は単独でも使われるが、主題の助詞が附いた接続形や継起形の動詞と共に起ることが多い²³。なお、接続形を用いた構文は、2つの語彙動詞を使うものもあれば、重複形の述語が単に「強調」を表す動詞（kair-「返る・強調」、tiv-「投げる・強調」）であることもある。

- (70.) RED~V₂.BAS

- (71.) V₁-CVB(=TOP) RED~V₂.BAS

- (72.) V₁-SEQ(=TOP) RED~V₂.BAS

- (73.) foo~foo

RED~食べる .BAS

「何回も食べる、繰り返して食べる」

- (74.) ni-i=ja

fii~fii

料理する -CVB=TOP RED~あげる .BAS

「何回も、しきりに食事を作って、あげる」

- (75.) nuur-i-ttj=aa

uri~uri

乗る -THM-SEQ=TOP RED~降りる .BAS

「何回も乗ったり降りたりする、乗り降りを繰り返す」

- (76.) namm-j=aa

tiv~tiv

舐める -CVB=TOP RED~INTSF.BAS

「舐めまわす」

重複形は品詞を変える派生形であるが、その品詞が問題となる。まず、一部の副詞と同じ振る舞いを示す（従属節の一種として分析することも可能かもしれない）。すなわち、述語を修飾し、補助動詞 *ur-* を以て述語化することができる(77.)(78.)。他方、軽動詞の対格項になりえ、名詞として振舞うことがある(79.)。そのほかに、=nu を経て名詞を修飾することができる(80.)。

- (77.) ffa=nu abik-j=aa kaɣ~kaɣ kee-i

子=NOM 喘ぐ -CVB=TOP RED~INTSF 来る -CVB

「子供がひどく息を切らした状態で来て」(自然談話)

ぐ -POT.NMLZ=FOC=する (泳げるの?)」。

²³ 一般的に主題の助詞が附くが、義務的ではない。

- (78.) futaaɿ=ɕii nnya tsɿnkɕɕ=aa foo~foo uu-kkaa
 二人=INST FIL 千切る.CVB=TOP RED~食べる IPF-COND
 「二人で（蒲鉾を）千切って食べるのを繰り返していたら」（自然談話）
- (79.) iki-ttj=aa kssɿ~kss=su=du ɕiij=uu
 行く-SEQ=TOP RED~来る=ACC=FOC する.CVB=IPF
 「行ったり来たりしている」
- (80.) agar-i-ttj=aa sagaɿ~sagaɿ=nu kabu
 上がる-THM=TOP RED~下がる=GEN 株
 「絶えず上がったり下がったりする株」

2.7 形容詞

形容詞の中で、単純形容詞、派生形容詞とナ形容詞の3つの下位クラスが認められる。単純形容詞は、拘束形態素で、複合語化することにより名詞を修飾する。派生形容詞は、派生形であり、そのまま名詞を修飾することができる。ナ形容詞は-naを経て名詞を修飾する。なお、叙述的な用法の場合、派生形容詞とナ形容詞はそのまま述語として機能できるが、単純形容詞は、語彙的な意味を持たないmunuと複合語を形成しなければならない。ただし、-gi「~ようだ」によって派生された単純形容詞はそのまま叙述的な述語として機能できる。

表 16 形容詞下位クラスの特徴

形容詞クラス	名詞修飾	叙述
単純形容詞	A+N	A+munu
単純形容詞 (-gi 派生)	A+N	A, A+munu
派生形容詞	A N	A
ナ形容詞	A-na N	A

(81.) 名詞修飾用法

- (81.)a) 単純形容詞 : upu+dzɿma 「大きい+島」
 (81.)b) 単純形容詞(-gi) : dzɿmi-gi+sɿma 「すばらしい-SEMBL+島」
 (81.)c) 派生形容詞 : upo-onu sɿma 「大きい-ADJZ 島」
 (81.)d) ナ形容詞 : dzɿmi-na sɿma 「すばらしい-ATTR 島」

(82.) 叙述用法

- (82.)a) 単純形容詞 : unu sɿma=a upu+munu 「その 島=TOP 大きい+もの」
 (82.)b) 派生形容詞 : unu sɿma=a upo-onu 「その 島=TOP 大きい-ADJZ」
 (82.)c) 派生形容詞 : unu sɿma=a dzɿmi-gi(+munu) 「その 島=TOP すばらしい-SEMBL(+もの)」
 (82.)d) ナ形容詞 : unu sɿma=a dzɿmi 「その 島=TOP すばらしい」

派生形容詞は、主に単純形容詞を元に作られているが、名詞を元に作られている例もある。対応している派生形容詞がない単純形容詞もある。ナ形容詞は少数で、日本語からの借用語である。

- (83.) upu- 「大きい」 > upo-onu 「大きい-ADJZ」
 (84.) mii-gama 「目-DIM」 > mii-gama-anu 「目-DIM-ADJZ (目が小さい)」
 (85.) junu- 「同じ」 *junu-unu 「同じ-ADJZ」
 (86.) daidzɿ 「重要、大変」、dami 「だめ」、dzɿmi 「すばらしい」、bukuu 「不器用」

形容詞の大きな特徴として、品詞を変える派生形を多用することがあげられる。例えば、「ひもじい」に対して、6通りの言い方が可能で、そのうち4通りは品詞を変える派生形が使われている(1通り目の「jaasɿ+munu」は複合語であり、派生形として分析しない)(87.)~(92.)。(87.)と(88.)との意味の違いは現在のところ未詳である。(89.)と(90.)は程度の大きいことを表わしていると考えられる。また、(91.)と(92.)については、以下に詳しく述べる。

表 17 形容詞の派生形

派生	品詞	名詞修飾	叙述	焦点助詞との共起	例 taka- 「高い」
-ccha	副詞	=nu	ur-	o	taka(a)-ccha
重複	副詞	=nu	ur-	o	takaa~taka
-fu	副詞	(ar-)?	ar-	o	taka-fu
-kar-	動詞	o	O	x	taka-kar-

o : そのまま可能、x : 不可能

- (87.) jaasɿ+munu 「ひもじい+もの」
 (88.) jaasɿ-ɿnu 「ひもじい-ADJZ」
 (89.) jaasɿɿ~jaasɿ(=du) uu 「RED~ひもじい(=FOC) AUX」
 (90.) jaasɿɿ-ccha(=du) uu 「ひもじい-ADV2(=FOC) AUX」
 (91.) jaasɿ-fu=du=aa²⁴ 「ひもじい-ADV=FOC=AUX」
 (92.) ati=du jaasɿ-kaa 「とても=FOC ひもじい-VRB」

(93.)と(94.)の形式を、同じパラダイムに属しているものとして分析することができる。なぜならば、-fu=ar- と -kar- とは、形態的な条件に基づいた相補分布を成しているからである。すなわち、副助詞や情報構造助詞(=atsum、=mai、=a、=du など)が述部に付与される場合は「-fu=助詞=ar-」が使われており、それ以外の場合は -kar- が使われる。=du の位置を操作すると形式の交替が明瞭と現れる。

- (93.) pjaa-fu=du=aa 「早い-ADV=FOC=AUX (早すぎる)」
 (94.) ati=du pjaa-kaa 「とても=FOC 早い-VRB (早すぎる)」

2.8 副詞

副詞は均質な品詞ではない。しかし、その中で、明確なクラスを成すものがある。すなわち、延長重複形、ga 重複形、擬態語・擬音語、-ttea 派生形、-fu 派生形は、それぞれ、体系的な特徴を示す。それ以外の副詞は様々で、個別の記述が必要である。以下にいくつかの例を挙げる。

- (95.) 副詞一般 : pudzi 「さっさと」、jamakasa 「沢山」、kancii 「このように」
 (96.) 延長重複形 : iravv~irav 「LRED~伊良部 (伊良部風に)」

²⁴ 丁寧な発音。通常は [jaaffɯtaa] のように発音される。

- (97.) -ttea 派生形 : jaasɿ(ɿ)-ttea 「ひもじい-ADV2 (ひもじく)」
 (98.) ga 重複形 : numi~ga~num-i 「RED~LIN~飲む-IMP (しつこく「飲め飲め」と言う風)」
 (99.) 擬態語・擬音語 : dada 「落ちる様」
 (100.) -fu 派生形 : jaasɿ-fu 「ひもじい-ADV (ひもじく)」

副詞によっては、そのまま述語を修飾できるものもあれば、=tii「QUOT」を経てしか述語を修飾できないものもある。また、副詞的な表現で名詞を修飾するために、=nu (GEN) が使われる。なお、副詞的な表現を述語化するために ur-「おる」がよく使われる。以上挙げた副詞クラスの特徴を表 15 にまとめる (それ以外の副詞は共通の特徴で捉えられないため、表に掲載しない)。

- (101.) pudzi kuu 「さっさと 来る.IMP (さっさと来い)」
 (102.) dadaa=tii=du uti-taa 「EXP=QUOT=FOC 落ちる-PST (ダダーと落ちた)」
 (103.) jamakasa=nu dzin 「たくさん=GEN お金 (たくさんのお金)」
 (104.) sabɿɿ=tii=nu mipana 「EXP=QUOT=GEN 顔 (けろっとした顔)」
 (105.) takaa~taka=du uu 「LRED~高い=FOC AUX (とても高い)」
 (106.) sabɿɿ=tii=du uu 「EXP=QUOT=FOC AUX (けろっとしている)」

表 18 副詞クラスの特徴

詞類	述語修飾	名詞修飾	述語化
延長重複形	o	=nu	ur-
-ttea 派生副詞	o	?	ur-
ga 重複	=tii	=tii=nu	=tii ur-
擬態語・擬音語	=tii	=tii=nu	=tii ur-, -mɿk-
-fu 派生副詞	nar-, nas-に限る	x	ar-

o : そのまま可能、x : 不可能、? : 未確認

擬態語・擬音語は副詞と動詞とに分けられる。擬態・擬音副詞は、1つの語根から、あるいは、語根を元にした延長形ないし重複形からなる。擬態・擬音副詞の語根に派生接辞の-mɿk-²⁵をつければ、自動詞を派生させることができる。さらに、その形式に使役派生接辞の-as-を付けると、他動詞を派生させることもできる。全ての派生形を持つ語根を次に紹介するが、すべての語根からすべての派生形が形成できるというわけではない。

- (107.) 語根副詞 : dada 「(一気に) 落ちる様」
 (108.) 延長形副詞 : dadaa 「EXP.LEN (一気に大量などに落ちる様)」
 (109.) 重複形副詞 : dada~dada 「RED~EXP (繰り返して落ちる様)」
 (110.) 派生自動詞 : dada-mɿk- 「EXP-VRB (ダダーと落ちる)」
 (111.) 派生他動詞 : dada-mɿk-as- 「EXP-VRB-CST (ダダーと落とす)」

数量詞は典型的に副詞として機能している(いわゆる floating が可能である)。

²⁵ 他の方言の-mik-に対応し、日本語の「~めく」と同源である。この方言では、iの母音がよくɿに転じる。

- (112.) naa=ga jaa=n biki+pindza=nu futa-kara ui-ba
REFL=GEN 家=D/L 雄+山羊=NOM 二-CL いる-CSL
「自分の家に雄のヤギが 2 頭いるから」(自然談話)

なお、副詞として機能する名詞や名詞由来の表現もある。そのほかに、動詞の接続形などで作られた副詞的な表現もある。

- (113.) waateaku 「不都合に、不運なことに」 < waateaku 「悪戯」 < 横着
(114.) iibaa 「好都合に、運よく」 < ii+baa 「良い+場合」
(115.) itttsaidi 「うんと、思い切って、一生懸命」 < it=tsa idi 「意地=ba 形 出る.CVB」

2.9 副助詞と情報構造助詞

格助詞のほかに副助詞と情報構造助詞がある。これらの助詞は、必ずしも名詞句に限るものではないが、名詞句に付いた場合、副助詞は、格助詞の後、情報構造助詞は、そのさらに後に続く。

表 19 副助詞一覧

強調 (～なんか)	EMPHatic	=garaa
強調 (～すら、～でも)	EMPHatic	=atsɿm ²⁶
強調 (～他と違って...する)	EMPHatic	=dum, =dunga, =dumma ²⁷
強調 (～だに、～さえ)	EMPHatic	=dzan
先行 (先に...する)	PRECEdative	=kara
制限 (～だけ、～のみ)	RESTRICTive	=teaan, =teaaka
対比 (～は)	CoNTRastive	=gami
習慣 (よく...する)	HABItual	=naa ²⁸
累加 (～も)	INCLusive	=mai

表 20 情報構造助詞位地論

焦点	FOCUS	=du
疑問詞焦点	INTerrogative Focus	=ga
主題 (非焦点)	TOPic	=a
主題 (非焦点、対格専用)	TOPic2	=ba(a)

- (116.) 助詞連続順番：名詞＝格助詞＝副助詞＝情報構造助詞

²⁶ この助詞(宮古祖語 *(j)atsum)は、コピュラの連用形 *(j)ari に譲歩の接辞 *-tomo が附いた形式に由来している可能性がある(原田総一郎氏からご指摘をいただいた)。

他の先行研究では、この助詞を =atsɿm と想定し、それが義務的に主題の助詞 =a に続くという分析が提示されている。しかし、主題の助詞が入っている根拠は明白ではない。従って、この助詞の形式を =atsɿm と想定し、主題の助詞と同じ形態音韻的变化を起こすという分析を採用する。なお、この形態素が *(j)ari-tomo に由来していると思わせる根拠はいくつかあるけれども、詳細な議論は割愛する。

²⁷ 現在のところ、=dum、=dunga、=dumma の使い分けは不明である。

²⁸ 分配の助詞 =naa 「～つづ」と同源であると思われる。

(117.) terebj=uu=teaan=du miij=uu
 テレビ=ACC=RESTR=FOC 見る .CVB=IPF
 「テレビばかりを見ている」

(118.) ai=teaan=du=u
 喧嘩する .CVB=RESTR=FOC=IPF
 「(あの夫婦は) 喧嘩してばかりいる」

(119.) sentakkj=uu kai-tti=mai
 洗濯機=ACC 買う -SEQ=INC
 「洗濯機を買ったにしても」

助詞連続の共起制限は次の通りである。すなわち、=ba 形式は副助詞とも情報構造助詞とも共起ができない(120.)。主格の =nu/=ga は、=mai とも =a とも共起ができない(121.)(122.)。日本語の「～も」「～は」と同様に、=mai や =a のみの付加となる。また、=mai は、=du と共起できるが、主題の =a とは共起できない(123.)(124.)。対格の名詞句が主題化されると、=a ではなく =ba(a) という形式が使われるが、=a とは意味や機能の違いはない(125.)。=atsɿm は特殊な振舞いを示し、主格や対格の格助詞と共起せず、直接名詞句に附く。=atsɿm は様々な句に付きうるが、典型的には数量詞とともに使われる(125.)(126.)(127.)。なお、=atsɿm は =mai や =naa には先行できるが、情報構造助詞には先行できない。

(120.) terebj=aa(*=teaan, *=mai, *=du) mii
 テレビ=ba 形(*=RESTR, *=INC, *=FOC) 見る .CVB
 「テレビを見て」

(121.) ɛuu(*=ga)=ja terebj=uu=du miij=uu
 祖父(*=NOM)=TOP テレビ=ACC=FOC 見る =IPF
 「祖父はテレビを見ている」

(122.) ɛuu(*=ga)=mai(*=ja) terebj=uu=du miij=uu
 祖父(*=NOM)=INC(*=TOP) テレビ=ACC=FOC 見る =IPF
 「祖父もテレビを見ている」

(123.) ɛuu=mai=du terebj=uu miij=uu
 祖父=INC=FOC テレビ=ACC 見る =IPF
 「祖父までテレビを見ている」

(124.) ɛuu=ga=du terebj=uu=ba(a) miij=uu
 祖父=INC=FOC テレビ=ACC=TOP2 見る =IPF
 「(誰がテレビを見ているの?) 祖父がテレビを見ている」

(125.) pindza(*=u)=atsɿm fa-ar-u-n
 ヤギ(*=ACC)=EMPH 食べる -POT-NEG
 「ヤギすら食べれない」

(126.) padzɪka-f-fatsɪm=mai njaa-n
 恥ずかしい-ADV=EMPH=INC AUX-NEG
 「恥ずかしくもない」

(127.) bajaa nnja pstu-kara=atsɪm tssa-n-kja
 私.TOP FIL 一-匹=EMPH 釣る-NEG-TEMP
 「私は一匹さえも釣らないうちに (友だちがすでに何匹も釣っていた)」 (自然談話)

2.10 情報構造の標識体系

林 2017 で詳しく記述されているように、宮古語は、節の情報構造を形態的に標示する言語である。つまり、叙述文²⁹において、非焦点助詞の =a/=ba(a)、焦点助詞の =du と「中立形」と呼ばれるゼロ標識の諸標識が情報構造を標示するための一つのシステムを構成しているというわけである。林 2017 は池間西原に関する記述であり、詳細な検討の必要性はあるものの、今の段階では皆愛方言についても同様の分析を採用することができると考えられる。そこで、参考としてその記述の要点を以下に示す。続く例文においては、焦点の範囲を [] で示し、和訳におけるその対応部分を太字で示す。

(128.) =du の記述要点 (林 2017) :

- =du は一節に最大一つ
- =du は (主文において) 焦点範囲の左端 (開始位置) のみをマークする (129.)
- =du 以後の中立形は、焦点範囲に入ることも (Broad Focus)、入らないことも (Narrow Focus) 可能である (129.)(130.)
- =du 以後の要素を、非焦点助詞を以て脱焦点化させることができる (131.)
- =du 以前に中立形が不可能で、非焦点助詞が義務的である (=mai も可能、(132.))

(129.) ɛuu=ja [terebj=uu=du mij=uu]_{foc}
 祖父=TOP テレビ=ACC=FOC 見る=IPF
 「(祖父はどうした?) 祖父はテレビを見ている」

(130.) ɛuu=ja [terebj=uu=du]_{foc} mij=uu
 祖父=TOP テレビ=ACC=FOC 見る=IPF
 「(祖父は何を見ているの?) 祖父はテレビを見ている」

(131.) [soopurando=n=du]_{foc} kaj=aa [ni-nen-me=kara]_{foc} patarakj=uu
 ソープランド=D/L=FOC あれ=TOP 二-年-目=ABL 働く.CVB=IPF
 「ソープランドに彼女は二年目から働いている」 (談話資料)

(132.) mjaaku=n*(=na/=mai) [ati=du jooɪ=nu nch=uu]_{foc}
 宮古=D/L*(=TOP/=INC) とても= FOC 祝い=NOM 多い=IPF
 「宮古島に (は・も) とてもお祝い事が多い」

²⁹ 本稿では疑問文を扱わない。

3 参考文献

- 伊豆山敦子(2002)「琉球・宮古(平良)方言の基礎文法研究」『消滅に. 瀕した方言語法の緊急調査研究(2)』「環太平洋の言語」日本班 成果報告書 A4-012 35-97
- 沖縄古語大辞典編集委員会(編)(1995)『沖縄古語大辞典』角川書店
- かりまたしげひさ (2013)「琉球宮古島野原方言の間接的エヴィデンシャルティ」『日本東洋文化論集(19)』琉球大学法文学部紀要 15-28
- 下地理則(2017)「琉球諸語の代名詞：これまでの記述にもとづく これまでの記述にもとづく類型化試論」「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」研究発表会発表資料
- 杉村孝夫 (2003)『来間島方言の記述的研究』研究成果報告書
- セリックケナン、林由華 (2017)「宮古諸方言の「第二対格」は「対格」か？—多良間方言を中心に—」日本語学会 2017 年度秋季大会 2017 年 11 月 11 日金沢大学
- 富浜定吉 (2013)『宮古伊良部方言辞典』沖縄タイムス社
- 畑聰一郎 (1983)「宮古島皆愛集落 の成立 と解体 ・再編成—シマ観念 の考察—」『人文地理 第 35 卷 第 1 号』人文地理学会 66-78
- 林由華 (2013)『南琉球宮古語池間方言の文法』京都大学文学研究科博士論文
- 林由華 (2017)「南琉球宮古語池間西原方言における du 焦点構文と述語焦点形」『阪大社会言語学研究ノート』第 15 号大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室 87-99
- 琉球方言クラブ (2017)『琉大方言第 31 号 宮古島市下地の農業関連語彙』琉球方言クラブ
- Pellard, T. (2009) *Ogami: Éléments de description d'un parler du sud des Ryukyus*. École des hautes études en sciences sociales. Paris, France. Thèse doctorale.
- Shimoji, M. (2008) *A Grammar of Irabu, a Southern Ryukyuan Language*. Australian National University. PhD Thesis
- Shimoji, Michinori (2016) Aspect and non-canonical object marking in the Irabu dialect of Ryukyuan. in Taro Kageyama, Wesly M. Jacobsen (eds.) *Transitivity and Valency Alternations* De Gruyter Mouton.

4 略号

ABL	Ablative
ACC	Accusative
ADJZ	Adjectivizer
ADN	Adnominal
ADV	Adverbial
ALL	Allative
APPR	Approximative
ASS	Assertive
ATTR	Attributive
AUX	Auxiliary
BAS	Basic Stem
STAT	Stative
CL	Classifier
CMPLZ	Complementizer
CNJ	Conjunctive

CNMLZ	Clause Nominalization
CNTR	Contrastive
COM	Comitative
COMP	Comparative
CONC	Concessive
COND	Conditional
CONTR	Contradictive
COP	Copula
CS	Compound Stem
CSL	Causal
CST	Causative
CVB	Converb
D/L	Dative/Locative
DIM	Diminutive
DIR	Directional
DIS	Distributional
DUB	Dubitative
EMPH	Emphatic
EXCL	Exclusive
EXP	Expressive
FIL	Filler
FOC	Focus
FUT	Future
GEN	Genitive
GRAD	Gradual
HAB	Habitual
HON	Honorific
HORT	Hortative
HS	Hearsay
INC	Inclusive
INCL	Inclusive (plural)
INDER	Indeterminative
INST	Instrumental
INT	Interrogative
INTR	Interjection
INTSF	Intensifier
IPF	Imperfect
IRRS	Irrealis Stem
LIM	Limitative
LIN(ga)	Linker(ga)
LOC	Locative
LRED	Lengthening Reduplication
MIT	Mitigative
N/G	Nominative/Genitive
NEG	Negative
NMLZ	Nominalizer
NOM	Nominative
OPT	Optative
ORDINAL	Ordinal
PFP	Phrase Final Particule
PL	Plural
PREC	Precedative
PROH	Prohibitive

PURP	Purposive
QBIAS	Question Bias
QFOC	Question Focus
QUOT	Quotative
RECOGN	Recognition
RED	Reduplication
RESTR	Restrictive
SEMBL	Semblative
SEQ	Sequential
SFP	Sentence Final Particule
SIM	Similative
SIMULT	Simultative
TEMP	Temporal
TERM	Terminative
THM	Themative
TOP	Topic
VRB	Verbalizer
YNQ	Yes/No Question

5 皆愛方言の談話資料³⁰

2014年4月より2018年4月まで収集した談話資料の中で、音声が良いで、発音がはっきりとしているものを選び、合わせて28分38秒の時間に相当する10本の談話資料を収めた。

書き起こし・グロスの方針は次のとおりである。一行目は音声の書き起こし、二行目はグロス、三行目は和訳である。「-」は接辞の境界、「=」は接語の境界、「+」は複合語の境界を表す。「~」は重複を表す。聞き取れない部分を「xxx」で示し、聞き取れるが、意味が分からない部分を「?」で示した。言いよどみ、言いさしなどを「HES」の略号で示し、話者が意図していた語が特定できた場合は「語.HES」のようにグロスを振った。また、接続形に続く補助動詞が接語化する場合、本動詞の形式が自明（接続形以外の可能性はない）なので「動.CV B=補助動詞」と書かず、「動=補助動詞」のようにグロスを施した。動詞の基本形、名詞形、準体形の場合は、その範疇を明記せず、単に「動」のようにグロス付けした。なお、=ga や=nu の機能（主格・属格）を区別せずに、一貫して「N/G」のようにグロスを施した。

5.1 桃太郎

- 話者：長間三夫（昭和30年生）
- 収録日・場所：2014年12月13日、東京都八丈島多目的ホール おじゃれ
- 収録時間：1m14s
- 背景・内容：桃太郎の宮古語版。2014年12月に八丈島で開催された「日本の危機言語・方言サミット In 八丈島」で話された。

(1) maada nkjaan=nu panasʝ

とても昔=N/G 話

「昔々」

(2) ndza=garaa=n=du euu=tu mma=ga uu-tii

どこ=INDER=D/L=FOC 翁=COM 嫗=N/G いる-BACK

「あるところに、お爺さんとお婆さんが住んでいて」

(3) euu=ja jama=nkai tamunu=u tuʝ=ga iki

翁=TOP 林=ALL 薪=ACC 取る=PURP 行く.CV B

「お爺さんは山へ芝刈りをしに」

(4) mma=a nagarii=nu kaa=iki kʝn=nu aroo=ga ikʝ-taa

嫗=TOP 流れる.CV B=N/G 川=LOC2 服=ACC 洗う=PURP 行く-PST

「お婆さんは川へ洗濯をしに行った」

³⁰ 音声ファイルは共有可能なので、必要な場合は、著者のメールアドレスまでお問い合わせください。

- (5) ans-kkaa=du mma=ga kɿn=nu arai uu-kkaa
 CNJ-COND=FOC 嫗=N/G 服=ACC 洗う .CVB IPF-COND
 「そうしたら、お婆さんが洗濯していたら」
- (6) kaa=nu mmi=kara upo-onu mun=nu duffa~ga~duffa=tii
 川=N/G 丘=ABL 大きい-ADJZ 桃=N/G RED~LIN(ga)~EXP=QUOT
 nagari keei-ba
 流れる .CVB 来る -CSL
 「川上から大きいな桃がどんぶりこどんぶりこと流れて来たから」
- (7) mma=a urj=aa pssui jaa=nkai pii-taa
 嫗=TOP それ=STAT 拾う .CVB 家=ALL 行く -PST
 「お婆さんは、それを拾って家へ帰った」
- (8) mma=ga unu mun=nu kssa-t=ti eiru-ba=du
 嫗=N/G その 桃=ACC 切る -VOL=QUOT する -CIRC=FOC
 「お婆さんがその桃を切ろうとしたら」
- (9) futaa-tsɿ=nkai mun=nu bari
 二-つ=ALL 桃=N/G 割れる .CVB
 「桃が二つに割れて」
- (10) ui=ga naka=kara upo-onu biki+vva=nu mmari
 それ=N/G 中=ABL 大きい-ADJZ 雄+子=N/G 生まれる .CVB
 「その中から大きいな男の子が生まれて」
- (11) ɛuu=tu mma=a unu ffa=n mumutaroo=tii tsɿki-taa=ttsa
 翁=COM 嫗=TOP その 子=D/L 桃太郎=QUOT 付ける -PST=HS
 「お爺さんとお婆さんはその子に「桃太郎」という名前を付けたそうだ」

5.2 方言大会ネタ練習

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
 - 収録日・場所：2014 年 07 月 04 日、宮古島川満、話者自宅（外）
 - 収録時間：1m52s
 - 背景・内容：2014 年の方言大会のために漫談のネタを練習している。
- (1) foomunu=mai mjaaku mjaaku=nu foomunu=a maada=du mma-kaa
 食べる=INC 宮古.HES 宮古=N/G 食べる=TOP とても=FOC 美味しい-VRB
 「食べ物も、宮古島の食べ物は大変おいしい」
- (2) dzaan pindza+dzuu=nu=du nnja mma+munu=dara
 最も ヤギ+汁=N/G=FOC FIL 美味しい+もの=ASS
 「一番、ヤギ汁がおいしいんだ」
- (3) uri=kara udzɿmakipan=nu=du maada mma-kai-ba=du
 それ=ABL 渦巻きパン=N/G=FOC とても 美味しい-VRB-CSL=FOC
 「それから、渦巻きパンがあまりにも美味しいから」
- (4) keei-tti futakina=a mii-tsɿ=kara juu-tsɿ=naa faij=uu-tas-suga=du
 来る-SEQ すぐ=TOP 三-つ=ABL 四-つ=DIS 食べる=IPF-PST-CONTR=FOC
 「来たころには、三つか四つづつ食べていたが」
- (5) atu=n=na nnja vudai bata=mai idi keei-ba
 後=D/L=TOP FIL 太る.CVB 腹=INC 出る.CVB GRAD-CSL
 「その後、太っちゃって、お腹も出たから」
- (6) nnama=a nnja junai
 今=TOP FIL 夜
 「今は、夜になると」
- (7) turi painagama=kara nudzakɿ=gami=naa nnja aikj=uu=dara
 HES パイナガマ=ABL 久松=TERM=DIS FIL 歩く=IPF=ASS
 「パイナガマから久松まで歩くんだ」
- (8) an-suga=du furansɿ-n=na mii=ja mjuu-n ikɿmusɿ=nu
 CNJ-CONTR=FOC フランス-D/L=TOP 見る.CVB=TOP 見る-NEG 生物=N/G
 nnja uu=dara nte=uu=dara=ju
 FIL いる=ASS 満ちる=IPF=ASS=SFP
 「しかし、フランスで見たことのない生き物がたくさんいる」

- (9) noo=gara=tii sabaki-ba=du ui=ga=d=iraa
 何=DUB=QUOT 訊く -CIRC=FOC それ=N/G=FOC=AGR
 kaafunata=ttsa=tii
 蛙の一種=HS=QUOT
 「『なんかなあ』と聞いたら、『それがね、ヒキガエル』なんだったって」
- (10) furans₁=n=na kaafunata=tii=ja mjuu-n=doo=tii
 フランス=D/L=TOP 蛙の一種=QUOT=TOP 見る -NEG=SFP=QUOT
 「フランスにはヒキガエルってのはいないよ」
- (11) jai-ba=du nn aikj=uu tukja=n uj=uu fundarj=aa
 COP-CSL=FOC FIL 歩く=IPF 時=D/L それ=ACC 踏みつける .CVB=TOP
 nara-n=tii umui
 できる -NEG=QUOT 思う .CVB
 「だから、歩くときにそれを踏んじゃったらまずいと思って」
- (12) nn tamii~tami aikj=uu=dara
 FIL LRED~落ち着く 歩く=IPF=ASS
 「注意して歩くんだ」
- (13) ui=ga ts₁gj=aa noo ja-tarj-aa nnja
 それ=N/G 次=TOP 何 COP-PST-INT FIL
 「その次はなんだったっけ？」
- (14) mjaa mjaaku+pst=aa nn duu+tavkjaa=eii munu=u
 宮古.HES 宮古+人=TOP FIL REFL+ひとり=INST もの=ACC
 faa-t=ti suu-dana=du
 食べる -VOL=QUOT する -NEG.CVB=FOC
 「宮古島の人自分一人でなんかものを食べるのではなく」
- (15) dus₁-nukjaa=ju=mai ugunai nnna maats₁ki
 友達-PL=ACC=INC 集める .CVB みんな 一緒に
 「友達を集めて皆一緒に」
- (16) nn munu=u=baa fai uu
 FIL もの=ACC=TOP2 食べる .CVB IPF
 「食べ物を食べる」

- (17) ukaasɿ-ki dzootoo=nu sɿma=tii=du uma-arj=uu
 すごい-SEMBL 上等=N/G 島=QUOT=FOC 思う-可能=IPF
 「大変素晴らしい島だと思う」
- (18) anei-tti nnna noo+gutu=u=mai kjoorjok=aa ɛii ɛiij=uu
 CNJ-SEQ みんな 何+事=ACC=INC 協力=STAT する.CVB する=IPF
 tukana=n=du nn igjan ssɿ
 場所=D/L=FOC FIL 感心 する
 「そして、皆何事をも協力の元でやるというところに、感心する」
- (19) banu=u=mai banu=u=mai taka-sa=a ɛii fii
 私=ACC=INC 私=ACC=INC 大事-NMLZ=STAT する.CVB BEN.CVB
 「私も大切にさせて頂いて」
- (20) e banu=u=mai taka-sa=a ɛii fii-samatei
 INTR 私=ACC=INC 大事-NMLZ=STAT する.CVB BEN-HON.IMP
 「私も大切にしてください」
- (21) tandi~gaa~tandi owari
 RED~LIN(ga) ~ありがとう 終わる
 「ありがとうございました。終わり」

5.3 面白いおばあ

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
- 収録日・場所：2014 年 11 月 04 日、宮古島平良、研究者自宅
- 収録時間：2m39s

- (1) ban-ta=ga obaa=dum nnja kum uibi=nu saki³¹=kara
私-PL=N/G お祖母=なんか FIL ここ.HES 指=N/G 先=ABL
kunu kata³²=gami=du nna iredzɨmj=aa³³ ɛ=uu-taa rjoo+tii
この肩=TERM=FOC みんな 刺青=STAT する=IPF-PST 両+手
「うちのお祖母さんは、指の先から肩まで、全部、刺青をしていた、両腕も」
- (2) an-tti ba=ga anna=nkai duuta=ga obaa=ja hai
CNJ-SEQ 私=N/G 母=ALL 1PL.INCL=N/G お祖母=TOP INTR
javvi+obaa ja-taa=nuga=tii sabaki-ba=du
暴力+お祖母 COP-PST=QBIAS=QUOT 訊く-CIRC=FOC
「そして、私のお母さんに、『うちのお祖母さんは不良だったの？』と聞いたら」
- (3) anna=a ihii~ga~ihii=tii amai
母=TOP RED~LIN(ga)~EXP=QUOT 笑う.CVB
「お母さんはニコッと笑って」
- (4) duuta=ga obaa=ncii=nu kɨmu+kagi obaa ura-n=saa=tii
1PL.INCL=N/G 祖母=SIM=N/G 心+きれい 祖母 いる-NEG=SFP=QUOT
ui-ba
いる-CSL
「『私達のお祖母さんほどの優しいお祖母さんはいない』と言って」
- (5) goo an-kkaa noocaa nna iredzɨmj=aa ɛ=uurj-aa=tii
INTR CNJ-COND なぜ みんな 刺青=STAT する=IPF-INT=QUOT
azzi-ba=du
言う-CIRC=FOC
「『だったら、なんで刺青をしているの？』と言ったら」

³¹ 標準語。宮古語は sakɨ、又は pana。

³² 標準語。宮古語は katamusɨ。

³³ 標準語。宮古語は pɨtsɨkɨ（針突き）。

- (6) nitciro+sensoo+dzidai=n=du
 日露+戦争+時代=D/L=FOC
 「日露戦争の時代に」
- (7) unu jumi=nkai ikj=uu pst=aa ffa-nukjaa=nu uu pst=aa
 その嫁=ALL 行く=IPF 人=TOP 子-PL=N/G いる 人=TOP
 kaneii nnaa iredzɨmj=uu ssɨ-joon naɨ-taa=tiru-ba=du
 かよう みんな 刺青=ACC する-ように 成る-PST=HS-CIRC=FOC
 「結婚した人や子供がいた人は皆刺青をするようになったと」
- (8) anɛ=uu-kja=a sensoo=nu nnja mun=aa ɛ=uu-kja=a
 CNJ=IPF-TEMP=TOP 戦争=N/G FIL もの=STAT する=IPF-TEMP=TOP
 heetai=nu=naa rattei suu-t=ti st-taa=tiru-ba=du
 兵隊=N/G=HAB 拉致 する-VOL=QUOT する-PST=HS-CIRC=FOC
 「戦争の最中、兵隊たちが拉致しようとしたそうだ」
- (9) eodzo+anga-taa=mai nnja aneii heetai=n osow-aru-dzaa-n=tii
 未婚の女性+先輩-PL=INC FIL さよう 兵隊=D/L 襲う-受身-VOL-NEG=QUOT
 iredzɨmj=uu=naa st-taa=ttsa
 刺青=ACC=HAB する-PST=HS
 「未婚の女性も兵隊に襲われないように、刺青をしたそうだ」
- (10) aneii=du azz=uu-taa
 さよう=FOC 言う=IPF-PST
 「そんなふうに使っていた」
- (11) anei-tti ba=ga nnja ɛoogaku+san-nen=bakaaɨ=jaa
 CNJ-SEQ 私=N/G FIL 小学+三-年=APPR=PPF
 「そして、私が小学3年だった頃かね」
- (12) juɨ foo-gatsɨna zzu+bunj=uu nnja ba=ga nubui=n
 夕食 食べる-SIMULT 魚+骨=ACC FIL 私=N/G 首=D/L
 kakaraɛi njaat-taa=ju nnja
 掛からせる.CVB PRF-PST=SFP FIL
 「夕ご飯を食べながら、魚の骨が自分の喉に刺さってしまったよ」

- (13) mii=nu nada=a dada~dada=tii ui-ba=du nnja
 目=N/G 涙=TOP RED~EXP=QUOT いる-CSL=FOC FIL
 「ポロポロと涙を流しているから」
- (14) obaa=ga noo=rj-aa zzu+buni=nu kakarj=uu tii ui-ba
 祖母=N/G 何=COP-INT 魚+骨=N/G かかる=IPF QUOT いる-CIRC
 「お祖母さんが『どうした？魚の骨が刺さっている？』と言って」
- (15) ancii nu nnja munu=mai fa-aru-n=tii uu-kkaa
 そんな 喉.HES FIL もの=INC 食べる-可能-NEG=QUOT いる-COND
 「『そう。ご飯も食べれない』と言ったら」
- (16) too too ara nnja mate=uuri=jo=tii
 終わり 終わり それでは FIL 待つ=IPF.IMP=SFP=QUOT
 「『よし、分かった。待ってよ』と言って」
- (17) zzu=u=baa kanama₁=tu puni-gama xxx m₁z=za tui-tti
 魚=ACC=TOP2 頭=COM 骨-DIM xxx 身=STAT 取る-SEQ
 「魚の頭と骨に附いていた身を取って」
- (18) kanama₁=nu waabu=nkai nuuciru-ba=du nnja zzu+bunj=uu
 頭=N/G 上=ALL のせる-CIRC=FOC FIL 魚+骨=ACC
 nuuciru-ba=du nnja
 のせる-CIRC=FOC FIL
 「『(それを) 頭の上に乗せると」
- (19) nudu=n kakarj=uu zzu+bunj=aa tur-ai=doo ui-ba
 喉=D/L かかる=IPF 魚+骨=TOP 取る-可能=SFP いる-CSL
 ancii=nuga=tii
 そんな=QBIAS=QUOT
 「喉に刺さっている骨が取れるよ』と言うから、『あ、そうなの？』と言った」
- (20) dziit=ti bzzi
 EXP=QUOT 坐る.CVB
 「じっと座って」

- (21) kanama₁=nu waabu=n nnja zzu+fusaa~fusa urj-aamai waitii
 頭=N/G 上=D/L FIL 魚+LRED~臭い いる-CONC 一所懸命
 gaman=na eii
 我慢=STAT する.CVB
 「頭の上は魚臭くても我慢して」
- (22) puda san-dzip-pun=ka jon-dzip-pun=bakaa₁ mate-aamai nnja
 約 三-十-分=INT 四-十-分=APPR 待つ-CONC FIL
 tur-aru-nni-ba
 取る-可能-NEG-CSL
 「約 30 分か 40 分ぐらい待っていても、取れないから」
- (23) obaa its₁=gami=mai zzu+bunj=aa tur-aru-n=doo=tii
 祖母 いつ=TERM=INC 魚+骨=TOP 取る-可能-NEG=SFP=QUOT
 azzi-ba=du
 言う-CIRC=FOC
 「『お祖母さん、いつまでも、魚の骨が取れないよ』と言ったら」
- (24) ara mm=mu mipa₁+fukum=ma ei-tti
 それでは 芋=ACC 頬張り+銜える=STAT する-SEQ
 「『じゃ、芋を口に一杯入れて」
- (25) gutta=tii numi=tii ui-ba
 EXP=QUOT 飲む.IMP=QUOT いる-CSL
 「一気に呑み込んで』と言うから」
- (26) mm=mu upoo~upu futs₁=nkai gufu=tii zzi-tti
 芋=ACC LRED~大きい 口=ALL EXP=QUOT 入れる-SEQ
 「芋をたくさん口に入れて」
- (27) gutta=tii numi-ba=du un tur-ai-taa
 EXP=QUOT 飲む-CIRC=FOC 当時 取る-可能-PST
 「一気に呑み込んだら、その時（骨が）取れた」

- (28) aa jugaina+obaa banta=ga obaa=ja banu=u=tcaan
INTR 冗談+祖母 1PL.EXCL=N/G 祖母=TOP 私=ACC=RESTR

damagairaci

困らせる.CVB

「私達のお祖母さんは滑稽なお祖母さんだった。私だけを困らせて」

- (29) ancii=naa=du uu-taa=doo too
そんな=HAB=FOC いる-PST=SFP 終わり

「昔はそんなんだったよ」

5.4 宮古島の不思議なところ

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
- 収録日・場所：2014 年 12 月 02 日、宮古島下地、運転中
- 収録時間：4m15s
- 背景・内容：来間島の敬老会のための漫談練習。

- (1) nnja too=ga serif=fu=mai maatsɿki azza-ttei-ba=ju
 FIL 誰=N/G せりふ=ACC=INC 一緒に 言う -VOL-CSL=SFP
 「誰のセリフでも一緒に言うからね」
- (2) hai nagama-san mjaaku=n=na pirumasɿ+munu=nu=du
 INTR 長間-さん 宮古=D/L=TOP 不思議+もの=N/G=FOC
 ati nte=uu
 とても 満ちる=IPF
 「長間さん、宮古には、不思議な物があまりにも多い」
- (3) noo=nu pi pirumasɿ+munu=nu=tii
 何=N/G HES 不思議+もの=N/G=QUOT
 「どういう不思議なもの？」
- (4) hai unu dzuuguja=n=du nna nnama=nu dzuuguja=n=du
 INTR その 十五夜=D/L=FOC 今.HES 今=N/G 十五夜=D/L=FOC
 「十五夜に、今月の十五夜に」
- (5) kagi+tsɿkinijuu=n ffema+dzɿma=nkai junai appɿ=ga keei-ba=du³⁴
 きれい+月夜=D/L 来間+島=ALL 夜 遊ぶ=PURP 来る -CIRC=FOC
 nnja
 FIL
 「満月の夜に、来間島へ遊びに来たら」
- (6) aba kuruma=n nuuri maarj=uu-kkaa ntsɿ=n nnja
 SURPR 車=D/L 乗る.CVB 回る=IPF-COND 道=D/L FIL
 「あれ、車に乗っていたら、道に」
- (7) daiban noo=garaa ikɿmusɿ=nu ui-ba
 大きい 何=INDER 生物=N/G いる -CSL
 「でかい動物がいるから」

³⁴ この漫談は来間島で言う予定だったので、「来る」という動詞が使われる。

- (8) a nnja nagama-san matei matei=tii azzi kuruma=a
INTR FIL 長間-さん 待つ.IMP 待つ.IMP=QUOT 言う.CVB 車=STAT
tumi-sɣmi-tti uri iki miiru-ba=du
止める-CST-SEQ おりる.CVB 行く.CVB 見る-CIRC=FOC
「長間さん、待って待って、と言って、車を止めさせて、下りて行って見たら」
- (9) aaganja mii=ja mjuu-n daiban+aman=nu nnja
INTR 見る.CVB=TOP 見る-NEG 大きい+ヤドカリ=N/G FIL
「見たこともない、でっかいヤドカリが」
- (10) paadurj=uu=dara aneii=mai nnja unu aman=tss=aa nnja
這う=IPF=ASS そんな=INC FIL その ヤドカリ=EMPH=TOP FIL
aman=na
ヤドカリ=TOP
「這っているんだ。それでも、このヤドカリったら」
- (11) hai noo=mai kssa-dana pssagi nari nnja paadurj=uui-ba
INTR 何=INC 着る-NEG.CVB 裸 成る.CVB FIL 這う=IPF-CSL
「何も着ずに、裸で這っているの」
- (12) nagama-san=nu abiri nnja hai hai unu upu+aman=nu
長間-さん=ACC 呼ぶ.CVB FIL INTR INTR その 大きい+ヤドカリ=ACC
mii miiru=tii azzi-ba=du
見る.CVB 見る.IMP=QUOT 言う-CIRC=FOC
「長間さんと呼んで、『その大きいヤドカリを調べてみて』と言ったら」
- (13) mii ba=ga mii-kkaa noo=nu kui=ga aman
見る.CVB 私=N/G 見る-COND 何=N/G これ=N/G ヤドカリ
「私が見たら、なんでそれがヤドカリなのか」
- (14) hai matsɣkani uj=uu=du nnja makugan=tii aɣ=dara=tii
INTR 真津金 それ=ACC=FOC FIL ヤシガニ=QUOT 言う=ASS=QUOT
「マツカニ、それを『まくがん (ヤシガニ)』と言うんだ」
- (15) makugan=tii noo=rj-aa=tii
ヤシガニ=QUOT 何=COP-INT=QUOT
「マクガンって何ですか？」

- (16) *agai nnja fai-ba=du nnja xxx nnja mma+munu*
 INTR FIL 食べる-CIRC=FOC FIL xxx FIL 美味しい+もの
jas-suga=du
 安い-CONTR=FOC
 「食べるとすんごく美味しいのだけど」
- (17) *hai ui=ga tsɯmi=n nnja pasam-ai-tarj-aa uibj=uu=mai*
 INTR それ=N/G 爪=D/L FIL 挟む-受身-PST-CIRC2 指=ACC=INC
gasɯ=tii kst=tu+sɯ=too nnja
 EXP=QUOT 切る=FOC+する=SFP FIL
 「あの爪に挟まれたら、指が切れるよ」
- (18) *anei-tti nnja matsɯgai ui=n pasam-ai-kkaa unu*
 CNJ-SEQ FIL 間違う.CVB それ=D/L 挟む-受身-COND その
fugusɯ-gamo=o gudzuvvi-ba=du
 陰囊-DIM=ACC 擦る-CIRC=FOC
 「そうして、間違えて挟まれたら、陰囊をぐすぐったら」
- (19) *pat=tii uj=aa panasɯ=tara*
 EXP=QUOT それ=TOP 放す=ASS
 「パッとそいつは（ハサミを）放すんだ」
- (20) *ii mata aneii=na=tii uri=kara mata*
 RECOGN 又 そんな=YNQ=QUOT それ=ABL 又
 「ええ、そうなの？それから」
- (21) *hai mjaaku=n=na ati=du hai jooɯ=nu nte=uu*
 INTR 宮古=D/L=TOP とても=FOC INTR 祝い=N/G 満ちる=IPF
nnja udurukɯ=du+ssɯ
 FIL 驚く=FOC+する
 「宮古には、祝い事があまりにも多くて、本当に驚く」
- (22) *hai ffa=nu mmarirj-aamai jooɯ*
 INTR 子=N/G 生まれる-CONC 祝い
 「子供が生まれてもお祝い」

- (23) ffa=nu njuugaku ee-aamai jooɿ
 子=N/G 入学 する-CONC 祝い
 「子供が入学してもお祝い」
- (24) uri=kara jaa=ju fukj-aamai jooɿ jooɿ=tii
 それ=ABL 家=ACC 建てる-CONC 祝い 祝い=QUOT
 「それから、家を建ててもお祝いお祝いと言って」
- (25) a ui=gamj=aa nnja dzoobun=juu ss-ai=du+ssɿ
 INTR それ=CNTR=TOP FIL 大丈夫=SFP 知る-可能=FOC+する
 「それは、大丈夫だよ、まだ分かる」
- (26) hai sentakkj=uu kai-tti=mai=du jooz=zu st=too=jaa
 INTR 洗濯機=ACC 買う-SEQ=INC=FOC 祝い=ACC する=SFP=PPF
 「洗濯機を買ってても祝いをする」
- (27) nagama-san uj=aa noo=tii=nu baa jarj-aa=tii
 長間-さん それ=TOP 何=QUOT=N/G 訳 COP-INT=QUOT
 「長間さん、それはどういう訳ですか？」
- (28) agai matsɿkani
 INTR 真津金
 「あれ、マツカニ」
- (29) hai aneii jooɿ=tii=nu mun=aa ffa=nu madzɿ
 INTR そんな 祝い=QUOT=N/G もの=TOP 子=N/G 先ず
 mmari-n=doo
 生まれる-REAL=SFP
 「祝いと言うものは、先ず子供が生まれるね」
- (30) unu ffa=a mmari sɿgu kenkoo+daiite=aa eii sɿgu
 その 子=TOP 生まれる.CVB すぐ 健康+第一=STAT する.CVB すぐ
 「その子が生まれて、健康第一で」
- (31) noo=nu kakaɿ+matsɿv njaa-dana
 何=N/G かかる+絡む ある-NEG.CV B
 「何の問題もなく」

- (32) sɿgu sɿku~sɿku=tii ss pudui fiiru=tii=du
 すぐ RED~EXP=QUOT HES 成長する.CVB BEN.IMP=QUOT=FOC
 baa=ja eii=du nigoo=tii=nu baa=doo
 訳=STAT する.CVB=FOC 祈願する=QUOT=N/G 訳=SFP
 「成長してくれ、と願うと言う訳だよ」
- (33) kkaa vva=ga an-kkaa unu sentakkj=aa noo=tii=nu
 COND 君=N/G CNJ-COND その洗濯機=TOP 何=QUOT=N/G
 baa jarj-aa=tii
 訳 COP-INT=QUOT
 「それなら、君がそうなら、その洗濯機はどういうことなの？」
- (34) agai sentakki=mai ugukɿ munu jai-ba=du
 INTR 洗濯機=INC 動くもの COP-CSL=FOC
 「洗濯機だって動く物だから」
- (35) nnja dzuu-nen=mai ni-dzUU-nen=mai javvu-dana nnja
 FIL 十-年=INC 二-十-年=INC 壊れる-NEG.CVB FIL
 「10年も20年も故障することなく」
- (36) tsɿka-ari fiiru=tii=du nigai utuuz=za
 使う-受身.CVB BEN.IMP=QUOT=FOC 祈願する.CVB 回し飲み=STAT
 maaraci num=tii=nu baa=dara
 回す.CVB 飲む=QUOT=N/G 訳=ASS
 「使えるようにと願って、オトーリ³⁵を廻して飲むと言う訳だ」
- (37) kkaa vva=ga uj=aa otoo-ta=ga tada saki+num=nu
 COND 君=N/G それ=TOP お父-PL=N/G ただ酒+飲む=N/G
 koodzit=tsa ara-n=naa=tii
 口実=TOP COP-NEG=YNQ=QUOT
 「そこで、君が、これはただのお父さんたちが飲む口実じゃないの？」
- (38) agai jai-ba=du sakj=uu nun-gatsɿna aneii nigai-ba=du
 INTR COP-CSL=FOC 酒=ACC 飲む-SIMULT そんな祈願する-CIRC=FOC
 「だから、酒を飲みながらこうして願っているから」

³⁵ 「オトーリ」とは回し酒の儀式を指す。

- (39) noo=nu kaka₁+mats₁v=mai njaa-n=tii=nu baa=doo
 何=N/G かかる+絡む=INC ある-NEG=QUOT=N/G 訳=SFP
 「何の問題もなくうまく行くと言う訳だ」
- (40) aa pinna+munu
 INTR 変+もの
 「不思議だね」
- (41) furans₁=n=na ancii=nu kut=aa mjuu-n=tii njaa-n
 フランス=D/L=TOP そんな=N/G 事=TOP 見る-NEG=QUOT ある-NEG
 「フランスにはこういうのはない」
- (42) uri=kara mata noo=rj-aa=tii
 それ=ABL 又 何=COP-INT=QUOT
 「それから、『また何?』」
- (43) vva=ga uri=kara=tii a₁-kkaa aba noo noo=rj-aa nnja mata
 君=N/G それ=ABL=QUOT 言う-COND SURPR 何 何=COP-INT FIL 又
 kond=aa=tii
 今度=TOP=QUOT
 「あなたが『それから』と言ったら、『あれ、今度はまた何?』」
- (44) hai furans₁=n=na teenen taieoku roku-dzoo=kara
 INTR フランス=D/L=TOP 定年 退職 六-十=ABL
 roku-dzoo-go=n s-kkaa nnja
 六-十-五=D/L する-COND FIL
 「フランスでは定年退職、60 から 65 になると」
- (45) furans₁=n s₁gutu=u suu-n
 フランス=D/L 仕事=ACC する-NEG
 「フランスで仕事をしない」
- (46) nna jaa=n=du terebj=aa mii appj=uu
 みんな 家=D/L=FOC テレビ=STAT 見る.CV 遊ぶ=IPF
 「皆家でテレビを見て遊んでいる」

- (47) mjaaku=nu nnja odzii obaa-taa=ja ukaasɿ+munu
宮古=N/G FIL おじい おばあ-PL=TOP すごい+もの
「宮古島のおじいさんたち、おばあさんたちは本当にすごい」
- (48) hai hatei-dzoo sɿgi-tti=mai pari+sɿgut=aa eii
INTR 八-十 過ぎる-SEQ=INC 畑+仕事=STAT する.CVB
icɛokemmee uu=doo ubai~ga~ubai
一所懸命 いる=SFP RED~LIN(ga)~関心に働する
「80歳を過ぎても、畑仕事をして一所懸命なんだよ」
- (49) tii aɿ-kkaa a matsɿkani ancii ui-ba=du mjaaku=nu
QUOT 言う-COND INTR 真津金 そんないる-CSL=FOC 宮古=N/G
odzii obaa-taa=ja gandzoo~gandzoo uu=tii=nu baa=doo
おじい おばあ-PL=TOP LRED~健康 いる=QUOT=N/G 訳=SFP
「と言ったら、マツカニ、そういうわけで、宮古島のおじいさんたちとおばあさんたちはとても元気だってことだよ」
- (50) gaa daidzɿ=dara
INTR 大変=ASS
「大変だ」
- (51) kkaa vva=ga aa ancii=du xxx-kkaa furansɿ=nu nn odzii
COND 君=N/G INTR そんな=FOC xxx-COND フランス=N/G FIL おじい
obaa-ta f furansɿ=nu teenen taicoku st-taa
おばあ-PL HES フランス=N/G 定年 退職 する-PST
「あなたが、そうだったら、フランスのおじいさん、おばあさんたちは、フランスの定年退職した」
- (52) noo=tii=ga xxx odzii obaa ara-dana nnja teenen s-kkaa
何=QUOT=INT xxx おじい おばあ COP-NEG.CVB FIL 定年 する-COND
「何て言うか、おじい、おばあ、定年すると」
- (53) maantii futakina mii+mara+paa=n kssɿ=tii=nu mun=aa
本当 すぐ 目+男性器+歯=D/L 来る=QUOT=N/G もの=TOP
ancii=nu baa=bee=ii=tii
そんな=N/G 訳=DUB=SFP=QUOT
「実にすぐに体が衰えていくのはそういうわけかね？」

(54) uma=dara nnja=tii
そこ=ASS FIL=QUOT
「そこだよ」

(55) too too nnja ara nnja duuta=ga
終わり 終わり FIL それでは FIL 1PL.INCL=N/G
panas=su usʔki=bakaaʔ=n suu=jaa
話=ACC そんなにたくさん=APPR=D/L する .HORT=PF
「私達の話はここまでにしよう」

5.5 昔の風呂

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
- 収録日・場所：2014 年 10 月 20 日、宮古島川満、話者自宅（外）
- 収録時間：57s

- (1) juufuru=tii=ja nkjaan=na doramu+kan=nu ukki-tti=du
風呂=QUOT=TOP 昔=TOP ドラム+缶=ACC 置く -SEQ=FOC
「お風呂というのは、昔はドラム缶を置いて」
- (2) nak attsaci ui=nkai=naa paŋ-taa
中.HES 温める.CVB それ=ALL=HAB 入る -PST
「温めてその中に入った」
- (3) uri=ka daiban+mm+nii+nabi ui=n nii-tti jaa
それ=INT 大きい+芋+煮る+鍋 それ=D/L 煮る -SEQ CORR
attsaci-tti eetti fumi
温める -SEQ こうして 汲む.CVB
「それか、でかい芋用の鍋、それで煮て、え、温めて、こうして水を汲んで」
- (4) unuu taraŋ ui=nkai zzi-tti pŋguru+midzŋ-gama=a bai-tti
そのお 盥 それ=ALL 注ぐ -SEQ 冷たい+水 -DIM=STAT 薄める -SEQ
ami-tti mata
浴びる -SEQ 又
「ええっと、盥。その中に入れて、冷たい水を加えて浴びて」
- (5) duu=ga amj=uu aida=n mata pŋguru+mit=tsa
REFL=N/G 浴びる=IPF 間=D/L 又 冷たい+水=STAT
nabi=nkai zzi tsŋgi=nu pstu=nu mutj=uu attsasŋ=tara
鍋=ALL 注ぐ.CVB 次=N/G 人=N/G 分=ACC 温める=ASS
「自分が水を浴びている間にまた冷たい水を鍋に入れて、次の人の分を温めるんだ」
- (6) jai-ba bikidum-nukjaa=gamj=aa araa=iki ami-suga
COP-CSL 男 - PL=CNTR=TOP 外=LOC2 浴びる -CONTR
「だから、男性たちは外に行って浴びるけど」

- (7) anga-taa=ja furo=o wakj=uui-ba ee attsac=uui-ba
 先輩 (女) -PL=TOP 風呂=TOP 沸く=IPF-CSL INTR 温める=IPF-CSL
 uma=nu jukaara-gama=n=du taraz=za ukki-tti uma=n
 そこ=N/G 横-DIM=D/L=FOC 盥=STAT 置く-SEQ そこ=D/L
 amj=uu-taa
 浴びる=IPF-PST
 「姉さんたちは風呂を温めているから、そこのすぐ側に盥を置いて浴びて
 いた」
- (8) ban-taa=ja taraz=zu=baa araa=n kancii ukki-tti ui=nkai
 私-PL=TOP 盥=ACC=TOP2 外=D/L かよう 置く-SEQ それ=ALL
 sɔ̃gu juufur=aa fumi keei zzi-tti
 すぐ 風呂=STAT 汲む.CVB 来る.CVB 注ぐ-SEQ
 「私達は、盥を外に置いて、その中にお風呂の水を汲んで来て、入れて」
- (9) fuju=n=teaan=ju natsɔ̃=n=na pɔ̃guru+midzɔ̃=dara
 冬=D/L=RESTR=SFP 夏=D/L=TOP 冷たい+水=ASS
 「冬の時だけだよ。夏は冷たい水だ」
- (10) natsɔ̃=n=na pɔ̃guru nn natsɔ̃=n=na ju atsɔ̃+munu=u=baa
 夏=D/L=TOP 冷たい FIL 夏=D/L=TOP 湯.HES 暑い+もの=ACC=TOP2
 ami-mmaa
 浴びる-RHET
 「夏には暖かい水を浴びるわけがない」

5.6 昔の正月

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
- 収録日・場所：2015 年 01 月 13 日、宮古島平良、研究者自宅
- 収録時間：51s

- (1) nkjaan=nu ban-ta jarabi-kaŋ-kja=nu ɛoogatsɿ=n=na=jaa
昔=N/G 私-PL 子供-VRB-TEMP=N/G 正月=D/L=TOP=PPF
「昔の、私たち子供の時の正月にはね」
- (2) nnja unu nama+dzaaka=naa=du nnja sɿgu tida=nu agara-n-kja
FIL FIL MIT+未明=HAB=FOC FIL すぐ 太陽=N/G 上がる-NEG-TEMP
nnja uki-tti
FIL 起きる-SEQ
「未明に、太陽が上がらないうちに起きて」
- (3) ɛiitu-nukjaa=ja tunaŋ=iki
生徒=N/G-PL=TOP 隣=LOC
「生徒たちが隣に行って」
- (4) omedetoogodzaimasɿ=tii sɿgu upu+gui=ɛii=naa iki
おめでとうございます=QUOT すぐ 大きい+声=INST=HAB 行く.CVB
『おめでとうございます』と大きな声で、行って」
- (5) ugami-tti tii-gamo=o=teoodai ɛii idaci-ba=naa=du
拝む-SEQ 手-DIM=ACC=頂戴 する.CVB 出す-CIRC=HAB=FOC
「挨拶をして、手で頂戴の合図を出したら」
- (6) enpitsɿ=tu teomin=nu=naa nn tunaŋ=nu kaatean=ga=naa
鉛筆=COM 帳面=ACC=HAB FIL 隣=N/G 母ちゃん=N/G=HAB
fii-taa=dara
くれる-PST=ACC
「鉛筆と帳面を、隣の母さんがくれた」
- (7) anɛi-tti ujaki+jaa=nkai ikɿ-kkaa
CNJ-SEQ 富裕+家=ALL 行く-COND
「そして、金持ちの家へ行くと」

- (8) unu midzɨ+iro eii=nu koorin+enpitsɨ=tu daigaku+nooto=o=naa
FIL 水+色 する.CVB=N/G コーリン+鉛筆=COM 大学+ノート=ACC=HAB
fii-taa=dara
くれる-PST=ASS
「水色のコーリン鉛筆と大学ノートをくれたんだ」

- (9) ati=du ui=ga nnja pukarasɨ-kai-ba=naa
とても=FOC それ=N/G FIL 嬉しい-VRB-CSL=DIS
「これがあまりにも嬉しかったので」

- (10) nnja eoogatsɨ=tii aɨ-kkaa unusɨku tanoɛimi ja-taa=dara
FIL 正月=QUOT 言う-COND それまでに 楽しみ COP-PST=ASS
「正月と言ったら、ものすごく楽しみだったんだ」

5.7 味噌作り

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
- 収録日・場所：2016 年 08 月 01 日、宮古島川満、話者自宅
- 収録時間：2m14s

(1) ntsɿ+tsuffu

味噌+作る

「味噌作り？」

(2) ntsu=u=baa madzɿ daidzɿ+mami

味噌=ACC=TOP2 まず 大豆+豆

「味噌はまず大豆豆」

(3) urj=uu pari=kara tui keei-tti=du

それ=ACC 畑=ABL 取る.CVB 来る-SEQ=FOC

「それを畑から取って来て」

(4) sɿgu boo=eii kanɿi maaraci tataki

すぐ 棒=INST かよう 回す.CVB 叩く.CVB

「棒でこう廻しながら叩いて」

(5) nna nn tonikaku baɿ=saaira mamj=uu bari-tti

みんな FIL とにかく 割る=CONF 豆=ACC 割る-SEQ

「全部、えっと、とにかく割るね、豆を。割って」

(6) muɿdzooki=eii urj=uu utsɿ+fuuri mamj=aa tui

浅い籠=INST それ=ACC INTSF+振る.CVB 豆=STAT 取る.CVB

「豆用の籠でそれを揺すぶって、豆を取って」

(7) urj=aa juvdi juvdi-tti mm+nii+nabi=n=ju

それ=STAT 茹でる.CVB 茹でる-SEQ 芋+煮る+鍋=D/L=SFP

「それを茹でて、茹でてから、大きな芋用の鍋でね」

(8) juvdi-tti uri=kara unu mugɿ ui=ga koodzi³⁶

茹でる-SEQ それ=ABL FIL 麦 それ=N/G 麴

「茹でてから、それから、麦。その麴」

³⁶ 標準語。宮古語は koodzɿ。

- (9) urj=uu koodz=uu nnja hakkoo st-taa munu=u
 それ=ACC 麴=ACC FIL 醱酵 する -PST もの=ACC
 「それを、麴を、醱酵したものを」
- (10) ɛi-tti=du mamj=uu unu maarasɿ unu noo=ti=ga aɿ=gari
 する -SEQ=FOC 豆=ACC そのお 回す そのお 何=QUOT=INT 言う =DUB
 kaj=uu=baa nnja
 あれ=ACC=TOP2 FIL
 「そして、豆を廻す、廻す、何て言うかな、あれは」
- (11) kancii=naa faaci mami+faasɿ+kikai=tii=du aɿ-taa=saai
 かよう=HAB 差し込む.CVB 豆+差し込む+機械=QUOT=FOC 言う -PST=SFP
 「こうしてつぶす。「豆をつぶす機械」と言っていたね」
- (12) urj=aa faaci³⁷ mamj=uu=ju waagu=kara zzi
 それ=STAT 差し込む.CVB 豆=ACC=SFP 上=ABL 入れる.CVB
 faaci
 差し込む.CVB
 「それをつぶして、上から入れてつぶして」
- (13) tti ui=tu nn unuu maasu
 SEQ それ=COM FIL FIL 塩
 「そして、それと、塩」
- (14) uri=kara nnja koodzi=ra urj=uu zzi sɿgu kigjaaci
 それ=ABL FIL 麴=AGR それ=ACC 入れる.CVB すぐ 混ぜる.CVB
 「それから麴ね、それを入れて、混ぜて」
- (15) sɿgu nna=ɛii tsɿtsɿki kigjaaci-tti
 すぐ みんな=INST 突く.CVB 混ぜる -SEQ
 「皆で搗いて、混ぜて」

³⁷ faas- は fa- 「食べる」の使役形で、「食わせる」が元の意味である。「サトウキビを搾り機に差し込む」などという意味もあり、ここでは、「つぶす」と訳した。

- (16) urj=uu nnja kami=nkai zzi ui=ga nan+nitei=gara
 それ=ACC FIL 甕=ALL 入れる.CVB それ=N/G 何+日=CMPLZ
 ssa-n=sa ban-taa=ja jarabi jai-ba nnja
 知る-NEG=SFP 私-PL=TOP 子供 COP-CSL FIL
 「それを甕に入れて、それが何日間（置くのか）分からない。私たちは子供だったから」
- (17) nn ukki ui=ga nnja ntsu=n nari pii=dara
 FIL 置く.CVB それ=N/G FIL 味噌=D/L 成る.CVB 行く=ASS
 「置いて、それが味噌になっていくんだ」
- (18) an-suga=du unu ntsu=u tsuffu mai=nu nnja mami=nu
 CNJ-CONTR=FOC FIL 味噌=ACC 作る 前=N/G FIL 豆=N/G
 maasu=u poorj=uukɿ mami=nu unusɿku mma-ka-taa=dara
 塩=ACC 撒く=PROV 豆=N/G それまでに 美味しい-VRB-PST=ASS
 「しかし、その味噌を作る前の豆、塩が振ってある豆の方がものすごく美味しかった」
- (19) mamj=aa daidzɿ+mamj=aa
 豆=TOP 大豆+豆=TOP
 「豆は、大豆豆は」
- (20) nattoo nattoo=tii=nu munu=gamj=aa nnja fusari sunki=nu
 納豆 納豆=QUOT=N/G もの=CNTR=TOP FIL 腐れる.CVB 饅える=N/G
 munu=u nooɕii=ga nnja uj=uu foo faij=uu=ga=tii
 もの=ACC どうやって=INT FIL それ=ACC 食べる 食べる=IPF=INT=QUOT
 ati pirumasɿ-kas-suga ui=mai daidzɿ=nu ira ɕurui
 とても 不思議-VRB-CONTR それ=INC 大豆=N/G AGR 種類
 「納豆というのは、腐ってだめになった食べ物をどうやって（人々が）食べられるかはあまりにも不思議だけど、これも大豆の一種だね」
- (21) jaa na daidzɿ jai-ba moto~mot=aa
 PFP HES 大豆 COP-CSL RED~元=TOP
 「ね、大豆だから、元々は」

- (22) tti anei-tti nts^w=aa³⁸ nkjaan=na nnja akaa~aka uu-kkaa jojuu=ja
SEQ CNJ-SEQ 味噌=TOP 昔=TOP FIL LRED~赤い いる -COND 余裕=TOP
njaa-n kadzoku kinai
ある-NEG 家族 家庭
「そして、味噌は昔は赤いと余裕がない家族」
- (23) tti ffo-onu ntsu=nu kinai=ja nnja ujaki+jaa=tii=nu baa
SEQ 黒い-ADJZ 味噌=N/G 家庭=TOP FIL 富裕+家=QUOT=N/G 訳
「そして、真っ黒の味噌の家族はお金持ちというわけだ」
- (24) urj=aa nts^w=aa tsɿk kami=n tsɿki-tti
それ=TOP 味噌=STAT HES 甕=D/L つける -SEQ
「これはどういうことかというに、味噌を甕につけて」
- (25) jojuu=nu aa pst=aa ifu-kami=mai tsɿki uki-ba
余裕=N/G ある 人=TOP 幾-甕=INC つける .CVB PROV-CSL
nn ui=ga nnja ifu ifu+tusɿ=mai nari
FIL それ=N/G FIL 幾.HES 幾+年=INC 経つ .CVB
「余裕がある人はいくつもの甕をついておくから、何年間経って」
- (26) kancii nagjaafu ukkj- uutii foo
かよう 永らく 置く -BACK 食べる
「こうして長く置いておいて食べる」
- (27) jojuu=nu njaa-n pst=aa nnja saa unu kami=n ukkj=uukɿ
余裕=N/G ある -NEG 人=TOP FIL HES その 甕=D/L 置く =PROV
munu=u saati mata nnja faa-da-kaa manjaa-n
もの=ACC さっさと 又 FIL 食べる -NEG-COND 間に合う -NEG
「余裕がない人は甕においておいたものを早く食べなければ間に合わない」
- (28) ancii=du aka+ntsu=tii akaa ntsu=nu baka+ntsu-gama=saai
さよう=FOC 赤い+味噌=QUOT 赤い.HES 味噌=N/G 若い+味噌 -DIM=SFP
「だから、赤い、味噌の、若い味噌だね」

³⁸ 基本的に ua の母音連続が aa に代わるが、主題の助詞が u に終る語に付くと、u がグライド化することもある。

(29) an-suga baka+ntsu=nu=du mma-ka-taa=tii nna=ɕii
CNJ-CONTR 若い+味噌=N/G=FOC 美味しい-VRB-PST=QUOT みんな=INST

aɲ=saai

言う=SFP

「しかし、若い味噌の方が美味しかったと皆揃って言っているね」

5.8 昔の農業

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
- 収録日・場所：2015 年 16 月 09 日、宮古島川満、話者自宅
- 収録時間：4m59s

- (1) nkjaan=na ban-ta=ga nnja mono+gokoro nnja ɛii=kara
昔=TOP 私-PL=N/G FIL 物+心 FIL する.CVB=ABL
「昔は私たちが物心が付いてから」
- (2) mjaaku=nu pari=tii aɣ pari=n=na nna buugɣ ja-taa
宮古=N/G 畑=QUOT 言う 畑=D/L=TOP みんな サトウキビ COP-PST
「宮古島の畑という畑には全部サトウキビだった」
- (3) an-tti un=nagj=aa buugz=za ni-ɛurui=ɛika
CNJ-SEQ 当時=APPR2=TOP サトウキビ=TOP 二-種類=しか
njaa-t-ta-n
ある-NEG-PST-REAL
「そしてあの頃は二種類のサトウキビしかなかった」
- (4) en-ee-ɛi-o=tu ssu+buugɣ=tii=du foo-kkaa nnja
NA-C-O=COM 白い+サトウキビ=QUOT=FOC 食べる-COND FIL
japa-anu mma-anu buugɣ=nu aa-taa=dara
柔らかい-ADJZ 美味しい-ADJZ サトウキビ=N/G ある-PST=ASS
「『NACO』という種類と、『白サトウキビ』と言って、食べると柔らかくて美味しいサトウキビがあった」
- (5) an-suga ɛimodzi=n=na urj=uu=baa mankitei+buugɣ=tii=du
CNJ-CONTR 下地=D/L=TOP それ=ACC=TOP2 万吉+サトウキビ=QUOT=FOC
azz=uu-taa
言う=IPF-PST
「しかし下地ではその種類を『万吉サトウキビ』と呼んでいた」
- (6) nema mankitei nn odzii=ga=du taiwan=ka teuugoku=kara
根間 万吉 FIL おじい=N/G=FOC taiwan=INT 中国=ABL
mutei keei hirumi-taa=ts-suga=du
持つ.CVB 来る.CVB 広める-PST=HS-CONTR=FOC
「根間万吉おじいさんが台湾か中国から持って来て広めたそうだが」

- (7) nnja mjaaku=n=na ati kadzi=nu fuki-ba sura=nu
 FIL 宮古=D/L=TOP とても 風=N/G 吹く-CSL 植物の先端=N/G
 buri-taa=tin=dara unusɔku japaa~japa
 折れる-PST=HS=ASS それまでに LRED~柔らかい
 「宮古島には台風が頻繁に来るので、梢がしょっちゅう折れたそうだ、柔らかくて」
- (8) uj=uu nnja dandan nnja uj=uu=baa tsɔkaa nnja
 それ=ACC FIL 段々 FIL それ=ACC=TOP2 使う.HES FIL
 ibu-n-fu naɔ-taa=ttsa
 植える-NEG-ADV 成る-PST=HS
 「それを段々植えなくなったそうだ」
- (9) anei-tti buugɔ+ibi=n=na ira nnja
 CNJ-SEQ サトウキビ+植える=D/L=TOP AGR FIL
 「そして、サトウキビを植える時は」
- (10) un=nagj=aa nnja kikai=tii=du njaa-t-taa kata=n=du
 当時=APPR2=TOP FIL 機械=QUOT=FOC ある-NEG-PST 故=D/L=FOC
 「機械がなかったから」
- (11) nuuma=eii sɔki manj=aa agi ui=n kadzɔvvai=ja
 馬=INST 鋤く.CVB 畝=STAT 上げる.CVB それ=D/L 元肥=STAT
 poori
 撒く.CVB
 「馬で耕して畝をあげて、その中に元肥を撒いて」
- (12) ui=ga waabu=n sani=ga sanj=uu ukki=naa nn
 それ=N/G 上=D/L 種=N/G.HES 種=ACC 置く.CVB=HAB FIL
 ibi-taa=saaira
 植える-PST=CONF
 「その上に種を置いて植えたよ」
- (13) an-suga=du nnja anna-ta=ga=naa=du atu=kara umi+guna
 CNJ-CONTR=FOC FIL 母-PL=N/G=HAB=FOC 後=ABL 埋める+係り
 ja-tai-ba
 COP-PST-CSL
 「しかし、おかあちゃんたちが最後に埋める係だったので」

- (14) sani=nu mintama-gamo=o=garaa=du nnja saka=nkai dzɪkɪna=a
種=N/G 目玉-DIM=ACC=EMPH=FOC FIL 逆=ALL 逆さま=STAT
e=uu-kkaa
する=IPF-COND
「種の芽を逆さまにしたら」
- (15) unusɪku zz-ai-taa=dara
それまでに 叱る-受身-PST=ASS
「すんごく叱られた」
- (16) jai-ba=du kaagi uttei=gami=du sɪgutu=mai naɪ=tii
COP-CSL=FOC 容貌 の割に=CNTR=FOC 仕事=INC できる=QUOT
zzi=naa uu-tas-suga
叱る.CV=HAB IPF-PST-CONTR
「それで、『ぶさいくなほど仕事ができるんだ』と叱っていたけど」
- (17) nootii=ga naa=ga nasɪ-taa ffa ancii azza-da-kaa
なぜ=INT REFL=N/G 産む-PST 子 そんな 言う-NEG-COND
nara-n=garaa=tii umuu-taa=saai
できる-NEG=DUB=QUOT 思う-PST=SFP
「なんで自分が生んだ子にこんなことを言わなければならないのかなと思ったよ」
- (18) anei-tti mata nnja buugɪ=nu paa+kakɪ
CNJ-SEQ 又 FIL サトウキビ=N/G 葉+取る
「そして、またサトウキビの葉っぱ取り」
- (19) un=na agai eoogaku san-nen=kara=du nna nnja buugɪ=nu
当時=TOP INTR 小学 三-年=ABL=FOC みんな FIL サトウキビ=N/G
paa=ju kakj=uu-suga ancii japaa=tii-gama tebukuro=mai
葉=ACC 取る=IPF-CONTR そんな ??=QUOT-DIM 手袋=INC
hamu-dana
嵌める-NEG.CV=HAB
「当時は小学三年から皆サトウキビの葉っぱを取るけれども、手袋もはめないで」

- (20) buugɿ=nu paa=ju=naa kaki=naa uu-tas-suga
 サトウキビ=N/G 葉=ACC=HAB 取る .CVB=HAB IPF-PST-CONTR
 「サトウキビの葉っぱを取っていたが」
- (21) un=nagi=nu buugɿ=n=na nnja maada=du mata
 当時=APPR2=N/G サトウキビ=D/L=TOP FIL とても=FOC 又
 tsɿɿgɿ=nu arj=uukɿ=dara
 棘=N/G ある=PROV=ASS
 「あの頃はサトウキビには棘がたくさんあったんだ」
- (22) ui=ga mbjaa-t-taa
 それ=N/G 耐える-NEG-PST
 「それがたまらなかったんだ」
- (23) tti buugɿ=nu paa=ja kak ban
 SEQ サトウキビ=N/G 葉=TOP 取る .HES 私 .HES
 「そして、サトウキビの葉っぱを取って」
- (24) tɕoonan+adza=tu nnja baja=a nandzu madzime ara-n
 長男+兄=COM FIL 私=TOP あまり まじめ COP-NEG
 dzɿnan=na madzimj=aa ɛ-uutii
 次男=TOP まじめ=STAT する -BACK
 「長男と私はそれほどまじめではなかったが、次男はまじめで」
- (25) pstu-mani=naa nnja gakkoo kɕɕi kaki kuu=tii
 一-畝=DIS FIL 学校 来る .CVB 取る .CVB 来る .IMP=QUOT
 uu=munu nnja dzɿnan=na futa-mani=mai mɿɿ-mani kaki
 IPF=CONTR2 FIL 次男=TOP 二-畝=INC 三-畝 取る .CVB
 「学校から来ると畝を一本やって来いと言うのに、次男は畝二本も三本もやって」
- (26) unusɿku anna=n=na taka-sa ɕi-rai-suga=du baja=a
 それまでに 母=D/L=TOP 大事-NMLZ する-受身-CONTR=FOC 私=TOP
 pstu-mani xxx sɿnnjatto kaki-tti
 一-畝 xxx やっと 取る-SEQ
 「おかあさんにすごく可愛がられたが、私は畝一本やっとの思いで取って」

- (27) tamatama nnja san-bun=nu itei=bakaaꞑ go-dzUU-meeta=nu
 たまたま FIL 三-分=N/G 一=APPR 五-十-メートル=N/G
 san-bun=nu itei nukue=uuki-ba
 三-分=N/G 一 残す=PROV-CSL
 「たまたま、(次男が) 50 メータの 3 分の 1 を残したから」
- (28) kjuu=ja nnja futa-mani kaki-tti nnja saa nnja
 今日=TOP FIL 二-畝 取る-SEQ FIL ? FIL
 「今日は畝を二本やっちゃって」
- (29) soomin+dzꞑru=u f okawari eii faa-tte=aa=tii
 素麺+しる=ACC 食べる.HES おかわり する.CVB 食べる-VOL=PFP=QUOT
 umui
 思う.CVB
 「素麺汁をおかわりして食べようと思って」
- (30) pstu-mani saati kaki-tti utsꞑ-tummmaari unu
 一-畝 さっさと 取る-SEQ INTSF-引き返す.CVB FIL
 manj=uu kaki ui-ba=du
 畝=ACC 取る.CVB IPF-CIRC=FOC
 「畝を一本やって引き返して(次の) 畝をやっていたら」
- (31) nna itei-meeta=eii owari=tii=nu tukꞑ=n nnja agai tandi
 もう 一-メートル=INST 終わる=QUOT=N/G 時=D/L FIL INTR INTR
 「あと 1 メートルで終わりのところに、しまった」
- (32) gajanda=n ff-ari mii=mai sꞑba=mai kancii fukuri nnja
 蜂の一種=D/L 刺す-受身.CVB 目=INC 唇=INC こんな 腫れる.CVB FIL
 「蜂に刺されて、目も唇もこう膨らんで」
- (33) munu+foo+dukur=aa ara-tte=aa nnja
 もの+食べる+所=TOP COP-VOL-RHET FIL
 「食事どころではない」
- (34) gakkoo=nkai noeii ika-di=ga=tii uu-kja nnja
 学校=ALL どうやって 行く-VOL=INT=QUOT いる-TEMP FIL
 「学校へどうやって行けるのかと思っていたら」

- (35) *anna=ga banu=u=du eiwa ssɿ=bjɿaa³⁹=tii umuu-kkaa aaga*
 母=N/G 私=ACC=FOC 心配する=DUB=QUOT 思う-COND INTR
 「お母さんが私を心配するかと思ったら」
- (36) *kutus=sa kuja nnja dzootoo=tii noo=tii*
 今年=TOP こや FIL 上等=QUOT 何=QUOT
 「『今年はほら上等だ』と『何?』」
- (37) *kadzi+fuks=sa nnja kuu-n=jo*
 風+吹く=TOP FIL 来る-NEG=SFP
 「『台風はもう来ないよ』」
- (38) *patsɿ=nu ssɿ=nu arii=kara kadzi=nu fuk kadz=aa kuu-n=tii*
 蜂=N/G 巣=N/G ある.CVB=ABL 風=N/G ??HES 風=TOP 来る-NEG=QUOT
 「『蜂の巣ができれば台風は来ない』と」
- (39) *ba=ga eiwo=o=du ssɿ=bjɿaa=tii umuu-kkaa*
 私=N/G 心配=ACC=FOC する=DUB=QUOT 思う-COND
 「私のことを心配するかと思ったら」
- (40) *buugɿ=nu eiwa=a e=uu-taa*
 サトウキビ=N/G 心配=STAT する=IPF-PST
 「サトウキビのことを心配していた」
- (41) *uri=kara euukaku=n naɿ-kkaa*
 それ=ABL 収穫=D/L 成る-COND
 「それから、収穫になると」
- (42) *un=nagj=aa nnja buraku=nu=du buugɿ+buɿ*
 当時=APPR2=TOP FIL 集落=N/G=FOC サトウキビ+収穫する
kumiai=tii arj-uutii
 組合=QUOT ある-BACK
 「あの頃は部落にサトウキビの収穫組合というのがあって」

³⁹ *b* は無声無気子音。sVCV、C = [+voice, +stop]の環境で、Cが無声無気子音になることがある。宮古語の無声子音音素は有気なので、それらとは音声が異なっていることに注意されたい。

- (43) go-ken=bakaaŋ ei-tti unu jaa=nu buugz=zu
 五-軒=APPR する-SEQ その家=N/G サトウキビ=ACC
 itei-dai idasŋ-kkaa mata tsŋgi=nu pstu=nu muti aneii fumaari
 一-台 出す-COND 又 次=N/G 人=N/G 分 そんな 順番にする.CVB
 「五軒ぐらいで、その家のサトウキビを一台出荷すると、また次の人のサ
 トウキビを (収穫する)、こう順番に」
- (44) buugz=zu nagi=naa uu-taa
 サトウキビ=ACC 薙ぐ.CVB=HAB IPF-PST
 「サトウキビを収穫していた」
- (45) tti duu=ga ma maaru=n jaa=nu maaru=n naŋ-kkaa nnja
 SEQ REFL=N/G 順番.HES 順番=D/L 家=N/G 順番=D/L 成る-COND FIL
 「そして、自分の家の番になると」
- (46) jusarabi nnja otoo-ta=ga saki=nu usai+koo=ga=tii=naa
 夕方 FIL お父-PL=N/G 酒=N/G つまみ+買う=PURP=QUOT=HAB
 「夕方におとうさんたちが酒のつまみを買いに行っていた」
- (47) un=nagj=aa sŋpaa=tii njaa-nni-ba nnja uidzŋ=nu
 当時=APPR2=TOP スーパー=QUOT ある-NEG-CSL FIL 上地=N/G
 mattea=iki
 店=LOC
 「あの頃はスーパーというのがなくて、上地の店に行って」
- (48) unu reetoo aka-anu zzu=u koo=ga=naa juu ikŋ-taa=dara
 その 冷凍 赤い-ADJZ 魚=ACC 買う=PURP=DIS しばしば 行く-PST=ASS
 「冷凍の赤い魚をよく買いに行った」
- (49) anei-tti nnja tsŋide=n kamabaku=u=mai san-mai kai
 CNJ-SEQ FIL ついで=D/L カマボコ=ACC=INC 三-枚 買う.CVB
 kuu=tii ui-ba nn=tii
 来る.IMP=QUOT いる-CSL はい=QUOT
 「そして、ついでにカマボコも 3 枚買って来いと言うので、承知して」

- (50) anga=tu fu-taaŋ nnja dzitenca+nuuŋ koo-kai-ba
 姉=COM 二-名 FIL 自転車+乗る きつい-VRB-CSL
 nuuma=kara iki
 馬=ABL 行く.CVB
 「お姉さんと二人、自転車に乗るのがきついから、馬で行って」
- (51) koo=ga iki-tti kaeri nnja jaas-sa+bata jai-ba nnja
 買う=PURP 行く-SEQ 帰る FIL お腹空いた-NMLZ+腹 COP-CSL FIL
 「買いに行っていて、帰りは、お腹がすいた状態だから」
- (52) mmi-ttea-gama hai tsɯnkɛɛi fai mjuu-di=tii nnja
 小さい-ADV2-DIM INTR 箸り取る.CVB 食べる.CVB 見る-VOL=QUOT FIL
 fu-taaŋ=eii nnja tsɯnkɛɛ=aa foo~foo uu-kkaa
 二-名=INST FIL 箸り取る.CVB=TOP RED~食べる いる-COND
 「はい少し箸り取って食べてみようよと、二人で箸り取って食べていたら」
- (53) atu=n=na nnja itei-mai=ju=baa nna fai-tti jaa iki-ttj=aa
 後=D/L=TOP FIL 一-枚=ACC=TOP2 みんな 食べる-SEQ 家 行く-SEQ=TOP
 nnja anna=n zz-ai
 FIL 母=D/L 叱る-受身.CVB
 「1枚を全部食べて、家に行ったら、お母さんに叱られて」
- (54) juz=zu=baa faa-dana uu-taa baa=n=aa=dara=tii
 夕食=ACC=TOP2 食べる-NEG.CVB いる-PST 場合=N/G=ある=ASS=QUOT
 「晩御飯をたべないでおったことがあるよ」
- (55) ee nnama=nu dzidai=ja nnja noo jononaka=a muŋ-gaari nnja
 INTR 今=N/G 時代=TOP FIL 何 世の中=TOP INTSF-変わる.CVB FIL
 「今の時代は世の中がすっかり変わって」
- (56) buugŋ+ibi=mai kikai=eii ibi
 サトウキビ+植える=INC 機械=INST 植える
 「サトウキビを植えるのも機械で植える」

- (57) *agai tandi anci-tti kanu torakutaa mmi-inu torakutaa-gama=ɕii*
 INTR INTR CNJ-SEQ あのトラクター 小さい-ADJZ トラクター-DIM=INST
burutora=ɕii ibii=nu pstu-nukjaa=ja
 ブルトラ=INST 植える.CVB=N/G 人-PL=TOP
 「そして、小さいトラクターで植える人たちは」
- (58) *otoo=ga=du unten=na ɕii kaatean teibi xxx isugasɿ-ki*
 お父=N/G=FOC 運転=STAT する.CVB 母ちゃん 後ろ xxx 忙しい-SEMBL
nari kancii uu-suga
 成る.CVB かよう いる-CONTR
 「お父さんが運転して、お母さんが後ろにいて、忙しそうにやっているけど」
- (59) *kaatean=∅ unten=na sɿmi-tti otoo=ga ibi=nu kut=aa*
 母ちゃん=D/L 運転=STAT させる-SEQ お父=N/G 植える=N/G 事=TOP
kaj=aa
 あれ=TOP
 「お母さんに運転してもらって、お父さんが植えることはこれは」
- (60) *maada kɿmu+kagi+mjuutura-nukjaa=pat=teu=tii*
 とても 心+きれい+夫婦- PL=筈=SFP=QUOT
 「とても優しい夫婦のはずだよ」
- (61) *tti nnja aba midzɿ+makɿ=mai nekutai fundzi uri-tti jusarabi*
 SEQ FIL SURPR 水+撒く=INC ネクタイ 縛る.CVB IPF-SEQ 夕方
iki
 行く.CVB
 「そして、あれ、水を撒くのもネクタイを締めて、夕方に行って」
- (62) *dzat=ti garan-gamo=o xxx-kkaa ui=mai midzɿ=ɕii mak-ai*
 EXP=QUOT ガラン-DIM=ACC xxx-COND それ=INC 水=INST 蒔く-可能
 「くるっとカランをあけると、水で撒くことができて」
- (63) *noo=nu jununaka=rj-aa ubai~ga~ubai*
 何=N/G 世の中=COP-INT RED~LIN(ga)~感心に価する
 「感心する世の中だよ」

- (64) buugɫ+nagɫ xxx unusɫku haabesɫtaa=ɕii gav~gav=tii
 サトウキビ+難ぐ xxx それまでに ハーベスター=INST RED~EXP=QUOT
 fai piri-tti nnja
 食べる.CVB 行く -SEQ FIL
 「サトウキビの収穫もハーベスターでがばっと取り込んで行って」
- (65) pari+nus=sa noo=mai nangz=zu=baa ssɫ-mmaa
 畑+主=TOP 何=INC 難儀=ACC=TOP2 する -RHET
 「畑の主は全く苦労しない」
- (66) kancii=nu raku-na noogjoo=tii=ja nnja taa=ga
 かよう=N/G 楽-ATTR 農業=QUOT=TOP FIL 誰=N/G
 kancii=nu jununaka idi=tii umuu-tarj-aa
 かよう=N/G 世の中 出る=QUOT 思う -PST-INT
 「こんな楽な農業とは、誰がこんな時代が訪れると思ったか」
- (67) nnaa=kara=mai sɫgu jamakasa buugz=za tsuffi sɫburaci
 今=ABL=INC すぐたくさん サトウキビ=STAT 作る.CVB 搾らせる.CVB
 「今後もサトウキビをたくさん作って絞ってもらって」
- (68) nookjoo=n jamakasa jokin=nu ukkɫ-joon suu=jaa=tii
 農協=D/L たくさん 預金=ACC 置く-ようにする.HORT=PFP=QUOT
 「農協にたくさんの預金を置くようにしよう」
- (69) ba=ga panas=sa too
 私=N/G 話=TOP 終わり
 「私の話は終わり」

5.9 お弁当の話

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
- 収録日・場所：2014 年 12 月 08 日、宮古島平良、研究者自宅
- 収録時間：3m56s

- (1) kurj=aa maantii aa-taa panasʔ
 これ=TOP 本当 ある -PST 話
 「これは本当の話だ」
- (2) uja=a gakkoo=nu ɛincii=ja ɛ-uutii
 父=TOP 学校=N/G 先生=STAT する -BACK
 「お父さんは学校の先生を務めて」
- (3) futa+mt=tsa aikii=nu uja=a ɛ-uutii=d=ira
 二+道=STAT 歩く .CVB=N/G 父=STAT する -BACK=FOC=AGR
 「バツイチのお父さんで」
- (4) ɛoogaku jo-nensee=nu biki+vva=nu uu-tii
 小学 四-年生=N/G 雄+子=N/G いる -BACK
 「小学四年生の男の子が居て」
- (5) fu-taaʔ-mi=nu midum=ma tumi mi-tsaʔ=ɛii kurae=uu-taa
 二-名-目=N/G 女=STAT 探す.CVB 三-名=INST 暮す=IPF-PST
 「二人目の奥さんを見つけて、三人で暮らしていた」
- (6) nkjaan=na ɛincii=mai eiidu=mai jaa=kara=du pammai=ja mutei
 昔=TOP 先生=INC 生徒=INC 家=ABL=FOC お弁当=STAT 持つ.CVB
 ikj=uu-tai-ba=du
 行く =IPF-PST-CSL=FOC
 「昔は、先生も生徒も家からお弁当を持って行っていたので」
- (7) ans-kkaa=d=ira uja=ga pammai=ju faa-t=ti
 CNJ-COND=FOC=AGR 父=N/G お弁当=ACC 食べる -VOL=QUOT
 ɛɛi-ba=du
 する -CIRC=FOC
 「そうすると、お父さんがお弁当を食べようとしたら」

- (8) aganja kuj=aa nnja pstu=n fa-ai-guu-gi pammai=ja
INTR これ=TOP FIL 人=D/L 食べる-可能-SEMBL2-SEMBL お弁当=TOP
ara-n=tii uduruki uri-tti
COP-NEG=QUOT 驚く .CVB IPF-SEQ
「あれ、これは人が食べられそうな弁当じゃない、と驚いていて」
- (9) urj=aa ancii=mai faa-da-kaa nara-n=tii
それ=TOP そんな=INC 食べる-NEG-COND できる-NEG=QUOT
faij=ui-ba=du
食べる=IPF-CIRC=FOC
「それは、それでも食べないといけない、と食べていたら」
- (10) ffa=nu nnja abikj=aa kaŋ~kaŋ keei nnja
子=N/G FIL 息切れする .CVB=TOP RED~INTSF 来る .CVB FIL
「子供が息を切らして来て」
- (11) otoo nnja daidzŋ otoo=ga pammai=ju=du baja=a nnja kjuu=ja
お父 FIL 大変 お父=N/G お弁当=ACC=FOC 私=TOP FIL 今日=TOP
matsŋgai nnja mutsei iki njaan
間違う .CVB FIL 持つ .CVB 行く .CVB PRF
「『お父さん、大変だ！お父さんのお弁当を私は今日は間違えて持って行ってしまった！』」
- (12) matsŋgai~ga~matsŋgai=tii nnja tandj=aa ɛ=uu-i-ba=du
RED~LIN(ga)~ご免=QUOT FIL 詫び=STAT する=IPF-CIRC=FOC
「『ごめんなさい』と謝罪していたら」
- (13) uja=a nootii=ga vva=ga pammai ba=ga pammai=tii vva=a
父=TOP なぜ=INT 君=N/G お弁当 私=N/G お弁当=QUOT 君=TOP
ɛɛ=uu=ga=tii
知る=IPF=INT=QUOT
「お父さんは『なんで、それがお前の弁当で、これが私の弁当なのだと分かるのか？』と」
- (14) azzi-ba=du ffa=nu otoo nnama=nu kaatean=ga keeii=kara
言う-CIRC=FOC 子=N/G お父 今=N/G 母ちゃん=N/G 来る .CVB=ABL
「言ったら、子供が『お父さん、今のお母ちゃんが来てから』」

- (15) pstu+tsʔki=tɛaan=du junu+pammai=ja ɛ=uu-taa
 一+月=RESTR=FOC 同じ+お弁当=STAT する=IPF-PST
 「一ヶ月だけ同じ弁当だった」
- (16) unu at=aa otoo=ga pammai ba=ga pammai=ja
 その 後=TOP お父=N/G お弁当 私=N/G お弁当=TOP
 betsʔ~betsʔ=naa=doo
 RED~別=HAB=SFP
 「そのあと、お父さんの弁当と私の弁当は別々だったよ』」
- (17) aneii azzī-ba=du uja uja=a nnja uduruki
 さよう 言う-CIRC=FOC 父.HES 父=TOP FIL 驚く.CV B
 「そう言ったら、お父さんは驚いて」
- (18) too too ara nnja
 終わり 終わり それでは FIL
 「『もういいんだ」
- (19) kjuu=ja jaa=iki-tti jadjum=ma ɛii nnja unu
 今日=TOP 家=LOC-SEQ 口喧嘩=STAT する.CV B FIL その
 kaatean=nu=baa nnja uifusasa-tteaa
 母ちゃん=ACC=TOP2 FIL 追い出す-VOL
 「今日は、家に帰って、喧嘩してそのお母さんを追い出してやる！」
- (20) anei-tti nnja fu-taaʔ nnja duuta fu-taaʔ kurasa=jaa=tii
 CNJ-SEQ FIL 二-名 FIL 1PL.INCL 二-名 暮らす=PFP=QUOT
 azzī-ba=du
 言う-CIRC=FOC
 「そうして、私たち二人で暮らそうね』と言ったら」
- (21) ffa=nu otoo nnja jadjum=tii=nu munu=u=baa nnja
 子=N/G お父 FIL 口喧嘩=QUOT=N/G もの=ACC=TOP2 FIL
 mai=nu kaatean=ɛii nnja mii+kamari=du ui-ba
 前=N/G 母ちゃん=INST FIL 見る+飽きる.CV B=FOC IPF-CSL
 「子供が『お父さん、前のお母さんで喧嘩というのを見るのは懲り懲りだから」

- (22) unu nnama=nu nnja kaatean=nu naraasɿ+dzoot=tsa ɕii
 その今=N/G FIL 母ちゃん=ACC 教える+上手=STAT する.CVB
 ikɿ-kkaa nooeii=ga=tii
 行く-COND どうやって=INT=QUOT
 「今のお母ちゃんに色々教えてあげたら、どうですか?』と」
- (23) azzi-ba=du uja=a agai nnja
 言う-CIRC=FOC 父=TOP INTR FIL
 「言ったら、お父さんは」
- (24) ffa=n naraas-ai nnja
 子=D/L 教える-受身.CVB FIL
 「子供に教えられて」
- (25) kɿm=aa oteitsɿki
 心=STAT 落ち着く.CVB
 「心が落ち着いて」
- (26) jaa=nkai iki-ttj=aa unu midum=kai nnja
 家=ALL 行く-SEQ=TOP その女=ALL FIL
 「家へ帰ってから、その嫁さんに」
- (27) aba tama=n=na hai ansii=nu pammai=mai
 SURPR たま=D/L=TOP INTR さよう=N/G お弁当=INC
 dzootoo=saika=tii nnja amai-gatsɿna azzi-ba=du
 上等=RECOGN=QUOT FIL 笑う-SIMULT 言う-CIRC=FOC
 「『あれ、たまには、ああいう弁当もいいじゃないか』と、微笑みながら言ったら」
- (28) midum=ma nnja mii=tu fut=tsu nnja upoo~upu puraki-tti
 女=TOP FIL 目=COM 口=ACC FIL LRED~大きい 開ける-SEQ
 「嫁は目と口を大きく開けて」
- (29) vuduruki noo=mai azza-dana nnja uu-taa=ttsa
 驚く.CVB 何=INC 言う-NEG.CVB FIL いる-PST=HS
 「驚いて、何も言えずに居た」

- (30) *anci-tti nnja unu atu=kara nnja uja=ga pammai ffa=ga*
CNJ-SEQ FIL その後=ABL FIL 父=N/G お弁当 子=N/G
pammai dzɪɪtti junu+pammai eii nnja uu-taa=ttsa
お弁当 ずっと 同じ+お弁当 する.CVB FIL IPF-PST=HS
「そうして、それ以後、お父さんの弁当と子供の弁当はずっと同じ弁当だった」
- (31) *uri=kara unu ffo=o=baa nnja unu jumj=aa unusɪku*
それ=ABL その 子=ACC=TOP2 FIL その 嫁=TOP それまでに
taka-sa=a eii
大事-NMLZ=STAT する.CVB
「それから、その子をすごく大事にして」
- (32) *mi-tsaaj nnja dzoo~dzoo kurasɪ-joon naɪ-taa=ttsa*
三-名 FIL LRED~良い 暮らす-ように 成る-PST=HS
「三人で家庭円満をして暮らすようになったそうだ」

5.10 思い込み

- 話者：長間三夫（昭和 30 年生）
- 収録日・場所：2015 年 02 月 28 日、石垣島、石垣市民会館中ホール
- 収録時間：5m41s
- 公開ビデオ：<https://youtu.be/fDBkjA0XJS8>

(1) aganja uj=uu=baa duu+umuu=tii=d=aŋ
 INTR それ=ACC=TOP2 REFL+思 う=QUOT=FOC=言 う
 「(題名の発音をまちがえた司会に対して) それを『どうーうむー』と発音するんだよ」

(2) hai konbanwa nnja wadzawadza nnja mata mjaaku=kara=mai abiri
 INTR こんばんは FIL 態々 FIL 又 宮古=ABL=INC 呼ぶ.CVB
 fii tandi~gaa~tandi
 BEN.CVB RED~LIN(ga) ~ありがとう
 「こんばんは。わざわざ宮古島から私達を呼んでくださってありがとうございますございました」

(3) kjuu=ja duumuu=tii=nu panas=su suu-tte-aa
 今日=TOP 思い込み=QUOT=N/G 話=ACC する -VOL-CIRC2
 kski fii-samatei
 聞く .CVB BEN-HON.IMP
 「今日は、思い込みについてお話をしたいと思いますので、ご清聴をお願いいたします」

(4) duumuu=tii=ja nnja daidzŋ-na kutu=doo nnja
 思い込み=QUOT=TOP FIL 大変-ATTR 事=SFP FIL
 「思い込みというのは、大変なことだよ」

(5) nnja jarabi-kaŋ-kja=du
 FIL 子供-VRB-TEMP=FOC
 「子供のころ」

- (6) nnja ndza=m=mai mata bantaa taraki nnja nnama=a
 FIL どこ=D/L=INC 又 1PL.EXCL 年代 FIL 今=TOP
 kanreki rokudzuu idzoo=nu pstu-nukjaa nna ndza=nu buraku=mai
 還暦 六十 以上=N/G 人-PL みんな どこ=N/G 集落=INC
 ieeo ja-taa=padzɿ jas-suga
 一緒 COP-PST=筈 COP-CONTR
 「どこでも、私達の世代、還暦の人たちや 60 歳以上の人たちは、どこの集落でも一緒だったはずだけど」
- (7) nuuma usɿ=tii ui-ba nnja ui=ga fuso=o=kara
 馬 牛=QUOT いる-CIRC FIL それ=N/G 草=ACC=PREC
 kara-da-kaa juz=zu=mai fuu-n
 刈る-NEG-COND 夕食=ACC=INC くれる-NEG
 「馬や牛の草を先に刈らなければ、晩ご飯をくれなかった」
- (8) mata appɿ=ga=mai ik-aru-nni-ba=du
 又 遊ぶ=PURP=INC 行く-可能-NEG-CSL=FOC
 「また、遊びにも行けなかったから」
- (9) natsɿ+jasɿmi=n nnja buugɿ=nu paa=ju kaki saati kaki
 夏+休み=D/L FIL サトウキビ=N/G 葉=ACC 取る.CVB さっさと 取る.CVB
 keei nuuma=n fii-tti nnja appɿ=ga ika-di=tii
 来る.CVB 馬=D/L くれる-SEQ FIL 遊ぶ=PURP 行く-VOL=QUOT
 eei-ba=du
 する-CIRC=FOC
 「ある夏休みにサトウキビの葉っぱを急いで取って来て馬にやって遊びに行こうとしたら」
- (10) aba pstu+mani kakɿ-kkaa nnja waateaku nnja buugɿ=nu paa=eii
 SURPR 一+畝 取る-COND FIL 悪戯 FIL サトウキビ=N/G 葉=INST
 mii=ju tsɿki njaan=dara=jaa
 目=ACC 突く.CVB PRF=ASS=PPF
 「一畝が終わったところで、悪いことにサトウキビの葉っぱで目を突いてしまったんだよ」

- (11) sɣnn~sɣn anɛii=mai nnja fuso=o=baa tabari nnja
 LRED~浸みる そんな=INC FIL 草=ACC=TOP2 束ねる.CVB FIL
 iki fii-tti
 行く.CVB くれる-SEQ
 「ヒリヒリしていたけど、それでも草を束にして、行って馬にやったあとに」
- (12) obaa=nkai obaa hai buugɣ=nu paa=ɛii=du nnja
 祖母=ALL 祖母 INTR サトウキビ=N/G 葉=INST=FOC FIL
 mii=ju tsɣki sɣnn~sɣn uu=tii azzi-ba=du
 目=ACC 突く.CVB LRED~浸みる いる=QUOT 言う-CIRC=FOC
 「おばあさんに『サトウキビの葉っぱで目を突いてしまって、ヒリヒリしているよ』と言った」
- (13) egee vva=a mata aganjaa=nu anga=ga oppai=ju
 INTR 君=TOP 又 東隣=N/G 先輩=N/G おっばい=ACC
 zzi-gamata=tii umui=du
 注ぐ-FUT=QUOT 思う.CVB=FOC
 「『あなたは、また東隣の家のお姉さんのおっばいを入れてもらおうと思ってる』
- (14) wadzawadza anɛii ɛii uks=sa ara-n=na=tii
 態々 そんな する.CVB PROV=TOP COP-NEG=YNQ=QUOT
 「わざわざそうしたんじゃないの?』」
- (15) ara-n anɛii=nu baa=ja ara-n=tii
 COP-NEG そんな=N/G 訳=TOP COP-NEG=QUOT
 「『違う、そういう訳じゃないよ』」
- (16) anɛii nnja mai=du miitsu=nu paɣ-kkaa obaa=ga
 そんな FIL 前=FOC 目のゴミ=N/G 入る-COND 祖母=N/G
 pudzi nnja nnama=du anga ni-kagetsɣ nnja ffa=a naɛi
 はやく FIL 今=FOC 先輩 二-ヶ月 FIL 子=STAT 産む.CVB
 ni-kagetsɣ=nu ai-ba
 二-ヶ月=N/G ある-CSL
 「確かに、前に目にゴミが入った時に、おばあさんが『今お姉さんが子供を産んで二ヶ月だから』

- (17) ui=ga tssɿ-gamo=o zɿiru-ba=du futakina nooɿ=tii ui-ba⁴⁰
 それ=N/G 乳-DIM=ACC 注ぐ-CIRC=FOC すぐ 治る=QUOT いる-CIRC
 「彼女のおっぱいを入れてもらおうとすぐ治るんだ』と言ったから」
- (18) maantii nooɿ-taa=dara=jaa
 本当 治る -PST=ASS=PFP
 「(そうやって) 本当に治ったよね」
- (19) ira kundu=mai mata nnja iibaa=tii agai tandi
 AGR 今度=INC 又 FIL よかった=QUOT INTR INTR
 「今度もやったと思って」
- (20) a ffa=nu nnja oppai fai uu anga=ga
 INTR 子=N/G FIL おっぱい 食べる.CVB IPF 先輩=N/G
 oppai=tii=nu mun=aa patsɿ~patsɿ=tii=du maantii ui-ba nnja
 おっぱ=QUOT=N/G もの=TOP RED~EXP=QUOT=FOC 本当 いる-CSL FIL
 「授乳中の女の人のおっぱいというのは本当にハリがあるんだよね」
- (21) uj=uu mii+busɿ-kaa imi=mai aa-suga=du
 それ=ACC 見る+欲しい-VRB 意味=INC ある-CONTR=FOC
 「だから、それを見たい意味もあったけど」
- (22) ikɿ-kkaa nnja waateaku=du ukɿnaa=nkai piri nnja anga=ga
 行く-COND FIL 悪戯=FOC 沖縄=ALL 行く.CVB FIL 先輩=N/G
 ura-n=dara
 いる-NEG=ASS
 「行って見たら、残念なことに、沖縄本島に行って、居ないんだよ」
- (23) jaa=nkai keci-tti obaa aganjaa=nu anga=a hai
 家=ALL 来る-SEQ お祖母 東隣=N/G 女性=TOP INTR
 ukɿnaa=nkai=du pii-taa=ttsa=tii azzɿ-ba=du
 沖縄=ALL=FOC 行く-PST=HS=QUOT 言う-CIRC=FOC
 「家に帰って、おばあさんに『東隣の家のお姉さんは沖縄に行っているっ
 て』と言ったら」

⁴⁰ 薬がなかった時代に授乳中の女性のちちを目薬の代わりにしていた。子どものころ、その光景を実際に目撃した宮古島の人が多い。

- (24) aga nnja=saika ara nnja ara nnja vva=a
INTR 大変=RECOGN それでは FIL それでは FIL 君=TOP
pssara=nu mii+ica=nu jaa=nkai iki kuu=tii ui-ba
平良=N/G 目+医者=N/G 家=ALL 行く .CVB 来る .IMP=QUOT いる -CIRC
『あれ、ま、大変だ。じゃ、平良の目医者に行っておいで』と言うから
- (25) obaa anjaa+munu vva=ga oppai zzi-kkaa
お祖母 しょうがない+もの 君=N/G おっばい 入れる -COND
noocii jarj-aa=tii
どうやって COP-INT=QUOT
『おばあさん、仕方ないから、おばあさんがおっばいを入れたらどう?』
- (26) azzi-ba=du puri+ffa noo obaa=kara oppai=nu idi-gamata
言う -CIRC=FOC バカ+子 何 お祖母=ABL おっばい=N/G 出る -FUT
『おバカさんだね、おばあさんからおっばいが出る訳ないでしょう』
- (27) bjooin=kai iki kuu=tii ui-ba an-tti nnja
病院=ALL 行く .CVB 来る .IMP=QUOT いる -CIRC CNJ-SEQ FIL
dzin=nu=baa=tii aꞓ-kkaa obaa=ga bata+futsꞓ+dzin-gama=nu
お金=ACC=TOP2=QUOT 言う -COND お祖母=N/G 腹+口+お金 -DIM=N/G
ai-ba
ある -CSL
「病院に行っておいで』『それじゃ、お金は?』『おばあさんはヘソクリが』
- (28) ni-doru ai-ba uri ui=eiiki kuu=tii ui-ba
二-ドル ある -CSL それ それ=INST 行く .CVB 来る .IMP=QUOT いる -CIRC
「二ドルあるから、それで行って来て』
- (29) usꞓki=naa=du kakaꞓ=naa=tii azzi-ba=du
そんなにたくさん=DIS=FOC かかる=YNQ=QUOT 言う -CIRC=FOC
『そんなにかかるの?!』
- (30) ara-n nnja mii=ja mii-rai-tti
COP-NEG FIL 目=STAT 見る -可能 -SEQ
『そうじゃなくて、目を診てもらったあとに』

- (31) suba=a fai-tti kuu=tii ui-ba
 蕎麦=STAT 食べる-SEQ 来る-IMP=QUOT いる-CSL
 「ソバを食べておいでね』と言ったから」
- (32) agai tandi pukaras₁+munu=dara=jaa nnja
 INTR INTR 嬉しい+もの=ASS=PPF FIL
 「すごく嬉しかった」
- (33) pssara=iki nnja subo=o foo=tii=nu nnja mun=aa
 平良=LOC2 FIL 蕎麦=ACC 食べる=QUOT=N/G FIL もの=TOP
 nakanaka njaa-nni-ba
 中々 ある-NEG-CSL
 「平良に行って蕎麦を食べるということは中々ないからね」
- (34) an-tti nnja un=nagi=n=na hai nootii=ga hai suba=nu
 CNJ-SEQ FIL 当時=APPR2=D/L=TOP INTR なぜ=INT INTR 蕎麦=N/G
 suku naka-gama=n=na kaffi
 底 中-DIM=D/L=TOP 隠れる.CVB
 「余談だけど、あの時代には、なんで蕎麦の中に隠れて」
- (35) waa=tu kamabak=aa aa-taa=ga=saiga nnja
 豚=COM カマボコ=TOP ある-PST=INT=RECOGN FIL
 「豚肉とカマボコがあったのか？」
- (36) urj=uu sabaki-ba=du
 それ=ACC 訊く-CIRC=FOC
 「その訳を聞いたら」
- (37) nnna una=ga bun~bun=nu nnja a₁+kata eei-ba taa=ga
 みんな 己=N/G RED~分=N/G FIL 言う+かた する-CSL 誰=N/G
 munu=nu atarj=uu=gara ss-arun
 もの=N/G 合う=IPF=CMPLZ 知る-可能-NEG
 「皆それぞれ別の説明をしているから、誰が正しいのか分からない」

- (38) tti nnja mii+iea=nu jaa=ja eimodzi basɿ+teerjuco=kara
 SEQ FIL 目+医者=N/G 家=TOP 下地 バス+停留所=ABL
 nisɿ=nkaei ikɿ jumata=nu ɲ=nagi=n=du nnja aa=tii ui-ba
 北=DIR 行く 辻=N/G 西=APPR2=D/L=FOC FIL ある=QUOT いる-CSL
 「眼科の医者の家は、下地バス停留所から北に向かって行く交差点の西あたりにあると言ったので」
- (39) iki-ba=du maantii aa=dara=jaa iki-tti nnja
 行く-CIRC=FOC 本当 ある=ASS=PFP 行く-SEQ FIL
 「行って見たら、本当にあったね。入って」
- (40) teirjoo=ja eii keei-tti
 治療=STAT する.CVB 来る-SEQ
 「治療してきて」
- (41) dzin=na amarj=uui-ba suba=a fai
 お金=TOP 余る=IPF-CSL 蕎麦=STAT 食べる.CVB
 「お金が余ったから、蕎麦を食べて」
- (42) obaa=ga dzin jai-ba fukueindzɿkj=aa kai iki
 お祖母=N/G お金 COP-CSL 福神漬=STAT 買う.CVB 行く.CVB
 obaa=n fiiru-ba=du
 お祖母=D/L くれる-CIRC=FOC
 「また、おばあさんのお金だから、福神漬を買っておばあさんにあげたら」
- (43) agai tandi vva=a maifuka+ffa-gama=jo=tii
 INTR INTR 君=TOP ありがたい+子-DIM=SFP=QUOT
 「『なんてお利口さんなんだろうね』」
- (44) an-tti nooeii jarj-aa=tii ui-ba
 CNJ-SEQ どうやって COP-INT=QUOT いる-CIRC
 「それで、どうだった？」
- (45) aneii nnja noorj=uu-neii=mai=du uu=saai
 そんな FIL 治る=IPF-のよう=INC=FOC IPF=SFP
 「『治っているようにも感じるよ』」

- (46) an-suga obaa mii+ica=nu jaa=jo=tii uu-suga
 CNJ-CONTR お祖母 雌+医者=N/G 家= SFP=QUOT いる -CONTR
 「だけど、おばあさん、ミーイシャ⁴¹の家と言っていたけど」
- (47) uma=n=na biki+eincii=eika ura-t-ta-n=doo
 そこ=D/L=TOP 雄+先生=しか いる -NEG-PST-REAL=SFP
 「そこには男の先生しかいなかったよ』」
- (48) maantii mmatsɿmaa+ffa=tii banu=u zz=uu-tas-suga
 本当 調子者+子=QUOT 私=ACC 叱る=IPF-PST-CONTR
 「『本当にお調子者だね』と言って私を叱った」
- (49) uri=kara mata urj=aa nnja ni-san-nen
 それ=ABL 又 それ=TOP FIL 二-三-年
 san-nen=bakaaɿ=n=du naɿ-suga
 三-年=APPR=D/L=FOC 成る -CONTR
 「それから、3年前の話だけど」
- (50) ira nnja dzuurokunitsɿ=tii s-kkaa mjaak=aa nnja
 AGR FIL 祖先祭=QUOT する -COND 宮古=TOP FIL
 seedai=n eii ukɿnaa=kara ndza=kara=mai kst=tara=jaa
 盛大=D/L する .CVB 沖縄=ABL どこ=ABL=INC 来る=ASS=PPF
 「旧十六日祭（後生の正月）と言ったら、宮古島では盛大で、沖縄本島から、あちこちからも来るんだよね」
- (51) banta=ga adza=ga nnja ffa=tu mmaga=nu keei-tti=du
 1PL.EXCL =N/G 兄=N/G FIL 子=COM 孫=N/G 来る -SEQ-FOC
 「うちのお兄さんの子供と孫が来て」
- (52) nnja pako=o=mai maamatu soot=tsa eii sɿgu nnja
 FIL 墓=ACC=INC たくさん 掃除=STAT する .CVB すぐ FIL
 「墓を丁寧に掃除して」

⁴¹ mii+ica に対して「目医者」と「女性の医者」の意味をかけている。

- (53) dzuurokunit=tsa ci-tti nagatsa nnja ukɲnaa=nkai
祖先祭=STAT する-SEQ 翌日 FIL 沖縄=ALL
pira-t=ti=nu tukja=n=du nnja
行く-VOL=QUOT=N/G 時=D/L=FOC FIL
「旧十六日祭が終わったその翌日に、沖縄本島に帰る時だった」
- (54) urj=aa eoogaku san-nensee=nu biki+vva=nu nnja
それ=TOP 小学 三-年生=N/G 雄+子=N/G FIL
futai=ja nnja akat=tsa bɲɲ~bɲɲ=tii kst=tara=jaa nnja
額=TOP FIL 血=TOP RED~EXP=QUOT 来る=ASS=PPF FIL
「小学三年生の男の子がおでこから血をだらだらとたらしめて来るんだよ」
- (55) aganja jooi hai noo=ga st-tarj-aa=tii azzi-ba=du
INTR INTR INTR 何=INT する-PST-INT=QUOT 言う-CIRC=FOC
「『なんてことだ！ どうしたの？』と聞いたら」
- (56) in=n=du ff-ai-taa=tii=nu baa=dara
犬=D/L=FOC 噛み付く-受身-PST=QUOT=N/G 訳=ASS
「犬に噛まれたという訳だ」
- (57) mun=aa waateaku nnja banta=ga jaa=n=du in=nu nnja
もの=TOP 悪戯 FIL 1PL.EXCL =N/G 家=D/L=FOC 犬=N/G FIL
mmi-inu in=tu upo-onu in=nu uu=dara=jaa futa-kara
小さい-ADJZ 犬=COM 大きい-ADJZ 犬=N/G いる=ASS=PPF 二-匹
「偶然にもうちの家には犬が小さいのと大きいのが二匹いるよ」
- (58) kkaa unu mmaga=nkai ookii inu=ne teiisai inu=tii aɲ-kkaa
COND その孫=ALL 大きい犬=ね 小さい犬=QUOT 言う-COND
teiisai inu=tii ui-ba
小さい犬=QUOT いる-CSL
「孫に『大きい犬？ 小さい犬』と言ったら、『小さい犬』と言うから」
- (59) too too=tii nnja ikɲ-kkaa nnja in=nu
終わり 終わり=QUOT FIL 行く-COND FIL 犬=N/G
jaa=nkai ikɲ-kkaa nnja in=na nnja dzuu=ja furi nnja
家=ALL 行く-COND FIL 犬=TOP FIL 尻尾=STAT 振る.CVB FIL
「『よし、分かった』、犬小屋に行ってみると、犬は尻尾を振って」

- (60) nara=n=du noo=ju=mai fii-gamata=tii umui nnja sɔ̃gu
 REFL=D/L=FOC 何=ACC=INC くれる -FUT=QUOT 思う .CVB FIL すぐ
 dzamp=aa ɛii kaɣ~kaɣ uu=dara
 ジャンプ=STAT する .CVB RED~INTSF いる=ASS
 「自分に何かをくれるのではないかと期待して、ジャンプを繰り返している」
- (61) mii-kkaa jukaara=n sɔ̃koppu=nu burii=nu ii=nu ai-ba
 見る-COND 横=D/L スコップ=N/G 折れる .CVB=N/G 柄=N/G ある-CSL
 「見たら、側にスコップの折れた柄があったので」
- (62) ui=ɛii sɔ̃gu teibi+bunj=uu tataki-ba=du
 それ=INST すぐ 尻+骨=ACC 叩く -CIRC=FOC
 「それでお尻を叩いて」
- (63) anɛii=mai kɔ̃mu=nu osamara-nni-ba nna ikkai tataki-ba=du nnja
 そんな=INC 心=N/G おさまる-NEG-CSL もう 一回 叩く -CIRC=FOC FIL
 「それでも気持ちが収まらないから、もう一回叩くと」
- (64) gaigaigai=tii naki jaa=nu naka=nkai pazzi-tti nnja
 EXP=QUOT 鳴く .CVB 家=N/G 中=ALL 入る -SEQ FIL
 「キャンキャンと泣いて犬小屋の中に入った」
- (65) ui=ga nnja mmaga=nu mai=iki nnja
 それ=N/G FIL 孫=N/G 前=LOC2 FIL
 「孫の前に行って」
- (66) hai odzii=ga=ne anata=no kidzɔ̃=jori motto
 INTR おじい=N/G=ね あなた=の 傷=より もっと
 itai=hodo kono inu=wa tataite ki-ta=tii azzi-ba=du
 痛い=ほど この 犬=は 叩く .CVB 来る -PST=QUOT 言う -CIRC=FOC
 「『おじいがね、あなたの傷よりもっと痛くこの犬を叩いてきた』と言っ
 たら」

- (67) unu nnja mmaga=nu noo tii=ga a₁-taa=tii umui
 その FIL 孫=N/G 何 QUOT=INT 言う -PST=QUOT 思う .CVB
 uu nnja
 IPF FIL
 「孫が何を言うかと思ったら」
- (68) odzii dzibun-tatei=no inu dza-nai=jo
 おじい 自分-PL=の 犬 だ-NEG=SFP
 『おじい、自分たちの犬じゃないよ』
- (69) duu=ga in=kai nnja mai nnja unus₁ku mingi kairaei-tti
 REFL=N/G 犬=ALL FIL 前 FIL それまでに 殴る .CVB INTSF-SEQ
 noo=tii=ga ajamara-tte-aa nnja
 何=QUOT=INT 謝る -VOL-INT FIL
 「自分の犬をこんなに袋叩きにしたあとに、どうやって謝れるか？」
- (70) un=kara nnja banta=ga in=na banu=u mii-kkaa
 当時=ABL FIL 1PL.EXCL =N/G 犬=TOP 私=ACC 見る -COND
 dzuu=ju=baa sagi-tti
 尻尾=ACC=TOP2 下げる -SEQ
 「それから、うちの犬は私を見ると、尻尾を下げて」
- (71) its₁ nan+doki pingi taiee=ju eij=uu=dara
 いつ 何+時 逃げる 体勢=ACC する =IPF=ASS
 「いつなんどきも逃げる態勢を取っているんだ」
- (72) ubai~ga~ubai duumuu=tii=nu mun=aa
 RED~LIN(ga)~関心に 悩める 思い込み=QUOT=N/G もの=TOP
 daidz₁-na kutu=doo nnja
 大変-ATTR 事=SFP FIL
 「思い込みというのは大変だよな」
- (73) nna=mai teuui eii ik₁-joon eii ika=jaa
 みんな=INC 注意 する .CVB 行く -ように する .CVB 行く .HORT=PFP
 「皆も注意していくようにしようね」

- (74) hai ba=ga panas=sa usɬki tandi~gaa~tandi
INTR 私=N/G 話=TOP そんなにたくさん RED~LIN(ga) ~ありがとう
「私の話はこれだけだ、ありがとうございました」

6 皆愛方言の語彙集

本語彙集は2014年4月より2018年4月まで収集した語彙を収めた。仮名の表記は『伊良部方言辞典』(富浜 2013)の表記によるところが多い。特に、日本語と同じ音をひらがな、日本語にない音をカタカナという表記原理を採用している。動詞ごとに、その活用クラスを示し、「接続形」と「否定形」の活用形も掲載した。活用が不規則的な動詞の場合は命令形を加えたこともある。また、できるかぎり連濁形を掲載することに努めたが、未確認な語彙が残っている。

表 21 品詞略号と項目数 (項目掲載優先順番)

品詞	略	項目数	品詞	略	項目数
接頭辞	接頭	11	副詞	副	108
接尾辞	接尾	6	擬態語・擬音語	擬	47
助数詞	助数	9	感動詞	感	32
数詞	数	10	接続詞	接続	6
文法的要素	文	98	連語	連語	47
終助詞	終	10	慣用句	慣	8
名詞	名	1471	連体詞	連体	3
形容詞	形	224		合計	2893
動詞	動	803			

表 22 仮名表記一覧

	あ段	い段	イ段	う段	お一段	単独
あ行	あ [a]	い [i]	イ [ɪ]	う [u]	おー [o:]	
か行	か [ka]	き [ki]	キ [kɪ]	く [ku]	こー [ko:]	
が行	が [ga]	ぎ [gi]	ギ [gɪ]	ぐ [gu]	ごー [go:]	
さ行	さ [sa]	し [ei]	す [sɪ]	すう [su]	そー [so:]	
ざ行	ざ [dza]	じ [dzi]	ず [dzɪ]	ずう [dzu]	ぞー [dzo:]	
ズあ行	ズあ [za]	ジ [zi]		ズう [zu]	ズおー [zo:]	
しゃ行	しゃ [ea]	し [ei]	す [sɪ]	しゅ [eu]	しょー [eo:]	
じゃ行	じゃ [dza]	じ [dzi]	ず [dzɪ]	じゅ [dzu]	じょー [dzo:]	
た行	た [ta]	てい [ti]	つ [tsɪ]	とう [tu]	とー [to:]	
だ行	だ [da]	でい [di]	ず [dzɪ]	どう [du]	どー [do:]	
ちゃ行	ちゃ [tea]	ち [tei]	つ [tsɪ]	ちゅ [teu]	ちよー [teo:]	
な行	な [na]	に [ni]		ぬ [nu]	のー [no:]	ん [n]
ぱ行	ぱ [pa]	ぴ [pi]	ピ [pɪ]	ぷ [pu]	ぽー [po:]	
ば行	ば [ba]	び [bi]	ビ [bɪ]	ぶ [bu]	ぼー [bo:]	
ふあ行	ふあ [fa]	ふい [fi]		ふ [fu]	ふおー [fo:]	
ま行	ま [ma]	み [mi]	ミ [mɪ]	む [mu]	もー [mo:]	ン [m]
や行	や [ja]			ゆ [yu]	よー [jo:]	
ら行	ら [ra]	り [ri]		る [ru]	ろー [ro:]	
ヴあ行	わ [va]	ヴい [vi]		ヴう [vu]	ヴおー [vo:]	ヴ [v]

—あ—

- あ [a]【文】～は。主題・非焦点の助詞。例文：うりゃー のーが？（これは何ですか？）。ゆぬっさ しんしーどー（ユヌスは先生ですよ）。
- あ [a]【文】～しよう。勧誘接辞。クラス 1 動詞の語根に付く。例文：いか（行こう）。ゆかー（休もう）。
- あ [a]【文】主に従属節に出現し、他動詞の目的語や一部の自動詞の主語をマークする。例文：ぱっヴあ みーどう ぴんぎたー（蛇を見て逃げた）。あみゃーっふいどう ぱりゃー すとうりゅー（雨が降って畑が湿っている）。
- あー [aa]【文】～ので。確定条件を表す。例文：ぴしかりゃー 暖房ゆ つきる（寒いので、暖房をつけなさい）。
- あー [aa]【文】～か。（疑問詞疑問文において）疑問を表す。例文：んざんが うりゃー（どこにいるの？）。
- あー [aa]【名】粟。
- あー [aa]【動変型：あり、にゃーん】ある。存在する。
- あーい [aai]【感】いいえ。
- あーぐ [aagu]【名】歌。歌謡。例文：あーぐーどう あイ°（歌を歌う）。
- あーさ [aasa]【名】海藻の一種、石蓴（あおさ）。
- あーす [aasɿ]【動 1：あーし、あーさん】喧嘩させる、戦わせる。
- あーまい [aamai]【文】～しても。例文：いすき まちゃーまい くーん（いくら待っても来ない）。いきゃーまい じょーぶん？（行ってもいい？）。
- あい [ai]【動 2：あい、あいゆん】和える。
- あい [aɿ]【動 1：あっジ、あっズあん】言う。
- あいかす [aɿkasɿ]【動 1：あいかし、あいかさん】① 歩かせる。②（車などを）動かせる、進める。
- あいき [aɿkɿ]【動 1：あいき、あいかん】① 歩く。②（車などが）動く、進む。
- あいじゃ [aidza]【感】濡れた時に用いる。
- あいずうー [aidzuu]【名】野菜の和え物。
- あいぼーき [aɿpookɿ]【動 1：あいぼーき、あいぼーかん】（言葉で）ひどく叱る。
- あヴ [av]【動 1：あっヴい、あっヴあん】炙る。
- あヴがあヴ [avgaav]【擬】大きいな声。
- あか [aka]【接頭】語頭に付き、その意味を強調する。
- あか [aka]【形】赤い、赤色の。
- あが [aga]【感】痛っ、痛みを感じたときに発する。
- あがい [agai]【感】抑揚により様々な感情（いらつき、驚きなど）を表す。
- あかい [akaɿ]【名】明り、照明。
- あかい [akaɿ]【動 1：あかり、あからん】① 晴れる。② ともる。
- あがい [agaɿ]【名】東。
- あがい [agaɿ]【動 1：あがり、あがらん】① 上がる。② 緊張する。
- あかいーばー [akaiibaa]【副】とてもよかった。
- あがいつんまー [agaɿtsɿmmaa]【名】高千穂の集落名。
- あかうぷに [akaupuni]【名】人蔘。
- あかさ [akasa]【名】私生児、妾との間にできた子ども。
- あかす [akasɿ]【動 1：あかし、あかさん】① 灯す、明るくする。② 明らかにする、打ち明ける。

- あかずうー [akadzuu] 【名】 魚の一種。
あがた [agata] 【名】 遠い、遠方の。
あがたまーい [agatamaaɪ] 【名】 遠回り、迂回。
あかつ [akatsɪ] 【名】 血。
あかつヴあ [akavva] 【名】 赤ちゃん。
あかつく [akatsɪku] 【名】 黄身。
あかつづあ みゅーん [akazza mjuun] 【慣】 「明りは見ない」。世間知らず。世の中を知らないことの譬え。
あかつぬんつ [akatsɪnumtsɪ] 【名】 血管。
あかな [akana] 【名】 魚の一種。
あかな [akana] 【名】 紫蘇（しそ）。
あがにや [aganja] 【感】 あれ、驚いたときなどに用いる。
あがにやー [aganjaa] 【名】 東隣の家。
あかべーる [akabeeru] 【感】 そんなわけない。そんなの。ありえない。相手が述べたことを信じないときに用いる。
あかまゐ [akamaɪ] 【名】 赤飯。
あがみ [agami] 【動 2：あがみ、あがむん】 尊敬する。
あかみーだか [akamiidaka] 【名】 目の赤いサシバ。
あかみーちゃぎ [akamiiteagi] 【形】 とても見苦しい。
あかむいとう [akamuɪtu] 【副】 (否定文において) ちっとも。
あかゆーすた [akajuusɪta] 【連語】 ざまみろ。
あからす [akarasɪ] 【動 1：あからし、あからさん】 灯す、明りを付ける。
あかん [akam] 【動 1：あかみ、あかまん】 赤くなる、赤らむ。
あかんぞーな [akamdzoona] 【形】 とても可哀そう。
あかんびやーり [akambjaari] 【動 2：あかんびやーり、あかんびやーるん】 赤らむ。
あき [aki] 【動 2：あき、あくん】 開ける。
あき [akɪ] 【動 1：あき、あかん】 開く。
あぎ [agi] 【動 2：あぎ、あぐん】 (油で) 揚げる。
あぎ [agi] 【動 2：あぎ、あぐん】 上げる。
あぎどーふ [agidoofu] 【名】 揚げ豆腐。
あきない [akɪnai] 【名】 商い、商売。
あきやーだ [akjaada] 【名】 仲買人。
あぐ [agu] 【名】 同級生。
あぐ [agu] 【名】 顎（あご）。
あぐずき [agudzɪki] 【名】 入れ歯。
あくずん [akudzɪm] 【形】 残虐。
あこーぎー [akoogii] 【名】 アコウの木。
あこーん [akoon] 【名】 雲丹の一種。
あこーんがらず [akoongaradzɪ] 【名】 雲丹のような髪。
あさ [asa] 【形】 浅い。
あざ [adza] 【名】 ① 兄。② (男性の) 年上、先輩。
あざ [adza] 【名】 黒子（ほくろ）。
あさってい [asatti] 【名】 明後日。
あさまら [asamara] 【名】 朝立ち。

- あさむぬ [asamunu] 【名】朝食。
あざんキ [adzanki] 【動1: あざんき、あざんかん】宥める。
あさんま [asamma] 【名】親、両親、父母。
あし [aei] 【名】昼食。
あし [aei] 【名】汗。
あし [aei] 【感】そう。
あじばー [adzibaa] 【名】八重歯。
あしん [aeim] 【名】汗疹(あせも)。
あす [asɿ] 【文1: あし、あさん】～させる。動詞に付き使役形を形成する。例文:
ぶどうらす(躍らせる)。ふあーす(食べさせる)。かばす(嗅がせる)。
あす [asɿ] 【動変型: あしー、あそうーん】する、やる。
あず [adzɿ] 【名】味。
あず [adzɿ] 【形】味がある。
あずき [adzɿki] 【動2: あずき、あずくん】① 預ける。② (動物に) 餌をやる。
あすたむぶらがにしゅー [asɿtamburaganicuu] 【連語】しまった、失敗した。
あすのーす [asɿnoosɿ] 【動1: あすのーし、あすのーさん】成功する。
あすぴやー [asɿpjaa] 【名】早足。
あずま [adzɿma] 【形】甘い。
あたイ [ataɿ] 【動1: あたり、あたらん】① 当たる。② 合っている、正しい。
あだっつあ あがらん [adattsa agaran] 【慣】使用不能。
あだなす [adanasɿ] 【名】アダンの気根。
あたばかーイ [atabakaaɿ] 【副】急に、突然。
あたらか [ataraka] 【副】もったいない。
あたらす [atarasɿ] 【形】大事。
あだん [adan] 【名】阿檀(あだん)。
あだんば [adamba] 【名】アダンの木の葉っぱ。
あだんぶら [adambura] 【名】アダンの木の枯れた、使いものにならない木材。
あつ [atsɿ] 【形】暑い、熱い。
あつあ [atsa] 【名】明日。
あっヴあ [avva] 【名】① 油。② 脂。③ 燃料。
あっヴあ [avva] 【形】あぶらっこい。
あっヴあふあや [avvafaja] 【名】燃費が悪いこと、または燃費の悪い物。
あっヴあふつ [avvafutsɿ] 【名】言葉が滑らかで味がある。
あっヴあわー [avvavaa] 【名】脂の多い豚。
あっヴあんつう [avvamtsu] 【名】油味噌。
あつこーこー [atsɿkookoo] 【副】(食べ物について)(湯気が立つ程度に)熱い。
あつさ [atsɿsa] 【名】暑さ。
あっしゃヴ [aɕɕav] 【動1: あっしゃっヴい、あっしゃっヴあん】しくじる、失敗する。
あっズあす [azzasɿ] 【動1: あっズあし、あっズあさん】言わせる。
あつつ [attsɿ] 【動1: あっち、あつつあん】あたたまる、熱くなる。
あつつあ [attsa] 【名】端、わき、際。
あつつあ [attsa] 【名】下駄。
あつつあす [attsasɿ] 【動1: あつつあし、あつつあさん】あたためる。
あっぱす [appasɿ] 【動1: あっぱし、あっぱさん】遊ばせる。

- あっぴ [appɿ] 【動 1: あっぴ、あっぱん】遊ぶ。
- あつぷんぷん [atsɿpunpun] 【副】(体が) 熱い。
- あつまイ [atsɿmaɿ] 【動 1: あつまり、あつまらん】集まる。
- あつみ [atsɿmi] 【動 2: あつみ、あつむん】集める。
- あつん [atsɿm] 【文】～さえ(も)、～でも。
- あてい [ati] 【動 2: あてい、あとうん】① 当てる。② 言い当てる、予測する。
- あてい [ati] 【副】あまりにも、非常に、とても。
- あてやーだ [atjaada] 【副】あまり(～しない)。
- あとう [atu] 【名】① 後。② 跡。
- あどう [adu] 【名】踵(かかと)。
- あとうどうみ [atudumi] 【名】後添いの妻や夫。
- あな [ana] 【名】穴。
- あなみ [anami] 【動 2: あなみ、あなむん】要求する、請求する。
- あに [ani] 【名】(複合語で) 最年長の。
- あにぎな [anigina] 【副】そのまま。
- あにびきつヴあ [anibikivva] 【名】(他人から見た) 長男。
- あにみどうんつヴあ [animidumvva] 【名】(他人から見た) 長女。
- あにやーむぬ [anjaamunu] 【副】仕方なく、しょうがなく。
- あば [aba] 【感】あれ。驚いたときに使う。
- あぱ [apa] 【形】味が薄い。
- あはー [ahaa] 【感】なるほど、わかった。
- あばさ [abasa] 【名】① ハリセンボン。② 絶えず余計なものをしゃべる人、口達者。
- あばさごーら [abasagoora] 【名】ニガウリ的一种。
- あばなかす [apanakasɿ] 【動 1: あばなかし、あばなかさん】上向きにする、仰向けにする。
- あばなキ [apanakɿ] 【動 1: あばなき、あばなかん】上を向く、仰向く。
- あばらぎ [aparagi] 【形】美しい、きれい。
- あばらぎむぬ [aparagimunu] 【名】美人。
- あばらす [aparasɿ] 【動 1: あばらし、あばらさん】言いふらす。
- あばり [abari] 【動 2: あばり、あばるん】① 暴れる。例文: あばりぬーま(暴れる馬)。② 荒れる、荒れはてる。例文: あばりやー(荒れ果てた家)。
- あばり [apari] 【動 2: あばり、あばるん】味がうすくなる。味がなくなる。
- あばりやー [abarijaa] 【名】荒れ果てた家。
- あビー [abɿɿ] 【動 1: あびり、あびらん】呼ぶ、誘う、招待する。
- あびキ [abikɿ] 【動 1: あびき、あびかん】息切れする。
- あひやーわー [ahjaavaa] 【名】子供を産めなくなった繁殖用の雌の豚。
- あふ [afu] 【名】ケーキの一種。
- あぶ [abu] 【名】洞窟。
- あふあふ [afuafu] 【擬】フニャフニャ。
- あふキ [afukɿ] 【名】欠伸。
- あぶく [abuku] 【名】泡。
- あふた [afuta] 【名】(サトウキビなどの) 枯れた、乾燥した葉っぱ。
- あふり [afuri] 【動 2: あふり、あふるん】溢れる。
- あま [ama] 【形】① 味が薄い、塩気がない。② 疎ら、密でない。

- あまーす [amaasɿ] 【動 1：あまーし、あまーさん】笑わせる。
- あまい [amai] 【動 2：あまい、あまいゆん】ほほえむ、笑う。
- あまい [amaɿ] 【文 1：あまい、あまん、あまち】お...になる、尊敬語の派生接尾辞。クラス 1 動詞の語根に付く。例文：かかまい（お書きになる）。
- あまい [amaɿ] 【動 1：あまり、あまらん】余る。過ぎる。例文：ぱつじゅーあまりどー（八十歳を越えている）。
- あまいのー [amainoo] 【名】竜巻。
- あますんず [amasɿndzɿ] 【名】鶏の油汁。
- あまみず [amamidzɿ] 【名】塩気のない水。
- あまん [amam] 【名】ヤドカリ。
- あまんっちや [amamttea] 【名】貝の一種。
- あまんぶに [amambuni] 【名】踝骨、距骨（くるぶし）。
- あみ [ami] 【名】雨。
- あみ [ami] 【名】飴。
- あみ [ami] 【動 2：あみ、あむん】浴びる。
- あみかじ [amikadzi] 【名】風雨。
- あみがたか [amigataka] 【名】雨除け。
- あみし [amiei] 【動 2：あみし、あみそうん】浴びせる。
- あみばた [amibata] 【名】雨が降りそうだ、雨がやがて降る。
- あや [aja] 【名】綾、模様。
- あやピだりや [ajapɿdarja] 【名】両手利き。
- あよー かい [ajoo kaɿ] 【連語】綾を借りる、肖る。
- あら [ara] 【形】新しい。
- あら [ara] 【形】荒い、粗い。
- あら [ara] 【副】それでは、じゃ。
- あらー [araa] 【名】外。
- あらがた [aragata] 【名】飛蝗の一種。
- あらがん [aragan] 【名】蟹の一種。
- あらす [arasɿ] 【動 1：あらし、あらさん】誘き寄せる、誘惑する。
- あらす [arasɿ] 【動 1：あらし、あらさん】荒らす。
- あららがま [araragama] 【名】なにくそ、宮古島の独特の精神。
- あらん [aran] 【副】いいえ、いや、ちがう。
- あり [ari] 【動 2：あり、あるん】荒れる。
- ありゃー みゅーん [arjaa mjuun] 【慣】「あったことの無い」。前代未聞、とんでもない、非常に。例文：ありゃー みゅーん うやきむぬ（とんでもないお金持ち）。
- あろー [aroo] 【動 1：あらい、あらーん】洗う。
- あわたす [avatasɿ] 【動 1：あわたし、あわたさん】急がせる、せかす。
- あわてい [avati] 【動 2：あわてい、あわとうん】急ぐ、慌てる。
- あん [am] 【名】網。
- あん [am] 【動 1：あみ、あまん】編む。
- あんが [aŋga] 【名】① 姉、お姉さん。② 年上の女性、（女性の）先輩。
- あんしー [ancii] 【副】そのように、さよう。
- あんしってい [ancitti] 【接続】そして、そうして。
- あんしば [anciba] 【接続】だから。

あんすうが [ansuga] 【接続】しかし。
 あんすっかー [ansɯkkaa] 【接続】そうすると、そうしたら。
 あんだき [andaki] 【副】それほど。
 あんでいら [amdira] 【名】編み籠。
 あんな [anna] 【名】母。
 あんなうや [annauja] 【名】両親。
 あんなずみ [annadzɯmi] 【名】母が（下手に）散髪すること、その髪型。
 あんみゅー [ammjuu] 【名】（凧の）糸。

—い—

い [i] 【接頭】程度を表す名詞に付き、程度の疑問詞（「どのぐらい高い」等）を作る。例文：いふぎ（どのぐらい大きい）。いだき（どのぐらい高い）。
 い [i] 【文】～して、～したまま、～した状態で。例文：くるまー むちどう まーりゅー（車で移動している）。ぱギズあ ンびどう ビジゅー（足が伸びて座っている）。
 い [i] 【文】～ろ、～なさい。命令形。クラス 1 動詞の語根に付く。日本語の～ろほど口調は強くない。例文：ふあい（食べなさい）。かき（書きなさい）。
 いー [ii] 【終】～かね。例文：じょーぶんべーいー（大丈夫なのかな）。
 いー [ii] 【名】鱒（えい）。
 いー [ii] 【名】柄。
 いー [ii] 【感】そうなのか。そうだったのか。例文：いー、あんしーやたーぬが？（えー、そうだったのか？）。
 イー [ɪ] 【名】西。
 イー [ɪ] 【動 1：っジ、っズあん】叱る。
 イーあがっズあ っさん [ɪagazza ssan] 【慣】「東西は知らない」。イロハも知らない。
 いーかーぎ [iikaagi] 【名】きれいであること。いい容貌。
 いーかきや [iikakja] 【名】画家。
 イーキ [ɪkɪ] 【名】鱗。
 イーキ [ɪkɪ] 【動 1：イーき、イーかん】炒める。
 イーさ [ɪsa] 【名】唾（おし）。
 イーつんまー [ɪtsɯmmaa] 【名】高千穂の集落名。
 イーでいん [ɪdin] 【名】西の空。
 イーにやー [ɪnjaa] 【名】西隣の家。
 いーばー [iibaa] 【副】良かった。文頭に置いて、...してよかった。例文：いーばーどう きしゅーかん（来なくてよかった）。
 イービ [ɪbɪ] 【名】雲丹の棘による皮膚の傷の一種。
 イーむく [ɪmuku] 【名】入り婿。
 イーン [ɪm] 【形】使い度がある。
 いき [iki] 【文】～に行つてそこで。
 いキ [ikɪ] 【動 1：いき、いかん】行く。
 イキ [ɪkɪ] 【名】息、呼吸。
 いキぐん [ikɪgum] 【名】窒息。
 いキだす [ikɪdasɯ] 【動 1：いきだし、いきださん】生かせる。

- いきでい [ikɯdi] 【動 2：いきでい、いきどうん】 生きる。
 いきむす [ikɯmusɯ] 【名】 生き物、動物、獣。
 いきや [ikja] 【名】 イカ。
 いきやヴし [ikjavei] 【動 2：いきやヴし、いきやヴそうん】 水をかける。
 いきやがら [ikjagara] 【形】 変。
 いきやら [ikjara] 【形】 少ない。
 いぎゃん [igjan] 【名】 関心。
 いきよー [ikjoo] 【動 1：いきやい、いきやーん】 届く。
 いざい [idzaɯ] 【名】 夜松明などを以って魚を獲ること。
 いさく [isaku] 【名】 咳。
 いしや [iea] 【名】 医者。
 いす [isɯ] 【名】 石。
 いず [idzɯ] 【名】 元気。
 いすうがす [isugasɯ] 【形】 忙しい。
 いすうがす [isugasɯ] 【動 1：いそうがし、いそうがさん】 急がせる。
 いすうぎ [isugɯ] 【動 1：いそうぎ、いそうがん】 急ぐ。
 いすかき [isɯkakɯ] 【名】 石垣。
 いすき [isɯki] 【名】 幾ら。どのぐらい。例文：めんせきやー いすきが ありや
 ー？（面積はどのぐらいあるの？）。
 いすざやふ [isɯdzajafu] 【名】 石大工。
 いずしゃ [idzɯea] 【名】 テキパキ。
 いずじゅー [idzɯdzuu] 【形】 勇気のある。
 いすつん [isɯtsɯm] 【名】 石積み、石垣。
 いすとうき [isɯtukɯ] 【形】 幸運をもたらす。
 いすばぎ [isɯpagi] 【名】 漁に不吉であること。
 いすます [isɯmasɯ] 【名】 (畑などをめぐらす) 石の壁。
 いだか [idaka] 【名】 どのぐらい高い。
 いだす [idasɯ] 【動 1：いだし、いださん】 出す。
 いたてい [itati] 【動 2：いたてい、いたとうん】 こぼす。
 いつ [itsɯ] 【数】 五。
 いつ [itsɯ] 【名】 いつ。
 いつーまい [itsɯmai] 【連語】 いつも、常に。
 いつあ [itsa] 【名】 板。
 いっヴあす [ivvasɯ] 【動 1：いっヴあし、いっヴあさん】 怖がらせる。
 いっヴい [ivvi] 【動 2：いっヴい、いっヴうん】 怖がる、恐れる。
 いつうふ [itsufu] 【名】 いとこ。
 いつつ [itsɯtsɯ] 【名】 五つ。
 いっつあいでい [ittsaidi] 【副】 一生懸命。
 いつぬピとう [itsɯnupɯtu] 【名】 五人、五名。
 いつばん [itsɯban] 【名】 一番、第一。
 いつばんざー [itsɯbandzaa] 【名】 一番座。
 いでい [idi] 【動 2：いでい、いどうん】 出る。
 いでいばー [idibaa] 【名】 出っ歯。
 いでいふつ [idifutsɯ] 【名】 出口。
 いでやーす [idjaasɯ] 【動 1：いでやーし、いでやーさん】 会わせる。

- いでよー [idjoo] 【動 1 : いでやい、いでやーん】 会う、出会う。
- いなが [inaga] 【名】 どのぐらい長い。
- いのー [inoo] 【名】 内海。
- いばイ [ibaɪ] 【動 1 : いばり、いばらん】 威張る。
- いび [ibi] 【動 2 : いび、いぶん】 植える。
- イビ [ɪbɪ] 【名】 伊勢海老。
- いひーがあはー [ihiigaahaa] 【擬】 笑う様。
- イビがん [ɪbɪgan] 【名】 伊勢海老。
- いびぐー [ibiguu] 【名】 植え替え。
- いふ [ifu] 【接頭】 幾。助数詞と結合し、数量を問う疑問詞を作る。例文：いふん（何回）。いふから（何匹）。
- いふか [ifuka] 【名】 何日（間）。例文：みゃーくんな いふかが うーがまた やりゃー？（宮古島には何日間いる予定なの？）。
- いぶぎ [ipugi] 【名】 どのぐらい大きい。
- いふさ [ifusa] 【名】 争い、戦争。
- いふたーイ [ifutaaɪ] 【名】 何人（なんにん）、何名。
- いふつ [ifutsɪ] 【名】 幾つ。何個。何歳。例文：しゅー、いふつが やらまいやー？（おじいさん、おいくつでしようか？）。
- いふてい [ifuti] 【名】 何年（間）。
- いふん [ifun] 【名】 何度、何回。
- いま [ima] 【接頭】（魚や鳥）獲ってすぐの。
- いまっずう [imazzu] 【名】 新鮮な魚。獲ってすぐの魚。
- いみ [imi] 【名】 夢。
- いみ [imi] 【形】 小さい。
- いみさみー [imisamii] 【連語】 見くびる、軽蔑する、バカにする。
- いみしょーがつ [imicoogatsɪ] 【名】 少正月、冬至の日。
- いみす [imisɪ] 【名】 お箸。
- いら [ira] 【終】 ~ね。
- いら [ira] 【名】 鰓（えら）。
- いら [ira] 【名】 クラゲ。
- いらい [irai] 【形】 偉い。
- いらヴ [irav] 【名】 伊良部島。
- いらばす [irabasɪ] 【動 1 : いらばし、いらばさん】 選ばせる。
- いらビ [irabɪ] 【動 1 : いらび、いらばん】 選ぶ。
- いらふつ [irafutsɪ] 【名】 魚の一種、ベラ。
- いりゆー [irijuu] 【名】 必要な物。
- いる [iru] 【名】 色。
- いん [in] 【名】 犬。
- いん [in] 【名】 戌（いぬ）。
- いん [im] 【名】 海。
- いんーぎー [immgii] 【名】 ぐんばいひるがお。
- いんがなす [inɣanasɪ] 【形】 可愛い。
- いんがまぼーぼー [inɣamabooboo] 【名】 虫の一種。
- いんざにつ [imdzanitsɪ] 【名】 海神祭。
- いんしゃー [imeaa] 【名】 漁師。

いんずうー [indzuu] 【名】 犬汁。
 いんずま [imdʒɪma] 【名】 海辺の村、漁村。
 いんなイ [imnaɪ] 【名】 海鳴り。
 いんぬまらさとう [innumarasatu] 【名】 洲鎌にある集落名。
 いんばた [imbata] 【名】 海辺。
 いんぼー [imboo] 【名】 漁師。
 いんまらだに [immaradani] 【名】 (腿の付け根にある) リンパ腺。

—う—

う [u] 【文】 ～しよう。勧誘を表す接辞。クラス 2 動詞の語根に付く。例文：い
 どう (出よう)。ぴんぞー んちゃむ (ヤギを捕まえよう)。
 う [u] 【文】 ～を。例文：うりゅーばー のーていーが あイ° が？ (これは何
 ていうの?)。くるもーどう こーたー (車を買った)。
 うー [uu] 【動 1：うい、わーん】 追う。
 うー [uu] 【動 1：うり、うらん】 ① いる。例文：んざんが うりゃー？ (どこ
 にいるの?)。② 動詞の中止形に続き、進行形・結果状態を表す。例文：ぶどう
 りどうー (踊っている)。
 ヴー [vv] 【名】 卵 (う)。
 ヴー [vv] 【動 1：っヴい、っヴあん】 売る、売却する。
 うーかた [uukata] 【形】 ざつ、大ざっぱ。
 うーギ [uugɪ] 【動 1：うーぎ、うーがん】 泳ぐ。
 うーす [uusɪ] 【動 1：うーし、うーさん】 負わず、運ぶ。
 うい [ui] 【名】 それ。
 うい [ui] 【名】 上。
 うい [ui] 【動 2：うい、ういゆん】 ① 生える。② 勃起する。
 うイ [uɪ] 【名】 瓜、ウリ科に属するもの。
 ういがなす [uiganasɪ] 【名】 身分・地位の高い人を敬って言う。
 うイがま [uɪgama] 【名】 キュウリ。
 ういさ [uisa] 【名】 噂。
 ういず [uidzɪ] 【名】 上地集落。
 ういた [uita] 【名】 それら。
 うイたっヴあす [uɪtavvasɪ] 【動 1：うイたっヴあし、うイたっヴあさん】 (激怒し
 ながら) 追う。
 ういのーイ [uinooɪ] 【動 1：ういのーり、ういのーらん】 (作物が) 良く出来る。
 ういび [uibi] 【名】 指。
 ういびがに [uibigani] 【名】 指輪。
 ういびさんみん [uibisammin] 【名】 指で計算すること。
 ういピとう [uipɪtu] 【名】 年寄り、老人。
 ういふさす [uifusasɪ] 【動 1：ういふさし、ういふささん】 追い出す。
 ういやヴ [uijav] 【動 1：ういやっヴい、ういやっヴあん】 生え損なう。
 うか [uka] 【名】 借金。
 うかーす [ukaasɪ] 【形】 ① 危険、危ない。② 関心に値する、すごい。
 うかがイ [ukagaɪ] 【動 1：うかがり、うかがらん】 浮く、浮かぶ。
 うかぎ [ukagi] 【名】 おかげ。

- うかま [ukama] 【名】 釜。
- うかまがン [ukamagam] 【名】 火の神。
- うがン [ugam] 【名】 大神、宮古の離島の一つ。
- うがン [ugam] 【動 1：うがみ、うがまん】 拝む、礼拝する。
- うき [uki] 【動 2：うき、うくん】 起きる。
- うき [uki] 【動 2：うき、うくん】 受ける。
- うキ [ukɨ] 【動 1：うき、うかん】 ① 動詞の中止形に続き「～しておく」。例文：びーるー ピぐらしゅーき（ビールを冷やしておく）。② 動詞の中止形に続き、間接的な証拠を表す。例文：あみぬどう ふりゅーキ（[地面が濡れているのを見て] 雨が降ったのだらう）。③ 動詞の中止形に続き、反事実的なことがらを表す。
- うキなー [ukɨnaa] 【名】 沖縄、沖縄本島。
- うくい [ukuɨ] 【動 1：うくり、うくらん】 送る。
- うぐかす [ugukasɨ] 【動 1：うぐかし、うぐかさん】 動かす。
- うぐキ [ugukɨ] 【動 1：うぐき、うぐかん】 動く。
- うくし [ukuei] 【名】 紙凧の糸目。凧の釣り合いを調製するため表面に付ける数本の糸。
- うくす [ukusɨ] 【動 1：うくし、うくさん】 起こす。
- うぐなーイ [ugunaaɨ] 【動 1：うぐなーり、うぐなーらん】 集まる。
- うぐなーイざー [ugunaaɨdzaa] 【名】 集会場。
- うぐない [ugunai] 【動 2：うぐない、うぐないゆん】 集める。
- うくらす [ukurasɨ] 【動 1：うくらし、うくらさん】 送らせる。
- うくり [ukuri] 【動 2：うくり、うくるん】 遅れる。
- うぐり [uguri] 【動 2：うぐり、うぐるん】 怒る。
- うさい [usai] 【名】 肴、お酒のつまみ。
- うさい [usai] 【動 2：うさい、うさいゆん】 いじめる。
- うざがま [udzagama] 【名】 鶉（うずら）。
- うさぎ [usagi] 【動 2：うさぎ、うさぐん】 捧げる、供える、献上する、差し上げる。
- うさまイ [usamaɨ] 【動 1：うさまり、うさまらん】 納まる。
- うさみ [usami] 【動 2：うさみ、うさむん】 納める、納税する。
- うす [usɨ] 【名】 牛。
- うす [usɨ] 【名】 白。
- うす [usɨ] 【名】 丑（うし）。
- うす [usɨ] 【形】 薄い。
- うす [usɨ] 【動 1：うし、うさん】 押す。
- うず [udzɨ] 【名】 ウツボ。
- うすうー [usuu] 【動 1：うそうい、うさーん】 覆う。
- うすうン [usum] 【動 1：うそうみ、うそうまん】 下を向く、俯く。
- うずうン [udzum] 【動 1：うぞうみ、うぞうまん】 夜中に目が覚める。
- うすか [usɨka] 【副】 そのぐらい。例文：うすかしー じょーぶん（これで結構）。
- うすき [usɨki] 【副】 そのぐらい。例文：うすきしー じょーぶん（これで結構）。
- うざン [udzɨm] 【動 1：うずみ、うずまん】 埋める。
- うざンばらやー [udzɨmbarajaa] 【名】 柱を土中に埋めて建てた家。
- うだ [uda] 【形】 ① 太っている、肥満。② 太い、厚い。

- うだーなー [udaanaa] 【名】 そんなに遠く。
うだい [udai] 【動 2：うだい、うだいやん】 太る。
うたき [utaki] 【名】 御嶽。
うだき [udaki] 【副】 そんなに高く。
うだぐー [udaguu] 【名】 デブ、太った人。
うたす [utasɿ] 【動 1：うたし、うたさん】 落とす。
うたす [utasɿ] 【動 1：うたし、うたさん】 落とす。
うだわー [udavaa] 【名】 (比喩的に) デブ。
うちやみ [uteami] 【名】 打ち雨。建物の中に進入する雨。
うちやん [uteam] 【名】 投網 (とあみ)。
うつ [utsɿ] 【形】 親しい、親睦。
うつ [utsɿ] 【動 1：うち、うたん】 打つ。
うつー [utsɿ] 【名】 青あざ。
うつうざ [utsudza] 【名】 親戚。
うっき [ukkɿ] 【動 1：うっき、うっかん】 置く。
うっすう [ussu] 【名】 後頭部。
うったい [uttai] 【動 2：うったい、うったいやん】 訴える。
うつつ [uttsɿ] 【動 1：うっち、うつつあん】 ① 移る。② 写る、映る。
うつつあす [uttsasɿ] 【動 1：うつつあし、うつつあさん】 ① 移す。② 写す、映す。
うつとーんまーい [utsɿtummaaɿ] 【動 1：うつとーんまーり、うつとーんまーらん】 (慌てて) 引き返す。
うつふーい [utsɿfuuɿ] 【動 1：うつふーり、うつふーらん】 (激しく) 振るう、揺す振る。
うてい [uti] 【動 2：うてい、うとーん】 落ちる。
うでい [udi] 【名】 腕。
うていー [utii] 【文】 ～しておいて。～したまま。付帯を表す。例文：おんがくー ながしゅーていーどう ぶどうイ° たー (音楽を流しながら踊った)。
うでいだい [udidaɿ] 【名】 怠慢、怠けものである。
うていつき [utitsɿkɿ] 【動 1：うていつき、うていつかん】 落ち着く。
うとー [utu] 【名】 音。
うとーい [utuɿ] 【名】 お通り、宮古島で流行している酒飲みの儀式の一つ。
うとーがい [utugaɿ] 【名】 顎 (あご)。
うどうき [uduki] 【動 2：うどうき、うどうくん】 損する。
うとーす [utusɿ] 【動 1：うとーし、うとーさん】 落とす。
うどうす [udusɿ] 【動 1：うどうし、うどうさん】 脅す。
うとーとー [ututu] 【名】 ① 弟、妹。② 年下 (の人)。
うとーむ [utumɿ] 【名】 同伴。
うどうるかす [udurukasɿ] 【動 1：うどうるかし、うどうるかさん】 驚かせる、びっくりさせる。
うどうるき [udurukɿ] 【動 1：うどうるき、うどうるかん】 驚く、びっくりする。
うとーるす [uturusɿ] 【形】 恐ろしい。
うな [una] 【名】 己、自分。
うながい [unagai] 【副】 そんなに永らく。
うなが ぶんぶん [unaga bunbun] 【連語】 それぞれ、おのおの。

- うなぎ [unagi] 【副】 そんなに長く。
うなぎ [unagi] 【名】 鰻 (ウナギ)。
うぬ [unu] 【連体】 その。
うぬすく [unusuku] 【副】 そんなに、それほど。
うぱーざ [upaadza] 【名】 長男。
うぱーんが [upaanga] 【名】 長女。
うばいがうばい [ubaigaubai] 【副】 ① 大変。② すごい、関心に値する。
うぷ [upu] 【形】 大きい。
うぷあがた [upuagata] 【形】 とても遠い。
うぶい [ubui] 【動 2: うぶい、うぶいゆん】 覚える。
うふイ [ufuɪ] 【動 1: うふり、うふらん】 (神や先祖の魂を) 見送る。
うふうふ [ufuufu] 【擬】 大事、大切な様。
うぷがなまりや [upuganamarja] 【名】 ① 頭が大きい人。② 馬鹿者、頭が悪い人。
うぷぎ [upugi] 【名】 そんなに大きい。
うぷじん [upudzin] 【名】 大善。お膳の一種。
うぷずー [upudzɪ] 【名】 巨乳。
うぷすう [upusu] 【名】 海水。
うぷでい [upudi] 【副】 大半。
うぷなー [upunaa] 【名】 洲鎌にある集落名。
うぷに [upuni] 【名】 大根。
うぷばーきー [upubaakii] 【名】 大きい葉っぱの木。
うぷみー [upumii] 【名】 大きな目を持つ (こと、人)。
うぷやー [upujaa] 【名】 母屋。
うぷやまかさ [upujamakasa] 【副】 たくさん。
うぷゆっばる [upujupparu] 【名】 大きくなった人がおしっこをもらすこと。
うぶり [uburi] 【動 2: うぶり、うぶるん】 溺れる。
うぷんとう [upuntu] 【名】 体が大きい。
うぼーさ [upoosa] 【副】 たくさん。
うま [uma] 【名】 そこ。
うまーす [umaasɪ] 【動 1: うまーし、うまーさん】 思わせる。
うまかま [umakama] 【副】 あちこち。
うまた [umata] 【名】 そこら。
うまつ [umatsɪ] 【名】 火。
うみ [umi] 【動 2: うみ、うむん】 埋める。
うむー [umuu] 【動 1: うむい、うまーん】 思う。
うむーが にやーん [umuuga njaan] 【連語】 自由に、思う存分、思うがままに。
例文: うむーがにやーんどう いらばい (自由に選べる)。
うむぐい [umugui] 【名】 ハミ (馬具)。
うむくとう [umukutu] 【名】 知恵。
うむっし [umueei] 【形】 面白い。
うむやす [umujasɪ] 【形】 安心した。
うむやっさ [umujassa] 【名】 安心。
うや [uja] 【名】 父。
うや [uja] 【感】 ほら。
うやーい [ujaai] 【感】 ほら。

うやき [ujaki] 【形】 富裕。
 うやきむぬ [ujakimunu] 【名】 富裕な人、お金持ち。
 ヴゃつヴゃつ [vjatsʲvjatsʲ] 【擬】 落ち着きがない。
 うやっふあ [ujaffa] 【名】 親子。
 うやんま [ujamma] 【名】 両親。
 うらかいイ [urakaiʲ] 【動 1：うらかいり、うらかいらん】 ひっくり返る。
 うらかいす [urakaisʲ] 【動 1：うらかいし、うらかいさん】 ひっくり返す。
 うらかいらす [urakairasʲ] 【動 1：うらかいらし、うらかいらさん】 ひっくり返す。
 うらざー [uradzaa] 【名】 裏座（伝統的な間取りでは奥の部屋）。
 うり [uri] 【名】 それ。
 うり [uri] 【動 2：うり、うるん】 おりる。
 うりから [urikara] 【接続】 それから。
 うりかり [urikari] 【副】 かれこれ、あらゆる。
 うりた [urita] 【名】 それら。
 うるか [uruka] 【名】 砂川（うるか、城辺の集落）。
 うるかじ [urukadzi] 【名】 普段の方向と異なる方向で吹く風。
 うるす [urusʲ] 【動 1：うるし、うるさん】 おろす。
 うるばな [urubana] 【名】 珊瑚礁。
 うわイ [uvaʲ] 【動 1：うわり、うわらん】 終わる。
 うん [un] 【名】 その時、当時。
 うんギ [uŋʲ] 【名】 恩、恩義。

—え—

えーってい [eetti] 【副】（仕草で示しながら）こう、こうして。
 えげー [egee] 【感】 感動詞。抑揚により様々な感情を表す。

—お—

おー [oo] 【形】 青い、青色の、緑色の。
 おー [oo] 【動 1：あい、あーん】 喧嘩する、戦う。
 おー [oo] 【感】 はい、かしこまりました。目上に対して用いる。
 おーぎ [oogi] 【動 2：おーぎ、おーぐん】 空く。
 おーギ [oogʲ] 【名】 扇。
 おーギ [oogʲ] 【動 1：おーぎ、おーがん】 扇ぐ。
 おーく [ooku] 【名】 杓（おうご）、天秤棒。
 おーだ [ooda] 【名】（草などを入れる）容器の一種。
 おーたヴたヴ [ootavtav] 【擬】 生い茂っている様。
 おーなずばヴ [oonadzʲbav] 【名】 蛇の一種（青大将）。
 おーなば [oonaba] 【名】 苔。
 おーばイ [oobaʲ] 【名】 金蠅。
 おーふさ [oofusa] 【形】 生臭い。
 おーみ [oomi] 【形】 臆病。
 おーやー [oojaa] 【名】 喧嘩。
 おーん [oom] 【動 1：おーみ、おーまん】 青くなる、青ばむ。

おーンびゃーイ [oombjaaɪ] 【動 1：おーンびゃーり、おーンびゃーらん】青ざめる。

—か—

か [ka] 【助数】～日、～日間。日数を数える助数詞。例文：ふつか（二日）。ミ
ーか（三日）。ゆーか（四日）。

が [ga] 【文】動詞に付き「～しに」を表す。例文：ふさかイ° が いか（草を刈りに行こう）。

が [ga] 【文】～が、～の。例文：っヴあが むぬ（君のもの）。っヴあが っし
ゆーイ°（君が分かる）。

かー [kaa] 【文】形容詞の語幹に付き、様々な活用形を作る。古典日本語の「～
かる」の活用に通じる。例文：くいがどう ンまかー（これの方がおいしい）。
たかかいは かーるん（高いので買えない）。たかかりゃーまい かーでい（高
くても買うよ）。

かー [kaa] 【名】① 井戸。② 川、河川。連濁形：がー。

かー [kaa] 【名】皮、肌。

がー [gaa] 【名】我、自己主張の強いこと。

かーイ [kaaɪ] 【動 1：かーり、かーらん】① 変わる、変化する。② 違う、異な
る。③ 変である。連濁形：がーイ°。

がーイ [gaaɪ] 【動 1：がーり、がーらん】自慢する。

かーき [kaaki] 【動 2：かーき、かーくん】①（喉が）渴く。例文：ぬどうぬど
う かーきゆー（のどが渴いている）。②（ひどく）欲しがる。③ 形容詞の名
詞形に続いて、強調構文を作る。例文：ふからっさん かーき（たいへん喜んで）。

かーぎ [kaagi] 【名】容貌。

かーきずん [kaakidzɪn] 【名】餓死、飢え死に。

かーさどう やどうゆン [kaasadu jadujum] 【慣】貧しさこそ喧嘩の元。

がーずうー [gaadzuu] 【形】強情、自己主張が激しい。

かーずうく [kaadzuku] 【名】池、沼。

かーすぷぎ [kaasɪpugɪ] 【名】革のベルト。

がーな [gaana] 【名】蟬。

がーな [gaana] 【名】アヒル。

がーなす [gaanasɪ] 【名】肩車。

かーぱイ [kaapaɪ] 【動 1：かーぱり、かーぱらん】動きが鈍い。

がーぱイ [gaapaɪ] 【動 1：がーぱり、がーぱらん】我を張る、言い張る。

かーふなた [kaafunata] 【名】蛙の一種、ヒキガエル。

かーま [kaama] 【名】拳骨。

かーみ [kaami] 【名】カーミ。宮古の伝統的な名前。連濁形：がーみ。

かーら [kaara] 【名】瓦。連濁形：がーら。

がーら [gaara] 【名】魚の一種。

かーらかす [kaarakasɪ] 【動 1：かーらかし、かーらかさん】乾かす。

かーらキ [kaarakɪ] 【動 1：かーらき、かーらかん】乾く。

がーらす [gaarasɪ] 【動 1：がーらし、がーらさん】（～を）自慢する。

かーらやー [kaarajaa] 【名】瓦葺の家。

がーんぐ [gaanɡu] 【名】蛍。

- かい [kai] 【名】 あれ。
- かい [kai] 【動 2：かい、かいゆん】 変える。
- かい [kaɪ] 【形】 軽い。
- かい [kaɪ] 【動 1：かり、からん】 刈る。
- かい [kaɪ] 【動 1：かり、からん】 借りる。
- かいイ [kaiɪ] 【動 1：かいら、かいらん】 ① ひっくり返る。倒れる。例文：ばいくぬどう かいら にゃーん (バイクが倒れてしまった)。② 自動詞の中止形に付き、その意味を強調する。例文：あまいどう かいらゆー (爆笑している)。連濁形：がいイ°。
- かいた [kaita] 【名】 あれら。
- がいちん [gaitein] 【名】 ヒバリ。
- かいまた [kaɪmata] 【名】 狩俣 (宮古島北部の集落)。
- がいミキ [gaɪmɪkɪ] 【動 1：がいみき、がいみかん】 話がうるさい、小言をいう。
- かいらす [kairasɪ] 【動 1：かいらし、かいらさん】 ① ひっくり返す、倒す。② 他動詞の中止形に付き、その意味を強調する。例文：っジ かいらす (ひどく叱る)。連濁形：がいらす。
- かヴ [kav] 【動 1：かっヴい、かっヴあん】 被る。
- かヴす [kavsɪ] 【動 1：かヴし、かヴさん】 被せる、覆う。
- かかイ [kakaɪ] 【動 1：かかり、かからん】 かかる。
- かかっつ [kakattsɪ] 【動 1：かかっち、かかっつあん】 引っ掻く。
- かがみ [kagami] 【動 2：かがみ、かがむん】 怒る。
- かかミキ [kakamɪkɪ] 【動 1：かかみき、かかみかん】 落ち着かない、せっかちである。
- かからす [kakarasɪ] 【動 1：かからし、かからさん】 かからせる。
- ががり [gagari] 【動 2：ががり、ががるん】 痩せこける。
- かがん [kagam] 【名】 鏡。
- かき [kaki] 【動 2：かき、かくん】 かける。
- かキ [kakɪ] 【名】 塀、垣。
- かキ [kakɪ] 【動 1：かき、かかん】 掻く。
- かキ [kakɪ] 【動 1：かき、かかん】 書く。
- かキ [kakɪ] 【動 1：かき、かかん】 (サトウキビの葉っぱを) 取る。
- がキ [gakɪ] 【名】 ① 食いしん坊。② 人を罵る言葉、このやろう。
- かぎ [kagi] 【名】 影。
- かぎ [kagi] 【形】 きれい、めでたい。
- がギ [gagɪ] 【名】 ① 鉤。② ケチな人。
- かきざ [kakidza] 【名】 雲丹。
- がギな [gagɪna] 【名】 草の一種、メヒシバ。
- かぎピかず [kagipɪkadzɪ] 【名】 吉日、めでたい日。
- かきょー [kakjoo] 【動 1：かきゃい、かきゃーん】 間に合う。
- かぎわ一つキ [kagivaatsɪkɪ] 【名】 よい天気。
- がぐ [gagu] 【擬】 くるまっている様、ちぢれ。
- がぐからず [gagukaradzɪ] 【名】 縮れ毛。
- かくみ [kakumi] 【動 2：かくみ、かくむん】 引っかける。
- かざ [kadza] 【名】 匂い、香り。
- かざイ [kadzaɪ] 【動 1：かざり、かざらん】 飾る。

- かさび [kasabi] 【動 2：かさび、かさぶん】重ねる。
 がざん [gadzam] 【名】蚊。
 がざんみ [kadzammi] 【名】高千穂の集落名。
 かじ [kadzi] 【名】風。
 かじ [kadzi] 【動 2：かじ、かずうん】(土を)掘る。(芋を)掘り起こす。例文：
 ーかじが (芋を掘りに)。
 かしー [kaɕii] 【名】手伝い。
 かじがたか [kadzigataka] 【名】風除け。
 かじずー [kadzidzuu] 【形】風が強い。
 かじふキ [kadzifukɿ] 【名】台風、嵐。
 がじゃがじゃ [gadzagadza] 【擬】複雑な様子。
 がじゃっヴい [gadzavvi] 【動 2：がじゃっヴい、がじゃっヴうん】込み合う。
 かず [kadzɿ] 【名】① 数。② 名詞や動詞に付き「～ごと」「～するたんびに」を
 表す。例文：すとうむていぬかず (毎朝)。ぬンがかず (飲むたんびに)。
 かすき [kasɿki] 【名】あのぐらい。
 かずっヴあい [kadzɿvvai] 【名】元肥。
 かぞー [kadzoo] 【形】風が吹く、風が強い。
 かた [kata] 【接頭】片、片方の。例文：かたばギ (片足)。
 かた [kata] 【名】(動詞に付き)～し方、方法。
 かた [kata] 【名】方向、方角。
 かた [kata] 【名】故。例文：んざーぬ やーんまい いキむすぬ うーたーかた
 んどう、ふそー からだかー ゆっズうまい ふーったー (どこに家にも家畜が
 いたので、草を刈らなければ晩ご飯もくれなかった)。
 かた [kata] 【名】飛蝗 (ばった)。
 かた [kata] 【形】(お茶が)濃い。
 がた [gata] 【文】(動詞に付き)～しかけ、～しそうだ。例文：うていがた (落ち
 る寸前)。にーがたぬ さた (煮おわる寸前の砂糖)。
 かたーき [kataaki] 【名】責任。
 かたか [kataka] 【名】(雨や風の)よけ。連濁形：がたか。
 かたかす [katakasɿ] 【名】おじさん (魚)。
 かだき [kadaki] 【副】あんなに高く。
 かたずき [katadzɿki] 【動 2：かたずき、かたずくん】片付ける。
 かたっふ [kataffu] 【名】すき櫛 (虱取り用など、歯の細かい櫛)。
 かたな [katana] 【名】包丁。
 かたながに [katanagani] 【名】体の片方。
 かたば [katapa] 【名】障害、障害者であること。
 かたばギ [katapagɿ] 【名】片足。
 かたばむぬ [katapamunu] 【名】障害者。
 かたふイ [katafuɿ] 【名】一様ではなく、あちこち降る雨。
 かたふかす [katafukasɿ] 【動 1：かたふかし、かたふかさん】傾ける。
 かたふキ [katafukɿ] 【動 1：かたふき、かたふかん】傾く。
 かたぶつ [katabutsɿ] 【名】きまじめま、几帳面な人。
 かたみ [katami] 【動 2：かたみ、かたむん】担ぐ、肩に載せて運ぶ。
 かたむす [katamusɿ] 【名】肩。
 かたむた [katamuta] 【名】傍ら、側。

- かつゆー [kateuu] 【名】鰹 (カツオ)。
 かつ [katsɿ] 【動 1: かつ、かたん】勝つ、勝利する。
 かつヴあす [kavvasɿ] 【動 1: かつヴあし、かつヴあさん】被せる。
 がつな [gatsɿna] 【文】① ~しながら。例文: むぬー ふおーがつなどう てれびゆー みーゆー (食事をしながら、テレビを見ている)。② ~するついでに。例文: ばが やーんかい キかつな さしみゆー かい ふいーる (私の家に来るついでに刺身を買ってください)。
 かつふあす [kaffasɿ] 【動 1: かつふあし、かつふあさん】隠す。
 かつふい [kaffi] 【動 2: かつふい、かつふん】隠れる、隠す。
 かつふいみゃー [kaffimjaa] 【名】隠れん坊。
 がつん [gatsɿn] 【名】魚の一種 (アジの仲間)。
 かどう [kadu] 【名】角、隅。
 かな [kana] 【名】① 鉋。② おろし器。
 かなーらず [kanaaradzɿ] 【副】必ず。
 がなか [ganaka] 【文】~すればするほど。例文: なるーがなかどう どうまっヴいだら (習えば習うほどこんがらがる)。
 かながい [kanagai] 【名】先日、前。
 かなぐる [kanaguru] 【名】金くず。
 かなぐるぼーし [kanaguruboosi] 【名】麦わら帽子。
 かなす [kanasɿ] 【形】愛おしい、好き。連濁形: がなす。
 がなす [ganasɿ] 【接尾】~様。尊敬や愛称を表す接辞。例文: かんがなす (神様)。つきがなす (お月様)。
 かなっさ つす [kanassa ssɿ] 【連語】大切にする、可愛がる。
 かなまい [kanamaɿ] 【名】頭。連濁形: がなまい。
 かなまりゃ [kanamarja] 【名】① 頭。② (複合語で) 頭に関連する何らかの性質を備えた人を指す。例文: うぷがなまりゃ (頭の大きい人)。連濁形: がなまりゃ。
 かなむぬ [kanamunu] 【名】金属製品。
 かならず [kanaradzɿ] 【副】必ず。
 かに [kani] 【名】鉄、金属。連濁形: がに。
 かに [kani] 【動 2: かに、かぬん】動詞に付き「~しかねる」を表す。例文: かぬ ういピたー あイ°キかにどうー (あの年寄りはずきかねている)。
 かに [kani] 【動 2: かに、かぬん】囲う。
 かにつつあ [kanittsa] 【名】洲鎌にある集落名。
 かにふぎ [kanifugɿ] 【名】(金属でできている) 釘。
 かぬ [kanu] 【連体】あの。
 かのー [kanoo] 【動 1: かない、かなーん】かなう。
 がば [gaba] 【形】年を取っている、老けている、年寄りの。
 がばイ [gabaɿ] 【動 1: がばり、がばらん】年を取る、老ける。
 がばかざ [gabakadza] 【名】加齢臭。
 かばす [kabasɿ] 【形】芳しい。
 がばぬすとう [gabanusɿtu] 【名】窃盗癖のある人。
 かビ [kabɿ] 【名】紙。
 かビ [kabɿ] 【動 1: かび、かばん】嗅ぐ。
 かビじん [kabɿdzin] 【名】後世のお金。

- かびとうイ [kabɪtuɪ] 【名】 凧。
- がびょー [gabjoo] 【形】 痩せている。
- がびょーまんだ [gabjoomanda] 【名】 痩せている人。
- がふ [gafu] 【副】 ① みっしりと。② ちょうど、ぴったり。
- かぷぎ [kapugi] 【名】 あんなに大きい、巨大。
- かぶちゃ [kabutea] 【名】 南瓜 (かぼちゃ)。
- かふつ [kafutsɪ] 【名】 (屋敷内の) 菜園。
- かま [kama] 【名】 あそこ。
- がま [gama] 【接尾】 小辞詞。例文：いみピとうがま (ちっちゃい人)。
- かまー [kamaa] 【名】 遠く、遠い所。
- がまーす [gamaasɪ] 【接尾】 ～中、時間名詞に付き「その間にずっと」を表す。
例文：ゆーがまーす (一夜中、夜ずっと)。ピとうイがまーす (一日中)。
- かまイ [kamaɪ] 【動 1：かまり、かまらん】 飽きる。例文：うぬ えーごーばー
かまイ° きゃどう みーたー (この映画は飽きるほど見た)。うずまきぱんぬー
ばー ふおーかまりどうー (渦巻きパンは食べ飽きている)。
- かまぎ [kamagi] 【動 2：かまぎ、かまぐん】 突き破る。
- かまた [kamata] 【名】 あそこら。
- がまた [gamata] 【文】 未来形を作る接辞。未来において予定のあることや、確実に起こると思われる出来事を表す。例文：あつあー なんじんが つきがまた
やりゃー? (明日は何時に着く予定なの?)。
- かまつ [kamatsɪ] 【名】 頬。連濁形：がまつ。
- かまばく [kamabaku] 【名】 カマボコ。
- がまらす [gamarasɪ] 【形】 めんどくさい。
- かみ [kami] 【名】 甕 (かめ)。連濁形：がみ。
- かみ [kami] 【名】 亀。
- かみ [kami] 【動 2：かみ、かむん】 頭に載せる。
- かみ [kami] 【動 2：かみ、かむん】 合掌する、手を合わせる。
- がみ [gami] 【文】 ～まで。例文：あつあがみ かかイ° ンどー (明日までかかるよ)。
- がみ [gami] 【文】 (格助詞に続き) ～は、対比を表す。例文：ぴんざずうーがみ
ゃー まーだどう ンまかー (ヤギ汁はたいへん美味しい)。
- がみキ [gamiki] 【動 1：がみき、がみかん】 音を立ててぶつける。
- かや [kaja] 【名】 茅。
- かや [kaja] 【感】 ほら。
- かやーい [kajaai] 【感】 ほら。
- かややー [kajajaa] 【名】 茅葺きの家。
- がやんだ [gajanda] 【名】 ① 蜂の一種。② 口数の減らない、うるさい人。
- から [kara] 【助数】 ～頭、～匹。生き物を数える助数詞。
- から [kara] 【文】 (格助詞に続き) 先に...する。例文：あしゅーから ふあー (先に昼ご飯を食べよう)。
- から [kara] 【文】 ～から。例文：くまから かまがみ (ここからあそこまで)。
- から [kara] 【形】 辛い。
- がら [gara] 【文】 ～のか (分からない)。疑問文を埋め込む働きをする助詞。例
文：んなまー とうないんどう たーが うーがら つさるん (今は隣に誰が
いるのか分からない)。

- がらー [garaa] 【文】疑問詞に付き、不定語（誰か、何か）を形成する。例文：たーがらーがどう キったー（誰かが来た）。
- がらー [garaa] 【文】～なんか。例文：携帯ゆがらーどう うたし にゃーん（携帯なんかを落としてしまった）。
- からぎ [karagi] 【動2：からぎ、からぐん】めくる。
- がらさ [garasa] 【名】鳥。
- がらさばヴ [garasabav] 【名】カラスヘビ、蛇の一種。
- からす [karas] 【動1：からし、からさん】貸す。
- からず [karadzɨ] 【名】髪。
- からすう [karasu] 【名】麦が入っている味噌。
- かり [kari] 【名】あれ。
- かり [kari] 【動2：かり、かるん】枯れる。連濁形：がり。
- かりー [karii] 【名】嘉例、幸運をもたらすもの。
- がりー [garii] 【文】～かな。主に疑問詞疑問文に用いられる。例文：とーがりー（誰かな、誰だっけ）。
- かりた [karita] 【名】あれら。
- かん [kan] 【名】蟹。連濁形：がん。
- かん [kam] 【名】神。連濁形：がン。
- かん [kam] 【動1：かみ、かまん】噛む。
- かんがい [kaŋgai] 【動2：かんがい、かんがいゆん】考える。
- かんかかりや [kamkakarja] 【名】神役。
- かんがなす [kamganasɨ] 【名】神様。神の敬称。
- かんぎ [kaŋgi] 【名】鬘（たてがみ）。
- かんしー [kaneii] 【副】このように、こうして、かよう。
- かんずうー [kandzuu] 【形】勘が鋭い。
- がんずうー [gandzuu] 【形】健康、健在。
- がんずうーさ [gandzuusa] 【名】健康。
- がんずうー うやき [gandzuu ujaki] 【慣】「健康富」。健康に勝るものはない。
- かんだい [kamdaɨ] 【動1：かんだり、かんだらん】噛み砕く。
- かんだか [kamdaka] 【形】神秘的な物に対して敏感である。
- かんだな [kamdana] 【名】仏壇。
- かんつき [kantsɨkɨ] 【動1：かんつき、かんつかん】気づく。
- かんでいっちや [kamtittea] 【名】占い師。
- かんでいゆん [kantijun] 【名】雷。
- かんない [kamnaɨ] 【動1：かんなり、かんならん】死ぬ。
- かんにがい [kamnigaɨ] 【名】祈祷、祈願。
- かんにごーんま [kamnigoomma] 【名】神役のおばあさん。
- かんぬなー [kamnunaa] 【名】神の名、くじによって与えられた名前、(日本語の「学校の名前」と区別して) 宮古語本来の名前。
- かんぼー [kanboo] 【名】風邪。
- がんまり [gammari] 【名】悪戯。
- がんまりや [gammarja] 【名】悪戯をする人。

- ぎ [gi]【文】～そうだ。～ように見える。例文：ンまぎむぬやー (美味しそうね)。
 ぷからすき なりどうーたー (嬉しそうにしていた)。
- きー [kii]【名】木、木材。連濁形：ぎー。
- きーぬなイ [kiinunaɪ]【名】木の実。
- ギーぱ [giɪpa]【名】簪 (かんざし)。
- キーる [kiɪru]【形】黄色い。
- きイ [kiɪ]【動 1：きり、きらん】蹴る。
- きヴ [kiv]【助数】～軒。建物や世帯を数える助数詞。
- きヴ [kiv]【形】煙い。
- キかす [kiɪkasɪ]【動 1：キかし、キかさん】聞かせる。
- キキ [kiɪki]【動 1：キき、キかん】聞く。
- きぎやーイ [kigjaaɪ]【動 1：きぎやーり、きぎやーらん】混ざる。
- きぎやーす [kigjaasɪ]【動 1：きぎやーし、きぎやーさん】掻き混ぜる。
- キサ [kiɪsa]【副】① さっき。例文：キサどう きしゅーたー (さっき来ていた)。
 ② とっくに。例文：むやいぬ じんぬばー キさどう ふあいにかーん (頼母子講の金はとっくに費やした)。
- キサバキ [kiɪsabaki]【形】清潔、きれい。
- きざン [kidzam]【動 1：きざみ、きざまん】(野菜、肉を)切る。
- きし [kiei]【名】切れ。
- きし [kiei]【動 2：きし、キそうん】切れる。
- きしイ [kieiɪ]【名】煙管 (きせる)。
- キす [kiɪsɪ]【動 1：きし、キさん】切る。連濁形：ギー。
- キす [kiɪsɪ]【動変型：きし、くーん】来る。
- キす [kiɪsɪ]【動 1：きし、キさん】着る。
- きず [kidzɪ]【名】傷。
- ギすキ [giɪsɪki]【名】薄 (ススキ)。
- きた [kita]【名】桁。
- きたてい [kitati]【動 2：きたてい、きたとうん】異なる。
- きだむぬ [kidamunu]【名】薪。
- きつぎ [kiɪtsɪgi]【形】きれい。
- ぎつぎよー [giɪtsɪgjoo]【形】難しい。
- きつつ [kiɪtsɪ]【動 1：きつつち、きつつあん】① 削る。② 梳く、髪の毛を整える。
- きっふ [kiɪfu]【名】煙。
- キとうイ [kiɪtuɪ]【動 1：キとうり、キとうらん】味が濃くてきつい。
- キとうん [kiɪtun]【副】必ず。
- きな [kina]【名】玉杓子。
- きない [kinai]【名】家庭、家族。
- キぬ [kiɪnu]【名】昨日。
- キぬ一つき [kiɪnuutsɪki]【連語】じっと見る様。
- キぬぶとうとうイ [kiɪnubututuɪ]【名】最近。
- キばイ [kiɪbaɪ]【動 1：キばり、キばらん】頑張る。
- きばがイ [kibagaɪ]【動 1：きばがり、きばがらん】強く匂う。
- きばん [kiban]【形】親戚、頼る人がいない。
- ギビた [giɪbiɪta]【形】素直でない。
- きまい [kimaɪ]【動 1：きまり、きまらん】決まる。

- きみ [kimi] 【動 2 : きみ、きむん】 決める。
 きみゃーす [kɪmjɑasɪ] 【形】 気持ちいい。
 きむ [kɪmu] 【名】 ① 心。② 肝臓。
 きむいでい [kɪmuidi] 【動 2 : きむいでい、きむいどうん】 怒る。
 きむかぎ [kɪmukagi] 【形】 優しい。
 きむがま [kɪmugama] 【名】 心が小さい、短期。
 きむぐる [kɪmuguru] 【名】 心。
 きむたかり [kɪmutakari] 【形】 怒りっぽい。
 きむだみ [kɪmudami] 【名】 辛抱強い。
 きむやん [kɪmujam] 【名】 心を痛めること、悩み。
 きゃ [kja] 【文】 ① (動詞に付き) ~まで。~ほど。例文：ばが きっきゃ まちゅーりよ (私が来るまで、待っていなさい)。② ~間。例文：しんしーや しゅーきゃー じんな なんずう にゃーったん (先生を勤めていた間、あまりお金がなかった)。
 きゃーす [kjaasɪ] 【動 1 : きゃーし、きゃーさん】 消す。
 きゃーり [kjaari] 【動 2 : きゃーり、きゃーるん】 消える。
 きゅー [kjuu] 【名】 今日。
 きゅーがゅー [kjuugajuu] 【名】 今晚。
 きん [kin] 【名】 斤。
 きん [kɪn] 【名】 服、着物。連濁形：ギん。
 きんあろー [kɪnaroo] 【名】 洗濯。
 きんずうー [kindzuu] 【形】 重さがある。
 きんだてい [kindati] 【名】 地鎮祭。

—く—

- くー [kuu] 【助数】 ~個。貝、スイカ、芋などを数える助数詞。
 くー [kuu] 【名】 繕い、空いているものを埋めること。連濁形：ぐー。
 くー [kuu] 【名】 (卵、貝などの空っぽになった) 殻。
 くー [kuu] 【名】 粉。
 くー [kuu] 【名】 甲羅。
 くー [kuu] 【動 1 : くい、かーん】 求婚する。
 ぐー [guu] 【文】 形容詞や動詞に付き「~しそうだ」を表す。例文：うぬ すまとうりゃー かつぐーつふあにゃーん (この力士は勝ちそうもない)。
 ぐー [guu] 【名】 ① (海中の) 岩。② 岩盤。
 ぐー [guu] 【名】 ① 同じであること。例文：ういとう ゆぬぐー (これと同じ)。
 ② 一緒に。
 くーい [kuui] 【名】 部屋。
 くーヴ [kuuv] 【動 1 : くーっヴい、くーっヴあん】 (料理を) 準備する、作る。
 くーすう [kuusu] 【名】 唐辛子。
 くーむや [kuumuja] 【名】 ゴキブリ。
 ぐーりゃ [guurja] 【接尾】 ~辺り。例文：ゆなばぐーりゃ (与那覇辺り)。
 くーる [kuuru] 【名】 輪、車輪。
 くーるギー [kuurugi] 【名】 輪切り。
 くい [kui] 【名】 これ。

- くい [kui] 【名】 ① 声。② 音。例文：くいぬどう キかりゅー（音が聞こえている）。③ 訛り。地名に付き「～訛り」を表す。例文：ピさらぐい（平良訛り）。連濁形：ぐい。
- くい [kui] 【動 2：くい、くいゆん】 こえる。
- くいた [kuita] 【名】 これら。
- くいちゃー [kuiteaa] 【名】 雨乞いの踊り、クイチャー。
- くヴ [kuv] 【名】 昆布。
- くがに [kugani] 【名】 (金属の) 金、宝。
- くき [kuki] 【形】 威張っている。
- くギ [kugi] 【動 1：くぎ、くがん】 漕ぐ。
- くきふや [kukifuja] 【名】 威張っている人。
- くくぬ [kukunu] 【数】 九。
- くくぬつ [kukunutsu] 【名】 九つ。
- くくぬぬピとう [kukununupitu] 【名】 九人、九名。
- くくる [kukuru] 【名】 心。
- くくるやき [kukurujaki] 【名】 胸焼き。
- くさんみ [kusammi] 【名】 背中。
- ぐしゃん [gucan] 【名】 杖。
- ぐしん [gucin] 【名】 女性器。
- くす [kus] 【名】 ① 腰。② 後方、後ろ。
- くす [kus] 【動 1：くし、くさん】 運ぶ。
- くずう [kudzu] 【名】 去年。
- ぐずうヴ [gudzuv] 【動 1：ぐぞうっヴい、ぐぞうっヴあん】 擦（くすぐ）る。
- くすき [kusuki] 【名】 このぐらい。
- ぐずぐず [gudzugudz] 【擬】 ごくごく。
- くすぶに [kusubuni] 【名】 背骨、脊椎。
- くだき [kudaki] 【副】 こんなに高く。
- くたんでい [kutandi] 【動 2：くたんでい、くたんどうん】 くたびれる。
- くつヴあ [kuvva] 【名】 ふくらはぎ。
- ぐった [gutta] 【擬】 一気に呑み込む様。
- くっち [kutte] 【動 2：くっち、くつつうん】 苦勞する。
- くつぱぎ [kutsupagi] 【名】 靴擦れ。
- くとう [kutu] 【名】 こと。連濁形：ぐとう。
- くとうす [kutus] 【名】 今年。
- くとうば [kutuba] 【名】 言葉。
- ぐどうん [gudun] 【名】 愚鈍、頭が悪い人、馬鹿。
- ぐな [guna] 【名】 ～する人。係、担当。例文：に一ぐな（煮る係り、料理担当）。
- くなす [kunas] 【動 1：くなし、くなさん】 やせ我慢をする。
- くぬ [kunu] 【連体】 この。
- くぬイ [kunu] 【名】 最近。
- くば [kuba] 【名】 植物の一種、びろう。
- くぱ [kupa] 【形】 硬い。連濁形：ぐぱ。
- くぱイ [kupa] 【形】 言葉が流暢でない、どもる。
- くぱイ [kupa] 【動 1：くぱり、くぱらん】 ① 固くなる、固まる。② 凝る。③ 凍える。

- くばず [kubadzɿ] 【名】 釣瓶。
くぱりや [kupaɾja] 【名】 言葉がはっきりしない人、どもり。
くび [kubi] 【名】 (ススキで編まれた) 壁。
くびん [kupin] 【名】 瓶。連濁形：くびん。
ぐふ [gufu] 【名】 (竹、サトウキビなどの) 節 (よ)、ふしとふしとの間の部分。
くぶ [kubu] 【名】 瘤。
くぶぎ [kupugi] 【副】 こんなに大きい。
くま [kuma] 【名】 ここ。
くま [kuma] 【形】 けち。
ぐま [guma] 【形】 小さい。
くまイ [kumaɪ] 【動 1：くまり、くまらん】 閉じこもる。
ぐまじん [gumadzin] 【名】 小銭。
くまた [kumata] 【名】 こころ。
ぐみ [gumi] 【名】 ゴミ。
くむ [kumu] 【名】 雲。
くむ [kumu] 【名】 蜘蛛 (くも)。
くや [kuja] 【感】 ほら。
くやーい [kujaai] 【副】 ほら。
くゆん [kujum] 【名】 暦。
くらす [kurasɿ] 【動 1：くらし、くらさん】 暮す。
くらび [kurabi] 【動 2：くらび、くらぶん】 比べる、比較する。
くり [kuri] 【名】 これ。
くり [kuri] 【動 2：くり、くるん】 お金を細かくする。
ぐり [guri] 【名】 沈殿物。
ぐり [guri] 【形】 動詞に付き「～しにくい」を表す。例文：みーぐりーぬ (見づらい)。
くりた [kurita] 【名】 これら。
ぐる [guru] 【形】 ずるい。
くるま [kuruma] 【名】 車、自動車 (外来語)。連濁形：ぐるま。
くんキ [kuŋkɿ] 【名】 体力。
くんぎ [kuŋgi] 【動 2：くんぎ、くんぐん】 背負う、おんぶする。
くんどう [kundu] 【名】 今度。

—げ—

げなん [genan] 【名】 下男、しもべ。

—こ—

- こー [koo] 【名】 お香。
こー [koo] 【形】 痒い。
こー [koo] 【形】 ① きつい。苦しい。例文：うぬ すぐたー こーふたー (この仕事はきつい)。② 貧しい。例文：こーやーがま (貧しい家庭)。連濁形：ごー。
こー [koo] 【動 1：かい、かーん】 買う、購入する。
こーイ [kooɪ] 【動 1：こーり、こーらん】 ① (作物が) 成熟する、収穫できる大

きさままでに成長する。② ませる、大人びる。
 こーす [koosɿ] 【名】お菓子。連濁形：ごーす。
 こーず [koodzɿ] 【名】麴。
 ごーら [goora] 【名】ゴーヤ。
 ごーり [goori] 【動 2：ごーり、ごーるん】困る。
 こーんから [koon̄kara] 【副】十分。

— さ —

さ [sa] 【文】① ～さ。形容詞に付き、名詞を形成する。例文：あつさ（暑さ）。
 ぴしさ（寒さ）。② 感じた感覚を表現するときに用いる。形容詞の感嘆形。例文：
 ふささ！（臭っ！）。あつさ！（熱っ！）。
 さー [saa] 【終】～よ。話し手の気持ちを強調する「本当に…だよ」。例文：うむ
 っし やっさー（本当に面白い）。
 ざー [dzaa] 【名】座、会場、人が集まる場所。
 ざー [dzaa] 【名】片思いで狂って男を追い回す女。
 さーい [saai] 【終】～よ。問いの答えによく使われる。例文：さんじん くーで
 いさーい（三時に来るよ）。
 さーい [saaɿ] 【動 1：さーり、さーらん】連れる。
 さーい [saaɿ] 【動 1：さーり、さーらん】子守りをする。
 さーいら [saaira] 【終】～よね。～でしょう。例文：みゃーくずまー ンみーぬ
 さーいら（宮古島は小さいでしょ）。
 さーていー [saatii] 【副】① うんと、急いで。② さっさと。
 さーる [saaru] 【名】カマキリ。
 さい [saɿ] 【名】申（さる）。
 さい [saɿ] 【名】海老（えび）。
 さいか [saika] 【終】～じゃないか。例文：とーまい うらんさいか（誰もいない
 じゃないか）。
 さいぬば [saɿnupa] 【名】西方。
 ざインみ [dzaɿm̄mi] 【動 2：ざインみ、ざインむん】ずぶ濡れる。
 さヴ [sav] 【動 1：さっヴい、さっヴあん】① 刺す。② 根こそぎ取る。
 ざヴかに [dzavkani] 【名】茱萸（グミ）。
 さか [saka] 【名】坂。
 さがイ [sagaɿ] 【動 1：さがり、さがらん】① 下がる。② 掛け買いする。
 さがイビー [sagaɿbɿɿ] 【名】足を垂らした座りがた。
 ざかがま [dzakagama] 【名】① モグラ。② 人を罵って言う。
 さかなやー [sakanajaa] 【名】料亭、お茶屋。
 さかま [sakama] 【名】坂。
 さき [saki] 【名】酒。連濁形：ざき。
 さキ [sakɿ] 【名】先。
 さキ [sakɿ] 【動 1：さき、さかん】裂く。
 さキ [sakɿ] 【動 1：さき、さかん】咲く。
 さぎ [sagi] 【動 2：さぎ、さぐん】下げる。
 さきぐびん [sakigupin] 【名】酒の瓶。
 さきずうー [sakidzuu] 【形】酒に強い。

- さきたりやー [sakitarijaa] 【名】酒を酒造する家、酒造所、酒蔵。
 さきちゅーぶ [sakiteuubu] 【名】アルコール中毒。
 さきどうみ [sakidumi] 【名】先妻や先夫。
 さきぬみや [sakinumja] 【名】酒をたくさん飲む人。
 さきぬン [sakinum] 【名】飲み会。
 さきふあや [sakifaja] 【名】毎日酒を飲む人、アルコール依存者。
 ささぎ [sasagi] 【名】結婚、結婚式。
 ささび [sasabi] 【名】しゃっくり。
 さず [sadzɪ] 【名】タオル。
 さすんキ [sasɯŋki] 【動1: さすんき、さすんかん】急に向う、急降下する。
 さた [sata] 【名】砂糖。連濁形: ざた。
 さだイ [sadaɪ] 【動1: さだり、さだらん】先立つ。
 さたぱンびん [satapambin] 【名】砂糖天ぷら、球状の揚げドーナツ（サーターア
 ンダギー）。
 さたまら [satamara] 【名】女性にもてること。
 さっぼーイ [sappooɪ] 【動1: さっぼーり、さっぼーらん】（板などが）枯れて腐
 る。
 さとう [satu] 【名】（村より小さい）行政区の一つ。
 さどうイ [saduɪ] 【動1: さどうり、さどうらん】手探りする。
 さな [sana] 【名】傘。
 さなか [sanaka] 【名】朝十時の休憩。
 さなぎ [sanagi] 【名】褌。
 さに [sani] 【名】① 種。② 血統。連濁形: ざに。
 さにつ [sanitsɪ] 【名】宮古島の祭りの一つ。連濁形: ざにつ。
 ざにふ [dzanifu] 【形】憎い。
 さにわー [sanivaa] 【名】種付け用の雄豚。
 さにン [sanim] 【名】月桃。
 さば [saba] 【名】鮫。
 さば [saba] 【名】草履。
 さばキ [sabaki] 【動1: さばき、さばかん】尋ねる、訊く。
 さばに [sabani] 【名】くり船。
 さビー [sabiɪ] 【副】けろっとした。
 さビす [sabiɯsɪ] 【形】さびしい。
 さビたり [sabitari] 【名】けろっとしている。
 さまイ [samaɪ] 【文1: さまい、さまん、さまち】お...になる、尊敬語の派生接尾
 辞。クラス2動詞に付く。例文: みーさまイ（ご覧になる）。
 さまイ [samaɪ] 【動1: さまり、さまらん】冷める。
 さまイ [samaɪ] 【動1: さまい、さまん、さまち】なさる、「する」の尊敬語。
 さまらす [samarasɪ] 【動1: さまらし、さまらさん】冷ます。
 さみさみ [samisami] 【擬】ブツブツ。
 さむい [samui] 【名】遊びの一種。
 さやふ [sajafu] 【名】大工。連濁形: ざやふ。
 さら [sara] 【名】皿。連濁形: ざら。
 ざらーか [dzaraaka] 【名】同士。
 さらさら [sarasara] 【擬】うそも隠しもない。

さらす [sarasʔ] 【動 1: さらし、さらさん】乾燥させる。
 さらまた [saramata] 【名】服 (下着) の一種。
 ざらみキ [dzaramikʔ] 【動 1: ざらみき、ざらみかん】ガタガタする。
 さらみぐとう [saramigutu] 【副】最高。
 さり [sari] 【動 2: さり、さるん】乾燥する。
 さりうぷに [sariupuni] 【名】干し大根。
 さりっずう [sarizzu] 【名】干魚。
 さるか [saruka] 【名】サルカケミカン。
 さんしん [sanein] 【名】三味線。
 さんみん [sanmin] 【名】① 計算。② 判断、思考。

—し—

しー [eii] 【文】～で。例文：いちまんえんしーどう　こーたー (一万円で買った)。
 しー [eii] 【名】海にある岩、珊瑚礁。
 しーとーやー [eiitoojaa] 【名】製糖屋、製糖を行う場所、家。
 しーとう [eiitu] 【名】生徒、学生。
 しーにん [eiinin] 【名】若い男性、青年。
 しーにん [eiinin] 【名】若い男性、青年。
 しーにんやー [eiininjaa] 【名】公民館。
 しーら [eiira] 【名】仕事による痛み。
 しーらい [eiirai] 【動 2: しーらい、しーろーん】できる。
 しか [eika] 【文】～しか。
 しがり [eigari] 【動 2: しがり、しがるん】心配する。
 しな [eina] 【名】貝の一種。
 しば [eiba] 【形】狭い。
 しばな [eibana] 【名】(海辺の) 岩。
 しびだ [eipida] 【名】ものを聞かない人。
 しびだ伊 [eipidaʔ] 【動 1: しびだり、しびだらん】締りがない、だらりと垂れる。
 しみ [eimi] 【動 2: しみ、しむん】締める、閉める。
 しみ [eimi] 【動 2: しみ、しむん】攻める。
 しゃーか [eaaka] 【名】未明。連濁形：じゃーか。
 じゃーじゃー [dzaadzaa] 【擬】風の吹く様。
 しゃーぱイ [eaapaʔ] 【動 1: しゃーぱり、しゃーぱらん】喜ぶ。
 しゃーら [eaara] 【名】畑の石を集めてそれを石積にしたもの。
 じゃーん [dzaan] 【文】～さえ。例文：つふあがまんじゃーんどう　なイ° (子供にさえできる)。学校からじゃーん　キっかー　ふたきな　ふさかイ° が　いきゅーたー (学校から帰りさえすれば、すぐ草を刈りに行っていた)。
 じゃーん [dzaan] 【副】もっとも、一番。例文：じゃーん　ぴんざずうーぬどうんまむぬだら (一番ヤギ汁が美味しいんだ)。
 しゃく [eaku] 【名】① 如く、何々のように。② ほど、程度。
 じゃじゃっヴあす [dzadzavvasʔ] 【動 1: じゃじゃっヴあし、じゃじゃっヴあさん】邪魔する。
 じゃっふあじゃっふあ [dzaffadzaffa] 【擬】口で音をたてる様。

しゅー [ɕuu] 【名】 ① 祖父。② 年寄りの男性、翁。
 じゅーぐや [dzuuguja] 【名】 十五夜（旧暦八月 15 日の夜）。
 じゅーぐやずき [dzuugujadzɪkɪ] 【名】 十五夜の月。満月。
 じゅーるくにつ [dzuurukunitsɪ] 【名】 十六日。後生の正月。
 しゅくぱぎ [ɕukupagi] 【名】 無職。
 じゅんしゃ [dzunɕa] 【名】 警察、警察官。
 しょーがつ [ɕoogatsɪ] 【名】 正月。
 しょーしょー [ɕooɕoo] 【擬】 勢いよく生い茂っている様。
 じょーず [dzoodzɪ] 【形】 上手。
 じょーとー [dzootoo] 【形】 上等、素晴らしい。
 じょーぶん [dzoobun] 【形】 大丈夫。
 しょじょ [ɕodzo] 【名】 未婚の女性、若い女性。
 じら [dzira] 【形】 数が多く、予想よりあまっている。
 しらび [ɕirabi] 【動 2：しらび、しらぶん】 調べる。
 しわ [ɕiva] 【名】 心配。
 しん [ɕin] 【名】 線。
 じん [dzin] 【名】 お金。
 じん [dzin] 【名】 お膳。
 しんじ [ɕindzi] 【動 2：しんじ、しんぞうん】 信じる。
 しんしー [ɕincii] 【名】 先生。
 じんじん [dzindzin] 【擬】 油が満ち溢れる様。
 じんふあや [dzinfaja] 【名】 お金をたくさん使う人。
 じんふくる [dzinfukuru] 【名】 財布。
 じんぶん [dzinbun] 【名】 分別、才能。
 じんむちゃ [dzinmutea] 【名】 金持ちな人。
 じんもーき [dzinmooki] 【名】 金儲け。

—す—

すー [sɪ] 【名】 お酢。
 ずー [dzɪ] 【名】 土地。
 ずー [dzɪ] 【名】 文字。
 すーす [sɪsɪ] 【名】 (油と対照的に) 肉、赤身。
 すーすわー [sɪsɪvaa] 【名】 赤身の多い豚。
 ずーってい [dzɪtti] 【副】 ずっと。
 ずーどーだみ [dzɪdoodami] 【名】 畑を祈る行事。
 ずう [dzu] 【感】 さあ。相手を促すときに用いる。
 すヴ [sɪv] 【名】 冬瓜。
 すヴ [sɪv] 【形】 酸っぱい。
 ずヴ [dzɪv] 【名】 芯。
 すうー [suu] 【名】 潮。
 すうー [suu] 【名】 野菜。連濁形：ずうー。
 すうー [suu] 【名】 (複合語で) 料理の一品。例文：ぬーますうー (馬の料理)。
 連濁形：ずうー。
 ずうー [dzuu] 【名】 ① 尻尾。② (芋などの) 端っこ。

- ずうーきしむぬ [dzuukieimunu] 【名】しょっちゅう忘れ物をする人。
- すうーざ [suudza] 【名】うらやましい。
- すうーすうー [suusuu] 【擬】風の吹く様。
- すうーぬどう ぬーイ [suunudu nuu] 【連語】「潮があがる」、津波。
- すうーぷすき なり [suupus₁ki nari] 【連語】もの欲しそうに。
- すうい [sui] 【動2：そうい、そういゆん】加える、添える、含む。
- すうイ [su₁] 【動1：そうり、そうらん】①（髪を）剃る。②（植物を）切る、刈る。
- すういすうい [suisui] 【副】一緒に。
- すういやー [suijaa] 【名】物置。
- すうヴ [suv] 【動1：そうっヴい、そうっヴあん】（平たいもので）打つ。
- すうが [suga] 【文】～が、～けれども。逆接を表す。
- すうがイ [suga₁] 【動1：そうがり、そうがらん】身なりをきれいにする。
- すうから [sukara] 【形】塩辛い。
- すうからみず [sukaramidz₁] 【名】塩気のある水。
- すうく [suku] 【名】底。連濁形：ずうく。
- すうざ [sudza] 【名】①兄。②年上の人、先輩。
- すうざっすう [sudzassu] 【名】年上。
- すうす [sus₁] 【動1：そうし、そうさん】攣る（つる）。
- すうだつ [sudats₁] 【動1：そうだち、そうだたん】育つ。
- すうだてい [sudati] 【動2：そうだてい、そうだとうん】育てる。
- すうっぱイ [suppa₁] 【動1：そうっぱり、そうっぱらん】痙攣する。
- すうっふ [suffu] 【動1：そうっふい、そうっふあん】掬う。
- すうでい [sudi] 【名】袖。
- すうていつ [sutits₁] 【名】蘇鉄（ソテツ）。
- すうば [suba] 【名】側。
- すうば [suba] 【名】蕎麦（そば）。
- すうふ [sufu] 【名】スク、アイゴの稚魚。
- すうふっズう [sufuzzu] 【名】スク魚、アイゴの稚魚。
- すうまい [suma₁] 【動1：そうまり、そうまらん】染まる。
- すうみ [sumi] 【動2：そうみ、そうむん】染める。
- すうむイ [sumu₁] 【動1：そうむり、そうむらん】①（卵が）孵化する直前に腐る。②（蒸気によって）濁る。
- すうら [sura] 【名】茎や枝の先端、梢。
- すうらーす [suraas₁] 【動1：そうらーし、そうらーさん】揃える、集める。
- すうり [suri] 【動2：そうり、そうるん】（男性器が）が元気である。
- ずうり [dzuri] 【名】酌婦、女郎。
- すうるー [suruu] 【動1：そうるい、そうらーん】集まる。連濁形：ずるー。
- すうん [sun] 【名】損。
- すうんたつ [suntats₁] 【動1：そうんたち、そうんたたん】まっすぐに立つ、直立する。
- すうンばす [sumbas₁] 【動1：そうンばし、そうンばさん】まっすぐに伸ばす、まっすぐにする。
- すうンビ [sumb₁] 【動1：そうンび、そうンばん】まっすぐである。
- すがイだく [s₁ga₁daku] 【名】蛸の一種。

- すかす [sɪkasɪ] 【動 1：すかし、すかさん】 騙す、口説く。
- すかた [sɪkata] 【形】 汚い、不潔。
- すかたイぎ [sɪkataɪgi] 【形】 汚くてみすぼらしい。
- すかま [sɪkama] 【名】 仕事。
- すがま [sɪgama] 【名】 洲鎌集落。
- すき [sɪki] 【動 2：すき、すくん】 供える。
- すキ [sɪkɪ] 【名】 鋤 (すき)。
- すキ [sɪkɪ] 【動 1：すき、すかん】 (鋤を入れて) 耕す。
- すキ [sɪkɪ] 【動 1：すき、すかん】 好く。主に「すかん」(好かない、好きでない)の形で用いられる。例文：うぬ ピとうーばー すかん(この人が好きじゃない)。
- すぎ [sɪgi] 【動 2：すぎ、すぐん】 過ぎる。
- すキー [sɪkɪɪ] 【名】 ナマコ。
- ずきな [dzɪkɪna] 【名】 逆様。例文：さかんかい ずきなー しー (逆様に)。
- すきもーき [sɪkimooki] 【動 2：すきもーき、すきもーくん】 (神様に) 供える。
- すきゃーす [sɪkjaasɪ] 【動 1：すきゃーし、すきゃーさん】 散らかす。
- すきゃーり [sɪkjaari] 【動 2：すきゃーり、すきゃーるん】 散らかる。
- すきゃき [sɪkjaki] 【動 2：すきゃき、すきゃくん】 しかける、始める、とりかかる。
- すぐ [sɪgu] 【副】 すぐ。
- ずぐーる [dzɪguuru] 【名】 独楽。
- すくつな [sɪkutsɪna] 【名】 粗末に扱うこと。
- すぐとう [sɪgutɔ] 【名】 仕事。
- すぐとうばぎ [sɪgutɔpagi] 【名】 無職。
- すぐまい [sɪgumaɪ] 【動 1：すぐまり、すぐまらん】 しぼむ。
- すぐり [sɪguri] 【動 2：すぐり、すぐるん】 優れる、優秀である。
- すぐりむぬ [sɪgurimunu] 【名】 優秀な人、よくできる人。
- すこーい [sɪkooɪ] 【動 1：すこーり、すこーらん】 (飯を) 準備する。
- すず [sɪdzɪ] 【名】 茎。
- すず [sɪdzɪ] 【名】 粒。
- すずがに [sɪdzɪgani] 【名】 番線。
- すずみ [sɪdzɪmi] 【動 2：すずみ、すずむん】 片付ける。
- すずん [sɪdzɪm] 【動 1：すずみ、すずまん】 沈む。
- すた [sɪta] 【名】 下。
- すだ [sɪda] 【名】 舌。
- すだーす [sɪdaasɪ] 【形】 涼しい。例文：すだーすかじがま (涼しい風)。
- すたーら [sɪtaara] 【名】 下、下の方。
- すたさ [sɪtasa] 【名】 舅 (しゅうと)。
- すたず [sɪtadzɪ] 【名】 酔の物。
- すただい [sɪtadaɪ] 【名】 耳朶。
- すたばー [sɪtabaa] 【名】 (サトウキビの) 下部の葉っぱ。
- すたん [sɪtam] 【動 1：すたみ、すたまん】 (液体を) 残りなく捨てる。
- すつみ [sɪtsɪmi] 【名】 弁え。
- すてい [sɪti] 【動 2：すてい、すとうん】 捨てる。
- すでい [sɪdi] 【動 2：すでい、すどうん】 ① 孵化する。② 脱皮する。
- すでいがら [sɪdigara] 【名】 抜け殻。

- すでいぐー [sɯdiguu] 【名】 抜け殻。
 すでいぐる [sɯdiguru] 【名】 抜け殻。
 すていざん [sɯtidzam] 【名】 放置、放棄。
 すでいんー [sɯdimm] 【名】 腐った、水っぽい、食べられない芋。
 すとうがつ [sɯtugatsɯ] 【名】 お盆（盂蘭盆）。
 すとうに [sɯtuni] 【動 2：すとうに、すとうぬん】 地面に叩き付ける。
 すとうま [sɯtuma] 【名】 姑（しゅうとめ）。
 すとうむてい [sɯtumuti] 【名】 朝。
 すとうり [sɯturi] 【動 2：すとうり、すとうるん】 水気がある、湿る。
 すな [sɯna] 【名】 仕草、品格、気立て。
 すなーかす [sɯnaakasɯ] 【動 1：すなーかし、すなーかさん】 黙る。
 すなーす [sɯnaasɯ] 【動 1：すなーし、すなーさん】 合わせる、揃える。
 すなかぎ [sɯnakagi] 【形】 行儀が良い、上品。
 すなす [sɯnasɯ] 【動 1：すなし、すなさん】 殺す。
 ずなん [dzɯnan] 【名】 次男。
 すなんずぎ [sɯnandzɯgi] 【形】 行儀が悪い、下品。
 すぬい [sɯnuɯ] 【名】 モズク。
 すのー [sɯnoo] 【動 1：すない、すなーん】（しっくり）合う。
 すば [sɯba] 【名】 唇。
 すび [sɯbɯ] 【動 1：すび、すばん】 鼻を取る、鼻をかむ。
 すびー [sɯbɯɯ] 【動 1：すびり、すびらん】 滑る。
 すびし [sɯpici] 【動 2：すびし、すびそうん】 耳遠い、耳が聞こえない。
 すびしや [sɯpiea] 【名】 耳が聞こえない人、耳が遠い人、つんぼ。
 すびす [sɯpisi] 【動 1：すびし、すびさん】 吸う。
 すぴに [sɯpɯni] 【形】（肉が）硬い、噛みにくい。（ネジ、蓋が）硬直している。
 すぷ [sɯpu] 【形】 湿っぽい、湿った。
 すぷい [sɯbuɯ] 【動 1：すぷり、すぷらん】 搾る（しぼる）。
 すぷぎ [sɯpugɯ] 【名】 帯、ベルト。
 すぷたい [sɯputaɯ] 【形】 ① 湿っぽい、濡れた。②（格好が）だらしない、不潔。
 すぷらす [sɯburasɯ] 【動 1：すぷらし、すぷらさん】 搾らせる。
 すぷん [sɯbum] 【動 1：すぷみ、すぷまん】 しぼむ。
 すま [sɯma] 【名】 ① 国。② 村、集落。③ 島。連濁形：ずま。
 すま [sɯma] 【名】 相撲。
 すまい [sɯmai] 【動 2：すまい、すまいゆん】 終わる、終了する。
 すまい [sɯmaɯ] 【動 1：すまり、すまらん】 縛る。
 すまとうりや [sɯmaturja] 【名】 相撲取り、力士。
 すまふつ [sɯmafutsɯ] 【名】 方言。
 ずまみ [dzɯmami] 【名】 落花生、ピーナツ。
 すまんな [sɯmammna] 【連語】 村中、村挙って。
 すみ [sɯmi] 【文 2：すみ、すむん】 ～させる。動詞に付き使役形を形成する。例文：いだすみ（出させる）。とうみすみ（探させる）。
 すみ [sɯmi] 【動 2：すみ、すむん】 させる。例文：ういんな うんてんぬばー すみんなよ（彼には運転をさせないでください）。
 ずみ [dzɯmi] 【形】 素晴らしい。最高。気持ちいい。
 すみゃー [sɯmjaa] 【名】（月の）末。

すん [sɯn] 【形】 浸みる。

すん [sɯn] 【動変型：すに、すなん、すにる】 死ぬ。連濁形：ずん。

すん [sɯm] 【名】 ① 墨。② 勉強、学問。

すん [sɯm] 【名】 炭。

すん [sɯm] 【動 1：すみ、すまん】 済む、終わる。

すんいっヴい [sɯnivvi] 【動 2：すんいっヴい、すんいっヴうん】 死ぬほど怖がる。

すんだーら [sɯmdaara] 【名】 炭俵。

すんな [sɯmna] 【名】 ねぎ。

すんびゅー [sɯmbjuu] 【動 1：すんびゅーい、すんびゅーん】 泥酔する、ひどく酔っ払う。

—そ—

そー [soo] 【名】 竿。

ぞー [dzoo] 【名】 門。

ぞー [dzoo] 【形】 良い。

そーか [sooka] 【名】 生姜（しょうが）

そーき [sooki] 【名】 （野菜や芋などを入れる）籠の一種。連濁形：ぞーき。

ぞーぎ [dzoogi] 【形】 外見がいい、綺麗。

そーきぶに [sookibuni] 【名】 肋骨。

そーず [soodzɯ] 【名】 掃除。

ぞーふつ [dzoofutsɯ] 【名】 （屋敷の）入口。

そーみん [soomin] 【名】 素麺。

そーみんぶっていらー [soominbuttiraa] 【名】 素麺チャンプル。

—た—

た [ta] 【文】 ～たい。動詞に付き、願望を表す。例文：ゆっぱイ° すったーぬ（おしっこしたい）。

たー [taa] 【文】 ～達。複数を表す。例文：っヴあたー（君達）。しんしーたー（先生達）。

たー [taa] 【文】 ～た。過去を表す。例文：きなー いんかいどう いきたー（昨日海に行った）。

たー [taa] 【名】 田、田んぼ。

たー [taa] 【名】 誰。主格・属格の助詞「～が」としか用いられない。例文：うりゃー たーが むぬ やりゃー？（これは誰のものなの？）。たーがが キったりゃー？（誰が来たの？）。

たーい [taaɯ] 【助数】 ～人、～名。人を数える助数詞。

たーら [taara] 【名】 俵。連濁形：だーら。

たーり [taari] 【動 2：たーり、たーるん】 熟睡する。

たーんな [taamna] 【名】 蝸牛の一種。

だい [dai] 【名】 値段。金額。例文：ぶーぎだい（サトウキビの金額）。

たい [taɯ] 【名】 松明（たいまつ）。

たい [taɯ] 【擬】 フニヤっと。

だいず [daidzɯ] 【形】 ① 重要、大事。② 大変。

- だいでい [daɪdaɪ] 【擬】 疲れる。
- たいつき [taitsɯki] 【動 2：たいつき、たいつくん】 叩きつける。
- だいばん [daiban] 【形】 大きい。
- たヴ [tav] 【動 1：たっヴい、たっヴあん】 手繰る。
- だヴ [dav] 【形】 多い。
- たヴきゃー [tavkjaa] 【名】 一人、独り。
- たヴきゃーむぬ [tavkjaamunu] 【名】 独身。
- たヴきゃっヴあ [tavkjavva] 【名】 一人っ子。
- たか [taka] 【名】 鷗（さしば）。連濁形：だか。
- たか [taka] 【形】 高い。連濁形：だか。
- たかさ つす [takasa ssɯ] 【連語 1：たかさっし、たかさっさん】（人を）大切に
する、可愛がる。
- たかじん [takadzin] 【名】 高善。お膳の一種。
- たかだい [takadai] 【形】（値段が）高い、高価。
- たかばた [takabata] 【名】 高機、機織機。
- たかび [takabi] 【動 2：たかび、たかぶん】 崇拜する。
- たから [takara] 【名】 宝。
- たかんな [takamna] 【名】 高瀬貝。
- たき [taki] 【名】 竹。
- たき [taki] 【名】 ① 丈、身長。② 身分、位。③ 所為（せい）。
- だき [daki] 【文】（名詞と複合語をなし）～のように。現在は生産的ではない。
例文：なだんき（涙のように）。
- だき [daki] 【文】（動詞に付き）～するほど。例文：ふあーいだき ふあい（食
べられるほど食べなさい）。
- たキ [takɯ] 【動 1：たき、たかん】 ① 焚く。② 炊く。
- だキ [dakɯ] 【動 1：だき、だかん】 抱く。
- たキがす [takɯgasɯ] 【名】 豚の油を溶かして保存用に固まらせて蓄えたもの。
- たきぶら [takibura] 【名】 竹の笛。
- たく [taku] 【名】 蛸（たこ）。
- たぐ [tagu] 【名】（液体を入れる）容器の一種。
- だす [dasɯ] 【形】 味がある。
- たすき [tasɯki] 【動 2：たすき、たすくん】 助ける、（神が）加護する。
- だずま [dadzɯma] 【名】 ①（服の）しわ。②（肌の）しわ。
- だだ [dada] 【擬】 落ちる様。
- たたキ [tatakɯ] 【動 1：たたき、たたかん】 叩く。
- だだだだ [dadadada] 【擬】（涙が）ポロポロ。
- たたつキ [tatatsɯkɯ] 【名】 来月。
- だだみかす [dadamikasɯ] 【動 1：だだみかし、だだみかさん】 落とす。
- たちよー [tateoo] 【名】 仏壇に（お茶を）供えること。
- たつ [tatsɯ] 【名】（家畜の）小屋。
- たつ [tatsɯ] 【名】 辰（たつ）。
- たつ [tatsɯ] 【動 1：たち、たたん】（刃が）鋭い、よく切れる。
- たつ [tatsɯ] 【動 1：たち、たたん】 立つ。
- たつがイ [tatsɯgaɪ] 【動 1：たつがり、たつがらん】（火が）熾る。
- たつぎ [tatsɯgi] 【動 2：たつぎ、たつぐん】（火を）熾す。

- たつビー [tatsɯbɯ] 【名】 座る姿勢と立つ姿勢の間の姿勢。
だっふあだっふあ [daffadaffa] 【擬】 上下に動く様。
たてい [tati] 【動 2：たてい、たとうん】 まぜる、かきまぜる。
たてい [tati] 【動 2：たてい、たとうん】 立てる。
だでいふ [dadifu] 【名】 木の種類。
たてやーす [tatjaasɯ] 【動 1：たてやーし、たてやーさん】 (液体を) 混ぜる。
たとうい [tatui] 【動 2：たとうい、たとういゆん】 例える、喩える。
たなイ [tanaɯ] 【形】 様になっている。上手。例文：たなっズあ にやーん (様になっていない。体裁悪い)。
たなにー [tananii] 【名】 洲鎌にある集落名。
たに [tani] 【名】 ① 種、種子。② 睾丸、金玉。連濁形：だに。
たにく [taniku] 【名】 塊。
たぬん [tanum] 【動 1：たぬみ、たぬまん】 頼む、依頼する。
たばイ [tabaɯ] 【動 1：たばり、たばらん】 くっ付く。
たばイ [tabaɯ] 【動 1：たばり、たばらん】 束ねる。
たぼくぶん [tabakubun] 【名】 煙管を吸うためのタバコキット。
たビ [tabɯ] 【名】 ① 旅、旅行。② 島を出ること。
たぷギ [tapugɯ] 【動 1：たぷぎ、たぷがん】 たたむ。
たま [tama] 【名】 分。連濁形：だま。
たま [tama] 【名】 ① 玉。② 弾丸。
だまがいイ [damagaiɯ] 【動 1：だまがいり、だまがいらん】 困る。
だまがいらす [damagairasɯ] 【動 1：だまがいらし、だまがいらん】 困らせる。
たます [tamasɯ] 【名】 魂。
たまつき [tamatsɯkɯ] 【動 1：たまつき、たまつかん】 癲癇 (てんかん) する。
たまつきや [tamatsɯkja] 【名】 癲癇者 (てんかんしゃ)。
たまな [tamana] 【名】 キャベツ。
たまん [taman] 【名】 魚の種類 (ふえふき)。
たみ [tami] 【名】 矯め。健康、土地、家などを祈る行事。連濁形：だみ。
たみ [tami] 【名】 (～の) ため。
たみ [tami] 【動 2：たみ、たむん】 ① 落ち着く。② (耳を) 澄ます、構える。
連濁形：だみ。
だみ [dami] 【形】 だめ。
たみーたみ [tamiitami] 【副】 慎重に。
たむぬ [tamunu] 【名】 薪。連濁形：だむぬ。
たや [taja] 【名】 力。
たやばーき [tajabaaki] 【連語】 力一杯。
たやむぬ [tajamunu] 【名】 力持ち。
だら [dara] 【文】 ① ～のだ、主張を強調する。例文：うりやー ンまむぬだら (これは美味しい) ② (質問の場合は) ～でしょう。例文：うりやー ンまむぬだら (これは美味しいでしょう)。
たらイ [taraɯ] 【名】 盥。
だらか [daraka] 【名】 嘘。
たらき [taraki] 【名】 世代、年齢が近い人。
だらす [darasɯ] 【動 1：だらし、だらさん】 がっかりさせる。
だらっさ [darassa] 【終】 ～でしょう。例文：あざがどう すうざっすうだらっさ

(おにいさんの方が年上でしょう)。

だらふ [darafu] 【名】嘘。

たらま [tarama] 【名】多良間、多良間島。

たらまづま [taramadzɪma] 【名】多良間島。

たり [tari] 【動2：たり、たるん】酒を造る、酒造する。

たり [tari] 【動2：たり、たるん】垂れる。

だり [dari] 【動2：だり、だるん】疲れる。

だり [dari] 【動2：だり、だるん】がっかりする。

だりかヴ [darikav] 【動1：だりかっヴい、だりかっヴあん】疲れはてる、困憊する。

だるかげった [darukagetta] 【名】怠け者。

たろー [taroo] 【動1：たらい、たらーん】足りる、十分である。

だんかー [dankaa] 【名】相談。

だんぎだんぎ [danɡɪdanɡɪ] 【擬】凸凹である様。

だんくらビー [danʔkurabɪ] 【名】お尻をべったと地面につけた座り方。

たんでい [tandi] 【名】詫び、謝罪。

たんでいがーたんでい [tandigaatandi] 【副】ありがとう。

たんでい つす [tandi ssɪ] 【連語】謝る。謝罪する。

ーちー

ちー [teii] 【感】さあ。相手を促すときに用いる。

ちーがー [teiiɡaa] 【名】聾啞者（ろうあしゃ）。

ちきなー [teikinaa] 【名】野菜の漬物。

ちくちく [teikutsiku] 【感】犬を呼ぶときに用いる。

ちごー [teigoo] 【動1：ちがい、ちがーん】違う。

ちび [teibi] 【名】① 後ろ。② びり、最後。③ 尻。

ちびたい [teibitaɪ] 【名】尻。

ちびるん [teibirum] 【名】肛門。

ちびるんぎやふ [teibirundzajafu] 【名】下手くそな大工。

ちびるんどうす [teibirumdusɪ] 【名】とても親しい友達。

ちゃー [teaa] 【名】お茶。

ちゃー [teaa] 【副】しょっちゅう、ずっと。

ちゃーか [teaaka] 【文】～だけ、～のみ、～しか。例文：ういちゃーかがみやー
どうーしー すうーでい（これだけは自分でやる）。

ちゃーす [teaasɪ] 【動1：ちゃーし、ちゃーさん】① 合わせる、くっ付ける。②
交尾させる。

ちゃーん [teaan] 【文】～だけ、～のみ、～しか。例文：あざたがちゃーんどう
かつ（先輩たちしか勝たない）。

ちゃじゃみ [teadzami] 【動2：ちゃじゃみ、ちゃじゃむん】つかまえる。

ちゃなぎ [teanagi] 【動2：ちゃなぎ、ちゃなぐん】作業を一時的にとめる、仕事を途中で手放す。

ちゃばん [teaban] 【名】茶碗、湯のみ。

ちゃんき [teanʔkɪ] 【動1：ちゃんき、ちゃんかん】① 刺す、突き刺す。② 挿入する。

ちゅーか [teuuka] 【名】 急須。
 ちよーき [teooki] 【名】 (お茶の) つまみ。
 ちよーく [teooku] 【副】 よく、しっかりと。
 ちよーちんがー [teooteingaa] 【名】 袋の一種。麻袋。
 ちよーみん [teoomin] 【名】 帳面。
 ちりどーすなび [teiridoosɲabi] 【名】 鍋の一種。

—つ—

つ [tsɯ] 【助数】 ～つ。～個。～才。例文：つヴぁー いふつが やりゃー？ (君はいくつですか？)。
 つーキ [tsɯkɯ] 【名】 血炒め、豚の血で出来た料理。
 つーギ [tsɯgɯ] 【名】 (サトウキビなどの、小さくて柔らかい) 棘。
 つーばす [tsɯbasɯ] 【動 1：つーばし、つーばさん】 交尾させる。
 つービ [tsɯbɯ] 【動 1：つーび、つーばん】 交尾する。
 つうー [tsuu] 【形】 強い。連濁形：ずうー。
 つうーイ [tsuuɯ] 【動 1：つうーり、つうーらん】 強まる、強くなる。
 つうーばー [tsuubaa] 【名】 強い人。
 つヴぁ [vva] 【名】 あなた、君、お前。
 つヴぁた [vvata] 【名】 あなたたち、君たち。
 つうっふ [tsuffu] 【動 1：つうっふい、つうっふあん】 作る。
 つうっふイ [tsuffuɯ] 【名】 形、格好。
 つか [tsɯka] 【形】 近い。
 っかー [kkaa] 【文】 ～たら。条件を表す。例文：きまイ° っかー っさしよ (決まったら知らせてね)。
 つかさ [tsɯkasa] 【名】 司、司祭者。
 つかのー [tsɯkanoo] 【動 1：つかない、つかなーん】 飼う、(家畜を) 養う。
 つかふ [tsɯkafu] 【名】 近く。
 つき [tsɯki] 【動 2：つき、つくん】 付ける。
 つキ [tsɯkɯ] 【名】 ① (天体の) 月。② (暦の) 月、一ヶ月。連濁形：ずキ。
 つキ [tsɯkɯ] 【動 1：つき、つかん】 付く。
 つキ [tsɯkɯ] 【動 1：つき、つかん】 着く、到着する。
 つキ [tsɯkɯ] 【動 1：つき、つかん】 搗く。
 つぎ [tsɯgi] 【名】 次。
 つギ [tsɯgɯ] 【動 1：つぎ、つがん】 継ぐ。
 つギ [tsɯgɯ] 【副】 劣っている、より悪い。
 つきがなす [tsɯkɯganasɯ] 【名】 お月様。月の敬称。
 つきしゅー [tsɯkieuu] 【名】 月。
 つぎなイ [tsɯgɯnaɯ] 【動 1：つぎなり、つぎならん】 悪くなる。
 つきにゅー [tsɯkinijuu] 【名】 月夜。月が見える夜。
 つきビー [tsɯkibɯ] 【名】 ニンニクの漬物。
 つきむぬ [tsɯkimunu] 【名】 漬物。
 つぎゃ [tsɯgja] 【名】 サシバを捕獲するための小屋。
 つきゃーす [tsɯkjaasɯ] 【動 1：つきゃーし、つきゃーさん】 衝突する、ぶつかる。
 つくき [tsɯkuki] 【動 2：つくき、つくくん】 重ねる。

- つぐす [tsɯgusɯ] 【名】膝。
- つこー [tsɯkoo] 【動 1：つかい、つかーん】① 使う、使用する。② 雇う、雇用する。
- つさい [ssai] 【動 2：つさい、つさいゆん】申し上げる、「言う」の謙讓語。
- つさい [ssaɯ] 【名】白蟻。
- つさす [ssasɯ] 【動 1：つさし、つささん】知らせる。
- つさピキ [ssapɯkɯ] 【動 1：つさピキ、つさピかん】引きずる、引っ張る。
- つさり [ssari] 【名】発情。
- つさりむぬ [ssarimunu] 【名】スケベ、変態。
- つさん [ssam] 【名】虱。
- つジ [zɯzi] 【動 2：つジ、つズうん】① 入れる。② 注ぐ。
- つジ [zɯzi] 【動 2：つジ、つズうん】貰う。
- つジがら [zzigara] 【名】入れ髪、添え髪。
- つジむぬ [zzimunu] 【名】入れ物。容器。
- つしゃーす [ɕɕaasɯ] 【動 1：つしゃーし、つしゃーさん】擦る。
- つしゃな [ɕɕana] 【形】汚い。
- つす [tsɯsɯ] 【名】釣り。
- つす [tsɯsɯ] 【名】① 乳。② ミルク、母乳。連濁形：ずー。
- つす [tsɯsɯ] 【動 1：つし、つさん】釣る。
- つす [ssɯ] 【名】巢。
- つす [ssɯ] 【動 1：つし、つさん】知る。
- つす [ssɯ] 【動 1：つし、つさん】擦る。
- つす [ssɯ] 【動変型：しー、そーん】する。
- つず [tsɯdzɯ] 【名】頂上、てっぺん。
- つズあ [zza] 【名】父。
- つズあい [zzaɯ] 【名】胞衣（えな）。
- つズあく [zzaku] 【名】權（かい）。
- つズあす [zzasɯ] 【動 1：つズあし、つズあさん】貸す。
- つズあら [zzara] 【名】鎌（かま）。
- つすう [tsɯsu] 【文】～なんか。強調を表す助詞。例文：つヴあつすうまい（君であろうものが）。
- つすう [ssu] 【形】白い。
- つズう [zɯzɯ] 【名】魚。
- つズうー くい [zzuu kui] 【連語】ゲップする。
- つすうつく [ssutsɯku] 【名】白身。
- つズうぬみー [zzunumii] 【名】皮膚の傷の一種、いぼ。
- つすうん [ssum] 【動 1：つそうみ、つそうまん】白む、白くなる。
- つズおー [zzoo] 【動 1：つズあい、つズあーん】借りる。
- つずキ [tsɯdzɯkɯ] 【動 1：つずき、つずかん】続く。
- つずばぎ [tsɯdzɯpagi] 【名】（頭の上部の）髪の毛が禿げた。
- つすふつ [tsɯsɯfutsɯ] 【名】乳首。
- つすふつつ [ssɯfuttsɯ] 【動 1：つすふつつち、つすふつつあん】こする、擦る。
- つすまキ [ssɯmakɯ] 【動 1：つすまき、つすまかん】鞭打つ、ピシャリと打つ。
- つそーキ [ssookɯ] 【形】広い、ひろっとした。
- つちゃ [ttea] 【文】形容詞の語幹に付き、副詞を作る。例文：ぶがりつちゃどう

うー? (疲れているの?)。

つつあ [ttsa] 【文】～だそうだ。伝聞の助詞。例文：んざがら一んどう しゅーとう んまが うーたーつつあ (どこかにおじいさんとおばあさんが住んでいたそうだ)。

つつかに [tsɯkkani] 【名】釣り針。

つつふや [tsɯffja] 【名】ボラの子。

つつン [tsɯtsɯm] 【動1：つつみ、つつまん】包む。

つつんキ [tsɯtsɯŋkɯ] 【動1：つつんき、つつんかん】あちこちにぶつかる。

つてい [tti] 【文】～て (から)。～し終わって。継起接辞。例文：ふあいっていからどう やーんかい ぴーたー (食べ終わってから家に帰った)。

つとう [tsɯtu] 【名】お土産。贈り物。プレゼント。

つとうイ [tsɯtuɯ] 【名】理由。わけ。根拠。

つな [tsɯna] 【名】綱。連濁形：ずな。

つなすぶギ [tsɯnasɯpugɯ] 【名】綱のベルト。

つぬ [tsɯnu] 【名】角。

つぬがん [tsɯnugan] 【名】ワタリガニ。

つぶ [ffu] 【名】櫛。

つぶ [ffu] 【形】黒い。

つぶ [ffu] 【動1：つぶい、つぶあん】① 噛みつく。食いつく。口に銜える。② (虫が) 刺す。例文：がざんどう つぶあり にやーん (蚊に刺されてしまった)

③ 挟む。

つぶ [ffu] 【動1：つぶい、つぶあん】閉める。例文：やどうー つぶい ふーじやーん? (ドアを閉めてくれない?)。

つぶ [tsɯbu] 【名】要領、要点。

つぶあ [ffa] 【名】子供。連濁形：つヴあ。

つぶあ [ffa] 【形】暗い。

つぶあい [ffai] 【名】堆肥。連濁形：つヴあい。

つぶあがイ [ffagaɯ] 【動1：つぶあがり、つぶあがらん】塞がる。

つぶあギ [ffagɯ] 【動1：つぶあぎ、つぶあがん】塞ぐ (嚴重に) 閉じる。

つぶあす [ffasɯ] 【動1：つぶあし、つぶあさん】銜えさせる。

つぶあつ [ffatsɯ] 【名】鍬。

つぶあなす [ffanasɯ] 【名】出産。お産。

つぶあよーン [ffajoom] 【名】暗闇。

つぶあんまが [ffammaga] 【名】子供と孫。子孫。

つぶい [ffi] 【名】烏賊や蛸の墨。

つぶいたイツキ [ffitaɯtsɯkɯ] 【名】先月。

つぶい ふあーってい すつきや [ffi faatti sɯkkja] 【連語】「噛んで食おうとするほど」。ひどく叱ることのたとえ。

つぶがー [ffugaa] 【名】黒肌。畑仕事で太陽にさらされてなど黒くなっている肌。

つぶざた [ffudzata] 【名】黒砂糖、黒糖。

つぶすんだーら [ffusɯmdaara] 【名】顔などがまっ黒になること。

つぶつくン [ffutsɯkum] 【名】痣 (あざ)。

つぶていんく [ffutiŋku] 【名】煤。

つぶみキ [ffumikɯ] 【動1：つぶみき、つぶみかん】黒ずむ、黒ばむ。

つぶやま [ffjama] 【名】来間。来間島。

つふやまずま [ffjamadzɿma] 【名】 来間島。
 つふン [tsɿfum] 【動 1：つふみ、つふまん】 痺（しび）れる。
 つふン [ffum] 【動 1：つふみ、つふまん】 黒くなる、黒ばむ。
 つまイ [tsɿmaɿ] 【動 1：つまり、つまらん】 詰まる。
 つみ [tsɿmi] 【名】 爪。
 つみゃー [tsɿmjaa] 【名】 所為。
 つるどーすなび [tsɿrudoosɿnabi] 【名】 鍋の一種。
 つン [tsɿm] 【動 1：つみ、つまん】 積む。
 つんキす [tsɿŋkɿsɿ] 【動 1：つんきし、つんきさん】 ① 抓る（つねる）。②（むしって）取る。
 つんだらーす [tsɿndaraasɿ] 【形】 可哀そう、哀れ。
 つんふぐ [tsɿnfugu] 【名】 高千穂の集落名。

—て—

てい [ti] 【助数】 ～年。年数を数える助数詞。例文：ふたてい（二年）。
 でい [di] 【文】 ～つもりだ。意志を表す。例文：いかでい（行くよ）。
 ていー [tii] 【文】 ～と（引用）。例文：ばが なーゆばー ゆぬすていーどう あ
 イ（私の名前はユヌスと言います）。
 ていー [tii] 【名】 手。連濁形：でいー。
 ていーざ [tiidza] 【感】 人から聞いたことを第三者に伝えるときに用いる。
 ていーつン [tiitsɿm] 【名】 拳。
 ていイ [tiɿ] 【動 1：ていり、ていらん】 照る。
 ていヴ [tiv] 【動 1：ていっヴい、ていっヴあん】 投げる。
 ていがーら [tigaara] 【名】 塊。
 ていかていか [tikatika] 【擬】 落ち着きがない。
 ていがら [tigara] 【名】 自慢。
 でいき [diki] 【動 2：でいき、でいくん】（作物が）できる。
 でいきぶつ [dikibutsɿ] 【名】 優秀な人。
 ていさず [tisadzɿ] 【名】 タオル。
 ていだ [tida] 【名】 太陽。
 ていだい [tidai] 【動 2：ていだい、ていだいゆん】（飯などを）おごる。
 ていっふイ [tiffuɿ] 【名】 釣り糸。
 ていびー [tibii] 【名】 指笛。
 ていびゃー [tibjaa] 【形】 手が早い。
 ていまー [timaa] 【名】 給料。連濁形：でいまー。
 ていらざ [tiradza] 【名】 巻貝。
 ていん [tin] 【名】 空。連濁形：でいん。
 ていんく [tiŋku] 【名】 点。
 ていんぞー [tindzoo] 【名】 天井。
 ていんばヴ [timbav] 【名】 虹。
 ていんビー [tinbɿɿ] 【名】 女性の自慰行為。
 ていんまら [tinmara] 【名】 男性の自慰行為。
 てゃーす [tjaasɿ] 【形】 簡単、容易。

—と—

とー [too]【名】誰。どなた。例文：うりゅーばー とーからが キキたりゃー？
（それを誰から聞いたの？）。とーが やらまい。がらやー？（どなたでいらっ
しゃいますでしょうか？）。連濁形：どー。

とー [too]【感】終わり。例文：ばが ばなっさ とー（私の話は終り）。

どー [doo]【終】～よ。

どーヴ [doov]【名】① 道具。ツール。② 性器。

とーす [toosɿ]【動 1：とーし、とーさん】倒す。

とーた [toota]【名】誰ら。

とーっヴあ [toovva]【名】台所。

とーどー [toodoo]【名】誰それ。例文：とーどーぬ あんごー あびり くー（誰
それのおねえさんと呼んでこい）。

とーとー あらんにゃ [tootoo arannja]【連語】もういいんだ、分かった。

とーふ [toofu]【名】豆腐。連濁形：どーふ。

とーふがなまりゃ [toofuganamarja]【名】中々反応しない人。

とーり [toori]【動 2：とーり、とーるん】倒れる。

どーり [doori]【文】～ようだ。

どーり [doori]【名】道理。

とう [tu]【文】～と（一緒に）。例文：ばんとう まーつき（私と一緒に）。

どう [du]【文】～ぞ。焦点助詞。例文：ゆぬっさ あらん、かまどうがどう つ
くいゆばー やっヴあすたーどー（ユヌスではなくて、カマドが机を壊したよ）。

とうー [tuu]【数】十。

どうー [duu]【名】自分。自身。

どうー [duu]【名】体。

とうーイ [tuuɿ]【動 1：とうーり、とうーらん】通る。

どうーかってい [duukatti]【名】自分勝手。

とうーき [tuuki]【動 2：とうーき、とうーくん】貫く、貫通する。

とうーし [tuuci]【副】しょっちゅう。

とうーず [tuudzɿ]【名】（手や顔を）洗うこと。

とうーずがに [tuudzɿgani]【名】洗面器。

どうーた [duuta]【名】（聞き手を含んだ）私たち。一人称包括複数形。例文：ど
うーたが ふたーい。しー すー（自分たち二人でやろう）。

とうーつき [tuutsɿki]【動 2：とうーつき、とうーつくん】言い聞かせる、指示す
る、命令する。

とうーぬピとう [tuunupɿtu]【名】十人。十名。

とうーふかす [tuufukasɿ]【動 1：とうーふかし、とうーふかさん】貫ける。突き
通す。

とうーふき [tuufuki]【動 2：とうーふき、とうーふくん】貫く。突き通る。

どうーぶに [duubuni]【名】体の骨。

どうーむー [duumu]【名】① 思い込み。② 片思い。

どうーりゃ [duurja]【接尾】ある時間帯に対して不適切、予想外である。例文：
ゆなかどうーりゃ ぶーぎぬ ばーゆ かキ ピとうまいどうーいー（こんな夜
中に砂糖黍の葉っぱを取る人もいるのかね）。

どうーんーぎ [duunngi]【形】自分らしい。

- とうい [tui] 【名】 干支。連濁形：どうい。
 とうイ [tuɪ] 【名】 ① 鳥。② 鶏。連濁形：どうイ。
 とうイ [tuɪ] 【名】 酉（とり）。連濁形：どうイ。
 とうイ [tuɪ] 【動 1：とうり、とうらん】 取る、捕る、獲る、撮る。
 とうイミー [tuɪmii] 【名】 夕方になると目が見えないこと。
 とうか [tuka] 【文】 ～とか。
 とうがー [dugaa] 【形】 恥ずかしい。
 とうかす [tukasɪ] 【動 1：とうかし、とうかさん】 溶かす。
 とうかな [tukana] 【名】 所、場所。連濁形：どうかな。
 とうき [tuki] 【動 2：とうき、とうくん】 溶ける。
 とうキ [tukɪ] 【名】 時。
 とうキ [tukɪ] 【名】 占い師。
 とうギ [tugɪ] 【動 1：とうぎ、とうがん】 研ぐ。
 とうきや [tukja] 【名】 時。連濁形：どうきや。
 どうきや [dukja] 【名】 肌が非常に白く変化している病気。
 とうぎや [tugja] 【名】 棘、尖がっているもの。
 とうぎや [tugja] 【形】 尖っている。
 とうぎやうっすう [tugjaussu] 【名】 後頭部が尖っている人。
 とうぎやふつ [tugjafutsɪ] 【名】 (ニッパーみたいに) 尖がっている道具。
 とうくる [tukuru] 【名】 屋敷内にある、屋敷の神様を祭る所。
 とうくる [tukuru] 【名】 所。連濁形：どうくる。
 とうす [tusɪ] 【名】 ① 年。② 年齢。連濁形：どうす。
 どうす [dusɪ] 【名】 友達、友人。
 とうず [tudzɪ] 【名】 妻。
 とうすぬかず [tusɪnukadzɪ] 【副】 年々。
 とうすびや [tusɪpja] 【名】 宮古島の葡萄。
 とうずみ [tudzɪmi] 【名】 終了、終わり。
 とうずみ [tudzɪmi] 【動 2：とうずみ、とうずむん】 終わる、終了する。
 どうっふあどうっふあ [duffaduffa] 【擬】 重い足で歩く音。
 とうとうヴ [tutuv] 【動 1：とうとうっヴい、とうとうっヴあん】 (激しく) 揺れる。
 とうどうキ [tudukɪ] 【動 1：とうどうき、とうどうかん】 届く。
 とうとうみ [tutumi] 【文】 まで (特定の慣用句に限る)。例文：ばたとうとうみ (端まで)。
 とうとうみキ [tutumikɪ] 【動 1：とうとうみき、とうとうみかん】 胸がドキドキする様。
 とうなイ [tunaɪ] 【名】 隣。連濁形：どうなイ。
 とうなか [tunaka] 【名】 卵。
 とうなら [tunara] 【名】 草の一種、秋の野芥子。
 とうぬがす [tunugasɪ] 【動 1：とうぬがし、とうぬがさん】 急がせる。
 とうぬギ [tunugɪ] 【動 1：とうぬぎ、とうぬがん】 急ぐ。
 とうぬばイ [tunubaɪ] 【動 1：とうぬばり、とうぬばらん】 ぼうっとする、ぼんやりする。
 とうぬばりや [tunubarja] 【名】 ぼうっとする人。
 とうばキ [tubakɪ] 【名】 (唾液を) 吐くこと。

- とうばす [tubasɿ]【動 1: とうばし、とうばさん】① 走る。② 飛ばせる。③ (車などを) 飛ばす、早く走らせる。
- とうび [tubɿ]【動 1: とうび、とうばん】① 飛ぶ。② 汗が大量に出る。
- とうびょー [tubjoo]【動 1: とうびゃい、とうびゃーん】出会う、すれ違う。
- どうふき [dufuki]【名】梯梧 (でいご)。
- とうまい [tumaɿ]【動 1: とうまり、とうまらん】止まる。
- どうまっヴい [dumavvi]【動 2: どうまっヴい、どうまっヴうん】戸惑う、混乱する。
- とうまらす [tumarasɿ]【動 1: とうまらし、とうまらさん】止まらせる。
- とうみ [tumi]【動 2: とうみ、とうむん】止める。
- とうみ [tumi]【動 2: とうみ、とうむん】探す、見つける。
- どうみ [dumi]【動 2: どうみ、どうむん】① ぶつける。② 殴る。
- とうみあだてい [tumiadati]【副】あちこち回って探す。
- とうむい [tumuɿ]【名】友利集落。
- とうゆます [tujumasɿ]【動 1: とうゆまし、とうゆまさん】響かせる、轟かす (とどろかす)、でかす。
- とうゆん [tujum]【動 1: とうゆみ、とうゆまん】名の知れた、有名。
- とうら [tura]【名】寅 (とら)。
- とうらす [turasɿ]【動 1: とうらし、とうらさん】① やる、渡す、与える。② 取らせる、取ってもらう。「とうい」(取る)の使役形。③ 動詞の中止形に続き、第三者の受益を表す。
- とうらぬば [turanupa]【名】東方。
- とうり [turi]【動 2: とうり、とうるん】静まる、凪ぐ。
- とうりピグイ [turipɿguɿ]【名】冬の時期に風がなくて冷たいこと。
- どうる [duru]【名】泥。
- どうるだり [durudari]【連語】泥だらけ、泥まみれ。例文: うぬ しゅーや いっまい どうるだりどう まーりゅー(このおじいさんはいつも泥だらけでまわっている)
- とうるん [turum]【動 1: とうるみ、とうるまん】止まる。
- どうん [dum]【文】～さえ。
- どうんが [dungga]【文】～さえ。
- とうんがら [tuŋgara]【名】(女性の)同級生。
- とうんじ [tundzi]【名】冬至。
- どうんま [dumma]【文】～さえ。
- とうんまーい [tummaaɿ]【動 1: とうんまーり、とうんまーらん】① 引き返す。② 振り向く。

—な—

- な [na]【文】～するな。禁止を表す。例文: たかかいば うりゅーばー こーな (高いので、それを買うな)。
- な [na]【文】～か。諾否疑問文の終助詞。例文: あんしーな? (そうなの?)。
- なー [naa]【文】～つつ。
- なー [naa]【文】節内の句に付き、節が表しているイベントが、一度ではなく、何度も起こることや、ある期間にとって特徴的であることを示す。

- な一 [naa] 【名】 名前、名称。
- な一 [naa] 【名】 自分。主に三人称に用いられる。
- な一 [naa] 【名】 菜 (な)。
- な一 [naa] 【名】 (物と物を繋ぐための) 紐、縄。
- な一た [naata] 【名】 自分ら。主に三人称に用いられる。
- な一ふいーよーい [naafijooɪ] 【名】 新生児に名前をつける祝い。
- な一ます [naamasɪ] 【名】 縄を張っての境界、仕切り。
- ない [nai] 【名】 地震。
- ない [nai] 【動 2: ない、ないゆん】 萎える。
- ない [naɪ] 【名】 果実。
- ない [naɪ] 【動 1: なり、ならん】 鳴る。
- ない [naɪ] 【動 1: なり、ならん】 ① 成る。例文: しんしーんどう なりゆー (先生になっている)。② できる。可能である。例文: ばぬんな ならん (私にはできない)。③ (時間が) 経つ、経過する。例文: ピとうつき ならんきや (一ヶ月経たないうちに)。
- ないい [naiɪ] 【動 1: ないり、ないらん】 捻挫する。
- ないぎ [naɪgɪ] 【動 1: ないぎ、ないがん】 びっこを引く。
- ないぎむぬ [naɪgɪmunu] 【名】 ぶっこを引く人。
- ないだ [naɪda] 【名】 肉垂れ。
- ない° だま [naɪdama] 【名】 凧のうなり。紙の凧につけるもので、風を受けると音が鳴るもの。
- ないらす [nairasɪ] 【動 1: ないらし、ないらさん】 捻挫する。
- なか [naka] 【名】 中。
- なが [naga] 【形】 長い。
- なかーい [nakaai] 【動 1: なかーり、なかーらん】 分配する、配る。
- ながうっすう [nagaussu] 【名】 後頭部が尖った。
- なかす [nakasɪ] 【動 1: なかし、なかさん】 泣かせる。
- ながす [nagasɪ] 【動 1: ながし、ながさん】 流す。
- なかずヴ [nakadzɪv] 【名】 芯。
- なかち [nakatei] 【名】 陰核、クリトリス。
- ながつあ [nagatsa] 【名】 翌日、次の日。
- なかゆくー [nakajukuu] 【名】 休憩、一休み。
- なから [nakara] 【形】 半分。
- ながり [nagari] 【動 2: ながり、ながるん】 流れる。
- ながりーぬかー [nagariinukaa] 【名】 川、河川。
- ながんぬつむぬ [nagannutsɪmunu] 【名】 その噂をすればちよūd現れる人。
- なき [nakɪ] 【動 1: なき、なかん】 ① 泣く。② 鳴く。
- なぎ [nagi] 【文】 ~辺り。
- なぎ [nagi] 【名】 長さ。
- なぎ [nagi] 【動 2: なぎ、なぐん】 投げる。
- なぎ [nagɪ] 【動 1: なぎ、ながん】 ① 薙 (な) ぐ、横に払って切る。② (サトウキビなどを) 収穫する。
- なぎな [nagina] 【文】 ~ごと、~のまま。例文: かーなぎな ふあい (皮ごとに食べなさい)。
- なぎゃーふ [nagjaafu] 【副】 長い間、長く。

- なす [nasɿ] 【動 1：なし、なさん】 ① 産む。② 成す。
- なすあんな [nasɿanna] 【名】 実母、産みの母。
- なずうー [nadzuu] 【形】 頑丈。
- なすうや [nasɿuja] 【名】 実父。
- なすきしゃ [nasɿkica] 【名】 末っ子。
- なすっふあ [nasɿffa] 【名】 実子。
- なすんま [nasɿmma] 【名】 実母、産みの母。
- なだ [nada] 【名】 涙。
- なだんだき [nadandaki] 【副】 涙並み、ごく少量に。
- なつ [natsɿ] 【名】 夏。
- なつき [natsɿki] 【名】 ついで。
- なてい [nati] 【接尾】 ~になって。時の表現に付き、「～前」を表す。ただし、提示されている数字から一を引く。例えば「四カ年になって」は「三年前」のことを指す。例文：ミーていなてい（一昨年）。ゆーていなてい（三年前）。ゆーかなてい（三日前）。
- なでい [nadi] 【動 2：なでい、などうん】 撫でる。
- なな [nana] 【数】 七。
- ななつ [nanatsɿ] 【名】 七つ。
- ななぬピとう [nananupɿtu] 【名】 七人、七名。
- なば [naba] 【名】 垢。
- なばだり [nabadari] 【連語】 垢まみれ。例文：うぬ つふあー いつーまい なばだりどう まーりゆー（この子はいつも垢まみれにまわっている）
- なび [nabi] 【名】 鍋。
- なび [nabɿ] 【形】 滑りやすい。
- なびがーな [nabigaana] 【名】 蟬の一種、クマゼミ。
- なびぱんびん [nabipambin] 【名】（宮古島の）クレープの一種。
- なびゃーら [nabjaara] 【名】 ヘチマ。
- なふさ [nafusa] 【名】 砂利、石粉。
- なふさんつ [nafusamtsɿ] 【名】 砂利道。
- なま [nama] 【接頭】 形容詞に付き、程度の低いことを表す。動詞に付き、動作の不完全なることを表す。例文：なまゆーぬがま（ちょこっと重い）。なまピぐる（中途半端に冷たい）。なまにー（十分に煮ていない煮方）。
- なま [nama] 【名】 生（なま）。
- なまじゃーか [namadzaaka] 【名】 夜明け前、未明、「しゃーか」より早い時間帯を指す。
- なます [namasɿ] 【名】 刺身。
- なまだん [namadan] 【形】 怠け、怠慢。
- なまだんむぬ [namadanmunu] 【名】 怠け者。
- なら [nara] 【名】 自分。主に三人称に用いられる。
- ならーす [naraasɿ] 【動 1：ならーし、ならーさん】 教える。
- ならーすっふあ [naraasɿffa] 【名】 教え子、弟子。
- ならす [narasɿ] 【動 1：ならし、ならさん】 鳴らす。
- ならび [narabɿ] 【動 1：ならび、ならばん】 並ぶ。
- なり [nari] 【動 2：なり、なるん】 慣れる、経験がある。
- なるー [naroo] 【動 1：ならい、ならーん】 習う、勉強する。

なン [nam] 【名】 波。
 なン [nam] 【動 1：なみ、なまん】 舐める。
 なんギ [naŋgɪ] 【名】 苦勞。
 なんくる [naŋkuru] 【副】 所詮。
 なんこー [naŋkoo] 【名】 かぼちゃ。
 なんずう [nandzu] 【副】 (否定文において) あまり。
 なンつき [namtsɪkɪ] 【名】 焦げ、焦げ付くこと。
 なンます [nammasɪ] 【動 1：なンまし、なンまさん】 舐めさせる。
 なンミ [nammɪ] 【動 1：なンみ、なンまん】 舐める。

—に—

にー [nii] 【名】 子 (ね)。
 にー [nii] 【名】 荷。
 にー [nii] 【名】 ① 根、根っこ。
 にー [nii] 【動 2：にー、にゅーん】 煮る、料理する。
 にーか [niika] 【副】 遅い時間に、遅く。
 にーとうとうみ [niitutumi] 【連語】 根っこまで、根一杯。
 にーにヴ [niiniv] 【名】 居眠り。
 にーばイ [niibaɪ] 【名】 (張っている) 根っこ。
 にヴ [niv] 【形】 遅い。
 にヴ [niv] 【動 1：にっヴい、にっヴあん】 寝る。
 にヴさり [nivsari] 【動 2：にヴさり、にヴさるん】 (食べ物) が腐る。
 にヴた [nivta] 【形】 眠たい。
 にヴだる [nivdaru] 【名】 寝てばかりいる人。
 にヴゆっばイ [nivjuppaɪ] 【名】 寝小便。
 にがーす [nigaasɪ] 【動 1：にがーし、にがーさん】 祈祷させる、祈願させる。
 にごー [nigoo] 【名】 妾、愛人。
 にごー [nigoo] 【名】 シャコガイ。
 にごー [nigoo] 【動 1：にがい、にがーん】 祈る、祈願する。
 にじ [nidzi] 【動 2：にじ、にぞうん】 我慢する、堪える。
 にす [nisɪ] 【名】 北。
 にすやー [nisɪjaa] 【名】 北隣の家。
 につ [nitsɪ] 【名】 (病気による) 熱。
 にっヴあす [nivvasɪ] 【動 1：にっヴあし、にっヴあさん】 寝かせる。
 にぬば [ninupa] 【名】 北方。
 にぬばぶす [ninupabusɪ] 【名】 北極星。
 にばんがーな [nibangaana] 【名】 蟬の一種。
 にびし [nibiei] 【名】 岩盤。
 にぶた [nibuta] 【名】 できもの。
 にぶり [niburi] 【名】 夢遊病。
 にやーイ [njaaɪ] 【動 1：にやーり、にやーらん】 (手を) 差し出す、差し伸べる。
 にやーび [njaabi] 【名】 真似。
 にやーん [njaan] 【動変型：にやーだな、にやーん】 (動詞の中止形に付き) ～してしまった。例文：こーうんきぬどう ぬすうまり にやーんゆー (耕運機が盗

まれてしまったよ)。

にゃーん [njaan] 【動変型：にゃーだな、にゃーん】 ない。「ある」の否定形。例文：ちゃーや にゃーん (お茶がない)。じんな の一まい にゃーん (お金が全くない)。

にゃーん [njaan] 【副】 ～のように。～の通りに。ばが あい° がにゃーん しーる (私の言うとおりにしなさい)。

によー [njoo] 【形】 ～ようだ。～らしい。「によーかん」の形で使われることが多い。例文：とーがらーがどう キったーによーかん (誰かが来たらしい)。

にん [nin] 【名】 趣味。

にんキ [niŋkɪ] 【名】 年忌。

にんぎん [niŋgin] 【名】 人間、人。

にんずう [nindzu] 【名】 人員、メンバー。

—ぬ—

ぬ [nu] 【文】 ～が、～の。例文：うりゃー うとうとうぬ むぬ (これは弟のものだ)。ういピとうぬどう あい° きゅー (お年寄りが歩いている)。

ぬー [nuu] 【名】 野、野原。

ぬー [nuu] 【動1：ぬい、なーん】 縫う。

ぬーイ [nuuɪ] 【動1：ぬーり、ぬーらん】 ① 上がる、登る。② 乗る、搭乗する、掲載される。

ぬーし [nuuci] 【動2：ぬーし、ぬーそうん】 のせる。

ぬーま [nuuma] 【名】 馬。

ぬーまずうー [nuumadzuu] 【名】 馬の料理、馬肉。

ぬイ [nuɪ] 【動1：ぬり、ぬらん】 塗る。

ぬか [nuka] 【形】 ゆっくり、慌てず。

ぬが [nuga] 【文】 ～か、～のか (諾否疑問文の終助詞)。例文：あんしーぬ ンみずまんど うーぬが? (こんなちっちゃい島にいるの?)。

ぬがす [nugasɪ] 【動1：ぬがし、ぬがさん】 追い越させる。

ぬギ [nugɪ] 【動1：ぬぎ、ぬがん】 追い越す。

ぬきゃー [nukjaa] 【文】 ～達。～など。複数を表す。例文：ピとうぬきゃー (人たち)。さきぬきゃー (酒など)。

ぬくイ [nukuɪ] 【動1：ぬくり、ぬくらん】 残る。

ぬくギ [nukugɪ] 【名】 鋸 (のこぎり)。

ぬくす [nukusɪ] 【名】 残し。

ぬくす [nukusɪ] 【動1：ぬくし、ぬくさん】 残す。

ぬざキ [nudzakɪ] 【名】 久松。

ぬす [nusɪ] 【名】 主、所有者。

ぬずうン [nudzum] 【動1：ぬぞうみ、ぬぞうまん】 ① 愛する。② 好む、好きである、愛と恋の混じった感情を表す。

ぬすとう [nusɪtu] 【名】 泥棒。

ぬすン [nusɪm] 【動1：ぬすみ、ぬすまん】 盗む。

ぬっジゅー [nuzzuu] 【名】 (裁縫用の) 糸。

ぬっふい [nuffi] 【動2：ぬっふい、ぬっふん】 (穴や見えないところに) 入れる、挿入する。

ぬどう [nudu] 【名】 喉。
 ぬどうぶに [nudubuni] 【名】 喉仏。
 ぬぬ [nunu] 【名】 布。
 ぬばり [nubari] 【名】 野原。
 ぬビー [nubɿ] 【名】 野蒜 (のびる)。
 ぬビー [nubɿ] 【副】 ねばねば。
 ぬふ [nufu] 【形】 暖かい。
 ぬぶい [nubui] 【名】 首。
 ぬぶしゃがい [nubucagaɿ] 【動 1: ぬぶしゃがり、ぬぶしゃがらん】 (首筋が前面に渡り) 凝る。
 ぬぶす [nubusɿ] 【動 1: ぬぶし、ぬぶさん】 (肩や首すじ) 凝る。
 ぬふん [nufum] 【動 1: ぬふみ、ぬふまん】 温まる。
 ぬます [numasɿ] 【動 1: ぬまし、ぬまさん】 飲ませる。
 ぬン [num] 【名】 蚤。
 ぬン [num] 【動 1: ぬみ、ぬまん】 飲む、呑み込む。
 ぬンふおー [numfoo] 【名】 飲食。

—の—

のー [noo] 【名】 何。例文：うりゃー のーりゃー？ (これは何ですか?)。のーゆが こーたりゃー？ (何を買ったの?)。
 のー [noo] 【形】 ~ようだ。~らしい。「のーかん」の形で使われることが多い。例文：とーがらーがどう キったーのーかん (誰かが来たらしい)。
 のー [noo] 【動 1: ない、なーん】 縋う。
 のーイ [nooɿ] 【動 1: のーり、のーらん】 ① 治る。② 直る。③ (作物が) よくできる。④ (世が) 豊穰になる、繁昌する。
 のーしー [noosii] 【副】 どう。どうやって。例文：のーしーが すうーでい？ (どうしよう?)。のーしー やたりゃー？ (どうだったの?)。かりゃー のーしーぬ ピとう やりゃー？ (彼はどんな人なの?)。
 のーしーゃー [noocaa] 【副】 なぜ。例文：のーしーゃー かりゃー くーんにゃー？ (彼は何で来ないの?)。
 のーしーゃーが やっかー [noocaaɿ jakkaa] 【連語】 何でかというに。
 のーす [noosɿ] 【動 1: のーし、のーさん】 ① 治す、治療する。② 直す、修理する。
 のーっふあにゃーん [nooffanjaan] 【連語】 大したことではない。
 のーていー [nootii] 【副】 なぜ。例文：のーていーが くーったりゃー？ (なんで来なかったの?)。
 のーていーにゃーん [nootiinjaan] 【連語】 とんでもない。相手が述べたことを否定するときを使う。
 のーどうい [noodui] 【連語】 何干支。
 のーぬきゃー [noonukjaa] 【名】 何ら、何など。
 のーばん いきゃばん [noobam ikjabam] 【連語】 いずれにせよ。
 のーやらばん いきゃやらばん [noojarabam ikजारabam] 【連語】 いずれにせよ。

—は—

ば [ba] 【文】 ~ので。理由を表す。例文：たかかいば かーるん（高いので、買えない）。

ば [ba] 【文】 ~たら（~起こった）。次に続く文においては主語が変わる。例文：かぎゅー えーってい まーらしばどう どあぬ あきたー（鍵をこう回したらドアが開いた）。

ばー [baa] 【文】 ~は（目的語の助詞の後に限る）。例文：かりゅーばー っしどぅー？（あの人は知っている？）。

ばー [baa] 【文】 ~たいものだなあ。願望を表す。例文：みゃーくぬ ンつつうばー よーんなー あいき ふーばーていーどう うむいゅー（宮古島の道をゆっくり歩いてくれたらなあと思っている）。

ばー [baa] 【名】 訳、理由、意味。

ばー [baa] 【名】 湾。

ばー [baa] 【名】 場合、時。

ぱー [paa] 【名】 葉、葉っぱ。連濁形：ばー。

ぱー [paa] 【名】 刃。

ぱー [paa] 【名】 歯。連濁形：ばー。

ぱーがら [paagara] 【名】 枯葉。

ぱーき [baaki] 【名】 籠の一種。

ぱーす [baasɿ] 【名】 場合、時。

ぱーす [paasɿ] 【動 1：ぱーし、ぱーさん】 生やす。

ぱーすーす [paasɿsɿ] 【名】 歯茎。

ぱーだむぬ [paadamunu] 【名】 火を燃やすための葉っぱ。

ぱーっふ [baaffu] 【動 1：ぱーっふい、ぱーっふあん】 からかう。揶揄（やゆ）する。

ぱーどうい [paaduɿ] 【動 1：ぱーどうり、ぱーどうらん】 這う。

ぱーやー [paajaa] 【名】 歯医者。

ぱーんとう [paantu] 【名】 化け物、人間ではないもの。

ぱーんま [paamma] 【名】 年を取ったおばあさん。

はい [hai] 【感】 呼びかけや次の話を始めるときなどに用いる感動詞。

ばい [bai] 【動 2：ばい、ばいゆん】（水などで）割る。薄める。液体を混ぜる。例文：うぬ さきゃー ばいらいどうー？（この酒は薄めてある？）。

ばい [pai] 【名】 南。

ばい [pai] 【動 2：ばい、ばいゆん】 映える、似合う。

ばい [pai] 【動 2：ばい、ばいゆん】 生える。

ばい [baɿ] 【形】 悪い。

ばい [baɿ] 【動 1：ばり、ばらん】 割る。

ばい [paɿ] 【名】 蠅（ハエ）。連濁形：ばい。

ばい [paɿ] 【動 1：ばり、ばらん】 張る。

ばい [paɿ] 【動 1：ぱっジ、ぱっズあん】 入る。

ばいがさ [paɿgasa] 【名】（白くてネバネバする）虫の一種。

ばいかじ [paikadzi] 【名】 風の種類、南風。

ばいでい [paɿdi] 【名】 ① 出ること、出かけること。② 分家。

ばいでい [paɿdi] 【動 2：ばいでい、ばいどうん】 出る、出かける。

ばいでいっヴあ [paɿdivva] 【名】 分家の子。

- ばいぬやー [painujaa] 【名】南隣の家。
- ばいふつ [paɪfutsɪ] 【名】入口。
- ばヴ [pav] 【名】蛇。連濁形：ばヴ。
- ばか [baka] 【形】若い。
- ばか [paka] 【名】墓。
- ばかーイ [bakaaɪ] 【文】～ぐらい。例文：うすきばかーイ。しー じょーぶん？
(これぐらいで大丈夫?)。くじばかーイ。ん くーでい(九時ぐらいに来るよ)。
- ばかーらす [bakaarasɪ] 【動1：ばかーらし、ばかーらさん】別れさせる。
- ばかーり [bakaari] 【動2：ばかーり、ばかーるん】別れる、別離する。
- ばかイ [pakaɪ] 【動1：ばかり、ばからん】計る。
- ばかギズあ [bakagɪza] 【名】キシノウエトカゲ。
- ばかす [bakasɪ] 【形】おかしく面白い。
- ばかす [bakasɪ] 【動1：ばかし、ばかさん】発酵させる。
- ばがす [pagasɪ] 【動1：ばがし、ばがさん】剥がす。
- ばかすき [bakasɪki] 【形】変、一風変わった。
- ばがま [pagama] 【名】羽釜。
- ばかむぬ [bakamunu] 【名】若者。
- ばき [baki] 【動2：ばき、ばくん】分ける。
- ばキ [bakɪ] 【動1：ばき、ばかん】木を鋸などで加工する。
- ばキ [bakɪ] 【動1：ばき、ばかん】① 発酵する。② (水が)湧きでる。
- ばぎ [pagi] 【動2：ばぎ、ばぐん】① 禿げる。② 剥げる。③ (籤で)はずれる。
- ばギ [pagɪ] 【名】足。
- ばキだ [bakɪda] 【名】脇。
- ばキだっふギ [bakɪdaffugɪ] 【名】腋毛。
- ばキでい [pakɪdi] 【動2：ばキでい、ばキどうん】吐く。
- ばギビズあ [pagɪbɪza] 【名】くるぶしぼね以下の部分。
- ぱく [paku] 【名】箱。連濁形：ぱく。
- ばこー [bakoo] 【動1：ばかい、ばかーん】奪う。
- ばごー [pagoo] 【形】怖い。
- ばこーみゃー [bakoomjaa] 【名】奪いやっこ、奪い合い。
- ばさなイ [basanaɪ] 【名】芭蕉の実、バナナ。
- ぱさん [pasam] 【名】鋏。
- ぱさん [pasam] 【動1：ぱさみ、ぱさまん】挟む。
- ばし [baɕi] 【名】間。
- ばしや [baɕa] 【名】馬車。
- ばじゃみキ [badzamikɪ] 【動1：ばじゃみき、ばじゃみかん】さわぐ?。
- ぱす [pasɪ] 【名】橋。
- ぱず [padzɪ] 【文】たぶん...であろう、～はず。例文：ういピとう やいば っしゅーがまたぱず(お年寄りなので、たぶん知っているだろう)。
- ぱずかす [padzɪkasɪ] 【形】恥かしい。
- ぱすこー [pasɪkoo] 【形】チクチクと痒い。
- ぱずまい [padzɪmaɪ] 【動1：ぱずまり、ぱずまらん】始まる。
- ぱずみ [padzɪmi] 【名】始め。最初。
- ぱずみ [padzɪmi] 【動2：ぱずみ、ぱずむん】① 始める。② 動詞に付き「～し始める」を表す。例文：んにゃ ふおーぱずみどうー(もう食べ始めている)。

- ばそーばギ [basoopagɿ] 【名】足のむくみ。
- ばた [bata] 【名】① 腹。② 腸、内臓。
- ばた [pata] 【名】(グラス、器などの) 縁、端。
- ばだ [pada] 【名】① 肌、皮膚。② 健康状態、よい状態。
- ばだ [pada] 【名】時、時期。例文：やらびばだ (子供の時)。
- ばだ [pada] 【形】① 元気である、健康的な状態にいる。② 動詞の基本形に付き「～心地がよい」を表す。例文：にヴばだーぬ ほてる (寝心地の良いホテル)。
- ばだー にゃーん [padaa njaan] 【連語】体調が悪い。
- ばたイ [bataɿ] 【動 1：ばたり、ばたらん】渡る。
- ばだか [padaka] 【名】肌が見えている状態。
- ばたかイ [patakaɿ] 【動 1：ばたかり、ばたからん】広げる。
- ばたごー [batagoo] 【形】(たくさん食べて) お腹がきつい。
- ばたつ [patatsɿ] 【名】二十歳。
- ばたとうとうみ [patatutumi] 【連語】端まで。なみなみと、溢れるまでに。
- ばたばイ [batapaɿ] 【動 1：ばたぱり、ばたぱらん】(あまりにも食べたので) お腹が張る。
- ばたふさり [batafusari] 【動 2：ばたふさり、ばたふさるん】腹が立つ、怒る。
- ばたふつじん [batafutsɿdzin] 【名】臍線りがね。
- ばたぶに [batabuni] 【名】お腹の筋肉。
- ばだら [padara] 【名】魚の一種。
- ばたらかす [patarakasɿ] 【動 1：ばたらかし、ばたらかさん】働かせる。
- ばたらキ [patarakɿ] 【形】勤勉である、働き者である。例文：みゃーくピたー あていどう ばたらキかー (宮古島の人はととても勤勉だ)。
- ばたらキ [patarakɿ] 【動 1：ばたらき、ばたらかん】働く。
- ばたらキむぬ [patarakɿmunu] 【名】働き者。
- ばたんつ [batamtsɿ] 【動 1：ばたんち、ばたんたん】お腹がいっぱいになる、満腹になる。
- ばつ [batsɿ] 【名】罰。
- ばつ [patsɿ] 【接頭】初。
- ばつ [patsɿ] 【名】蜂。
- ばつあキない [patsɿakɿnai] 【名】新年になって初めての商売。
- ばつか [patsɿka] 【名】二十日。
- ばつかす [patsɿkasɿ] 【動 1：ばつかし、ばつかさん】爆発させる。
- ばつき [patsɿki] 【動 2：ばつき、ばつくん】① 爆発する、破裂する。② (銃などで) 撃つ。
- ばっし [baeɕi] 【動 2：ばっし、ばっそうん】忘れる。
- ばっズあす [pazzasɿ] 【動 1：ばっズあし、ばっズあさん】入らせる。
- ばっちゃキ [patteakɿ] 【動 1：ばっちゃき、ばっちゃかん】損ねる。動詞に付き「～し損ねる」、「～する機会を逃す」。例文：ぴんぎずうーゆどう ふおーばっちゃき にゃーん (ヤギ汁を食べる機会を逃してしまった)。
- ばつつ [pattsɿ] 【動 1：ばっち、ばつつあん】脱ぐ。
- ばつつおー [battsoo] 【動 1：ばつつあい、ばつつあーん】(魚、ヤギなどを) さばく。
- ばっばい [bappai] 【動 2：ばっばい、ばっばいゆん】① 失敗する、間違える。② 勘違いする。

- ぱつぱつ [patsʃpatsʃ] 【擬】ものが張って裂けそうな様。
- ぱてい [pati] 【名】果て。
- ぱてい [pati] 【動 2：ぱてい、ぱとうん】① 思い切る。命知らずで行動をする。度胸がある。例文：なはんないら、ぱとうだかー うんてんな しーろーん（那覇ではね、度胸を持たなければ運転ができない）。② 動詞に付き「～し果てる」、「完全に...する」。
- ぱていむぬ [patimunu] 【名】度胸がある人、危険を顧みない人。
- ばな [bana] 【名】（サシバの首をひっかける）罨。
- ばな [bana] 【名】頃、時。
- ばな [pana] 【名】花。
- ばな [pana] 【名】鼻。
- ばなじ [panadzi] 【名】① 鼻、「ばな」と同義。② （物の）先。
- ばなす [panasʃ] 【名】話。連濁形：ばなす。
- ばなす [panasʃ] 【動 1：ばなし、ばなさん】放す。
- ばなだイ [panadaɪ] 【名】鼻たらし。
- ばなつす [panatsʃsʃ] 【名】鼻血。
- ばなならす [pananarasʃ] 【動 1：ばなならし、ばなならさん】いびきを立てる。
- ばなピギ [panapigi] 【名】鼻毛。
- ばならす [panarasʃ] 【動 1：ばならし、ばならさん】離す。
- ぱなり [panari] 【動 2：ぱなり、ぱなるん】離れる。
- ぱに [pani] 【名】羽、翼。
- ぱに [pani] 【動 2：ぱに、ぱぬん】跳ねる。
- ぱにがイ [panigaɪ] 【名】鰭（ひれ）。
- ばふ [bafu] 【名】糸巻き、機織の糸を巻く具。
- ばま [pama] 【名】浜、ビーチ。連濁形：ばま。
- ばまい [bamai] 【文】～しても。例文：いかばまい じょーぶんな？（行っても大丈夫なの？）。
- ばまい [pamaɪ] 【動 1：ばまり、ばまらん】頑張る、精を出す。
- ばみかす [bamikasʃ] 【動 1：ばみかし、ばみかさん】大声を出させる。
- ばみキ [bamikʃ] 【動 1：ばみき、ばみかん】大声を出す。
- ばみきや [bamikja] 【名】大声を出す人。
- ぱら [para] 【助数】集落を数える助数詞。
- ぱら [para] 【名】柱。連濁形：ぱら。
- ぱらぱら [barabara] 【擬】ぶくぶく、液体の沸騰している様。
- ぱらます [paramasʃ] 【動 1：ぱらまし、ぱらまさん】妊娠させる。
- ぱらん [baram] 【名】穂。
- ぱらん [param] 【名】卵巣。
- ぱらん [param] 【動 1：ぱらみ、ぱらまん】妊娠する。
- ぱり [bari] 【名】割れ。切り。
- ぱり [bari] 【動 2：ぱり、ぱるん】割れる。
- ぱり [pari] 【名】畑。連濁形：ぱり。
- ぱり [pari] 【動 2：ぱり、ぱるん】晴れる。
- ぱりすぐとう [parisʃgutu] 【名】畑仕事、農業。
- ぱりどうない [paridunaɪ] 【名】畑隣。畑が隣であること。
- ぱりやー [parijaa] 【名】農夫、百姓。

- ぱりんつ [parimtsɿ] 【名】 田舎の道、農道。
 ばろー [baroo] 【動 1: ばらい、ばらーん】 笑う。
 ぱろー [paroo] 【動 1: ばらい、ばらーん】 (お金を) 払う。
 ばん [ban] 【名】 私、一人称の代名詞。
 ばん [bam] 【文】 ~しても。例文: くーばん ゆぬむぬ? (来ても大丈夫?)。
 ばん [pam] 【擬】 ① (魚などの) 身が締まっている様。② 皮膚や服が張っている様。
 ばんず [bandzɿ] 【名】 盛り、最盛期。
 ばんた [banta] 【名】 (聞き手を除いた) 私たち。一人称除外複数形。
 ばんた [panta] 【形】 忙しい。
 ぱんだす [pandasɿ] 【動 1: ぱんだし、ぱんださん】 外す。
 ばんちら [bantɕira] 【名】 グアバ。
 ぱんでい [pandi] 【動 2: ぱんでい、ぱんどうん】 外れる。
 ぱんびん [pambin] 【名】 天ぷら。
 ぱんぶい [pambuɿ] 【動 1: ぱんぶり、ぱんぶらん】 (硬めのものを) 噛み砕く。
 ぱんぶら [bambura] 【名】 玩具 (おもちゃ)。
 ぱんまい [pammai] 【名】 ① 食糧、食べ物。② お弁当。
 ぱんまがばんま [bammagabamma] 【擬】 パチパチ、火の燃える音。
 ぱんみかす [pammikɿ] 【動 1: ぱんみかし、ぱんみかさん】 気合を入れてやりでかす。
 ぱんミキ [pammɿkɿ] 【動 1: ぱんミき、ぱんみかん】 張っている状態にある。

—ひ—

- ビー [biɿ] 【名】 亥 (い)。
 ビー [biɿ] 【動 1: びじ、ビズあん】 座る。
 ビー [biɿ] 【動 1: びり、びらん】 (化粧、おしろいなどを) 塗る。
 ぴー [pii] 【名】 屁。連濁形: びー。
 ぴー [pii] 【動 1: びり、びらん】 行く、去る、帰る。
 ピー [piɿ] 【名】 ニンニク。連濁形: ビー。
 ピー [piɿ] 【名】 針。
 ピーギ [piŋgi] 【動 1: ピーぎ、ピーがん】 潰す。
 ピーた一つき [piɿtaatsɿkɿ] 【名】 先月。
 ピーつき [piɿtsɿkɿ] 【名】 刺青。
 ピーにー [piɿnii] 【動 1: ピーにり、ピーにらん】 練り潰す。
 ビービー [biɿbiɿ] 【擬】 すべすべ。
 ぴーぴしゃ [piɿpɿɕa] 【名】 屁こき屋。
 ピーみゃー [piɿmjaa] 【名】 駆けっこ。
 ピカイ [pɿkaɿ] 【名】 光。
 ピカイ [pɿkaɿ] 【動 1: ピかり、ピからん】 光る、輝く。
 ピかす [pɿkasɿ] 【動 1: ピかし、ピかさん】 引かせる。
 ピかず [pɿkadzɿ] 【名】 日、日付。
 ピかピか [pɿkapɿka] 【擬】 ピカピカ。
 ピがら [pɿgara] 【名】 陰部の上の部分。
 ピからす [pɿkarasɿ] 【動 1: ピからし、ピからさん】 光らせる。

- びき [biki] 【名】雄。例文：びきぴんざ (雄ヤギ)。
 ピキ [pɪki] 【動 2：ピキ、ピくん】空く、穴がある。
 ビキ [bɪkɪ] 【動 1：ビキ、ピかん】賭け事で勝って賭けられたものを取得する。
 ピキ [pɪkɪ] 【動 1：ピキ、ピかん】挽く。
 ピキ [pɪkɪ] 【動 1：ピキ、ピかん】引く。
 ピキ [pɪkɪ] 【動 1：ピキ、ピかん】穴をあける。
 ピギ [pɪgi] 【名】① 体毛。② 髭 (ひげ)。
 ピギ [pɪgi] 【動 1：ピギ、ピがん】削る。
 ビキー [bɪkiɪ] 【名】(姉妹から見た) 兄弟。
 びきぐる [bikiguru] 【形】(女性が) 浮気者である。
 ピキたヴ [pɪkɪtav] 【動 1：ピキたっヴい、ピキたっヴあん】(勢いよく) 引き寄せる。
 びきだつ [bikidatsɪ] 【名】男性が独身であること。
 ピギたり [pɪgitari] 【連語】髭垂れ、髭の生やした。
 びきっヴあ [bikivva] 【名】息子、男の子。
 びきどうん [bikidum] 【名】① 男の人、男性。② 夫。
 びきどうんうとうとう [bikidumututu] 【名】弟。
 びきどうんぐる [bikidumguru] 【形】(女性が) 浮気者である。
 びきどうんやらび [bikidunjarabi] 【名】男の子、若い男性。
 ピキにん [pɪkɪnin] 【名】人間と見なされていない人。
 ピキばー [pɪkɪbaa] 【名】(穴が開いている) 虫歯。
 ピキぱイ [pɪkɪpaɪ] 【名】筋 (すじ)。
 びきぱらん [bikiparam] 【名】しらこ。
 びきびき [bikibiki] 【副】男っぼい。
 ビキみゃー [bɪkɪmjaa] 【名】賭け勝負。
 ピギむしゃ [pɪgimuea] 【名】毛むくじゃら。
 びきむぬ [bikimunu] 【名】雄。
 ピキゃーらす [pɪkɪjaarasɪ] 【動 1：ピキゃーらし、ピキゃーらさん】まとめる、一緒にする。
 ピキゃぎ [pɪkɪjagi] 【動 2：ピキゃぎ、ピキゃぐん】引き上げる。
 ぴくー [pikuu] 【擬】ふらふら。
 びぐイ [biguɪ] 【動 1：びぐり、びぐらん】挟 (えぐ) る。
 ピくピく [pɪkupɪku] 【擬】(肌が) つやつや。
 ピくみかす [pɪkumikasɪ] 【動 1：ピくみかし、ピくみかさん】つやつやにする。
 ピくみキ [pɪkumikɪ] 【動 1：ピくみき、ピくみかん】つやつやになる。
 ピぐらす [pɪgurasɪ] 【動 1：ピぐらし、ピぐらさん】冷たくする、冷やす。
 ピぐり [pɪguri] 【動 2：ピぐり、ピぐるん】冷たくなる、冷える。
 ピぐる [pɪguru] 【形】冷たい。
 びごー [bigoo] 【形】くすぐったい。
 ピさ [pɪsa] 【名】足の足首以下の部分。連濁形：ビズあ。
 びざイ [bidzaɪ] 【動 1：びざり、びざらん】重傷する。
 ピさが [pɪsaga] 【名】裸。例文：ピさがー しーどう まーりゅー (裸でまわっている)。
 ピさかす [pɪsakasɪ] 【動 1：ピさかし、ピさかさん】凹ませる。
 ピさきた [pɪsakita] 【名】洗濯板。

- ピさぎなり [pɪsaginari] 【連語】裸で。
 ピさばんびん [pɪsapambin] 【名】宮古島のクレープ。
 ピさら [pɪsara] 【名】平良。
 ぴし [biei] 【動2: ぴし、ぴそうん】据える、設置する。
 ぴし [piei] 【名】珊瑚礁。
 ぴし [piei] 【形】寒い。
 ぴしイ [pieiɪ] 【名】午後三時の休憩。
 ぴしんな [pieinna] 【名】サザエ。
 ピす [pɪsɪ] 【名】女性器。
 ピす [pɪsɪ] 【形】薄い。
 ピす [pɪsɪ] 【動1: ぴし、ピさん】干る。(潮が) 引く。
 ピす [pɪsɪ] 【動1: ぴし、ピさん】嚏る。クシャミする。
 ピす [pɪsɪ] 【動1: ぴし、ピさん】へこむ。
 ピす [pɪsɪ] 【動1: ぴし、ピさん】放る。(屁を) 出す。
 ピず [pɪdzɪ] 【名】肘。
 ピすう [pɪsu] 【形】広い。
 ピすうー [pɪsuu] 【動1: ピそうい、ピさーん】拾う。
 ピすうがイ [pɪsugaɪ] 【動1: ピそうがり、ピそうがらん】広がる。
 ピすうぎ [pɪsugi] 【動2: ピそうぎ、ピそうぐん】広げる。
 ピずキ [pɪdzɪkɪ] 【名】杼(ひ)、機織の縦糸の間を往復する道具。
 ピすま [pɪsɪma] 【名】昼、正午あたりの時間。
 ピすまにヴ [pɪsɪmaniv] 【名】昼寝。
 ぴた [pita] 【形】下手。
 ピた [pɪta] 【形】なめらか。
 ビだ [bɪda] 【形】低い。
 ピだイ [pɪdaɪ] 【名】左。
 ピだイていー [pɪdaɪtɪi] 【名】左手。
 ぴたっふあにゃーん [bitaffanjaan] 【連語】悪くはない。
 ピだに [pɪdani] 【名】火種。
 ピだりゃ [pɪdarja] 【名】左利き。
 ぴつ [pitsɪ] 【名】未(ひつじ)。
 ビっ [bɪʔ] 【擬】すぐ、ただちに、急に。
 ぴっヴい [pivvi] 【動2: ぴっヴい、ぴっヴうん】(刃が) 鈍くなる。
 ビったビった [bɪttabɪtta] 【擬】スベスベである。
 ぴっちゃ [pittea] 【副】少し。
 ピでい [pɪdi] 【動2: ピでい、ピどうん】蒸発して水がなくなる。
 ぴていーつ [pitiitsɪ] 【名】一つ。
 ピとう [pɪtu] 【数】一。
 ピとう [pɪtu] 【名】① 人。② 他人。
 びどう [bidu] 【名】餌。
 びとうイ [bituɪ] 【動1: びとうり、びとうらん】たくさん食べて飽きる。
 ピとうイ [pɪtuɪ] 【名】一日。
 ピとうイがまーす [pɪtuɪgamaasɪ] 【副】一日中。
 ピとうがーイ [pɪtugaaɪ] 【名】変人。
 ピとうきゃーん [pɪtukjaan] 【副】一気に。

- ピとうばだ [pɪtupada] 【副】時々。
 ピとうふつ [pɪtufutsɪ] 【名】一口。
 ぴどうむりや [bidumurja] 【名】釣り針にかかることなく、餌だけを齧る魚のこと。
 ぴない [pinaɪ] 【動 1：ぴなり、ぴならん】減る、減少する。
 ぴならず [pinarasɪ] 【動 1：ぴならし、ぴならさん】減らす。
 ぴばき [bibakɪ] 【動 1：ぴばき、ぴばかん】嘔吐する。
 ピばり [pɪbari] 【動 2：ピばり、ピばるん】ひび割れる。
 ビふー [bɪfuu] 【擬】ふらふら。
 ビふみキ [bɪfumikɪ] 【動 1：ビふみき、ビふみかん】ふらふらする。
 ピぶらす [pɪburasɪ] 【動 1：ピぶらし、ピぶらさん】(目を)眩(くら)ます。
 ピぶり [pɪburi] 【動 2：ピぶり、ピぶるん】(目が)眩(くら)む。
 ピミキ [pɪmɪkɪ] 【名】喘息、息しにくいこと。
 びゃー [bjaa] 【文】～かな。諾否疑問文に用いられる。例文：まーんてい キっかまたびゃーやー(本当に来るのかな)。
 びゃー [pjaa] 【形】早い、速い。連濁形：びゃー。
 びゃーイ [pjaaɪ] 【名】日差し。連濁形：びゃーイ。
 びゃーかり [pjaaakari] 【副】速く。
 びゃーし [pjaaɕi] 【副】(時間が)早く。例文：まいすとうむてい びゃーしどううき(毎朝早く起きる)。
 びゃーす [pjaaɕɪ] 【動 1：びゃーし、びゃーさん】囃す、盛り上げる、囃し立てる。
 びゃーすばい [pjaaɕɪpai] 【慣】煽(おだ)てにのりやすい。
 びゃーびゃー [pjaaɕɪpjaa] 【副】早く、短期間内。
 びゃーふつ [pjaaɕɪfutsɪ] 【形】早口。
 びゃーり [pjaaari] 【名】早魃。
 びゃーりむぬ [pjaaarimunu] 【名】間食。
 びゅー [bjuu] 【名】トンボ。
 びゅー [bjuu] 【動 1：びゅーい、びゃーん】①(酒に)酔う。②毒にあたる。
 びゅーイ [pjuuɪ] 【名】日取り、日選び。
 びゅーがっさ [bjuuɕassa] 【名】クワズイモ。
 びゅーっズう [bjuuɕɪzzu] 【名】毒魚。
 びゅーふさり [bjuuɕɪfusari] 【動 2：びゅーふさり、びゅーふさるん】酔っぱらう。
 びょーすんな [pjooɕɪnna] 【副】たまに。
 ぴら [pira] 【名】篋(へら)。
 ぴらキ [birakɪ] 【動 1：ぴらき、ぴらかん】仰向けになる、倒れる。
 ぴらす [pirasɪ] 【動 1：ぴらし、ぴらさん】行かせる。
 ぴるます [pirumasɪ] 【形】不思議、珍しい。
 ぴんがす [piŋgasɪ] 【動 1：ぴんがし、ぴんがさん】逃す。
 ぴんぎ [piŋgi] 【動 2：ぴんぎ、ぴんぐん】逃げる、逃亡する。
 ぴんくぴんく [piŋkupɪŋku] 【擬】バランスの取れていない状態。
 ぴんざ [pindza] 【名】ヤギ。
 ぴんざずうー [pindzadzuu] 【名】ヤギ汁、ヤギの料理、ヤギ肉。
 ぴんすうー [pinsuu] 【形】貧乏、貧しい。
 ぴんたがいイ [pintagaiɪ] 【動 1：ぴんたがいり、ぴんたがいらん】ひっくり返る、

ねじる。

ビндаす [bɪndasɪ] 【動 1: ビндаし、ビндаさん】(思いがけず) 出す。

びんだらい [bindarai] 【名】洗面器。

ビンでい [bɪndi] 【動 2: ビンでい、ビندوقん】(思いがけず) 出る。

ぴんな [pinna] 【形】変、不思議。

ピンまピンま [pɪmmapɪmma] 【擬】ぴよんぴよん。

ピンミキ [pinmɪkɪ] 【動 1: ピンミキ、ピンみかん】張っている状態にある。

—ふ—

ふ [fu] 【文】～く。形容詞の語幹に付き、副詞を作る。例文：ばんたが つふあ
— いらいふどう なりゆー (うちの子は偉くなっている)。

ふー [fuu] 【名】運。

ぶー [buu] 【名】紐、緒。

ぶー [buu] 【名】苧麻 (ちよま)。

ぷー [puu] 【名】穂。

ぷー [puu] 【名】帆。

ふーい [fuuɪ] 【動 1: ふーり、ふーらん】震える。

ぷーい [puuɪ] 【名】五穀の祭り。連濁形：ぶーい°。

ぷーき [puuki] 【動 2: ぷーき、ぷーくん】はしゃぐ、喜ぶ。

ぶーギ [buugi] 【名】サトウキビ。

ぶーギ [buugi] 【動 1: ぶーぎ、ぶーがん】誘き寄せる。

ぶーギだか [buugɪdaka] 【名】匁として使われるサシバ。

ぶーギぶい [buugɪbuɪ] 【名】サトウキビ折り。サトウキビの収穫。

ぶーりゃ [buurja] 【名】同年性。

ふあーす [faasɪ] 【動 1: ふあーし、ふあーさん】① 食わせる、食べ物をあげる。

② (機械に) 差し込む、かみ合わせる。③ ぶつける。

ふあーん ふあーん ななまかイ [faan faan nanamakaɪ] 【慣】「食べない、食べない、七茶碗」小食ぶっついでながらついに大食いをする人。

ふあい [faɪ] 【名】食えること、(主に複合語に使われる)。連濁形：ばイ。

ふあいかたイ [faɪkataɪ] 【動 1: ふあいかたり、ふあいかたらん】① 永遠に話す。

② 悪口を言う、貶す。

ふあいふくり [faɪfukuri] 【動 2: ふあいふくり、ふあいふくるん】好きなものばかりを食べた結果、好みの食べ物しか食べない。

ぶい [bui] 【名】有給労働、出稼ぎ。例文：ぶい すっかどう ぴりゆー (出稼ぎしに行っている)。

ぶい [bui] 【動 2: ぶい、ぶいゆん】吠える。

ぷい [pui] 【名】大きさ、サイズ。

ふイ [fuɪ] 【名】① 豚小屋。② トイレ、お手洗い。

ふイ [fuɪ] 【名】振り、そうであるかのように振舞うこと。例文：っさんふっずあしー (知らない振りをして)。

ふイ [fuɪ] 【形】古い。

ふイ [fuɪ] 【動 1: ふり、ふらん】降る。

ふイ [fuɪ] 【動 1: ふり、ふらん】(手などを) 振る。

ぶイ [buɪ] 【動 1: ぶり、ぶらん】織る。

- ぶイ [buɪ] 【動 1: ぶり、ぶらん】 ① 折る。② (サトウキビを) 倒す。
- ぶイ [buɪ] 【擬】 (否定文で) 一言も (言わない)。
- ぷイ [puɪ] 【動 1: ぷり、ぷらん】 掘る。
- ふいー [fii] 【動 2: ふいー、ふーん】 ① くれる、あげる。② (動詞の中止形に
続き) 「～てくれる」を表す。例文: ばぬー んかいが きし ふーじゃーん?
(私を迎えに来てくれない?)。
- ぶイぶイ [buɪbuɪ] 【擬】 小言を言う様、ぶつぶつ。
- ぶイみキ [buɪmikɪ] 【動 1: ぶイみき、ぶイみかん】 小言を言う。
- ふイン [fuɪm] 【動 1: ふイみ、ふイまん】 古びる。
- ふおー [foo] 【動 1: ふあい、ふあーん】 ① 食べる。② 消費する、費やす。
- ふおーむぬ [foomunu] 【名】 食べ物。
- ふおーんつあ [foomtsa] 【名】 食べ方。
- ふか [fuka] 【形】 深い。
- ぷか [puka] 【名】 ① 外 (そと)。② 外 (ほか)。
- ぷかぐー [pukaguu] 【名】 沖に接しているリーフ。
- ふかす [fukasɪ] 【動 1: ふかし、ふかさん】 漏らす。
- ふかす [fukasɪ] 【動 1: ふかし、ふかさん】 沸かす、沸騰させる。
- ぷかずま [pukadzɪma] 【名】 他所の集落。
- ぷかつゝあ [pukavva] 【名】 分家の子。
- ふがましや [fugamaɕa] 【名】 短気な人。
- ふがます [fugamasɪ] 【形】 (性格が) うるさい。
- ぷからす [pukarasɪ] 【形】 嬉しい。
- ぷからっさ [pukarassa] 【名】 嬉しさ、喜び。
- ぶがり [bugari] 【形】 疲れた。
- ぶがりの一す [bugarinoosɪ] 【名】 「疲労治し」。一日の仕事が終わった後の祝い。
打ち上げ。
- ふき [fuki] 【動 2: ふき、ふくん】 (本当の年齢より) 年配に見える、老ける。
- ふき [fuki] 【動 2: ふき、ふくん】 死ぬ。
- ふき [fuki] 【動 2: ふき、ふくん】 漏れる。
- ぷき [puki] 【名】 埃。連濁形: ぶき。
- ふキ [fukɪ] 【動 1: ふき、ふかん】 沸く、沸騰する。
- ふキ [fukɪ] 【動 1: ふき、ふかん】 (タバコを) 吸う。
- ふキ [fukɪ] 【動 1: ふき、ふかん】 拭う、拭く。
- ふキ [fukɪ] 【動 1: ふき、ふかん】 建てる、建築する。
- ふキ [fukɪ] 【動 1: ふき、ふかん】 吹く。
- ふギ [fugɪ] 【名】 釘。
- ふギ [fugɪ] 【名】 ① 首。② 襟 (えり)。
- ぷギ [pugɪ] 【動 1: ぷぎ、ぷがん】 気に入る、満足する。例文: キむんな ぷが
ん (気に入らない)。
- ふきやぎ [fukjagi] 【名】 お萩。
- ふく [fuku] 【名】 肺。
- ぶくー [bukuu] 【形】 不器用。
- ふぐイ [fuguɪ] 【名】 陰囊、睪丸。
- ふくなー [fukunaa] 【名】 春の野芥子。
- ふぐます [fugumasɪ] 【動 1: ふぐまし、ふぐまさん】 凹ませる。

- ふくらす [fukurasɿ] 【動 1：ふくらし、ふくらさん】膨らませる。
- ふくり [fukuri] 【動 2：ふくり、ふくるん】腫 (は) れる。
- ふくる [fukuru] 【名】袋。
- ふくン [fukum] 【動 1：ふくみ、ふくまん】(口に) 銜える。
- ふぐン [fugum] 【動 1：ふぐみ、ふぐまん】へこむ。
- ふさ [fusa] 【名】草。
- ふさ [fusa] 【形】① 臭い。② 名詞に付き「～の匂いが臭い」。例文：ゆっぱイ°
ふさーぬ (おしっこ臭い)。
- ぶざ [budza] 【名】おじ。
- ふさかい [fusakaɿ] 【名】草刈。
- ふさがま [fusagama] 【名】(食べ物などに関して) 好き嫌いが激しい、選り好み。
- ふさだに [fusadani] 【名】雑草。
- ふさぬンー [fusanumm] 【名】生え損なった芋。
- ふさびキ [fusabɿkɿ] 【名】家畜の草を賭けること。
- ふさびっズう [fusabɿzzu] 【名】魚の一種。
- ふさらす [fusarasɿ] 【動 1：ふさらし、ふさらさん】腐らせる。
- ふさり [fusari] 【動 2：ふさり、ふさるん】腐る。
- ぷさり [pusari] 【動 2：ぷさり、ぷさるん】(日差しに) 晒される。
- ふし [fuei] 【名】癩。
- ぷじ [pudzi] 【副】(とにかく) 急いで。
- ふしばぬーま [fueibanuuma] 【名】癩のある馬。
- ふしばむぬ [fueibamunu] 【名】癩のある人。
- ぶす [busɿ] 【形】～たい。動詞に付いて「～したい」を表す。例文：いきぶすむぬ (行きたい)。ぴんざずうーゆどう ふおーぶすかー (ヤギが食べたい)。
- ぷす [pusɿ] 【名】星。連濁形：ぶす。
- ぷす [pusɿ] 【形】欲しい。例文：じんぬどう ぷすかー (お金が欲しい)。連濁形：ぶす。
- ぷす [pusɿ] 【動 1：ぷし、ぷさん】干す。
- ふず [fudzɿ] 【名】籤 (くじ)。
- ふすう [fusu] 【名】糞。
- ふすうイ [fusuɿ] 【名】① 薬、薬品。② 科学肥料、除草剤、殺虫剤。
- ふすうがなまりや [fusuganamarja] 【名】糞頭。人を罵る言葉。
- ふすうまい [fusumaɿ] 【名】排便。
- ぶすき [busɿki] 【文】～そうだ。例文：さきゅー ぬンぶすきみばな (酒を飲み
そうな顔)。
- ふずびキ [fudzɿbɿkɿ] 【名】籤引き。
- ふた [futa] 【数】二。
- ふた [futa] 【名】蓋。
- ぷだ [puda] 【副】約。おおよそ。例文：ぷだ さんじっふんばかーイ° かかイ°
がまた (約三十分かかる)。
- ふたーイ [futaai] 【名】二人。
- ぷだーす [pudaasɿ] 【動 1：ぷだーし、ぷだーさん】成長させる。
- ふたーつ [futaatsɿ] 【名】二つ。
- ふたい [futai] 【名】額。
- ふたが [futaga] 【名】双子。

- ふたがさ [futagasa] 【名】 ふたがさ。
 ふだキ [fudaki] 【動 1: ふだき、ふだかん】 殴る。
 ふたきな [futakina] 【副】 急に、突然、すぐ。
 ふだんギ [fudangi] 【名】 抽選。
 ふち [futei] 【動 2: ふち、ふつうん】 朽ちる。
 ふちばー [futeibaa] 【名】 虫歯。
 ふちゃんた [futeanta] 【名】 粘土状の土。
 ふつ [futsu] 【名】 向き。例文: イーンかい ふつつあ しー たちゅー (西に向
 って立っている)。
 ふつ [futsu] 【名】 ① 口。嘴。② 口、開いているところ。③ 言語。地名に付き
 「～語」「～方言」を表す。
 ふつがさ [futsugasa] 【名】 口にできるおでき。
 ぶったぶった [buttabutta] 【擬】 ぴよんぴよん。
 ふつちゃーす [futsuteaasu] 【名】 キス、接吻。
 ふつちやヴ [futteavu] 【動 1: ふつちやっヴい、ふつちやっヴあん】 口がすつきり
 しない。
 ふつちやふつちや [futteafutte] 【擬】 口で音をたてる様。
 ふつつ [futtusu] 【動 1: ふつち、ふつつあん】 ほじる、ほじくる。
 ふつつ [futtusu] 【動 1: ふつち、ふつつあん】 朽ちる。
 ぶっていら [buttira] 【名】 チャンプルー (料理の一種)。
 ふつなギ [futsunagi] 【名】 魚の一種。
 ふつび [futsubi] 【名】 口にできるおでき。
 ふつびやー [futsujyaa] 【形】 早口。
 ぶっふあみかす [buffamikasu] 【動 1: ぶっふあみかし、ぶっふあみかさん】 やぶ
 る。
 ぶっふあみキ [buffamik] 【動 1: ぶっふあみき、ぶっふあみかん】 やぶれる。
 ぶてい [puti] 【名】 傷跡。
 ぶとう [butu] 【名】 夫。
 ぶどう [pudu] 【名】 身長。
 ぶどうい [pudui] 【動 2: ぶどうい、ぶどういゆん】 大きくなる、成長する。
 ぶどうイ [budu] 【名】 踊り、舞踊。
 ぶどうイ [budu] 【動 1: ぶどうり、ぶどうらん】 ① 踊る。② 飛び上がる。
 ふとうてい [fututi] 【動 2: ふとうてい、ふとうとうん】 朽ちる。
 ぶとうとうイ [bututu] 【名】 一昨日。
 ぶとうみキ [putumik] 【動 1: ぶとうみき、ぶとうみかん】 ドキドキする。
 ぶどうらす [budurasu] 【動 1: ぶどうらし、ぶどうらさん】 踊らせる。
 ぶどうんき [budunki] 【動 2: ぶどうんき、ぶどうんくん】 飛び込む。
 ふなーイ [funaa] 【動 1: ふなーり、ふなーらん】 無くなる。
 ふなーらす [funaarasu] 【動 1: ふなーらし、ふなーらさん】 失くす、紛失する。
 ふない [funai] 【名】 船酔い。
 ぶなイ [buna] 【名】 (兄弟から見た) 姉妹。
 ふなギ [funagi] 【動 1: ふなぎ、ふながん】 (交尾の際) 腰を動かせる。
 ふに [funi] 【名】 船。
 ぶに [puni] 【名】 骨。連濁形: ぶに。
 ふにイ [funi] 【名】 蜜柑。

- ふにんかいよーい [funimkaijooɪ] 【名】「船迎え祝い」。旅に出た人が帰って来たときの祝い。
- ぶば [buba] 【名】おば。
- ぶふ [bufu] 【擬】どすん。
- ふぷかい [fupukaɪ] 【動 1：ふぷかり、ふぷからん】膨らむ、膨張する。
- ふぷからす [fupukarasɪ] 【動 1：ふぷからし、ふぷからさん】膨らす。
- ぶふっち [bufuttei] 【形】ブサイク。
- ふまーい [fumaaɪ] 【動 1：ふまーり、ふまーらん】順番にする。
- ぷみ [pumi] 【動 2：ぷみ、ぷむん】褒める。
- ふゆ [fuju] 【名】冬。
- ふゆー [fujuu] 【形】不真面目。
- ふら [fura] 【名】鞍。
- ぶら [bura] 【名】保良（城辺の集落）。
- ぶら [bura] 【名】① 法螺貝。② 中が空っぽになっている細長いもの。筒。
- ぷらき [purakɪ] 【動 1：ぷらき、ぷらかん】開ける。
- ぷらさい [purasai] 【動 2：ぷらさい、ぷらさいゆん】騙される。
- ぷらさり [purasari] 【動 2：ぷらさり、ぷらさるん】騙される。
- ぶらす [burasɪ] 【動 1：ぶらし、ぶらさん】織らせる。
- ぷらす [purasɪ] 【動 1：ぷらし、ぷらさん】騙す。
- ぶらふきや [burafukja] 【名】ホラ吹き、何もかも誇張する人。
- ぶり [buri] 【動 2：ぶり、ぶるん】折れる。
- ぷり [puri] 【形】バカ。連濁形：ぶり。
- ぷり [puri] 【動 2：ぷり、ぷるん】① 惚れる。② 狂う。発狂する。呆ける。熱狂である。例文：かりゃー ぱちんこぶりむぬ（彼はパチンコにはまっている）。
- ぷりつつあぎ [purittsagi] 【形】あほらしい。
- ぷりばい [puribaɪ] 【名】暴食、食べすぎること。
- ぷりむぬ [purimunu] 【名】馬鹿（な人）。
- ぶりんかす [buriŋkasɪ] 【動 1：ぶりんかし、ぶりんかさん】（ドツと）落とす。（沸いた水などに）放り投げる。
- ぶりんき [buriŋki] 【動 2：ぶりんき、ぶりんくん】（ドツと）落ちる。
- ふるしき [furuɕiki] 【名】風呂敷。
- ぶるみき [burumikɪ] 【動 1：ぶるみき、ぶるみかん】液体が沸騰する、人がガヤガヤする。
- ぶん [bun] 【名】お盆。
- ふん [fum] 【動 1：ふみ、ふまん】汲む。
- ふん [fum] 【動 1：ふみ、ふまん】（靴を）履く。
- ふんき [fuŋkɪ] 【動 1：ふんき、ふんかん】焦る。
- ふんず [fundzɪ] 【動 1：ふんじ、ふんざん】縛る。
- ぷんだい [pundai] 【名】わがまま、自分勝手。
- ふんたい [fundaɪ] 【動 1：ふんだり、ふんだらん】踏みつける。
- ぷんみき [pummikɪ] 【動 1：ぷんみき、ぷんみかん】温まる、ホカホカする。

— へ —

べー [bee] 【文】～かな。諾否疑問文に用いられる。例文：ういしー じょーぶ

んべーいー? (これで大丈夫かな?)。

べつ [betsɿ] 【形】別。

—ほ—

ぼー [boo] 【名】棒。

ぼー [poo] 【名】(地面に這っている、棘を持つ)植物の一種。

ぼーい [pooɿ] 【動1: ぼーり、ぼーらん】まき散らす、(種などを)蒔く。

ぼーき [pookɿ] 【名】箒。

ぼーき [pookɿ] 【動1: ぼーき、ぼーかん】掃く。

ぼーぎー [poogii] 【名】木の一種。

ぼーし [booei] 【名】帽子。

ぼーちら [booteira] 【形】やんちゃ、乱暴。

ぼちぼち [poteipotai] 【感】犬を呼ぶときに用いる。

—ま—

まーい [maaɿ] 【動1: まーり、まーらん】① 廻る、回転する。② 訪れる、移動する。③ 行動する。

まーがー にゃーん [maagaa njaan] 【連語】誠実性がない。

まーく [maaku] 【形】丸い。

まーじゃがピー [maadzagapɿɿ] 【名】陰火。

まーじゃぬー [maadzanumm] 【名】芋の一種。砂浜にある。

まーす [maasɿ] 【動1: まーし、まーさん】燃やす。

まーすう [maasu] 【名】塩。

まーた [maata] 【名】畑を植え終えた後に設置される人形。

まーだ [maada] 【副】とても。例文: まーだどう ンまかー (とても美味しい)。

まーつき [maatsɿki] 【副】一緒に。

まーに [maani] 【名】棕櫚。

まーばー にゃーん [maabaa njaan] 【連語】仕事ができない。

まーふさがイ [maafusagaɿ] 【動1: まーふさがり、まーふさがらん】塞がる、邪魔である。

まーまーとう [maamaatu] 【副】たくさん。例文: んきゃーんな ぬどうぼーずぬどう まーまーとう とうらいたー (昔はウニがたくさん獲れた)。

まーゆー [maajuu] 【名】料理用の油。

まーらす [maarasɿ] 【動1: まーらし、まーらさん】まわす。

まーる [maaru] 【名】番、順番。

まーん [maan] 【感】そういえば。

まーんがら のーがら [maɱgara noogara] 【連語】本当なのか、なんなのか分からない。

まーんていー [maantii] 【副】本当に。

まい [mai] 【接頭】毎。例文: まいゆー (毎夜)。

まい [mai] 【文】～も。例文: ばんまい いかでい (私も行こう)。

まい [mai] 【名】前。

まい [maɿ] 【名】米。稲。ご飯。

- まイ [maɪ] 【動 1: まり、まらん】排泄する。
- まいがき [maigaki] 【名】馬具の一種。
- まいごす [maɪgoosɪ] 【名】米のお菓子。
- まいすず [maɪsɪdzɪ] 【名】米粒。
- まいにつ [mainitsɪ] 【名】毎日。
- まいぬイ [maɪnuɪ] 【名】(ご飯の) お握り。
- まいふか [maifuka] 【副】① (目下の人に対して) ありがとう。② お利口。(目下の人を) 褒める言葉。
- まいみー [maimii] 【連語】はかどる。例文: うぬ すぐたー まいや みゅーん (この仕事ははかどらない)。
- まいやがびにつ [majagapinitsɪ] 【副】毎日、来る日も来る日も。
- まヴガン [mavgam] 【名】個人の守護神。
- まヴきゃー [mavkjaa] 【名】前、前方、向こう。
- まかイ [makaɪ] 【名】椀。
- まがイ [magaɪ] 【動 1: まがり、まがらん】曲がる。
- まがらす [magarasɪ] 【動 1: まがらし、まがらん】曲げる。
- まき [maki] 【動 2: まき、まくん】① 負ける。② 値引きする。
- まキ [makɪ] 【動 1: まき、まかん】蒔く。
- まキ [makɪ] 【動 1: まき、まかん】巻く。
- まぎ [magi] 【動 2: まぎ、まぐん】曲げる。
- まギ [magɪ] 【動 1: まぎ、まがん】性交する、セックスする。
- まギまギ [magɪmagɪ] 【擬】フニャフニャ。
- まぐ [magu] 【名】容器の一種。
- まくがん [makugan] 【名】ヤシガニ。
- まぐみン [magumim] 【名】内側に反り返った耳。
- まさか [masaga] 【形】正しい。ちゃんとした。例文: まさかんでいーぬ すぐと
う (しっかりとした仕事)。
- まさり [masari] 【副】もっと。ますます。かえって。例文: まさり じょーずん
なり にゃーん (ますます上手になった)。
- まさりまい [masarimai] 【副】もっと。ますます。かえって。例文: まさりまい
だみだら (かえってダメだよ)。
- ます [masɪ] 【名】より良い。まし。例文: くいがどう ます (こっちの方がいい)。
- まず [madzɪ] 【副】先ず。
- まずがーていー [madzɪgaatii] 【副】試しに。例文: まずがーていー ぬみ みー
る (試しに飲んでごらん)。
- ますなが [masɪnaga] 【名】魚の一種。
- まずむぬ [madzɪmunu] 【名】幽霊、妖怪。
- まズン [madzɪm] 【動 1: まずみ、まずまん】積み重ねる。
- また [mata] 【副】又、さらに、その上。
- またす [matasɪ] 【動 1: またし、またさん】待たせる。
- またばい [matabai] 【名】股の間、両腿の間。
- またばし [matabaci] 【名】股の間、両腿の間。
- またンまが [matammaga] 【名】ひ孫。
- まちゃー [matcaa] 【名】雀 (すずめ)。
- まつ [matsɪ] 【名】松。

- まつ [matsɯ] 【動 1: まち、またん】待つ。
- まつがい [matsɯgai] 【副】ご免なさい。例文: まつがいどー (ご免なさい)。
- まつがいがーまつがい [matsɯgaigaamatsɯgai] 【副】ご免なさい。
- まつかに [matsɯkani] 【名】マツカニ、人名。松金、真津金とも表記する。
- まつぎー [matsɯgii] 【名】睫毛。
- まつぎー [matsɯgii] 【名】松の木。
- まっち [mattei] 【動 2: まっち、まっつうん】① 混ざる。② 混ぜる。
- まっちゃ [mattea] 【名】店、店舗。
- まつっヴい [matsɯvvi] 【動 2: まつっヴい、まつっヴうん】(糸などが) 絡(から)まる。
- まつふあ [maffa] 【名】枕。
- まつふあっズう [maffazzu] 【名】魚の一種。
- まどう [madu] 【名】窓。
- まどう [madu] 【名】暇。
- まとうみ [matumi] 【動 2: まとうみ、まとうむん】まとめる。
- まない [manai] 【形】素直、大人しい。
- まながいイ [managaiɪ] 【動 1: まながいり、まながいらん】転覆する。
- まなた [manata] 【名】蛙の一種。
- まなちや [manatea] 【名】俎板(まないた)。
- まに [mani] 【名】畝(うね)。
- まによー [manjoo] 【動 1: まにゃい、まにゃーん】間に合う。
- まの一き [manooki] 【動 2: まの一き、まの一くん】修理する。
- まぶぐ [mapugu] 【名】魚の一種。
- まぶゆ [mabuju] 【名】魚の一種。
- ままーイ [mamaaɪ] 【名】周囲、付近。
- まみ [mami] 【名】① 豆。② 腎臓。
- まみ [mami] 【動 2: まみ、まむん】ちょびっと(薬などを)塗る。
- まみな [mamina] 【名】モヤシ。
- まやーす [majaasɯ] 【動 1: まやーし、まやーさん】投げて捨てる。
- まやがらす [majagarasɯ] 【動 1: まやがらし、まやがらさん】放り投げる。
- まゆ [maju] 【名】眉毛。
- まゆ [maju] 【名】猫。
- まら [mara] 【名】男性器。
- まらっふぎ [maraffugi] 【名】(男性の)陰毛。
- まる [maru] 【形】短い。
- まるキ [marukɯ] 【動 1: まるき、まるかん】縛る。
- まんじゅー [mandzuu] 【名】パパイヤ。
- まんじゅーぎー [mandzuugii] 【名】パパイヤの木。
- まんだす [mandasɯ] 【動 1: まんだし、まんださん】はみ出す。
- まんでい [mandi] 【動 2: まんでい、まんどうん】飛び出る、はみ出る。
- まんでいばー [mandibaa] 【名】出っ歯。
- まんま [mamma] 【名】拳骨。

- みー [mii] 【名】 目。
 みー [mii] 【名】 芽。
 みー [mii] 【名】 中。例文：やまぬ みー (林の中)。
 みー [mii] 【名】 雌。例文：みーぴんざ (雌ヤギ)。
 みー [mii] 【名】 穴。
 みー [mii] 【動 2：みー、みゅーん】 ① 見る。② (人が) 居る。
 ミー [mɪ] 【数】 三。
 ミー [mɪ] 【名】 (魚などの) 身。
 ミー [mɪ] 【形】 新しい。
 みーぐー [miiguu] 【名】 穴埋め、服の繕い、畑の植え替え。
 みーぐり [miiguri] 【形】 見にくい、見づらい。
 みーごー [miigoo] 【形】 見にくい、見づらい。
 みーだつ [miidatsɿ] 【名】 女性が独身であること。
 みーちゃぎ [miiteagi] 【形】 見苦しい、みすばらしい。
 みーつ [miitsɿ] 【名】 三つ。
 みーつう [miitsu] 【名】 目に入るゴミ。
 みーつうむぬ [miitsumunu] 【名】 目の中に入るゴミ。
 みーつき [miitsɿki] 【動 2：みーつき、みーつくん】 じっと見つめる。
 ミーていなてい [mɪtinati] 【名】 一昨年。
 ミーな [mɪna] 【名】 蕘 (にら)。
 みーにつ [miinitsɿ] 【名】 命日。
 みーぬかー [miinukaa] 【名】 瞼 (まぶた)。
 みーぬ ばぎきや [miinu pagikja] 【連語】 「目が剥げるまで」甚だしい努力の譬え。例文：みーぬばぎきや ばたらき (一所懸命働きなさい)。
 みーぱらん [miiparam] 【名】 卵巣。
 みーびき [miibiki] 【名】 雌雄同体。
 ミーぶた [mɪbuta] 【形】 実がふだんより大きい。
 みーまーイ [miimaaɿ] 【名】 見物。
 みーまらばー [miimarapaa] 【連語】 「目・男根・歯」老衰の譬え。
 ミーみゅーとうら [mɪmjutura] 【名】 新婚の夫婦。
 みーむつつ [miimuttsɿ] 【動 1：みーむっち、みーむつつあん】 老眼になる。
 みーむぬ [miimunu] 【名】 雌。
 みーやー [miijaa] 【名】 眼医者。
 ミーゆみ [mɪjumi] 【名】 新婦、新婚の女性。
 みが [miga] 【名】 ミガ、女性の名前。
 みかかす [mikakasɿ] 【動 1：みかかし、みかかさん】 (ちょっとした) 傷を付ける、損害を与える。
 みかき [mikaki] 【動 2：みかき、みかくん】 傷が付く、欠ける。
 みがキ [migakɿ] 【動 1：みがき、みがかん】 みがかく。
 みキ [mikɿ] 【動 1：みき、みかん】 ～めく、擬態語・擬声語に付き動詞を派生させる接辞。例文：ぶイ° みキ (ぶつぶつと言う、小言を言う)。
 みぐとう [migutu] 【副】 見事。
 みくふあ [mikufa] 【形】 嫌い、憎い。
 みくン [mikum] 【名】 見込み。
 みざーす [midzaasɿ] 【形】 (人が) 明るい。

- みし [miei] 【動 2：みし、みそうん】 見せる。
- みす [misɿ] 【名】 飯。
- みず [midzɿ] 【名】 水。
- みすきな [misɿkina] 【名】 杓文字。
- みた [mita] 【副】 そういえば。
- みたーっヴい [mitaavvi] 【動 2：みたーっヴい、みたーっヴうん】 眩暈（めまい）する、くらくらする。
- ミタが [mɿtaga] 【名】 三つ子。
- みつあーい [mitsaaɿ] 【名】 三人。
- みつふあかつふあ [miffakaffa] 【擬】 適当に、でたらめに。
- みとうぱい [mitupaɿ] 【形】 眩しい。
- みどうん [midum] 【名】 ① 女性。② 妻。
- みどうんぐる [midumguru] 【形】 女誑し。
- みどうんっヴあ [midunvva] 【名】 娘、女の子。
- みどうんぶす [midumbusɿ] 【名】 ヤンキーな女性、不良の女性。
- みどうんぶり [midumburi] 【形】 女誑し。
- みどうんやらび [midunjarabi] 【名】 女の子、若い女性。
- みなか [minaka] 【名】 庭。
- みながま [minagama] 【名】 小指。
- みぱいふくん [mipaɿfukum] 【名】（口に食べ物をいっぱい）入れること。
- みばかい [mibakaɿ] 【動 1：みばかり、みばかりん】 ① 面倒を見る、世話する。
②（機械を）整備する。
- みぱぎ [mipagi] 【名】 目が見えないこと、盲目。
- みぱぎざか [mipagidzaka] 【名】 ① ネズミの一種（ジャコウネズミ）。② 人を罵る言葉。
- みぱぎや [mipagja] 【名】 目の悪いや見えない人。
- みぱな [mipana] 【名】 顔。
- みぱながーむキ [mipanagaamukɿ] 【連語 1：みぱながーむき、みぱながーむかん】 恥をかかせる。
- みぱりや [mibarja] 【名】 魚の一種。
- みみじやー [mimidzaa] 【名】 魚の一種、ヒメフエダイ。
- みゃー [mjaa] 【名】 勝負。例文：ピキみゃー（引く勝負、引き合い勝負）。
- みゃーぎ [mjaagi] 【動 2：みゃーぎ、みゃーぐん】 振り返って見る。
- みゃーく [mjaaku] 【名】 ① 宮古、宮古島、宮古群島。② 世の中、現世。③ 楽しいこと、楽なこと。例文：あんしー うーきやぬ みゃーく（こんなに楽しく）。
- みゃーくーみゃーく [mjaakuumjaaku] 【副】 宮古島風。
- みゃーくずま [mjaakudzɿma] 【名】 宮古島、宮古本島。
- みゃーくピとう [mjaakupɿtu] 【名】 宮古の人、宮古島出身の人。
- みゃーくふつ [mjaakufutsɿ] 【名】 宮古方言、宮古語。
- みゃーぐん [mjaagun] 【名】 宮国。
- みゃーす [mjaasɿ] 【形】 楽。
- みゅーい [mjuuɿ] 【名】 姪、甥。
- みゅーとら [mjuutura] 【名】 夫婦。
- みん [mim] 【名】 耳。

ミン [mim] 【名】茸 (きのこ)。
 ミンカー [minkaa] 【名】耳が聞こえない人。
 ミンガミ [mingami] 【名】取っ手の付いている甕 (かめ)。
 ミンギ [mingi] 【動 1: ミンギ、ミンガン】殴る。
 ミンダイ [mimdaɪ] 【名】耳から出る汁。
 ミンたっずう [mintazzu] 【名】魚の一種。
 ミンたま [mintama] 【名】目玉。
 ミンばに [mimbani] 【名】びんた。

—む—

むい [mui] 【動 2: むい、むいゆん】燃える。
 むイ [muɪ] 【接頭】すっかりと。完全に。語頭に付きその意味を強調する。例文：
 むいばっし (すっかり忘れる)。
 むイ [muɪ] 【動 1: むり、むらん】挽 (も) ぐ。
 むイ [muɪ] 【動 1: むり、むらん】子守する。
 むいぞーき [muɪdzooki] 【名】箕 (み)、(豆用の) 浅い籠。
 むいっづあ [muɪvva] 【名】子守されている子供。
 むいとう [muɪtu] 【副】全く。
 むいぶり [muɪburi] 【名】すっかり惚れてしまうこと。
 むギ [mugi] 【名】麦。
 むぎー [mugii] 【形】何事においても無才、無芸。
 むぎゃーり [mugjaari] 【動 2: むぎゃーり、むぎゃーるん】① 濁る。② お腹の調子が悪い。
 むく [muku] 【名】婿。
 むぐイ [muguɪ] 【動 1: むぐり、むぐらん】潜る。
 むす [musɪ] 【名】虫。
 むずふイ [mudzɪfuɪ] 【名】作物。
 むたぎ [mutagi] 【動 2: むたぎ、むたぐん】持ち上げる。
 むたす [mutasɪ] 【動 1: むたし、むたさん】持たせる。あげる。
 むつ [mutsɪ] 【名】餅。
 むつ [mutsɪ] 【名】左官。
 むつ [mutsɪ] 【動 1: むち、むたん】① 持つ。② 運転する。③ 育てる。
 むつかす [mutsɪkasɪ] 【形】難しい。
 むっす [mussɪ] 【動 1: むっし、むっさん】① むしる、むしり取る、ちぎる。② つねる。
 むっすう [mussu] 【名】筵 (むしろ)。
 むっちやかイ [mutteakaɪ] 【動 1: むっちやかり、むっちやからん】くっ付く。
 むっちやむっちや [mutteamuttea] 【擬】べたべた。
 むつふさ [mutsɪfusa] 【名】草の一種。
 むてい [muti] 【名】分。例文：うぬ ふさー ぴんざぬ むていどー (この草はヤギの分だよ)。
 むでい [mudi] 【動 2: むでい、むどうん】ねじる。
 むでいむぬイ [mudimunuɪ] 【名】振じった言葉。
 むとう [mutu] 【名】木の株、株を数える助数詞。

- むどうイ [muduɪ] 【動 1: むどうり、むどうらん】 戻る。
- むどうす [mudusɪ] 【動 1: むどうし、むどうさん】 戻す。
- むとうビ [mutubɪ] 【名】 野イチゴ。
- むとうびらい [mutubirai] 【名】 先妻。
- むぬ [munu] 【文】 ~なのに。例文: じんな にゃーんむぬー! (お金がないのに!)。
- むぬ [munu] 【名】 ① 物。者。② 食事。ご飯。例文: むぬーばー んなだ ふぁーん (食事はまだ食べていない) ③ 動詞や形容詞に付き「~すること」「~するひと」を表す。
- むぬイ [munuɪ] 【名】 言葉。
- むぬぐとう [munugutu] 【名】 物事。
- むぬばなす [munubanasɪ] 【名】 お話。
- むぬゆみや [munujumja] 【名】 おしゃべりな人。
- むぬゆン [munujum] 【形】 おしゃべり。
- むむに [mumuni] 【名】 腿 (もも)。
- むやい [mujai] 【名】 模合、頼母子講 (相互的な金融組合)。
- むり [muri] 【動 2: むり、むるん】 漏れる。
- むろー [muroo] 【動 1: むらい、むらーん】 貰う。
- むン [mum] 【名】 桃。
- むン [mum] 【動 1: むみ、むまん】 揉む。
- むんじやむんじや [mundzamundza] 【擬】 くしゃくしゃ。
- むンふつつ [mumfuttsɪ] 【動 1: むンふっち、むンふつつあん】 皺くちやにする。

—も—

- もーき [mooki] 【動 2: もーき、もーくん】 (金を) 儲ける。
- もーとう [mootu] 【副】 真っ直ぐ。

—や—

- やー [jaa] 【数】 八。
- やー [jaa] 【終】 ~ね。例文: きゅーや ぞーわーつキやー (今日は良い天気ね)。
- やー [jaa] 【名】 家。
- やー [jaa] 【動 1: あらん】 ~だ。コピュラ。例文: やらびどう やーむぬー (子供だのに)。やーや んざ やりやー? (家はどこですか?)。
- やーくす [jaakusɪ] 【名】 引っ越し。
- やーす [jaasɪ] 【形】 お腹がすいている、空腹である。
- やーずみ [jaadzɪmi] 【名】 ヤモリ。
- やーつ [jaatsɪ] 【名】 八つ。
- やーっしゅー [jaaceuu] 【名】 凶年、飢餓。
- やーでい [jaadi] 【名】 家族。
- やーでいぬ たすきだみ [jaadinu tasɪkidami] 【名】 家庭を助ける行事。
- やーに [jaani] 【名】 来年、翌年。
- やーぬい [jaanui] 【名】 屋根。
- やーぬピとう [jaanupɪtu] 【名】 八人、八名。

- やーばん [jaaban] 【名】留守番。
- やーふキ [jaafukɨ] 【名】家葺き、家を建てること。
- やーま [jaama] 【名】八重山。
- やーまぬンまがゆっばイ [jaamanummagajuppaɨ] 【名】草の一種。
- やーまピぐる [jaamaɸguru] 【連語】八重山冷え。八重山の人の性格が冷たいこと
のたとえ。
- やーむとう [jaamutu] 【名】本家。
- やーら [jaara] 【形】柔らかい。
- やい [jai] 【形】(体が) 細い、痩せている。
- やい [jai] 【動2: やい、やいゆん】痩せる。
- やイ [jaɨ] 【名】銚。
- やいなが [jainaga] 【形】細くて背が高い。
- やいば [jaiba] 【接続】だから。
- やいまだ [jaimanda] 【名】非常にやせている人。
- やかずまーイ [jakadzɨmaaɨ] 【名】しょっちゅうあちこちに行くこと。
- やかずまーりや [jakadzɨmaarja] 【名】しょっちゅうあちこちに行く人。
- やがてい [jagati] 【副】もうすぐ。じきに。間もなく。例文: ばっさ やがてい
キっとうす (バスはすぐ来る)。
- やキ [jakɨ] 【動1: やき、やかん】① 焼く。② (肉などを) 焼く、(食用に動物
を屠殺して) 料理する。
- やぐい [jagui] 【名】どなっている声、叫び。
- やぐみ [jagumi] 【形】① 恐れ多い。② すごい、とんでもない。
- やす [jasɨ] 【形】① 安い。② 動詞に付き「～しやすい」を表す。例文: つこー
やすーぬ きかい (使いやすい機械)。
- やすキ [jasɨkɨ] 【名】屋敷。敷地。
- やすたい [jasɨtai] 【形】(値段が) 安い。安価。
- やずまい [jadzɨmaɨ] 【動1: やずまり、やずまらん】不妊症である。
- やつ [jatsɨ] 【名】お灸 (きゅう)。
- やっヴあ [javva] 【形】優しくない。
- やっヴあす [javvasɨ] 【動1: やっヴあし、やっヴあさん】壊す。
- やっヴい [javvi] 【形】暴力的。
- やっヴい [javvi] 【動2: やっヴい、やっヴうん】① 壊れる。② 悪くなる。③ (海
が) 荒れる。
- やっかい [jakkai] 【形】厄介。
- やっくん [jakkun] 【名】薬缶。
- やっジあみ [jazzami] 【名】(建物の中に) 侵入する雨。
- やつふさ [jatsɨfusa] 【名】草の一種。
- やでいゆン [jadijum] 【名】(口) 喧嘩。
- やとう [jatu] 【名】(潮が引いたときに残っている) 水溜り。
- やどう [jadu] 【名】戸、ドア。
- やどうばす [jadubasɨ] 【名】雨戸。
- やどうふつ [jadufutsɨ] 【名】玄関。
- やどうむや [jadumuja] 【名】水字貝。
- やな [jana] 【形】悪い。
- やないみ [janaimi] 【名】悪夢。

- やなうむくとう [janaumukutu] 【名】 ずるさ、悪知恵。
 やなかーぎ [janakaagi] 【名】 醜い容貌。
 やなさい [janasai] 【名】 ずるい、悪知恵。
 やなじんぶん [janadzinbun] 【名】 弁えがない。
 やなすんキ [janasɯŋkɯ] 【名】 悪い根性。
 やなすんた [janasɯmta] 【名】 根性が悪い。
 やなびゃーイ [janabjaaɯ] 【名】 非常に強い日差し。
 やなみー [janamii] 【名】 怖い目つきで見ること。
 やなわーつキ [janavaatsɯkɯ] 【名】 悪天候。
 やなんまり [janammari] 【名】 ぶさいくであること。
 やぱ [japa] 【形】 ① 柔らかい。② やさしい。③ (籤などで) 運がいい。
 やばん [jabam] 【動 1: やばみ、やばまん】 中止する、やめる。
 やぶイ [jabuɯ] 【動 1: やぶり、やぶらん】 壊す、千切る。
 やふぱり [jafupari] 【名】 厄が晴れること。
 やま [jama] 【接頭】 野生の、野良。例文: やまいん (野良犬)。
 やま [jama] 【名】 ① 林、森。② 山。
 やま [jama] 【名】 畏、仕掛け。
 やまいん [jamain] 【名】 野良犬。
 やまかさ [jamakasa] 【副】 たくさん。多い。例文: やまかさぬ じん (たくさんの
 のお金)。たらまざるまんな ぴんざぬどう やまかさ うー (多良間島にはヤギ
 がたくさんいる)。
 やます [jamasɯ] 【動 1: やまし、やまさん】 痛める。
 やまだつ [jamadatsɯ] 【名】 下痢。
 やまとう [jamatu] 【名】 大和。日本本土。琉球列島を除いた日本。
 やまとうぎに [jamatudzani] 【名】 本土血統、本土出身、又は親が本土出身である。
 やまとうピとう [jamatupɯtu] 【名】 日本人、本土出身の人、ナイチャー。
 やまとうふつ [jamatufutsɯ] 【名】 日本語。
 やまむん [jamamum] 【名】 山桃。
 やみ [jami] 【動 2: やみ、やむん】 やめる。
 やらす [jarasɯ] 【動 1: やらし、やらさん】 行かせる、派遣する。
 やらび [jarabi] 【名】 児童、子供。
 やらびつつあぎ [jarabittsagi] 【形】 子供っぽい。
 やらびなー [jarabinaa] 【名】 童名。
 やり [jari] 【形】 古い、使い古された、ボロボロ。
 やりぎん [jarigɯn] 【名】 「ぼろ着物」(ヤギの) 胃袋。
 やん [jam] 【名】 ① 病気。② 痛み。
 やん [jam] 【形】 痛い。
 やん [jam] 【動 1: やみ、やま n】 ① 痛む。② 病む、病気である、(病気に) 罹
 る。
 やんさ [jamsa] 【名】 痛み。
 やんピとう [jampɯtu] 【名】 病人。
 やんまー [jammaa] 【感】 待てよ。

- ゆ [ju] 【終】 ～よ。相手に対する訴えかけを強くする。
- ゆー [juu] 【数】 四。
- ゆー [juu] 【名】 お湯。
- ゆー [juu] 【名】 夜。
- ゆー [juu] 【形】 重い。
- ゆー [juu] 【動 1：ゆい、やーん】 (髪を) 結う、結ぶ。
- ゆー [juu] 【副】 ① よく、頻繁に。② 良く。
- ゆーす [juusɿ] 【動 1：ゆーし、ゆーさん】 ～しきれぬ。否定の形で使われることが多い。例文：みゃーくづつうばー あイ° ゆーさん (宮古方言が言いきれない)。
- ゆーつ [juutsɿ] 【名】 四つ。
- ゆーでい [juudi] 【動 2：ゆーでい、ゆーどうん】 茹でる。
- ゆーでいとうなか [juuditunaka] 【名】 ゆで卵。
- ゆーふる [juufuru] 【名】 お風呂。
- ゆイ [juɿ] 【名】 夜。
- ゆイ [juɿ] 【名】 晩ご飯、夕食。
- ゆイ [juɿ] 【名】 結、共同作業・相互扶助の制度。
- ゆイ [juɿ] 【動 1：ゆり、ゆらん】 依る。
- ゆイきゃ [juɿkja] 【文】 ～より。例文：かりゃー くずうゆイ° きゃー やいど
うー (彼は去年より痩せている)。
- ゆヴ [juv] 【名】 お粥。
- ゆが [juga] 【形】 ① 歪んだ。② 不正、間違っている。
- ゆかーす [jukaasɿ] 【動 1：ゆかーし、ゆかーさん】 休ませる。
- ゆかーら [jukaara] 【名】 側、横。
- ゆかーらばた [jukaarabata] 【名】 脇腹。
- ゆかい [jukaɿ] 【動 1：ゆかり、ゆからん】 幸せである。
- ゆがいな [jugaina] 【名】 冗談、滑稽。
- ゆがならーす [juganaraasɿ] 【名】 間違った教え。
- ゆかに [jukani] 【名】 床。
- ゆかばす [jukabasɿ] 【名】 敷居。
- ゆがみー [jugamii] 【名】 視線をそらすこと。
- ゆがン [jugam] 【動 1：ゆがみ、ゆがまん】 歪む、曲がる。
- ゆキ [jukɿ] 【名】 斧。
- ゆぎゃらつふあにやーん [jugjaraffanjaan] 【連語】 余計、要らない。
- ゆく [juku] 【名】 横。
- ゆくー [jukuu] 【名】 休憩、休み。
- ゆくー [jukuu] 【動 1：ゆくい、ゆかーん】 休む、休憩する。
- ゆぐす [jugusɿ] 【動 1：ゆぐし、ゆぐさん】 汚す。
- ゆくみー [jukumii] 【名】 よそ見。
- ゆぐり [juguri] 【名】 汚れ。
- ゆぐり [juguri] 【動 2：ゆぐり、ゆぐるん】 汚れる。
- ゆさらび [jusarabi] 【名】 夕、夕方。
- ゆし [juei] 【動 2：ゆし、ゆそうん】 寄せる。
- ゆすキ [jusɿkɿ] 【動 1：ゆすき、ゆすかん】 濯 (そそ) ぐ。
- ゆだ [juda] 【名】 枝。

- ゆたーイ [jutaaɪ] 【名】 四人。
 ゆだに [judani] 【名】 しばらくの間、一瞬間。
 ゆだにゃー すうーんきゃ [judanjaa suunkja] 【連語】 間もなく、すぐに。
 ゆだりゃ [judarja] 【名】 よだれをたらす人。
 ゆちらー にゃーん [jutsiraa njaan] 【連語】 役に立たない。
 ゆつ [jutsɪ] 【形】 幸福、幸せである。
 ゆっずあ [juzza] 【文】 ～より。例文：かりゃー くずうゆイ° きゃー やいどうー (彼は去年より痩せている)。
 ゆつつ [juttsɪ] 【動 1：ゆっち、ゆつつあん】 ① 寄る。② (前へ) 進む、前進する。
 ゆっぱイ [juppaɪ] 【名】 小便、しっこ。
 ゆっふあーす [juffaasɪ] 【形】 不真面目、怠慢。
 ゆどうます [judumasɪ] 【動 1：ゆどうまし、ゆどうまさん】 止める、停止させる。
 ゆどうん [judum] 【動 1：ゆどうみ、ゆどうまん】 止まる。
 ゆない [junai] 【名】 夜。
 ゆなか [junaka] 【名】 夜中、夜。
 ゆなば [junapa] 【名】 与那覇集落。
 ゆにく [juniku] 【名】 麦粉。
 ゆぬ [junu] 【形】 同じ。
 ゆぬぐー [junuguu] 【名】 同類、同じ。
 ゆぬす [junusɪ] 【名】 ユヌス (人名)、世の主。
 ゆぬとうす [junutusɪ] 【名】 同年性。
 ゆぬなか [jununaka] 【名】 世の中。
 ゆばぎむぬ [jupagimunu] 【名】 いつ経っても成功しない人。
 ゆばす [jubasɪ] 【動 1：ゆばし、ゆばさん】 吸わせる、吸い込ませる。
 ゆび [jubi] 【名】 昨夜、昨晚。
 ゆビ [jubɪ] 【動 1：ゆび、ゆばん】 ① 吸う、吸い込む。② 感電させる。
 ゆまた [jumata] 【名】 十字路。
 ゆみ [jumi] 【名】 嫁。
 ゆみゃーす [jumjaasɪ] 【動 1：ゆみゃーし、ゆみゃーさん】 数える。
 ゆむ [jumu] 【接頭】 付く言葉を強調する。主に悪い意味の言葉に付く。例文：ゆむつギ (最も劣っている)。
 ゆむざにふ [jumudzanifu] 【形】 非常に憎い。
 ゆむつギ [jumutsɪgɪ] 【名】 もっとも劣っている。最低。
 ゆむな [jumuna] 【名】 鼠 (ネズミ)。
 ゆむぬ [jumunu] 【名】 鼠 (ネズミ)。
 ゆらり [jurari] 【動 2：ゆらり、ゆらるん】 (道に) 迷う。
 ゆらりむぬ [jurarimunu] 【名】 風来坊。
 ゆるがす [jurugasɪ] 【動 1：ゆるがし、ゆるがさん】 動かす。
 ゆるギ [jurugɪ] 【動 1：ゆるぎ、ゆるがん】 動く。
 ゆるす [jurusɪ] 【動 1：ゆるし、ゆるさん】 許す。
 ゆん [jum] 【形】 お喋り。
 ゆん [jum] 【動 1：ゆみ、ゆまん】 ① 声に出して言う。お喋りをする。② 読む。
 ③ 数える。
 ゆんぎー [jumgii] 【名】 耕す部品の一つ。

—よ—

よー [joo] 【形】 弱い。
よーイ [jooi] 【名】 祝い、祝賀。
よーイ [jooi] 【動 1：よーり、よーらん】 弱まる、弱くなる。
よーイふおー [jooifoo] 【名】 宴、祝宴。
よーかばイ [jookaba] 【名】 太陽が沈んで夜になるまでの時間帯。
よーだがま [joodagama] 【名】 病人。
よーだき [joodaki] 【形】 多い、たくさん。
よーばー [joobaa] 【名】 弱い人。
よーん [joon] 【文】 ～ように。例文：のーきょーん やまかき よきんぬ うっ
きよーん すーやー (農協にたくさんのお金を置くようにしよう)。
よーんなー [joonnaa] 【副】 ゆっくり。

—ら—

らい [rai] 【文】 ① ～られる。受身（～される）の接辞。例文：じゅんしゃんど
う んちゃみらいたー (警察官に逮捕された)。② ～られる。可能（～すること
ができる）の接辞。例文：とうみらいどうす (探せる)。とうみろーん (探せない)。

—る—

る [ru] 【文】 ～ろ、～なさい。命令形。クラス 2 動詞のい語幹に付く。日本語の
～ろほど口調は強くない。例文：みーる (見なさい)。いでいる (出なさい)。

—わ—

わー [vaa] 【名】 豚。
わーきな [vaakina] 【名】 ① 態度が悪い、傲慢であること。② 嫉妬。
わーしゃー [vaacaa] 【名】 豚をつぶし、売ることを職業とする人。
わーちゃく [vaateaku] 【名】 ① 悪戯。② あいにく。例文：わーちゃくどう う
きなーんかい ぴり うらんだら (あいにく沖縄に行って、いないのだ)。
わーつき [vaatsik] 【名】 天気。
わーばだ [vaapada] 【名】 表面。
わーびがた [vaabigata] 【名】 上級や上役の人。
わーぶ [vaabu] 【名】 上。
わーら [vaara] 【名】 上、上座。
わーり [vaari] 【動 2：わーり、わーるん】 追われる。
わいていー [vaitii] 【副】 一所懸命。
わいどー [vaidoo] 【感】 励ましの言葉、頑張れ。

—ん—

ん [n] 【助数】 ～回。回数を数える助数詞。例文：いふんが くまんかい キったりゃー？(何回ここに来たの?)。んにゃ ピとうんていー うりゅーばー すうーじゃーん (もう二度とそれをやらない)。

ん [n] 【文】 ～に、～で。例文：しゅーや やーんどう うらまい (おじいさんは家にいらっしゃる)。

ん [n] 【文】 ～ない。否定形を作る。例文：くーん (来ない)。すうーん (しない)。いどうん (出ない)。ぶどうらん (踊らない)。

ン [m] 【文】 M 語尾。例文：んにゃ ふおーんどー (もう食べちゃうよ)。あさンまぬきゃーや がんずうーっちゃ うらまい。ン？(ご両親は元気でいらっしゃるの?)。

んー [nn] 【形】 似ている。

んー [nn] 【感】 はい。同輩や目下に対して用いる。

んー [nn] 【感】 話し手が次の言葉などを思い出そうとしているときに用いる。

ンー [mm] 【数】 六。

ンー [mm] 【名】 巳 (み)。

ンー [mm] 【名】 芋。

ンー [mm] 【動 1：ンみ、ンまん】 熟する。

ンー [mm] 【動 1：ンみ、ンまん】 膿 (う) む。化膿する。

ンー [mm] 【動 1：ンみ、ンまん】 績 (う) む。(麻などを) よりあわせる。

ンーがまちや [mmgamateɔ] 【名】 芋ほっぺ屋。服顔。

んーぎ [nngi] 【形】 似たようである。

ンーぎー [mmgii] 【名】 芋づる。

ンーぐーる [mmguuru] 【名】 芋を丸く切った料理。

んーさ [nnsa] 【名】 唾 (おし)。

んーさ [nnsa] 【形】 (比較して) 似たようである。

んーだ [nnda] 【形】 似ている。

ンーつ [mmtsɯ] 【名】 六つ。

んーな [nnna] 【感】 はい。同輩や目下に対して用いる。

ンーな [mmna] 【名】 カタツムリ。

ンーな [mmna] 【名】 皆、全部。

ンーにーなび [mmniinabi] 【名】 芋用の (大型) 鍋。

ンーぬイ [mmnuɿ] 【名】 芋のお握り。

ンーぬピとう [mmnupɿtu] 【名】 六人、六名。

ンーばとう [mmbatu] 【名】 鳩。

ンーぶ [mmbu] 【名】 臍 (へそ)。

ンーぷりゃ [mmpurja] 【名】 芋掘り用の道具。

んかい [ŋkai] 【文】 ～へ、目的地を表す。例文：くまんかい くー (ここに来なさい)。

んかい [ŋkai] 【動 2：んかい、んかいゆん】 迎える、歓迎する。

んかし [ŋkaɛi] 【文】 ～へ (向かう方向)。例文：イーんかし あイ° き くー (西に向って歩いて来なさい)。

んかじ [ŋkadzi] 【名】 ムカデ。

んキ [ŋkɿ] 【名】 お神酒。

んぎ [ŋgi] 【名】 アダンの木。

んギ [ŋgɿ] 【名】 棘。

- んぎ [ŋgɪ] 【名】 右。
 んぎ [ŋgɪ] 【動 1: んぎ、んがん】 抜く。
 んぎていー [ŋgɪtɪi] 【名】 右手。
 んきばな [ŋkɪbana] 【名】 軒下。
 んぎゃ [ŋgja] 【形】 苦い。
 んきゃーん [ŋkjaan] 【名】 昔。
 んきゃーんばなす [ŋkjaanbanasɪ] 【名】 昔話。
 んきゃぎ [ŋkjagi] 【動 2: んきゃぎ、んきゃぐん】 召し上がる、「食べる」「飲む」の尊敬語。
 んぎゃな [ŋgjana] 【名】 にが菜。
 んきゃふ [ŋkjafu] 【名】 海葡萄。
 んぎゃます [ŋgjamasɪ] 【形】 うるさい。
 んキン [ŋkɪm] 【名】 ニキビ。
 んくン [ŋkum] 【動 1: んくみ、んくまん】 ① 下腹に力を入れる。② (痛みなどで) 体を丸める。
 んこー [ŋkoo] 【動 1: んかい、んかーん】 向かう。
 んざ [ndza] 【名】 どこ。例文: あざが やーや んざが やらまいやー? (おにいさんお家はどこにありますか?)。
 んざがま [ndzagama] 【名】 人間のくず。
 んざた [ndzata] 【名】 どころ。例文: んざた やたーがりー? (どころ辺だったっけ?)。
 んざんざ [ndzandza] 【名】 どこそこ。
 んじ [ndzi] 【名】 ① どれ。例文: んじがが ます? (どれがいい?)。② どれどれ。確認する時や、物を渡してもらうように要求する時などに用いる。例文: んじ みし みーる (どれ、見せてちょうだい)。
 んしー [neii] 【文】 ~ようで、~のように。
 んじた [ndzita] 【名】 どれら。
 んじんじ [ndzindzi] 【感】 どれどれ。確認する時、物を渡してもらうように要求する時、相手を促す時などに用いる。例文: んじんじ みし みーる (どれどれ、見せてごらん)。
 ンずう [mdzu] 【名】 溝。
 んずぎ [ndzɪgi] 【形】 醜い。
 んぞーさ [ndzoosa] 【副】 残念。
 んぞーな [ndzoona] 【形】 残念。
 ンた [mta] 【名】 土。
 んだ伊 [ndaɪ] 【動 1: んだり、んだらん】 壊す。
 んたビ [ntabɪ] 【動 1: んたび、んたばん】 ① いじる。② 殴る。
 ンたぶき [mtabuki] 【名】 土埃。
 ンたみーだか [mtamiidaka] 【名】 目の黒いサシバ。
 んだらす [ndarasɪ] 【動 1: んだらし、んだらさん】 壊す。
 んだり [ndari] 【動 2: んだり、んだるん】 壊れる、故障する。
 んちゃみ [nteami] 【動 2: んちゃみ、んちゃむん】 ① 捕まえる。② 触る。
 ンつ [mtsɪ] 【名】 道。
 ンつ [mtsɪ] 【動 1: ンち、ンたん】 満ちる、多い、いっぱいである。
 んつあ [ntsa] 【名】 (動詞に付き) ~し方、方法。

- ンつう [mtsu] 【名】味噌。
 ンつうす [mtsusɿ] 【名】味噌汁。
 ンつなか [mtsɿnaka] 【副】途中。
 ンてい [mti] 【動2：ンてい、ンとうん】満たせる。
 んどうイ [nduɿ] 【動1：んどおり、んどौरん】叩きつける。
 んとうビ [ntubɿ] 【名】野イチゴ。
 んどうぼーず [nduboodzɿ] 【名】雲丹。
 んな [nna] 【副】もう（一回など）。あと（一年など）。例文：んな ピてい一つ
 どう あー（もう一つある）。
 んなー [nnaa] 【名】今。
 んなーイ [nnaaɿ] 【名】皆愛、下地にある集落。
 んなーイふつ [nnaaɿfutsɿ] 【名】皆愛方言。
 んなイ [nnaɿ] 【動1：んなり、んならん】（ご飯を）握る。
 んなイ [nnaɿ] 【動1：んなり、んならん】退く。
 ンなか [mnaka] 【名】中央、真ん中。
 ンなぐー [mnaguu] 【名】砂。
 んなぐーずー [nnaguudzɿ] 【名】砂地。
 んなす [nnasɿ] 【動1：んなし、んなさん】退ける。
 んなだ [nnada] 【副】まだ。
 んなつず [nnatsɿdzɿ] 【名】頭のとっぺん。
 んなび [nnapi] 【副】もっと。例文：んなび っジ ふーじゃーん？（もっと入
 れてくれない？）。
 んなピカイ [nnapɿkaɿ] 【名】稲光。
 んなま [nnama] 【名】今。
 んなミーてい [nnaɿmɿti] 【名】再来年。
 んならす [nnaɿrasɿ] 【動1：んならし、んならさん】退かす。
 んにゃ [nnja] 【名】大変なこと。例文：んにゃてい一どうー（たえられない、き
 つい）。
 んにゃ [nnja] 【副】もう（しない）。例文：んにゃ くーん（もう来ない）。
 んにゃさいか [nnjasaika] 【連語】大変だ。
 んにゃすぐ [nnjasɿgu] 【副】話の中に次の展開を強調する副詞。
 んにゃゆーんにゃ [nnjajuunnja] 【副】大変だ。
 んぬつ [nnutsɿ] 【名】命、生命。
 んぬつがばだ [nnutsɿgapada] 【連語】命の間、一生（の間）。
 ンばい [mbai] 【動2：ンばい、ンばいゆん】（傷が）広がる、化膿が進む。
 ンばす [mbasɿ] 【動1：ンばし、ンばさん】伸ばす。
 ンビ [mbɿ] 【動1：ンび、ンばん】伸びる。
 ンびよー [mbjoo] 【動1：ンびゃい、ンびゃーん】耐える。
 ンぶす [mbusɿ] 【動1：ンぶし、ンぶさん】蒸す。
 ンぶり [mburi] 【動2：ンぶり、ンぶるん】① 蒸れる。② むしむしする、蒸し暑
 くなる。
 ンぼー [mboo] 【動1：ンばい、ンばーん】奪う、強引に取る。
 ンま [mma] 【名】午（うま）。
 ンま [mma] 【名】① 祖母。② おばあ、年寄りの女性。③ （複合語で）母。例
 文：なすンま（実母）。

- ンま [mma] 【形】 美味しい、旨い。
- ンまー [mmaa] 【文】 ～するのでしょうか、いやしないでしょう。～するわけないでしょう。反語を表す。例文：きゅーや インかい いかいンまー（今日は海に行けるわけないよ）。
- ンまー [mmaa] 【感】 いやだ。
- ンまが [mmaga] 【名】 孫。
- ンまキ [mmakɿ] 【形】 横着。
- ンまくイ [mmakuɿ] 【形】 非常に美味しい。
- ンます [mmasɿ] 【動 1：ンまし、ンまさん】 濡らす。
- ンまつふあ [mmaffa] 【名】 親子（母と子）。
- ンまつまー [mmatsɿmaa] 【名】 お調子者。
- ンまぬば [mmanupa] 【名】 南の方。
- ンまばく [mmabaku] 【名】 ばくろう、馬の仲買人。
- ンまばっち [mmapattei] 【連語】 母がなくなった。
- ンまやー [mmajaa] 【名】 母側の家。
- ンまらす [mmarasɿ] 【動 1：ンまらし、ンまらさん】 生れさせる。
- ンまり [mmari] 【動 2：ンまり、ンまるん】 生まれる。
- ンまりずま [mmaridzɿma] 【名】 故郷。
- ンまりぱー [mmaripaa] 【名】 親不知。
- ンまりピかず [mmaripɿkadzɿ] 【名】 誕生日。
- ンまりやヴ [mmarijav] 【名】 生まれ損なえ。
- ンまりんから [mmarin̄kara] 【連語】 生まれた時から。天性の。
- ンみ [mmi] 【名】 胸。
- ンみ [mmi] 【名】 棟。
- ンみ [mmi] 【名】 丘、高い所。
- ンみ [mmi] 【名】 群れ。
- ンみ [mmi] 【形】 小さい。
- ンみ [mmi] 【動 2：ンみ、ンむん】 濡れる。
- ンミくず [mmɿkudzɿ] 【形】 喉が詰まる。
- ンみずー [mmidzɿɿ] 【名】 貧乳。
- ンみやーイ [mmjaaɿ] 【動 1：ンみやい、ンみやーん、ンみやーち】 いらっしやる。「行く」「来る」の尊敬語。例文：んざんかいが ンみやーイが？（どこへいらっしやいますか？）。

受理日 2018年4月16日

【翻訳】「ドゥニーズ・ベルノー：ビルマの諸言語と知識」*

川上夏林 藤原敬介

京都大学 京都大学

主要語句：ビルマ、ビルマ語、ビルマ学、東パキスタン、チッタゴン丘陵、記録映画

1 はじめに

ドゥニーズ・ベルノー教授 (Denise Bernot: 1922–2016) はフランスを代表するビルマ研究者である。夫のリュシアン・ベルノー教授 (Lucien Bernot: 1919–1993)^{注1}とともに、東パキスタン時代のチッタゴン丘陵 (Chittagong Hill Tracts) で主としてマルマ人 (Marma) の調査をおこなった (1951年–1952年)。その後、研究の中心をビルマにうつし、ビルマ語およびビルマ語諸方言や近隣の少数民族言語の研究もおこなった。

主要業績としては、チッタゴン丘陵のチベット・ビルマ系民族であるキャン人の語彙を紹介した『チッタゴン丘陵のキャン人』[L. Bernot & D. Bernot 1958]、全15巻におよぶ『ビルマ語・フランス語辞典』[D. Bernot 1978–1992]、『口語ビルマ語の述語』[D. Bernot 1980]などがある。また、1998年にはドゥニーズ・ベルノー教授の記念論集も出版されている [Pichard & Robinne 1998]。ドゥニーズ・ベルノー教授の生涯と業績については、Vittrant & Mersan [2017]に簡潔にまとめられている。

本稿では、ドゥニーズ・ベルノー教授の研究生生活をまとめた30分ほどの記録映画である「ドゥニーズ・ベルノー：ビルマの諸言語と知識」(*Denise Bernot: langues, savoirs, savoir-faire de Birmanie* [Vittrant & Mersan 2016])を、フランス語と日本語の対訳で紹介する。この映画は2015年に完成し、2016年の「研究者映画祭」(*Film de Chercheur 2016*)で最優秀賞を受賞した。

2 対訳「ドゥニーズ・ベルノー：ビルマの諸言語と知識」

以下に提示するのは Vittrant & Mersan [2016] のフランス語原文と日本語訳である^{注2}。この映画は、ドゥニーズ・ベルノー教授が自身の研究生生活をふりかえるとともに、関係する研究者

* 本稿第二章のフランス語かきおこしおよび日本語訳は基本的に川上による。本稿全体の構成、第一章、第二章の訳注、参考文献は藤原による。本稿執筆にあたりフランス在住の Etsuko De Grave 氏から日本語訳について多数のご教示をいただいた。また Alice Vittrant 教授からは映画のフランス語原文と日本語訳の掲載について許可をいただいた。

注1 フランスの社会人類学者。コレージュ・ド・フランスで東南アジア社会部門の教授もつとめた。主著の L. Bernot [1967] ではマルマ人の民族誌をまとめた。その生涯と業績についてくわしくは Toffin [2010] を参照。

注2 本稿で提示するフランス語原文と日本語訳は、すでに公開されていたフランス語版の字幕なし映像を利用して、本稿の著者たちが2017年2月時点で作成したものである。その後、英語字幕がついたDVDが作成され、Alice Vittrant 教授のご厚意により2017年10月に入手することができた。英語版はインターネット上でも視聴可能となっている。ただし、本稿執筆時点(2017年10月)では、パスワードが必要である。なおフランス語字幕がついたものは存在していない。

が思い出をかたるという体裁をとっている。登場人物は次のとおりである。各発言箇所については、Vittrant & Mersan [2016] に表示される時間をしめした。たとえば (0:25) とあれば、動画の 25 秒あたりから会話がはじまることをしめす。

- AV: Alice Vittrant^{注3}
- CR: Catharine Raymond^{注4}
- DB: Denise Bernot
- FR: François Robinne^{注5}
- YK: Yin Ker^{注6}

DB (0:25)

(1) Ça c'est joli.

(1) 素敵ね。

DB (0:34)

(1) Voilà.

(1) さてと。

ナレーター (0:41)

(1) Chère Madame Bernot. Je vous écris, et vous ne me connaissez pas, et pourtant nous avons un point commun: la Birmanie.

(1) 親愛なるベルノー先生。先生にお手紙を書いております。私のことはご存じでないかと思いますが、我々には「ビルマ」という共通点があります。

ナレーター (0:55)

(1) Grâce à une bourse d'étude d'un an à l'université de Rangoon, pour les besoins de ma thèse, j'ai réalisé une série d'enquêtes ayant pour objet les écosystèmes du lac Inle. (2) Là-bas, un professeur birman m'avait demandé si je vous avais déjà rencontrée. (3) Bien sûr, j'avais ouvert très souvent votre dictionnaire de birman, le Bernot. (4) Mais en fait, je ne vous connaissais pas. (5) Un peu déçu mais compréhensif, il m'avait répondu que vous étiez importante. (6) C'était un peu grâce à vous, ajouta-t-il, que je pouvais étudier ici. (7) Cette remarque m'avait intriguée. (8) De retour en France, je ne voulais pas en rester là.

(1) ランゲーン大学^{注7}の一年間の奨学金を得ることができ、博士論文執筆の一環として、インレー湖の生態系調査を実現させることができました。(2) 大学で、ビルマ人の先生にベルノ先生にお会いしたことがあるかどうか聞かれました。(3) もちろんベルノー先生が編纂されたビルマ語の辞書、「ル・ベルノー」はよく使っていました。(4) しかし、ベ

^{注3} エクス・マルセイユ大学。言語類型論、ビルマ語学、東南アジア言語学。

^{注4} 北イリノイ大学ビルマ研究所。東南アジア美術史。

^{注5} フランス東アジア研究所。人類学。

^{注6} 南洋工科大学。ビルマ美術史。

^{注7} ヤンゴン大学のこと。

ルノー先生のことは存じておりませんでした。(5) 少し残念そうにされましたが、それもそうだと納得され、そしてベルノー先生が大変に重要な方であると教えてくれました。(6) そして、自分がこのように研究できるのは実はベルノー先生のお陰なんですよ、と話されました。(7) 彼の言葉に興味を掻き立てられ、(8) フランスに帰国後、ベルノー先生のことをもっと知りたいと思うようになっていました。

AV (1:35)

(1) Elle est tenace. (2) Elle est opiniâtre, euh... elle est passionnée.

(1) 粘り強い方です。(2) 根気強く、そうね、情熱的な方です。

CR (1:44)

(1) Elle était intéressée par les langues en Birmanie. (2) Elle était intéressée à comprendre l'origine de la langue birmane.

(1) 彼女はビルマの言葉に惹かれていました。(2) ビルマ語の起源を明らかにすることに関心を持っていたようです。

FR (1:53)

(1) On passait des heures sur quelques lignes, et donc ça nous a appris, euh... une grande rigueur. (2) Ça nous a appris le sens des mots.

(1) 一文に何時間も費やし、緻密にして正確に読み込むことを学びましたね。(2) 言葉の意味を知ることについて学びました。

YK (2:03)

(1) Et en même temps cette générosité envers les autres, euh...d'être ouvert à l'inconnu, oui, voilà.

(1) 他人に対して寛大であるというだけでなく、そうですね、未知のことに対しても関心をもたれていた方です。

ナレーター (2:15)

(1) En se promenant dans Rangoon, on se sent projeté, presque dans une époque. (2) Et je vous imagine dans les rues, ou buvant un thé dans une petite échoppe. (3) Pourtant, votre histoire a commencé bien loin de la Birmanie, en France, en pleine deuxième guerre mondiale.

(1) ラングーンを歩いていると一昔前にワープしたような気分になります。(2) そして、道を歩き、小さな露店でお茶を飲んでいるベルノー先生の姿が浮かびます。(3) しかし、ベルノー先生の歴史(歩み)はビルマからはほど遠い、フランスで、第二次世界対戦の最中で始まりました。

DB (2:38)

(1) A l'école des chartes j'avais un très bon copain Rolf Otto Lars Gründ, un norvégien. (2) Et bon, il était dans la résistance et en tant que norvégien il était pas inquiet. (3) Le... les weekends, il allait faire du vélo en forêt, enfin en marge de la Fontainebleau près de Milly-

la-forêt, avec des copains. (4) C'est là que j'ai connu Lucien Bernot. (5) A l'époque on était très discret sur les identités, et alors on m'a dit «Ah ! Y en a un, c'est un poète. C'est Attila.» (6) Je vais pas poser de questions. (7) On n'en posait pas à l'époque. (8) On s'est connus, haha, et j'ai ... l'appelé Attila très longtemps.

(1) パリの古文書学校にいたとき、私には Rolf Otto Lars Gründ というノルウェー人の良き友人がいました。(2) 彼はレジスタンスに加わっていましたが、ノルウェー人であったこともあり身の心配はありませんでした。(3) (彼は) 週末には友人たちと一緒にミリー・ラ・フォレの近くにあるフォンテーヌブローにサイクリングをしに行っていました。(4) そこで私はリュシアン・ベルノーと知り合ったのです。(5) 当時は人の素性に触れることには大変慎重になっていたのので、誰かが「あ、詩人が一人いるよ。アッティラだよ」と言ったのです。(6) 私はそのことに疑問を示すようなことはしませんでした。(7) 当時はみな控えめだったのです。(8) リュシアン・ベルノーとはこのようにして知り合い、私は長らく彼のことを「アッティラ」と呼んでいました。

ナレーター (3:36)

(1) Étrange jeunesse sous le signe de la guerre, de la clandestinité, de la résistance. (2) Et ensuite avec votre mari, Lucien Bernot, dans les années qui ont suivi, j'imagine un désir, une volonté de vivre. (3) Lucien Bernot, ouvrier typographe, curieux de la calligraphie chinoise devient ethnologue. (4) Et vous Denise Bernot, abandonnant les sentiers battus de l'école de chartes pour des chemins bien plus hasardeux, avec la volonté d'être libre de votre destin. (5) Mais par quel hasard de rencontre tout cela a-t-il été possible?

(1) 戦争、秘匿、レジスタンスのもと、奇妙な青春時代を送られたようですね。(2) そしてご主人のリュシアン・ベルノー先生とその後を一緒にされて、希望、生きる意欲を持たれたことと思います。(3) リュシアン・ベルノー先生は活版印刷の職人をされていて、中国の書道に惹かれていらしたそうで、その後民族学者になられたようですね。(4) そしてベルノー先生、あなたはありきたりの道を捨て、ご自身の運命に導かれるようにして自由を求め、より険しい道を選択されましたね。(5) それにしても、お二人の出会いのきっかけは何だったのでしょうか。

DB (4:13)

(1) Mon mari était élève de Lévi-Strauss et de Leroi-Gourhan, (2) et Lévi-Strauss a fait un voyage dans les Chittagong Hill Tracts où il a vu une mosaïque ethnique en tant que ethnologue, il a été absolument séduit par ce... tout ce qu'on pouvait étudier comme civilisation, population, langue, dans...dans un espace aussi réduit que les Chittagong Hill Tracts. (3) Il a fait entrer d'abord mon mari au CNRS sur un projet... ethnologie de l'Asie du sud-est. (4) Mon mari avait fait du chinois, du tibétain, et moi, j'avais fait du hindi donc il se disait «Y en a un qui est ethnographe, et l'autre qui a l'air plutôt portée sur les langues, (5) eh ben, il faudra que ça marche.»

(1) 夫はレヴィ・ストロース^{注8}とルロワ・グーラン^{注9}に師事していました。(2) レヴィ・ストロースはチッタゴン丘陵を訪れ、民族学者として多様な民族を見て、チッタゴン丘陵のような狭い空間で文化、人々、言語などあらゆる研究ができることに完全に魅了されたようです。(3) レヴィ・ストロースは最初に夫を東南アジア民族学の(研究)プロジェクトに参加させるため CNRS^{注10}に入れました。(4) 夫は中国語、チベット語を専攻しており、私はたとえば、ヒンディー語を専攻していたので、レヴィ・ストロースは「一方は民族学者でもう一方はどうやら言語好きのようだな。うまくいくでしょう」と言っていました。

ナレーター (5:16)

(1) Il y a quelque semaines, j'ai reçu une lettre de mon ami, Mathieu, géographe. (2) Ses recherches, explique-t-il, sont définitivement compromises. (3) Les autorités Bengali lui ont refusé l'accès aux Chittagong Hill Tracts. (4) Incidemment, il dise une allusion à votre sujet, je vous retrouve. (5) Vous même et votre mari, m'apprend-t-il, aviez travaillé dans cette région, peu après la décolonisation. (6) Du temps on en parlait encore de Pakistan oriental. (7) Rattaché au Pakistan, les Chittagong Hill Tracts bénéficie déjà d'un statut, spécial à l'époque où vous étiez. (8) Au début des années 50, il fallait se monter diplomate et patient pour obtenir les autorisations officielles. (9) D'abord à Karachi, puis à Dhaka, et enfin à Chittagong, capitale de la province. (10) Dans cette région de collines et de forêts denses où vivent différentes ethnies, votre mission était d'étudier les Marma, une société de langue birmane.

(1) 数週間前に友人で地理学者のマチューから手紙が届きました。(2) 研究が出来なくなったということです。(3) バングラデシュ当局からチッタゴン丘陵への立ち入りを断られたそうです。(4) その際に偶然、ベルノー先生にまつわるお話をされ、こうして再び先生に出会います。(5) ベルノー先生ご夫妻が脱植民地化後ほどなくして同地域で研究に従事されていたと教えてくれました。(6) それはまだ現在のバングラデシュが東パキスタンと呼ばれていたころの時代でした。(7) パキスタンに組み込まれたチッタゴン丘陵はすでに地位に恵まれており、先生がいらした当時としては珍しいことでした。(8) 1950年代の初めには、行政からの許可を得るには交渉の手腕と辛抱強くあることが必要でした。(9) カラチに始まり、ダッカ、そして州都(管区の首府)・チッタゴンへ。(10) 丘陵と深い森に囲まれ、様々な民族が暮らすこの地域で、ベルノー先生の目的はビルマ語社会を構成する一民族であるマルマ人を研究することでしたね。

^{注8} Claude Lévi-Strauss (1908–2009)。フランスを代表する社会人類学者。1950年にチッタゴン丘陵を訪問。短期間ながら現地調査をおこない、論文にまとめている [Lévi-Strauss 1951、1952a、1952b]。のちに Bernot 夫妻をチッタゴン丘陵に派遣した。

^{注9} André Leroi-Gourhan (1911–1986)。フランスを代表する先史学者・人類学者。日本への留学経験もあり、北海道でアイヌ人の調査もおこなった。

^{注10} フランス国立科学研究センター (Centre national de la recherche scientifique) の略。

DB (6:14)

(1) Chez les Marma du Nord on s'est, on a fait trois jours de voyage à pied pour y arriver. (2) Le hindi m'a très peu servi, au passage, et je me suis retrouvée perdue linguistiquement. (3) Le premier jour comme j'ai pas su demander où bouffer et bien on a marché sans manger. (4) Le soir, heureusement, mon époux avait un bon sens de l'orientation il a trouvé la halte du premier tiers du voyage. (5) Mais là il m'a dit «Toi, la linguiste, tu demandes du thé, parce que on a plus soif que faim.» (6) C'était vrai, et moi j'ai utilisé le mot passe-partout qui est à l'origine de thé, de châ, de tsa, et la dame marma qui tenait cette halte nous a regardés avec surprise, mais comme elle était très polie et, et puis qu'on pouvait pas communiquer, elle est partie et revenue avec une grosse poignée de sel. (7) Charme. (8) Voilà. (9) Alors je me suis mis à parler marma et quand il faut trouver un endroit où dormir la nuit, c'est stimulant. (10) Je me rendais quand même compte que le marma était un dialecte du birman central que la langue véhiculaire officielle, c'était le birman de Birmanie central, et que... il fallait que je l'apprenne quoi, que je ne pouvais me contenter d'un dialecte.

(1) 北部のマルマ人を訪れたとき、丸三日に及ぶ徒歩での旅になりました。(2) (専門であった) ヒンディー語はほとんど役に立たず、言葉の壁にぶち当たってしまいました。(3) 食事をとれる場所を尋ねることもできなかったので初日は食べずに歩きました。(4) 幸いにも夫は方向感覚に優れた人だったので夜になり、旅路の三分の一ほどのところで休憩所を見つけられました。(5) しかしまあ、「言語学者だろ。お茶を頼んでくれよ。空腹より先ののどが渇いたよ」と言うのです。(6) たしかにそうですよね。私はこちらの「thé(お茶)」の語源として万能に使えるであろう「châ」や「tsa」といった単語を使ってみたのですが、休息所のマルマ人のおばさんはびっくりした様子でこちらを見ていました。けれど、親切な方だったのでなにやら探しに行って、握り拳ほどもある塩の塊を持ってきてくれたのです^{注11}。(7) 面白いでしょう。(8) こんな感じでしたね。(9) ほどなくしてマルマ語を話すようになったのですが、夜泊まるころを探すときはハラハラしたものです。(10) もちろんマルマ語がビルマ語の方言の一つであることは知っていました。ビルマ語というのは、ビルマ中部で話されているビルマの公用語です。ですからビルマ語も学ばなければいけませんし、それに、私自身方言だけでは満足できなかったのです。

ナレーター (8:17)

(1) Votre équipée avec votre mari avait sans doute encore le goût d'une aventure, l'élan d'une improvisation. (2) Sur ces chemins de montagne, vous vous êtes presque perdus, désorientés par une langue que vous ne parliez pas encore. (3) Mais cela n'a fait que vous

注11 「チャ」のように発音した結果、マルマ語で「塩」を意味する cháと解されたということ。なおビルマ語の「塩」ၵၵၵၵၵၵ <chaa>は、現代標準ビルマ語では [s^há] と発音される一方、マルマ語では古形をのこし [tɕ^há] のように発音される。ドゥニーズ・ベルノー教授にはマルマ語音韻論をあつかった論文もある [D. Bernot 1958]。また、マルマ人の民話についても発表している [D. Bernot 1966, 1985]。

attirer d'avantage.

(1) きっにご主人とのチームは冒険心に満ち、偶然との出会いに胸を高鳴らせていらしたことでしょう。(2) このような山道で、マルマ語もまだお話しになれなかったのが途方に暮れられたことでしょう。(3) しかし、この経験でさらに興味を引き立てられることに繋がりましたね。

AV (8:32)

(1) Je ne sais pas si ç'a été un coup de foudre mais ç'a clairement été une passion. (2) Je ne sais pas si ç'a été déclenché si elle est venue au fur et à mesure euh... mais ç'a été, je dirais, le moteur de sa vie, oui.

(1) 一目惚れだったかどうかは分かりませんが、それは明らかに情熱でした。(2) 突然起こったのか徐々にそうなったのかは分かりませんが、それは、そうですね、彼女の人生の原動力だったようです。

AV (8:50)

(1) En Birmanie il y a beaucoup de langues non sans mal répertoriées. (2) Le birman va être la langue de l'ethnie dominante, et ça c'est une des particularités de la Birmanie. (3) C'est cette grande diversité linguistique que l'on appelle aussi quelques fois de mosaïque ethnique. (4) C'est en lien avec aussi la diversité linguistique et culturelle du pays.

(1) ビルマではきちんと記録に残されていない言語が多くあるのです^{注12}。(2) ビルマ語は主要民族の言語ですが、それはビルマの特徴の一つです。(3) このような言語的多様性はときに民族的モザイクと呼ばれます。(4) それは文化的多様性とも関連します。

DB (9:19)

(1) Entre temps, j'étais entrée au CNRS, et au CNRS aussi on me conseillait d'apprendre la langue officielle, enfin, de me mettre à la prononciation officielle. (2) J'y suis allée en 58 à Rangoon. (3) J'y suis restée à peu près quatre mois. (4) C'était pas énorme, hein, mais quand je suis rentrée j'ai suivi assidûment les séminaires de François Martini qui m'a dit «Ben, il faut continuer le travail sur le birman.» (5) Martini m'a confié quelques, quelques cours parce qu'il est tombé très sérieusement malade. (6) C'était à la rentrée 58-59, je crois. (7) Il m'a donc confié quelques conférences et puis il a commencé à parler à Langues O', de la création d'un petit poste expérimental d'enseignement du birman. (8) Finalement, il y a eu un appel d'offre. (9) Et le conseil de Langues O' m'a acceptée. (10) C'était une création d'enseignement, je n'avais pas d'instruments de travail. (11) Y avait ni dictionnaire, ni manuel, ni texte. (12) Alors, textes, j'avais ce que j'avais ramené, dictionnaire j'avais mes fiches, parce que j'avais commencé un lexique, un glossaire, un n'importe quoi. (13) Et ç'a été ma première base comme outil d'enseignement.

(1) そうこうする間に私は CNRS へ入りましたが、CNRS でも公用語の習得を勧められ

^{注12} 5200 万人ほどの人口の国で 200 以上の言語が使用されている。

ました。つまり公用語の発音ですね。(2) 1958年にラングーンを訪れました。(3) ラングーンには四ヶ月ほど滞在しましたね。(4) 長い滞在とは言えないのですが、帰国してからはフランソワ・マルティニ先生^{注13}のセミナーを熱心に受けましたね。そしてビルマ語の研究を続けなさいと言われてました。(5) マルティニ先生は重い病気に罹ってしまったこともあり、私はいくつかの授業を任されることになったのです。(6) 1958年から1959年の夏休み明けのことだったと思います。(7) そのように講義をいくつか任せられ、マルティニ先生はビルマ語教育の実験的な小ポストを設けるよう、Langues O' と連絡を取り始めてくださったのです。(8) そして先生のもとへ依頼の連絡がきて、(9) Langues O' の評議会で承認を受けたのです。(10) 教育の講座の開設だったのに、教材と呼べるものはありませんでした。(11) 辞書もなければ、教科書もそして読本さえなかったのです。(12) 読本と言えれば私が持ち帰ってきたものでしたし、辞書と言えれば整理用カードでした。語彙集や用語集を自分で作り始めていましたし、使えるものは何でもよかったです。(13) 私の最初の教材道具でしたね。

ナレーター (10:59)

(1) L'institut des langues orientales, ou plus connu sous le nom de Langues O', existe depuis 1873. (2) Devenu INALCO en 1971, vous y avez mis en place le premier enseignement de birman en France. (3) Pendant près de 30 ans, vous avez formé des générations de chercheurs, de diplomates, d'humanitaires, ou de simples passionnés de la Birmanie.

(1) Langues O' の呼び名で知られている東洋言語研究所は 1873 年から続いています。(2) 1971 年には INALCO^{注14}に改名され、そこでベルノー先生はフランスで初めてビルマ語教育の場をつくられましたね。(3) 三十年にわたり、研究者、外交官、人道支援者、あるいはビルマ愛好家たちを育ててこられました。

CR (11:24)

(1) Elle avait cet amour qu'elle nous a transmis de la transmission du savoir. (2) Mais c'était absolument pas «J'ai la connaissance et vous vous ne l'avez pas.» (3) On la questionnait sur un sujet, elle connaissait exactement le dictionnaire, le livre, l'ouvrage à consulter, et elle vous guidait pour que vous puissiez aller plus loin. (4) Et c'était vraiment, c'était vraiment un guide non pas quelqu'un qui vous disait «Ah ben voilà. Voilà les clefs en main. Voilà, c'est tout fait.» (5) Non. (6) Ça a jamais été sa politique. (7) Elle partageait avec nous les affres de la recherche.

(1) 彼女は知識を伝達することに愛情をもっていました。(2) でもそれは決して、「私には知識があるけれども、あなたたちには欠けているわね」というようなものではありませんでした。(3) ある問題について質問をすると彼女は参照すべき辞書、文献を教えてくれ、より深い探求へと私たちを導いてくれました。(4) 彼女はまさに案内人だったのですが、

^{注13} François Martini (1895–1965)。フランスの東南アジア史学者。

^{注14} フランス国立東洋言語文化研究所 (Institut national des langues et civilisations orientales) の略。

「ほら、これが鍵よ。もうできたわね」というような案内人ではありませんでした。(5) 決してね。(6) それは彼女のやり方ではありませんでした。(7) 彼女は我々とともに研究の苦しみを分かち合っていました。

ナレーター (12:03)

(1) De retour en France je suis allée rendre visite à mes professeurs de l'INALCO. (2) Ils m'avaient bien préparée. (3) Pour entreprendre mes enquêtes de terrain, parler la langue était un préalable indispensable. (4) Cela n'avait pas été facile. (5) Un casse-tête bien souvent. (6) Le birman est une langue mélodique, et essentiellement monosyllabique, si déroutante. (7) Selon l'intonation, le mot change de sens, à quoi s'ajoute certaines consonnes peu communes.

(1) フランスへ帰ってから私は INALCO の先生のもとを訪れました。(2) 先生たちはよく教えてくれました。(3) フィールド調査に取り組むために言葉は必要不可欠でした。(4) それは容易ではありませんでした。(5) 困惑に陥ることはしょっちゅうでした。(6) ビルマ語は音楽的で、本質的には単音節の言語であったため、戸惑いました。(7) イントネーションによって単語の意味が変わりますし。さらにそこに聞き慣れない子音を加わるものですから。

AV (12:33)

(1) L'alphabet birman n'est pas le même que le nôtre. (2) C'est un alphabet de type indien avec un ordre des lettres extrêmement linguistique. (3) Le plaisir pour le linguiste, c'est que ces lettres sont rangées dans un ordre qui suit l'ordre phonétique, phonétique international. (4) Les quatre ou cinq premières lettres de l'alphabet sont prononcées dans le bas de la gorge. (5) La ligne suivante, c'est tous les sons qui sont prononcés au milieu de la gorge et ainsi de suite, ceux qui sont prononcés avec le nez, c'est la dernière colonne. (6) Donc c'est un, c'est un alphabet qui est rangé de façon phonétique. (7) Ce que n'a pas du tout nos... notre alphabet.

(1) ビルマ語の文字は我々 (西洋) のものとは異なります。(2) ビルマ語の文字はインド系文字で、言語学的に正確な文字配列をしています。(3) 言語学者にとってわくわくすることは、文字が国際音声字母の配列に従っていることでしょうか。(4) ビルマ文字の最初の四つ、五つは喉の奥で発音されます。(5) 次の行は喉の中間部^{注15}で発せられる音です。そして鼻で発せられるものは最後の列のもです。(6) 音声的に整理されている文字であることが分かりますね。(7) これは我々の文字にはまったくみられない特徴です^{注16}。

ナレーター (13:13)

(1) Votre dictionnaire en 15 volumes a d'ailleurs suivi cet alphabet. (2) Cette démarche était particulièrement inattendue, à l'encontre des traditions héritées des travaux linguistiques des

注15 「口腔内の中間部」とのべるほうが正確である。

注16 ラテン文字の配列にも音声学的な根拠があるという説もある [水野 1993]。

missionnaires.

(1) ベルノー先生が編纂された 15 巻に及ぶ辞書もまたこの文字配列にしがっていませんよ。 (2) この方法は、予想外の方法で、宣教師による辞典編纂の伝統には反していました^{注17}。

DB (13:26)

(1) Je suis entrée en correspondance avec ceux de Londres, mes collègues de Londres, les jeunes. (2) C'est à dire à l'époque Anna Allot et John Okell. (3) Ils m'ont dit «Le dictionnaire qu'on fait ici on y passe un temps fou! (4) Il est très bien fait mais il est conçu d'une manière aberrante parce qu'on commence, comme les missionnaires ont commencé, par 'a'. (5) Mais ça n'a pas de sens pour le birman puisque 'a' et ben, c'est pas une voyelle. (6) C'est un consonant plus 'a', et que c'est un préfixe qui transforme n'importe quel verbe en nom.» (7) C'est à dire que ça dédouble tous les verbes du dictionnaire, leur forme nominalisée. (8) Ils vont être tous là pour commencer le dictionnaire. (9) S'il y a eu une décision de ma part, en fait c'est sûr, c'est à cause de ce qu'ils m'ont dit: «Si on commence par 'a', ça n'a pas de sens et on finira jamais.» (10) Ça m'a ouvert les yeux sur une... des caractéristiques de la langue birmane.

(1) ロンドンにいた若い研究仲間と連絡を取り合うようになりました。(2) つまりアンナ・アロット^{注18}とジョン・オケル^{注19}の時期ですね。(3) 「ここで取りかかっている辞書の編纂はとてつもなく時間がかかるよ! (4) よくできてはいるんだが、おかしな編まれ方でね。宣教師たちがやったように、「a」から始めたんだよ。(5) でもそれはビルマ語には意味がないんだよ。だって「a」はビルマ語にとっては母音じゃないんだから。(6) それは子音に母音の「a」がついたものなんだよ^{注20}。それでこの子音はどのような動詞も名詞に変えてしまう接頭辞なんだよね^{注21}」(7) つまり、この接頭辞は辞書にあるすべての動詞を名詞にして、二回見出し語にあげるんです。(8) 辞書の編纂はこの問題をどうするかから始めなければいけなかったのです。(9) 「「a」から始めると全く終わりが見えてこない、無意味だ」と言う彼らの言葉は決定的でしたね。(10) 目から鱗でしたね。その... ビルマ語の特徴について。

^{注17} ビルマ語の本格的な辞書を最初に作成したのは Adoniram Judson (1788–1850) というアメリカ人宣教師である。彼の辞書では、ビルマ文字の အ <'a>からはじまっていた。しかし、その配列は、ビルマ文字の伝統的な配列とはすこし異なっていた。Bernot の辞書は、ビルマ文字の伝統的な配列にしたがったものである。なお、ビルマ語の辞書や文法書の歴史については加藤 [2008] を参照。

^{注18} Anna Allot (1930–)。イギリスのビルマ語研究者。

^{注19} John Okell (1934–)。イギリスを代表するビルマ語研究者。

^{注20} インド系文字の「子音」は一般に母音の「a」をふくむ音節文字である。そして、ビルマ文字の「a」をあらわす文字 အ <'a>も、ビルマ人にとっては「子音」に母音の「a」がついたものと解釈されているということである。

^{注21} ここで話題になっている辞書は Stewart & Dunn [1940–1981] のことである。OED に範をとったビルマ語辞典をめざしたけれども、「a」の項目の途中で刊行が中止された。

N(14:54)

(1) Tout cela ne serait rien s'il n'y avait aussi les abîmes d'une grammaire si différente. (2) Pour comprendre, il faut connaître le contexte, la situation d'énonciation, les spécificités culturelles, selon à qui on s'adresse, homme ou femme, inférieur, égal ou supérieur, il faut choisir le bon 'tu', le bon 'vous', introduire des marqueurs spécifiques selon l'âge, la condition sociale de son interlocuteur. (3) Je pense au mot "riz". (4) En français un seul mot, en birman cinq mots. (5) Pour décrire le riz selon les étapes de sa culture, selon son aspect. (6) Tout simplement parce que le riz est fondamental pour la société birmane. (7) Parler et comprendre sont essentiels mais pas seulement. (8) Les répétitrices birmanes, toujours dévouées à leurs étudiants, nous ont donné les clefs de leur culture.

(1) もし複雑な文法上の問題がなければ、これらのことはそれほど問題にはならなかったでしょう。(2) 理解するためには文脈を理解し、発話の状況を知り、文化の特徴をつかみ、そして男性か女性か、相手が目下か対等か目上かを知る必要がありました。正確な二人称（「お前」なのか「あなたさま」なのか）を選ぶ必要がありますし、相手の年齢、社会的立場に応じて特定の標識をつけなければいけません^{注22}。(3) 「お米」という単語を考えているのですが、(4) フランス語では一単語でいいところをビルマ語では五つの単語があります。(5) 稲の成長段階や状態を言い表すために五つあるのです^{注23}。(6) それはやはり「お米」がビルマ社会においてとても重要なものだからでしょうね。(7) 話して理解することは本質的なことですが、それだけではありません。(8) ビルマの教師たちは、生徒たちにとっても献身的で、われわれに文化を理解する鍵を教えてくださいました。

ナレーター (15:56)

(1) Tous leurs conseils m'ont aidée à m'intégrer au milieu. (2) Condition indispensable pour être libre dans mon travail sur le terrain.

(1) 彼らの助言はすべて現地の風土を理解するために役にたつものでした。(2) 私がフィールドワークを自由におこなうための必須条件ですね。

ナレーター (16:28)

(1) Pour ce premier voyage je suis restée six mois au lac Inle. (2) Les paysages ont bien dû changer, depuis les années 60 et vos premiers séjours.

(1) この最初の旅で私はインレー湖の周辺で六ヶ月滞在しました。(2) 1960年代にベルノー先生が初めて訪れた頃と比べると景色は大きく変わったことでしょう。

ビルマ語インダー方言 (16:39-16:56) ^{注24}

^{注22} ビルマ語では相手の年齢や性別に応じて名前の前につける呼称が異なる。

^{注23} ビルマ語では ဝျို: <pyui:> 「苗」、စပါး <capaa:> 「粳米」、ကောက် <kok> 「稻」、ဆန် <chan> 「米」、ထမင်း <thamang:> 「ご飯」の五つを区別する。

^{注24} この部分では、ベルノー夫妻が1971年に滞在し調査研究した当時のものとおもわれるビルマ・シャン州のインレー湖の写真とともに、当時録音されたであろうビルマ語インダー方言がながれている。ビルマ語インダー方言とは、この地でインダー人によってはなされているビルマ語方言である。当

ナレーター (17:02)

(1) Tout semble si différent maintenant, presque facile. (2) Et je me demande par quelle obstination vous avez pu continuer vos recherches, et réussir à aller sur le terrain pendant toutes ces décennies.

(1) いまではまったく勝手が違うでしょう、便利になりましたし。(2) 一体どのような忍耐力で研究を続け、何十年にもわたってフィールドワークを遂行されたのか不思議でなりません。

CR (17:17)

(1) Elle avait un contact avec les gens qu'elle nous a transmis à tous. (2) Le réseau qu'elle, qu'elle pouvait partager avec nous était un réseau essentiellement académique, ah, un réseau de chercheurs birmans. (3) Et je pense que sa politique était une politique de sagesse, politique birman. (4) Parce que ça nous permettait de pouvoir avoir accès à un grand nombre de personnes.

(1) 先生はご自身のネットワークを私たち全員に分かち合ってくださいました。(2) 私たちと共有してくださった繋がりはビルマの研究者たちとの学究的なものでした。(3) 彼女のやり方は賢明なもので、それはビルマ的なものでした。(4) それによって非常に多くの人々と繋がることのできたのですから。

FR (17:45)

(1) Après, ils nous ont permis d'aller en Birmanie grâce à eux, parce que Denise Bernot a mis en place une bourse avec ce qu'on appelait à l'époque, mon époque, Langues O'. (2) Et ça on le doit à Lucien et Denise Bernot, d'avoir mis en place cette, cette bourse dont profitent toujours, je crois, les étudiants. (3) A une époque où on pouvait aller, où le visa les touristes était une semaine, quand même, donc très limité. (4) Donc c'était une opportunité incroyable. (5) Lorsque j'y étais, je crois, en... 19... , je (ne) sais plus, euh...1980-81 on était deux étudiants étrangers, deux étudiants étrangers, pour toute la Birmanie.

(1) その後ベルノー夫妻のおかげでビルマに渡る許可がおりたのです。ドゥニーズ・ベルノー先生が当時 Langues O' の奨学金制度を作ってくれたからです。(2) この奨学金はリュシアン・ベルノー、ドゥニーズ・ベルノー夫妻のたまもので、学生たちにとっては今でもとてもありがたいものだと思います。(3) ビルマに渡航できた当時でも、旅行ビザで滞在できたのは一週間ほどでとても制限されていました。(4) ですのでそれは信じがたい機会だったのです。(5) 私が訪れたのは、1980年-1981年だったかな、えーっと、外国人留学生が二人だったんです。二人ですよ。ビルマ全体で。

時の成果のひとつが D. Bernot & L. Bernot [1972] である。この中でドゥニーズ・ベルノーはビルマ語インダー方言の民話を紹介している。ビルマ語インダー方言の概要については Okell [1995] にも記述がある。

CR (18:27)

(1) Elle savait que le terrain était dur, et qu'il fallait qu'elle nous prépare. (2) On est dans les années 80s, euh, internet n'existait pas, le téléphone était impossible. (3) On dépendait essentiellement du courrier envoyé par aérogramme. (4) C'était un isolement total qui bénéficie énormément à la recherche parce que vous êtes complètement concentré sur votre terrain; mais qui est pas, personnellement, euh, pas toujours évident. (5) Voir Madame Bernot sur le terrain, c'était extraordinaire. (6) Madame Bernot pouvait voyager avec une valise qui faisait, euh..., la boîte d'un instrument de musique. (7) Mais elle était, euh, très minimaliste dans ses besoins, ce qui lui permettait de rentrer en contact très facile, de vivre n'importe où en Birmanie.

(1) フィールドが大変であることを彼女は知っていたので、我々のためにいろいろと整える必要がありました。(2) 1980年代の当時はインターネットはなく、電話は不可能でした。(3) 基本的に航空便に頼っていました。(4) この完全な孤立状態のお陰でフィールドに完璧に集中できるわけですが、でもそれは、個人的には、容易なことではありませんでした。(5) フィールドでベルノー先生の姿をみることは素晴らしいことでした。(6) ベルノー先生は楽器の箱ほどの大きさの手荷物で旅ができる人でした。(7) しかし先生は、そうね、必要なものは最低限しか持たず、身軽に人に出会うことができ、ビルマのどこでも暮らすことができました。

ナレーター (19:32)

(1) L'autre jour en guise de récréation, j'ai consulté certains de vos écrits, relevé les ouvrages où vous êtes citée. (2) Je vous croyais linguiste, je vous découvre recueillant des légendes partout dans le pays, collectant les savoir-faire, artisans, paysans, leurs gestes techniques, tout ce qui permet de saisir la richesse du quotidien. (3) Comme si votre intérêt pour la Birmanie ne connaissait ni frontière, ni autocensure, sans vous embarrasser d'étiquettes.

(1) 先日、休憩中に、ベルノー先生の著作を参照し、ベルノー先生が引用されている著作もひもときました。(2) 先生は言語学者だと思っておりましたが、日常の豊かさを知るためにビルマ中の言い伝えを収集し、知識、職人、農民、彼らの技術について調査していたということを知りました。(3) 言語学者であることに縛られることなく、ベルノー先生のビルマに注ぐ関心の前には国境も検閲もないかのようでした。

AV (20:09)

(1) Je pense que une des particularités, peut être différences, par rapport à d'autres linguistes, comme moi qui est, qui travaille aussi sur la Birmanie, euh... c'est que elle, elle était pas seulement linguiste, elle était linguiste mais elle était aussi, je dirais, ethnolinguiste, anthropolinguiste, et elle faisait tout ça. (2) Donc elle est restée sur la Birmanie parce que, outre la langue, elle avait tous les autres domaines à explorer.

(1) おそらく他の言語学者、例えば私のように同じくビルマ語の研究をしている言語学者

との違い、彼女の特徴は、彼女が言語学者であっただけではなく、言語学者だったのですが、同時に、そうね、民族言語学者であり、言語人類学者としてすべてを研究対象とされていたことでしょうか。(2) そのために、言語とは別に調べるべき他のすべての領域があったのでビルマにとどまられたのでしょうかね。

DB (20:35)

(1) Quand nous sommes allés chez les Marma, alors là j'ai vu des manuscrits, un tout autre format que nos livres occidentaux... mais de longues bandes d'origine végétale. (2) La certitude que ces copies récentes, manuscrites, ne parvenaient pas à Paris à la bibliothèque des Langues Orientales m'a fait évidemment désirer que ça puisse y parvenir.

(1) マルマ人のところを訪れたとき、写本を見つけました。それは我々西洋の文献とはまったくことなる形式のもので、植物を原料とする長い帯でできたものでした^{注25}。(2) その写本は新しくコピーされたもので、パリの東洋言語図書館までとどくことは期待できませんでしたが、どうしても手に入れたいと思いました。

ナレーター (21:15)

(1) Dans les rues, j'avais souvent observé ces étals de livres; impressionnants et éphémères. (2) Des livres usés, qui passent de main en main, se dégradent à cause de l'humidité, de la mauvaise qualité du papier et finissent par disparaître. (3) Et pourtant, des lecteurs assidus à tous les coins de rue. (4) Mon professeur à l'INALCO m'a appris que vous étiez à l'origine du fonds birman et qu'il n'avait pas été constitué sans risque. (5) Sa bibliothèque dont vous avez été l'artisan acharné, j'imagine ce qui vous a motivée: échafaudages d'ouvrages soustraits à l'usure du temps, traces d'une culture et d'une société toujours en mouvement.

(1) 私はよく通りで台に並べられた本を物色したものでした。おびただしい数のはかなげな書物たち。(2) 使い回される古本たちは湿気、質の悪い紙のせいで損傷し、最後には消えてなくなってしまうのです。(3) それにもかかわらず、通りのあちこちに座り込んで読み耽る人々。(4) INALCO での私の先生は、ベルノー先生がビルマ語の文献カタログを作ったと教えてくれました^{注26}。その仕事は簡単なものではありませんでした。(5) ベルノー先生が INALCO の図書館作りに尽力された動機は次のようなものだと思います。経年劣化を免れ積み上げられた文献、常に変化しつづける文化と社会の痕跡などが動機となったことでしょう。

DB (21:59)

(1) Mais à partir du moment où je suis allée à Rangoon, j'ai eu la chance de rencontrer le bibliothécaire de la bibliothèque (de) Judson qui était un érudit, mais pas seulement, un écrivain, un amoureux de sa langue, de sa culture, et un esprit très ouvert sur les autres cultures. (2) Il m'a ouvert sa bibliothèque, il m'a mis dans les mains les ouvrages qui

^{注25} オウギヤシの葉にかかれた「貝葉」のこと。

^{注26} D. Bernot [1968、1982-1984] のこと。

pouvaient m'intéresser. (3) On ne savait absolument pas ce qui publiait. (4) Il n'y avait pas de catalogues de libraires en Birmanie. (5) Il m'a signalé les ouvrages que je pouvais acheter à très bas prix. (6) Comment les faire parvenir en France? (7) Il n'y avait pas trente-six moyens. (8) Y en avait un, euh, c'était de les emporter avec moi ou, euh, de passer par la valise diplomatique pour échapper à une censure éventuelle, y en avait déjà une... (9) La section culturelle des affaires étrangères a énormément participé à la documentation qui est arrivée à Paris. (10) C'est comme ça que les premiers achats sont arrivés jusqu'à la bibliothèque, et je les faisais en double, celle de Langues O' recevait exactement le double des volumes arrivés jusque dans "ma" bibliothèque.

(1) けれども、ラングーンを訪れたときジャドソン図書館の司書の方にお会いする機会があり、その方は学識のある方で、でもそれだけではなく、文筆家でもありビルマ語と文化を愛し、他の文化に対しても開いた精神をお持ちの方でした。(2) 書庫を開放し、私が興味を持つだろう文献を見せてくれました。(3) どのようなものが出版されていたか我々はまったく知らなかったのです。(4) ビルマには書店カタログがありませんでした。(5) 彼は安価で購入できる本を紹介してくれました。(6) どうやってフランスに運ぼう?(7) 輸送手段は限られていました。(8) 方法は1つだけ。自身とともにもっていくか、あるいは検閲を避けるために外交官用貨物を通すか、検閲されたことは実際あったのですが... (9) 海外文化部門はパリに届いた資料の文献調査に大変協力的でした。(10) そのようにして最初の購入品が図書館に運ばれました。私は二部ずつ購入していたので、一方は Langues O' の図書館に、もう一方は自宅の書庫に届きました。

ナレーター (23:57)

(1) Votre maison devenue sanctuaire de livre contient autant de romans, d'essais, de magazines, que de livres rares, sans oublier les dictionnaires et grammaires des langues de la région. (2) Ce paradis pour les chercheurs et les doctorants vous l'avez ouvert à tous les passionnés de la culture, et de la langue birmane.

(1) ベルノー先生の家は小説、エッセー、雑誌、貴重図書を納めた本の聖域となり、そこには辞書と地域方言の文法書も含まれました。(2) 研究者や博士課程学生にとって天国のようなところを、先生はビルマの文化と言語を愛するすべての人々に対して開放されました。

YK (24:16)

(1) J'ai commencé à travailler sur le birman à l'INALCO en 2000 euh... parce que j'avais envie, j'avais besoin de comprendre l'univers de ce peintre moderne birman qui s'appelle Bagyi Aung Soe. (2) C'était parce que je travaillais sur lui, son art que j'ai connu Madame Bernot. (3) La première fois que j'ai rencontré Madame Bernot, je ne me souviens plus des dates, je pense que c'était en hiver 2004, 2005. (4) Je l'ai rencontrée chez elle, en fait. (5) Elle m'a présenté sa bibliothèque. (6) Elle m'a dit que «Oui, c'est là que vous pouvez

travailler.» (7) Et, voilà, c'est ce que j'ai fait de matin jusqu'au soir. (8) Ses, ses magazines se... sont imprimés sur un papier de très mauvaise qualité en fait. (9) Et puis dans les climats assez humides de...de Rangoon, on n'arrive pas à bien conserver ces..ces..ces documents. (10) Et en plus ce qui se passe c'est que les peintres, une fois après l'impression ils ont tendance à jeter tous les œuvres originaux. (11) Donc ce qui, ... dans l'illustration sont, sont vraiment les seules, les seules manières de comprendre, comprendre euh, l'évolution de...de leur travail pen... pendant quatre décennies donc ça m'a beaucoup aidé de regarder ce qu'elle avait chez elle, et puis j'ai photographié les couvertures de...de publications, les illustrations de poèmes dans, je sais pas, peut être centaines de...de journaux et de magazines en..entre... entre quarante-sept et quatre-vingt-dix quoi. (12) Je pense que... sans ce travail chez Madame Bernot, j'aurais pas pu continuer à travailler, à faire ce que je fais maintenant même.

(1) 私は 2000 年に INALCO でビルマ語の勉強を始めました。と言うのも Bagyi Aung Soe^{注27}というビルマ人の現代画家の世界観を理解したい、理解する必要があったからです。(2) 彼について研究していたのですが、その中でベルノー先生のことを知りました。(3) 初めてベルノー先生にお会いしたのは、具体的な日付は覚えていませんが、たしか 2004 年か 2005 年の冬だったと思います。(4) ご自宅でお会いしました。(5) 書齋を見せてくださいました。(6) 「どうぞ、ここがあなたの勉強場所ですよ」と言ってくださいました。(7) そんなわけで朝から晩まで勉強しましたね。(8) ベルノー先生が所有されていた雑誌は、実際のところ質の悪い紙に印刷されていたのです。(9) さらに湿気の多いラングーンの気候では保存がうまくいかないのです。(10) そしてさらに、画家たちは一旦印刷にかけられると作品の原本を捨ててしまう傾向にあったのです。(11) ですのでイラストで残っているものが四十年におよぶ画家の変遷を知るための唯一の方法だったのです。そのためベルノー先生の所有されていた資料は大きな助けとなりました。また印刷物の表紙、詩の中の押し絵や 1947 年から 1990 年の間の数百点に及ぶ新聞や雑誌の写真を撮りました。(12) ベルノー先生の自宅での作業がなければこの研究を続けることはきっとできませんでしたし、現在私自身に取り組んでいることもできなかったと思います。

ナレーター (26:29)

(1) En 1999, vous partez à la retraite, enfin pas tout à fait. (2) Vous parcourez toujours la Birmanie pour vos recherches. (3) Tout commence toujours par le terrain, nous enseign-t-on. (4) Et vous en êtes un exemple vivant. (5) De nouvelles générations de chercheurs et d'étudiants viennent frapper à votre porte, et vous êtes toujours là pour eux.

(1) ベルノー先生は 1999 年に退職されました。完全にというわけではありませんでしたが。(2) 先生は現在もなお研究のためビルマを駆け巡っていらっしゃるようですね。(3) すべてはフィールドから始まる、そう教えてくださっているようです。(4) 先生は生ける

^{注27} ဗဂျီ အောင်စွဲ: Bagyi Aung Soe (1924-1990)。ビルマの画家。

見本です。(5) 新たな世代の研究者、学生は先生の門戸を叩いて来ます。そして先生はいつも彼らのためにいらっしやいます。

女性 1 (26:54)

(1) Alors nous ne, je ne sais pas si elle le sait parce que l'email marche moins bien mais la prochaine conférence, euh, Asie... "Asie du sud-est linguistique" aura lieu à Rangoon.

(1) e メール調子が悪いようで彼女が知っているか分からないんだけど、次回の「東南アジア言語学会」はラングーンで開かれるそうよ^{注28}。

女性 2 (27:02)

(1) Ah mais...

(1) ええ、でも...

DB (27:02)

(1) Oh?

(1) ん?

女性 3 (27:02)

(1) Ouais.

(1) そうね。

DB (27:05)

(1) Alors là, j'ai au moins décidé à communiquer, euh, j'espère récupérer déjà mon Mac, mais il faut que je récupère suffisamment mes yeux pour appuyer sur la bonne touche.

(1) そうね、とにかく連絡をとってみることにしたわ。でもまずはマックをもってかえってこないといけないわね。でもそのためには視力をとり戻して、ちゃんと正しいキーを押せるようにしないとね。

女性 1 (27:28)

(1) Ben, c'est important, mais je pense que ça devrait possible.

(1) それは重要ね。でもできるんじゃないかしら。

FR (27:31)

(1) Je crois que la filiation qui se profile à la suite dans la continuité de Denise et Lucien Bernot, c'est le terrain. (2) C'est vraiment l'importance à donner, euh, au terrain. (3) C'est l'approche qualitative en laissant parler, euh... les gens, les...les villageois. (4) L'équipe française emmenée par les Bernot, euh... a développé, euh... une activité, un dynamisme, euh... qui fait date, ... qui est reconnu.

(1) おそらくドゥニーズとリュシアン・ベルノー夫妻の後でたしかに受け継がれているものはフィールドでしょうね。(2) 現地へ行くことの重要性です。(3) そして村人、現地の

^{注28} 第24回東南アジア言語学会は2014年5月27日から同年5月31日までヤンゴン大学で開催された。のちにみるように Denise Bernot 教授に参加の意志はあったようである。しかし、実際には不参加であった。なお、この学会の時の映像は動画の 01:04 あたりから 01:34 あたりまでに部分的にうつされている。

人々に話しをしてもらうことの大切さです。(4) ベルノー夫妻につれられてきたチームは、そうですね、時代を画する活動、動きを発展させました。

CR (28:03)

(1) Pour moi, Madame Bernot, c'est, c'est le vrai chercheur. (2) C'est, c'est celui qui a pas de solution, qui a pas de, de, de réponse toute faite, avec un très fort sens de la féminité dans le monde des chercheurs. (3) Je pense qu'elle est d'une époque où être chercheur, être une femme, être une mère était un monde très complexe et difficile. (4) En tant que femme chercheur, elle nous a transmis cette force et à la fois cette humilité que doit posséder le chercheur dans sa recherche au quotidien, et dans sa transmission aux autres générations.

(1) 私にとってベルノー先生は本当の研究者です。(2) すでにある解決策や答えを持っているような人ではなく、研究者の世界で女性らしさを強くもっている方でした。(3) おそらく彼女の時代は研究者であること、女性であること、母であることが複雑で難しい時代だったと思います。(4) 女性研究者として彼女はその力とともに謙遜さを伝え、それは研究者が常日頃の心得として、そして後世に伝えるべき特質でした。

ナレーター (28:48)

(1) Après la collecte, c'est le traitement des données. (2) Le retour à la maison. (3) Mais on pense déjà à repartir. (4) On n'en ramène jamais assez. (5) Il faudra à nouveau enquêter, et interroger. (6) On espère retrouver tous ceux qui nous ont aidés et continuer ensemble ce travail au long cours. (7) On n'imagine pas la force des liens et des amitiés qui naissent sur le terrain. (8) A l'heure où je suis en train de conclure ma thèse, je me rends compte de votre travail immense. (9) J'ai bénéficié de tous les savoirs de mes prédécesseurs, des connaissances en ethnographie, anthropologie, archéologie et linguistique. (10) Tout simplement du développement des études birmanes en France qui vous doivent tout, à vous et à votre mari. (11) Nos chemins se croiseront peut être. (12) Alors, si j'osais, j'aimerais vous inviter à ma soutenance, car sans vous, mon travail n'aurait pas été possible.

(1) データ収集の後はその分析です。(2) 帰路につきます。(3) でも、すぐにまた現地に戻ることを考えています。(4) 常に資料が必要なのです(直訳: 資料を十分に持ち帰ってくることはありません)。(5) 新しい調査、聞き取りが必要になります。(6) 助けてくれた方々に再び会って、この研究をともに続けていきたいと思います。(7) フィールドで生まれる人との繋がりや友情の力は計り知れません。(8) 博士論文を締めくくる段階にきていますが、いかにベルノー先生のお仕事が膨大なものであったかを実感しています。(9) 私は先人たちの知識、すなわち民族学、人類学、考古学、そして言語学の知識を享受することができました。(10) フランスでのビルマ研究の発展はすべてベルノー先生ご夫妻に負っていることは明らかです。(11) 我々の道はどこかで交差するかもしれません。(12) その際は、思い切って、博士論文の口頭試問にご招待させていただきたいです。ベルノー先生がいらっしゃらなかったら私の研究はなかったのですから。

参考資料

- 加藤昌彦. 2008. 「ビルマ語」石井米雄編『世界のことば・辞書の辞典 アジア編』三省堂, pp. 220–229.
- 水野義明. 1993. 「英語かエスペラントか」津田幸男編『英語支配への異論』第三書館, pp. 121–173.
- Bernot, Denise. 1958. Rapports phonétiques entre le dialecte marma et le birman. *Bulletin de la société de linguistique de Paris* 53: 273–294.
- Bernot, Denise. 1966. «Êtes-vous fâchée, belle-mère?», conte marma. In Ba Shin, Jean Boisselier et A. B. Griswold eds., *Papers on Asian history, religion, languages, literature, music folklore, and anthropology*. Ascona, Switzerland: Artibus Asiæ Publishers, pp. 59–66.
- Bernot, Denise. 1968. *Bibliographie birmane, années 1950–1960*. Paris: CNRS.
- Bernot, Denise. 1978–1992. *Dictionnaire birman-français: fasc. 1–15*. Paris: SELAF.
- Bernot, Denise. 1980. *Le prédicat en birman parlé*. Paris: SELAF.
- Bernot, Denise. 1982–1984. *Bibliographie birmane, années 1960–1970: v. 1, fasc. 1–2, v. 2, fasc. 1–2*. Paris: CNRS.
- Bernot, Denise. 1985. Un conte marma sur le breuvage “merya”. *Asie du sud-est et monde insulindien* 16(1–4): 141–156.
- Bernot, Denise et Lucien Bernot. 1972. Contribution à la linguistique et l’ethnographie des Intha (Birmanie). *Asie du sud-est et monde insulindien* 3(3): 1–26.
- Bernot, Lucien. 1967. *Les paysans arakanais du Pakistan oriental: l’histoire, le monde végétal et l’organisation sociale des réfugiés Marma (Mog)*. Paris/The Hague: Mouton.
- Bernot, Lucien et Denise Bernot. 1958. *Les Khyang des collines de Cliittagong (Pakistan oriental): matériaux pour l’étude linguistique des Chin*. Paris: Plon.
- Lévi-Strauss, Claude. 1951. Miscellaneous notes on the Kuki of the Chittagong Hill Tracts, Pakistan. *Man* 51: 167–169.
- Lévi-Strauss, Claude. 1952a. Kinship systems of three Chittagong Hill tribes (Pakistan). *Southwestern Journal of Anthropology* 8(1): 40–51.
- Lévi-Strauss, Claude. 1952b. Le syncrétisme religieux d’un village mōg du Territoire de Chittagong. *Revue de l’histoire des religions* 141(2): 202–237.
- Okell, John. 1995. Three Burmese dialects. In David Bradley ed., *Studies in Burmese languages*. Canberra: Pacific Linguistics, pp. 1–138.
- Pichard, Pierre et François Robinne. eds. 1998. *Études birmanes: en hommage à Denise Bernot*. Paris: École française d’Extrême-Orient.
- Stewart, J. A. and C. W. Dunn. eds. 1940–1981. *A Burmese-English dictionary: pt. 1–pt. 6*. London: Published under the auspices of the University of Rangoon.

- Toffin, Gérard. 2010. The art and craft of ethnography: Lucien Bernot, 1919–1993. In Parkin, Robert and Anne de Sales eds., *Out of the study and into the field: ethnographic theory and practice in French anthropology*. New York: Berghahn Books, pp. 197–218.
- Vittrant, Alice et Alexandra de Mersan. 2016. Denise Bernot: langues, savoirs, savoir-faires de Birmanie. https://www.canal-u.tv/video/cnrs_ups2259/denise_bernot_langues_savoirs_savoir_faire_de_birmanie.21679 (最終確認 2017年10月16日)
- Vittrant, Alice et Alexandra de Mersan. 2017. Denise Bernot ou la spécificité des études birmanes en France. *La lettre de l'InSHS* 45: 7–10.



西田龍雄教授の『緬甸館訳語の研究』と Denise Bernot 教授
(パリ郊外 Antony のご自宅にて・2008年9月25日・藤原敬介撮影)

(附記) 本稿は科学研究費補助金(課題番号 16K02691)による研究成果の一部である。

受理日 2018年4月16日

コプト語サイド方言の言語資料と文法注釈ーナポリ・国立ヴィットーリオ・エマヌエーレ3世図書館蔵・ベーサによるテキストの断片ー*

宮川 創

ゲッティンゲン大学ドイツ学術振興会共同研究センター 1136 (CRC1136) 研究員

ゲッティンゲン大学エジプト学コプト学専修博士課程, ヘブライ大学客員研究員

京都大学大学院言語学専修博士後期課程・runa.uei@gmail.com

キーワード: コプト語, エジプト語, 言語資料, 文法注釈, 文献言語学, 記述言語学

1 はじめに

ベーサ¹ は, 紀元後 5 世紀に活躍した, 現在の中部エジプト² のソハーグ近郊に位置する, 白修道院, 赤修道院, 女子修道院の修道院連合の修道院長である。彼の母語はコプト語であり, 翻訳文学の割合が多いコプト語文献の中で母語話者が著したコプト語文献として, 彼の文献はエジプト語を対象とした言語学の分野で重要である。なお, 本稿が対象とするテキストの方言はサイド方言³ である。

本稿は彼のテキストのうち, 白修道院 BA 写本 (MONB.BA) 49-56 頁に収められているテキストの断片の, 実際の写本に基づく転写, 翻字, グロス, 訳, および, 文法注釈である。この写本は, 過去に, 売人によって葉 (folio) ごとにばらばらにされて売られ, 現在はナポリ, パリ, ライデン, ロンドン, マンチェスターの 5 都市に分散しているが, 本稿が対象とするテキストが収録された部分は全てイタリアのナポリの国立ヴィットーリオ・エマヌエーレ 3 世図書館 (Biblioteca Nazionale Vittorio Emanuele III)⁴ にある。本稿の対象とするテキストの断片の所蔵番号は, IB 6 f.1r-4v である。

この写本のように, 白修道院図書館で発見された諸文献は, 19 世紀のフランス隊やイタリア隊によって大部分が自国に持ち去られ, それらの多くは, 現在, パリのフランス国立図書館 (Bibliothèque nationale de France), ナポリの国立ヴィットーリオ・エマヌエーレ 3 世図書館と

* 有益なコメントを下さった鈴木博之氏 (オスロ大学研究員), 戸田聡氏 (北海道大学准教授), 仲尾周一郎氏 (大阪大学助教) に心よりお礼申し上げます。

¹ コプト語 *bêsa*。アラビア語では *wīṣā*。Behlmer (2009:37) によれば, 彼の在世期もしくは活躍期 (floruit) は紀元後 465 年に始まり, 474 年以降に続く。なお, 戸田 (1995:163,167) は, コプト文字の <ê> (エータ) に対して, 日本語において長音記号 (ー) を用いない「ベサ」という表記を用いている。

² エジプトを上エジプトと下エジプトに分けた場合は, 上エジプトに属する

³ 聖書学ではサヒド方言と呼ばれる。詳しくは, 本稿第 2 章を見よ。

⁴ ナポリ国立図書館 (Biblioteca Nazionale di Napoli) と呼ばれる。

ローマのヴァチカン使徒図書館 (Biblioteca Apostolica Vaticana)⁵ などに所蔵されている。残りは様々な図書館や博物館などの手に渡り、大多数はヨーロッパとアメリカで、そして少数はエジプトのコプト博物館で所蔵されている⁶。

確認されているテキストの分量がそれほど大量ではないこともあって、ペーサの著作の編集作業は比較的優れたものが Kuhn (1956) によってなされた。ペーサの著作は、彼の先代の修道院長である (アトリペの) シェヌーテに比べ残っているものが少ない。コプト語サイド方言のシェヌーテの著作は、古くはテキストの構成の復元は不完全ながらも、分散したページのかたまり、あるいは分散した博物館や図書館にあるコレクションなどに基づいて、Jørgen Zoëga⁷ (Zoëga 1810) や Émile Amélineau (Amélineau 1907, 1914) や Johannes Leipoldt (Leipoldt 1908, 1913) らによって転写や翻訳が出版されてきた。その後、Corpus dei Manoscritti Copti Letterari (文語コプト語写本コーパス)⁸ の成果を基に、Emmel (2004) の金字塔的著作によって写本学⁹ 的情報およびテキストの構成がまとめられ、9つのカノン (Canons)、8つのディスコース (Discourses あるいは Logoi)、および、その他の著作としてシェヌーテの著作が再構築されたものの、『第8カノン』の Anne Boud'hors によるエディション (Boud'hors 2013)¹⁰ 以外のカノンおよびディスコースはまとまったエディションが出版されていない。

筆者は現在ゲッティンゲン大学¹¹ の共同研究センター 1136¹² にて、Heike Behlmer の監督のもと、Julien Delhez と共同で、シェヌーテの『第6カノン』の編纂を行なっている。当編纂作業では、Heike Behlmer と Frank Feder が率いるゲッティンゲン学術アカデミー¹³ 「コプト語旧約聖書デジタル・エディション」プロジェクト¹⁴ で用いられている、ミュンスター大学¹⁵ の新

⁵ 通常、日本語では、単にヴァチカン図書館と呼称される。

⁶ これらの経緯については、Louis (2008) を参照。

⁷ 彼の母語であるデンマーク語に基づく表記。ドイツ語では、Georg Zoëga、ラテン語では、Georgius Zoëga である。

⁸ CMCL と略される。ローマ大学教授であった Tito Orlandi と彼のチームによって作られた、コプト語の文学写本の写本学的なデータベース。シェヌーテの写本およびテキスト研究の基礎を作った。<http://www.cmcl.it/>、最終確認日 2018 年 1 月 25 日。

⁹ 英語は codicology で、直訳ならば「冊子本学」となるが、慣例的に「写本 (manuscript) 学」と訳されている。

¹⁰ このエディションには、写本毎のテキストの転写および注、フランス語による訳、そして写本の頁の写真が含まれている。Kuhn (1956) もそうであるが、異本間の異読を検証して原文を復元する本文批評は含まれていないため、「校訂版」という語の使用は避け、ここではより広いエディションという用語を用いた。

¹¹ 正式名称は、ゲオルク・アウグスト大学ゲッティンゲン (Georg-August-Universität Göttingen)。

¹² 正式名称は、英語では、Collaborative Research Centre 1136 Education and Religion in Cultures of the Mediterranean and Its Environment from Ancient to Medieval Times and to the Classical Islam。ドイツ語では Sonderforschungsbereich 1136 Bildung und Religion in Kulturen des Mittelmeerraums und seiner Umwelt von der Antike bis zum Mittelalter und zum Klassischen Islam。

¹³ Akademie der Wissenschaften zu Göttingen。

¹⁴ Digital Edition of the Coptic Old Testament; <http://coptot.manuscriptroom.com/>。最終確認日 2018 年 1 月 27 日。

¹⁵ 正式名称は、ヴェストファリア・ヴィルヘルム大学ミュンスター (Westfälische Wilhelms-Universität Münster)。

約聖書研究センター¹⁶において Troy Griffitts と Ulrich Schmid が開発した Virtual Manuscript Room (VMR) という聖書写本の編纂のためのウェブ・アプリケーション¹⁷を用いている。

筆者は、ペーサの写本を忠実に再現した、TEI XML と Unicode によるデジタル・エディションの作成をシェヌーテの『第6カノン』と同様の方法を用いて行った。Kuhn (1956) はそれ以前に現存する唯一のペーサのエディションであり、彼はこの本で Codex A から Codex I の9つのコーデックスに含まれたテキストの転写を提供している。Kuhn (1956) はこれらのコーデックスを44の「断片」(“Fragment”)に分けた。この“Fragment”は物理的な写本の断片ではなく、一つのテキストとしてまとまりのある文章の断片である。これらの「断片」の中には1つのテキストとして完全な「断片」もあるが、ページが欠損している「断片」も多数ある。Kuhn (1956) は、一通の手紙として認められるものや一つの説教文として認められるものをこれらの「断片」に分けている。本稿の対象である「断片1」(Fragment 1)はKuhn (1956)によって「警戒/不寝番について」(On vigilance)というタイトルが付けられている。写本のページ番号、所蔵場所、所蔵番号は表1の通りである。Kuhn (1956)は今から1956年の出版であり、その頃のフォント技術の未発達から、特に発音区別符号(diacritical mark)の転写が大幅に簡略化されている。コプト語文献の発音区別符号は宮川(2014, 2016, 2017)で見たように、コプト語音韻論を論じる上で、大変重要なファクターである。この“Fragment 1”は、Kuhn (1956)ではコーデックスA, CMCL sigla では白修道院BA写本(MONB.BA¹⁸)にあたる写本のp.49からp.56のみでその断片のテキストが見つかっている。

本稿は、まず、実際の写本の写真を見ながら転写、Kuhn (1956)のエディションと照合、特に発音区別符号の補完とKuhn (1956)の誤りの訂正を行った。さらに、Leipzig-Jerusalem Transliteration (Grossman and Haspelmath 2014)に従った翻字に、記述言語学および言語類型論で標準となりつつあるLeipzig Glossing Ruleに従ったグロスを付け、訳および注も付した。このようにして、言語資料として言語学者による使用に耐えうるようにした。

2 コプト語について

コプト語(Coptic)は、アフロ・アジア語族(Afro-Asiatic)エジプト語派(Egyptian)に属するエジプト語(Egyptian)の最終段階である。通常はコプト語とよばれるが、言語学の文脈では、

¹⁶ Institut für Neutestamentliche Textforschung. 略称は、INTF。同研究所は、Nestle-Aland 版ギリシア語新約聖書(最新版は2015年に出版された第28版 Nestle et al. 2012)を編纂していることで著名である。

¹⁷ 写本に用いられる様々な記号、エクテシス、頁・柱・quire 番号、章・節番号、パリンプセストや別の書き手による箇所、書き足しや修正など、古代地中海世界の文献学で起こりうるあらゆる事象をディスプレイで再現しながら(WYSIWYGに)記述でき、さらにデジタル・ヒューマニティーズ(Digital Humanities)においてデータの記法のスタンダードとなっているTEI XML (TEI: Text Encoding Initiative, XML: Extensible Markup Language)としてデータを出力できる。VMR CRE (Virtual Manuscript Room Collaborative Research Environment)版は、ユーザのローカル環境にインストールすることができる。<http://vmrcr.org/>、最終確認日2018年1月26日。

¹⁸ これは、CMCL sigla と呼ばれ、CMCLにおいて各コーデックスごとに振られている記号である。MONBはMonasterio Bianco(イタリア語で「白修道院」)の略である。

表 1 「断片 1」の文献学的情報

ページ番号	所蔵場所	所蔵番号	出土場所
49	ナポリ国立図書館	IB 6 f. 1r	白修道院
50	ナポリ国立図書館	IB 6 f. 1v	白修道院
51	ナポリ国立図書館	IB 6 f. 2r	白修道院
52	ナポリ国立図書館	IB 6 f. 2v	白修道院
53	ナポリ国立図書館	IB 6 f. 3r	白修道院
54	ナポリ国立図書館	IB 6 f. 3v	白修道院
55	ナポリ国立図書館	IB 6 f. 4r	白修道院
56	ナポリ国立図書館	IB 6 f. 4v	白修道院

主に聖刻文字 (Hieroglyph) と神官文字 (Hieratic) で書かれた古エジプト語, 中エジプト語, 新エジプト語, および, 民衆文字 (Demotic) で書かれた民衆文字エジプト語 (Demotic Egyptian) からの連続性を強調するため, コプト・エジプト語 (Coptic Egyptian) と呼ばれることがある (Reintges 2004)。Coptic Egyptian は, アンシャル体のギリシア文字に少数のエジプト民衆文字を補填したコプト文字で書かれたエジプト語であるためコプト文字エジプト語と呼びかえることもできる。なお, ここで「エジプト語」というのは, 例えば, 現代日本語と上代日本語が属する日本語, 現代ギリシア語と古典ギリシア語が属するようなギリシア語の如く, 通時態的言語であり, もちろん, 同じエジプト語に属していても古エジプト語とコプト語では, 同源語があるものの, 文法体系がかなり異なることに注意されたい。また, 後で述べるようにコプト語内で諸方言が確認されている。コプトと言う語は, それ自体が, エジプト人を意味するギリシア語 *Aigýptios* がアラビア語に借用され, *qubṭ*あるいは *qibṭ*となり (塚本 1988:1738), それが西洋語に取り入れた形である。コプト語ではコプト語はサイド方言では, *t-aspe m-mnt-rm-n-kême* (塚本 1988:1738) と呼ばれ, 「ケメト (黒, すなわちエジプトのナイル川流域の黒土を表し, エジプトを指す) の人の言葉」を意味する。また, 単に, *aspe* 「言葉」とそれに付く女性単数定冠詞 *t*-を省略して, *t-mnt-rm-n-kême* の語が用いられることがある。コプト語サイド方言では *mnt*-は抽象名詞化の接辞だが, コプト語以前のエジプト語における同源語である *mdt* (古・中・新エジプト語), あるいは *mt* (民衆文字エジプト語) は, Černý (1976:85) によれば “speech, matter” を表す。

コプト語には, 紀元後 4 世紀までを中心にマニ教文献, グノーシス主義文献, ヘルメス主義文献のみならずプラトーンの『国家』(ナグ・ハマディ第 6 写本中) やホメーロスの『イーリアス』(P.Oxy.68 6B.39/C (2-5) b) などの非キリスト教文献の翻訳が残っているものの, コプト語の literary¹⁹ な文献のほとんどはキリスト教関係である。コプト語ボハイラ方言は, 現在で

¹⁹ パピルス学用語である documentary に対する用語。

もコプト・キリスト教²⁰の典礼言語として用いられている。ギリシア語からの借用語は他のエジプト語の諸段階と比べ圧倒的に多い。

コプト語には、ボハイラ方言(ボハイル方言)²¹、ファイユーム方言、オクシュリユンコス方言(中部エジプト方言)、サイド方言(サヒド方言)、リュコポリス方言(準アクミーム方言)²²、アクミーム方言などの方言がある。多くの文献を有し、ベーサやシェヌーテも用いたサイド方言は、日本語による聖書学の用語では、サヒド方言と呼ばれる²³。これは英語の Sahidic、もしくは(おそらくこちらの方が可能性が高いが)ドイツ語の Sahidisch の音を日本語に借用したものと思われる。しかしながら、元になったアラビア語の語は、「(ナイル)上流/上エジプト」を表す名詞 *ṣaʿīd* [sʰaʿiːd] の形容詞形、*ṣaʿīdī* [sʰaʿiːdiː] である。これにおいて、英語 Sahidic における、Sa と idic の間の h はアラビア語では有声咽頭摩擦音 [ʕ] に対応する。西欧語で、h が書かれるようになったのは、有声咽頭摩擦音の代わりに、声門閉鎖音で読まれる h を用いた教会ラテン語もしくはフランス語の *sahidique* から h を付した綴りが広まったためかもしれない。日本のアラビア語学でもエジプトの南部のアーンミーヤをアラビア語に近い音であるサイド方言と表記している。なお、日本の言語学の集大成の一つである『言語学大辞典』では、コプト語の方言として、アラビア語の音に近いサイド方言が用いられている(塚本 1988:1739-1740)。聖書学の用語に合わせるべきか、言語学の用語に合わせるべきか悩ましいところであるが、筆者はこれまで、言語学の著作では言語学の用語である「サイド方言」を用いている。

3 特筆すべき文法現象

なお、以下では、Leipzig Glossing Rules がない、コプト語特有の文法現象について説明する。本テキストで 1, 2 例しか出てこないものに関しては、訳注で随時説明する。ここでは、特にコプト語のテキストをグロス付きで読むときに重要であろう点について解説する。

3.1 Status

Status は、コプト語文法の中でも最も特徴的な言語現象であり、接続詞や小辞を除いてほぼ全ての品詞で見られる。Status は絶対形 (*status absolutus* あるいは *absolute state*) と拘束形 (*bound state*) に分かれ、拘束形はさらに名詞接続形と代名詞接続形に分かれる。絶対形は自由形態であるが、拘束形は拘束形態であり、その形態のみでは語として独立して成立し得ない。絶対形、名詞接続形、代名詞接続形はそれぞれ形態が異なる。名詞接続形 (*status nominalis* /

²⁰ 英語では、Coptic Christianity。コプト正教会 (Coptic Orthodox Church of Alexandria)、コプト・カトリック教会 (Coptic Catholic Church) など。

²¹ 現在のコプト・キリスト教の典礼では、このボハイラ方言が用いられる。ボハイラ方言には、B4 方言やニトリア・ボハイラ方言など下位方言が存在する。

²² マディーナト・マーディー出土のマニ教文献 (L4 方言) やケリス出土の文献 (L*方言)、ナグ・ハマディ写本群中の『闘技者トマスの書』など一部 (L6 方言) など、宗教学的に重要な文献を有する。

²³ 辻 (2016) は「サヒド方言」を用いている。

prenominal state²⁴) はセム語学の用語から status constructus あるいは construct state, 日本語では「連語形」(小脇 2013:69) あるいは「構築形」と呼ばれ, 主に名詞句あるいは限定詞句の直前に来た場合に現れる status であり, それ自体にアクセントを持たない。²⁵ 名詞接続形は, 接尾代名詞以外²⁶ の, 名詞化されたと見なされる他の品詞の前にも置かれうる。これに対して, 代名詞接続形 (status pronominalis / prepronominal state²⁷) は二人称複数数の *têutn* を除く接尾代名詞の前のみに来る形である。以前, 筆者は prenominal state 並びに prepronominal state の訳語として, 「前名詞形」並びに「前代名詞形」を用いていたが, この訳であると, 動詞が「名詞」あるいは「代名詞」に変化する前のものであるような印象を与えかねない。北海道大学准教授の戸田聡氏は, 「名詞接続形」並びに「代名詞接続形」という, より日本語として自然な訳を授業などで用いており, 今回, 筆者はこの訳語を用いることにする。この訳語はラテン語の status nominalis および status pronominalis の訳出であると考えられる。ただし, これでは, より新しい用語である英語の prenominal state 並びに prepronominal state の接頭辞 pre- が表す, 接続の方向性が訳出されていないことになる。その点, 「名詞接頭形」, 「代名詞接頭形」なども考えられるが, prenominal state および prepronominal state の動詞はほとんどの場合単なる接頭辞ではないため, 接頭という訳語²⁸ を用いるのは憚られる。他方, コプト語では, 主要部が従属部の前に来ることが多いことから, 「名詞接続形」だけでも実用的な基準には達していると思われる。そのため, 本稿では戸田氏の訳語の方が優れていると判断し, status nominalis あるいは prenominal state の訳語に「名詞接続形」, status pronominalis あるいは prepronominal state の訳語に「代名詞接続形」を用いる。このように, コプト語の文法用語は日本語では定訳²⁹ が定まっていない。そのため, 文法用語の訳語の整理・統一が待たれる。

なお, 代名詞は, それ自体アクセントを持たない拘束形態である接尾代名詞とアクセントを持つ自由形態である独立代名詞がある。例, 接尾代名詞 *-f* 「彼」, 独立代名詞 *ntof* 「彼」。名詞接続形はアクセントを失うが, 代名詞接続形はアクセントを保持する。「~形」が status あるいは state に対応する訳語とするのは, 他にも訳語「~形」に対応する form などの語があるので, 再考すべきであるが, 他に良い訳語がないため, 小脇 (2013) など日本語における主なヘブライ語文法にしたがって, ここでは status あるいは state を「~形」と訳す。コプト語の status の変化は母音によるものが多い。表 2 は, 動詞 *solsl* の変化である。

この母音の変化は様々なパターンがある。名詞接続形の時では絶対形ではアクセントを持っていた母音がアクセントを持たない母音 <e> /ə/ になったり, 母音を失ったり, 代名詞接続形の時

²⁴ ラテン語では nominalis だが, 英語では, 名詞の前に来る形であることから, 通常は nominal に接頭辞 pre- を付ける。

²⁵ Plumley (1948:§140) は construct state を名詞接続形のみを用いている。また Brankaer は名詞接続形と代名詞接続形を合わせて Bound State と呼称している (Brankaer 2010:119-120)。

²⁶ ただし, 二人称複数数の *têutn* は後で述べるように, 代名詞接続形ではなく, 名詞接続形をとる。

²⁷ status nominalis あるいは prenominal state と同様, ラテン語では pronominalis だが, 英語では, 代名詞の前に来る形であることから, 通常は pronominal に接頭辞 pre- を付ける。

²⁸ *eire* 「する」の名詞接続形 *r-* を名詞を動詞化する接頭辞と考えられないこともない。

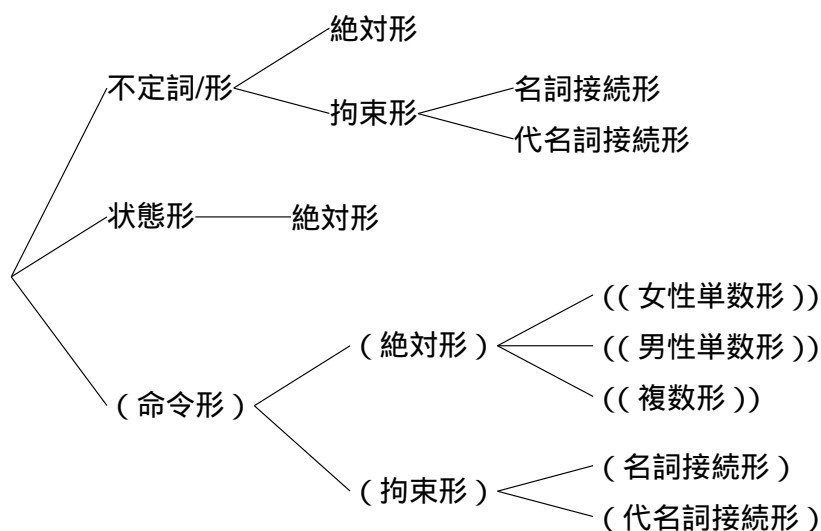
²⁹ 英語でさえも, 特に助動詞において文法家によって異なる用語が用いられる。

表 2 動詞の活用 (Plumley 1948:140)

status	例文	グロス	訳
絶対形	<i>a-f-solsl</i>	過去-三 ^{単男} -慰め(られ)る	「彼は慰めた」或いは「彼は慰められた」
名詞接続形	<i>a-f-sls-pe-n-son</i>	過去-三 ^{単男} -慰める _名 -所有 ^{単男} -一 ^複 -兄弟 ^男	「彼は我らの兄弟を慰めた」
代名詞接続形	<i>a-f-slsôl-s</i>	過去-三 ^{単男} -慰める _代 -三 ^{単女}	「彼は彼女を慰めた」

は絶対形で tense の母音であったものが lax の母音になったりする。逆のパターンもある。他に、代名詞接続形で子音 *-t* の付加が起きる動詞もある。例としては、動詞 *fi-* (絶対形 *fi*, 名詞接続形 *fi-*, 代名詞接続形 *fit-*) 「取って来る」³⁰ が挙げられる。これらの形態音韻論的变化はパラダイム化、並びに、パターン化できる。例えば、Plumley (1948:§146-177) や Layton (2011) にその表がある。図 1 において、動詞の status の分類を示した。

図 1 動詞体系：宮川 (2016) の改定版。一重括弧は少数を、二重括弧は極少数を意味する。



前置詞や動詞において、2 人称複数接尾代名詞で *-tn* ではなく *-têutn* が用いられた時は名詞扱いとなり、その前の動詞や前置詞は代名詞接続形ではなく名詞接続形が用いられる。例、*oueh-têutn* (置く_名-二^複) 「君らを置く」。なお、動詞の命令形は少数であり、命令形において性数の変化があるものもあるが、それは極少数である。特別な命令形をその動詞が有する場合、

³⁰ このように、いわゆる辞書形としては絶対形が用いられる。

その命令形の形成は命令形形成接頭辞 *a-* でなされるものも多い。動詞に類するものとしては、他に、準動詞 (verboïd) と呼ばれるものがある。これは、名詞接続形と代名詞接続形のみを持つ動詞で、性質や状態を表すことが多い。通常、名詞接続形と代名詞接続形の後に来る名詞/代名詞は目的語となることが多いが、準動詞の場合はそれらは主語となる。例: *nanou-f* (良い-三^{単男}) 「それ/彼は良い」。

3.2 転換詞 (converter)

転換詞は、助動詞または、現在形の代名詞の前につく品詞で、テンスを一段階前にするものや、副詞句の焦点化を表すものなど、様々である。要は、ある節 (clause) にある機能を持たせるものである。古くから副詞句焦点化の転換詞は機能が不明であったが、Hans Jakob Polotsky の構造主義的研究によって副詞句焦点化の機能があることが明らかにされ (Polotsky 1944) , 現在多くの文法で概ねこの説が採用されている。転換詞の一覧を表 3 で示す。

表 3 転換詞の一覧

機能	中立形	名詞の前のみ	過去標識 <i>a-</i> の前のみ
関係節化 (relative)	<i>e-, ete-</i>	<i>etere-</i>	<i>nt-, ent-</i>
状況節化 (circumstantial)	<i>e-</i>	<i>ere-</i>	
(副詞句) 焦点化 (focalizing)	<i>e-</i>	<i>ere-</i>	<i>nt-</i>
前時化 (preterit) ³¹	<i>ne-</i>	<i>ner-</i>	

3.3 ギリシア語からの借用語

コプト語にはギリシア語からの借用語が大量に存在する。しかも、様々な品詞に登場する。これらはコードスイッチングや引用ではない。今回の文献であるベーサの「断片 1」で登場したギリシア語からの借用語の頻度は 112 (token) であった。品詞別の頻度と割合を以下の表 4 で示す。

表 4 ギリシア語からの借用語における品詞

品詞	名詞	動詞	副詞	前置詞	接続詞	小辞	総計
頻度 (延べ数)	50	15	1	3	24	19	112
割合 (頻度/総計, 小数点第一位四捨五入)	45%	13%	1%	3%	21%	17%	100%

所謂「開いたクラス (open class)」と呼ばれ、借用が起こりやすいと言われる名詞、動詞、副

²⁹ 時制を一つ前にする。例えば、時制が現在であるならば、過去に変える。

詞だけでなく、「閉じたクラス (closed class)」と呼ばれ借用がされにくいとされる前置詞、接続詞、小辞にも借用が生じていることがわかる。

3.4 格標識

格標識には、通常接頭前置詞である。基本的な接頭前置詞としては、表5のようなものがある。コプト語の接頭前置詞には様々な意味・機能があるため、これらの基本的な接頭前置詞には、言語資料のグロスに一貫性を持たせ、簡潔にするための都合上、「～格」という名称を付してある。これは屈折語の格接辞ではないことに注意していただきたい。このような、グロスにおける格の付与は、言語類型論でコプト語例文をグロス付きで用いる際に Eitan Grossman らによって行われている。なお、*nci-*を主格とするのは Grossman (2014:208) のアイデアである。また、与格接頭前置詞名詞接続形と属対格接頭前置詞名詞接続形は同形である。

表5 主な格標識・接頭前置詞

グロス	名詞接続形	代名詞接続形	主な意味 (Brankaer 2010:31 を参考にした)
主格	<i>nci-</i>	—	「～が」
属格	<i>n-te-</i>	<i>nta-</i>	「～の」
属対格	<i>n-</i>	<i>m-mo-</i>	「～の」「～を」「～で(時間)」「～から」「～を用いて」
与格	<i>n-</i>	<i>na-</i>	「～へ」「～に」
向格	<i>e-</i>	<i>ero-</i>	「～に」「～のために」(不定詞を伴って)「～することを」「～よりも」
所格	<i>hn-</i>	<i>nhêtn-</i> ³²	「～で」「～において」「～の中で」
共格	<i>mn-</i>	<i>nmma-</i>	「～と」
上格 ³³	<i>hi-</i>	<i>hiô(ô)-</i> ³⁴	「～で」「～の上で」「～と」
下格 ³⁵	<i>ha-</i>	<i>haro-</i>	「～の下で」「～で」

³⁰ *n-hêt-* (属対格^名-腹^代-) と分解できる。

³¹ ハンガリー語などにあり、記述言語学で用いられる superlative (上格) を用いた。なお、本文でも述べたように、これらの接頭前置詞のグロスに用いた「～格」という名称は暫定的である。通常は「～格」はコプト語の伝統的な文法ではあまり用いられないが、Eitan Grossman らは、近年、言語類型論や記述言語学の分野でコプト語の例文のグロスを簡潔にするためにグロスにて nominative, accusative, genitive などの格の名称を用いている。これらの接頭前置詞には様々な意味がある。例えば、*hi-*には「～の上で」の基本的な意味の他に「～と」という共格的な意味になる場合もあり、グロスを一貫して付すために便宜的にハンガリー語などで用いられている「上格」を用いた。

³² *hi-ôô-* (上格^名-背^代-) と分解できる。

³³ 記述言語学で用いられる sublative (下格) を用いた。

属格 *n-te*-はボハイラ方言ではよく使われるものの、サイド方言ではあまり使われない。Haspelmath (2014) は、*n-te*-^名・*n-ta*-^代を用いた所有構文を Short Possessive Construction, 属対格の *n*-^名・*n-mmo*-^代を用いた所有構文を Long Possessive Construction と呼んでいる (Haspelmath 2014:264-266)。また、リンカーの *n*-もある、これは属対格の属格用法に含めることもできるが、含めないこともできる。形容詞的名詞とそれに修飾される名詞、および3以上の数詞とそれに修飾される名詞を繋ぐ。他には、主格の *n-ci*-は動詞や目的語の後に置かれるが、Grossman (2014) はこの *n-ci*-を実際の主語の位置だと見ている。これらの前置詞は接頭辞であるのか前置詞であるのか議論がある。Grossman (2018) は接頭辞であるとしているが、筆者は接語であるという立場に傾いている。つまり、これらの名詞接続形の前置詞は名詞に付いてアクセントを失うため、それ自体では音韻語³⁶にはなり得ないが、長大な限定詞句を従属部にした前置詞句の主要部となりうるため、それ自体は文法語であるとする立場である。ただし、このような議論は「語」の定義によって左右される。Haspelmath (2011) はそもそも「語」自体がユニバーサルには定義不可能であり、言語類型論などの議論においては成り立たないことを主張している。Haspelmath 自身、コプト語は「語」の定義が特に成り立ちにくい言語の一つだと主張している (Haspelmath 2016)³⁷。なお、これまでコプト語の文法書では、接頭前置詞の格の名称はあまり使われなかったが、Grossman を中心に格の名称を用いて、類型論的議論を容易にしようとする傾向がある。本稿ではグロスと説明のやりやすさのために、複合前置詞を形成する基本前置詞のうち、よく使われるものに、これらの格の名称を使用する。これらの格の名称は発展段階である。これらの接頭前置詞は主に身体部位名詞と組み合わせられて複合前置詞を形成する。複合前置詞のうちよく使われるものを表6で紹介する。

コプト語にはギリシア語から借用された前置詞が存在する。ギリシア語から借用された前置詞は、代名詞接続形を持つものと持たないものの2つに分けられる。表7でギリシア語から借用された主な前置詞を挙げる。

3.5 再呼代名詞

再呼代名詞とは関係節の中で用いられる先行詞と呼応する代名詞である。日本語において、「私が使ったペン」というときに、コプト語においては、「私が それを 使ったペン」と言ったようになり、この「それを」が再呼代名詞に当たる。この再呼代名詞は、目的語だけでなく、主語、場所、時など様々な文法要素において用いられる。なお、性・数は先行詞に一致する。例：*n-n-ent-a-ne-n-eiôt čoo-u* (属対格^名-定^複-関係節化-過去^名-所有^複-複-父^複 言う^代-三^複)「我らの父祖たちが言ったもの (lit. 我らの父祖たちがそれらを言ったもの)」(本稿の言語資料中にあるベーサ「断片1」第5章第1節より)。

³⁶ 音韻語と文法語については Dixon and Aikhenvald (2002) を見よ。

³⁷ この問題は宮川 (2017) において分析した。

表 6 複合前置詞のうちの主なもの

名詞接続形	代名詞接続形	意味 (Brankaer 2010:32-33 を参考にした)
<i>n-sa-</i> 属対格 ^名 -側 ^名 -	<i>n-sô-</i> 属対格 ^名 -側 ^代 -	「 ~ の後で」
<i>e-tn-</i> 向格 ^名 -手 ^名 -	<i>e-toot-</i> 向格 ^名 -手 ^代 -	「 ~ に」「 ~ に向かって」
<i>n-tn-</i> 属対格 ^名 -手 ^名 -	<i>n-toot-</i> 属対格 ^名 -手 ^代 -	「 ~ で」「 ~ と」「 ~ の隣に」「 ~ から」
<i>ha-tn-</i> 下格 ^名 -手 ^名 -	<i>ha-toot-</i> 下格 ^名 -手 ^代 -	「 ~ で」「 ~ と」「 ~ の隣に」「 ~ から」
<i>e-hrn-</i> 向格 ^名 -顔 ^名 -	<i>e-hra-</i> 向格 ^名 -顔 ^代 -	「 ~ に向かって」「 ~ の間で」
<i>na-hrn-</i> 与格 ^名 -顔 ^名 -	<i>na-hra-</i> 与格 ^名 -顔 ^代 -	「 ~ の前で」
<i>ha-htn-</i> 下格 ^名 -心臓 ^名 -	<i>ha-(h)tê-</i> 下格 ^名 -心臓 ^代 -	「 ~ の隣で」「 ~ と」
<i>e-čn-</i> 向格 ^名 -頭 ^名 -	<i>ečô-</i> 向格 ^名 -頭 ^代 -	「 ~ の上で」「 ~ に」「 ~ に対して」「 ~ の後で」
<i>hi-čn-</i> 上格 ^名 -頭 ^名 -	<i>hičô-</i> 上格 ^名 -頭 ^代 -	「 ~ の上で」「 ~ の上に」「 ~ で」「 ~ の中で」

表 7 ギリシア語から借用された前置詞のうちの主なもの

名詞接続形	代名詞接続形	主な意味 (Brankaer 2010:32 を参考にした)
<i>kata-</i>	<i>katáro-</i>	「 ~ によれば」「 ~ のあとで」
<i>para-</i>	<i>paráro-</i>	「 ~ と比較して」「 ~ よりも」
<i>pros-</i>	<i>prosro-</i>	「 ~ に応じて」「 ~ よりも」
<i>k^hôris-</i>	—	「 ~ なしで」
<i>hôs-</i>	—	「 ~ のように」

3.6 小辞

コプト語には小辞あるいは不変化詞 (particle) と呼ばれる品詞が存在するが、これは典型的なヴァッカーナーゲル・クリティック³⁸ である。このヴァッカーナーゲル・クリティックは、古典ギリシア語やタガログ語など語族に関わらず様々な言語に見られる。コプト語の小辞の使用法は、コイナー・ギリシア語のそれとほぼ同じである。コプト語の小辞の多くは、*gar*, *de* など、コイナー・ギリシア語からの借用語であるが、*ce*, *on* など、エジプト語本来語もある。

3.7 受け身

状態受け身と呼べるような静的な受け身は、動詞の状態形で主に表されるが、動的な動詞の意味的な受け身は主に非人称の 3 人称複数代名詞を用いて表される。例：*se-kôt mmo-f e-bol*

³⁸ 文中の第二位置に来て、それ自体はアクセントを持たない接語のこと。

hi-tn-ta-maau. (三^複-建てる^絶 属対格^代-三^{単男} 向格^名-外側^絶 上格^名-手^名-所有^{単女}-一^単-母) 「それは私の母によって建てられている。(lit. 彼ら(非人称)は私の母の手でそれを建てている。)」(Layton 2011:136)。

4 本文

4.1 転写方法

本文には写本に基づく精密な転写, 翻字を記した後, 翻字に形態の境界, 各形態のグロスおよび各音韻語の語釈を付し, 最後に全体の訳を示した。また, ギリシア語からの借用語にはそのグロスに^キを付した。改行は|で表した。また, 列が1ページに2列あるため, 改列は||で表し, 改ページは|p.(ページ数)|で表した。なお, 節や章, パラグラフの番号は, Kuhn (1956)に従った。彼は判断方法を書いていないが, 大まかには, コプト語写本に書かれた段落 footnote エクテシス (ekthesis / 稀に ecthesis), すなわち, マージンにはみ出た大きな文字で段落の冒頭が示されている。MONB.BA の場合は, エクテシスはあまり大きめではない。を用いていることが多いが, 完全に写本の段落と一致するわけではなく, 彼が文章の内容を判断してつけたと思われるものも多数ある。ペーサに関しては, Kuhn のエディションと英訳はあるものの, 言語学の資料となる, グロス付き言語資料はない。本稿のグロスはライプツィヒのマックス・プランク進化人類学研究所 (Max-Planck-Institut für evolutionäre Anthropologie) にあった言語学の Leipzig Glossing Rules³⁹ を参考にしたが, 日本語で行ったため, L^AT_EX のデフォルトでドットに続けて文法素性を書くとスペースが開き, 美しく映らなかった。そこで, 性・数・status とギリシア語由来の形態素かどうかに関してのグロスには, 意味表記の右肩に小さな文字で略号を付した。略号やその他の記号に関しては, 本稿の参考文献一覧の前にある, 略号一覧および凡例を参照いただきたい。

前述したことだが, Kuhn (1956) の時代のコプト文字フォントは原始的なものであり, エクテシスの表示や細かなダイアクリティカル・マークを省き, スープリニアーストロークの位置を極端に単純化している。そこで, 本稿はナポリ国立図書館 (Bibliotheca Nazionale di Napoli) に所蔵されている写本を見ながら, Steven Emmel と Michael Everson が開発したユニコードコプト語フォントである Antinoou⁴⁰ を使用して, 現代のフォント技術で出来る限り正確な書き起こしを行い, 文字論や音韻論の資料としての実用性をも目指したただし, 本稿は pL^AT_EX で書かれているため, そのままでは, Antinoou が使用できない。もちろん, X_gL^AT_EX や LuaL^AT_EX を用いれば, Antinoou を表示させることができる。しかし, X_gL^AT_EX では, 日本語が美しく表示されず, LuaL^AT_EX では, 多種多様なスープリニアーストロークが出力できなかった。そこ

³⁹ <https://www.eva.mpg.de/lingua/resources/glossing-rules.php>, 最終確認日 2018年1月26日

⁴⁰ <https://www.evertype.com/fonts/coptic/>, 最終確認日 2018年1月26日。

で、初めは、Antinoou で書いたテキストを `coptic.sty`⁴¹ の記法⁴² で書き直し、表示することを試みた。フォントは Serge Rosmorduc によって METAFONT を用いて開発された `coptic.sty` のものであり、近年よく使われている Antinoou, New Athena Unicode⁴³, IFAOGrec Unicode⁴⁴ などではない。しかしながら、様々な長さのスーパーリニアーストロークやディプラーなどの各種記号を表示するのに支障が出たため、今回は、Antinoou で書いたテキストを別に Xe_{La}TeX で作成し、出力した PDF を逐一、 \LaTeX で書かれた本文に埋め込んだ。

スーパーリニアーストローク⁴⁵ は、機能としては聖名 (Nomina Sacra) の省略および、音節の表示の機能がある。前者は、翻字では、Grossman and Haspelmath (2014) に従い、省略されている字を () で表示し、後者に関しては、宮川 (2014, 2016) で議論されているように音節子音説とシュワー挿入説の 2 説があってどちらかに決着していない他、Grossman and Haspelmath (2014) のルールでは書かないことになっており、表示しなかった。また、Grossman and Haspelmath (2014) に従い、機能が完全に解明されていないサーカムフレックス、上点、アポストロフィのような記号、中点は表示していない。このように、Grossman and Haspelmath (2014) は翻字 (transliteration) と自称するものの、機能が完全に解明されていないものに関しては、表示することを避けている。しかし、機能が解明しているうちに翻字を試みると、適切な翻字ができない可能性がある。そのため、これらの発音区別符号および句読点の機能の解明が待たれる。なお、これら、Grossman and Haspelmath (2014) では表示しなかった諸記号は、本稿の言語資料においてコプト文字で転写した。よって、これらの記号に関しては、コプト文字転写をご覧頂きたい。

なお、`˘` は、一般的にニュー線 (ny-line) と呼ばれ、行末に書かれ、ニュー<n>の省略を示す。また、`ˆ` はディプラー (diplē) と呼ばれ、文の脇のマージンに書かれ、文章の強調や、引用であることの指示、コロフォンであることの表示など様々な機能を有する。¶ は、段落記号 (paragraphos) であり、段落の冒頭周辺を示している。ただし、空白を埋めるため、段落の初めの 1 つあるいは、幾つかの語が前の段落の末尾に書かれ、次の行の先頭で段落記号が書かれることがある。実際は、¶ のような形ではなく、横線に、横線の右の端もしくは中心から左下へ向かって伸びる線を加えたものであることが多い。動物や植物などの装飾を持つ場合もある。本稿が対象とする写本では、図 2 でも見られるように、羽らしき装飾を有していることが多々あった。この段落記号の後の文字は大きく書かれたり (エクテシス)、左の余白にはみ出ている

⁴¹ <https://ctan.org/tex-archive/language/coptic/cbcoptic?lang=en>, 最終確認日 2018 年 1 月 26 日。

⁴² Beccari and Pulone (2004: 136-140) を見よ。

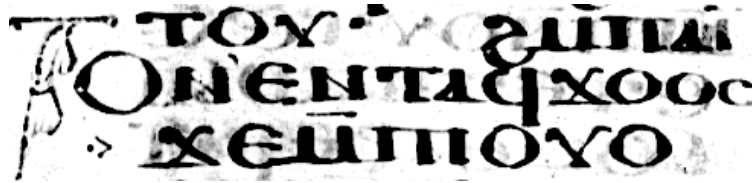
⁴³ <https://apagreekkeys.org/NAUdownload.html>, 最終確認日 2018 年 1 月 26 日。

⁴⁴ <http://www.ifao.egnet.net/publications/publier/outils-ed/polices/>, 最終確認日 2018 年 1 月 26 日。IFAO はカイロにあるフランス東洋考古学研究所 (Institut français d'archéologie orientale) の略称である。なお、IFAO は Ifao N Copte も配布しているが、こちらは ASCII の文字列をフォントレベルでコプト文字に見えるようにしたただけのものであり、Unicode にあるコプト文字専用の符号を用いたものではない。

⁴⁵ 字の上に書かれる線。

ことが多い。本稿のコプト語転写では、写本で文字が特大大きく書かれている場合は、転写でも文字を大きくした。

図 2 段落記号 (左端): 段落自体は *hmpai* から始まる。白修道院 BA 写本 49 頁より。所蔵番号は表 1 にある通り, IB 6 f. 1r である。



グロスは, Crum (1999) の辞書において分かる限りのものを付した。名詞の複数形については, 持たないものが多く, また, 特別な複数形を持つものでも, 単数形が複数の意味でも使われることもあるから, 複数形が用いられている時にのみ, 名詞の単複の表示をした。ギリシア語の名詞に関しては, 特に中性に関して不明確であることから, ギリシア語における性と数を示した。ギリシア語は男性・女性・中性の 3 つの性があるのに対して, コプト語は男性と女性の 2 つのみである。また, コプト語には, ギリシア語と異なり, 複数において性の区別はなく, 性の区別があるのは単数のみである。

引用箇所については, Kuhn (1956) が発見した引用箇所以外の引用箇所は発見できなかった。聖書の引用や引喩箇所においては, 元の聖書の句を注に載せた。新約聖書はギリシア語の校訂版 (Nestle et al. 2012) (ネストレ=アールント第 28 版) と日本語訳 (共同訳聖書実行委員会 2001) (新共同訳) が, 旧約聖書は, 聖書のコプト語訳は, ヘブライ語原文ではなく, 通常ギリシア語の 70 人訳を元になされたため, 70 人訳のギリシア語本文 (Rahlfs and Hanhart 2014) とその英語訳 (Pietersma and Wright 2007) (NETS: New English Translation of Septuagint) を用いた。引用箇所では, Pietersma and Wright (2007) を “NETS”, 共同訳聖書実行委員会 (2001) を「新共同訳」, Nestle et al. (2012) を「ネストレ=アールント第 28 版」として簡略化して記した。聖書の章と節の番号から, どの部分を引用したかが明白であるため, ページ番号は, これらの聖書のテキストに限っては, 必要なもの以外は省略している。

第 1 章

(1) a. [α̅ρ̅ω̅τ̅η̅ τ̅ε̅]|p.49|>τ̅η̅λ̅ο̅γ̅μ̅α̅τ̅ι̅>ζε̅ ε̅μ̅π̅κο̅|>σ̅μ̅ο̅ς̅ ἡ̅ε̅ ἡ̅|>ἡ̅ε̅τ̅ο̅ν̅ε̅.

[ahrô-tñ te]tn-dogmatize hm-p-kosmos n-t^he

なぜ^代-二複 二複-服従する^キ 所格^名-定^{単男}-世界^{キ単男} 属对格^名-定^{単女}-様態^{単女}

なぜ君らは 君らは服従する 世界に ように

n-n-et-onh

属对格^名-定^複-関係節化-生きる^状

生きている者たちの

「[なぜ君]らは生きている者たちのように世に服従しているの [か]。」(『コロサイの信

徒への手紙』 2:20)

b. |> ἴπρ̄χωχ οὐ|>τε ἴπρ̄χι|πε. |> οὐτε ἴπρ̄χῶ| εροῦν·

mpr-čôh oute mpr-či-t'pe oute mpr-hôn e-houn
 禁止-触る^絶 そして~ない^干 禁止-受ける^名-味^{絶女} そして~ない^干 禁止-近づく^絶 向格^名-内側^{絶男}
 触るな そして~ない 味わうな そして~ない 近くな 内側へ

「触るな，味わうな，近づくな。」(『コロサイの信徒への手紙』 2:21)

c. ετε|παῖ πε χεαν|εἰ εβολ ῥῆῆ|νοβε ἴπκο|σμος εανκα|αγ ἴσων·

ete-pai pe če-a-n-ei e-bol hn-n-nobe
 関係節化-指示^{絶単男} 繫辞^{単男} 引用節化-過去^代-^一複-来る^絶 向格^名-外側^{絶男} 所格^名-定^複-罪^{絶男}
 これが~もの である 私たちが来たという事 外側へ 罪で
m-p-kosmos e-a-n-kaa-u n-sô-n
 属对格^名-定^{単男}-世界^{干男} 状況節化-過去^代-^一複-置く^代-^三複 属对格^名-側^代-^一複
 世界の 私たちがそれらを置きながら 私たちの後で

これは，我らが世の罪を捨て去りそれらから離れた，ということだ。

d. αρρῶ|ον ενκτῶ ἴ|μον ενσλομ|λῆμ ῥραι ἴρη|τοῦ·

ahro-n on e-n-cto mmo-n e-n-clomlm
 なぜ-^一複 小辞 状況節化-^一複-向かせる^絶 属对格^代-^一複 焦点化^代-^一複-巻き込まれる^絶
 なぜ我らは また 我らは向かせる 我らを 我らは巻き込まれる
hrai nhêt-ou
 上/下側に 所格^代-^三複
 上/下側に それらで

どうして我らは，また，立ち返ってそれらに巻き込まれているのだろうか。

注釈

- a. 前のページが欠如しているため，冒頭が不明であるが，Kuhn (1956) は，引用部分である『コロサイの信徒への手紙』第2章第21節のコプト語サイド方言訳をもとに，*ahrôtm te-*と再建している。
- b. 新約聖書中の『コロサイの信徒への手紙』第2章第21節中に書かれてある，ある戒律の引用をさらに引用していると思われる。
- コプト語サイド方言によるコイナー・ギリシア語新約聖書の古代末期の訳:
 “2:20 *ešče atetnmou mnpek^h(risto)s ebol hnnestoik^hion mpkosmos. ahrôtn tetndogmatize hmpkosmos n^he nnetonh. 2:21 *mprčôh oude mprčit'pe. oude mprhôn ehoun.*” (『コロサイの信徒への手紙』第2章20節-第21節 Thompson (1932))*
 - コイナー・ギリシア語新約聖書 “2:20 Εἰ ἀπεθάνετε σὺν Χριστῷ ἀπὸ τῶν στοιχείων τοῦ κόσμου, τί ὡς ζῶντες ἐν κόσμῳ δογματίζεσθε· 2:21 μὴ ἄψη μηδὲ γεύση μηδὲ

ἰσχυρός,” (『コロサイの信徒への手紙』第2章20節-第21節 ネストレ=アーラント第28版)

- コイナー・ギリシア語新約聖書の日本語訳「2:20 あなたがたは、キリストと共に死んで、世を支配する諸霊とは何の関係もないのなら、なぜ、まだ世に属しているかのように生き、2:21「手をつけるな。味わうな。触れるな」などという戒律に縛られているのですか。」(『コロサイの信徒への手紙』第2章20節-第21節 新共同訳)
- 共同訳聖書実行委員会(2001)は、ἐν κόσμῳがζῶντεςを修飾していると解釈して和訳しているが、コプト語サイド方言訳はἐν κόσμῳをδογματίζεσθεの従属部として解釈している。

b.-c. *e-houn* および *e-bol* は前置詞句であるが、語彙化した副詞としても解釈できる。Coptic SCRIPTORIUM⁴⁶ (<http://copticcriptorium.org/>, 最終確認日 2018年1月27日) や Brankaer (2010:35) などは副詞としている。

第2章第1節

(2) a. ἡμπαὶ |¶ Οὐ ἐνταφχοος |▷

hm-pai on ent-a-f-čoo-s

所格^名-指示^{単男} 小辞 関係節化-過去^{代-三単男}-言う^{代-三単女}

これにおいて さらに 彼が言った(関係節)

これにおいて、彼(パウロ)が言った事。

b. χεῖμπιοῦ|▷εἰω γαρ νετε|▷τῆνὸ ἦκακε |▷ πε· τενοῦ |▷ δε ἡνοῦεῖν |▷ ἡμπχοεῖς

če-m-pi-ouoeiś gar ne-tetn-o n-kake

引用節化-属对格^名-感情的指示^{単男}-時^絶 小辞^キ 前時化-二複-する/ある^状 属对格^名-闇^絶

曰く、あの時に~と

だが 君らが~あった

闇で

pe te-nou de n-ouoein hm-p-čoeis

繫辞^{単男} 定^{単女}-時^{絶女} 小辞^キ 属对格^名-光^{絶男} 所格^名-定^{単男}-主^{絶男}

前時化転換詞と呼応 今や だが 光で 主において

曰く、「ある時、君らは闇であったが、今や主において光である。

⁴⁶ コプト語サイド方言のウェブ・ベースの文学テキスト・コーパスである。Schroeder and Zeldes (2016) を参照せよ。ANNIS (ANNotation of Information Structure) というフンボルト大学ベルリン (Humboldt-Universität zu Berlin) のチームが基となって開発したコーパス表示アプリを用いており、ANNIS クエリ言語を用いて、詳細で複雑なコーパス言語学的検索を行うことができる。KELLIA プロジェクトとも連動し、ANNIS に表示されたレンマをクリックすれば、KELLIA で作成された Coptic Dictionary Online (<https://corpling.uis.georgetown.edu/coptic-dictionary/>, 最終確認日 2018年1月27日) の当該語のページに飛ぶことができる。

c. |> μοοφε ρως |> φηρε ἱπου|>οειν·

moošē hōs šēre m-p-ouoiein
 歩む^絶 として^干 子^男 属対格^{名-定^{単男}-光^{絶男}}
 歩め として 子 光の

光の子として歩め。

d. ερε|πκαρπος γαρ || ἱπουοειν | ρμηπετνανουφ | νιμ μνητδι|καιοςυνη μνη|τμε· ετετη|δοκιμαζε
 χε|οϋ πετρᾶναφ | ἱπχοεις·

ere-p-karpos gar m-p-ouoiein hm-p-et-nanou-f
 焦点化^{名-定^{単男}-実^{干男}} 小辞^干 属対格^{名-定^{単男}-光^{絶男}} 所格^{名-定^{単男}-関係節化-良い(準動)^{代-三^{単男}}}
 実が~ある というのは 光の 良いものの中で
nim mn-t-dikaiosunê mn-t-me
 あらゆる 共格^{名-定^{単女}-正義^{干女}} 共格^{名-定^{単女}-真理^{絶女}}
 あらゆる 正義と 真理と

というのは, 光の実は, 全ての善, 正義, 真実の内にあるからだ。

e. ετετη|δοκιμαζε χε|οϋ πετρᾶναφ |> ἱπχοεις·

e-tetn-dokimaze če-ou p-et-r-ana-f m-p-choeis
 状況節化-二^複-吟味する^干 引用節化-何^{定^{単男}-関係節化-する^{名-喜ばす^{代-三^{単男}}}} 属対格-定^{単男}-主^{単男}
 吟味しながら 何が~と 彼を喜ばせるもの 主を

君らは何が主を喜ばせるかを吟味しながら,

f. |> αϋω ἱπρκοι|>νωνει ενε|>ρβηγε ἱπκα|>κε ετεμημνη|>τοϋ καρπος·

auō mpr-koinōnei e-ne-hbēue m-p-kake
 並列接続 禁止-する^{名-仲良くする^干} 向格^{名-定^複-働き^{絶複}} 属対格^{名-定^{単男}-闇^{絶単男}}
 そして 仲良くするな 働きに対して 闇の
ete-mmnt-ou karpos
 関係節化-否定存在^{代-三^複} 実^{干^{単男}}
 ~を持たないもの 実

実を持たない闇の働きと仲睦まじくせず,

g. |> ἡτετη|δοϋ δε ἡτοϋ |> ἡροϋδ·

nt-etn-čpio-ou de ntof n-houo
 接続法^{代-二^複-晒す^{代-三^複}} 小辞 三^複 属対格^{代-より多い^{絶男}}
 君らはそれらを晒せ(直前が命令法であるため) だが 彼ら むしろ

むしろそれらを暴露せよ。」(エフェソの信徒への手紙』 5:8-11 からの引用)

注釈

- a-g. a から g までは, 新約聖書中の『エフェソ⁴⁷の信徒への手紙』第 5 章第 8 節から第 5 章 11 節までからの引用である。引用は *hm-pai on ent-a-f-čoo-s* 「これにおいて彼が言った事」と引用節標識 *ce-*によって導入されている。引用されている『エフェソの信徒への手紙』はパウロが書いたと信じられており, *ent-a-f-čoo-s* の三人称単数男性の *-f-* はパウロを指していると考えられる。なお, 引用はこの節で終わってはならず, 次節の第 2 章第 2 節 a-b. に続いている。
- コプト語サイド方言によるコイナー・ギリシア語新約聖書の古代末期の訳 “5:8 *mpiouoeiš gar etetno nkake pe. tenou de nouoein hmpčoeis. mooše hōs šêre mpouoein. 5:9 erepkarpos gar mpouoein hmppetnanouf nim mntdikaiosunê. mntme. 5:10 etetndokimaze čeou petranaf mpčoeis. 5:11 auô mprkoinôni enehbêue mpkake etemntou karpos. nteŋčpïoou de ntof nhou.*” (『エフェソの信徒への手紙』第 5 章第 8 節-第 11 節 Ch.Beat. Coptic A⁴⁸ (Thompson 1932))
 - コイナー・ギリシア語新約聖書 “5:8 ἦτε γὰρ ποτε σκότος, νῦν δὲ φῶς ἐν κυρίῳ · ὡς τέχνα φωτὸς περιπατεῖτε 5:9 -ὁ γὰρ καρπὸς τοῦ φωτὸς ἐν πάσῃ ἀγαθωσύνη καὶ δικαιοσύνη καὶ ἀληθείᾳ- 5:10 δοκιμάζοντες τί ἐστὶν εὐάρεστον τῷ κυρίῳ, 5:11 καὶ μὴ συγκοινωνεῖτε τοῖς ἔργοις τοῖς ἀκάργοις τοῦ σκοτοῦς, μᾶλλον δὲ καὶ ἐλέγγχετε.” (『エフェソの信徒への手紙』第 5 章第 8 節-第 11 節 ネストレ=アーラント第 28 版)
 - コイナー・ギリシア語新約聖書の日本語訳: 「5:8 あなたがたは, 以前には暗闇でしたが, 今は主に結ばれて, 光となっています。光の子として歩みなさい。5:9 — 光から, あらゆる善意と正義と真実とが生じるのです。— 5:10 何が主に喜ばれるかを吟味しなさい。5:11 実を結ばない暗闇の業に加わらないで, むしろ, それを明るみに出しなさい。」(『エフェソの信徒への手紙』第 5 章第 8 節-第 11 節 新共同訳)
- b. *pi-ouoeiš* の *pi-* のグロスにある感情的指示は, 「感情的指示詞」の略。Layton (2011:48) はこれを “affective demonstrative” と呼んでいる。「感情的指示詞」は, この Layton (2011) の英語における用語の日本語訳である。この「感情的指示詞」の用法については, Layton (2011:48-49) などを参照せよ。

⁴⁷ 原語に忠実な表記ではエフェソスであるが, 聖書学ではエペソ/エフェソが用いられている。新共同訳 (共同訳聖書実行委員会 2001) ではエフェソスはエフェソと表記されており, 本稿の聖書中の書物のタイトルは全て新共同訳に基づいている。エフェソス/エフェソ/エペソは, 現在のトルコ西部のエフェスにあった小アジアの古代都市である。

⁴⁸ これは, アイルランドのダブリンにあるチェスター・ビーティ図書館 (Chester Beatty Library) に所蔵されているコプト語サイド方言訳パウロ書簡の写本を指す所蔵番号である。

第 2 章第 2 節

(3) a. $\text{ne|}\rangle\text{τογειρε γαρ |}\rangle \bar{\text{m}}\text{μοου } \bar{\text{n}}\chi\iota|\rangle\text{ογε, } \zeta\epsilon\text{νωλοϋ |}\rangle \text{ne } \epsilon\bar{\text{r}}\text{πκε}\chi\text{ο|}\rangle\text{ογ}^{\cdot}$

n-et-ou-eire *gar* *m-mo-ou* *n-čioue* *hen-šlof*
 定^複-関係節化-三^複-する^絶 小辞 属对格^代-三^複 属对格^名-隱密^{絶男} 不定^複-恥すべきこと^{絶男}
 彼らがすること しかし (再呼代名詞)を 隱密に 恥すべきことども
ne *e-r-p-ke-čoo-u*
 繫辞^複 向格-する^名-定^{単男}-他-言う^代-三^複
 それらは~である それらと言う他のことに

「というのは彼らが密かに行っていることは、言うに憚られるほど、恥すべきことだからだ。

b. $\text{ϣαρε|}\rangle\text{ζωβ δε nim |}\rangle \text{ογω}\bar{\text{n}}\bar{\text{ε}} \text{εβολ |}\rangle \text{ετογ}\chi\text{πι}\bar{\text{o}} |}\rangle \bar{\text{m}}\text{μοου } \zeta\text{ιτ}\bar{\text{m}}|\rangle\text{πογ}\bar{\text{o}}\epsilon\text{ιν}^{\cdot}$

šare-hôb *de* *nim* *ouônh* *e-bol* *et-ou-čpio*
 習慣相^名-もの^{絶男} 小辞^干 あらゆる 明らかになる^絶 向格^名-外側^{絶男} 関係節化-三^複-暴露する^絶
 ものは~であるものだ しかし あらゆる 明らかになる 外側へ 彼らは暴露している
m-mo-ou *hi-tm-p-ouoein*
 属对格^名-三^複 の上で^名-手^名-定^{単男}-光^{絶男}
 それらを 光を通して (複前: *hit-*)

だが、光を通して暴露された全てのものは、明らかにされる。

c. $|\rangle \text{ζωβ}^{\cdot} \text{ γαρ } \text{nim} |}\rangle \text{ετογ}\bar{\text{o}}\bar{\text{n}}\bar{\text{ε}} \epsilon|\text{p.50|}\text{βολ } \zeta\epsilon\text{νογ}\bar{\text{o}}\epsilon\text{ιν } \text{ne}^{\cdot}$

hôb *gar* *nim* *et-ouonh* *e-bol* *hen-ouoein ne*
 もの^{絶男} 小辞^干 あらゆる 関係節化-明らかになる^状 向格^名-外側^{絶男} 不定^複-光^{絶男} 繫辞^複
 もの だが あらゆる 明らかになる 外側へ 光 である

「というのは、明らかになる全てのものは光 (複数) だからである。」(『エフェソへの信徒の手紙』 5:8-13 からの引用)

注釈

a.-b. この節は前節にある引用の続きであり, 『エフェソの信徒への手紙』 第 5 章第 12 節-第 14 節から取られている。

- コイナー・ギリシア語新約聖書の古代末期のコプト語サイド方言訳 “5:12 *netoueire gar mmoou nčioue henšlof erpkečooou ne*: 5:13 *šare hôb de nim ouônh ebol etoučpio mmoou hitmpouoein. hôb gar nim etouonh ebol henouoein ne*. 5:14 *etbe paï fčô mmos. če tôoung petnkotk nglo oute netmoout tare pek^h(risto)s rouoein erok.*” (翻字および, 分綴と発音区別符号の統一は筆者による, 『エフェソの信徒への手紙』 第 5 章第 12 節-第 14 節 Ch.Beat. Coptic A (Thompson 1932))

- コイナー・ギリシア語新約聖書 5:12 τὰ γὰρ κρυφῆ γινόμενα ὑπὸ αὐτῶν αἰσχρόν ἐστὶν καὶ λέγειν, 5:13 τὰ δὲ πάντα ἐλεγχόμενα ὑπὸ τοῦ φωτὸς φανεροῦται, 5:14 πᾶν γὰρ τὸ φανερούμενον φῶς ἐστὶν. διὸ λέγει . ἔγειρε, ὁ καθεύδων, καὶ ἀνάστα ἐκ τῶν νεκρῶν, καὶ ἐπιφαύσει σοι ὁ Χριστός. (『エフェソの信徒への手紙』 第 5 章第 12 節-第 14 節 ネストレ=アーラント第 28 版)
- コイナー・ギリシア語新約聖書の日本語訳「5:12 彼らがひそかに行っているのは、口にするのも恥ずかしいことなのです。5:13 しかし、すべてのものは光にさらされて、明らかにされます。5:14 明らかにされるものはみな、光となるのです。それで、こう言われています。『眠りにについている者、起きよ。死者の中から立ち上がれ。そうすれば、キリストはあなたを照らされる。』」(『エフェソの信徒への手紙』 第 5 章第 12 節-第 14 節 新共同訳)

第 2 章第 3 節

- (4) a. ¶ Ἐτβεπαῖ ρω|ων μαρῆχπιο | ἡνενημῆτ|σοῦ ρραῖ ἡρη|τῆ ἡἡἡμε|εγε τηροϋ | ἡπδιαβολοῦ
| ετῆνοϋχε | ἡμοοϋ εροϋ| ερον · ἡἡἡ|ἡἡἡτῆτῆρατῆ | ἡἡἡμοστε ·
- etbe-pai hōō-n mar-n-čpio n-ne-n-mnt-soc*
 ~のゆえに^{名-指示^{単男}} 自身も^{代-一^複} 希求法^{代-一^複} 晒す^絶 属対格^{名-所有^{代^複}-一^複} 抽象名詞化^{名女} 愚かさ^男
 これゆえ 我ら自身も 晒そう 我らの愚かさを
- hrai nhēt-n mn-m-meeue tēr-ou m-p-diabolos et-f-nouče*
 上側 所格^{代-一^複} 共格^{名-定^複} 思考^{絶男} 全体^{代-三^複} 属対格^{名-定^{単男}} 悪魔^{名男} 関係節化-三^{単男} 投げる^絶
 上へ 我らの中に 思考と 全ての 悪魔 彼が投げている
- mno-ou e-houn ero-n mn-m-mnt-at-nahte*
 属対格^{代-三^複} 向格^{名-内側^{絶男}} 向格^{代-一^複} 共格^{名-定^複} 抽象名詞化^{名女} 否定名詞化-信じる^絶
 それら(再呼)を 内へ 我らに 不信心と
- mn-m-moste*
 共格^{名-属対格^名} 憎悪^{絶男}
 憎悪と
- このために、我らが自身の内にある愚かさと、悪魔が我らに投げ入れる、悪魔の全ての思念と不信心と憎悪を晒そうではないか。
- b. ἡθε εωαγτρεῖ|meeγε εππε|θοοϋ εροϋν ενενηρηϋ εντῆρατῆἡἡ|ερηϋ αν επτη|ρῆ·
- n-t-he e-ša-u-tre-n-meeue e-p-pet-hoou*
 属対格^{名-定^{単女}} 様態^{絶女} 状況節化-習慣相^{代-三^複} 使役^{代-定^複} 思う^絶 向格^{名-定^{単男}} 動詞の名詞化^{名男} 悪い^絶
 ~のように 私たちに思わせられているものだ 悪いことを
- e-houn e-ne-n-erêu e-n-tn-ha-tn-ne-n-erêu an*
 向格^{名-内側^{絶男}} 向格^{名-所有^{代^複}-一^複} 相互 状況節化-否定-一^複 下格^{名-手^名} 所有^{代^複}-一^複 相互 否定
 内側へ 我ら相互に 我らは共にあらず ~ない

e-p-têr-f

向格^{名-定^{単男}-全体^男-三^{単男}}

それの全体に

我らが共におらず, 互いに対して悪を思うようにさせられているものであるからには。

注釈

- b. i *e-ša-u-tre-n-meeue* は非人称三人称複数を用いて意味的に受け身を表している。この受け身の方法はコプト語において一般的である。
 b. ii 複合前置詞 *hatn-*には「~とともに」という共格的な意味もあることに注意。

第2章第4節

- (5) a. $\lambda\gamma\omega \epsilon\eta|\bar{\sigma}\bar{\nu}\alpha\rho\iota\kappa\epsilon \epsilon\bar{\nu}\epsilon|\tau\epsilon\rho\eta\gamma. \lambda\gamma\omega \epsilon|\rho\omega\bar{\nu}' \alpha\eta \bar{\mu}\mu\iota\eta | \bar{\mu}\mu\omega\bar{\nu}'$

auô e-n-cn-arike e-ne-n-erêu auô ero-n
 並列接続 焦点化<sup>代-一^複-見つける^{名-欠点^{絶男}} 向格<sup>名-所有^{代^複-一^複-相互} 並列接続 向格^{代-一^複}
 そして 我らは欠点を見つける 我ら相互に そして 我らに</sup></sup>

an mmin mmo-n
 否定 自身 属对格^{代-一^複}
 ~ない 自身 我らの

そして, 我らが欠点を見つけあっているのは我ら相互にであって, 我ら自身ではない。
 (アントニオスの手紙からの引用 (Garitte 1939:27f))

- b. $\gamma\omega\varsigma |\epsilon\rho\epsilon\pi\epsilon\eta\mu|\omega\epsilon \omega\sigma\omega\bar{\nu}' \epsilon|\gamma\omega\gamma\eta \epsilon\bar{\nu}\epsilon\eta\epsilon||\rho\eta\gamma. \lambda\gamma\omega \epsilon\eta|\omega\sigma\omega\bar{\nu}' \alpha\eta \omega\gamma|\beta\epsilon\bar{\nu}\bar{\eta}\alpha\rho\chi\eta \bar{\mu}\bar{\eta}|\bar{\eta}\epsilon\gamma\omega\gamma\iota\alpha. | \omega\gamma\beta\epsilon\bar{\nu}\bar{\eta}\kappa\omega\sigma\mu|\kappa\rho\alpha\tau\omega\rho \bar{\mu}\bar{\eta}\kappa\alpha|\kappa\epsilon' \omega\gamma\beta\epsilon\bar{\nu}\epsilon|\bar{\pi}\bar{\eta}\bar{\eta}\kappa\omega\bar{\nu} \bar{\eta}\tau\bar{\rho}\omega|\bar{\eta}\eta\rho\iota\alpha \epsilon\tau\gamma\alpha\bar{\mu}|\bar{\pi}\eta\eta\gamma\epsilon \cdot \lambda\gamma\omega \omega\gamma|\beta\epsilon\varsigma\eta\omega\gamma \alpha\eta \gamma|\iota\kappa\alpha\rho\bar{\zeta}'$

hôs ere-pe-n-miše šoop e-houn
 ~のように^干 状況節化<sup>名-所有^{代^男単数-一^複-戦い^{絶男}} 起こる^絶 向格^{名-内側^{絶男}}
 ~のように 我らの戦い 起こる 内側へ</sup>

e-ne-n-erêu auô e-f-šoop an oube-n-ark^hê
 向格<sup>名-所有^{代^複-一^複-相互} 並列接続 状況節化^{代-三^{単男}-起こる^絶} 否定 ~に対して^{名-定^複-支配権^{干女}}
 我ら相互に そして それ(戦い)が起こる ~ない 支配権に対して</sup>

mn-n-ek^sousia oube-n-kosmokratôr m-p-kake
 共格^{名-定^複-権威^{干女}} ~に対して^{名-定^複-世の支配者^{干男}} 属对格^{名-定^{単男}-闇^男}
 権威と 世の支配者に対して 闇の

oube-ne-pn(eumat)ikon n-t-ponêria et-ha-m-pêue
 ~に対して^{名-定^複-心靈^{干中}} 属对格^{名-定^{単女}-邪惡^{干女}} 関係節化-下格^{名-定^複-天^{絶複男}}
 心靈たちに対して 邪惡の 諸天の下にいる

auô *oube-snof* *an* *hi-sark^s*
 並列接続 ~に対して^{名-血^{絶男}} 否定 上格^{名-肉^中}
 そして 血に対して ~でない 肉と

我らの戦いが権力，権威，闇の世界の支配者，諸天の下の邪悪な心霊たち，血と肉に対して起こるのではなく，我ら相互に対して我らの戦いが起こっているように。(『エフェソへの信徒の手紙』 6:12 の引用)

注釈

- b. i アントニオスの手紙からの引用である。Garitte (1939:27f) を見よ。
- b. ii 『エフェソの信徒への手紙』第6章第12節から，細部を変えながら，ペーサは引用している。
- コイナー・ギリシア語新約聖書のコプト語サイド方言による古代末期の訳 “*čeerepenmiše šoop nan an oube nek^s ousia. oubenkosmokratôr nte peeikake. oubenep-neumatikon ntronêria ethnmpêue:*” (翻字，発音区別符号，および分綴のスタイルの統一は筆者による，『エフェソの信徒への手紙』第6章第12節 Ch.Beat. Coptic A (Thompson 1932))
 - コイナー・ギリシア語新約聖書 “ὅτι οὐκ ἔστιν ἡμῖν ἡ πάλη πρὸς αἷμα καὶ σάρκα ἀλλὰ πρὸς τὰς ἀρχάς, πρὸς τὰς ἐξουσίας, πρὸς τοὺς κοσμοκράτορας τοῦ σκότους τούτου, πρὸς τὰ πνευματικὰ τῆς πονηρίας ἐν τοῖς ἐπουρανίοις.” (『エフェソの信徒への手紙』第6章第12節 ネストレ=アーラント第28版)
 - コイナー・ギリシア語新約聖書の日本語訳「わたしたちの戦いは，血肉を相手にするものではなく，支配と権威，暗闇の世界の支配者，天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。」(『エフェソの信徒への手紙』第6章第12節 新共同訳)

第2章第5節

(6) a. $\bar{n}\theta\epsilon$ | \bar{n} | $\epsilon\pi\tau\alpha\pi\alpha\pi\omicron|\sigma\tau\omicron\lambda\omicron\varsigma$ $\chi\omicron\omicron\varsigma$
n-t-he *ent-a-p-apostolos* *čoo-s*
 属対格^{名-定^{単女}}-様態^女 関係節化-過去^{名-定^{単男}}-使徒^{中男} 言う^{代-三^{単女}}
 ~のように 使徒が~した それを言う

使徒が(次のように)言ったように。

b. | $\chi\epsilon\chi\iota$ $\eta\eta\tau\bar{\eta}\bar{n}$ \bar{n} | $\tau\pi\alpha\eta\eta\omicron\pi\lambda\iota\alpha$ | $\bar{\eta}\pi\eta\eta\omicron\gamma\tau\epsilon$
če-či *nê-tn* *n-t-panhoplia* *m-p-noute*
 引用節化-取る^絶 向格^{代-二^複} 属対格^{名-定^{単女}}-鎧兜^{中女} 属対格^{名-定^{単男}}-神^{絶男}
 取れと 君らに 鎧兜を 神の

「神の鎧兜を君ら自身の身に着けよ。」

c. xε|ετεtetnaωcm̄|βom εαρερατ|τηγτ̄n̄ n̄na|ξ̄p̄n̄n̄koc̄ | n̄πΔιαβολος ·

če-e-tetna-š-cmcom

e-ahe-rat-têutn

引用節化-焦点化^{代-二複}:未来-可能- ~する能力がある^絶 向格^名-立たせる^名-脚^名-二複

君らが~ができると

立つこと

nnahrn-n-kots m-p-diabolos

~の前で^名-企み^絶 属対格^名-定^{単男}-悪魔^{単男}

企みの前で

悪魔の

君らが悪魔の企みに対して立ち向かうことができるように。

d. xεερεπενmi|ωε ωροπ̄ | nan' an' ouβe|cnoq zicarp̄z̄·

če-ere-pe-n-miše

šoop

na-n

an

oube-snof

引用節化-焦点化^名-所有^{単男}-一複-戦い^{絶男} である^絶 向格^代-一複 否定 ~に対して^名-血^{絶男}

我らの戦いは

である

我らに

~でない

血に対して

hi-sark^s

上格^名-肉^{絶女}

肉と

なぜなら、我らの戦いは血と肉に対してではないからである。」(『エフェソへの信徒の手紙』 6:13 を引用してから 6:11-12 を引用している。)

注釈

a. š-cmcom は、š-だけ、cmcom だけでも可能を表す。

a-c. 前節では『エフェソの信徒への手紙』第6章第12節を引用していたが、当該節では逆行して、『エフェソの信徒への手紙』第6章第11節を引用し、さらに、前節で引用しなかった『エフェソの信徒への手紙』第6章第12節の最初の部分を引用している。

- コイナー・ギリシア語新約聖書の古代末期のコプト語サイド方言訳 “etbe paī jī nêtn ntpanhoplia mpnoute če etetnešcmcom eaherat têtutn hmpehoou et^hoou. auð eatetček hōb nim ebol ntetntačro.” (『エフェソの信徒への手紙』第6章第13節 Ch.Beat. Coptic A (Thompson 1932))

- コイナー・ギリシア語新約聖書 “διὰ τοῦτο ἀναλάβετε τὴν πανοπλίαν τοῦ θεοῦ, ἵνα δυνηθῆτε ἀντιστῆναι ἐν τῇ ἡμέρᾳ τῆς πονηρᾶς καὶ ἅπαντα κατεργασάμενοι στῆναι.” (『エフェソの信徒への手紙』第6章第13節 ネストレ=アーラント第28版)

- コイナー・ギリシア語新約聖書の日本語訳「だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。」(『エフェソの信徒への手紙』第6章第13節 新共同訳)

c. nnahrn-は複合前置詞であり、na-hr-n-は、与格^名-顔^名-属対格^名-と分解できる。残りの na-

の前の *n-* は属対格^名であるかもしれないが、その場合、属対格と与格の接頭前置詞が連続することになり、不自然である。

- d. 上格 *hi-*^名・*hiô(ô)-*^代は「～と」のような共格的な意味を持つこともある。

第3章第1節

- (7) a. |¶| €τβεπαῖ βε ροεῖς ἀγῶ ἡτῆν|p.51|ἀμαρτε ἡππε|τῆνανουγ·

etbe-pai *ce* *roeis* *auô* *n-tn-amahte*
 ~のゆえに^{名-指示_絶単男} 小辞 警戒する^絶 並列接続 接続法^{代-一_複}-抱く^絶
 これゆえ それゆえ 警戒せよ そして 我らは抱け

m-p-pet-nanou-f
 属対格^{名-定_{単男}}-動詞の名詞化<sup>男-良い(準動)^{代-三_{単男}}
 善を</sup>

だから、それゆえ、我らは警戒し、善を抱くようにしようではないか。

- b. |ε|βολ χεογῆ|ζαζ' €γζατῆ|νεγερηγ ῥῆ|πσωμα· €γ|ογηνγ δε εβολ |ἡνεγερηγ | ῥῆπρητ' ἀγῶ | ταγαπη·

e-bol *če-oun-hah* *e-u-ha-tn-ne-u-erêu*
 向格^{名-外側_男} 引用節化-存在^{名-多い_絶} 状況節化-三_複-下格<sup>名-手_名-所有_複-三_複-相互
 なぜなら (*ebol če-*) 多いものが存在する 我ら相互にしながら</sup>

hm-p-sôma *e-u-ouêu* *de* *e-bol* *n-ne-u-erêu*
 所格^{名-定_{単男}-体_中} 焦点化^{代-三_複-遠い_状} 小辞^キ 向格^{名-外側_{絶男}} 属対格^{名-所有_複-三_複-相互}
 体において それらは遠く だが 離れて 彼ら同士で

hm-p-hêt *auô* *t-agapê*
 所格^{名-定_{単男}-心_{絶男}} そして 定^{単女-愛_{キ女}}
 心において そして 愛

なぜなら、身体において互いに一緒にいながら、心と愛において互いから離れている者が多いからである。

- c. |ογῆζαζ δε ον | €γζατῆ|νεγερηγ αν ῥῆ|πσωμα· €γ|ζατῆ|νεγερηγ ἡναγ νιμ | ῥῆταγαπη ἡ|πεχ̄ς ἡῆτα|γαπη ἡπεπῆα | ἀγῶ πογῶω | ἡῆς :

oun-hah *de* *on* *e-u-ha-tn-ne-u-erêu* *an*
 存在^{名-多い_絶} 小辞^キ 小辞 状況節化-三_複-下格^{名-手_名-所有_複-三_複-相互} 否定
 多いものがある だが また 彼らは彼ら相互に一緒にいる ~でない

hm-p-sôma *e-u-ha-tn-ne-u-erêu* *n-nau* *nim*
 所格^{名-定_{単男}-体_{キ中}} 状況節化-三_代-下格^{名-手_名-所有_複-三_複-相互} 属対格^{名-時_男} 全ての
 体において 彼らは相互に一緒にいる 時で 全ての

<i>hn-t-agapê</i>	<i>m-pe-k^(h)risto)s</i>	<i>mn-t-agapê</i>	<i>m-pe-pn(eum)a</i>	<i>auô</i>
所格 ^{名-定^{単女}} -愛 ^{キ女}	属対格 ^{名-定^{単男}} -キリスト ^{キ男}	共格 ^{名-定^{単女}} -愛 ^{キ女}	属対格 ^{名-定^{単男}} -霊 ^{キ中}	並列接続
愛において	キリストの	愛と	霊の	そして
<i>p-ouôš</i>	<i>n-i(êsou)s</i>			
定 ^{単男} -思慕 ^男	属対格 ^{名-イェス} ^{キ男}			
思慕の	イェスの			

だが、さらには、身体に置いて互いに一緒にいないが、キリストの愛、および、霊の愛（アガペー）とイェスへの思慕（ウォーシュ）とに置いて常に互いに一緒にいる者たちがたくさんいる。

注釈

- a. 名詞化の *pet-* は通時的には単数男性定冠詞 *p³* と関係詞 *nti* が一つの形態素となり、さらに定冠詞の意味が失われ、さらにその前に定冠詞や不定冠詞が付く名詞化の形態素となったものであると考えられる。Layton (2011, 2004, 2000:§110) の文法書はあくまで通時的な変化は視野に入れない共時的構造主義の文法であり、彼はこの *pet-* を “invariable *pet-*” と呼んでいる。Shisha-Halevy (1986:§5.2.3.1) も共時的構造主義言語学的な視点から Layton (2011) と同じ立場を取っている。この *pet-* は生産性が低く、この後の動詞は、一般的に、状態や性質を表す限られた動詞類、例えば、*nanou-* 「良い」などの準動詞や、*ouaab* 「聖なる」などの状態形の動詞が来る。
- b. *ha-tn-* (下格^{名-手}^{名-}) は複合前置詞で、「～の手の下で」「～の側で」「～と」などを意味する。
- c. *ouôš* は「欲する」あるいは「愛する」といった意味の動詞、および、「欲」や「愛」を意味する男性名詞である。ここでは、「欲する」と「愛」という意味を両方表現し、また、前出したキリスト教的な愛を指すアガペーと区別するため、「思慕」と訳した。これに対し、Kuhn (1956:1) は “good-pleasure” と訳している。

第3章第2節

- (8) a. |¶ Ñ̄τωτῆ̄ δε νε|ςνηϋ̄ ραρε̄ϋ̄
ntôtn de ne-snêu hareh
 二複 小辞 定複-兄弟複 警戒する^絶
 君ら だが 兄弟たち 警戒せよ
 だが、君ら兄弟たちよ、警戒したまえ。

b. | αΥΩ ΜΟΥΝ` Ε|ΒΟΛ Ξ̄ΝΝΕΝ|ΤΑΤ̄Ν̄ΤΣΑΒΟ | ΕΡΟΥΥ ·

auô moun e-bol hn-n-ent-a-tn-tsabo ero-ou

並列接続 続ける^絶 向格^名-外側^{絶男} in^名-定^複-関係節化-過去-二^複-教える^絶 向格^代-三^複

そして 続けよ 外側へ 君らが教えたことを 彼らに

そして君らが彼らに教えたことを続けたまえ。

c. αΥΩ | ΟῩΝ̄ΖΑΖ ΝΑΧΙ||ΣΒΩ̄ ΑΥΩ Ν̄ΣΕ|†ΖΗΥ ΕΒΟΛ Ν̄|ΜΩΤ̄Ν̄·

auô oun-hah na-çi-sbô auô n-se-t̄-hêu

並列接続 存在^名-多い^絶 未来-受ける^名-教え^{絶女} 並列接続 接続^代-三^複-取る^名-利益^{絶男}

そして 多いものが~ある 学ぶ(未来) そして 彼らは利益を取る

e-bol mmô-tn

向格^名-外側^{絶男} 属对格^代-二^複

外側に 君らから

そうすれば, 多くの者が学び, 君らから利益を得るだろう。

d. ḿ̄θ̄ε | ΕΝΤΑΧ̄Χ̄ΟΟΣ | Χ̄ΕΜΑΡΟΥΝΑΥ | ΕΝΕΤ̄Ν̄ΖΒΗΥΕ | ΕΤΝΑΝΟΥΟΥ | Ν̄ΣΕ†ΕΟΥΥ | ḿ̄ΠΕΤ̄Ν̄ΕΙΩΤ
| ΕΤ̄Ζ̄Ν̄Π̄ΗΥΕ ·

n-t-he ent-a-f-çoo-s ç̄e-mar-ou-nau

属对格^名-定^{単女}-様態^{絶女} 関係節化-過去^代-三^{単男}-言う^代-三^{単女} 引用節化-希求法^代-三^複-見る^絶

~のように それ(再呼)を彼らが言った(関係節) 彼らが見るように

e-ne-tn-hbêue et-nanou-ou n-se-t̄-εοου

向格^名-所有^{代複}-二^複-業^{複絶} 関係節化-良い(準動)^代-三^複 接続法^代-三^複-与える^名-栄光^{絶男}

君らの所業に 良い(関係節) 栄光を彼らが与えるように

m-pe-tn-eiôt et-hn-m-pêue

与格^名/属对格^名-所有^{代単男}-二^複-父^{絶男} 関係節化-所格^名-定^複-天^{絶複}

君らの父に 諸天にいる(関係節)

「彼らが君らの善き所業を見, 諸天にます君らの父を彼らが讃えるようにあらんことを。」と言われたように。(『マタイによる福音書』 5:16)

注釈

c. *ebol n-名*・*ebol mmo-代*は、「~から」といった奪格的な意味になる。

d. i この箇所は新約聖書中の『マタイによる福音書』第5章第16節から直接引用している。この箇所はイエスの「山上の垂訓」と呼ばれる説教の一部に当たる。

- コイナー・ギリシア語新約聖書のコプト語サイド方言による古代末期の訳 “*tai te t̄e marefrouoein ncipetnouoein mpemto ebol nnerôme çekas euenau enetnhbêue et-nanouou nse†eouou mpetneiôt ethnmpêue.*” (『マタイによる福音書』第5章第16節 M569 Pérez (1984))
- コイナー・ギリシア語新約聖書 “οὕτως λαμψάτω τὸ φῶς ὑμῶν ἔμπροσθεν τῶν

ἀνθρώπων, ὅπως ἴδωσιν ὑμῶν τὰ καλὰ ἔργα καὶ δοξάσωσιν τὸν πατέρα ὑμῶν τὸν ἐν τοῖς οὐρανοῖς.” (『マタイによる福音書』 第 5 章第 16 節 ネストレ = アーラント 第 28 版)

- コイナー・ギリシア語新約聖書の日本語訳「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」(『マタイによる福音書』 第 5 章第 16 節 新共同訳)

- d. ii *n-t^he* は直訳すると「(その) 状態で」という意味だが、そのあとに関係節もしくは属対格句を伴い、日本語では「~のように」の意味となる。
- d. iii 接続法を有する節の法は前の節のものと同じになる。ここでは、*n-se-tⁱ-eouu* は、直前の *če-mar-ou-nau* で始まる節と同じ希求法で解釈される。

第 3 章第 3 節

- (9) a. *ñœ gar enta|tetnoœr|tÿtñ ñca|netoœab tÿ|poœ ðñnetñ|praœeis :*

n-t-he gar ent-a-tetn-oueh-tÿutn nsa-n-et-ouaab

属対格^名-定^{単女}-様態^絶 小辞^キ 関係節化-過去^絶-二^複-置く^名-二^複 ~のあとで^名-定^複-関係節化-聖なる^状
 ~のように だが 君らが置く(関係節) 聖なるものたちの後で

tÿr-ou hn-ne-tñ-prak^seis

全体^代-三^複 所格^名-所有^代-二^複-行動^{キ女}

全て あなた方の行動において

君らは君らの行動において聖人たちに従うように。

- b. *ñœ |ñ entaœœos | œÿntok œe | œkoœaœk ñca|taœbô. pa|smot^s patœœ | taœpistis :*
| taœmñtœœrœœ|œnt^s taœœaœ|pñ taœœpo|monÿ naœdiœœmos naœœisœ :

n-t-he ent-a-f-œoo-s œe-ntok de

属対格^名-定^{単女}-様態^{絶女} 関係節化-過去^名-三^{単男}-言う^代-三^{単女} 引用節化-二^{単男} 小辞^キ
 のように 彼が言う所の 君が~と だが

a-k-ouah-k n-sa-ta-sbô pa-smot

過去^代-二^{単男}-置く^代-二^{単男} 属対格^名-側^名-所有^{単女}-一^単-教え^{絶女} 所有^{単男}-一^単-範例^{絶男女}
 あなたがあなたを置いた 私の教えの後で 私の性格

pa-tôš ta-pistis ta-mnt-harš-hêt

所有^{単男}-一^単-宿命^{絶男} 所有^{単女}-一^単-信仰^{キ女} 所有^{単女}-一^単-抽象名詞化^{名女}-重い^名-心^男
 私の宿命 私の信仰 私の長き苦しみ

ta-agapê ta-hupomonê na-diôœmos na-hise

所有^{単女}-一^単-愛^{キ女} 所有^{単女}-一^単-忍耐^{キ女} 所有^複-一^単-迫害^{キ男} 所有^複-一^単-苦しみ^{絶男}
 私の愛 私の忍耐 私の迫害 私の苦しみ

「だが、君は私の教え、私の範例、私の宿命、私の信実、私の長きに渡る苦しみ、私の愛、私の忍耐、私の迫害に従った。」と言われたように、(『テモテへの手紙・第二』

3:10-11)

c. οὐεζ|p.52|τηγτ̄ν̄ ον̄ ἢ|σωοῡ ε̄μπεζα|ρεζ` ενετ̄ν̄χι|σε̄ νητ̄ν̄ ·

oueh-têutn on n-sô-ou hm-p-hareh e-ne-tn-hise

置く^{名-二複} 小辞 属対格^{名-側代-三複} 所格^{名-定^{単男}-守る^{絶男}} 向格^{名-所有^{複-二複}-苦しみ^{絶男}}
 従う さらに 彼らのあとで 守りにおいて 君らの苦しみのために

nê-tn

与格^{代-二複}

君らに対する

君らに対する迫害に注意しながら，さらに，それらに従え。

d. |¶| Νετεογ̄ν̄ταγ̄ | γαρ̄ ἡμαγ̄ ἢ|τ̄μ̄ν̄τρ̄μᾱδ̄ | νατ̄τακο̄ ε̄μ̄|πεχ̄ς. ἡτοογ̄ | ον̄` νετηπ̄
 ε|ροεις̄ ερος̄ | ναγ̄

n-ete-ounta-u gar m-mau n-t-mnt-rm-mao

定^複-関係節化-存在^{代-三複} 小辞^干 属対格^{名-その場所^{絶男}} 属対格^{名-定^{単女}-抽象名詞化^{名女-人^{男名}-偉大な}}
 彼ら(再呼)が持つもの だが そこで 富を

n-at-tako hm-pe-k^h(risto)s ntoou on

属対格^{名-否定名詞化^{名-壊す^絶}} 所格^{名-定^{単男}-キリスト^{干男}} 二複 小辞
 破壊不可能な キリストにおいて 君ら または

n-et-êp e-roeis ero-s na-u

定^複-関係節化-数える / 尊ぶ^状 向格^{名-警戒する^絶} 向格^{代-三^{単女}} 与格^{代-三複}
 尊ぶものたち 警戒するために それに 彼らに(再帰)

というのは，キリストの内にある破壊不可能な富を持つ者である君らは，また，自分自身のためにそれを警戒することを尊ぶ者たちであるからである。

注釈

a. i この箇所は以下の新約聖書中の『テモテへの手紙二』の主に第3章第10節から引用している。

- コイナー・ギリシア語新約聖書の，コプト語サイド方言による古代末期の翻訳 “*ntok de a-k-ouahk nsa-ta-cbô. pa-cmot. pa-tôš. ta-pistis. ta-mnt-hars-hêt. ta-agapê. ta-hupomonê.*” (『テモテへの手紙二』第3章第10節 (Thompson 1932) , 翻字・分綴・発音区別符号のスタイルの統一は筆者による。)
- Σὺ δὲ παρηκολούθησάς μου τῆ διδασκαλίᾳ, τῆ ἀγωγῆ, τῆ προθέσει, τῆ πίστει, τῆ μακροθυμίᾳ, τῆ ἀγάπῃ, τῆ ὑπομονῆ, (『テモテへの手紙二』第3章第10節 ネストレ=アーラント第28版)
- 第3章第10節「3:10 しかしあなたは，わたしの教え，行動，意図，信仰，寛容，愛，忍耐に倣い，」(『テモテへの手紙二』第3章第10節 新共同訳)

a. ii *oueh-têutn* 二人称複数の接尾代名詞には2つの形がある。1つ目は，*-tn* であり，こちら

te-n-hupomonê

所有^{代単女}-一^複-節操^{キ女}

我らの節操

我らが行う良きもの、つまり、我らの祈り、我らの断食、我らの純潔と我らの節操が敵に盗まれないか用心することがどれほど我らにとって適しているか。

第4章第2節

(11) a. |ñ ñπωωω | γαρ αν ñου|ωτ` πε πχι|ογε ñουγδτ | μñουνουβ ·

m-pi-sôš

gar

an

n-ouôt

pe

p-čioue

否定-感情的指示^{単男}-同一性^{絶男} 小辞^キ

否定

属対格^名-単一な 繫辞^{単男}

定^{単男}-盗み^{絶男}

あの同一性は~ない

というのは ~ない 単一な

それは~である (その)盗み

n-ou-hat

mn-ou-noub

属対格^名-不定^単-銀^{絶男} 共格^名-不定^単-金^{絶男}

銀の

金と

というのも、それは、銀と金を盗むのとは同じではないからである。

b. | αλλα ñœ ε|τερετμñτ|παρενος | αγω τμñτ|μονοχος τα|ñηγ ñμος· | ñτεϊρε οñ
| ρεπογδαζε | εφιτογ ñχι|ογε ñσιπχα|δε·

alla

n-t-he

etere-t-mnt-part^henos

auô

逆接接続^キ

所格^名-定^{単男}-様態^{絶女}

関係節化-定^{単女}-抽象名詞化^{名女}-処女^{キ女}

並列接続

しかし

~のように

貞潔が~ (関係節)

そして

t-mnt-monok^hos

taïêu

mno-s

n-tei-he

on

定^{単女}-抽象名詞化^{名女}-修道士^{キ男}

貴重^だ^状

属対格^代-三^{単女}

属対格^名-指示^{単女}-様態^{絶女}

小辞

修道

大切である

それを

このように

また

f-spoudaze

e-fit-ou

n-čioue

nci-p-čače

三^{単男}-熱心である^キ

向格^名-取る^代-三^複

属対格^名-盗む^絶

主格^名-定^{単男}-敵^{絶男}

彼は熱心である

それらを取るために

盗みにおいて

敵は

しかし、貞潔と修道が大切であるから、それだから、敵はそれらを盗みたがる。

c. πεñταϑ|ξπο δε ñαϑ | ñρεñμαρκα|ριτñς. ñ ου|νουβ. ϑαϑρ̄|οϑωñ ñροεις·

p-ent-a-f-čpo

de

na-f

n-hen-markaritàs

ê

定^{単男}-関係節化-過去^代-三^{単男}-獲得する^絶

小辞^キ

向格^代-三^{単男}

属対格^名-不定^複-真珠^{キ女}

選択^キ

彼(再呼)が獲得した(関係節)

だが

彼(再帰)に 真珠を

または

ou-noub

ša-f-r-oušê

n-roeis

不定^単-金^{絶男}

習慣相^代-三^{単男}-する^名-夜^{絶女}

属対格^名-警戒^{絶男}

金

夜を過ごすものだ

警戒して

そして、自らの為に真珠または金を獲得する者、このような者が警戒して夜を過ごす

ものである。

- d. εἴθε|p.53|ἄραρεπχαχε| ῥοῦνη ἦροεις | εἴθεοῦπο|νηρια· εἴε|φναροεις ἦ|οῦνη ἦσιπε|τεοῦἦτῶ
 νε|χρημα· χεῖ|νεγεπιβοῦ|λεγε εροοῦ·
ešče-šare-p-čače *r-oušê* *n-roeis* *etbe-ou-ponêria*
 もし-習慣相^名-定^{単男}-敵^{絶男} する^名-夜^絶 属対格^名-警戒する^絶 ~に関して^名-不定^単-邪悪^絶
 もし敵が~する習慣であるなら 夜を過ごす 警戒して 邪悪のために
eie-f-na-roeis *n-ouêr* *nci-p-ete-ount-f* *ne-k^hrêma*
 帰結節-三^{単男}-未来-警戒する^絶 属対格^名-いくつ 主格^名-定^{単男}-関係節化-存在^代-三^{単男} 定^複-財産^中
 彼は警戒するだろう いくつを 持っているものが 財産を
če-nne-u-epibouleue *ero-ou*
 引用節化-否定希求法^名-三^複-企む^中 向格^代-三^複
 彼らが企まないようにと それらに

もし、敵が悪のために警戒して夜を過ごすならば、財産の所有者は、それらを彼らが企まないようにとどれほど警戒することであろうか。

第 5 章第 1 節

- (12) a. |ἦ μαρῆρπmeeεε| ἦνεπτανεν|ειωτῶ· χοοῦ
mar-n-r-p-meeue *n-n-ent-a-ne-n-eiôt*
 希求法^名-一^複-する^名-定^{単男}-思考^{絶男} 属対格^名-定^複-関係節化-過去^名-所有^複-一^複-父^複
 我らは思い出そうではないか 我らの父祖たちが~したこと
çoo-u
 言う^代-三^複
 それら(再呼)を言う
 我らの父祖たちが言ったことを思い出そうではないか。
- b. |χερενσνη| καταπενβι|ος, εγνηστεεε
če-hen-snêu *kata-pe-n-bios* *e-u-nêsteue*
 引用節化-定^複-兄弟^複 ~に従って^中-所有^{単男}-一^複-命^{中男} 状況節化-三^複-断食する^中
 兄弟が~と 我らの生に従い 彼らは断食し
- 「兄弟たちは、我らの生き方にしたがって、断食をし、
- c. |εγῶληλ δε| ον· εγο ἦοῦ|ῶἦ ἦροεις·
e-u-šlêl *de* *on* *e-u-o* *n-oušê*
 状況節化-三^複-祈る^絶 小辞^中 小辞 状況節化-三^複-する/ある^状 属対格^名-夜^女
 彼らは祈り だが また しながら 夜を
nroeis
 属対格^名-警戒する^{絶男}
 警戒の

だが、また、彼らは祈り、不寝番をした。

d. |εγχιβολ δε | ον· εγμιωε· | εγ†των·

e-u-čī-col *de* *on* *e-u-miše*
 状況節化-三複-取る名-嘘^{絶男女} 小辞^干 小辞 状況節化-三複-喧嘩をする^絶
 彼らが嘘をつき だが また 彼らは喧嘩をし

e-u-tⁱ-tôn
 状況節化-三複-与える名-口論^男
 彼らは口論し

だが、また、彼らは嘘もつき、喧嘩もし、口論もし、

e. |εγκρ̄μ̄ρ̄μ̄ | αγω εγκατα|λαλει·

e-u-kr̄m̄r̄m̄ *auô* *e-u-katalalei*
 状況節化-三複-ぶつぶつ不平を言う^絶 並列接続 状況節化-三複-悪口を言う^干
 彼らはぶつぶつ不平を言って そして 彼らは悪口を言って

彼らはぶつぶつ不平を言って、悪口を言い、

f. εγ|μοστε· εγ|μοοφε ξ̄ν|ογζητ̄ ḿ̄mn̄t̄||ō̄mmo· εγχω|ξ̄μ̄ ḿ̄μοογ·

e-u-moste *e-u-mooše* *hn-ou-hêt* *m-mnt-šmmo*
 状況節化-三複-憎む^絶 状況節化-三複-歩く^絶 所格名-不定単-心^{絶男} 属对格名-抽象名詞化^{名女}-異邦人^{絶男}
 彼らは憎み 彼らは歩き 心において 無関心の

e-u-čôhm *mmo-ou*
 状況節化-三複-汚す^絶 属对格代-三複
 彼らは汚し 彼ら(自身)を

彼らは憎み、無関心の道を歩み、彼ら自身を汚し、

g. | αγω εγο ḿ̄κροφ. | εγειρε ḿ̄ζωβ | nim εφζοογ·

auô *e-u-o* *n-krof* *e-u-eire*
 順接続詞 状況節化-三複-する/ある^状 属对格名-狡猾だ^絶 状況節化-三複-する^絶
 そして 彼らはある 狡猾で 彼らはなし

n-hôb *nim* *e-f-hoou*
 属对格名-働き・こと^{絶男} あらゆる 状況節化-三単男-悪い^状
 ことを あらゆる それが悪い状態で

彼らは狡猾で、全ての悪事をなす。

h. | ναϊ ḿ̄teimine | εγω̄π̄ρισε ε|πχινχη·

naï *n-tei-mine* *e-u-šp-hise* *e-p-čincê*
 指示^{絶複} 属对格名-指示^{女単}-態度^絶 状況節化-三複-受け取る名-苦惱^絶 向格名-定単男-虚しさ^{絶男}
 これら この態度で 彼らは煩い 虚しさのために

これらの者どもは虚しく煩うといった態度であり、

- i. ἀγὼ | ἡμῶν λααγ ἢ|νοφρε ναφω|πε ναγ·
auô mn-laau n-nofre na-šôpe na-u
 順接接続詞 否定存在^名-いくらか 属対格^名-良い^{絶女} 未来-起こる^絶 向格^代-三^複
 そして 何一つない 良いものの 起こる(未来) 彼らに
 彼らには良き事が一つも起こらない。

- j. ἐπι|χῖνῃ ναγ ον τε | τευχυπομονῆ·
e-p-čincê na-u on te te-u-hupomonê
 状況節化-定^{単男}-虚しさ^{絶男} 向格^代-三^複 小辞 繫辞^{単女} 所有^代単女-三^複-節操^絶
 虚しさが~で 彼らにとって また/さらには それは~である 彼らの節操
 更には, 彼らの節操は彼らにとって虚しい。

注釈

- a. *r-p-meeue* は「その思考をなす」と言う直訳だが, 「思い出す」と言う意味。
 d. *col* 「嘘」は男性の場合もあれば, 女性の場合もあるが, 女性の場合は稀である (Crum 1999:806)。

第5章第2節

- (13) a. καταπέ|ταγχοοφ δε|ογκνααγ εφ|μεζ αν πε, ε|τρεφῖνοε|τ.
kata-p-ent-a-u-čoo-f če-ou-knaau
 ~によれば/ように^名-定^{単男}-関係節化-過去^代-三^複-言う^代-三^{単男} 引用節化-不定^単-束^{絶男}
 言われたことのように (穀物の)束が~と
e-f-meh an pe e-tre-f-r-noeit
 状況節化-三^{単男}-満たす^絶 否定 繫辞^{単男} 向格^名-使役^代-三^{単男}-する^名-糧^{絶男}
 それが満ちて ない それは~である それに糧をなさせるために

「それは, 糧をなすには満たない(穀物の)束である」と言われたように。(『ホセア書』8:7への引喩)

- b. | εἰπαῖ ον ἐν|ταγχοοφ δε|χο ἡρενοχογ· | ἡτεῖνωζς | ἡρενωοντε· | νεγκληρος | ἡσενα|τρηγ | ναγ αν·
hm-pai on ent-a-u-čoo-s če-čo n-hen-souo
 in^名-指示^{単男} 小辞 関係節化-過去^代-三^複-言う^代-三^{単女} 引用節化-蒔く^絶 属対格^名-不定^複-麦^{絶男}
 これにおいて また 言われていること 蒔けと 麦を
n-tetn-ôhs n-hen-šonte ne-u-klêros n-se-na-ti-hêu
 接続^代-二^複-刈る^絶 属対格^名-不定^複-荊^{絶女} 所有^代複-三^複-畑^{単男} 否定-三^複-未来-与える^名-利益^{絶男}
 君らは蒔りとれ 荊を 彼らの畑 彼らが益さないだろう

na-u *an*
 向格^{代-三複} 否定
 彼らに ない

これにおいて言われていることがある。「小麦を撒き，イバラを刈れ。彼らの畑は彼らを益さない」(『エレミヤ書』 12:13 からの引用)

注釈

a. 次の『ホセア書』第8章第7節への引喩である。

- この部分は現存するエディション (Ciasca 1889) では、欠損している。
- コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書 “7 ὅτι ἀνεμόφθορα ἔσπειραν καὶ ἡ καταστροφή αὐτῶν ἐκδέξεται αὐτά δράγμα οὐκ ἔχον ἰσχὺν τοῦ ποιῆσαι ἄλευρον ἐὰν δὲ καὶ ποιήσῃ ἀλλότριοι καταφάγονται αὐτό” (『ホセア書』第8章第7節 Rahlfs and Hanhart (2014))
- “Because they sowed things blasted by the wind, their destruction shall also await them— a sheaf unable to produce meal, and even if it should do so, foreigners will devour it.” (『ホセア書』第8章第7節 8:7 NETS)

b. i 接続法の時制・相・法は直前の節と同じとなる。*n-tetn-ôhs* の直前の節は *če-čo* (引用節化-時^{く絶})「蒔けと」であり、法は命令法であるため、*n-tetn-ôhs* も命令法に解釈される。

b. ii 『エレミヤ書』12章13節からの引用を含んでいる。

- コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書の古代末期のコプト語サイド方言訳 “*čō nhensouō · ntetnôhs nhenšonte · neuklêros nsenatⁱ hêu nau an · čī šipe ebol hm petnšoušou · mn petnnocnec mpemto ebol mpčoeīs ·*” (『エレミヤ書』第12章第13節 Feder (2002:129) 翻字，発音区別符号，分綴のスタイルの統一は筆者による。)
- コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書 “σπείρατε πυρούς καὶ ἀκάνθας θείσατε οἱ κληροὶ αὐτῶν οὐκ ὠφελήσουσιν αὐτοὺς αἰσχύνθητε ἀπὸ καυχήσεως ὑμῶν ἀπὸ ὀνειδισμοῦ ἔναντι κυρίου”(『エレミヤ書』第12章第13節 Rahlfs and Hanhart (2014))
- コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書の英訳 Jeremiah 12:13 “Sow wheat, and reap thorns. Their farms will not profit them. Be ashamed of your boasting, of reproaching before the Lord—” (『エレミヤ書』第12章第13節 NETS)

注釈

- c. *tôt n-hêt* は直訳すると「心を結合させること」と言った意味だが、「心を満足させること」や「説得すること」などを意味する (Crum 1999:437)。
- d. 『エレミヤ書』第 37 章第 8-9 節からの引用である。
- Feder (2002:160-161) からは、この部分のコイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書の古代末期のコプト語サイド方言訳が未発見であることが読み取れる。
 - コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書 “37:8 ἐν τῇ ἡμέρᾳ ἐκείνῃ εἶπεν κύριος συντρίψω τὸν ζυγὸν ἀπὸ τοῦ τραχήλου αὐτῶν καὶ τοὺς δεσμοὺς αὐτῶν διαρρήξω καὶ οὐκ ἐργῶνται αὐτοὶ ἔτι ἀλλοτρίοις 37:9 καὶ ἐργῶνται τῷ κυρίῳ θεῷ αὐτῶν καὶ τὸν Δαυὶδ βασιλέα αὐτῶν ἀναστήσω αὐτοῖς”(『エレミヤ書』第 37 章第 8-9 節 Rahlfs and Hanhart (2014))
 - コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書の現代の英訳 “37:8 On that day, said the Lord, I will shatter a yoke from off their neck, and I will burst their bonds, and they shall no more work for foreigners. 37:9 And they shall work for the Lord, their God, and I will raise up Daudid as their king for them.” (『エレミヤ書』第 37 章第 8-9 節 NETS)

第 6 章第 1 節

- (15) a. |ⲕⲁⲓ ⲓⲛⲁⲣ ⲉⲡⲁⲣⲉⲓⲗⲏⲥⲧⲏⲥ | ⲥⲱⲧ̅ⲗ ⲁⲛ̅ ⲉⲟϥ|ⲏⲓ̅, ἡ ⲟϥⲙ̅ⲁ ⲉ|ⲙ̅ⲛⲭⲣⲏⲙⲁ ⲛ̅|ⲗⲏⲧ̅ⲣ̅
kai gar e-šare-n-lêstês cōth an e-ou-êi ê
 逆接続^キ 小辞^キ 焦点化^名-習慣相^名-定^複-盗人^{絶男} 押し入る^絶 否定 向格^名-不定^単-家^{絶男} 選択^キ
 そして だが 盗人が ~ する習慣である 押し入る ない 一つの家へ または
ou-ma e-mn-k^hrêma nhêt-f
 不定^単-場所^{絶男} 状況節化-否定存在^名-財産^{絶中} 所格^代-三^{単男}
 一つの場所 財産を持っていない その中に
 もちろん, 財産がない家, または場所へは盗人は押し入らないものだが,
- b. ⲁⲗⲗⲁ | ⲉⲡⲁⲓⲥⲱⲧ̅ⲗ || ⲉⲡⲙⲁ ⲉⲧⲟϥ|ⲛⲁⲥⲏ̅ⲗⲣⲏⲙⲁ | ⲙ̅ⲙⲁϥ̅
alla e-ša-u-cōth e-p-ma
 逆接続^キ 焦点化^名-習慣相^代-三^複-貫通する^絶 向格^名-定^{単男}-場所^{絶男}
 だが 彼らは押し入る習慣であり その場所に
et-ou-na-cn-k^hrêma m-mau
 関係節化-三^複-未来-見つける^名-財産^{キ中} 属对格^名-その場所^絶
 財産を持つことになる そこに
 しかし, それに対し, 彼ら (盗人) は財産が見つかるべき場所に押し入るものだ。

c. οὐτε ἐφαγῶσι τῷ ἀν ἐμμα | ετοῦροεις | ἤρητῷ ἐτρεῦ|αῶλ·

oute e-ša-u-côth an e-p-ma
 でもない^干 焦点化^名-習慣相^代-三^複-貫通する^絶 否定 向格^名-定^{単男}-場所^{絶男}
 でもない 彼らは押し入る習慣である ない その場所へ
et-ou-roeis nhêt-f e-tre-u-šôl
 関係節化-三^複-警戒する^絶 所格^代-三^{単男} 向格^名-使役-三^複-奪い取る^絶
 彼らが警戒している (関係節) その (再呼) 中で 彼らが奪い取る

彼ら (盗人) は彼ら (盗人) が奪い取らないか彼ら (見張り) が気をつけている場所には押し入らないものでもある。

d. ἀλλὰ | πμα ετοῦ|σοῦν χε ἤ|εροεις ἀν | ἤρητῷ ἀγῶ | σεοῶ.

alla p-ma et-ou-sooun če-n-se-roeis an
 逆接接続^干 定^{単男}-場所^{絶男} 関係節化-三^複-知る^絶 引用節化-接続^名-三^複-警戒する^絶 否定
 しかし その場所 彼らは知る 彼らは警戒していないと ない
nhêt-f auô se-obš
 所格^代-三^{単男} 並列接続 三^複-寝る^絶
 彼らの中で そして 彼らは寝ている

しかし, 彼ら (見張り) が気をつけず, 寝ていると彼ら (盗人) が知っている場所,

e. ἤτολοῦ νετεῶαγ|ῶτῷ ἐροῦ | ἤσετῶρῖ | ἤπετοῦνα|ῶντῷ·

ntoou n-ete-ša-u-côth ero-ou n-se-tôrp
 三^複 定^複-関係節化-三^複-傷つける^絶 向格^代-三^複 接続-三^複-強奪する
 彼ら 彼が傷つけたもの それらを (再呼) 彼らは強奪している
m-p-et-ou-na-cnt-f
 属対格^名-定^{単男}-関係節化-三^複-未来-見つける^代-三^{単男}
 彼らが見つけるものを

そのようなところに, 彼ら (盗人) は押し入り, 彼ら (盗人) が見つけるものを強奪するものである。

第 6 章第 2 節

(16) a. ἤτεῖ|ῖε ον ἐφαρε|πδιαβολος | τῶρῖ ἀν ἤ|πετροεις | ἀγῶ ἐτῶρεῖ | ἐπερῖσε | ναῖ.

n-tei-he on e-šare-p-diabolos tôrp
 属対格^名-指示^{単女}-様態^{絶女} 小辞 焦点化^名-習慣相^名-定^{単男}-悪魔^干 強奪する^絶
 このように また 悪魔が ~ する習慣である 強奪する
an m-p-et-roeis auô et-hareh
 否定 属対格^名-定^{単男}-関係節化-警戒する^絶 並列接続 関係節化-守る^絶
 ~ ない 警戒するものを そして 守るもの (関係節)

mmo-f *ačn-tⁱ-so*
 属対格^{代-三}単男 ~なしに^名-与える^名-抑制^{絶男女}
 それ(再呼)を 抑制なしに

彼こそ, 彼がなす彼の良きものを容赦無く強奪するものである。

注釈

b. *hêt*-はしばしば *r-hote* と組み合わさって, 「恐れる」という意味を表す。

d. i *šeei* は *še* 「行く」と *ei* 「来る」の複合語。

d. ii 『エフェソの信徒への手紙』第4章第14節への引喩である。

- コプト語サイド方言によるコイナー・ギリシア語新約聖書の古代末期の訳 “*čekaas ce nnenšôpe nšêre šêm erephoeim fi mmon. epšeei mntêu nim ntesbô. mntkubia nnrôme. hnoupanourgia nnahrnkots nteplanê.*” (『エフェソの信徒への手紙』第4章第14節 Ch.Beat. Coptic A (Thompson 1932) 翻字, 発音区別符号および分綴のスタイルの統一は筆者による。)
- コイナー・ギリシア語新約聖書 “*ἵνα μηκέτι ὤμεν νήπιοι, κλυδωνιζόμενοι καὶ περ- κφερόμενοι παντὶ ἀνέμῳ τῆς διδασκαλίας ἐν τῇ κυβείᾳ τῶν ἀνθρώπων, ἐν πανουργίᾳ πρὸς τὴν μεθοδείαν τῆς πλάνης,*” (『エフェソの信徒への手紙』第4章第14節 ネストレ=アーラント第28版)
- コイナー・ギリシア語新約聖書の日本語訳「こうして, わたしたちは, もはや未熟な者ではなくなり, 人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の, 風のように変わりやすい教えに, もてあそばれたり, 引き回されたりすることなく, ,」(『エフェソの信徒への手紙』第4章第14節 新共同訳)

第7章第1節

(17) a. |Ⲛⲓⲙⲉⲡⲁⲓ ⲉⲛ ⲛⲉ|ⲤⲚⲘⲘ ⲠⲞⲘⲎ | ⲛⲓⲙ ⲉⲧⲠ ⲛⲟⲘⲓⲗⲏⲧⲓ ⲛⲟⲘⲟⲧⲧ | ⲙⲛⲛⲛⲟⲘⲟⲩⲧⲉ | ⲁⲗⲱ ⲙⲛⲛⲛⲉⲛ|ⲉⲓⲟⲩⲧⲉ, ⲁⲗⲱ | ⲛⲓⲙⲙⲁⲛ ⲗⲱⲱⲧⲓ ⲠⲞⲎ, ⲉⲓⲧⲉ ⲗⲟⲓⲟⲘⲧⲓ ⲉⲓⲧⲉ Ⲥⲗⲓⲙⲉ. ⲉⲓⲧⲉ ⲛⲠⲟⲧ | ⲉⲓⲧⲉ ⲕⲠⲟⲩⲉⲓⲧ | ⲗⲁⲧⲏⲛ, ⲁⲗⲱ || ⲗⲁⲧⲉⲧⲏⲗⲧⲛ̅ | ⲧⲱⲕ ⲛ̅ⲗⲏⲧ | ⲁⲗⲱ ⲣⲟⲉⲓⲕ | ⲙⲓⲡⲓⲣⲧⲓⲛⲏⲏⲃ | ⲛ̅ⲛⲛⲉⲛⲃⲁⲗⲓ

etbe-pai *ce* *ne-snêu* *ouon* *nim* *et-o*
 ~のゆえに^名-指示^{単男} 小辞 定^複-兄弟^複 不定代名詞 あらゆる 関係節化-する / ある^状
 このため 再び 兄弟たちは 何らかのもの あらゆる ある(関係節)

n-ou-hêt *n-ouôt* *mn-p-noute* *auô* *mn-ne-n-eiote*
 属対格^名-不定^単-心臓^{絶男} 属対格^名-唯一 共格^代-定^{単男}-神^絶 そして 共格^名-所有-一^複-父^{男複}
 心臓に 唯一の 神と そして 我らの父祖たちと

auô nmma-n hôô-n on eite hoout eite shime eite
 並列接続 共格代-一複 自身代-一複 小辞 であれ^キ 男^男 であれ^キ 女^女 ~であれ^キ
 そして 我らと 我ら自身 また であれ 男 であれ 女 ~であれ

noc eite kouei hatê-n auô ha-te-têutn tôk
 大きい ~であれ^キ 小さい 下格:心 (*hte-*)^{名-一複} 並列接続 下格:心 (*hte-*)^{名-二複} 強める^絶
 大きい ~であれ 小さい 我らと そして 君らと 強めよ

n-hêt auô roeis mpr-tⁱ-hinêb n-ne-n-bal
 属対格^{名-心-絶男} 並列接続 警戒する 禁止^名-与える^名-眠り^{絶男} 属対格^{名-所有-一複-目-絶}
 心を そして 警戒せよ 眠らせるな 我らの目を

だから、兄弟たちよ、神と、そして我らの父祖たちとともに、そして、我ら自身とともに心を一にする全ての者たち、男であれ女であれ、大人であれ、子どもであれ、我らとであれ君らとともにであれ、心を強くし、警戒し、我らの目を眠らせるな。

b. οὐτε ρεκρικε | ἴνηενβοῦζε:

oute rekrike n-ne-n-bouhe
 そして~ない^キ うつらうつらさせる^絶 属対格^{名-所有-一複-一複}-^{絶男} 瞼^{絶男}
 そして~ない うつらうつらさせる 我らの瞼を

そして、我らの瞼をうつらうつらさせるなかれ。(『箴言』 6:4)

c. | ραντεπιχολεῖς νὰρμῖν|επειρασμος | νιμ ἴτεπιχα|χε:

šante-p-čoeis nahm-n e-peirasmos nim nte-p-čače
 まで^{名-定-単男-主-絶男} 救う^{代-一複} 向格^名-誘惑^{キ男} あらゆる 属格^{名-定-単男-敵-絶男}
 主が~まで 私たちを救う 誘惑から あらゆる 敵の

主が敵のあらゆる誘惑から我らを御救いになるまでは。

d. νὰφενετ|φθονει γαρ | ερον:

naše-n-et-p^ht^honei gar ero-n
 たくさん(準動)^{名-定複-関係節化-定-単女}-嫉妬する^キ 小辞^キ 向格^{代-一複}
 嫉妬するものはたくさんある というのは 我らに

というのも、我らに嫉妬するものは数多いから。

注釈

- a 複合前置詞 *ha-(h)te-*^名は、この箇所のように、*h* が落ちて、*hate-*となることもある。
- b. i *rekrike* 「(眠気により)こっくりこっくりする」もしくは「うつらうつらする」などオノマトペ起源と考えられる重複を持つ動詞がコプト語には多数存在する。*štort^絶*・*štrtr-*^名・*štrtôr-*^代「掻き乱す」や *krmrm* 「ぶつぶつと不平を言う」はこれらのオノマトペ起源と見られる重複動詞の例である。Quevedo Álvarez (2010) はこれらの重複動詞の網羅的な

研究である。

b. ii これは、『箴言』第6章第4節からの引用である。

- コプト語サイド方言によるコイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書の古代末期の訳 “*mprtⁱhiêêb nnekbal · auô mprtⁱrekrike nnekbouhe ·*” (『箴言』第6章第4節 Worrell (1931:17))
- コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書 “*μη δῶς ὕπνον σοῖς ὀμμασιν μηδὲ ἐπινουστᾶξης σοῖς βλεφάροις*” (『箴言』第6章第4節 Rahlfs and Hanhart (2014))
- コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書の英訳 “Give your eyes no sleep, nor slumber with your eyelids” (『箴言』第6章第4節 NETS)

第7章第2節

(18) a. $\alpha\chi\omega \mid \bar{\mu}\pi\bar{\rho}\nu\alpha\gamma \epsilon\rho\acute{\epsilon}\iota\sigma\eta\eta\gamma \epsilon\gamma\omega\tau\bar{\rho}\mid\tau\omega\bar{\rho} \bar{\nu}\eta\lambda\eta \bar{\nu}\mid\sigma\omicron\pi\grave{\eta} \bar{\epsilon}\bar{\mu}\pi\mu\mid\omega\epsilon \bar{\mu}\bar{\nu}\pi\bar{\tau}\mid\tau\omega\bar{\nu} \mid \alpha\chi\omega \epsilon\gamma\mid\alpha\rho\eta\alpha$
 $\bar{\nu}\tau\epsilon\gamma\mid\chi\gamma\pi\omicron\mu\omicron\eta \mid \bar{\nu}\sigma\epsilon\kappa\alpha\eta\lambda\lambda\alpha\mid\lambda\iota\zeta\epsilon \bar{\mu}\bar{\mu}\omega\mid\tau\bar{\nu}$

<i>auô</i>	<i>mpr-nau</i>	<i>e-hen-snêu</i>	<i>e-u-štrtôr</i>	<i>n-hah</i>
並列接続	禁止-見る	向格 ^名 -不定 ^複 -兄弟 ^男	状況節化-三 ^複 -困惑している ^状	属对格 ^名 -たくさん
そして	見るな	兄弟たちを	彼らが困惑している	たくさんで
<i>n-sop</i>	<i>hm-p-miše</i>	<i>mn-p-t̄-tôn</i>	<i>auô</i>	
属对格 ^名 -時・回 ^{絶男}	所格 ^名 -定 ^{単男} -喧嘩 ^{絶男}	共格 ^名 -定 ^{単男} -与える ^{名男} -口論 ^{絶男}	並列接続	
時の	喧嘩において	口論と	そして	
<i>e-u-arna</i>	<i>n-te-u-hupomonê</i>	<i>n-se-skandalize</i>	<i>mmô-tn</i>	
状況節化-三 ^複 -拒否する ^干	属对格 ^名 -所有 ^{代単女} -三 ^複 -節操 ^{干女}	接続法 ^代 -三 ^複 -害する ^干	属对格-二 ^複	
彼らは拒絶しており	彼らの節操を	彼らは害する	君らを	

そして、喧嘩と口論において何回も困惑し、節操を拒絶し君らを害する兄弟たちを見るな。

b. $\alpha\lambda\lambda\alpha \bar{\nu}\mid\eta\epsilon\pi\eta\omicron\gamma\tau\epsilon \mid \chi\omicron\omicron\phi \epsilon\tau\tau\epsilon\gamma\mid\sigma\kappa\alpha\eta\lambda\lambda\iota\zeta\epsilon \mid p.56 \mid \bar{\nu}\bar{\mu}\bar{\mu}\bar{\alpha}\bar{\iota}\bar{\nu}\omicron\gamma\tau\epsilon \mid \epsilon\eta\epsilon\lambda.$

<i>alla</i>	<i>nne-p-noute</i>	<i>çoo-f</i>	<i>e-tre-u-skandalize</i>
逆接続 ^干	否定希求法 ^名 -定 ^{単男} -神 ^{絶男}	言う ^代 -三 ^{単男}	向格 ^名 -使役 ^代 -三 ^複 -悩ます ^干
しかし	神は～ないように	それを言う	彼らが悩ませるために
<i>n-m-mai-noute</i>	<i>eneh</i>		
属对格 ^名 -定 ^複 -愛する ^名 -神 ^絶	永遠 ^{絶男}		
神を愛するものたちを	永遠に		

しかし、神を愛するものたちを彼らが悩ませるために神がそれを決して言いませんように。

c. $\eta\alpha\bar{\iota} \epsilon\tau\epsilon\mid\omicron\gamma\bar{\nu}\tau\alpha\gamma \bar{\mu}\bar{\mu}\alpha\gamma \mid \bar{\nu}\tau\epsilon\gamma\pi\iota\sigma\tau\iota\varsigma \mid \epsilon\sigma\chi\eta\kappa\prime \epsilon\beta\omicron\lambda \mid \epsilon\lambda\omicron\gamma\eta\eta \epsilon\pi\epsilon\mid\chi\bar{\varsigma} \cdot \alpha\chi\omega \epsilon\tau\alpha\mid\epsilon\epsilon$
 $\epsilon\pi\epsilon\pi\bar{\nu}\bar{\alpha} \mid \bar{\mu}\pi\eta\omicron\gamma\tau\epsilon \cdot$

b. | ογοῖ νητῆ. | ετετναροῦ | ἔμπεροογ | ἡπετῆσῃ|πωῖνε ·

<i>ouoi</i>	<i>nê-tn</i>	<i>e-tetna-r-ou</i>	<i>hm-pe-hoou</i>
災い	向格 ^代 -二 ^複	焦点化-二 ^複 :未来-する ^名 -何	所格 ^名 -定 ^{単男} -日 ^{絶男}
災い	お前たちに	お前たちは何をするか	日において

m-pe-tn-cm-p-šine

属対格^名-所有^代単^男-二^複-見つける^名男-定^{単男}-問い^{絶男}

お前たちの訪問の

お前たちは災いだ，お前たちの訪問の日（最後の審判の日・天の怒りの日）にはお前たちは何をするのか。

c. τε|τῆλιψις γαρ || νηγ ἡπογε·

<i>te-tn-t^hlip^sis</i>	<i>gar</i>	<i>nêu</i>	<i>m-p-oue</i>
所有 ^代 単 ^女 -二 ^複 -苦惱 ^干 女	小辞 ^干	来ている ^状	属対格 ^名 -定 ^{単男} -距離 ^{絶男}
お前たちの苦惱	というのは	来ている	遠くから

というのは，君らの苦惱は遠くから来ているからである。（『イザヤ書』 10:3）

注釈

a. i *sunagôgê* は通常は集会堂の意味であるが，シェヌーテやベーサの文脈では修道士・修道女たちの共同体を示す。

a. ii 「小心，嫉妬，憎しみ，喧嘩，口論，狡猾さで」が最後の節のみにかかるのか，最後の節とその一つ前の節にかかるのか，それとも全ての節にかかるのかは不明である。

b.-c. 恐らくは，『イザヤ書』 10:3 への引喩である。

- この部分は Ciasca (1889) では欠如しているが，Bağ (2014) の校訂版には収録されている。コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書のコプト語サイド方言による古代末期の訳 “*eunar ou mpehoou mpcmpšine tetnt^hlip^sis gar nêu mpoue auô etetnapôt eratf nnim eboêtî erôtn · auô etetnaka petneoou tôn*” (『イザヤ書』 第 10 章第 3 節 Bağ (2014:73))
- コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書 “καὶ τί ποιήσουσιν ἐν τῇ ἡμέρᾳ τῆς ἐπισκοπῆς ἡ γὰρ θλιψις ὑμῖν πόρρωθεν ἔξει καὶ πρὸς τίνα καταφεύξεσθε τοῦ βοηθηθῆναι καὶ ποῦ καταλείψετε τὴν δόξαν ὑμῶν” (『イザヤ書』 第 10 章第 3 節 (Rahlfs and Hanhart 2014))
- コイナー・ギリシア語 70 人訳旧約聖書の英訳 “What will they do on the day of visitation? For the affliction will come to you from far away. And to whom will you flee for help, and where will you leave your glory” (『イザヤ書』 第 10 章第 3 節 NETS)

第 8 章第 2 節

- (20) a. ¶ Ἡ οὐκρίμα ναν | αν πε μνῆσα|τρенаποτας|се ἰπεντα|ἄποτασε ἰ|μοφ. αγω
 ἡτῆ|σῆντοοτῆ | μνῆπενταν|σῆντοοτῆ | ἡμμαφ
ê ou-krima na-n an pe mnnsa-tre-n-apotasse
 選択^キ 不定^単-問題^{キ中} 与格^代-^一複 否定 繫辞^{単男} ~のあとで^名-使役^名-^一複-非難する^キ
 または 問題 私たちにとって ~ない それは~だ 私たちが非難したあとで
m-p-ent-a-n-apotasse mmo-f auô
 属対格^名-定^{単男}-関係節化-過去^代-^一複-非難する^キ 属対格^代-^三単男 並列接続
 私たちが非難する者を 彼(再呼)を そして
ntn-smn-toot-n mn-p-ent-a-n-smn-toot-n
 接続^代-^一複-確立する^名-手^代-^一複 共格^名-定^{単男}-関係節化-過去^代-^一複-確立する^名-手^代-^一複
 我らが同意する 我らが同意する者と
nmma-f
 共格^代-^三単男
 彼(再呼)と

または, 我らが我らが非難するものを非難した後で, 我らが我らが同意するものと同
 意した後で, それは, 私たちにとっての問題となるだろうか?

- b. ἔνογ|διαθηνκη εν|χομολογει | χεῖνενχι|ογε · ἡνεν|χιβολ· ἡνεν|χεῖμπενσω|μα
 καταλααγ | ἡσμοτ· ἡνέ|ρῆνῆτρε ἡνογχ· | ἡνεν|ρλααγ | κροφ ἔνογ|ρωπ· ἡνῆκε|ωαχε
 ετηνη | μνῆσαναῖ
hn-ou-diat^h êkê e-n-homologeï çe-nne-n-čioue
 所格^名-不定^単-誓い^{キ女} 状況節化-^一複-約束する^キ 引用節化-否定希求法^代-^一複-盗み^{絶男}
 誓いにおいて 我らが約束し 我らは盗まないと
nne-n-či-col nne-n-čehm-pe-n-sôma kata-laau
 否定希求法^代-^一複-取る^名-嘘^絶 否定希求法^代-^一複-汚す^名-所有^{単男}-^一複-体^{キ中} ~によれば^{キ中}-何らか
 我らは嘘をつかない 我らは我らの体を汚さない 何らかによれば
n-smot nne-n-r-mntre n-nouč nne-n-r-laau
 属対格^名-性格^絶 否定希求法-^一複-する^名-証言 属対格^名-虚偽^絶 否定希求法^代-^一複-する^名-何も
 性格の 我らは証言しない 虚偽の 我らは何もしない
n-krof hn-ou-hôp nne-n-r-mntre mn-n-ke-šače
 属対格^名-騙し^男 in^名-不定^単-秘密^{絶男} 否定希求法^代-^一複-する^名-証言^{絶男} 共格^名-定^複-他の-言葉^{絶男}
 騙しの 秘密において 我らは証言しない 他の言葉で
et-nêu mnnsa-naï
 関係節化-来ている^状 ~のあとで^名-指示^複
 来ている それらの後で

我らは盗みをしない, 嘘をつかない, どんな虚偽の方法においても我らの身体を汚さ

ない, 密かに欺かない, これらの後で来た別の言葉 (後から思いついた都合の良い虚偽の言葉) で証言しないと約束した誓いにおいて。

c. παλιν ἡτῆ|κτον᾽ ἡτῆα|αγ ἡκεσοπ᾽

palin n-tn-kto-n *n-tn-aa-u* *n-ke-sop*

再び^干 接続^名-一^複-向ける^代-一^複 接続^名-一^複-する^代-三^複 属対格^名-他の-時^{絶男}

再び 私たちは戻り 私たちはそれらをし 他の時に

再び, 我らは他の時に戻り, それらをし, (以下, 欠損)

注釈

- a. *ntn-smn-toot-n* (接続^代-一^複-確立する^名-手^代-一^複) は「同意する」という意味。
 a.-b. b は本来は, a の文にかかる前置詞句であるが, 大変長大で日本語に訳せば大変難解になるため, b を独立させた。
 c. この後の「断片 1」の続きのページは欠損している。欠損部の後, p.61 から別のテキストである「断片 2」が見られる。

5 終わりに

本稿は, ナポリの国立ヴィットーリオ・エマヌエーレ 3 世図書館に所蔵されている白修道院 BA 写本の pp.49-54 にのみ現存しているペーサのテキスト(「断片 1」)の, 文献研究に基づきつつ記述言語学の手法を用いたコプト語テキストのグロス付きの言語資料と文法注釈であった。日本においても宗教学的に注目されているナグ・ハマディ写本などのコプト語グノーシス主義文献は他言語からコプト語への翻訳であるのに対し, このペーサの著作は, 5 世紀のコプト語の母語話者であるペーサが自分の母語であるコプト語で書いたテキストであり, 母語話者が産出したテキストということで記述言語学的により価値が高いものである。本稿には, サイード方言の母語話者のペーサの著作の言語資料を提供する意義のほか, コプト語の文法用語に関しては日本語ではまだ整備されていないのが現状であるため, 最新のコプト語文法用語を日本語訳し, それらを実際の言語記述において使用して学問的使用に耐えうるものにする意義もあった。

日本語のコプト語文法関係の出版物としては, 岡島誠太郎の『こぶと語小文典』(岡島 1942) や, 古代の歴史ロマンシリーズの第 9 巻目である『コプト語文法 ~ 古代エジプト語はいかにしてコプト語となったか~』(飯田 2006) がある。しかしながら, 岡島 (1942) は Steindorff (1930) を主要な参考文献として戦中に出版されたため内容がかなり古く, 飯田 (2006) は重大な誤り⁴⁹ が数多く見受けられる。このため, 日本語では学術的にコプト語を知るのに厳しい環

⁴⁹ 飯田 (2006) は, 学術的な専門書としてではなく読み物としては面白いかもしれない。しかしながら, 飯田 (2006) には, 基本的な誤りが非常に多く見受けられる。例えば, 歴史的な解説において, 飯田 (2006) は, 歴史も思想も異なる単性論派をアリウス派と同一視したり (飯田 2006:9), チャコス写本中にある『ユダによる福音書』をナグ・ハマディ写本群に属しているとする (飯田 2006:1)

境であり、コプト語学習者は、初学者は Layton (2007), Eberle (2004), Brankaer (2010) や、古くは Lambdin (1983) や Plumley (1948) など、中・上級者は、Layton (2011) の参照文法⁵⁰ や Shisha-Halevy (1986) など、西洋語の書籍を用いて学習するしかほかならない状況である。このため、学術的に信頼できる日本語のコプト語の初学書および文法書が待たれる。そのためには、繰り返すが、日本語における適切な文法用語の整備が急務である。

本言語資料は、第一にはコプト語学・エジプト語学および一般言語学研究のために書かれた。しかしながら、ベーサ(アラビア語名ウィーサー)はコプト正教会の聖人であり、本言語資料はベーサの初の日本語訳を含んでいる。そのため、本稿は、言語学者だけでなくコプト正教会や古代末期のキリスト教の研究者の使用にも配慮し、言語学的なグロスの他にも音韻語ごとに日本語を振った。2016年に日本で初のコプト正教会の教会堂である聖母マリア聖マルコ・コプト正教会が京都府木津川市に設立され、2017年8月にはコプト教皇が来日し、メディアなどに上げられたこともあって、昨今、コプトが日本でも段々と注目されてきている。筆者は本稿のコプト語の言語記述が日本のコプト語研究あるいはエジプト語研究のみならず、日本の「コプト学」(Coptology)に貢献することを望む次第である。

略語一覧

男	男性	女	女性	中	中性
一	一人称	二	二人称	三	三人称
単	単数	複	複数	ギ	ギリシア語からの借用語
絶	絶対形	名	名詞接続形	代	代名詞接続形
複前	複合前置詞	準動	準動詞	指示	指示詞

凡例

- [] (言語資料中で) 欠損部分
- [] (言語資料以外で) 音声表記
- <> (言語資料中で) 編集者による補填
- <> (言語資料以外で) 文字素表記

引用箇所では、Pietersma and Wright (2007) を NETS, 共同訳聖書実行委員会 (2001) を「新共同訳」, Nestle et al. (2012) を「ネストレ=アールント第28版」として記した。章と節の番号から聖書のどこから引用したかは明白であるため、ページ番号は必要なもの以外は省略している。翻字およびグロスには、ハイフン(-)によって諸形態の境界を示した。また、グロスのコロンの(:)は形態素どうしが融合している場合に付した。

など基本的な事項の誤認が多数ある。飯田(2006)の文法解説に関しては、Loprieno(1995)から取られている部分が多いが、誤訳やスペルミスなど多数の誤りがある。

⁵⁰ コプト語の文法書は、Layton(2011)の参照文法以外にも西洋語において多数ある。

参考文献

- Amélineau, Émile (1907) *Œuvres de Schenoudi, Texte Copte et traduction française*, Vol. 1, Paris: Ernest Leroux.
- (1914) *Œuvres de Schenoudi, Texte Copte et traduction française*, Vol. 2, Paris: Ernest Leroux.
- Beccari, Claudio and Cristiano Pulone (2004) “Philological facilities for the Coptic script,” *TUG-boat*, Vol. 25, No. 2.
- Behlmer, Heike (2009) “‘Our Disobedience Will Punish Us...’: The Use of Authoritative Quotations in the Writings of Besa,” in Görg, Manfred and Stefan Wimmer eds. *Texte — Theben — Tonfragmente: Festschrift für Günter Burkard*, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, pp. 37-54.
- Bąk, Tomasz (2014) “Il Proto-Isaia in Copto-Saidico: Edizione critica sulla base di sa 52 (M 568) e di altri testimoni.”
- Boud’hors, Anne (2013) *Le Canon 8 de Chénouté*, Le Caire: Institut Français d’Archéologie Orientale, 2 vols.
- Brankaer, Johanna (2010) *Coptic: a learning grammar (Sahidic)*, Vol. 1, Wiesbaden: Otto Harrassowitz Verlag.
- Černý, Jaroslav (1976) *Coptic Etymological Dictionary*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Ciasca, P. Augustini (1889) *Fragmenta Copto-Sahidica: Musei Borgiani*, Vol. 2, Roma: Typis Eiusdem S. Congregationis.
- Crum, Walter E. (1999) *Coptic dictionary*, Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, Richard M. W. and Alexandra Y. Aikhenvald (2002) “Word: a typological framework,” in Dixon, Richard M. W. and Alexandra Y. Aikhenvald eds. *Word: A cross-linguistic typology*, Cambridge: Cambridge University Press, pp. 1-41.
- Eberle, Andrea (2004) *Koptisch: ein Leitfaden durch das Saïdische*, München: Lincom Europa.
- Emmel, Stephen (2004) *Shenoute’s Literary Corpus*, Leuven: Peeters, 2 vols.
- Feder, Frank (2002) *Biblia Sahidica: Ieremias, Lamentationes (Threni), Epistula Ieremiae et Baruch*, Berlin and New York: Walter de Gruyter.
- Garitte, Gérard (1939) “A propos des lettres de S. Antoine l’ermite,” *Le Muséon*, Vol. 52, pp. 11-31.
- Grossman, Eitan (2014) “No case before the verb in Coptic,” in Haspelmath, Martin, Eitan Grossman, and Tonio Sebastian Richter eds. *Egyptian-Coptic Linguistic in Typological Perspective*: Mouton De Gruyter, pp. 203–225.
- (2018) “Did Greek Influence the Coptic Preference for Prefixing? A Quantitative-Typological Perspective,” *Journal of Language Contact*, Vol. 11, No. 1, p. 1–31.
- Grossman, Eitan and Martin Haspelmath (2014) “The Leipzig-Jerusalem transliteration of Coptic,” in Haspelmath, Martin, Eitan Grossman, and Tonio Sebastian Richter eds. *Egyptian-Coptic*

- Linguistic in Typological Perspective*: Mouton De Gruyter, p. 145.
- Haspelmath, Martin (2011) “The indeterminacy of word segmentation and the nature of morphology and syntax,” *Folia linguistica*, Vol. 45, No. 1, pp. 31–80.
- (2014) “The three adnominal possessive constructions in Egyptian-Coptic: Three degrees of grammaticalization,” in Haspelmath, Martin, Eitan Grossman, and Tonio Sebastian Richter eds. *Egyptian-Coptic Linguistic in Typological Perspective*: Mouton De Gruyter, pp. 103–144.
- (2016) “Coptic: a language without words,” The 5th Crossroad(s) Conference (Handout).
- Kuhn, K. H. (1956) *Letters and Sermons of Besa, translated by KH Kuhn*, Vol. 158 of Corpus Scriptorum Christianorum Orientalium, vol. 157. Scriptorum Coptici, tomus 22, Louvain: Imprimerie Orientaliste L.Durbecq.
- Kuhn, Karl H. (1956) *Letters and Sermons of Besa*, Corpus Scriptorum Christianorum Orientalium, vol. 157. Scriptorum Coptici, tomus 21, Louvain: Imprimerie Orientaliste L.Durbecq.
- Lambdin, Thomas O. (1983) *Introduction to Sahidic Coptic*, Mason: GA: Mercer University Press.
- Layton, Bentley (2000) *A Coptic grammar: With chrestomathy and glossary: Sahidic dialect*, Wiesbaden: Harrassowitz, 1st edition.
- (2004) *A Coptic grammar: With chrestomathy and glossary: Sahidic dialect*, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2nd edition.
- (2007) *Coptic in 20 Lessons: Introduction to Sahidic Coptic With Exercises & Vocabularies*, Leuven - Paris - Dudley: Peeters.
- (2011) *A Coptic grammar: With chrestomathy and glossary: Sahidic dialect*, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 3rd edition.
- Leipoldt, Johannes (1908) *Sinuthii archimandritae vita et opera omnia III*, CSCO 42, script. copt., series secunda – tom. IV, Paris: E Typographeo Reipublicae.
- (1913) *Sinuthii archimandritae vita et opera omnia IV*, CSCO 73, script. copt., series secunda – tom. V, textus, Paris: E Typographeo Reipublicae.
- Loprieno, Antonio (1995) *Ancient Egyptian: A linguistic introduction*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Louis, Catherine (2008) “The Fate of the White Monastery Library,” in Gabra, Gawdat and Hany N. Takla eds. *Christianity and Monasticism in Upper Egypt: Volume I, Akhmim and Sohag*, Cairo: The American University in Cairo Press, pp. 83-90.
- Nestle, Eberhard, Erwin Nestle, Barbara Aland, Kurt Aland, Johannes Karavidopoulos, Carlo M. Martini, and Bruce M. Metzger (2012) *Novum Testamentum Graece*, Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft, 28th edition.
- Pérez, Gonzalo. A. (1984) *El Evangelio de San Mateo en copto sahidico. Texto de M. 569, estudio preliminar y aparato crítico*, Madrid: Consejo Superior de Investigaciones Científicas.
- Pietersma, Albert and Benjamin G. Wright eds. (2007) *A New English Translation of the Septuagint*, Oxford: Oxford University Press.

- Plumley, J. Martin (1948) *An Introductory Coptic Grammar; (Sahidic Dialect)*, London: Home and van Thal.
- Polotsky, Hans Jakob (1944) *Études de syntaxe copte*, Le Caire: la Société d'Archéologie Copte.
- Quevedo Álvarez, Alberto-Jesús (2010) *Los verbos reduplicados de doble consonante en la lengua copta. Un estudio morfológico, dialectal, lexicográfico y etimológico*, Barcelona: Institut d'Estudis del Pròxim Orient Antic, Universitat Autònoma de Barcelona.
- Rahlfs, Alfred and Robert Hanhart eds. (2014) *Septuaginta: Das Alte Testament Griechisch. Editio altera*, Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft, 4th edition.
- Reintges, Christoph Hanns (2004) *Coptic Egyptian (Sahidic dialect): a learner's grammar*, Vol. 15, Köln: Rüdiger Köppe Verlag.
- Schroeder, Caroline T. and Amir Zeldes (2016) "Raiders of the Lost Corpus," *Digital Humanities Quarterly*, Vol. 10, Available at <http://www.digitalhumanities.org/dhq/vol/10/2/000247/000247.html>.
- Shisha-Halevy, Ariel (1986) *Coptic Grammatical Categories: Structural Studies in the Syntax of Shenoutean Sahidic*, Vol. 53, Rome: Pontifical Biblical Institute.
- Steindorff, Georg (1930) *Koptische Grammatik : mit Chrestomathie, Wörterverzeichnis und Literatur*, Berlin: Reuther & Reichard, Neudruck der 2en Aufl. mit Nachträgen.
- Thompson, Herbert (1932) *The Coptic Version of the Acts of the Apostles and the Pauline Epistles in the Sahidic Dialect*, Cambridge: University Press.
- Worrell, William H. (1931) *The Proverbs of Solomon in Sahidic Coptic: According to the Chicago Manuscript*, Chicago, Illinois: The University of Chicago Press.
- Zoëga, Georgius (1810) *Catalogus codicum Copticorum manu scriptorum qui in Museo Borgiano Velitris adservantur*, Romae: Typ. Sacrae Congregationis de propaganda fide.
- 岡島誠太郎 (1942) 『こぶと語小文典』, 飛鳥園, 奈良.
- 宮川創 (2014) 「コプト・エジプト語サイド方言のスペリングにおけるスーブラリニアーストロークと音素配列：自由形態素を中心に」, 『地球研言語記述論集』, 第 6 号.
- (2016) 「コプト・エジプト語サイド方言における拘束形態素上のスーブラリニアーストローク」, 『言語記述論集』, 第 8 号.
- (2017) 「コプト・エジプト語サイド方言における母音体系と母音字の重複の音価：白修道院長・アトリペのシェヌーテによる『第六カノン』の写本をもとに」, 『言語記述論集』, 第 9 号.
- 共同訳聖書実行委員会 (2001) 『聖書 新共同訳：旧約聖書続編つき』, 日本聖書協会, 東京.
- 戸田聡 (1995) 「無学な修道者アントニオス?：初期修道制研究の一動向」, 『オリエント』, 第 38 巻, 第 2 号, 162-174 頁.
- 小脇光男 (2013) 『聖書ヘブライ語文法』, 青山社, 改訂版.
- 塚本明廣 (1988) 「コプト語」, 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典 第 1 巻 世界言語編 (上)』, 三省堂, 東京.

- 辻明日香 (2016) 『コプト聖人伝にみる十四世紀エジプト社会』, 山川歴史モノグラフ 32, 山川出版社, 東京.
- 飯田篤 (2006) 『コプト語文法～古代エジプト語はいかにしてコプト語となったか～』, 古代の歴史ロマン 9, 国際語学社, 東京.

受理日 2018 年 4 月 16 日

言語記述論集 第10号

言語記述研究会

2018年4月30日発行

ISSN 2432-244X